

厚真町

# 上幌内3遺跡

— 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成 28 年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

厚真町

# 上幌内3遺跡

— 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成 28 年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター





1. 土坑墓 (Ⅲ GP-1)



2. 人骨 (頭部)



3. 鎌・刀子ほか



4. 耳飾り・ガラス玉



5. 漆器 (塗膜)



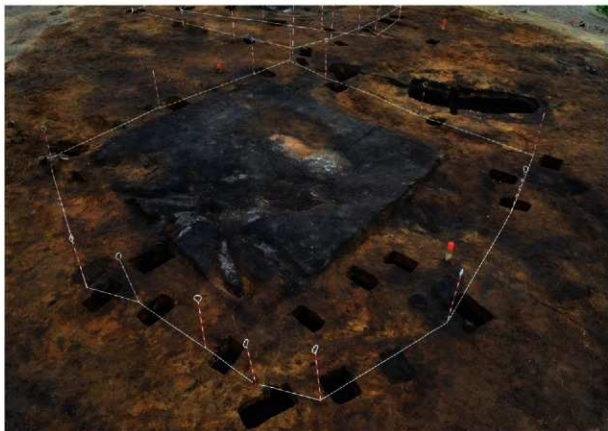
口絵 2



1. 土坑墓副葬品出土状況 (Ⅲ GP-2)



2. 杭列と獣骨



1. 平地住居跡（Ⅲ H-9）



2. 建物跡（上幌内モイ遺跡を望む）

口絵 4



1. 竪穴住居跡 (V H-5)



2. 石組炉 (V H-9HF-1)



3. Tピット土層断面 (TP-14)



4. Tピット杭出土状況 (TP-20)



5. 同左 拡大

## 例 言

1. 本書は、北海道胆振総合振興局が行う厚幌ダム建設事業に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成25・26(2013・2014)年に発掘調査を実施した厚真町上幌内3遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、第2調査部第2調査課が担当した。
3. 整理作業の担当は、新家水奈・阿部明義・佐川俊一である。
4. 現場の写真撮影は笠原 興・新家・阿部・富永勝也・佐川、第1調査部第1調査課 吉田裕史洋、遺物の写真撮影は吉田が行った。口絵1-1は(有)写真事務所クリーク 佐藤雅彦氏から提供を受けた。
5. 石器などの石材鑑定は、過年度の調査出土遺物などを参照して新家・阿部が行った。また第2調査部第3調査課 立田 理から助言を得た。
6. 本書の執筆は、笠原・村田 大・新家・阿部・佐川が行い、末尾の( )内に文章を示した。掲載遺物の執筆・本書の編集は阿部が担当した。
7. 各種分析・同定は下記に委託した。
  - 黒曜石原材産地分析：(有)遺物材料研究所
  - 金属製品分析：岩手県立博物館、(株)パレオ・ラボ
  - 漆器塗膜分析：(株)パレオ・ラボ
  - 人骨鑑定：北海道文教大学 白幡知尋、札幌医科大学 松村博文
  - 動物遺存体同定・炭化種実同定：バリノ・サーヴェイ株式会社、(株)パレオ・ラボ
  - 放射性炭素<sup>14</sup>C年代測定：(株)加速器分析研究所
8. ガラス玉の分析は、第1調査部第1調査課 柳瀬由佳が行った。
9. 調査にあたっては、下記の諸機関および個人よりご指導、ご協力をいただいた(順不同・敬称略、所属は発掘調査年度時)。
  - 北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 西脇対名夫、田才雅彦、中田裕香、藤原秀樹、宗像公司、村本周三、赤井文人、内田和典
  - 厚真町教育委員会 乾 哲也、奈良智法、宮塚義人、岩橋由久、荻野幸男、宮崎美奈子、宮塚 翔、服部一雄、松井 昭、山戸大知
  - 苫小牧市教育委員会 赤石慎三、むかわ町教育委員会 田代雄介、平取町教育委員会 森岡健治、長田佳宏、恵庭市教育委員会 長町章弘、鈴木将太、余市町教育委員会 花田直彦、遠藤むつみ、岩谷維千歌
  - 釧路市教育委員会 石川 朗、澤田恭平
  - 北海道博物館 右代啓規、鈴木琢也、大坂 拓
  - 社団法人北海道アイヌ協会・胆振地区支部連合会
  - 北海道大学 高瀬克範、苫小牧駒澤大学 箕島栄記
  - 岩手県立博物館 羽柴直人、川又 晋、八木勝枝
  - 平泉町総務企画課 八重樫忠郎、東北大学 柳原敏昭
  - シン技術コンサル 長谷川 徹、工藤 肇、写真事務所クリーク 佐藤雅彦
  - 菊池俊彦、佐藤一夫、樺坂恭代、土井重男

## 記号等の説明

1. 遺構は、層位〔Ⅲ〕・〔Ⅴ〕と以下の記号によって表記し、発掘調査順に番号を付した。

〔H〕：住居跡

〔HP〕：住居跡の土坑・柱穴状小土坑      〔HF〕：住居跡の炉・焼土

〔HS〕：住居跡の礫集中

〔GP〕：土坑墓      〔P〕：土坑      〔SP〕：柱穴状小土坑

〔TP〕：Tピット      〔F〕：焼土      〔A〕：灰集中      〔B〕：獣骨集中

〔PB〕：土器集中      〔FC〕：フレイクチップ集中      〔S〕：礫集中

2. 遺構図には方位記号を付した。発掘区の基線（北-南、数字のライン）は真北である。レベルは標高（単位m）を示す。
3. 遺構の規模は、「確認面での長軸×確認面での短軸／底面での長軸×底面での短軸／厚さ（深さ）」の順で記した。一部破壊されているものや不明確なものについては、現存長を「（ ）」で、不明のものは「-」で示した。
4. 掲載した遺構図等の縮尺は原則的に以下のとおりとした。また変則的なものについても随時スケールを入れている。

遺構実測図 1：40 および 1：20

遺物出土分布図 1：100      遺物出土詳細図 1：20 または 1：10

土器実測図・拓影図 1：3

剥片石器実測図 1：2      礫石器実測図 1：3（一部の大型石器等は1：4）

土製品・石製品 1：2

5. 石器実測図中で、敲打痕はV—V、すり痕は|←→|で範囲を表した。

6. 遺物写真の縮尺は原則的に以下のとおりである。

土器 約1：3      剥片石器 約1：2      礫石器 約1：3      土製品・石製品 約1：2

7. 出土遺物分布図等での表示は、遺物の種類別に略記号やシンボルマークで示した。

○：土器      △：剥片石器      ▲：剥片      □：礫石器      ■：礫

★：金属製品      ×：骨片

8. 土層の混合状態を表現するために、以下のように表記してある。

A+B：AとBが同量混じる。      AとB：AとBの土層が類似する。

A>B：AにBが少量混じる。      A>>B：AにBが微量混じる。

9. 土層の色調には『新版標準土色帖』19版（小山・竹原1997）を使用し、カラーチャートの番号を付したものがある。また、土層の記述には下記の記号・略称を用いた場合がある。

T a - a：樽前 a テフラ

K o - c<sub>2</sub>：駒ヶ岳 c<sub>2</sub> 降下火山灰

T a - b：樽前 b テフラ

B - T m：白頭山-苦小牧火山灰

U s - b：有珠 b 降下火山灰

T a - c：樽前 c テフラ

T a - d：樽前 d テフラ

# 目 次

口絵

例言・記号等の説明・目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

I 章 緒言	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯と経過	3
(1) 調査に至る経緯    (2) 調査の経過	
4 調査の方法	7
(1) 発掘区の設定    (2) 発掘調査の方法    (3) 整理作業の方法	
5 遺物の分類	11
(1) 土器等    (2) 石器等    (3) その他の遺物	
6 調査結果の概要	13
II 章 遺跡の環境	19
1 遺跡の立地と環境	19
(1) 遺跡の位置と地名    (2) 遺跡周辺の地形・環境    (3) 周辺の遺跡	
2 土層	24
3 近現代の遺構と遺物	33
III 章 III層の調査と出土遺物	39
1 住居跡	39
2 建物跡	83
3 杭列	83
4 柱穴状小土坑	86
5 土坑墓	90
6 土坑	104
7 集中区	104
(1) 集中区1    (2) 集中区2    (3) 集中区3    (4) 集中区4    (5) 集中区5 (6) 集中区6    (7) 集中区7    (8) 集中区8    (9) 集中区9	
8 焼土	138
9 灰集中	141
10 そのほかの遺物集中	142
(1) 土器集中    (2) 礫集中    (3) 獣骨集中	
11 フローテーション法による微細遺物の調査	147
12 包含層(III層)出土の遺物	149
(1) 遺物出土状況    (2) 土器・土製品    (3) 石器等・礫    (4) 鉄製品	

IV章	V層の調査と出土遺物	1 8 1
1	整穴住居跡	181
2	土坑	216
3	Tピット	219
4	焼土	238
5	土器集中	242
6	石器集中	263
7	フリイクチップ集中	266
8	礫集中	271
9	フローテーション法による微細遺物の調査	273
10	包含層（V層）出土の遺物	274
	(1) 遺物出土状況	
	(2) 土器・土製品	
	(3) 石器・石製品	
V章	自然科学的分析・鑑定	3 3 5
1	厚真町上幌内3遺跡出土黒曜石製石器の原産地分析	335
2	上幌内3遺跡出土金銀資料の組成分析結果	353
3	上幌内3遺跡出土鉄製品の材質分析	373
4	上幌内3遺跡のガラス玉の材質分析	379
5	上幌内3遺跡出土漆器の塗膜分析	391
6	厚真町上幌内3遺跡出土木製品の樹種同定	393
7	厚真町上幌内3遺跡より出土した人骨について	395
8	上幌内3遺跡出土骨同定・炭化種実同定	401
9	厚真町上幌内3遺跡から出土した動物遺体	413
10	厚真町上幌内3遺跡から出土した炭化種実	417
11	上幌内3遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）1	423
12	上幌内3遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）2	428
VI章	まとめ	4 3 3
1	遺構と遺跡形成過程	433
2	遺物	438
	引用・参考文献	441
	写真図版	4 4 3
	・現地調査状況	
	・出土遺物	

## 挿図目次

図 I-1	遺跡の位置	2	図 III-21	III H-7	63
図 I-2	試掘調査位置	5	図 III-22	III H-8 (1)	65
図 I-3	当初の調査計画	6	図 III-23	III H-8 (2)・ III H-8 出土の遺物	66
図 I-4	変更後の調査実績	6	図 III-24	III H-9 (1)	67
図 I-5	発掘区設定図	8	図 III-25	III H-9 (2)・ III H-9 出土の遺物	68
図 I-6	調査方法による範囲図	9	図 III-26	III H-10 (1)	70
図 I-7	遺構位置図 (1)	14	図 III-27	III H-10 (2)・ III H-10 出土の遺物	71
図 I-8	遺構位置図 (2)	15	図 III-28	III H-11 (1)	72
図 I-9	遺構位置図 (3)	16	図 III-29	III H-11 (2)	73
図 I-10	遺構位置図 (4)	17	図 III-30	III H-12 (1)	74
			図 III-31	III H-12 (2)・ III H-12 出土の遺物	75
図 II-1	周辺の地形と遺跡	20	図 III-32	III H-12 (3)	76
図 II-2	周辺の遺跡	22	図 III-33	III H-13 (1)	78
図 II-3	基本土層	25	図 III-34	III H-13 (2)・ III H-13 出土の遺物	79
図 II-4	調査区土層断面 (1)	26	図 III-35	III H-13 出土の遺物 (2)	80
図 II-5	調査区土層断面 (2)	27	図 III-36	III H-14 (1)	81
図 II-6	調査区土層断面 (3)	28	図 III-37	III H-14 (2)・ III H-14 出土の遺物	82
図 II-7	調査区土層断面 (4)	29	図 III-38	建物跡 1	84
図 II-8	調査区土層断面 (5)	30	図 III-39	杭列・III B-1	85
図 II-9	調査区土層断面 (6)	31	図 III-40	III S P (1)	87
図 II-10	沢地形土層断面・ 調査区土層断面作成位置	32	図 III-41	III S P (2)	88
図 II-11	近現代の遺構 (1)	34	図 III-42	III S P (3)	89
図 II-12	近現代の遺構 (2)	35	図 III-43	III G P-1	90
図 II-13	近現代の遺構 (3)	36	図 III-44	III G P-1 地形測量図 (1)	91
図 II-14	近現代の遺構出土の遺物	37	図 III-45	III G P-1 地形測量図 (2)	92
			図 III-46	III G P-1 土層断面	93
図 III-1	III H-1 (1)	40	図 III-47	III G P-1 遺物出土状況	94
図 III-2	III H-1 (2)	41	図 III-48	III G P-1 人骨出土状況	95
図 III-3	III H-1 (3)	42	図 III-49	III G P-1 出土の遺物 (1)	96
図 III-4	III H-1 (4)・ III H-1 出土の遺物 (1)	43	図 III-50	III G P-1 出土の遺物 (2)	97
図 III-5	III H-1 出土の遺物 (2)	44	図 III-51	III G P-1 出土の遺物 (3)	98
図 III-6	III H-1 出土の遺物 (3)	45	図 III-52	III G P-1 出土の遺物 (4)	99
図 III-7	III H-1 出土の遺物 (4)	46	図 III-53	III G P-1 出土の遺物 (5)	100
図 III-8	III H-1 出土の遺物 (5)	47	図 III-54	III G P-2・ III G P-2 出土の遺物 (1)	102
図 III-9	III H-2 (1)	49	図 III-55	III G P-2 出土の遺物 (2)	103
図 III-10	III H-2 (2)・ III H-2 出土の遺物 (1)	50	図 III-56	III P-1・III P-1 出土の遺物	105
図 III-11	III H-3	52	図 III-57	集中区 1	106
図 III-12	III H-4 (1)	53	図 III-58	集中区 1 出土の遺物	107
図 III-13	III H-4 (2)	54	図 III-59	集中区 2 (1)	109
図 III-14	III H-4 (3)	55	図 III-60	集中区 2 (2)	110
図 III-15	III H-4 出土の遺物 (1)	56	図 III-61	集中区 2 出土の遺物 (1)	111
図 III-16	III H-4 出土の遺物 (2)	57	図 III-62	集中区 2 出土の遺物 (2)	112
図 III-17	III H-5 (1)	58			
図 III-18	III H-5 (2)	59			
図 III-19	III H-6 (1)	61			
図 III-20	III H-6 (2)・III H-6 出土の遺物	62			



図Ⅲ-63	集中区3 (1) .....	114	図Ⅳ-14	VH-4 (2) .....	197
図Ⅲ-64	集中区3 (2) .....	115	図Ⅳ-15	VH-4 出土の遺物 .....	198
図Ⅲ-65	集中区3 出土の遺物 (1) .....	116	図Ⅳ-16	VH-5 (1) .....	200
図Ⅲ-66	集中区3 出土の遺物 (2) .....	117	図Ⅳ-17	VH-5 (2) .....	201
図Ⅲ-67	集中区4 .....	119	図Ⅳ-18	VH-5 出土の遺物 .....	202
図Ⅲ-68	集中区4 出土の遺物 .....	120	図Ⅳ-19	VH-6 (1) .....	204
図Ⅲ-69	集中区5 (1)・ 集中区5 出土の遺物 .....	121	図Ⅳ-20	VH-6 (2) .....	205
図Ⅲ-70	集中区5 (2) .....	122	図Ⅳ-21	VH-6 出土の遺物 (1) .....	206
図Ⅲ-71	集中区6 (1) III S-1 .....	124	図Ⅳ-22	VH-6 出土の遺物 (2) .....	207
図Ⅲ-72	集中区6 (2) III S P .....	125	図Ⅳ-23	VH-7 (1) .....	209
図Ⅲ-73	集中区6 (3) III S P・ 集中区6 出土の遺物 (1) .....	126	図Ⅳ-24	VH-7 (2)・ VH-7 出土の遺物 .....	210
図Ⅲ-74	集中区6 出土の遺物 (2) .....	127	図Ⅳ-25	VH-8 .....	212
図Ⅲ-75	集中区6 出土の遺物 (3) .....	128	図Ⅳ-26	VH-9 (1) .....	214
図Ⅲ-76	集中区6 出土の遺物 (4) .....	129	図Ⅳ-27	VH-9 (2)・ VH-9 出土の遺物 .....	215
図Ⅲ-77	集中区7 III S-2 .....	131	図Ⅳ-28	VP-1 .....	217
図Ⅲ-78	集中区7 出土の遺物 .....	132	図Ⅳ-29	VP-2・4~6 .....	218
図Ⅲ-79	集中区8・集中区8 出土の遺物 .....	133	図Ⅳ-30	TP-1・2 .....	224
図Ⅲ-80	集中区9 (1) .....	134	図Ⅳ-31	TP-3・4 .....	225
図Ⅲ-81	集中区9 (2) .....	135	図Ⅳ-32	TP-5・6 .....	226
図Ⅲ-82	集中区9 出土の遺物 (1) .....	136	図Ⅳ-33	TP-7・8 .....	227
図Ⅲ-83	集中区9 出土の遺物 (2) .....	137	図Ⅳ-34	TP-9・10 .....	228
図Ⅲ-84	III F (1) .....	139	図Ⅳ-35	TP-11・12 .....	229
図Ⅲ-85	III F (2) .....	140	図Ⅳ-36	TP-13・14 .....	230
図Ⅲ-86	III A .....	141	図Ⅳ-37	TP-15・16 .....	231
図Ⅲ-87	III PB-2 .....	143	図Ⅳ-38	TP-17・18 .....	232
図Ⅲ-88	III S-3 .....	144	図Ⅳ-39	TP-19・20 .....	233
図Ⅲ-89	III S-4 .....	145	図Ⅳ-40	TP-21・22 .....	234
図Ⅲ-90	III B-3・4 .....	146	図Ⅳ-41	TP-17 出土の遺物 .....	235
図Ⅲ-91	包含層VI群土器出土分布図 .....	149	図Ⅳ-42	TP-20 出土の遺物 .....	236
図Ⅲ-92	発掘区別III層遺物分布図 (1) .....	150	図Ⅳ-43	VF-1・3 .....	240
図Ⅲ-93	発掘区別III層遺物分布図 (2) .....	151	図Ⅳ-44	VF-4~9 .....	241
図Ⅲ-94	III層包含層出土の土器・土製品 .....	153	図Ⅳ-45	VPB-1 .....	246
図Ⅲ-95	III層包含層出土の石器 (1) .....	154	図Ⅳ-46	VPB-2 .....	247
図Ⅲ-96	III層包含層出土の石器 (2) .....	155	図Ⅳ-47	VPB-2 出土の遺物 .....	248
図Ⅲ-97	III層包含層出土の石器 (3)・ 鉄製品 .....	156	図Ⅳ-48	VPB-3・4 .....	249
図Ⅳ-1	VH-1 (1) .....	182	図Ⅳ-49	VPB-4 出土の遺物 .....	250
図Ⅳ-2	VH-1 (2) .....	183	図Ⅳ-50	VPB-5 .....	251
図Ⅳ-3	VH-1 (3) .....	184	図Ⅳ-51	VPB-6 .....	252
図Ⅳ-4	VH-1 出土の遺物 .....	185	図Ⅳ-52	VPB-7 .....	253
図Ⅳ-5	VH-2 (1) .....	187	図Ⅳ-53	VPB-8・9 .....	254
図Ⅳ-6	VH-2 (2) .....	188	図Ⅳ-54	VPB-8・9 出土の遺物 .....	255
図Ⅳ-7	VH-2 (3) .....	189	図Ⅳ-55	VPB-10・11 .....	256
図Ⅳ-8	VH-2 出土の遺物 .....	190	図Ⅳ-56	VPB-12・ VPB-10~12 出土の遺物 .....	257
図Ⅳ-9	VH-3 (1) .....	192	図Ⅳ-57	VPB-13 .....	258
図Ⅳ-10	VH-3 (2) .....	193	図Ⅳ-58	VPB-14 .....	259
図Ⅳ-11	VH-3 出土の遺物 (1) .....	194	図Ⅳ-59	VPB-15 .....	260
図Ⅳ-12	VH-3 出土の遺物 (2) .....	195	図Ⅳ-60	VPB-16 .....	261
図Ⅳ-13	VH-4 (1) .....	196	図Ⅳ-61	VPB-17~19 .....	262
			図Ⅳ-62	石器集中1 .....	264

図IV-63	石器集中2	265
図IV-64	VFC-1~3	267
図IV-65	VFC-1の遺物	268
図IV-66	VFC-2・3の遺物	269
図IV-67	VFC-4・5	270
図IV-68	VS-1	272
図IV-69	VS-2	273
図IV-70	V層包含層遺物出土状況(1)	275
図IV-71	V層包含層遺物出土状況(2)	276
図IV-72	発掘区別V層遺物分布図(1)	277
図IV-73	発掘区別V層遺物分布図(2)	278
図IV-74	発掘区別V層遺物分布図(3)	279
図IV-75	発掘区別V層遺物分布図(4)	280
図IV-76	V層包含層出土の土器(1)	283
図IV-77	V層包含層出土の土器(2)	284
図IV-78	V層包含層出土の土器(3)	285
図IV-79	V層包含層出土の土器(4)	286
図IV-80	V層包含層出土の土器(5)	287
図IV-81	V層包含層出土の土器(6)	288
図IV-82	V層包含層出土の土器(7)	289
図IV-83	V層包含層出土の土器(8) 土製品	290
図IV-84	V層包含層出土の石器(1)	295
図IV-85	V層包含層出土の石器(2)	296
図IV-86	V層包含層出土の石器(3)	297
図IV-87	V層包含層出土の石器(4)	298
図IV-88	V層包含層出土の石器(5)	299
図IV-89	V層包含層出土の石器(6)	300
図IV-90	V層包含層出土の石器(7)	301
図IV-91	V層包含層出土の石器(8)	302
図IV-92	V層包含層出土の石器(9)	303
図IV-93	V層包含層出土の石器(10)	304
図IV-94	V層包含層出土の石器(11)	305
図IV-95	V層包含層出土の石器(12)	306
図IV-96	V層包含層出土の石器(13)	307
図IV-97	V層包含層出土の石器(14)	308
図IV-98	V層包含層出土の石器(15)	309

図IV-99	V層包含層出土の石器(16)	310
図IV-100	V層包含層出土の石器(17)	311
図IV-101	V層包含層出土の石器(18) 石製品	312

#### [V章-1]

図1	日本・朝鮮半島・極東ロシア・アラスカ 州における表1使用の石器原材伝播図	343
図2	黒曜石原産地	343
[V章-2]		
図5-1	Na6の蛍光X線分析結果(1)	364
図5-2	Na6の蛍光X線分析結果(2)	365
図5-3	Na6の蛍光X線分析結果(3)	366
図6-1	Na7の蛍光X線分析結果(1)	367
図6-2	Na7の蛍光X線分析結果(2)	368
図6-3	Na7の蛍光X線分析結果(3)	369
図7	調査鉄器に含有されるCu・Ni・Co 三成分比	370
図8	調査鉄器に含有されるCu・Ni・Coの 相関	371

#### [V章-4]

図1	蛍光X線スペクトル(1)	386
図2	蛍光X線スペクトル(2)	387
図3	蛍光X線スペクトル(3)	388
図4	蛍光X線スペクトル(4)	389
図5	蛍光X線スペクトル(5)	390

#### [V章-5]

図1	漆器塗膜の赤外分光スペクトル図	392
[V章-11]		
図1-1	暦年較正年代グラフ(1)	426
図1-2	暦年較正年代グラフ(2)	427
[V章-12]		
図1	暦年較正年代グラフ	432

図VI-1	上幌内3遺跡平地住居跡変遷図	435
図VI-2	アイヌ文化期「周溝」のある土坑墓例	437
図VI-3	厚真1式土器例	439

## 表目次

表I-1	試掘調査出土遺物点数	5
表I-2	遺構数	18
表I-3	出土遺物総点数	18
表II-1	周辺の遺跡	23
表II-2	I層出土遺物集計	38
表III-1	III層フローテーション結果(1)	147
表III-2	III層フローテーション結果(2)	148
表III-3	III層遺構一覧(1)	157
表III-4	III層遺構一覧(2)	158
表III-5	III層遺構一覧(3)	159
表III-6	III層遺構一覧(4)	160

表III-7	III層遺構一覧(5)	161
表III-8	III層出土遺物集計(1)	162
表III-9	III層出土遺物集計(2)	163
表III-10	III層出土掲載金属製品一覧	164
表III-11	III層出土ガラス製品一覧	165
表III-12	III層出土掲載獣骨加工品等一覧	165
表III-13	III層出土掲載土器一覧(1)	166
表III-14	III層出土掲載土器一覧(2)	167
表III-15	III層出土掲載石器一覧	168
表III-16	III層出土掲載礫一覧(1)	169
表III-17	III層出土掲載礫一覧(2)	170

表Ⅲ-18	Ⅲ層出土掲載磁一覽(3)	171
表Ⅲ-19	Ⅲ層出土掲載磁一覽(4)	172
表Ⅲ-20	Ⅲ層出土掲載磁一覽(5)	173
表Ⅲ-21	Ⅲ層出土掲載磁一覽(6)	174
表Ⅲ-22	Ⅲ層出土掲載磁一覽(7)	175
表Ⅲ-23	Ⅲ層出土掲載磁一覽(8)	176
表Ⅲ-24	Ⅲ層出土掲載磁一覽(9)	177
表Ⅲ-25	Ⅲ層出土掲載磁一覽(10)	178
表Ⅲ-26	Ⅲ層出土掲載磁一覽(11)	179
表Ⅲ-27	Ⅲ層出土掲載磁一覽(12)	180
表Ⅳ-1	V層フローテーション結果	273
表Ⅳ-2	V層遺構一覽(1)	313
表Ⅳ-3	V層遺構一覽(2)	314
表Ⅳ-4	V層遺構一覽(3)	315
表Ⅳ-5	V層出土遺物集計(1)	316
表Ⅳ-6	V層出土遺物集計(2)	317
表Ⅳ-7	V層出土遺物集計(3)	318
表Ⅳ-8	V層出土遺物集計(4)	319
表Ⅳ-9	V層出土掲載土器一覽(1)	320
表Ⅳ-10	V層出土掲載土器一覽(2)	321
表Ⅳ-11	V層出土掲載土器一覽(3)	322
表Ⅳ-12	V層出土掲載土器一覽(4)	323
表Ⅳ-13	V層出土掲載土器一覽(5)	324
表Ⅳ-14	V層出土掲載土器一覽(6)	325
表Ⅳ-15	V層出土掲載土器一覽(7)	326
表Ⅳ-16	V層出土掲載石器一覽(1)	327
表Ⅳ-17	V層出土掲載石器一覽(2)	328
表Ⅳ-18	V層出土掲載石器一覽(3)	329
表Ⅳ-19	V層出土掲載石器一覽(4)	330
表Ⅳ-20	V層出土掲載石器一覽(5)	331
表Ⅳ-21	V層出土掲載石器一覽(6)	332
表Ⅳ-22	V層出土掲載石器一覽(7)	333
表Ⅳ-23	V層出土掲載石器一覽(8)	334

#### 〔V章-1〕

表1-1・2	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値	344
表1-3・4	黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値	346
表2	湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果	348
表3	常呂川(中ノ島〜北見大橋)から採取した661個の黒曜石円礫の分類結果	348
表4	サナブチ川から採取した80個の黒曜石円礫の分類結果	348
表5	金草地区から採取した20個の黒曜石円礫の分類結果	348
表6	生田原川支流支線川から採取した19個の黒曜石円礫の分類結果	348
表7	生田原川支流大黒沢川から採取した5個の黒曜石円礫の分類結果	348

表8-1	厚真町上幌内3遺跡出土黒曜石製石器の元素比分析結果(1)	349
表8-2	厚真町上幌内3遺跡出土黒曜石製石器の元素比分析結果(2)	349
表9-1	厚真町上幌内3遺跡出土黒曜石製石器の産地分析結果(1)	350
表9-2	厚真町上幌内3遺跡出土黒曜石製石器の産地分析結果(2)	351

#### 〔V章-2〕

表1	分析対象とした資料の概要	353
表2	鉄器に見出された非金属成分在物に混在する鉱物相のE PMAによる定量分析結果	355
表3	鉄器の分析結果	356

#### 〔V章-3〕

表1	分析対象	373
表2	定量分析結果	374
表3	Cu、Ni、Coの各含有量の比	375

#### 〔V章-4〕

表1	遺構別・基礎ガラス材質組成	381
表2	試料観察表	382
表3	化学組成測定結果(平均値)	382
表4	化学組成測定結果(個別値)	383

#### 〔V章-5〕

表1	分析対象一覽	391
表2	生漆の赤外線吸収位置とその強度	391
表3	赤色塗膜層のX線分析結果	392
表4	塗膜分析結果	392

#### 〔V章-6〕

表1	厚真町上幌内3遺跡出土木製品の樹種同定結果	393
----	-----------------------	-----

#### 〔V章-7〕

表1	上幌内3遺跡出土土人骨一覽	396
表2	上幌内3遺跡出土土人骨の歯冠計測値	396

#### 〔V章-8〕

表1	検出動物分類群一覽	406
表2	骨同定結果	407
表3	炭化種実同定結果	408

#### 〔V章-9〕

表1	厚真町上幌内3遺跡から出土した動物遺体	415
----	---------------------	-----

#### 〔V章-10〕

表1	厚真町上幌内3遺跡から出土した炭化種実(1)	418
表2	厚真町上幌内3遺跡から出土した炭化種実(2)	418

#### 〔V章-11〕

表1	放射性炭素年代測定結果	425
表2	放射性炭素年代測定結果	425

#### 〔V章-12〕

表1	放射性炭素年代測定結果	430
表2	放射性炭素年代測定結果	431

## 写真図版目次

### ●口絵

#### 口絵1

1. 土坑墓(ⅢGP-1)
2. 人骨(頭部)
3. 鎌・刀子ほか
4. 耳飾り・ガラス玉
5. 漆器(塗膜)

#### 口絵2

1. 土坑墓副葬品出土状況(ⅢGP-2)
2. 杭列と獣骨

#### 口絵3

1. 平地住居跡(ⅢH-9)
2. 建物跡(上幌内モイ遺跡を望む)

#### 口絵4

1. 竪穴住居跡(VH-5)
2. 石組が(VH-9HF-1)
3. Tビット土層断面(TP-14)
4. Tビット杭出土状況(TP-20)
5. 同左 拡大

### ●V章 自然科学的分析・鑑定

#### [V章-1]

図版1. 黒曜石原材産地分析試料

#### [V章-2]

図1. No.1の組織観察結果

図2. No.2・No.5の組織観察結果

図3. No.3の組織観察結果

図4. No.4の組織観察結果

#### [V章-3]

図版1. 分析対象鉄製品と試料採取位置

図版2. 鐏(上3-9)断面の金属組織

図版3. 刀装具(上3-27)断面の金属組織

#### [V章-4]

図版1. (ガラス玉)

図版2. (ガラス玉)

#### [V章-5]

図版1. 漆器椀外面赤文様部の塗膜構造(a)と  
反射電子像(b)

#### [V章-6]

図版1. 厚真町上幌内3遺跡出土材の光学顕微鏡写真

#### [V章-7]

図版1-a. 頭蓋骨 右側面・前面・左側面・後面

図版1-b. 頭蓋骨 上面・下面

図版1-c. 左側頭骨 外側面・内側面

図版1-d. 左前頭骨・頬骨

図版1-e. 上顎骨および口蓋骨  
上面・右側面・前面・左側面・下面

図版1-f. 下顎骨 上面・右側面・左側面

図版1-g. 頸椎・胸椎 上面

図版1-h. 右肩甲骨基部

図版1-i. 上腕骨および尺骨肘頭

図版1-j. 寛骨臼および下肢骨

図版2. 下顎 左側切歯・犬歯・第1大白歯  
上・咬合面 下・頬側面

#### [V章-8]

図版1. 出土骨

図版2. 炭化種実(1)

図版3. 炭化種実(2)

#### [V章-9]

図版1. 厚真町上幌内3遺跡から出土した動物遺体  
[V章-10]

図版1. 厚真町上幌内3遺跡から出土した炭化種実  
(1)

図版2. 厚真町上幌内3遺跡から出土した炭化種実  
(2)

### ●図版

[カラー写真]

#### 図版1

1. 遺跡近景(調査前)
2. 遺跡近景(調査中)

#### 図版2

1. A地区基本土層断面
2. B地区基本土層断面
3. C地区南端基本土層断面
4. C地区北端基本土層断面

#### 図版3

1. A地区北壁土層断面
2. B地区北壁土層断面
3. C地区トレンチ土層断面

#### 図版4

1. ⅢH-1HF-1断面
2. ⅢH-1HF-2断面
3. ⅢH-2HF-1断面
4. ⅢH-2HF-2断面
5. ⅢH-3HF-1断面
6. ⅢH-3HF-2断面
7. ⅢH-4HF-1断面
8. ⅢH-4HF-1被熱層

#### 図版5

1. ⅢH-5HF-1断面
2. ⅢH-5HF-2断面
3. ⅢH-5HF-3断面
4. ⅢH-6HF-1断面
5. ⅢH-8HF-1断面
6. ⅢH-9HF-1断面
7. ⅢH-9HF-1被熱層
8. ⅢH-9HA-1断面

図版 6

1. IIIH-10HF-1 断面
2. IIIH-10HF-1 被熱層
3. IIIH-11HF-1 断面
4. IIIH-11HF-1 被熱層
5. IIIH-12HF-1 検出
6. IIIH-12HF-1 断面
7. IIIH-13HF-1 断面
8. IIIH-14HF-1 断面

図版 7

1. 土坑墓(III GP-1) 検出
2. 樽前b除去後の状況
3. 鉦出土状況
4. 鉄鍋片出土状況
5. 鉄鍋片出土状況
6. 墓標穴(III GP-1 SP-1) 断面
7. 墓標穴(III GP-1 SP-1) 完掘

図版 8

1. 周溝・掘上土土層断面
2. 掘上土土層断面
3. 土坑墓長軸土層断面
4. 土坑墓短軸土層断面
5. 遺体層上面検出
6. 人骨検出

図版 9

1. 墓坑構築面
2. 土坑墓(III GP-2) 断面
3. 土坑墓(III GP-2) 坑底
4. 副葬品出土状況
5. 歯冠出土状況

図版 10

1. (集中区1) III F-6 断面
2. (集中区1) III F-8 断面
3. (集中区2) III F-10 断面
4. (集中区2) III F-9 断面
5. (集中区3) III F-11 断面
6. (集中区3) III F-12 断面
7. (集中区5) III F-14 検出
8. (集中区5) III F-14 断面

図版 11

1. III F-1 断面
2. III F-2 断面
3. III F-3 断面
4. III F-4 断面
5. III F-5 断面
6. III F-5 被熱層
7. III F-7 断面
8. III F-13 断面

図版 12

1. III A-1 検出
2. III A-1 断面
3. III A-2 検出

4. III A-2 断面

5. IH-1HF-1・HA-1 断面
6. IH-2HF-1 断面

図版 13

1. VH-1HF-1 断面
2. VH-2HF-1 断面
3. VH-3HF-1・2 断面
4. VH-4HF-1・2 断面
5. VH-5HF-1 断面
6. VH-6HF-1 断面
7. VH-9HF-1 断面
8. VH-9HF-1 石組炉

図版 14

1. VF-1 断面
2. VF-3 断面
3. VF-4 断面
4. VF-5 断面
5. VF-6 断面
6. VF-7 断面
7. VF-8 断面
8. VF-9 石組炉

図版 15

1. III GP-1 出土の鉄鍋
2. 同上(保存処理後・復元)

図版 16

1. III GP-1 出土の鉄製品

図版 17

1. III GP-1 出土の金属製品・漆器

図版 18

1. III GP-1・2 ほか出土のガラス玉

図版 19

1. III GP-2 ほか出土の古銭

図版 20

1. III H 出土の鉄製品

図版 21

1. III P・集中区出土の鉄製品

図版 22

1. 集中区・III 層包含層出土の鉄製品

図版 23

1. 復元土器
2. 加工痕ある骨片・土製品・石製品

図版 24

1. TP-20 出土の杭

[モノクロ写真]

図版 25

1. 遺跡遠景(厚真川対岸より)
2. 遺跡遠景(上幌内モイ遺跡からC地区を望む)

図版 26

1. 調査開始時の状況(2013年度・C地区)
2. 調査開始時の状況(2014年度・A地区)

図版 27

1. IH-1HF-1・HA-1 検出
2. クマの歯出土状況
3. IH-1HP-4 断面
4. IH-1HP-17 断面
5. IH-1HP-29 断面
6. IH-1・建物跡 2 完掘

図版 28

1. IH-2HF-1 検出
2. IH-2HF-1 焼土周辺杭穴検出
3. 建物跡 2 検出
4. 建物跡 2HP-6 断面
5. 建物跡 3 調査状況
6. 建物跡 3HP-5 断面
7. IP-2 断面
8. IP-3 断面

図版 29

1. IIIH-1 検出
2. IIIH-1HS-1 検出
3. IIIH-1HS-1 高坏脚部出土状況
4. IIIH-1HS-2 検出
5. IIIH-1HS-3 検出

図版 30

1. IIIH-1HF-1 検出
2. IIIH-1HF-2 検出
3. IIIH-1HF-1・2 断面
4. シカの歯出土状況
5. IIIH-1HP-1 断面
6. IIIH-1HP-2 断面
7. IIIH-1HP-3 断面
8. IIIH-1HP-4 断面
9. IIIH-1HP-5 断面
10. IIIH-1HP-6 完掘

図版 31

1. IIIH-1HP-7・8 遺物出土状況
2. IIIH-1HP-7・8 断面
3. IIIH-1HP-7・8 完掘
4. IIIH-1 全景

図版 32

1. IIIH-2 検出
2. IIIH-2HF-1 検出
3. 鉄鍋片出土状況
4. IIIH-2HP-1 断面
5. IIIH-2HP-2 完掘
6. IIIH-2HP-5 断面

図版 33

1. IIIH-2HP-8 断面
2. IIIH-2HP-9 完掘
3. IIIH-2HP-11 断面
4. IIIH-2HP-14 断面
5. IIIH-2HP-15 完掘
6. IIIH-2HP-16 断面

7. IIIH-2 完掘

図版 34

1. IIIH-3 検出
2. IIIH-3HF-1 検出
3. IIIH-3HP-2 断面
4. IIIH-3HP-3 完掘
5. IIIH-3HP-4 断面
6. IIIH-3 完掘

図版 35

1. IIIH-4 検出
2. IIIH-4HS-1・2 検出
3. IIIH-4HP-1 断面
4. IIIH-4HP-2 断面
5. IIIH-4 完掘

図版 36

1. IIIH-5 検出
2. IIIH-5HF-1 検出
3. IIIH-5HP-2 完掘
4. IIIH-5HP-3 断面
5. IIIH-5HP-6 断面
6. IIIH-5 完掘

図版 37

1. IIIH-6 遺物出土状況
2. IIIH-6HF-1 検出
3. IIIH-6HP-1 断面
4. IIIH-6HP-3 完掘
5. IIIH-6HP-6 断面
6. IIIH-6 完掘

図版 38

1. IIIH-7 調査状況
2. IIIH-7HP-2 断面
3. IIIH-7HP-3 断面
4. IIIH-7HP-5 断面
5. IIIH-7HP-7 完掘
6. IIIH-7 完掘

図版 39

1. IIIH-8 付近調査状況
2. IIIH-8HS-1 検出
3. IIIH-8HF-1 検出
4. 鉄製品出土状況
5. IIIH-8HP-3 完掘
6. IIIH-8HP-6・7 断面
7. IIIH-8 完掘

図版 40

1. IIIH-9 検出
2. IIIH-9HF-1 検出
3. IIIH-9HP-1 断面
4. IIIH-9HP-2 完掘
5. IIIH-9HP-4 完掘
6. IIIH-9HP-5 断面
7. IIIH-9HP-6 断面
8. IIIH-9HP-8 断面

9. IIIH-9HP-10 完掘
10. IIIH-9HP-13 断面
11. IIIH-9HP-20 断面

図版 41

1. IIIH-9 完掘
2. IIIH-10・11 検出

図版 42

1. IIIH-10 調査状況
2. IIIH-10HF-1 検出
3. IIIH-10・11 炭化材出土状況
4. IIIH-10HP-11 遺物出土状況
5. IIIH-10HP-1 完掘
6. IIIH-10HP-2 断面
7. IIIH-10HP-5 断面
8. IIIH-10HP-6 完掘
9. IIIH-10HP-9 断面
10. IIIH-10HP-13 完掘

図版 43

1. IIIH-11 調査状況
2. IIIH-11HF-1 検出
3. IIIH-11HP-2 断面
4. IIIH-11HP-4 完掘
5. IIIH-11HP-6 断面
6. IIIH-11HP-8 断面
7. IIIH-11HP-10 完掘
8. IIIH-11HP-13 断面
9. IIIH-11HP-14 断面
10. IIIH-10・11 完掘

図版 44

1. IIIH-12 検出
2. 焼土と遺物
3. IIIH-12 柱穴群断面
4. IIIH-12HP-2 断面
5. IIIH-12HP-7 断面
6. IIIH-12HP-9 完掘

図版 45

1. IIIH-12HP-10 断面
2. IIIH-12HP-11 完掘
3. IIIH-12HP-17 断面
4. IIIH-12HP-20 断面
5. IIIH-12HP-25 完掘
6. IIIH-12HP-26 断面
7. IIIH-12・13 完掘

図版 46

1. IIIH-13 遺物出土状況
2. 刀子出土状況
3. IIIH-13HF-1 検出
4. IIIH-13HP-2 断面
5. IIIH-13HP-7 断面
6. IIIH-13HP-13 断面

図版 47

1. IIIH-14HF-1 検出

2. IIIH-14HP-17・18 断面
3. IIIH-14HP-1 断面
4. IIIH-14HP-7 断面
5. IIIH-14HP-9 完掘
6. IIIH-14 完掘

図版 48

1. 建物跡1HP-1 断面
2. 建物跡1HP-2 完掘
3. 建物跡1HP-3 断面
4. 建物跡1HP-4 断面
5. 建物跡1HP-5 完掘
6. 建物跡1HP-7 完掘
7. 建物跡1 完掘

図版 49

1. 杭列・III B-1 検出
2. III B-1 シカ角出土状況
3. III B-1 シカ歯列出土状況
4. 杭列断面
5. 杭列完掘

図版 50

1. III P-1 刀出土状況
2. III P-1 断面
3. III SP-1・2・3 断面
4. III SP-4・5・6 完掘
5. III SP-8 断面
6. III SP-26 断面
7. III SP-30 完掘
8. III SP-42 断面
9. III SP-58 完掘
10. III SP-68 断面

図版 51

1. 集中区1 遺物出土状況
2. (集中区1) III F-6 検出
3. (集中区1) III F-8 検出
4. シカ角出土状況
5. 集中区1 周辺遺物出土状況

図版 52

1. 集中区2 遺物出土状況
2. (集中区2) III F-10 検出
3. (集中区2) III PB-1 検出
4. (集中区2) III S-8 検出
5. 古銭出土状況

図版 53

1. 集中区3 遺物出土状況
2. (集中区3) III F-11 検出
3. (集中区3) III S-9 検出
4. 集中区4 遺物出土状況

図版 54

1. 集中区5 検出
2. (集中区5) III F-14 断面
3. 小刀出土状況
4. III SP-61 断面

5. III SP-62 断面  
6. III SP-63 完掘
- 図版 55
1. 集中区6 調査状況
  2. 刀子出土状況
  3. 柱穴状小土坑群検出
  4. (集中区6) III SP-13 断面
  5. (集中区6) III SP-20 完掘
  6. (集中区6) III S-2 検出
  7. 同左 (拡大)
- 図版 56
1. (集中区8) III S-5 検出
  2. (集中区8) III B-2 検出
  3. (集中区9) III S-6 検出
  4. (集中区9) III S-6 (拡大)
- 図版 57
1. III PB-2 検出
  2. III S-3 検出
  3. III S-4 検出
  4. III B-3 検出
  5. III B-4 検出
- 図版 58
1. VH-1 調査状況
  2. 遺物出土状況
  3. VH-1 断面
  4. 石組が・先端ビット検出
  5. VH-1 HF-1
- 図版 59
1. VH-1 HF-1 (炉石抜き取り)
  2. VH-1 HP-1 断面
  3. VH-1 HP-2 断面
  4. VH-1 HP-6 完掘
  5. VH-1 HP-7 断面
  6. VH-1 完掘
- 図版 60
1. VH-2 遺物出土状況
  2. VH-2 HF-1 検出
  3. VH-2 HP-1 断面
  4. VH-2 HP-2 完掘
  5. VH-2 HP-6 断面
  6. VH-2 完掘
- 図版 61
1. VH-3 調査状況
  2. 遺物出土状況
  3. VH-3 東西断面
  4. VH-3 HF-1・2 検出
  5. VH-3 HP-1 断面
  6. VH-3 HP-2 断面
  7. VH-3 HP-3 断面
  8. VH-3 HP-9 完掘
- 図版 62
1. VH-3 完掘
2. VH-4 調査状況
  3. VH-4 調査状況
  4. 遺物出土状況
  5. VH-4 HF-1 検出
- 図版 63
1. VH-4 東西断面
  2. VH-4 南北断面
  3. VH-4 HP-1 断面
  4. VH-4 HP-2 完掘
  5. VH-4 完掘
- 図版 64
1. VH-5 遺物出土状況
  2. 垂飾出土状況
  3. VH-5 東西断面
  4. VH-5 南北断面
  5. VH-5 HF-1 遺物出土状況
  6. VH-5 柱穴調査状況
- 図版 65
1. VH-5 HP-1 断面
  2. VH-5 HP-3 断面
  3. VH-5 HP-4 断面
  4. VH-5 HP-5 断面
  5. VH-5 HP-6 断面
  6. VH-5 HP-7 断面
  7. VH-5 完掘
- 図版 66
1. VH-6 遺物出土状況
  2. 石楡出土状況
  3. VH-6 東西断面
  4. VH-6 南北断面
  5. 土器出土状況
  6. VH-6 床面検出
- 図版 67
1. VH-6 HP-1 断面
  2. VH-6 HP-3 完掘
  3. VH-6 HP-4 断面
  4. VH-6 HP-5 完掘
  5. VH-6 HP-7 断面
  6. VH-6 HP-11 断面
  7. VH-6 完掘 (床下)
- 図版 68
1. VH-7 東西断面
  2. VH-7 南北断面
  3. VH-7 床面遺物出土状況
  4. VH-7 完掘
  5. VH-7 HP-1 断面
  6. VH-7 HP-2 断面
  7. VH-8 HP-2 断面
  8. VH-8 完掘
- 図版 69
1. VH-9 遺物出土状況
  2. VH-9 HF-1 断面



3. VH-9HF-2断面
4. VH-9HP-1・2断面
5. VH-9HP-8断面
6. VH-9HP-9完掘
7. VH-9完掘

図版 70

1. VP-1断面
2. VP-2断面
3. VP-2完掘
4. VP-3断面
5. VP-4断面
6. VP-5断面
7. VP-6断面

図版 71

1. TP-1断面
2. TP-1完掘
3. TP-2断面
4. TP-2完掘
5. TP-3断面
6. TP-3完掘
7. TP-4断面
8. TP-4完掘
9. TP-5断面

図版 72

1. TP-5完掘
2. TP-6断面
3. TP-6完掘
4. TP-7断面
5. TP-7坑底杭穴検出
6. TP-7坑底杭穴断面
7. TP-8断面
8. TP-8坑底杭穴検出
9. TP-8坑底杭穴完掘

図版 73

1. TP-9断面
2. TP-9完掘
3. TP-10断面
4. TP-10完掘
5. Tビット列
6. Tビット列

図版 74

1. TP-11断面
2. TP-11完掘
3. TP-12断面
4. TP-12完掘
5. TP-13断面
6. TP-13完掘

図版 75

1. TP-14断面
2. TP-14坑底杭穴検出
3. TP-14SP-3断面
4. TP-14SP-2断面

5. TP-14坑底杭穴完掘
6. TP-15断面
7. TP-15完掘

図版 76

1. TP-16断面
2. TP-16完掘
3. TP-16SP-2断面
4. TP-17検出
5. TP-17断面
6. TP-17坑底杭穴検出
7. TP-17SP-4断面
8. TP-17完掘

図版 77

1. TP-18断面
2. 曝出土状況
3. TP-18完掘
4. TP-18SP-2断面
5. TP-19断面
6. TP-19完掘

図版 78

1. TP-20断面
2. TP-20SP-1杭出土状況
3. TP-20SP-2杭出土状況
4. TP-20坑底杭出土状況
5. TP-21断面
6. TP-21完掘

図版 79

1. TP-22調査状況
2. TP-22断面
3. TP-22坑底杭穴検出
4. TP-22SP-2断面
5. VF-1石組伊検出
6. VF-9伊石出土状況

図版 80

1. VPB-1検出
2. VPB-2検出
3. VPB-3検出
4. VPB-4検出
5. VPB-5検出
6. VPB-6検出
7. VPB-7検出
8. VPB-8検出

図版 81

1. VPB-9検出
2. VPB-10検出
3. VPB-11検出
4. VPB-12検出
5. VPB-13検出
6. VPB-14検出
7. VPB-15検出
8. VPB-16検出

図版 82

1. VPB-17 検出
2. VPB-19 検出
3. 石器集中1 検出
4. 石器集中2 検出
5. VFC-1~3 検出
6. VFC-1 検出
7. VFC-3 検出

図版 83

1. VFC-4 検出
2. VFC-5 検出
3. VS-1 検出
4. VS-1 検出
5. VS-2 検出

図版 84

1. V層遺物出土状況
2. 石斧ほか出土状況
3. 石製品出土状況
4. 台石・大型礫出土状況
5. 沢地形大型礫出土状況

図版 85

1. 完掘 (A地区)
2. 完掘 (B地区)

図版 86

1. 完掘 (C地区・沢地形)
2. 完掘 (C地区)

図版 87

1. 近現代の遺物
2. 鉄鍋
3. 同左

図版 88

1. IIIH-1 出土の土器 (1)
2. 同上
3. IIIH-1 出土の土器 (2)
4. IIIH-1 周辺出土の土器
5. IIIH-1 出土の遺物

図版 89

1. IIIH-1HS-1 出土の礫
2. IIIH-1HS-2 出土の礫
3. IIIH-1HS-3・HP-7 出土の礫
4. IIIH-1 出土の礫
5. IIIH-3 出土の礫
6. IIIH-4 出土の石器
7. IIIH-4 出土の礫

図版 90

1. IIIH-4HS-1 出土の礫
2. IIIH-4HS-2 出土の礫
3. IIIH-6 (HS-1) 出土の礫
4. IIIH-8 出土の礫
5. IIIH-9・10 出土の礫
6. IIIH-12 出土の礫
7. IIIH-13 出土の礫

図版 91

1. IIIH-14 出土の礫
2. 建物跡1 出土の礫
3. IIIGP-1 出土の石器・礫
4. 集中区1 出土の土器・石器
5. 集中区1 出土の礫
6. 集中区2 出土の土器

図版 92

1. (集中区2) IIIPB-1 出土の礫
2. (集中区2) III S-8 出土の礫
3. 集中区2 出土の礫
4. 集中区3 出土の礫
5. 集中区3 出土の遺物

図版 93

1. 集中区4 出土の須恵器
2. 同上
3. 集中区4 出土の土器・石器
4. 集中区4 出土の礫
5. 集中区5 出土の土器
6. 集中区5 出土の礫

図版 94

1. 集中区6 出土の石器・礫
2. 集中区6 出土の台石
3. (集中区6) III S-1 出土の礫 (1)
4. (集中区6) III S-1 出土の礫 (2)
5. (集中区6) III S-1 出土の礫 (3)
6. (集中区7) III S-2 出土の礫
7. (集中区8) III S-5 出土の礫

図版 95

1. (集中区9) III S-6 出土の石器
2. (集中区9) III S-6 出土の礫
3. IIIA-2 出土の大型板状礫
4. IIIPB-2 出土の土器
5. III S-3 出土の土器
6. III S-3 出土の礫

図版 96

1. III層包含層出土の土器 (1)
2. III層包含層出土の土器 (2)
3. III層包含層出土の石器

図版 97

1. III層包含層出土の石器・礫
2. III層包含層出土の台石

図版 98

1. VH-1 出土の遺物
2. VH-2 出土の遺物

図版 99

1. VH-2 出土の石器
2. VH-2 出土の台石
3. VH-3 出土の台石
4. VH-3 出土の遺物

図版 100

1. VH-4 出土の遺物

2. VH-4 出土の台石  
3. VH-5 出土の遺物  
図版 101
1. VP-3 出土の遺物  
2. VH-6 出土の土器  
図版 102
1. VH-6 出土の石器  
2. VH-7 出土の土器  
3. VH-7 出土の遺物  
4. VH-9 出土の遺物  
図版 103
1. VP-2 出土の石器  
2. TP 出土の石器  
3. TP-17 出土の台石 (1)  
4. TP-17 出土の台石 (2)  
5. VF 出土の遺物  
6. VF-3 出土の台石  
図版 104
1. VPB-1 出土の遺物  
2. VPB-2 出土の土器  
3. VPB-2 出土の遺物  
4. VPB-2 出土の台石  
図版 105
1. VPB-3 出土の土器  
2. VPB-4 出土の土器  
3. VPB-4・5 出土の遺物  
図版 106
1. VPB-6 出土の土器  
2. VPB-7 出土の遺物  
3. VPB-8・9 出土の土器  
図版 107
1. VPB-10~12 出土の土器  
2. VPB-13 出土の土器  
3. VPB-14 出土の土器  
図版 108
1. VPB-15 出土の土器  
2. VPB-16 出土の土器  
3. VPB-17 出土の土器  
4. VPB-18 出土の土器  
図版 109
1. 石器集中1 出土の石器  
2. 石器集中2 出土の石器  
3. VFC-1 出土の石器等  
図版 110
1. VFC-2 出土の石器等  
2. VFC-3 出土の石器等  
3. VFC-5 出土の石器等  
4. VS-1 出土の石器  
図版 111
1. V層包含層出土の土器 (1)  
図版 112
1. V層包含層出土の土器 (2)  
2. V層包含層出土の土器 (3)  
図版 113
1. V層包含層出土の土器 (4)  
図版 114
1. V層包含層出土の土器 (5)  
図版 115
1. V層包含層出土の土器 (6)  
図版 116
1. V層包含層出土の土器 (7)  
図版 117
1. V層包含層出土の石器 (1)  
図版 118
1. V層包含層出土の石器 (2)  
図版 119
1. V層包含層出土の石器 (3)  
図版 120
1. V層包含層出土の石器 (4)  
図版 121
1. V層包含層出土の石器 (5)  
図版 122
1. V層包含層出土の石器 (6)  
図版 123
1. V層包含層出土の石器 (7)  
図版 124
1. V層包含層出土の石器 (8)  
2. 砥石  
3. 台石 (No.296)  
図版 125
1. 台石 (No.297)  
2. 台石 (No.298)  
3. 台石 (No.299)  
4. 台石 (No.300)  
5. 台石 (No.301)  
6. 台石 (No.302)  
図版 126
1. 台石 (No.303)  
2. 台石 (No.304)  
3. 台石 (No.305)  
4. 台石 (No.306)  
5. 台石 (No.307)  
6. 台石 (No.308)

# I 緒言

## 1 調査要項

事業名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道胆振総合振興局（室蘭建設管理部厚幌ダム建設事務所）

受託者：公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

遺跡名：上幌内3遺跡（北海道教育委員会登録番号J-13-123）

所在地：勇払郡厚真町字幌内98-2、101-1・2、102、103-1・2

調査面積：14,525㎡（平成25年度8,545㎡・平成26年度5,980㎡）

調査期間：平成25年4月9日～平成29年3月28日

（現地調査：平成25年5月13日～8月9日・平成26年5月12日～10月30日）

## 2 調査体制

〔平成25年度〕

理事長	坂本 均	第2調査部 部長	三浦 正人
副理事長	畑 宏明	第2調査課 課長	笠原 興（発掘担当者）
専務理事	中田 仁（事務局長兼務）	主査	新家 水奈（発掘担当者）
常務理事	千葉 英一（第1調査部長兼務）	主査	阿部 明義（発掘担当者）
		主任	佐川 俊一（発掘担当者）
		第1調査部第1調査課 主査	吉田 裕史洋

〔平成26年度〕

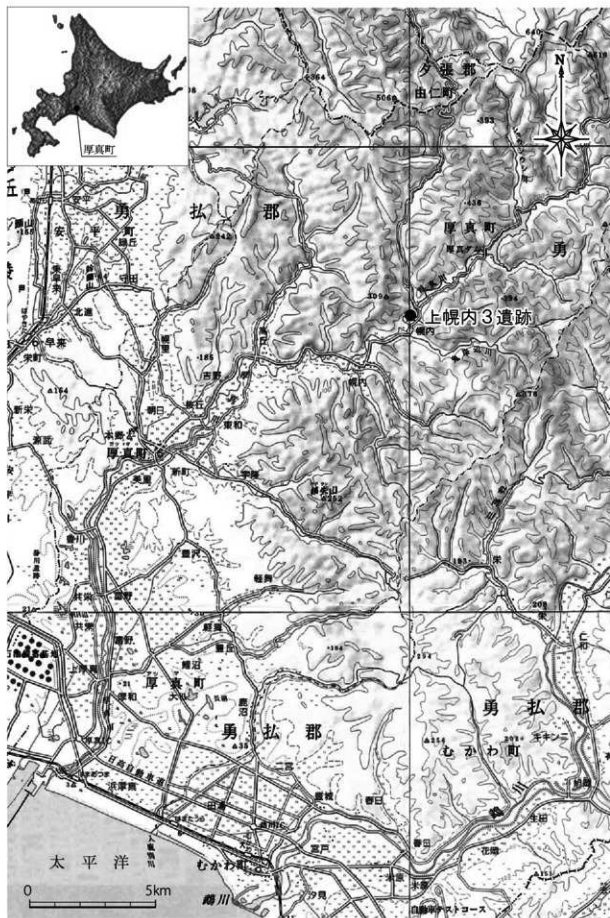
理事長	坂本 均	第2調査部 部長	三浦 正人
副理事長	畑 宏明 （平成26年8月28日死去）	第2調査課 課長	笠原 興（発掘担当者）
専務理事	中田 仁（事務局長兼務）	主査	新家 水奈（発掘担当者）
常務理事	千葉 英一（第1調査部長兼務）	主査	阿部 明義（発掘担当者）
		主査	富永 勝也（発掘担当者）
		第1調査部第1調査課 主査	吉田 裕史洋

〔平成27年度〕

理事長	越田 賢一郎	第2調査部 部長	三浦 正人
副理事長	中田 仁	第3調査課 課長	村田 大
専務理事	山田 寿雄（事務局長兼務）	主査	新家 水奈
常務理事	長沼 孝（第1調査部長兼務）	主査	阿部 明義
		第1調査部第1調査課 主査	吉田 裕史洋

〔平成28年度〕

理事長	越田 賢一郎	第2調査部 部長	三浦 正人
副理事長	中田 仁	第3調査課 課長	村田 大
専務理事	山田 寿雄（事務局長兼務）	主査	新家 水奈
常務理事	長沼 孝（第1調査部長兼務）	第2調査課 主査	阿部 明義



※ 国土地理院発行20万分の1地勢図「夕張郡」「浦河」「札幌」「苫小牧」を使用

図 I-1 遺跡の位置

### 3 調査に至る経緯と経過

#### (1) 調査に至る経緯

厚幌ダムは、治水、流水の正常な機能の維持、水道用水と灌漑用水の確保を目的とする多目的ダムである。昭和52年に北海道室蘭土木現業所（当時）が厚幌ダム建設事業の予備調査に着手し、昭和61年に厚真川総合開発事業計画調査の着手が決定した。平成7年に、北海道と厚真町の間で「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、「厚幌ダム」が建設されることとなった。

現在、北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部厚幌ダム建設事務所（以下、ダム事務所）により、建設が行われている。

建設事業が具体化されるに伴い、平成12年7月6日、事業者から北海道教育委員会（以下、道教委）に、埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。協議区域は、湛水地域の洪水時最高水位88.1m以下と道道上幌内早来停車場線道路切替幅を合わせた範囲である。

ダム堤体より下流部にあたる道道切替部分は、平成13年6月に道教委により試掘調査が実施され、発掘が必要な面積として約8,250㎡が提示された。この範囲は、厚幌1遺跡として新規に登録されている。

これを受け、厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について、道教委と厚真町教育委員会（以下、町教委）で協議した結果、厚幌ダム建設に係る受益者が厚真町1町であることなどから、町教委で実施することとなった。厚幌1遺跡は、厚幌ダム建設に係るものとして町教委が平成14・15・24年に、厚幌導水路建設に係るものとして町教委が平成20年に、当センターが平成25・27年に発掘調査を実施している。

湛水地域内は、平成13年10月に道教委により所在確認調査が行われ、16か所で面積約235,500㎡について、試掘調査が必要との回答がなされた。その後、追加箇所や範囲拡張も含め、平成19年までに18か所で試掘調査が実施され、14遺跡143,000㎡について、発掘調査または遺構確認調査が必要と示された。

発掘調査は、町教委により平成14年度から開始されている。平成18年度に道教委からの依頼で、数か所の遺跡について当センターが調査計画の積算を行い、道教委に回答している。

調査および工事が進捗するに伴い、建設工事中の発見を避けるためなどから、再度試掘調査の必要性が生じた。そのため、道教委は平成21年5月に所在確認調査を実施し、試掘調査が必要な箇所10か所を示し、同年7月、8月に先に示した10か所のうち8か所について試掘調査を実施した。その結果、6か所で発掘調査が必要なことが確認された。これについて、当センターで調査計画の積算を行い道教委に回答している。今回報告する上幌内3遺跡は、この時に確認された遺跡の1つである。同年12月にも、追加の試掘調査が行われ、発掘に必要な箇所1か所が追加された。平成27年12月現在、発掘調査または遺構確認調査が必要な遺跡は22か所。面積の合計約20万㎡である。

厚幌ダム建設工事が本格化するに伴い、平成24年度から当センターも発掘調査に参入することとなった。現在までに当センターが調査を実施した遺跡は、オニキシベ1遺跡（平成24・25年）、イクバンドユクチセ2遺跡（平成25年）、イクバンドユクチセ3遺跡（平成25年）、ショロマ4遺跡（平成26年）、上幌内4遺跡（平成26・27・28年）、上幌内5遺跡（平成25・27・28年）、オニキシベ3遺跡（平成26・27・28年）である。

上幌内3遺跡の調査範囲については、平成21年7月と8月に隣接するショロマ4遺跡と合わせて、厚真川右岸の低位面と河岸段丘上の約115,000㎡で試掘調査が実施され（図1-2）、発掘が必要な面

積 13,000 m<sup>2</sup>が提示された。調査範囲はすべて河岸段丘上で3か所に分けられ、西側の山地地形に隣接するA地区と小さな沢を挟みB地区、厚真川に面するC地区とされた。

各地区の調査内容の内訳について、A地区の2,600 m<sup>2</sup>は、縄文時代晩期からアイヌ文化期の遺物包含層のⅢ層（以下、Ⅲ層）と縄文時代早期から晩期の遺物包含層であるV層（以下、V層）の通常発掘調査である。B地区は、Ⅲ層は調査対象外でV層のうち3分の1にあたる800 m<sup>2</sup>を通常発掘調査とし、残りは遺構確認調査となった。C地区はさらに分割され、8,000 m<sup>2</sup>のうち北側の4,800 m<sup>2</sup>（C-1地区）は、Ⅲ層を遺構確認調査とし、南側の3,200 m<sup>2</sup>（C-2地区）のⅢ層は調査対象外であった。下層のV層は、8,000 m<sup>2</sup>のうち50%を通常発掘調査とし、残りを遺構確認調査とすると示された（図I-3）。

発掘調査は当センターが担当することになり、厚幌ダム建設に伴い移設される厚真川林道工事の都合により、平成25・26年度の2か年で実施することとなった。

## （2）調査の経過

平成25年度は、林地の伐採作業が終了しているC地区から調査に着手した。調査着手前の表土除去作業後に、残存するⅢ層から遺構と遺物が確認され、一部通常の発掘調査を実施した。その結果、Ⅲ層の遺構や遺物出土の範囲が北側の調査範囲外へ広がることとⅢ層の調査は対象外だったC-2地区の一部にも広がるのが判明した。このことについて、当センターは5月下旬に道教委へ報告し、6月に関係機関との協議が行われた。これに対し、道教委は調査範囲が北側に広がる旨回答した。これにより、残存するⅢ層はC-2地区を含め通常の発掘調査とし、調査範囲は北側へ1,025 m<sup>2</sup>拡張されることとなった。このため、V層の調査を期間内に終了することが困難となり、V層の480 m<sup>2</sup>については次年度に調査を実施することとなった。調査面積は、当初予定8,000 m<sup>2</sup>から1,025 m<sup>2</sup>拡張となり、合計9,025 m<sup>2</sup>に着手し、終了した面積は8,545 m<sup>2</sup>であった。

平成26年度の調査は、A地区、B地区、C地区の先送り範囲の3か所について実施した。C地区から調査を開始し、A地区の調査に並行してB地区の表土除去作業を行った。B地区のⅢ層は調査対象外であったが、隣接するA地区でアイヌ墓を検出したことから、表土・火山灰除去作業は慎重に行った。その結果、Ⅲ層の黒色土から遺物が出土し、また出土範囲が調査区外へ広がることが確認された。このことについて、当センターは7月上旬に道教委へ報告し、関係機関との協議が行われた。これを受けて、急きよ道教委は7月16日にB地区の試掘調査を実施した。この結果、調査範囲は北側へ500 m<sup>2</sup>拡張し、Ⅲ層のうち遺物の広がり認められる2,100 m<sup>2</sup>については通常発掘調査とし、残り800 m<sup>2</sup>については遺構確認調査とする旨回答した。この変更に伴い、調査中のA地区の状況から、A地区のⅢ層の通常発掘調査範囲を2,600 m<sup>2</sup>から1,750 m<sup>2</sup>へと減ずることとなった（図I-4）。また、事業者から厚真川林道工事の工事工程の都合により、現地調査を期間内に終了する旨の強い要望があり、上幌内3遺跡の調査を最優先とし、同じく平成26年度に調査予定であった上幌内4遺跡については、表土除去などの準備工を行い、本格的な発掘調査は次年度に先送りすることとなった。

平成25・26年の2か年で調査した面積の合計は、A地区（2,600 m<sup>2</sup>）、B地区（2,400 m<sup>2</sup>と500 m<sup>2</sup>拡張）、C地区（8,000 m<sup>2</sup>と1,025 m<sup>2</sup>拡張）合わせて14,525 m<sup>2</sup>である。

（村田 大）

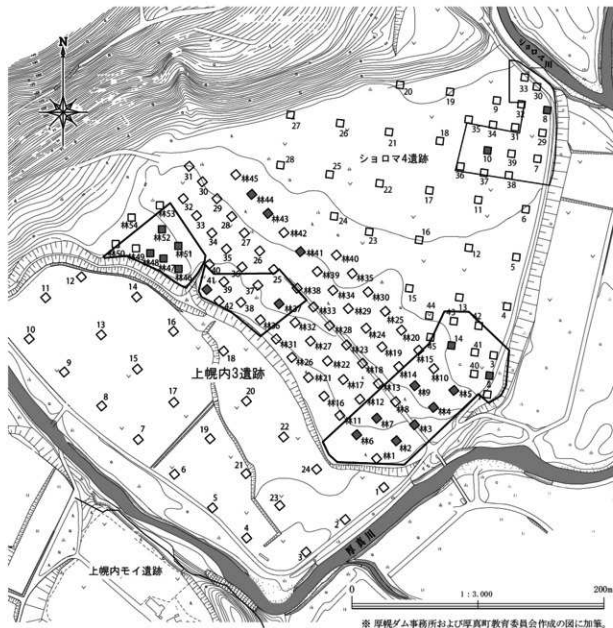


図 I-2 試掘調査位置

表 I-1 試掘調査出土遺物点数

		シ2	シ14	林2	林3	林4	林5	林6	林7	林9	林37	林41	林43	林44	林46	林47	林48	林49	林51	林52	41	
Ⅱ層	礎					7									※							
Ⅴ層	土器		1		2				1	1					—		3	1		1		
	石器	1		1			1								—							
	礎			1	6	12	24	1	1	5	7	(1)	(2)	(2)	—	5	2	2	5	3	6	
分類・特記事項	フレイク		台石	Ⅲb		礫石			Ⅳa	Ⅲb		自然?	自然?	自然?	礎土 礎出		Ⅲa			Ⅲa		

「シ」はシロハマ4遺跡側の試掘調査

※「林46」は礎土の面で削削終了



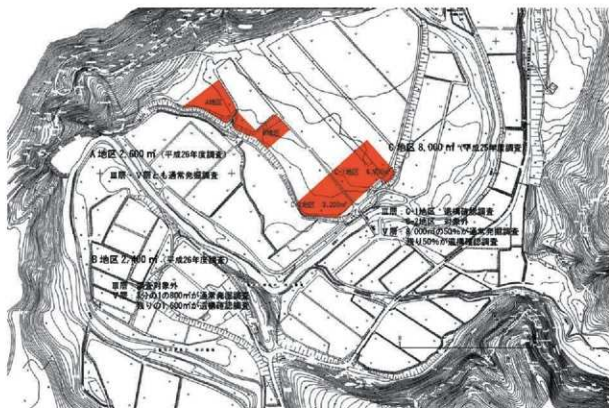


図 I-3 当初の調査計画

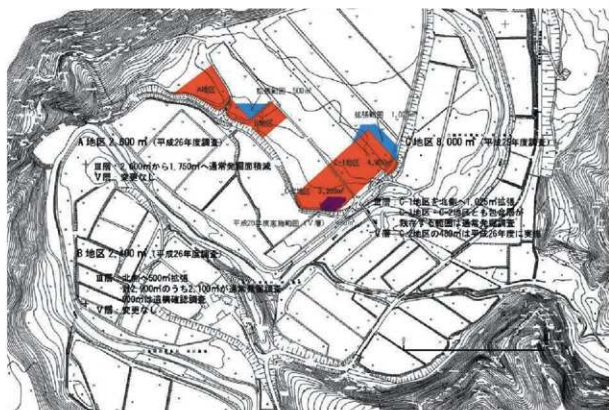


図 I-4 変更後の調査実績

## 4 調査の方法

### (1) 発掘区の設定 [図 I-5]

調査の基本図は、北海道胆振総合振興局厚真ダム建設事務所作成の「工事用平面図 1000 分の 1」を使用した。

発掘区の境界となるグリッド線は、世界測地系の座標軸を基線とした。平面直角座標系第 X II 系の X 座標 = -136, 200m と Y 座標 = -20, 200m との交点を起点「A0」として、南に A、B、C・・・、西に 1、2、3・・・と 5m 幅で平行する線を全調査区域がカバーできるように設定した。各交点に杭を打ち、アルファベットと算用数字を組み合わせて各交点の名称とした。5m × 5m で区画された正方形のマスを各発掘区とし、その北東側の交点を発掘区の名称とした。なお設定に当たっては、周辺の 3 級基準点を基に 4 級基準点等を設置し、利用した。

基準杭の座標値の成果は以下に記した。

[既設三級基準点例]

H8N03-51 X = -136, 280. 010m Y = -20, 476. 561m H = 63. 900m (B 地区)

[新設四級基準点例]

H24T15 X = -136, 299. 403m Y = -20, 351. 889m H = 63. 868m (C 地区北側)

H24T16 X = -136, 268. 289m Y = -20, 504. 428m (A 地区)

[調査区内基準杭例]

G68 杭 X = -136, 230. 000m Y = -20, 540. 000m (A 地区)

P51 杭 X = -136, 275. 000m Y = -20, 455. 000m (B 地区)

c24 杭 X = -136, 340. 000m Y = -20, 320. 000m H = 64. 340m (C 地区)

### (2) 発掘調査の方法

現地は林地の範囲が多く、伐採後切り株が多数残存する状況であった。重機により表土 (I 層) ~ 樽前 b テフラ (II 層) の除去を行ったが、抜根は最少限にとどめ、切り株周辺は手掘りで清掃した。

調査は各年度・地区とも、上位黒色土 (III 層) の遺構・包含層調査、樽前 c テフラ (IV 層) 上面での遺構確認、重機による樽前 c テフラの除去、下位黒色土 (V 層) の遺構・包含層調査、その下面での遺構確認、の順に行った。

土層確認のため、調査区を横断するトレンチを設けた (C 地区)。また遺構・遺物の濃度を把握するため、25% 調査等を行った。遺構・遺物が濃密に分布する範囲があった一方、希薄と判断した範囲はスコップを併用 (V 層)、遺物の出土が皆無であった発掘区周辺では、重機による掘削を併用しながら遺構確認を行った (I 章 3 および図 I-6 参照)。

検出された遺構は、土層観察用のベルトを設けるなどして随時調査を行った。出土した遺物は、遺構出土のものや集中出土のものについて選択的に出土状況の図化や地点計測を行った (「点上げ」)。それ以外は発掘区ごと・層位ごとに取り上げた。なお「点上げ」遺物番号は、調査の工程上 C 地区は各遺構ごと、A・B 地区は Na1001 から連番で行った。また焼土や灰集中など、微細な遺物が含まれることが見込まれる土壌についてサンプリングを行った。骨片など脆弱な遺物は、バインダー等の薬品を用いて安定化させて取り上げた。

アイヌ文化期の土坑墓の調査に際しては、厚真町教育委員会の協力のもと、苫小牧アイヌ協会によりカムイノミを執り行っていただいた。

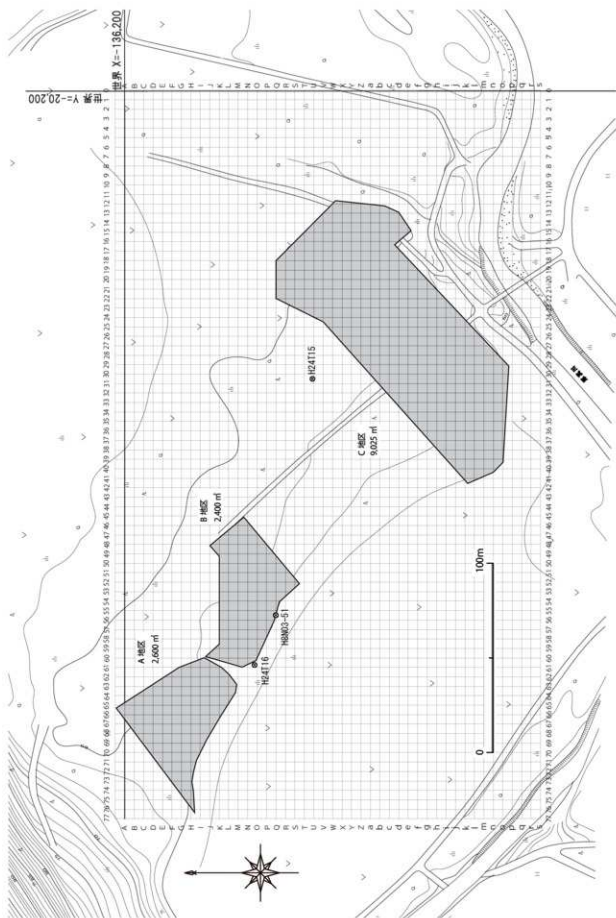
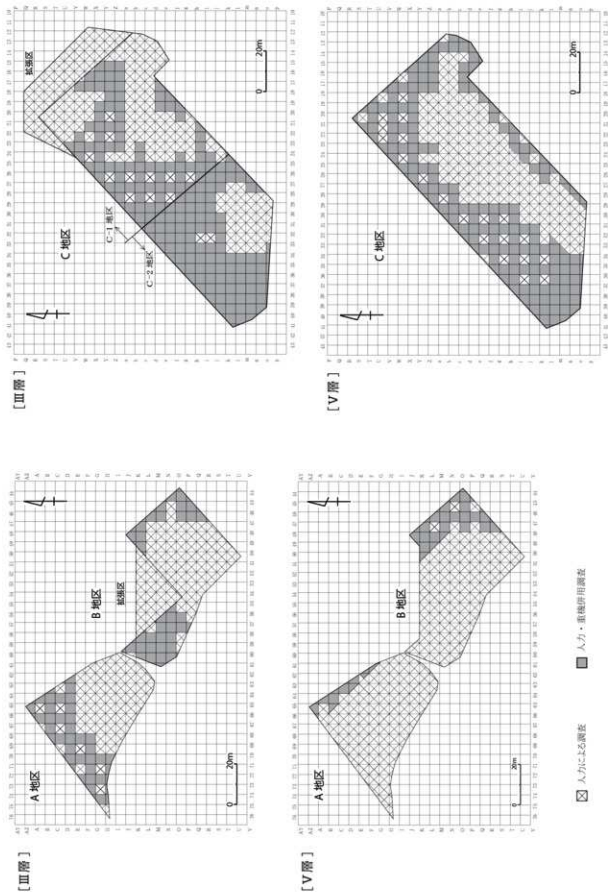


図 I-5 発掘区設定図



## 記録類

地形測量図・土層断面図・遺構平面図・遺構断面図・遺物出土状況図などを作成した。地形測量は調査区内において2.5mごとに標高を測量し、コンター図を作成した。

写真撮影は、リバーサル6×7判、モノクローム6×7判のほか、デジタルカメラを用いた。6×7判は広域を対象とした撮影や主要遺構・遺物など選択的に使用した。デジタルカメラは高画質一眼レフカメラとコンパクトデジタルカメラを用い、全撮影対象に使用した。

### (3) 整理作業の方法

#### 一次整理

現地でも水洗・分類・遺物注記・遺物台帳作成などを行った。注記は土器小片・石器剥片を除く、すべての土器・石器等に行った。礫の注記については、「棒状礫」など原文～アイヌ文化期とみられるⅢ層出土のものは小礫を除くすべて、縄文時代とみられるⅤ層出土のものは選択的に少数行った。

※遺物注記内容

「遺跡名」、「遺構名」または「発掘区」、「層位」(「遺物番号」)

例； (遺構) 上3. V H-6. フク土2. 15

(包含層) 上3. T20. Ⅲ b

一方、採取した土壌サンプルについて、フローテーション法により水洗選別した。そのうち残渣に含まれる微細な土器・石器ほかについては、肉眼による選別により回収した。

#### 二次整理

江別市の北海道埋蔵文化財センター整理作業棟で行った。土器は、接合・復元作業を行い、接合データが得られ、10個体の土器を復元した。また600点あまりについて拓本作業を行った。復元された土器の実測作業、図版作成・一覧表作成・写真撮影を行った。石器は礫石器および礫の接合作業を行い、接合データを得た。また分類を見直し、報告書掲載用石器の選び出しを行った。実測・トレースを進め、図版作成・一覧表作成・写真撮影を行った。

金属製品・木製品・漆器(塗膜)は、観察、実測・トレース(金属・木製品)、クリーニング等事前の作業を行った後、保存処理および分析を委託した。またガラス玉は実測・トレース後、当センターにて分析を行った(柳瀬)。獣骨片はクリーニング後、一部にバインダー塗布を行った。

フローテーション法による水洗選別資料は、浮遊物について光学顕微鏡等を用いて種子など微細な遺物を選別回収した。炭化種実・動物骨について、同定を委託した。

そのほか遺構図面の作成、遺物の写真撮影、表作成、原稿執筆を行い、報告書編集作業を行った。遺構・遺物図版は、素図作成後ロットリング等でトレースし図版用紙にレイアウトを行う従来の方法を基本としたが、デジタルトレースを行ったものが少数ある。遺構・遺物写真図版作成ではデジタル写真を使用し、パソコンソフトを用いて版面にレイアウトし作成した。

#### 遺物・記録類の保管

整理終了後の遺物は「報告書掲載遺物」と「非掲載遺物」に区分してダンボール箱(復元土器)およびコンテナに収め、「遺物収納台帳」に記載した。本報告書刊行後、北海道教育委員会の指示により移管予定である。写真・図面等の記録類は、当センターで保管される。

## 5 遺物の分類

### (1) 土器等

**I群** 縄文時代早期に属する土器群。

**a類**：貝殻腹縁文・条痕文・沈線文のある土器群。

**b類**：燃糸文・絡糸体圧痕文・短縄文などが施される土器群。東銅路系土器群に相当するもの。

**b-1類**：東銅路Ⅱ式、**b-2類**：東銅路Ⅲ式・コッタロ式、**b-3類**：中茶路式、**b-4類**：東銅路Ⅳ式。

**II群** 縄文時代前期に属する土器群。

**a類**：縄文尖底・丸底土器など。網文式、静内中野式、加茂川式などに相当するもの。

**b類**：円筒土器下層式、植苗式、大麻Ⅴ式などに相当するもの。

**III群** 縄文時代中期に属する土器群。

**a類**：円筒土器上層式およびそれに後続する厚真Ⅰ式、萩ヶ岡Ⅰ・Ⅱ式などに相当するもの。

**b類**：中期後半の土器群。天神山式、柏木川式、北筒Ⅱ式、ノダツⅡ式などに相当するもの。

**IV群** 縄文時代後期に属する土器群。

**a類**：余市式、タブコブ式、手稲砂山式、入江式などに相当するもの。

**b類**：手稲式、鯉淵式などに相当するもの。

**c類**：堂林式、三ツ谷式、御殿山式などに相当するもの。

**V群** 縄文時代晩期に属する土器群。

**a類**：大洞B・BC式とそれに併行するもの。東三川式など。

**b類**：大洞CⅠ・CⅡ式などに相当・併行するもの。美々Ⅲ式など。

**c類**：大洞A・A'式などに相当・併行するもの。タンネットウL式など。

**VI群** 統縄文時代に属する土器群。

**a類**：前半期の土器群。砂沢式、二枚橋式、恵山式、アヨロⅡ類・Ⅲ類など。

**b類**：後半期の土器群。後北A・B・C<sub>1</sub>・C<sub>2</sub>D式、北大Ⅰ・Ⅱ式など。

**VII群** 擦文文化期に属する土器群。

**a類**：北大Ⅲ式を含む「前期」に相当するもの。

**b類**：「中期」に相当するもの。

**c類**：「後期」に相当するもの。

須恵器

土製品

土器片加工円盤・ミニチュア土器・(その他)土製品・焼成粘土塊がある。

### (2) 石器等

剥片石器

**石鏃**：素材を細かく扁平加工し、端部に尖頭部を作り出したおおよわね4 cm以下の石器。

**石槍**：素材の両面を加工し、尖頭部を作り出した4 cm以上の石器。

**石錐**：素材の端部に錐状の尖頭部を作り出した石器。

**両面調整石器**：素材の両面を加工したもので、石鏃・石槍などに分類されない石器。

**ナイフ**：素材の両面を細かく加工して刃部を作り出した石器。

**つまみ付きナイフ** : 素材端部にノッチ状の加工でつまみ部を作り出した石器。

**スクレイパー** : 素材の鋭い縁辺の一部を残し、他の縁辺に加工を施した石器でナイフ類に分類されないもの。エンドスクレイパーは、素材の端部に連続的な二次加工を施した石器。

**ピエスエスキュー(楔形石器)** : 両極技法による剥離が行われたと考えられる剥片。

**Rフレイク** : 素材に二次加工を施したもので、定形的な石器に分類されない剥片。

**Uフレイク** : 刃部に微細な剥離痕がみられる剥片で、使用したとみられる剥片。

**フレイク** : 石核・定形的石器などから剥離された不定形な石器片。

**石核** : 石器の素材となる剥片を剥離したと考えられる石器。

#### 礫石器

**石斧** : 打ち欠き・敲打・研磨により、斧状の刃部を作り出した石器。

**石のみ** : 打ち欠き・敲打・研磨により、斧状の刃部を作り出した細身で小型の石器。

**擦り切り残片** : 石斧や石のみなどの製作時に、幅広い扁平な素材を分割する際に生じた石器片。

**たたき石** : 礫に潰打痕が観察される石器。

**くぼみ石** : 礫の主面に敲打によるくぼみが観察される石器。

**扁平打製石器** : 扁平な礫を素材とし、長軸端部を打ち欠き、一側面にすり痕をもつ石器。

**すり石** : 小型礫にすり痕が観察される石器。

**北海道式石冠** : 上面観が楕円形で、側面に持ち手とみられる敲打による溝を作出し、底面に平坦なすり面をもつ独特な形状をもつ石器。

**砥石** : 礫の片面もしくは両面にすり痕が観察される石器。

**台石・石皿** : 平坦面をもつ大型礫に打撃痕やすり痕が観察される石器。

**石錘** : 礫の長軸両端にノッチ状の加工を施した石器。

**加工痕ある礫** : 礫に加工を施したもので、定形的な石器に分類されない石。

#### 礫

**有孔礫** : 礫の中央付近に自然形成とみられる貫通孔のあるもの。

**礫** : 石器の石材として利用されないと考えられる石。

#### 石製品

垂飾などがある。

### (3) その他の遺物

#### 金属製品

〔鉄製品〕 小刀・刀子・鉞・鎌・鋤・釘・鉤状製品・刀装具など

〔銅製品〕 古銭

〔銀製品〕 耳飾り

木製品 杭

ガラス製品 玉

漆器 椀

現代遺物 陶磁器・鉄製品・ガラス製品・ゴム製品

自然遺物 獣骨片・魚骨片・炭化材・炭化種実・珪化木

## 6 調査結果の概要 [図I-7～10、表I-1・2]

2か年で計14,525㎡を調査した。

上位黒色土層(Ⅲ層)では、擦文文化後期～アイヌ文化期の集落跡・墓域を検出した。遺構は、平地住居跡14軒、建物跡1棟、土坑墓2基、土坑1基、柱穴状小土坑60基、焼土14か所、灰集中2か所、土器集中2か所、礫集中8か所、獣骨集中4か所を検出した。遺物は、土器等・石器等・金属製品・ガラス製品・漆器・礫ほか約9,000点が出土した。

下位黒色土層(Ⅴ層)では、縄文時代早期後葉・中期・後期初頭の集落跡・狩猟場を検出した。遺構は、堅穴住居跡9軒、土坑6基、Tピット22基、焼土8か所、土器集中19か所、石器集中2か所、フレイクチップ集中5か所、礫集中2か所を検出した。遺物は土器等・石器等・礫、合計約25,500点が出土した。

### <縄文時代>

**堅穴住居跡**は、縄文時代早期後葉が3軒、中期半ばが2軒、中期～後期が1軒、後期初頭が3軒である。早期後葉のものは小型で円形に近い平面形で掘り込みが浅い。中期半ばのものはやや大型で楕円形や卵形を呈し、掘り込みがやや深い。後期初頭のものは大型楕円形で掘り込みが浅く、石組み炉をもつ。**Tピット**は、A・B地区では溝状より階円形が多く、C地区では掘り込みの深い溝状が主体で段丘縁辺部に列をなしていた。階円形の多くは坑底に2～5か所の深い杭跡がある。A地区北部の沢に仕掛けられたTピット(TP-20)では、坑底に杭そのものが残存していた。**フレイクチップ集**中および**石器集中**には、何らかの袋に収められたと考えられる出土状態のものがある。

土器は、早期中茶路式・東鑑路IV式、中期円筒土器上層b式・厚真1式・サイベ沢VII式・天神山式・柏木川式・北筒式、後期余市式・タブコブ式・御殿山式がある。A地区は厚真1式および柏木川式、C地区南部は天神山式、B地区およびC地区の北部～中央部は余市式を主体とする。早期後葉の土器も多い。石器は、剥片石器では石鏃・石槍、スクレイパー類が多く、礫石器では石斧片、たたき石(くぼみ石)が目立つ。緑泥石岩製・滑石製の石製品が複数出土している。

### <続縄文時代>

C地区南部の段丘端部付近にやや大型の焼土があり、周辺から後北B式土器が出土した。

### <擦文文化期(～アイヌ文化期)>

主にB地区中央部とC地区東部に分布する。

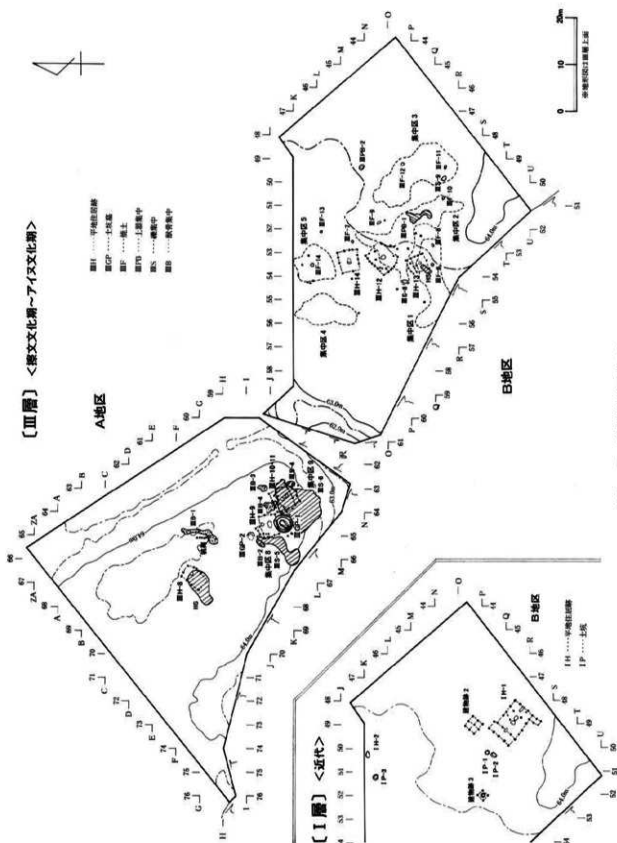
「**集中区**」は、焼土および礫・擦文土器等の各遺物集中を含む集合体を指すが、遺物のみのまともりも含め、9か所をその範囲とした。うち集中区4では、擦文中～後期の土器に加えて須恵器片(坏)が出土した。C地区東部の(集中区6)礫集中1および住居跡1・3は擦文後期の土器を伴い、該期の遺構とみられる。**住居跡1**(ⅢH-1)は、炉が2か所あり、炉付近に円形土坑1基があり、上面に棒状礫の集石が被覆していた。また住居床面の集石には、擦文後期の高坏が伴う。高坏は脚部が高く、円形刺突が施されている。

### <アイヌ文化期>

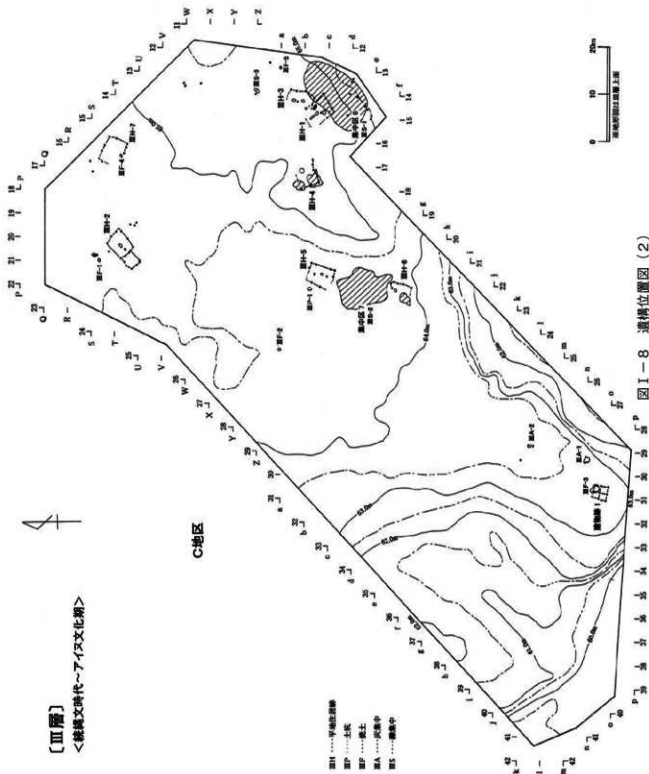
A地区南部・B地区中央部・C地区北部～南部にわたり広域に分布する。

**土坑墓2基**はA地区南部の標高がやや高い位置にある。1号土坑墓(ⅢGP-1)は、円形の「周溝」がめぐりその内側にマウンドをもち、周溝中に墓槽穴がある。墓坑は長方形に近い形で、頭部側の幅がやや広い。人骨は頭部や脊椎・腕・脚などの一部が残っていた。墓の封土上面に吊耳の鉄鍋、周溝の外側に鉦3本が供献され、墓坑内に鎌・刀子、銀製の環状の耳飾り、ガラス玉、漆塗の椀(塗





図I-7 遺構位置図(1)



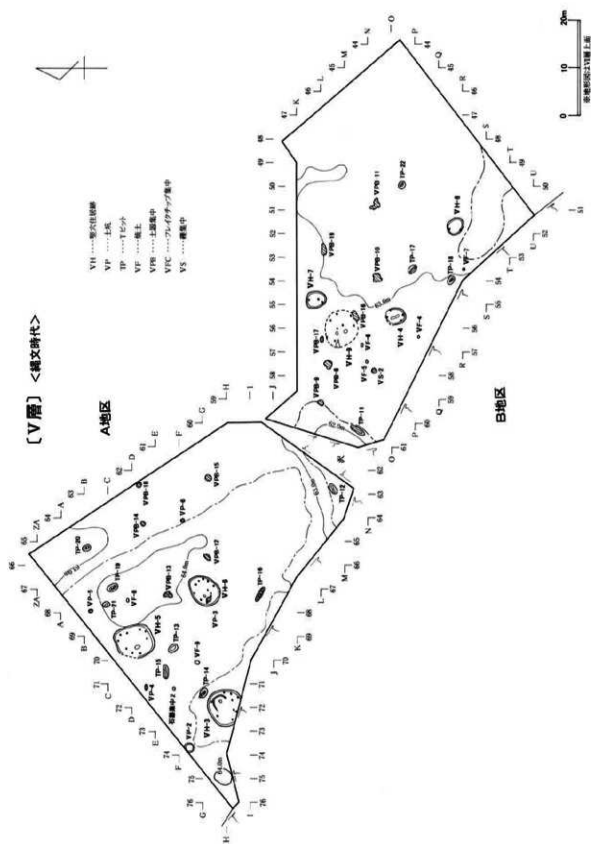


図 I-9 遺構位置図(3)

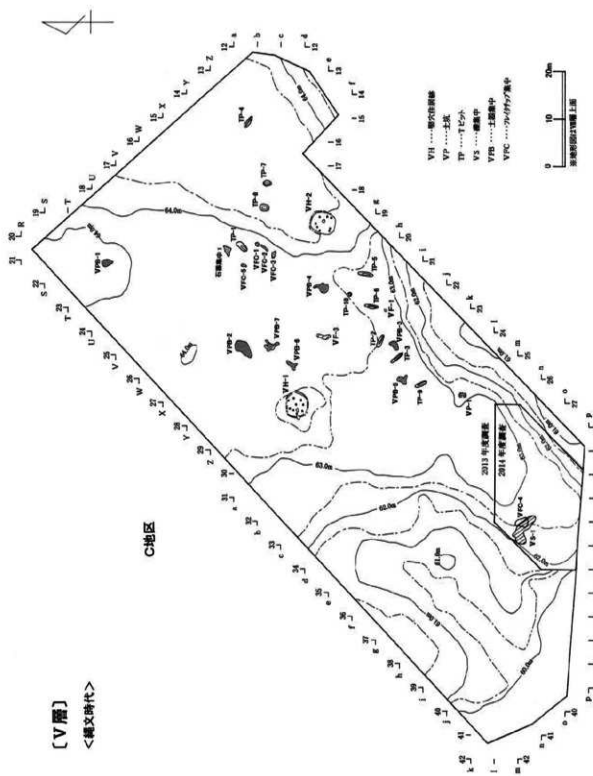


図 I-10 遺構位置図 (4)

膜のみ)が副葬されていた。成人女性の墓とみられる。2号墓(ⅢGP-2)は円形土坑で、坑底中央付近からガラス小玉および古銭がおおむね連なった状態で出土した。人骨は歯の一部のみが残存していた。未成年のものともみられる。

**平地住居跡**は、地区により検出状況がやや異なり、A・B地区では、炉は1か所で炭化物混じり層・灰層・被熱層の構造をとるものが多く、柱穴は比較的多数確認できた。一方C地区では、炉は1～3か所、灰混じりの被熱層であり、柱穴は検出が困難なものが多い。うち1軒(ⅢH-2)は母屋のほかに付属施設をもち、内耳鉄鍋片を伴う。A・B地区の方が新しいものが多く、C地区はアイヌ文化期の中でも古い段階が多いとみられる。**建物跡**はC地区南部の舌状にのびる段丘の先端部に位置する。9本柱穴で田の字状の配置をなし、平地住居跡の柱穴よりも太く深いことから高床構造をもつものと推測される。**灰集中**は、この建物跡に程近い位置に形成されている。

**礫集中**は、長楕円形の棒状礫が密集するものが多いが、不整形や板状の礫も多く出土する。また小礫片が密集するものがある。**獣骨集中**はA地区において、平地住居跡の東方で検出した。シカの歯や角など頭部の破片が多く、四肢骨がわずかに散見される。うち一つはシカの上顎・下顎や角が並び、杭列が隣接する。その位置から平地住居跡に関連した送り場と考えられる。

(阿部明義)

表 I-2 遺構数

種別	層位	Ⅲ層				V層				計
		A地区	B地区	C地区	計	A地区	B地区	C地区	計	
住居跡		4	3	7	14	3	4	2	9	23
建物跡				1	1					1
土坑				1(2)	1(2)	5(1)	(1)	1(2)	6(4)	7(6)
土坑墓		2			2					2
柱穴状小土坑		13(57)	19(65)	28(68)	60(190)	(31)	(17)	(17)	(65)	60(255)
Tピット						8	4	10	22	22
礎土		(4)	8(3)	5(11)	13(18)	2(4)	4(4)	2(2)	8(10)	21(28)
灰集中		(1)		2	2(1)					2(1)
土器集中			2		2	6	6	7	19	21
石器集中						1		1	2	2
ブレイクチップ集中								5	5	5
礫集中		3(1)	2	3(6)	8(7)		1	1	2	10(7)
獣骨集中		5			5					5
「集中区」		2	5	2	9					9
杭列		1			1					1

※ ( )内は住居跡等の付属遺構

表 I-3 出土遺物総点数

種別	層位	Ⅲ層				V層				計
		A地区	B地区	C地区	計	A地区	B地区	C地区	計	
土器	34	42	401	231	674	3674	6389	2881	12944	13652
土製品		1			1	1	2		3	4
石器等	53	26	100	105	231	1735	1432	5024	8191	8475
石製品						5	1	3	9	9
礎	51	3478	1925	2445	7848	1031	1235	2038	4304	12203
木製品		1			1	4			4	5
鉄製品	6	29	13	9	51					57
銅製品(銭)		12	1		13					13
銀製品		2			2					2
ガラス製品(玉)	1	27			27					28
漆器		1			1					1
計	145	3619	2440	2790	8849	6450	9059	9946	25455	34449

## II 遺跡の環境

### 1 遺跡の立地と環境

#### (1) 遺跡の位置と地名 [図I-1・II-1]

遺跡は胆振管内東部の厚真町にあり、市街地から北東に約11km、夕張山地の南西部の山間部を流れる厚真川の上流部右岸に位置する。標高は60～65mである。

「幌内」の地名はアイヌ語の「ポロ・ナイ」（大きい・沢）に由来する。遺跡の南西約3kmに幌内集落があり、厚真川に日高幌内川が合流し、その下流でシュルク沢やオコッコ沢などの水を集める。19世紀に松浦武四郎が記した日高幌内川付近だけでなく、複数の支流が厚真川に流れ込み川幅を増す地点を示す意味もあったと考えられる。

「上幌内（上ホロナイ）」はかつての字名で、昭和32年（1957年）に字「幌内」に統合となった。幌内集落から北東、オニキシベ川と厚真川の合流地点付近から上流側山間部の広域に及んだ。厚真川および支流ショロマ川沿いに集落があり、その合流点北側に（新）上幌内小中学校があった（ショロマ1遺跡）。旧上幌内小学校および中学校はさらに上流側にあったが、昭和35年（1960年）厚真ダム建設工事により統合して移転した。上幌内小中学校はその後、昭和47年（1972年）に閉校となった。「厚真ダム」は上幌内3遺跡から厚真川上流側約4kmにあり、下流側に建設中の「厚幌ダム」の完成後も継続して機能が維持される。

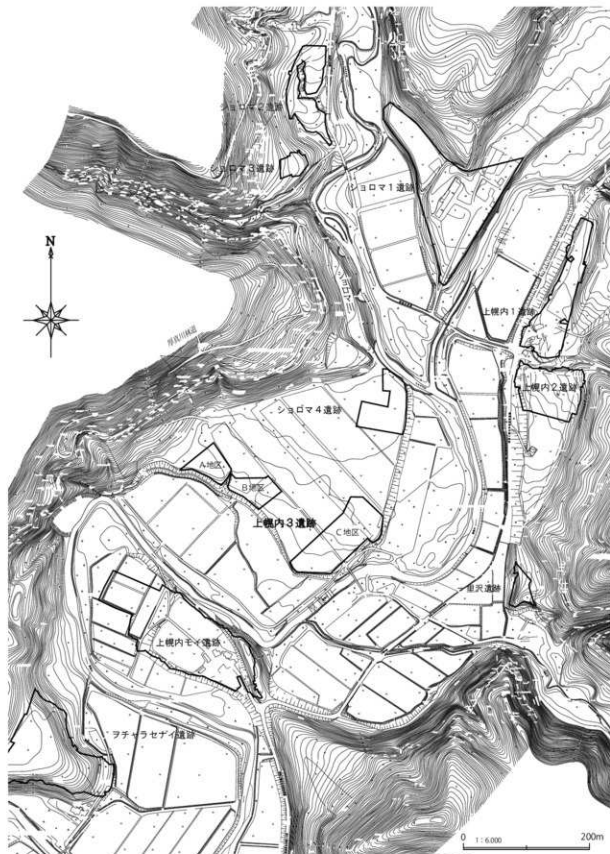
#### (2) 遺跡周辺の地形・環境 [図I-7～10・II-1]

周辺は夕張山地（勇払山地）南西部の標高200～400mの山々に囲まれ、小河川が開析する。厚真川はこの山間部を源流とし厚真町内を流下し太平洋に注ぐ、約52kmの二級河川である。上流部では北東から南西に蛇行しながら山間部を流下し、流域には河岸段丘が形成されている。河川による土砂などの運搬物や樽前山の火山噴出物、地すべりなどによる山体からの崩落物が堆積するなどして現地地形を形成している。

当遺跡は、厚真川と支流ショロマ川の合流点の南側の比較的広い河岸段丘上（「T<sub>2</sub>」、出穂2006）に立地する。段丘縁辺部の基盤の大部分は、樽前dテフラと河川の運搬物・粘土の互層である河岸段丘堆積物層（VII層）となっており、北西側に向かってその層厚を減じ、山裾部では樽前dテフラ（VIII層）が厚く堆積している。

遺跡の周囲を展望すると、西～北西側は丘陵斜面の山林である。北側は同一段丘上にショロマ4遺跡があり、その北辺をショロマ川が厚真川に注ぎ込んでいる。東側は低位段丘（「T<sub>1</sub>」）をはさみ、厚真川本流が南～西～南西と蛇行している。厚真川は上幌内3遺跡の南側でさらに北西に転じ、南～南東と蛇行する。川の流れが一部穏やかになるような地形になっており、アイヌ語で「モイ」と呼ばれ、上幌内モイ遺跡の名称の由来となっている。

遺跡内の地形は、全体的にはおおむね平坦な範囲が広いが、地区ごとに若干高低差がある。A地区は北西の山裾部から舌状に微高地（標高約64m）が張り出し、南西縁辺は比高5～8mの段丘崖となっている。北東側は浅い沢地形になっており、北側丘陵部からの伏流水が調査区内を流下し、南西に向きを転じ深い沢を刻み段丘下へ流れている。この沢より南東部をB地区としている。B地区はほぼ平坦だが南部で微高地が張り出し、南西縁辺は段丘崖となっている。少々離れたC地区は南東～南西に段丘崖を一部含み、西部は比較的深い沢地形となっている。この沢は当遺跡北側にあるショロマ4



※ 厚幌ダム事務所および厚真町教育委員会作成の図に加筆。

図Ⅱ-1 周辺の地形と遺跡

遺跡から続き、B-C地区間を抜けてきたものである。結果C地区南部は、段丘が舌状に張り出す地形となっている。またC地区北部から中央東部、段丘崖にかけて浅い沢地形が確認できた。その東部には微高地が一部残存していた。

発掘前の現況は山林・荒蕪地で、A地区の大部分・B地区の南東部・C地区の大部分はカラマツの植林地となっていた。C地区の一部は空地であり、東側の厚真川に人道橋がかかっていた。C地区北側はショロマ4遺跡を含め畑作地、南東側の低位段丘(T<sub>1</sub>)は水田耕作が行われていた。C地区北部は畑作地造成のため削平されており、排耕地が調査区東辺部に厚く堆積していた。

### (3) 周辺の遺跡 [図II-1・2・表II-1]

平成28年現在、北海道教育委員会が埋蔵文化財包蔵地として登録している厚真町内の遺跡は136か所である。図II-1の図幅に掲載した上幌内3遺跡近隣の遺跡について、簡単に述べる(「(数字)」は遺跡登録番号)。

#### [ショロマ1遺跡] (81)

厚真川とショロマ川の合流点の北側、両河川に挟まれた段丘上に位置する。前述の上幌内小中学校跡地を含む。縄文時代では、前期円筒下層d式期の大型竪穴住居跡、後期初頭の竪穴住居跡などが検出された。またTピットを130基以上検出している。特徴的な遺物として、多面体のすり面をもつ砂岩製石製品の多出(30点以上)、中期末～後期初頭の所産とみられる「棍棒形石器」などが挙げられる。擦文文化期では焼土・獣骨・遺物群、アイヌ文化期では平地住居跡・灰集中・杭列・道跡などを検出している。

#### [ショロマ2遺跡] (92)

ショロマ川右岸に位置する。縄文時代中期後葉～後期初頭の住居跡(6軒)が調査され、Tピット(計45基)が列状の配置で見つかった。被熱礫が多数出土している。

#### [ショロマ3遺跡] (121)

ショロマ川右岸の舌状緩斜面に立地し、周辺遺跡よりやや標高が高い(約80m)。続縄文時代では、3体が合葬された後北B式期の土坑墓が目される。副葬品は該期に特徴的な片岩製の組成石礫が多数取められていた。また擦文文化期では、甲冑製品(鋳留板物甲片)の出土が特筆される。

#### [ショロマ4遺跡] (122)

平成26年(2014年)に当センターが調査を行った。上幌内3遺跡と同一段丘面にある。縄文時代～アイヌ文化期の遺構・遺物がショロマ川に面する段丘崖縁部に確認された。縄文時代後期では石組炉をもつ浅い竪穴住居跡、続縄文時代では石組炉、遺物集中などを検出した。擦文文化期では、アイヌ文化期への移行期と考えられる長方形の大型住居跡、鋳製耳飾りや刀子が副葬された土坑墓、青銅製鍔の口縁部片の出土などが特筆される。またアイヌ文化期の獣骨集中は、シカの上顎とみられる歯列が並び、送り場と考えられる検出状況である。

#### [上幌内1遺跡] (30)

厚真川左岸の河岸段丘上に位置する。縄文時代では、早期・中期・後期の竪穴住居跡や土坑、Tピットが調査された。擦文文化期～アイヌ文化期では、複数の炉をもつ中世段階の平地住居跡と、その北東側で獣骨集中を検出している。また内耳鉄鍋片の集中箇所が見つかった。

#### [上幌内2遺跡] (91)

厚真川左岸の河岸段丘上、上幌内1遺跡と沢をはさんで南側に位置する。上幌内3遺跡からは厚真川をはさんで北東対岸にのぞむ。中世の古段階～新段階のアイヌ文化期の土坑墓が5基見つかり、副



葬品の和鏡・漆器・ガラス玉・刀・骨鏃・中柄などが注目される。段丘縁辺部に浅い方形の整地を行ったうえで土坑墓を配置する構造が確認された。また段丘上の1基は円形のマウンド・溝、墓標穴をもち、人骨が残存するなど、副葬品の内容が異なるものの形状などが上幌内3遺跡1号墓に近似する。そのほか縄文文化期の集中区、縄文時代早期～後期の竪穴住居跡、土坑、Tピットなどの調査が行われた。

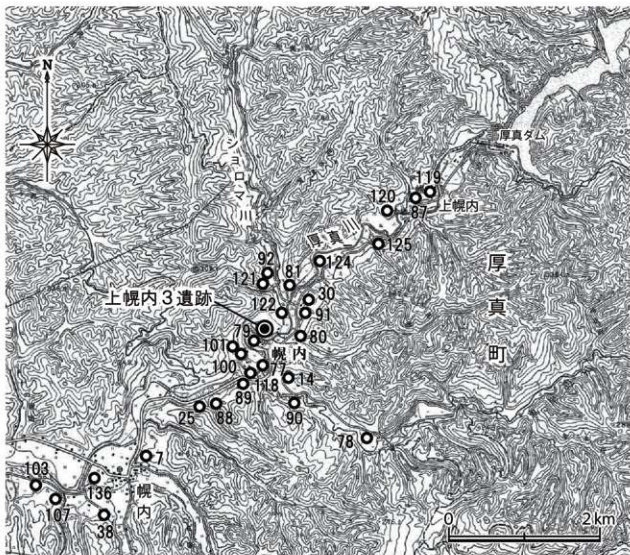
【一里沢遺跡】(80)

厚真川左岸、支流一里沢の右岸に位置する。Tピットが重複することなく高密度で検出された(49基)。楕円形状がほとんどで、掘上土を伴うものが多いことが特徴である。周辺で出土した土器は、余市式・タブコブ式が主体を占める。そのほか縄文文化後期の遺構・遺物が見つかった。

【上幌内モイ遺跡】(79)

厚真川左岸、小丘状を含む複数面の河岸段丘にあり、段丘を取り囲むように厚真川が蛇行する。上幌内3遺跡から厚真川をはさんで南側対岸に位置する。旧石器～アイヌ文化期各時期の遺構・遺物が見つかり、特に縄文～アイヌ文化期では地域の拠点的な活動領域の一つとなっていたと考えられる。

旧石器時代では、札滑型細石刃核を伴う石器群と焼土、炭化物集中が確認された。縄文時代では、



※ 国土地理院発行5万分の1地形図「早来」「穂別」を使用

図Ⅱ-2 周辺の遺跡

表Ⅱ-1 周辺の遺跡

包蔵地 登録番号 (J-13)	遺跡名	所在地 (厚真町字域内)	種別	時代	立地	調査
7	幌内1	616-1-5	遺物包含地	縄文(中期), 縄文(前半期)	河岸段丘	
14	オニキシベ1	409-1-3, 438-2-6, 16	集落跡	縄文(中-後期), アイス	扇状地 河岸段丘	H24-26(2012-2013)遺構文
25	厚幌1	487-1-6, 8-9, 15-18ほか	集落跡	縄文(早~晩期), 縄文, アイス	河岸段丘	H14-15-20・24(2002-2003- 2008・2013)町教委, H25・27(2015・2016)遺構文
30	上幌内1	372-1~3	遺物包含地	縄文(中期), 縄文, アイス	河岸段丘	H26(2014)町教委
38	幌内4	882-1, 883-3, 884	遺物包含地	縄文(中期)	自然堤防	
77	オニキシベ2	406-1, 401-1, 402	集落跡・遺構	縄文(中-後期), 縄文(後半期), 縄文(後期)	河岸段丘	H19-20(2007-2008)町教委
78	オニキシベ3	431-1ほか	遺物包含地	縄文(後期)	河岸段丘	H26~28(2015)遺構文
79	上幌内モイ	394, 395-1~4	集落跡・墳墓	旧石器, 縄文(早~晩), 縄文, 縄文(後半期), アイス	河岸段丘	H16~19(2004~2007)町教委
80	一里沢	388-4	遺物包含地	縄文(中~後期), 縄文	河岸段丘	H26(2014)町教委
81	シヨロマ1	93-2	集落跡	縄文(前-後期), アイス	河岸段丘	H25(2013)町教委, H26~28(2014~2016)町教委
87	イタバンドクチャセ	65, 71, 72	遺物包含地	縄文(後期)	河岸段丘	
88	厚幌2	487-1	遺物包含地	縄文(前・後・晩期), アイス	河岸段丘	H27・28(2015・2016)遺構文
89	オニキシベ4	4851ほか	遺物包含地	縄文(後期), 縄文	河岸段丘	H24(2012)町教委
90	オニキシベ5	421, 421-2, 471-2	遺物包含地	縄文(中・後期)	河岸段丘	H23-24(2011-2012)町教委
91	上幌内2	374-1, 2, 375-1	遺物包含地	縄文(早~晩期), 縄文, アイス	河岸段丘	H26(2014)町教委
92	シヨロマ2	96-1	遺物包含地	縄文(中期)	河岸段丘	H26(2014)町教委
100	ヲチャラセナイチャシ跡	114	チャシ跡	アイス	河岸段丘	H20~22(2008~2010)町教委
101	ヲチャラセナイ	112-1, 114, 124	集落跡	縄文(早~後期), 縄文, 縄文, アイス	河岸段丘	H21~24(2009~2012)町教委
103	幌内7	949-1-2, 7, 954-1	遺物包含地	縄文(前・晩期), 縄文, アイス	河岸段丘	H20(2008)町教委, H27・28(2015・2016)遺構文
107	オコッコ1	938-1	遺物包含地	縄文(前~後期), 縄文	河岸段丘	H27・28(2015・2016)遺構文
118	オニキシベ6	4851ほか	遺物包含地	縄文(後期), 縄文	自然堤防 独立丘陵	
119	イタバンドクチャセ2	61-3ほか	遺物包含地	縄文(中-後期)	河岸段丘	H25(2013)遺構文
120	イタバンドクチャセ3	74-81-3ほか	遺物包含地	縄文(中-後期), 縄文, アイス	河岸段丘	H25(2013)遺構文
121	シヨロマ3	96-1	遺物包含地	縄文(後半期), 縄文	河岸段丘	H25(2013)町教委
122	シヨロマ4	97-1	遺物包含地	縄文(後期), 縄文, 縄文, アイス	河岸段丘	H26(2014)遺構文
123	上幌内3	101-1, 103-1ほか	集落跡	縄文(早~後期), 縄文, アイス	河岸段丘	H26-28(2013-2014)遺構文
124	上幌内4	368-1	遺物包含地	縄文(中~後期), アイス	河岸段丘	H26~28(2014~2016)遺構文
125	上幌内5	348-1ほか	遺物包含地	縄文(中~後期)	河岸段丘	H25・27・28(2013・2015・ 2016)遺構文
136	幌内8	564	遺物包含地	縄文(前-中期)	沖積低地	

\* 遺跡名は「遺跡」の文字を省略した。「町教委」は厚真町教育委員会、「調査」太文字は報告書発行済み。

早期・中期・後期の堅穴住居跡、土坑、Tピット 160 基以上が確認された。縄文時代では、アヨロ 2 b 類の土器を伴う遺構が調査された。

縄文文化期では、焼土・土坑などと遺物集中箇所がまとまった「集中区」を多数確認し、日常的な作業場などが想定されている。鉄生産関連遺物の集中区も検出され、ほかに須臾器・銅腕・炭化キビ塊の出土などが注目される。一方類のない「円形周溝遺構」は遺物がほとんどなく、儀礼の場と考えられている。また該期の土坑墓が検出されている。

アイス文化期では中世段階でも時期差がある平地住居跡 10 軒や、土坑墓 5 基が調査された。獣骨集中からはヒグマの骨が見つかった。

#### 【ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡】(100・101)

厚真川右岸、上幌内モイ遺跡の対岸にあり、上幌内 3 遺跡からも一部を望むことができる。

チャシ跡は段丘の先端部に造られた丘形式で、検出層位や年代測定から道内最古級とみられている。一条の溝で区画され、形状の違いから二つの時期が認められる。内部で建物跡が確認された。

ヲチャラセナイ遺跡は、チャシ跡を含む高位段丘上と低位段丘上に位置する。縄文時代では、前期を主体とした遺構・遺物が展開し、大型住居跡や土坑墓が調査された。また多量の両面調整石器が出土した剥片集中もある。縄文文化期では「集中区」の調査が行われた。またアイス文化期移行期とみられる、錫製耳飾を伴う土坑墓を検出した。アイス文化期では平地住居跡などが検出され、シカやヒグマの骨が確認された。

## 2 土層

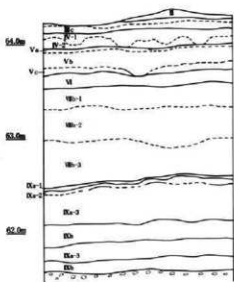
基本土層はこれまでの厚真町教育委員会による調査、特に隣接する上幌内モイ遺跡の層順に準じた上で改めて土層観察を行い、一部変更を加えた。以下のとおりである。

また各地区で基本土層断面図を作成し(図Ⅱ-3)、調査区を横断するトレンチや境界壁面で土層断面図を作成した(図Ⅱ-4～10、断面図作成位置は図Ⅱ-10に掲載)。

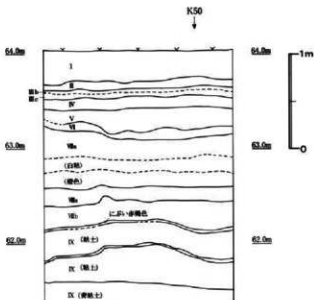
### ●基本土層

- I層**：表土・耕作土・攪乱 黒褐色(10YR3/1) T a - b 混じり。
- II層**：近世火山噴出物
- a：[Ta-a] 樽前 a テフラ にふい黄褐色(10YR6/4) 1739 年降下。
- b：[Ko-c<sub>2</sub>] 駒ヶ岳 c<sub>2</sub> テフラ 1694 年降下。局所的に堆積。
- c：[Ta-b] 樽前 b テフラ 浅黄褐色(10YR8/3) 1667 年降下。  
層厚 15cm 程度。粒径上位 0.5～1 cm、下位 2 cm 前後。
- d：[Us-b] 有珠 b テフラ 1640 年降下。斑状に薄く堆積。
- III層**：黒色腐植土
- a：砂質シルト 黒色(7.5YR2/1) T a - b 混じり、やや赤みがある
- b：シルト 黒色(7.5YR1.7/1)  
[B-Tm] 白頭山-苫小牧火山灰 10 世紀前半に降下。III b 層中～下にて部分的に堆積する。
- c：砂質シルト 黒褐色(7.5YR2/2)
- IV層**：[Ta-c] 樽前 c テフラ 下位黄褐色(10YR5/6)～上位褐色(10YR4/6)  
約 2500 年前降下。層厚 10～15cm。
- V層**：黒色腐植土
- a：シルト 黒褐色(10YR3/2) 層厚 1～3 cm。
- b：シルト 黒色(10YR1.7/1) 層厚 30～40cm。亜角礫を多量に含むところがある。
- c：シルト 黒褐色(10YR2/2) 層厚 10cm 前後。亜角礫を多量に含むところがある。  
※ V b 層と V c 層の境界が不明瞭な範囲が多い。
- VI層**：漸移層 暗褐色(10YR3/4)～暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)。層厚 5 cm 前後。
- VII層**：沖積世河岸段丘堆積物層 T a - d 主体の再堆積層。
- a：T a - d ローム主体 明褐色(7.5YR5/8)
- b：T a - d 1 主体 オリーブ黒色(5Y3/2)
- c：T a - d 2 主体 明赤褐色(5YR5/8)
- d：段丘堆積砂主体 灰色(10Y6/1)
- e：亜角礫主体 黄褐色(2.5Y5/4)  
※ b・c・d・e 層各層と粘質土などとの互層をなしているところが多い。
- VIII層**：[Ta-d] 樽前 d テフラ 7500～8000 年前に降下。
- a：[Ta-d1] 樽前 d 1 テフラ 暗緑灰色(5G4/1) 層厚 10cm 前後。
- b：[Ta-d2] 樽前 d 2 テフラ 赤褐色(5YR4/8)  
※ b 層はグライ化し暗灰黄褐色(2.5Y5/2)に脱色したと考えられる層や粘土層が含まれる。
- IX層**：河岸段丘基盤層 青灰色粘土質シルト層や礫層。

[A地区]



[B地区]



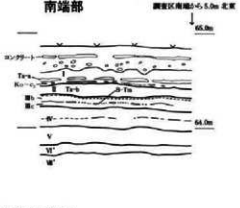
基本土層 (A地区)

- I 耕作土 黒褐色 (10YR3/1)
- II (Ta-b) におい黄褐色 (2.5YR3/3)
- III 黒色 (10YR2/1) しまりや中硬、Ta-bより湿り
- IIIa 黒色 (10YR1.5/1) しまりや中硬、下層境界不明瞭
- IIIb 黒褐色 (10YR2/3) しまりや中硬、Ta-cより湿り、下層境界不明瞭
- IV (Ta-d) 暗褐色 (10YR3/4) しまりなし、湿り 1mm 以下、黄色土層より
- IV-1 (Ta-c) 暗褐色 (10YR2/5) しまりなし、湿り 1mm 以下、下層境界不明瞭、やや湿気
- Va 黒色 (7.5YR2/1) しまりや中、Ta-cより湿り
- Vb 黒色 (10YR1.5/1) しまりや中、湿り 1mm 以下のバリス少量・湿気
- Vc 暗褐色 (7.5YR2/2) しまりや中硬、湿り 1mm 以下のバリス湿り、やや不均質
- VI 暗褐色 (7.5YR3/3) しまり強、湿り 1mm 以下のバリス湿り
- VII (Ta-d、L) 暗褐色 (10YR3/4) しまりや中硬、湿り 1~10mm のバリス含む
- VIII (Ta-d、P) 赤褐色 (5YR5/4) しまりなし、湿り 1~10mm のバリス湿り
- VIII-1 (Ta-d、P) 赤褐色 (5YR5/4) しまりなし、湿り 1~10mm のバリス湿り
- VIII-2 (Ta-d、P) 赤褐色 (5YR5/4) しまりなし、湿り 1~10mm のバリス湿り
- VIII-3 (Ta-d、P) 赤褐色 (5YR5/4) しまりなし、湿り 1~10mm のバリス湿り
- IX (耕作土) 黒褐色 (10YR3/1) しまりや中硬、粘性強、下層境界不明瞭
- IXa (黄褐色粘土) オリーブ灰色 (2.5OY5/1) しまりや中硬、粘性強、下層境界不明瞭
- IXb (黄褐色粘土) におい黄褐色 (2.5Y5/3) しまり強、粘性強、下層境界不明瞭
- IXc (赤) 暗灰黄色 (2.5Y4/2) しまりや中硬、粘性強、下層境界不明瞭
- IX (黄) 暗灰黄色 (2.5Y4/2) しまりや中硬、湿り 1~10mm の塊土

基本土層 (B地区)

- I 耕作土 黒褐色 (10YR3/1)
- II (Ta-b) におい黄褐色 (2.5YR3/3)
- IIIa 黒色 (10YR2/1) しまりや中硬、Ta-bより湿り
- IIIb 黒色 (10YR1.5/1) しまりや中硬、下層境界不明瞭
- IIIc 黄褐色 (10YR2/3) しまりや中硬、Ta-cより湿り、下層境界不明瞭
- IV (Ta-d) 暗褐色 (10YR3/4) しまりなし、湿り 1mm 以下、下層境界不明瞭、やや湿気
- V 暗褐色 (10YR1.5/1) しまりや中、湿り 1mm 以下のバリス少量・湿気
- VI 暗褐色 (2.5YR2/4) しまりや中、湿り 1mm 以下のバリス少量
- VII (Ta-d、L) 暗褐色 (10YR3/4) 湿り不明瞭
- VIII 暗褐色 (7.5YR3/3)
- VIII (Ta-d、P) オリーブ灰色 (2.5OY5/1) 湿り 1mm 以下のバリス
- IX (粘土) におい赤褐色 (5YR4/4) しまりや中硬
- IX (粘土) 暗褐色 (2.5Y4/2)
- IX (黄褐色粘土) 暗灰黄色 (10O4/1) しまりや中硬、粘性強

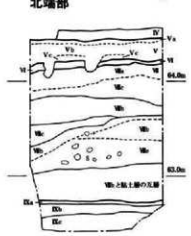
南端部



基本土層 (C地区南端部)

- I 耕作土 黒褐色 (10YR3/1) Ta-bより湿り
- II (Ta-b) 黄褐色 (10YR3/3) 上記、湿り 1~1cm、下位、2cm 以下
- IIIa 黒色 (7.5YR1.5/1) Ta-bより湿り
- IIIb 黒褐色 (7.5YR2/3) Ta-cより湿り
- IV (Ta-d) 下位 暗褐色 (10YR3/4) ~ 上位 褐色 (10YR4/4)
- V 黒色 (10YR1.5/1) 塊状
- VI オリーブ灰色 (2.5OY5/1) 塊状、粘土
- VII 黄褐色 (2.5Y5/3) オリーブ灰色 (2.5OY5/1)
- (Ta-a) におい黄褐色 (10YR6/6) 塊状
- (Ta-b) 黄褐色 (2.5YR6/6) 塊状
- (Ta-Ta) 暗褐色 (7.5YR2/3)

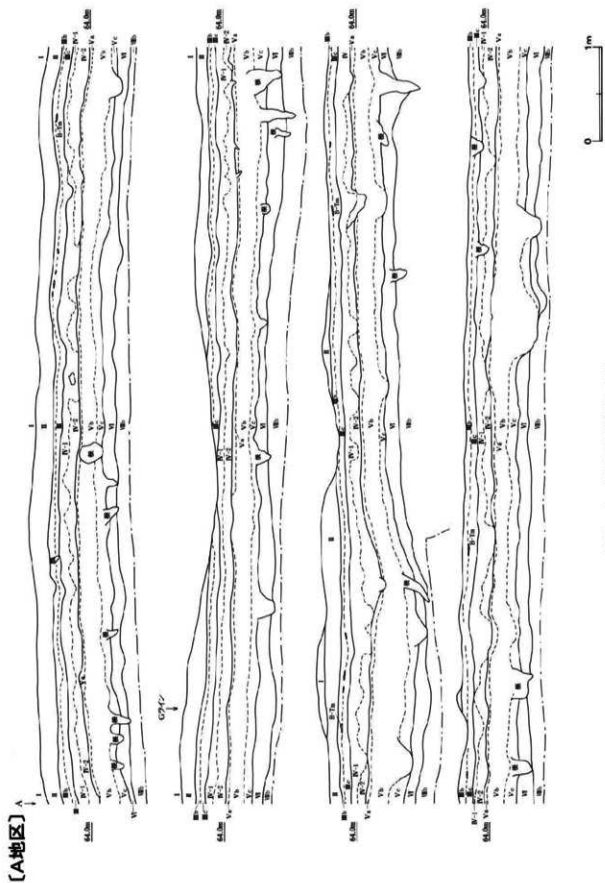
北端部



基本土層 北端部

- IV Ta-c (7.5YR1.5/1)
- V 暗褐色 (7.5YR3/4) 塊状
- VI 暗褐色 (10YR3/4) 塊状
- VII 暗褐色 (7.5YR3/4) Ta-d ローム主体
- VIII オリーブ灰色 (10YR5/1) Ta-d 以上
- IX 暗褐色 (10YR3/4) Ta-d 以上
- X 暗褐色 (2.5Y3/4) 塊状
- IXa 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土
- IXb 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト
- IXc 暗灰黄色 (2.5Y5/0) 粘土

図 II-3 基本土層



図II-4 調査区土層断面(1)

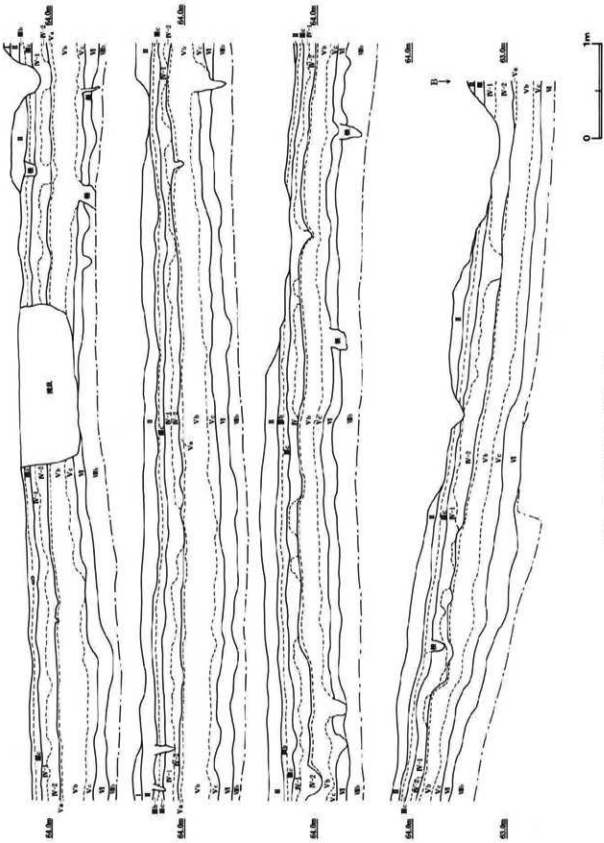
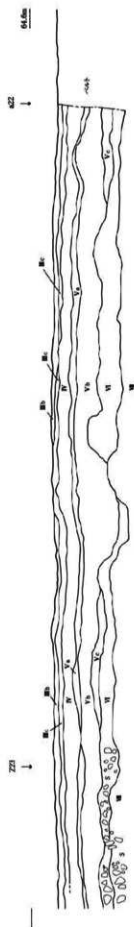
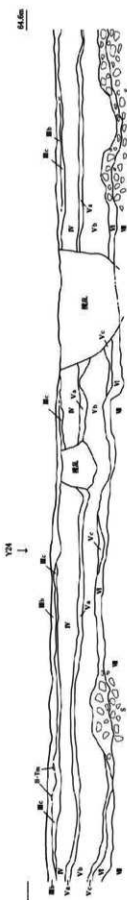
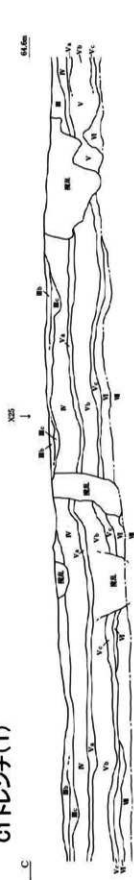


図 II-5 調査区土層断面 (2)

C1トレンチ(1)



図II-6 調査区土層断面(3)

C1 トレンチ(2)

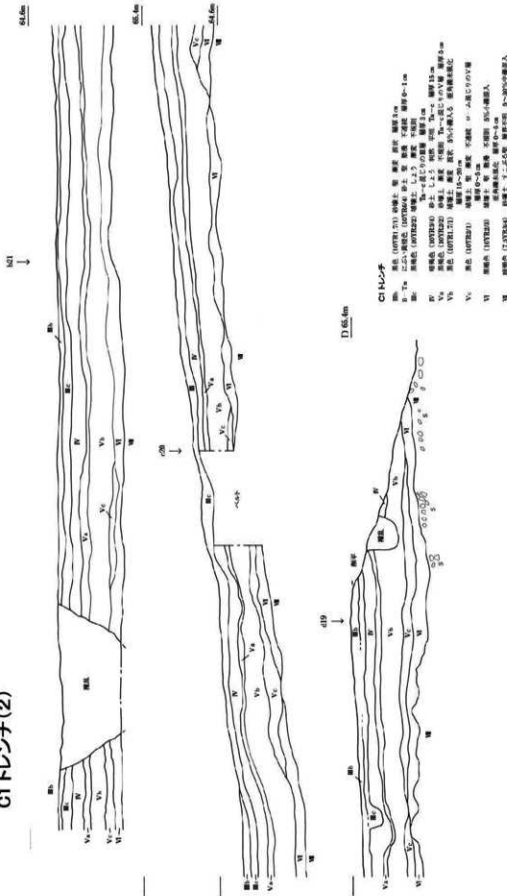
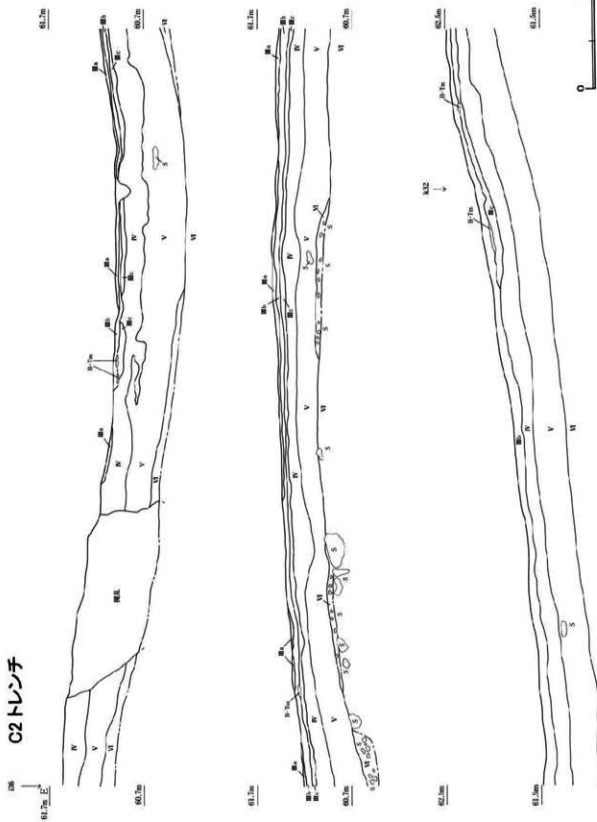


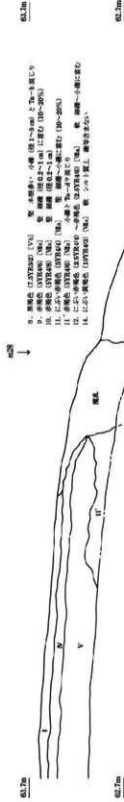
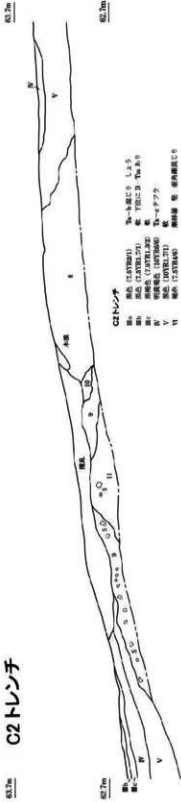
図 II-7 調査区土層断面 (4)





図II-8 調査区土層断面(5)

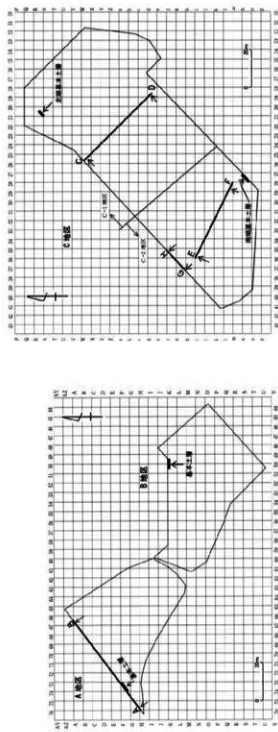
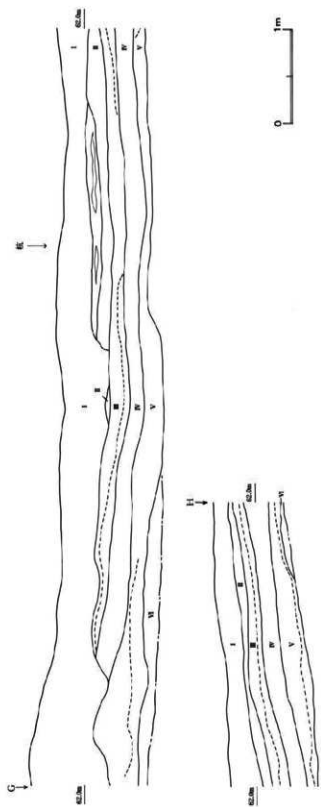
C2トレンチ



9. 硬粘土 (Z12Y240) (VI) 層、小割地、小割 (区12-34) と区3-3裏じり  
 10. 硬粘土 (Z12Y240) (VII) 層、上層部、小割 (区12-34) と区3-3裏じり  
 11. 硬砂 (Z12Y240) (VIII) 層、区3-3裏じり  
 12. 硬粘土 (Z12Y240) (IX) 層、区3-3裏じり  
 13. 硬砂 (Z12Y240) (X) 層、区3-3裏じり  
 14. 硬粘土 (Z12Y240) (XI) 層、区3-3裏じり

図II-9 調査区土層断面 (6)

# 沢地形



図II-10 沢地形土層断面・調査区土層断面作成位置

### 3 近現代の遺構と遺物〔図Ⅱ-11～14、図版 87〕

Ⅲ層上面では、樽前bテフラが落ち込む円形・楕円形・長方形などの範囲が多数検出された。これらは樽前bテフラ降下以降、Ⅰ層中から掘り込まれたもので、C地区北部～中央部、A地区の一部、B地区の広範囲に確認できた。いくつか掘削したところ、ビール瓶や陶磁器が出土し、近現代の構造物や土坑であることがわかった。またこれ以外に、主にC地区において現代の住居や倉庫、耕作などによる削平の跡が確認できる。

ここでは構造物の形状が比較的明瞭な、B地区の遺構群を例示する。

B地区南東部で住居跡（IH-1）と建物跡（建物跡2）、土坑（IP-1・2）が近接してみつかり、少々離れて小規模な構造物（建物跡3）を検出した。またB地区北部でも住居跡の炉（IH-2 HF-1）と土坑（IP-3）を確認した。これらの建物の構造や配置は、技術的に近代的な工法をとりつつ、アイヌ文化期の伝統を受け継いでいると考えられるものである。

#### I H-1

住居跡長軸中央に炉と灰集中があり、柱穴が長方形に配列し母屋を構成する。またその西側に出入口を兼ねた納屋と考えられる付属施設がある。南端にも付属施設と考えられる小規模な張り出しがある。長軸方位は南東-北西である。

炉（HF-1）は別の土坑に一部切られている。上面からヒグマとみられる歯が出土している。炉に隣接して灰集中（HA-1）があり、炉から掻き出したものと考えられる。カワシメガイの貝殻（図版 87-1-10）などが出土した。柱穴は掘り方を含め径 25cm 前後あり、検出面からの深さが 25～40cm で先端は平坦なものが多く、掘立柱とみられる。母屋の長軸上の南東壁および北西壁側に長楕円形の土坑がある。住居跡内側には、小型の補助的な柱穴が複数みられる。付属施設の柱は、母屋よりも若干規模が小さい。柱穴の覆土からは、大型の礫のほかビール瓶、鉄片、茶碗等の陶磁器類（図版 87-1-5 ほか）などが出土している。

また住居跡周辺から、ガラス玉（図Ⅱ-14-4）、蹄鉄（図版 87-1-11）、葉莢、指サックなどの遺物も回収した。

#### 建物跡2

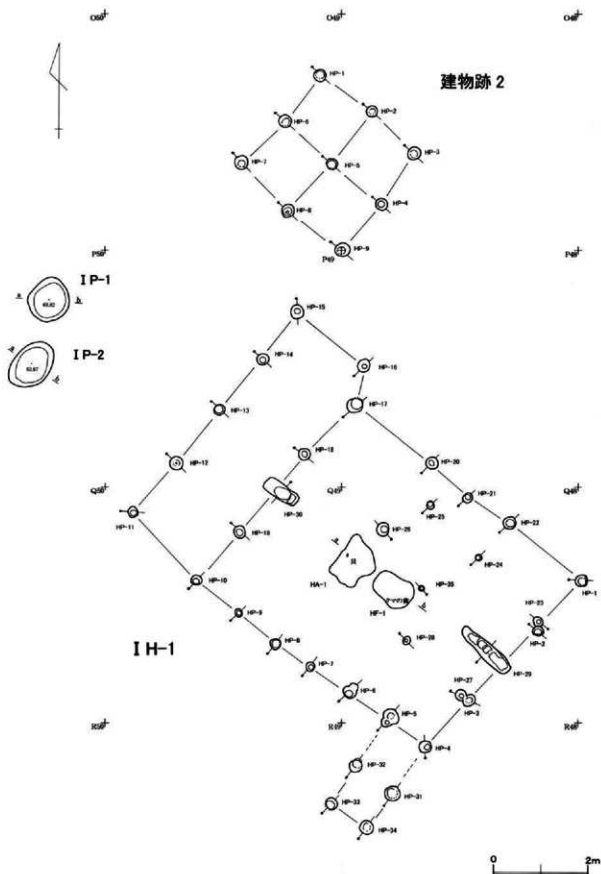
住居跡の北に位置し、太い柱穴9本が田の字に配列することから、高床式の構造物と考えられる。柱穴は掘り方を含め径 25～28cm、検出面からの深さが 20～35cm で、先端は平坦である。柱間は 1.7～1.8m とほぼ均一である。

#### I P-1・2

住居跡の北西側に位置する。2基とも径 1m 前後でおおむね円形をなし、比較的浅い。このような土坑が遺跡内に多数確認できる。

#### 建物跡3

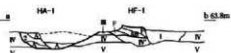
方形配置の4本柱穴の中央に土坑をもつ。住居跡から少し西側に離れた位置にあり、その構造から便所であったことが考えられる。柱穴は径 20cm 程度、検出面からの深さが 20～35cm で、先端は平坦である。



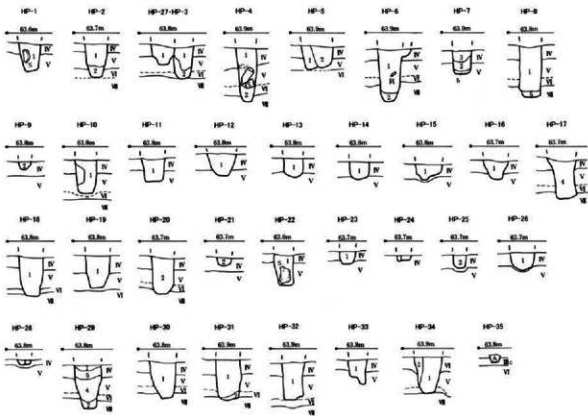
図Ⅱ-11 近現代の遺構(1)

I H-1

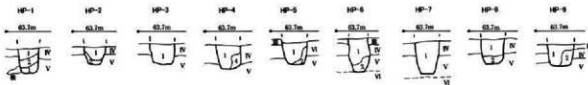
I H-1 HA-1~HP-1



- 1. 黄褐色 (2.8Y3/2) [I+II] しまり中程度
- 2. 赤褐色 (2.5Y2/4) しまり弱、砂質、不均質
- 3. 灰褐色 (2.5Y7/2) + 黄褐色 (2.5Y3/2) しまり中程度、ブロック状の砂と砂質土
- 4. 黄褐色 (2.5Y7/2) + 黄褐色 (2.5Y3/2) しまり中程度、礫石中程度、火山灰混じり、やや不均質
- 5. 黄褐色 (2.5Y3/1) [I+B+III] しまり弱、砂質、礫石中程度
- 6. 黄褐色 (2.5Y4/1) しまり弱、礫石中程度、不均質



建物跡 2



I H-1-建物跡

- 1. 黄褐色 (2.8Y4/1) [I<II] しまりなし、砂質、礫石中程度
- 2. 黄褐色 (2.8Y3/1) [I+II] しまり弱、砂質、礫石中程度
- 3. 黄褐色 (2.8Y3/2) [I+II] しまり弱、不均質
- 4. 黄褐色 (2.8Y4/1) + 黄褐色 (2.8Y3/2) [I+II>III] しまり中程度、不均質
- 5. 黄褐色 (2.8Y3/1) + 黄褐色 (2.8Y3/2) [I=II] しまり中、不均質

土坑



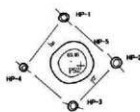
IP-1-2

- 1. 黄褐色 (2.8Y4/1) [I<II] しまりなし、砂質、礫石中程度
- 2. 黄褐色 (2.8Y3/2) [I+B+III] しまり弱、不均質



図 II - 12 近現代の遺構 (2)

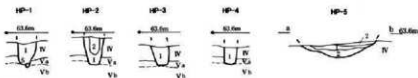
### 建物跡 3



IP-3



### 建物跡 3



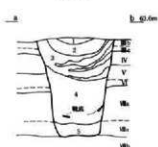
建物跡 3

1. 黄灰色 (2.5Y6/1) [I<II] しまりなし、砂質、礫石中や多量
2. 黒褐色 (2.5Y3/1) [I - II > III] しまり弱、砂質、礫石中や少量
3. 黒褐色 (10YR5/3) (赤土状) しまり弱、中や均質
4. 黄灰色 (2.5Y6/1) + 明褐色 (7.5YR5/4) [I > II > III] しまり中や弱、不均質
5. 黄褐色 (2.5Y3/1) + 明褐色 (7.5YR5/4) [I ~ III] しまり中、不均質

I H-2HF-1



IP-3



IP-3

1. 黄灰色 (2.5Y6/1) [I > II] しまり中や強
2. 暗黄褐色 (2.5Y4/2) [I - II > III > IV] しまり強
3. 黒褐色 (2.5Y3/1) と 明褐色 (7.5YR5/4) + 明黄褐色 (10YR6/4) [I + III > II > III] の互層 しまり強+しまり中
4. 黒褐色 (2.5Y3/1) [I > II] しまり強、礫石少量あり
5. 褐色 (2.5YR6/4) (赤土状) しまり中や弱、不均質

I H-2HF-1



I H-2 HF-1

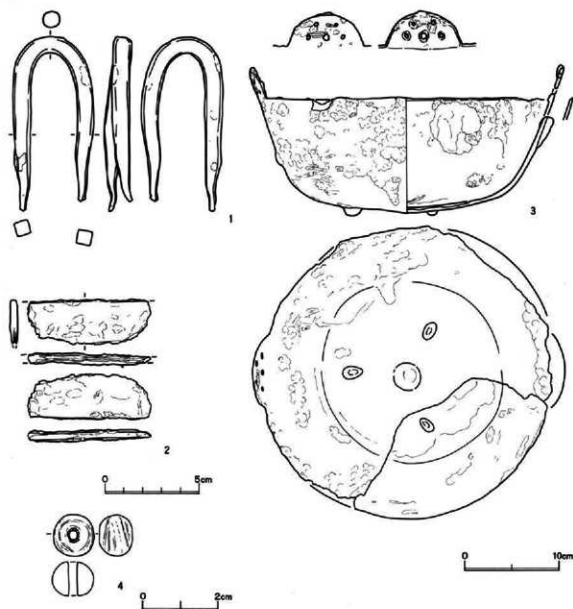
- A. 明黄褐色 (10YR6/4) (赤) しまり中、不均質
- B. 褐色 (10YR5/3) (赤土+II) しまり強、褐色土層あり、不均質
- C. 濃い黄褐色 (10YR5/2) (赤土) Tak土状、しまりなし
- F. 明褐色 (7.5YR5/4) (赤土+III) III土層+層理弱、しまり中や弱、下部層理明瞭



図Ⅱ-13 近現代の遺構 (3)

### IP-3

径80cmの円形、検出面からの深さが1mを超える土坑。坑底はⅠ層(T a - d 1)に達する。覆土下位はⅠ層およびⅡ層が短期間に埋没したとみられ、靴底(底はゴム製)、吊耳鉄鍋(図Ⅱ-14の3、写真図版87-2・3)などが含まれていた。鉄鍋は径約30cm、高さ約16cmで、底面には瘤状の脚が3か所設けられている。また丸湯口を研磨した跡がみられる。吊耳は中央部に1か所の孔、周囲に4か所の小孔がそれぞれあけられている。



図Ⅱ-14 近現代の遺構出土の遺物

## IH-2HF-1

調査区境界付近で、鮮やかな灰白色の楕円形のまとまりが検出された。断面をみると、上位に灰層、下位に厚い被熱層があり、アイヌ文化期の住居の炉に近似する。灰層を掘り下げると、被熱層の周囲には灰が落ち込む棒状の穴が多数確認され、日常生活や儀礼的行為によるものと考えられる。

## その他の遺物

上記以外にも近現代の遺物が多数確認され、一部を図示した。

図Ⅱ-14の1はU字状に曲げられた釘、2は刀子状の鉄製品の一部とみられる。写真図版 87-1-5は、B地区北部、沢に近い位置(L60区)から出土した湯呑茶碗の一部。外面に「開校四十周年記念 上幌内小学校 昭和三十二年十二月〇〇」と赤字で印字されており、現在の厚真ダム広場にあった(旧)上幌内小学校を母校とする住民のものと思われる。8・9は素焼きの五徳とみられるもの。



表Ⅱ-2 I層出土遺物集計

遺構名	層位	土器等									石器等							總計					
		I群b類	II群a類	III群b類	IV群a類	V群c類	VI群a類	VII群c類	不明	陶磁器	計	石鏃	スタ クレイ パイ P フレイク	フ レイク	く ぼみ 石	砥 石	石 斧		礫 石	計	礫	金 属 製 品	ガ ラ ス 玉
I H-1	I																		15			15	
	HA-1 灰																		4			4	
	HF-1 焼土									*									2			2	
	HP-1 覆土																			*			
	HP-4 覆土																			*			
	HP-6 覆土																		3			3	
	HP-17 覆土									*										*			
	HP-20 覆土																			1		1	
	HP-22 覆土									*										1		1	
	HP-33 覆土									*										*			
	周辺									*										*	1	1	
	計									*									25	1	1	27	
I P-3	覆土									*										1		1	
	覆土1																			1	1	1	
	計									*										1	1	2	
表土等	I	5	2	1	13	1	1	1	7	3	*	34	5	3	7	35	1	1	1	53	26	4	117
總計		5	2	1	13	1	1	1	7	3	*	34	5	3	7	35	1	1	1	53	51	6	145

## III III層の調査と出土遺物

III層の遺構は、住居跡14軒(III H-1~14)・建物跡1棟(建物跡1)、土坑1基(III P-1)・柱穴状小土坑60基(III SP-1~14・17~43・51~69)・焼土14か所(住居跡の炉を除く、III F-1~14)・灰集中2か所(III A-1・2)を検出し、遺構に準じるものとして土器集中2か所・礫集中8か所(住居跡範囲を除く、III S-1~6・8・9)・獣骨集中4か所(III B-1~4)を検出した。また焼土や遺物集中などがまとまって出土し、何らかの活動の跡が想定される範囲を「集中区」とし、9か所を設定した。

III層からは、縄文時代晩期~アイヌ文化期の遺物が出土している。

### 1 住居跡

III H-1 [図III-1~8、図版4・29~31・88・89]

位置：b13~15・c14区、標高約65mの河岸段丘縁部

検出層位：III b層

規模：(5.60) × (4.40) m 長軸方位：N-36° W

確認・調査：C地区東部のb14区にてIII層を1回掘り下げたところ、微細な骨片を含む焼土と集石を検出した。平地住居跡を想定して、焼土・集石と遺物を残しながらIII層を慎重に掘り下げたところ、焼土2か所(HF-1・2)と礫集中3か所(HS-1・2・3)を検出した。この状態で遺構の検出写真を撮影した後、礫集中の出土状況を実測するとともに、分散した遺物は地点を記録しながら取り上げた。

礫集中HS-2は中央部が落ち込むように分布しており、下位の土坑の有無を確認するため北西-南東方向にトレンチを設定した。調査の結果、2基の円形土坑が重複することを確認した(HP-7・8)。

焼土HF-1・2は北西-南東方向へ直線状に並んでおり、この長軸上にトレンチを設定して断面の写真撮影と実測図を作成した。柱穴の検出作業は、平地住居跡の輪郭を想定しながら、黒色土の落込みを半截して調査を進めた。この結果確認できた柱穴は7基のみである(HP-1~6・9)。

すべての遺物を取り上げて柱穴および土坑を掘り下げた後、遺構の全体写真を撮影した。その後、2か所の焼土には微細骨片が含まれることから土壌サンプリングを実施した(III章11)。また全体をIV層上面・V層上面まで掘り下げて柱穴の検出作業を再度行ったが、新たな柱穴は確認できず調査を終了した。

付属遺構：焼土2か所、柱穴7基、土坑2基、礫集中3か所を検出した。

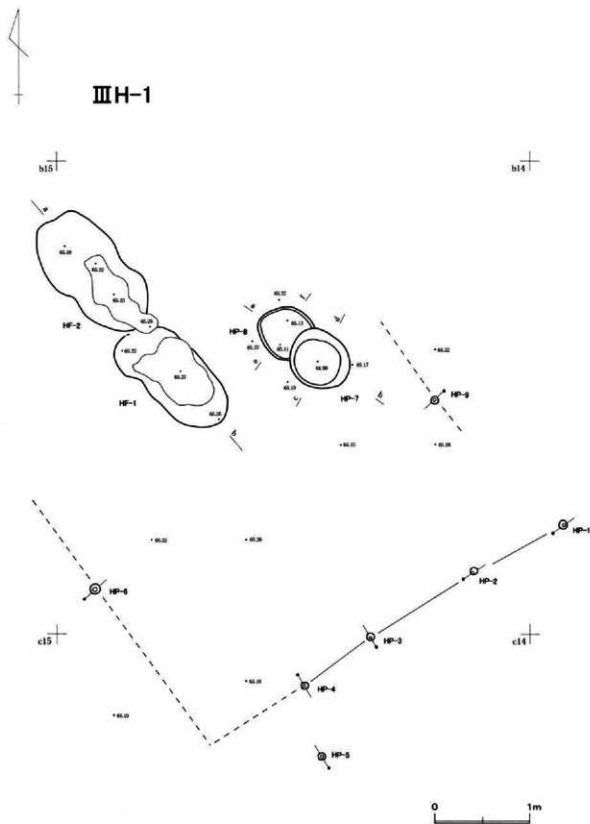
#### 【伊】III H-1 HF-1・2

北西-南東方向に並ぶ焼土2か所のうち、南東側をHF-1、北西側をHF-2とした。新旧関係は断面では確認できないが、平面ではHF-2が新しくHF-1が古いようである。HF-2よりHF-1の方が明るい色調である。両方の焼土に微細な骨片が含まれている。HF-1の焼土2層から、VII群土器1点が出土した。炭化材片の<sup>14</sup>C年代測定では、1070±20yrBP、1030±20yrBP(σ<sup>13</sup>C補正值)の数値を得た(V章11)。

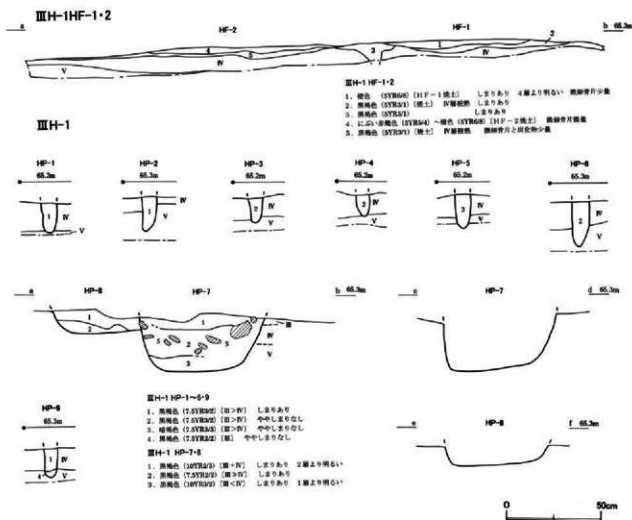
#### 【柱穴】III H-1 HP-1~6・9

7基のうち、柱穴列が認められたのは南東側のHP-1~4の4基だけであるが、その間隔は0.85~1.3mと一定していない。柱穴の規模は径7~9cm、深さ11~24cmである。柱穴の傾きは全例ともにほぼ垂直で、極端に傾いているものはない。柱穴の覆土は、III層にIV層が少量混じり、ややしまっていた。

#### 【土坑】III H-1 HP-7・8



図III-1 IIIH-1(1)



図Ⅲ-2 ⅢH-1 (2)

二つの円形土坑は住居跡の南東側をHP-7、北東側をHP-8とした。HP-7は礫集中HS-2の下から検出され、棒状礫はその数が漸減してHP-7の底面まで分布していた。

**【礫集中】ⅢH-1HS-1・2・3**

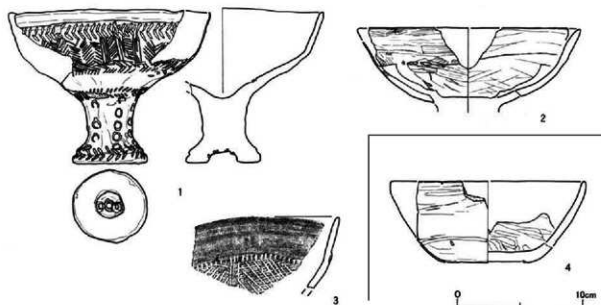
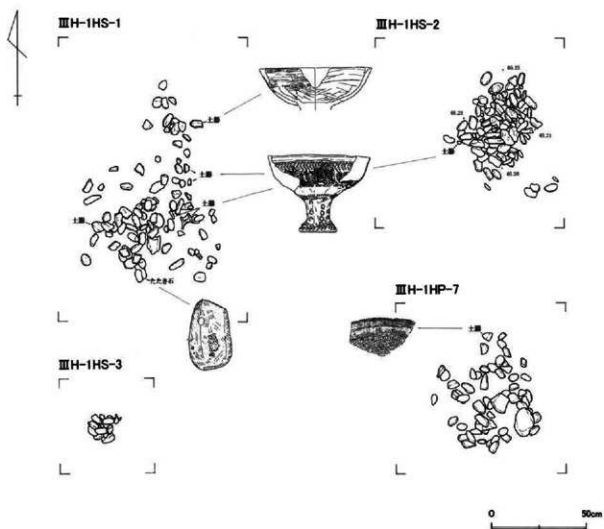
礫集中は3か所検出した。HS-1はHF-1の南約1.5mに位置し、分布範囲は南北方向を長軸に1.08×0.75mである。遺物はそのほとんどが棒状礫だが、擦文土器の破片数点とたたき石1点が含まれる。HS-2は、HF-1の東約1.5mに位置する。分布範囲は0.73×0.55mである。HS-3はHS-2の東側に隣接、径約20cmの小範囲に分布し、礫19点とたたき石1点が出土した。

**遺物出土状況：**遺物は、想定した住居跡の南東部に偏って出土する。これは過去に重機による畑地造成の結果、Ⅲ層上部が削平されたためと考えられる。

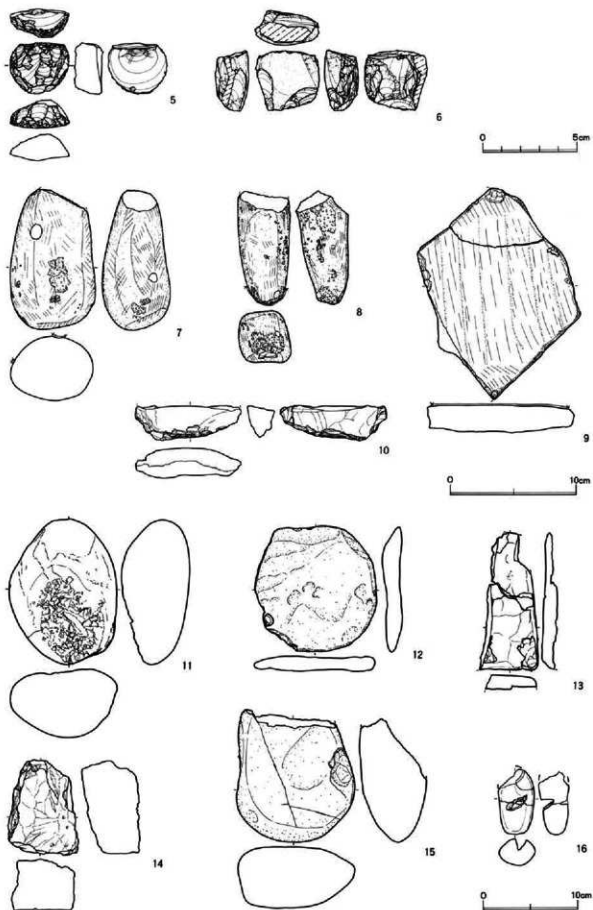
遺物の合計点数は629点である。うち土坑HP-7から75点、礫集中から345点、住居跡の床面相当から195点が出土した。土器等はⅦ群b類8点・Ⅶ群c類20点、石器等はスクレイパー・たたき石・砥石・フレイクなど20点、礫は588点である。ほかにシカの歯・カワシンジュガイ(殻皮)が少量出土した。



図III-3 III H-1 (3)

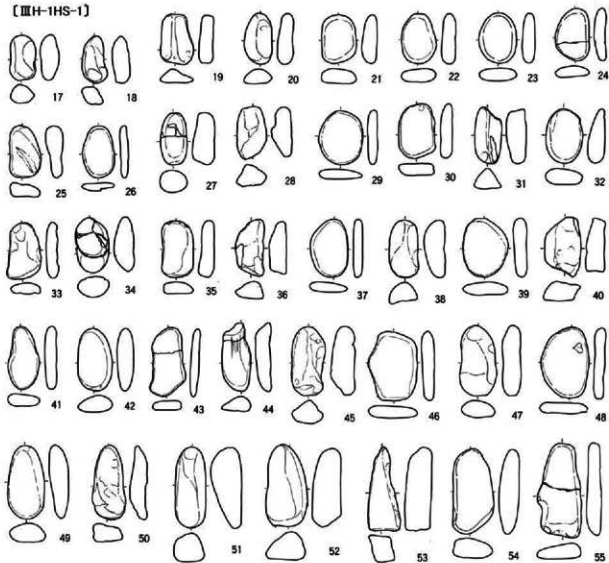


図Ⅲ-4 ⅢH-1 (4)・ⅢH-1出土の遺物(1)

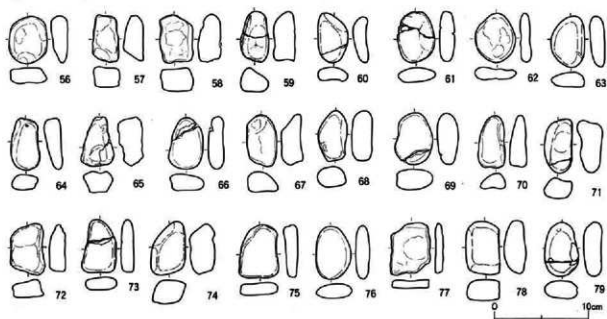


図III-5 III H-1出土の遺物(2)

【ⅢH-1HS-1】

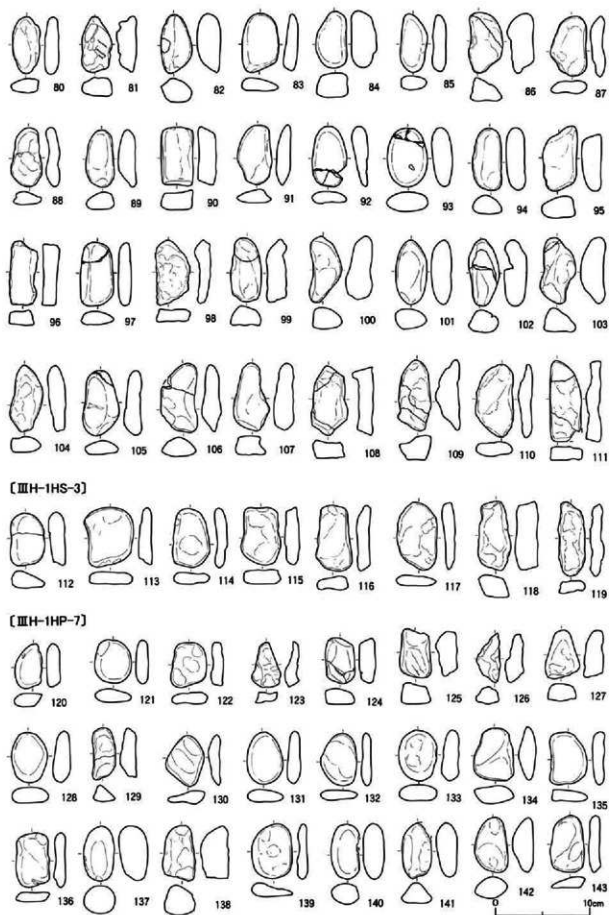


【ⅢH-1HS-2】

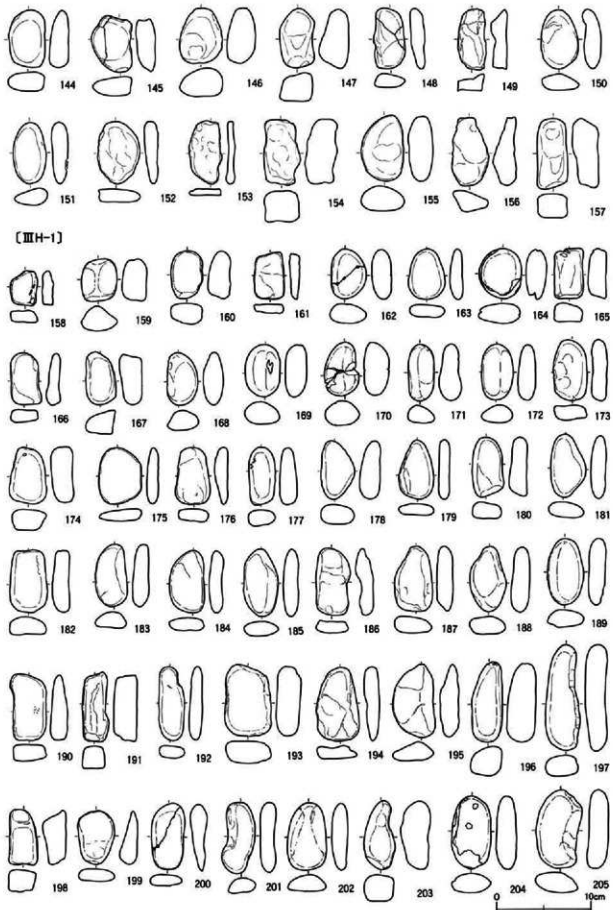


図Ⅲ-6 ⅢH-1出土の遺物(3)





図Ⅲ-7 ⅢH-1出土の遺物(4)



図Ⅲ-8 ⅢH-1出土の遺物(5)

**掲載遺物：**1～3は擦文文化後期の高坏。1は口縁部～脚部が復元できた。脚部が比較的長く、該期としては希少な例である。脚部の底がくぼみ、脚部の側面とともに円形刺突列が施されている。矢羽状の刻文がめぐり、細沈線による綾杉文が密に施文されている。内面は底部中央がくぼむ。2は口縁～体部が接合し、脚部を欠く。口縁はやや外反する。内外面ともよく磨かれている。3は口縁部片。4は擦文中期、多重横走沈線地の土器を伴う時期の坏。住居跡の範囲および周辺包含層から出土したが、住居跡より古い段階のもので、直接は伴わないか、伝世等を考慮する必要がある。内面底部中央付近から体部の立ち上がりに向けて放射状に細いヘラナデ痕が残存する。

5はスクレイパー。半割した円礫を素材とし、背面の原石面を剥離し周縁に細かく調整を行ったとみられる。6は石核。一部に原石面や古い剥離面が残る。7・8はたたき石。9は砥石で、砂岩の板状礫に擦痕がある。周縁部に敲打痕があり、適度な大きさに打ち欠いたものと考えられる。10は「加工痕ある礫」としたもので、板状の石英片岩の端部に敲打痕がみられる。火打石として利用した可能性がある。

11～205は礫で、11～16は大型のものや特記するもの、17～205は小型のものや「棒状礫」を掲載した。

11は花崗岩の楕円礫、12は泥岩の扁平礫、13は頁岩の板状に剥離した直角礫、14は石英質岩の角礫、15はHS-1から出土した泥岩の楕円礫である。16はHP-7から出土したいわゆる棒状礫であるが、二枚貝の化石痕が観察される。17～205の棒状礫等のうち、17～55はHS-1、56～111はHS-2、112～119はHS-3、120～157はHP-7、157～205はⅢH-1の床面に相当する位置から出土した。107がハンレイ岩、138・156が礫岩で、それ以外は泥岩・砂岩である。全体的に「棒状」の楕円礫や直角礫が多い。床面相当やHS-1には割れて出土し接合したものが目立つ。HS-2には、比較的小型のものが多く。掲載した礫の遺構ごとの平均値は以下のとおりである（長さ×幅cm/重量g [長短比]）。

ⅢH-1 HS-1	6.5×3.7cm/54.9g	[1.8]
ⅢH-1 HS-2	6.2×3.5cm/51.8g	[1.8]
ⅢH-1 HS-3	6.7×3.9cm/52.6g	[1.7]
ⅢH-1 HP-7	5.9×3.6cm/51.7g	[1.6]
ⅢH-1 床面相当	6.5×3.6cm/60.7g	[1.8]

**時期：**出土した土器から、擦文文化後期とみられる。

(佐川俊一)

### ⅢH-2 [図Ⅲ-9・10、図版4・20・32・33]

**位置：**C地区 S19・20、T19～21、U20・21区、標高64～65mの平地地 **検出層位：**IV層上面

**規模：**全体8.18×(4.00)m 母屋 5.10×(4.00)m 付属施設 3.50×2.90m

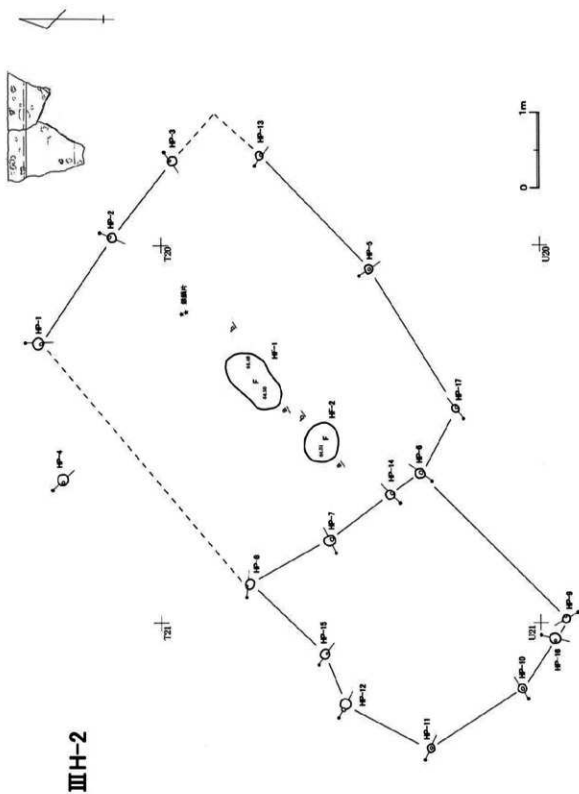
**長軸方位：**N-48°E

**確認・調査：**Ⅲ層は耕作等により削平されていたため、調査はIV層から行った。北東-南西方向に50cmほど離れて2か所の焼土を検出し、さらに北東側延長上に80cmほど離れて鉄鋼片が2点出土した。平地住居を想定し周辺を精査したところ、計17基の柱穴状小土坑を検出した。柱穴の位置などから、母屋と付属施設(セム)の構造を持つ平地住居跡と思われる。

**付属遺構：**焼土2か所、柱穴17基を検出した。

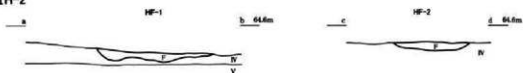
#### 〔炉〕ⅢH-2 HF-1・2

炉と思われる焼土は、北東側にやや細長い楕円形のHF-1、南西側に小さめの楕円形のHF-2がある。断面からはいずれもIV層が焼けた層が1層確認できた。焼成は弱く灰や骨片等はなかった。焼土サンプルの水洗作業(フローテーション)により、炭化物が少量回収されている(表Ⅲ-1参照)。



図III-9 III H-2 (1)

ⅢH-2

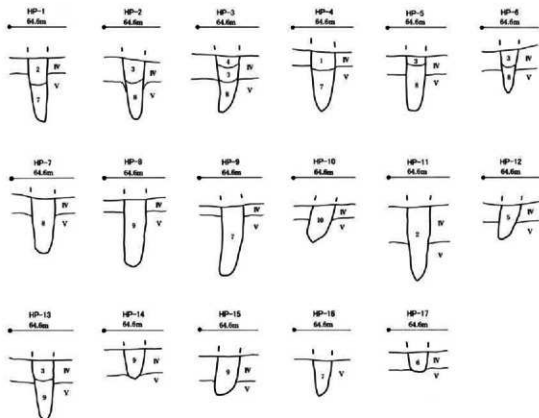


ⅢH-2 HP-1

1. 黒色 (TAYR344) (黒土) 2. 灰褐色 砂礫土 層

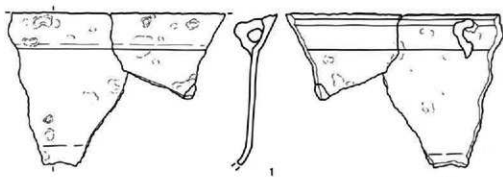
ⅢH-2 HP-2

1. 暗褐色 (TAYR344) (黒土) 2. 灰褐色 砂礫土 層



ⅢH-2 HP-1~10

- |                                    |                                |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 1. 黒色 (10YR2.5/1) (IV層底より直下) 砂礫土 層 | 4. 黒褐色 (10YR2.5/3) (Ⅲ) 砂礫土 層   |
| 2. 黒色 (10YR2.5/1) (IV層底より直下) 砂礫土 層 | 7. 黒色 (10YR2.7/1) (Ⅲ) 砂礫土 上2.5 |
| 3. 黒褐色 (10YR2.5/3) (Ⅲ→IV) 砂礫土 層    | 8. 黒色 (10YR2.7/1) (Ⅲ) 砂礫土 底    |
| 4. 黒褐色 (10YR2.5/3) (Ⅲ) 砂礫土 層       | 9. 黒色 (10YR2.5/1) (Ⅲ) 砂礫土 層    |
| 5. 黒色 (10YR2.5/1) (Ⅲ) 砂礫土 層        | 16. 黒色 (10YR2.7/1) (Ⅲ) 砂礫土 層   |



図Ⅲ-10 ⅢH-2 (2)・ⅢH-2出土の遺物 (1)

## 〔柱穴〕ⅢH-2HP-1~17

HP-1~3・5~8・13・14・17の10基の柱穴は焼土HF-1を2m前後の距離を置いて囲むように位置する。平面は北東-南西に長軸を持つ長方形を呈し、母屋と思われる。HP-4はこの母屋からやや北西側に離れて検出した。またこの母屋南西側にはHP-9~12・15・16の6基により一回り小さい平面はほぼ方形の施設が併設され、納屋・入り口の機能をもつ付属施設（セム）と思われる。柱穴はいずれも直径10~14cm、深さ9~13cmとほぼ同規模、覆土はⅢ層主体で、若干のⅣ層が混入する場合もみられた。

**遺物出土状況**：焼土HF-1から北東側85cmで内耳鉄鍋片2点が出土した。

**掲載遺物**：1は内耳鉄鍋片。近接して出土した2点が接合した。比較的小型で、側面の口縁部~底部付近の一部が残存していた。口縁部は外反し、口唇は切り出し状である。形状から13世紀後半~14世紀前半の所産とみられる、との教示を受けた（八重理忠朗氏による）。

**時期**：住居跡の構造や、鉄鍋片の形態から中世アイヌ文化期と思われる。

(新家水奈)

## ⅢH-3〔図Ⅲ-11、図版4・34・89〕

**位置**：C地区 a13・14、b13・14区、標高約65mの河岸段丘縁辺部 **検出層位**：Ⅲb層

**規模**：(5.40) × (2.30) m **長軸方位**：N-18° E

**確認・調査**：重機により表土およびⅡ層を除去した後、人力による清掃作業中にa14区で焼土(HF-2)を検出した。ⅢH-3の調査開始後にもう一つの焼土(HF-1)を検出した。糞集中などの遺物は検出されなかったため、次に柱穴の検出作業を開始した。ⅢH-1と同様に柱穴はなかなか検出できなかったが、二つの焼土の東側で4基、さらにHF-1とHF-2の中間で1基を検出した。

**付属遺構**：焼土2カ所、柱穴5基を検出した。

## 〔伊〕ⅢH-3HF-1・2

HF-1はb14区調査坑の西側1mにある。ここから北へ約2mのところにはHF-2がある。HF-1の土層はHF-2の1層より暗く、Ⅳ層にⅢ層が微量混じる。焼土中には微細骨片が1層に少量、2層に微量含まれていた。HF-2の1層はⅣ層(Ta-c)が被熱して赤色化しており、Ⅳ層にⅢ層が微量混じる。骨片は1・2層ともに微細なものが微量混じっている。

## 〔柱穴〕ⅢH-3HP-1~5

柱穴が認められたのは、焼土の東側で北北東-南南西方向にHP-1・2・4の3基のみである。HP-2とHP-4の間隔は4m以上と長く、その中間でも検出作業に努めたが見つからなかった。柱穴の規模は径7~12cm、深さ14~23cmである。傾きは全例ともに垂直である。

**遺物出土状況**：床面に相当する位置から糞1点が出土した。

**掲載遺物**：1はいわゆる棒状糞。表面に赤い部分とその周囲が黒ずむ部分があり、被熱している。

**重複・時期**：ⅢH-1との関連性から、擦文文化後期と考えられる。

(佐川)

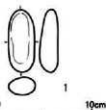
## ⅢH-4〔図Ⅲ-12~16、図版4・35・89・90〕

**位置**：C地区 a16・17、b16・17区、標高約65.5mの微高地上 **検出層位**：Ⅲb層

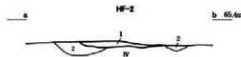
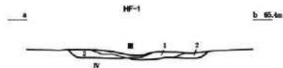
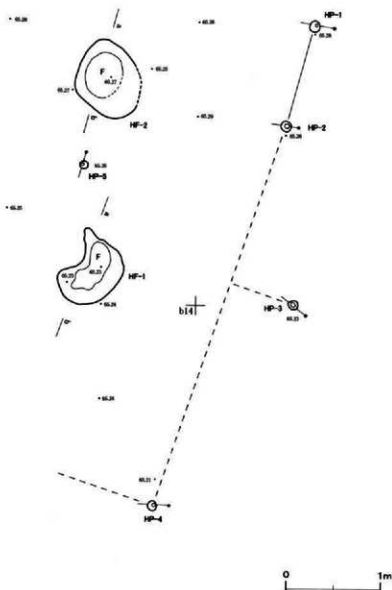
**規模**：(5.00) × (4.20) m **長軸方位**：N-71° E

**確認・調査**：厚真川寄りの微高地上でⅢ層の掘り下げを行ったところ、Ⅲb層中で棒状の糞が集中して出土した。周囲を精査し、灰褐色の範囲を検出した。トレンチを設定し掘り下げると、赤褐色の厚い被熱層

### ⅢH-3

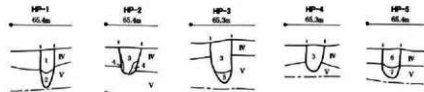


ⅢH-3



ⅢH-3 HP-1

1. 褐色 (7.0YR5/4M) (IV>III) しまりあり 埋戻面や骨片少量
2. 暗赤褐色 (5YR5/2) しまりあり 骨片多数



ⅢH-3 HP-2

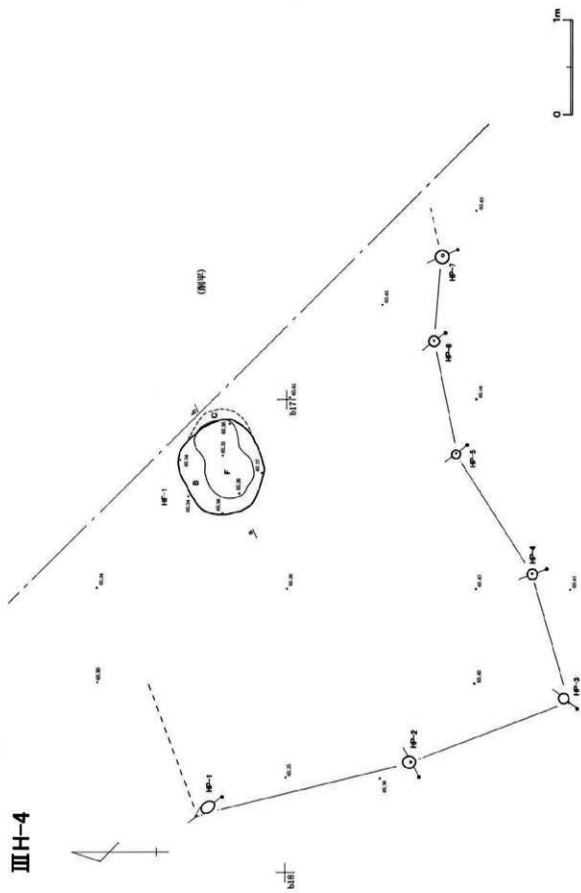
1. 暗褐色 (7.0YR5/4M) (IV>III) しまりあり 土 (IV埋戻層) 陶器や骨片多数
2. 赤褐色 (5YR5/2) しまりあり 陶器や骨片多数

ⅢH-3 HP-1~5

1. 暗褐色 (7.0YR5/4M) (IV>III) ややしまりなし
2. 赤褐色 (7.0YR5/2) (III) しまりなし
3. 暗褐色 (7.0YR5/2) (IV>III) ややしまりなし
4. 暗褐色 (7.0YR5/2) (IV>III) しまりあり
5. 暗褐色 (7.0YR5/3) (IV>III) ややしまりなし
6. 暗褐色 (7.0YR5/3) (IV>III) ややしまりあり
7. 暗褐色 (7.0YR5/2) (IV>III) ややしまりなし



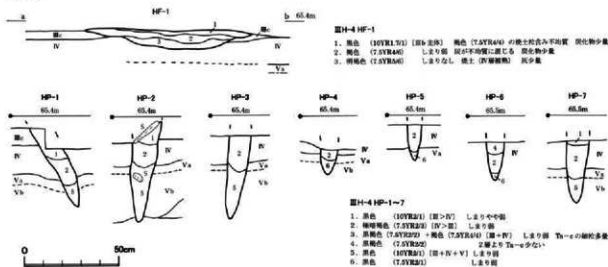
図Ⅲ-11 ⅢH-3



図Ⅲ-12 ⅢH-4 (1)



## ⅢH-4



図Ⅲ-13 ⅢH-4 (2)

が現れ、焼土を確認した。周囲をⅣ層上面まで掘り下げたところ、焼土の南西側にL字状に配列する柱穴を検出し、Ⅲb層を床面とする平地住居跡と認定した。

なお住居跡北東側の1/3程は、重機による畑地造成のため微高地のⅢ~Ⅴ層が削平されていた。

**付属遺構:** 焼土1か所、柱穴7基、礫集中2か所を検出した。

## 〔炉〕ⅢH-4 HF-1

住居跡中央からやや北東に位置する。長軸1mを超える比較的大型の楕円形の炉である。断面を観察すると、1層は炭化物・灰混じり土、2層は灰混じり焼土、3層が明褐色の被熱層で、最大厚10cmに及ぶ。2層がやや不均質であるが典型的な炉の断面構造となっている。被熱層はⅣ層上面で、Ⅲc層を浅く掘り込んで焼成されたと考えられる。炭化材片の<sup>14</sup>C年代測定では、540±20yrBP、440±20yrBP(σ<sup>13</sup>C補正值)の数値を得た(V章11)。

## 〔柱穴〕ⅢH-4 HP-1~7

HP-1・2はⅢ層中、HP-3~7はⅣ層上面で検出した。すべて先端が尖る差し込み柱である。HP-1・2・3・7は径10cm以上の太い柱穴で、うちHP-1・2・3は深さ40cm以上に達する。HP-1・3は住居の角に当たり内側に向かって大きく傾いている。それ以外はほぼ直立する。

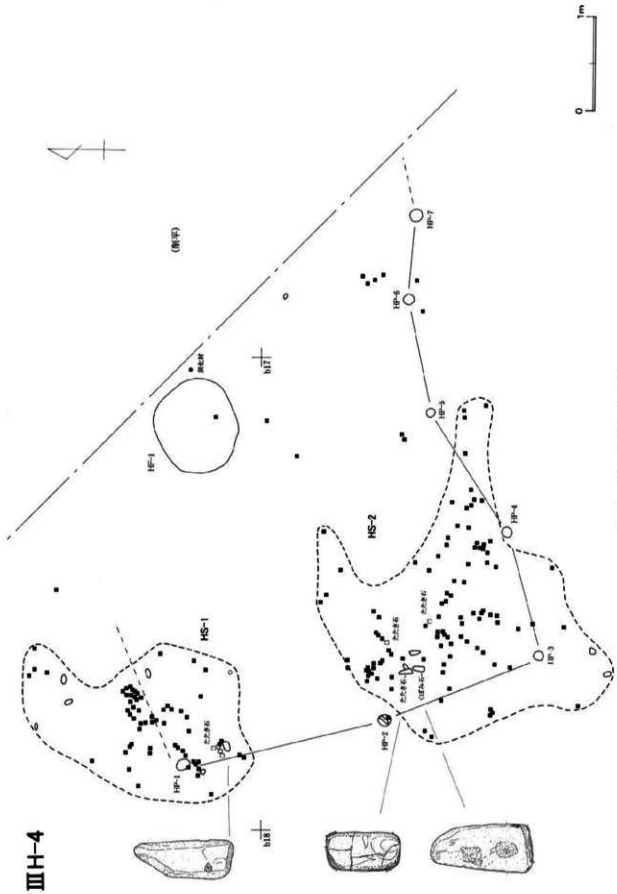
## 〔礫集中〕ⅢH-4 HS-1・2

HS-1は住居跡の北西壁際付近、HS-2は南西壁際に相当する位置から検出した。全体的にやや散漫な分布であるが、一部に濃密な部分がそれぞれ見受けられる。「棒状礫」を主体とし、たたき石などの礫石器を含んでいる。

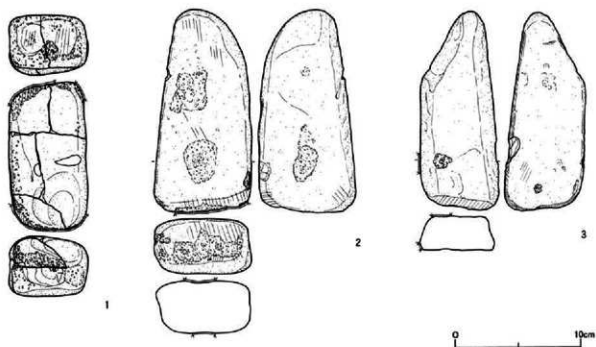
**遺物出土状況:** 合計点数は237点で、その大部分は礫集中の207点である。ほかに床面相当から礫18点、柱穴(HP-2)の覆土から礫1点が出土している。礫集中HS-1からは、Ⅶ群c類土器1点・たたき石6点・礫73点が出土した。HS-2からは、たたき石5点・くぼみ石1点・礫132点が出土した。また焼土を対象としたフローテーションにより、微細な骨片や炭化材片が比較的多く回収できた(Ⅲ章11)。

**掲載遺物:** 1・2・81はHS-2から出土したたたき石。1は複数に割れたものが接合した。長軸両端部に敲打痕が明瞭に残る。2は下部部に敲打痕、やや扁平な両面に敲打を受けたくぼみがある。3はHS-1から出土したたたき石。側縁に敲打痕が複数観察される。

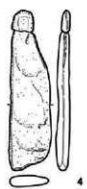
4~80・82・83は礫で、すべて砂岩または泥岩である。4はHP-2の上位から出土した扁平礫。5~32はHS-1から出土した。小型・扁平なものから中型・亜角礫状のものまで各種見受けられる。33~80



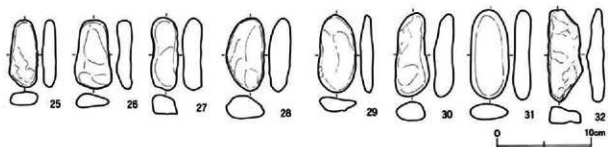
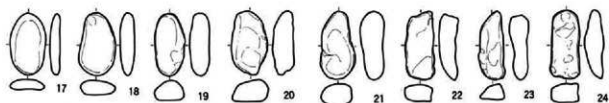
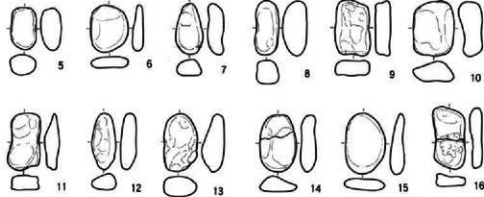
図Ⅲ-14 ⅢH-4 (3)



【ⅢH-4HP-2】

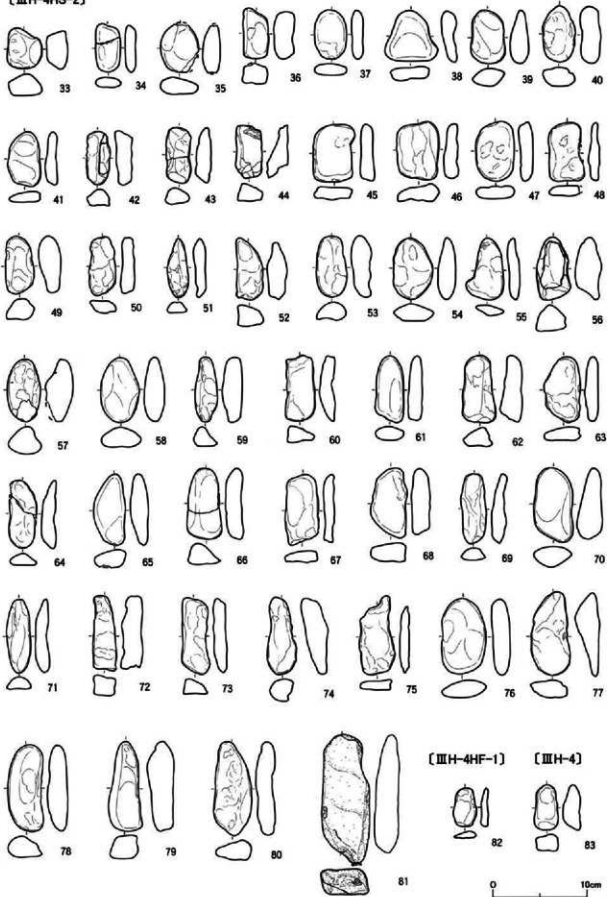


【ⅢH-4HS-1】



図Ⅲ-15 ⅢH-4出土の遺物(1)

【ⅢH-4HS-2】



図Ⅲ-16 ⅢH-4出土の遺物(2)

はHP-2出土のもの。やや不整形なものが目立つ。82はHF-1出土の小型・扁平礫。83は床面出土のもの。

掲載した礫の平均値は以下のとおりである（長さ×幅 cm/重量 g [長短比]）。

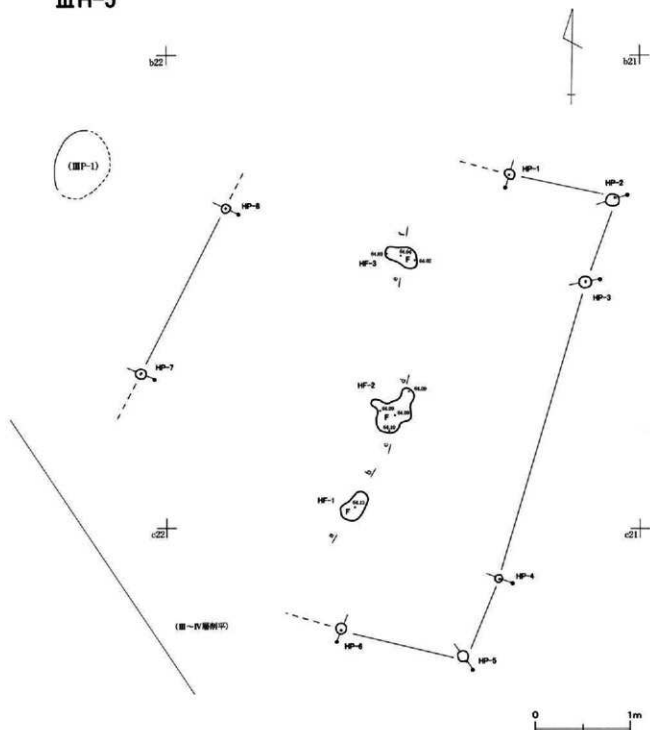
ⅢH-4HS-1 6.9×3.5cm/57.1g [2.0]

ⅢH-4HS-2 7.0×3.5cm/57.8g [2.0]

時期：検出層位や出土遺物などから、中世段階のアイヌ文化期と考えられる。

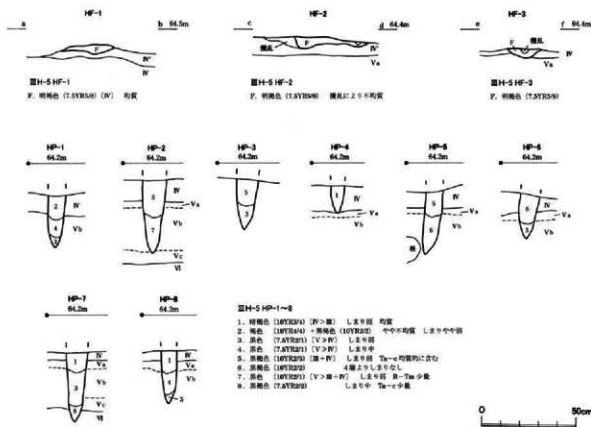
### ⅢH-5

(阿部)



図Ⅲ-17 ⅢH-5 (1)

## ⅢH-5



図Ⅲ-18 ⅢH-5 (2)

## ⅢH-5 [図Ⅲ-17・18、図版5・36]

位置: C地区 b21・22、c21区、標高約64.1m 検出層位: IV層

規模: 5.14×(4.24) m 長軸方位: N-17° E

確認・調査: b21区付近には5m以上の方形の削平範囲があり、攪乱土を除去して清掃を行ったところ、IV層において小規模な焼土3か所を検出した。周辺に残存するⅢ層を掘り下げ、柱穴状小土坑を計8基確認し、方形配置が推定できることからⅢb層を床面とする平地住居跡と認定した。

なお刀が出土した土坑(ⅢP-1)は、当住居跡の西側で検出した。

付属遺構: 焼土3か所、柱穴8基を検出した。

## 〔炉〕ⅢH-5HF-1・2・3

住居跡長軸中央付近におおむね直列する。3か所とも小規模な不整形円形で、IV層中まで削平を受け被熱層の下部が残存していた。HF-3は被熱層がV層上面に達していた。

## 〔柱穴〕ⅢH-5HP-1~8

住居跡の北東角付近(HP-1~3)、南東角付近(HP-4~6)、西側の一部(HP-7・8)を検出した。すべて先端が尖る差し込み柱である。住居の角に当たるHP-2・5は径が10cm以上と太く、検出面からの深さが40cm近くあり、住居内側にやや傾いている。

遺物出土状況: Ⅲ層が削平を受けた範囲が広く、遺物は確認できなかった。

時期: 複数の炉をもつ点などを考慮すると、中世段階のアイヌ文化期と推測される。

(阿部)

## ⅢH-6 [図Ⅲ-19・20、図版5・37・90]

位置：C地区 e21・22、f21・22区、標高約64.0m 検出層位：Ⅲc～Ⅳ層

規模：(4.48) × (3.34) m 長軸方位：N-18° E

確認・調査：段丘縁辺部、(集中区7)ⅢS-2の南に位置する。

Ⅲ層包含層の掘り下げ中、礫がややまとまって出土する範囲を検出し、その北側で強く被熱した円形の焼土を検出した。平地住居跡を想定し、複数の太い切り株をていどに除去した後、Ⅳ層上面にて柱穴の検出に努めた。攪乱や木根により確認が困難な範囲があったものの、焼土の東側に柱穴列、北側と西側にも柱穴を検出した。全形は不明瞭であるが方形の配置が想定できることから、Ⅲb層を床面とし南北方向を長軸とする平地住居跡と認定した。

付属遺構：焼土1か所、柱穴7基、礫集中1か所を検出した。

## 〔炉〕ⅢH-6 HF-1

住居跡中央よりやや北側に位置すると思われる。径約40cmのほぼ円形で、赤褐色の焼土の周囲に黒色土が環状に残存する状態で検出した。落ち込んだⅢ層が強く被熱し、被熱層は9cmに達する。フローテーション作業では、微量の炭化物片を回収するにとどまった(Ⅲ章11)。

## 〔柱穴〕ⅢH-6 HP-1～7

すべて先端が尖る差し込み柱である。検出面からの深さは30cm前後のものが多い。HP-1はHF-1の北東側に近接し、壁面を構成するものとは異なると考えられる。HP-2～6はおおむね一列に並び、住居跡の東壁を構成するものとみられる。HP-5が住居内側に傾いているほかはほぼ直立する。南角に相当するHP-6は径が13cmと太い。HP-7は西壁を構成する柱穴と考えられる。

## 〔礫集中〕ⅢH-6 HS-1

Ⅲb層(一部Ⅲc層)において検出し、2.9×2.1mほどの範囲にまとまる。住居跡の南西角付近に位置する。全体的にやや散漫な分布であるが、一部に濃密な部分がある。

遺物出土状況：合計点数は96点で、その大部分は礫集中の88点である。HS-1からは、くぼみ石1点・礫87点が出土した。ほかにⅢH-6の範囲から礫が8点出土した。

掲載遺物：1～30は礫で、すべて砂岩または泥岩である。1～22はHS-1から出土した。表面が波状をなす直角棒状礫が比較的多い(10・12・19・20など)。23～30は床面に相当する位置から出土した。

掲載した礫の遺構ごとの平均値は以下のとおりである(長さ×幅 cm/重量 g [長短比])。

ⅢH-6 HS-1 7.3×3.6cm/74.6g [2.0]

ⅢH-6床面相当 6.3×3.1cm/43.6g [2.0]

重複・時期：(集中区7)ⅢS-2の南端が一部重複する。当遺構の時期は、ⅢH-4に構造が類似することから中世段階のアイヌ文化期と思われる。(阿部)

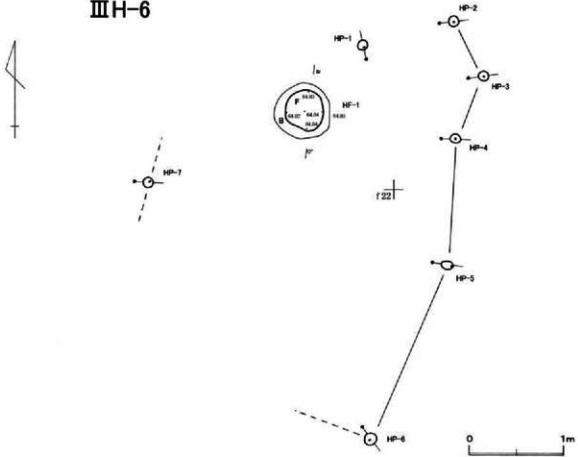
## ⅢH-7 [図Ⅲ-21、図版38]

位置：C地区 S15・16、T15・16区、標高約64.7m 検出層位：Ⅲc～Ⅳ層

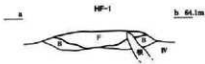
規模：5.58×4.30m 長軸方位：N-65° W

確認・調査：調査区北部では、撥文～アイヌ文化期の遺構・遺物が境界付近からも検出され、さらに北側に調査範囲を拡張することとなった(Ⅰ章3)。その拡張範囲から検出した。Ⅲ層を掘り下げたところ小型の焼土(ⅢF-4)を検出し、一部の発掘区がⅣ層上面に達したところで柱穴とみられる黒色土を検出した。半截・断面観察を行い、コの字状に並び柱穴列を確認した。方形の配置が想定できることから、平地住居跡とした。ただし、焼土はその位置関係から直接の関連はないと考えられ、炉は検出できなかった。

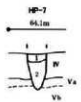
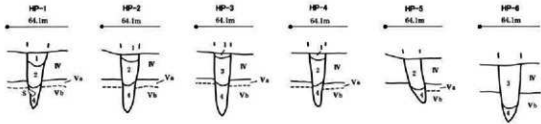
ⅢH-6



ⅢH-6



ⅢH-6 HP-1  
 F. 土器の赤褐色 (TYPE4) 土器の少量  
 B. 灰褐色 (TYPE2) 土器の少量

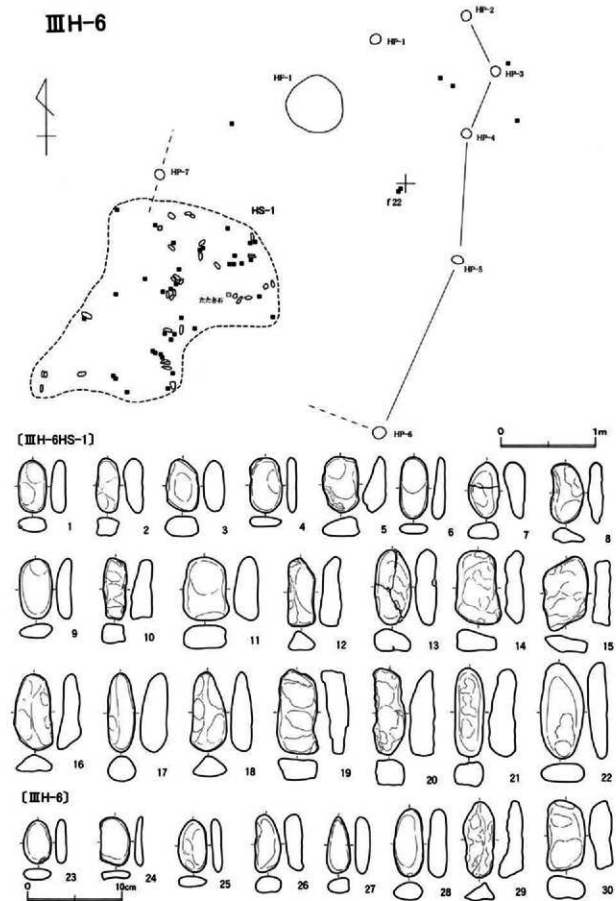


ⅢH-6 HP-1~7  
 1. 赤色 (TYPE2) (層<HP) 土器の少量  
 2. 赤褐色 (TYPE2) (層<HP) 土器の少量  
 3. 灰褐色 (TYPE2) (層+HP) 土器の少量  
 4. 黒色 (TYPE1.7) (層+HP<V) 土器の少量

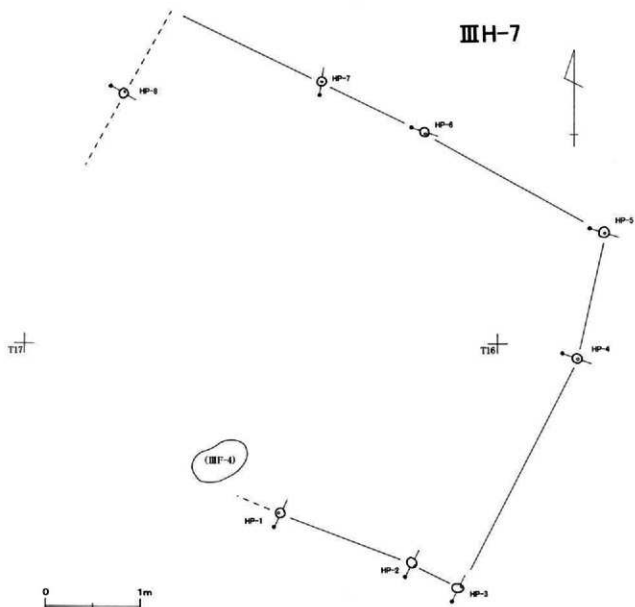


図Ⅲ-19 ⅢH-6 (1)

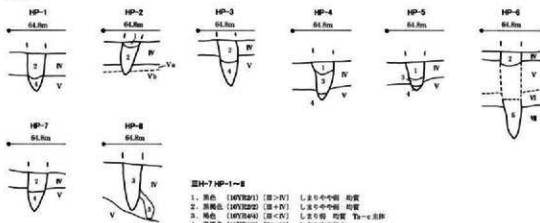




図Ⅲ-20 ⅢH-6 (2)・ⅢH-6出土の遺物



Ⅲ H-7



Ⅲ H-7 HP-1~8

1. 褐色 (MVR21) (Ⅲ>Ⅳ) L.2.5の中層 均質
2. 赤褐色 (MVR22) (Ⅲ+Ⅳ) L.2.5の中層 均質
3. 褐色 (MVR44) (Ⅲ<Ⅳ) L.2.5の層 均質 Tr<4.5片
4. 赤褐色 (MVR23) (Ⅲ<Ⅳ) L.2.5の中層\*
5. 褐色 (LST21) ~ 赤褐色 (LST22) (Ⅲ>Ⅳ) L.2.5の層 不均質



図Ⅲ-21 Ⅲ H-7

住居跡とは異なる構造物の可能性がある。

**付属遺構：**柱穴8基を検出した。

**〔柱穴〕ⅢH-7HP-1～8**

住居跡南半（HP-1～3）－東（HP-3～5）－北（HP-5～7・8）に相当する柱穴列を検出した。すべて先端が尖る差し込み柱である。検出面からの深さは不均一である。HP-2・3・6・7は傾きがあるが、必ずしも内傾していない。

**遺物出土状況：**礫1点が出土した。

**重複・時期：**ⅢF-4が重複し、ⅢH-7の方が古い。当遺構の時期は、検出層位から中世段階のアイヌ文化期と思われる。（阿部）

**ⅢH-8** [図Ⅲ-22・23、図版5・18・20・39・90]

**位置：**A地区 F・G66・67、標高64～65m **検出層位：**Ⅲb層

**規模：**(5.20)×3.20m **長軸方位：**N-47° E

**確認・調査：**A地区中央の平坦面に位置する。Ⅲ層調査中、棒状礫65点がややまとまって出土した。この礫集中の北東側で焼土を検出したため平地住居を想定し、周辺を精査したところ、焼土から一定の距離をおいて平面長方形にめぐる柱穴状小土坑9基を検出した。このため焼土を平地住居跡ⅢH-8の炉HF-1、礫集中を平地住居跡に伴うHS-1とした。

**付属遺構：**焼土1か所、柱穴9基、礫集中1か所を検出した。

**〔炉〕ⅢH-8HF-1**

径80cm程のほぼ円形の焼土で、住居跡の北東寄りに位置する。断面は5層に分けられ、上からⅡ層とⅢ層からなる黒褐色土層、炭を含むⅢ層主体の黒色土層、灰層、Ⅳ層の被熱層、骨片を含む黒褐色土層で構成される。最下位の5層は、周囲のⅣ層よりも落ち込んで堆積しており、炉は掘り込まれて作られていることがわかる。深いところで16cmほどの層厚になる。3層から礫が1点出土した。また焼土サンプルのフローテーション作業を行い、特に3層からシカの焼骨片や炭化物を回収した（Ⅲ章11、V章9）。炭化材片の<sup>14</sup>C年代測定では、400±20yrBP（σ<sup>13</sup>C補正值）の数値を得た（V章12）。

**〔柱穴〕ⅢH-8HP-1～9**

規模は直径8～11cm、深さ8～27cmである。HP-1・2・8は深さが22cm以上ある。覆土はいずれもⅢ層にⅣ層が混入した黒褐色土層である。住居跡南側部分の柱穴は確認できなかった。HP-6の覆土1層から礫が1点出土した。

**〔礫集中〕ⅢH-8HS-1**

棒状礫を主とした65点の礫が約4×3mの範囲に広がって出土した。

**遺物出土状況：**焼土HF-1からガラス小玉1点と礫1点、HP-6の覆土から礫1点、床面相当から黒曜石のフレイク1点と礫27点が出土した。またⅢH-8の範囲から鉄製品が1点出土した。そのほか、礫集中HS-1から礫65点が出土した。

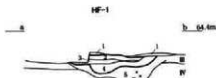
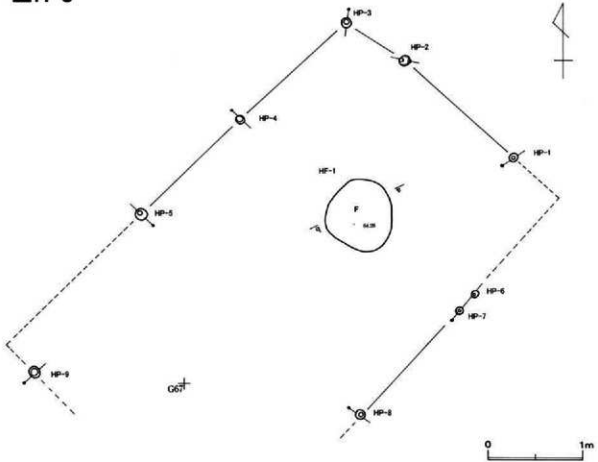
**掲載遺物：**1はガラス玉。白色を呈する径4mmほどの小玉である。2は環状の鉄製品。用途は留め具などが想定できる。

3～18は礫。3はHF-1から出土した。4～18はHS-1出土のもの。近似する形状・大きさのものが多い。掲載した礫の平均値は以下のとおりである（長さ×幅cm/重量g [長短比]）。

ⅢH-8HS-1 7.4×3.2cm/60.9g [2.3]

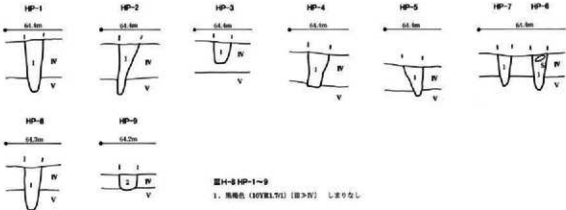
**時期：**住居跡の形態から、アイヌ文化期と思われる。（新家）

III H-8



III H-8 HP-1

1. 黒褐色 (NVR322) [B+Ba] シマリなし
2. 黒色 (NVR170) [Ba+Be] シマリ中
3. 暗褐色 (NVR340) [C] 砂質シルト、シマリ中
4. 褐色 (NVR444) [D] 遊鉄層、シマリ中
5. 黒褐色 (NVR34) [Ba+Be+D] シマリ中

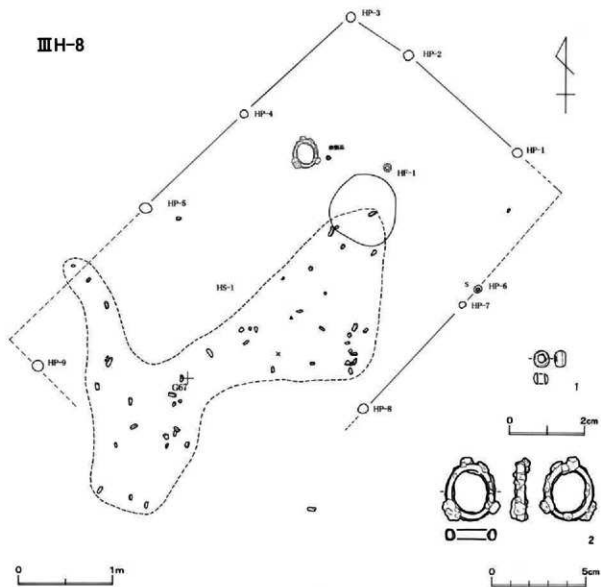


III H-8 HP-1~9

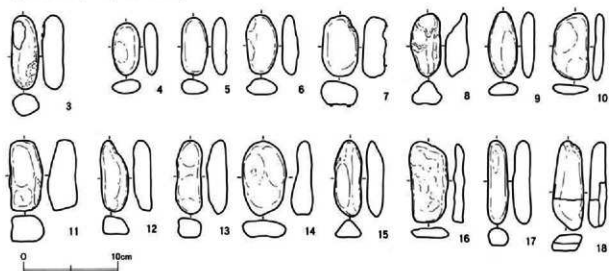
1. 黒褐色 (NVR170) [Ba+D] シマリなし



図III-22 III H-8 (1)



【ⅢH-8HF-1】 【ⅢH-8HS-1】



図Ⅲ-23 ⅢH-8 (2)・ⅢH-8出土の遺物

## ⅢH-9〔図Ⅲ-24・25、口絵3、図版5・20・23・40・41・90〕

位置：A地区 I 64・65、J 64・65区、標高約64.3m 検出層位：Ⅲb層

規模：5.40×4.86m 長軸方位：N-71° E

確認・調査：A地区南部、土坑墓ⅢGP-1の北側に位置する。

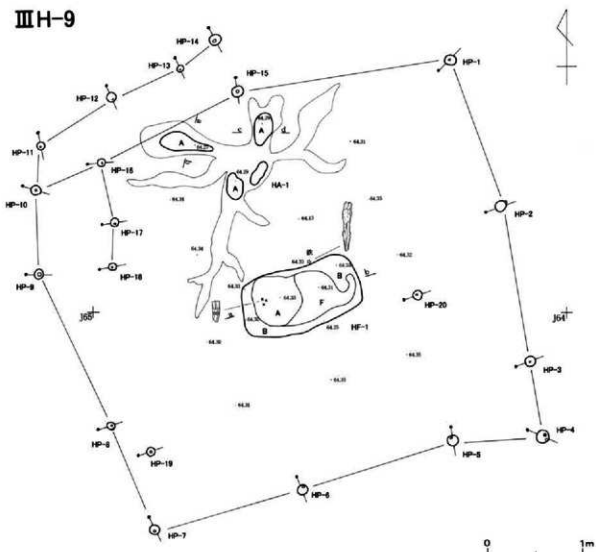
平成21年(2009年)の北海道教育委員会による試掘調査の際に、試掘坑「林46」においてⅢ層中で灰を伴う焼土の一部が検出されていた(図I-2・表I-1)。周辺のⅢb層を精査したところ、焼土の全形と木根による攪乱を受けた灰集中を検出した。平地住居跡を想定し、焼土周辺約1mを残してⅢ層を掘り下げ、柱穴の検出・半截作業を行った。その結果、焼土の周囲に方形に配列する柱穴列を確認し、平地住居跡とした。おおむね東西を長軸とし、長軸中央に炉をもつ。やや不規則であるが3間×3間の構造で、ほかに付帯する柱穴列や補助的な柱穴がある。なお住居跡の東方には獣骨集中ⅢB-4、西側にはⅢB-2と籾集中ⅢS-5(集中区8)があり、それぞれ関連があるとみられる。

付属遺構：焼土1か所、灰集中1か所、柱穴20基を検出した。

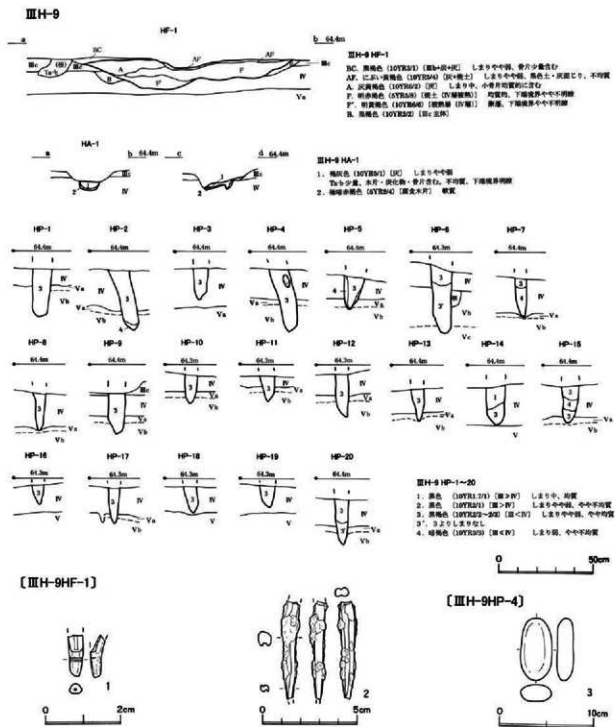
## 〔炉〕ⅢH-9HF-1

約1.3m×0.7mの隅丸長方形で、形状から長方形の枠状の構造をもつ炉と考えられる。被熱層はⅢc～

## ⅢH-9



図Ⅲ-24 ⅢH-9 (1)



図Ⅲ-25 ⅢH-9 (2)・ⅢH-9出土の遺物

IV層下位で、最厚17cmに達する。上層は炭・灰混じり土（「BC」）、中位は灰層（「A」）、下位は被熱層（「F」）である。灰は主に西半部に高純度で堆積している。被熱層は明赤褐色を呈し強く被熱しており、さらに下位のIV層を着色硬化させている（「F'」）。

フローテーションにより焼骨片・炭化物のほか微小な鉄片などを回収した（Ⅲ章11、V章9）。炭化種実同定では、アワ・ヒエ・キビなどが検出された（Ⅲ章10）。

#### 〔灰集中〕ⅢH-9HA-1

HF-1の北側に位置する。放射状に広がる根跡に、灰がブロック状に複数箇所堆積していた。微細な骨片などを含んでいる。

#### 〔柱穴〕ⅢH-9HP-1~20

すべて先端が尖る差し込み柱である。径は7~12cm、検出面からの深さ14~36cmと差がみられる。特に住居の東~南側のHP-1・2・4・6が比較的太く深い。HP-2・4は大きく内傾する。

HP-1~10・15・16は住居の壁面を構成する。HP-11~14は住居跡北側に直列し付帯施設と考えられるが、住居の北壁面を構成していた可能性もある。HP-17~20は住居内の補助的な施設の柱穴と考えられる。

**遺物出土状況：**焼土HF-1では、上面から鉄製品1点が出土した。またHP-4の覆土から礫1点が出土した。

**掲載遺物：**1は管状の部位の側面に2条の細い刻みが入り、当初骨角器としていたが、シカの歯根の一部であることがわかった。2は釘の一部。3は「棒状礫」。

**重複・時期：**土坑墓ⅢGP-1の掘上土がHF-1の上面の一部を被覆しており、ⅢH-9の方が古い。また（集中区8）ⅢS-5の一部が重複する。当遺構の時期は、検出層位やこれらの遺構との関係から、中世の新しい段階に相当するアイヌ文化期とみられる。

（阿部）

#### ⅢH-10 [図Ⅲ-26・27、図版6・41~43・90]

位置：A地区 I63、J62・63、K63区、標高約64.3m 検出層位：Ⅲc~IV層

規模：4.96×4.40m 長軸方位：N-62° E

**確認調査：**A地区南部、土坑墓ⅢGP-1の東側に位置する。礫集中ⅢS-6の調査後、Ⅲ層を掘り下げIV層上面付近に達したところ、灰を伴う焼土2か所と多数の小型円形の黒色土を検出した。黒色土を半截し柱穴の確認を行った。その結果、焼土1か所と方形に配置された柱穴の組み合わせが二組あると判断し、平地住居跡ⅢH-10・ⅢH-11とした。

ⅢH-10は中央に炉をもち、柱穴は3間×3間（西側は4間）で正方形に近い長方形の配置であり、北東-南西を長軸とする。炉の長軸方向が若干異なる。

**付属遺構：**焼土1か所、柱穴13基を検出した。

#### 〔炉〕ⅢH-10HF-1

長軸90cmほどでおおむね楕円形である。被熱層は落ち込んだⅢc層~IV層でV層上面に達し、最厚16cmを測る。上位は炭・灰混じり土、中位は純度の高い灰層、下位は赤褐色の被熱層で、さらに下位を着色硬化させている。フローテーションにより焼骨片・炭化物ほかを回収した（Ⅲ章11、V章9）。炭化種実同定を委託したところ、アワ・ヒエ・キビなどが含まれていた（V章10）。また炭化材片の<sup>14</sup>C年代測定では、410±20yrBP（σ<sup>13</sup>C補正值）の数値を得た（V章12）。

#### 〔柱穴〕ⅢH-10HP-1~13



HP-1～13は住居の壁面を構成する。北東側の中央に位置するHP-2・3は柱穴距離が小さい。すべて先端が尖る差し込み柱である。径は8cm程度の細いものと12cm程度の太いものがある。検出面からの深さは16～47cmと差がみられる。住居の角にあたるHP-1・4・7・11が比較的太く深い上に、大きく内傾する。ほかにHP-13など内傾するものがある。

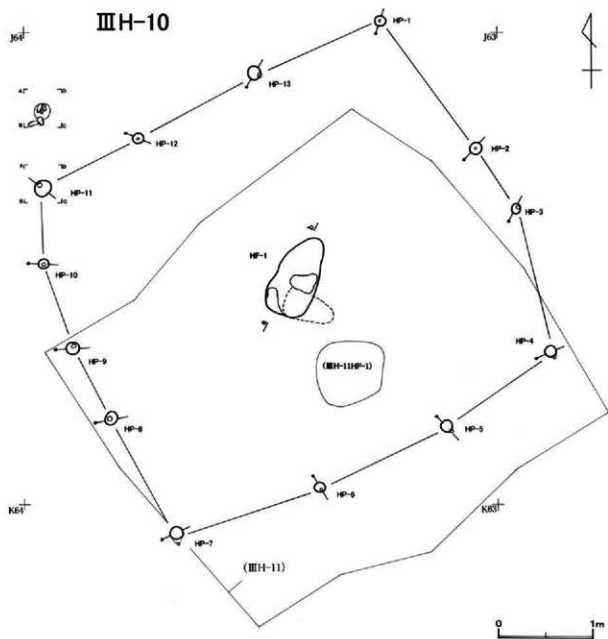
遺物出土状況：HP-11の覆土上位から礫が5点まとまって出土した。

掲載遺物：1～5は砂岩・泥岩のいわゆる棒状礫。1・3はやや扁平である。

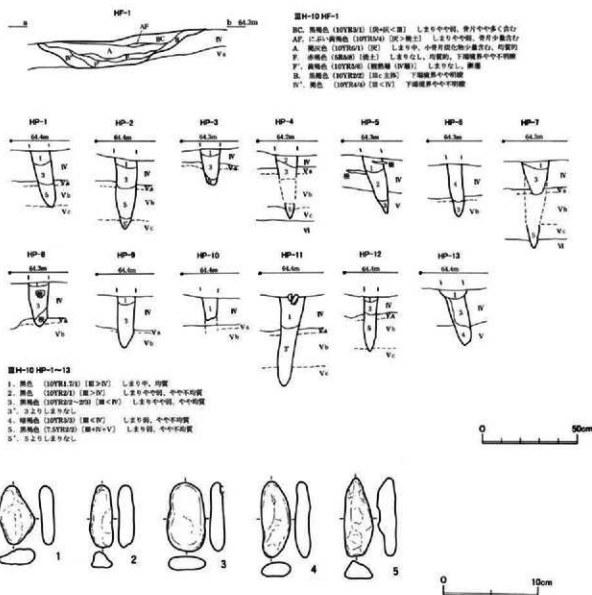
重複・時期：ⅢH-11と重複する。新旧関係は明確に把握できなかったが、炭化材(図Ⅲ-28)がⅢH-11に伴うとすると当遺構の方が古いと考えられる。また(集中区9)ⅢS-6が上位に重複しており、当遺構と関連があると思われる。

時期は、構造や周辺の遺構との関係から、中世の新しい段階に相当するアイヌ文化期とみられる。

(阿部)



図Ⅲ-26 ⅢH-10 (1)



図Ⅲ-27 ⅢH-10 (2)・ⅢH-10 出土の遺物

ⅢH-11 [図Ⅲ-28・29、図版6・41・43]

位置：A地区 J62・63、K63区、標高約64.3m

検出層位：Ⅲc～Ⅳ層

規模：4.80×4.38m

長軸方位：N-53° E

確認・調査：ⅢH-10に重複して検出した。中央に炉をもち、柱穴は3間×4間（未検出の柱穴あり）で正方形に近い長方形の配置であり、ⅢH-10同様に北東-南西を長軸とする。

付属遺構：焼土1か所、柱穴14基を検出した。

〔炉〕ⅢH-11HF-1

径70cm前後の円形に近い楕円形である。被熱層は落ち込んだⅢc層～Ⅳ層で、最厚は12cm。上位は灰混じり焼土、中位は赤褐色の被熱層で、さらに下位を変色硬化させている。フローテーションにより焼骨片・炭化物ほかを回収した（Ⅲ章11、V章9）。

〔柱穴〕ⅢH-11HP-1～14

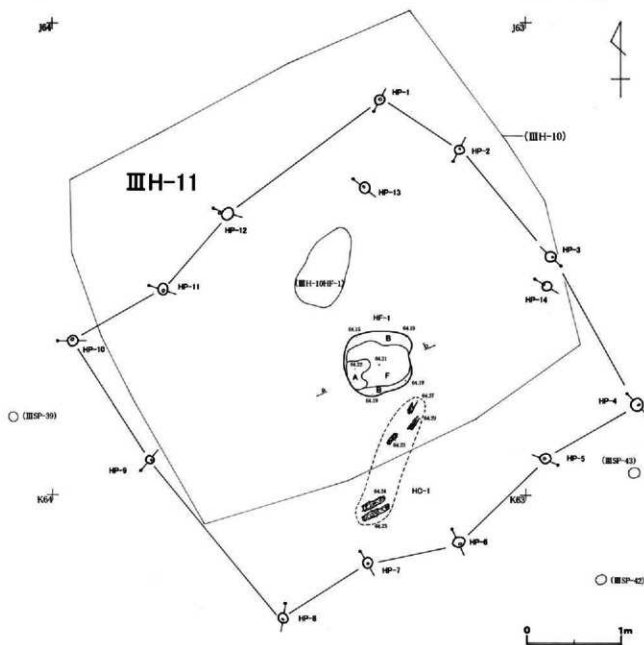
すべて先端が尖る差し込み柱である。径は8～11cmで比較的差が小さい。一方検出面からの深さは12～44cmと差がみられる。特に住居の東角のHP-4、南東のHP-6、北西のHP-12が深く、内傾する。

HP-1～12は住居の壁面を構成し、HP-13・14は住居内部の補助的な柱穴である。

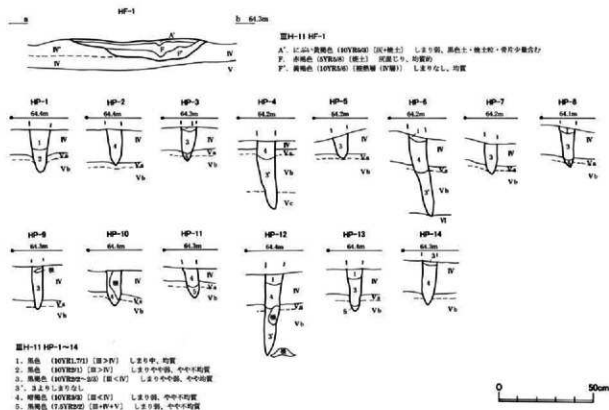
遺物出土状況：炉HF-1の南で数本の炭化材が検出された。

重複・時期：ⅢH-10と重複する。新旧関係は明確に把握できなかったが、炭化材が当遺構に伴うとすると当遺構の方が新しいと考えられる。また（集中区9）ⅢS-6が上位に重複しており、関連があると思われる。時期は構造や周辺の遺構との関係から、中世の新しい段階に相当するアイヌ文化期とみられる。

（阿部）



図Ⅲ-28 ⅢH-11 (1)



図Ⅲ-29 ⅢH-11 (2)

ⅢH-12 [図Ⅲ-30~32、図版6・20・44・45・90]

位置：B地区 N52・53、O52・53区、標高約63.4m 検出層位：Ⅲc~Ⅳ層

規模：5.96×4.71m 長軸方位：N-43° E

確認・調査：Ⅲ層掘り下げ中、灰を伴う焼土を検出した。周辺をⅣ層上面まで掘り下げ、柱穴の検出に努めた。半截の結果、焼土を中心として周囲に多数の柱穴を有する平地住居跡と判断した。当初は焼土の長軸に合わせ、東西方向を長軸とした柱穴を組み合わせた。しかし全体的に柱穴が細く配置が不規則なことから、さらに外側を精査した。その結果、方形に配置する柱穴群を検出し、北東-南西を長軸とする平地住居跡とした。この二つの組み合わせの住居跡が重複していることも考えられる。

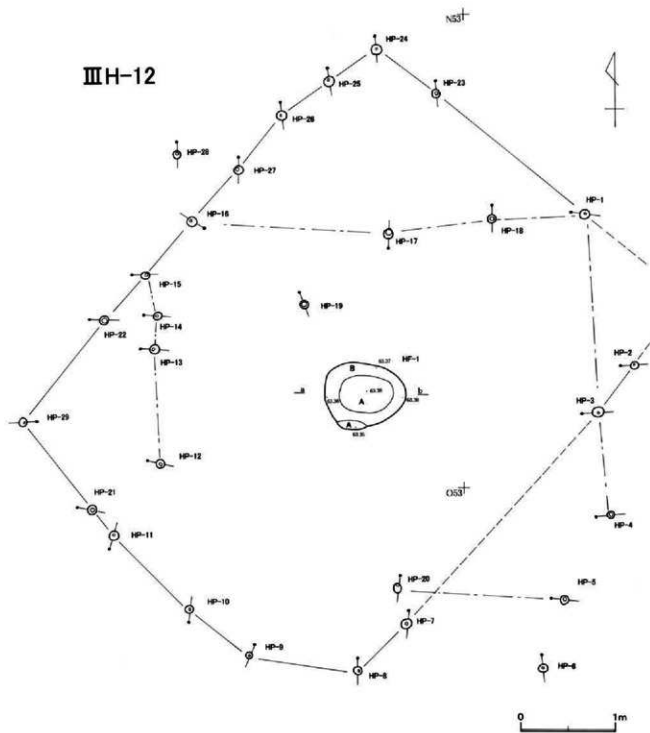
なお北側の柱穴群 (HP-23~28) は、B地区における調査範囲の拡張 (Ⅰ章3) により追加検出した。付属遺構：焼土1か所、柱穴29基を検出した。

〔伊〕ⅢH-12 HF-1

長軸80cmほどでおおむね楕円形である。被熱層はⅢc~Ⅴa層で、最厚15cmを測る。上位は灰混じり土、中位は純度が高く厚い灰層、下位は赤褐色の被熱層で、さらに下位を変色させている。フローテーションにより焼骨片・炭化物ほかを回収した。ホタテガイの貝殻の一部などもある (Ⅲ章11、Ⅴ章9)。炭化材片の<sup>14</sup>C年代測定では、490±20yrBP (σ<sup>14</sup>C補正值) の数値を得た (Ⅴ章12)。

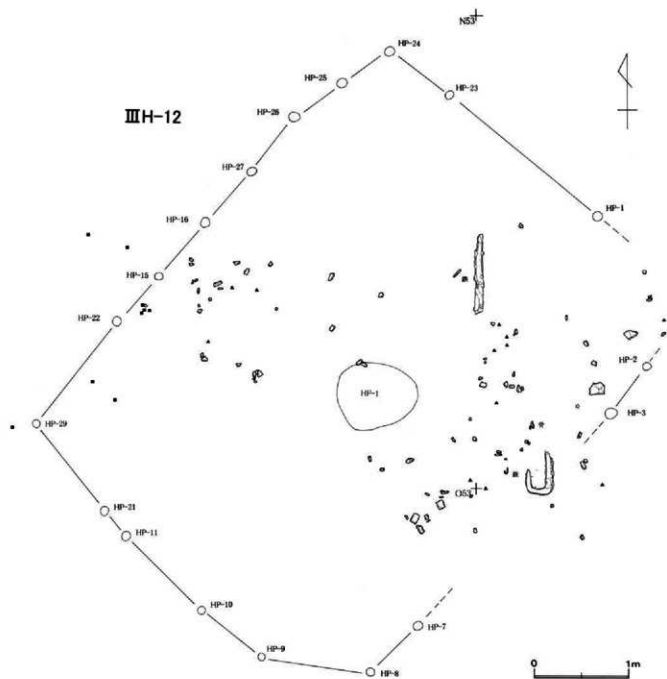
〔柱穴〕ⅢH-12 HP-1~29

住居壁面を構成する柱穴は、当初想定の東西軸では、西 (HP-12-13-14-15)、北 (HP-16-17-18-1)、東 (HP-1-3-4)、南 (HP-5-20) とした。しかし北東-南西長軸では、南東 (HP-2-3-7-8)、南西 (HP-8-9-10-11-21-29)、北西 (HP-29-22-15-16-27-26-25



図Ⅲ-30 ⅢH-12 (1)





図III-32 IIIH-12(3)

一24)、北東(HP-24-23-1)とした。柱穴群の径・検出面からの深さの平均は、前者で8.1cm・16.8cm、後者で8.3cm・21.6cmである。ほか小柱穴を検出した(HP-6・19・28)。

すべて差し込み柱とみられ、先端が尖る。ただしHP-29など少数は先端が丸みを帯びる。柱穴はほとんどが直立するものの、HP-16など少数に傾きがみられる。

**遺物出土状況**：遺物は、集中区2として取り上げたものが多い。III H-12では、床面に相当するIII b層において、炉の南東側と北西側に遺物が散在する。合計点数は146点で、VII群c類土器1点、たたき石1点、フレイク31点、礫111点、鉄製品2点が出土した。

**掲載遺物**：1・2は鉄製品。1は釘の下半部。上部部がやや湾曲している。2は鉤状製品。断面が方形で、和釘を湾曲させ先端を研磨するなどの加工が行われたと考えられる。3～14は砂岩・泥岩の礫。いわゆる棒状礫が主体である。比較的小型のものが多い。

掲載した礫の平均値は以下のとおりである(長さ×幅cm/重量g [長短比])。

III H-12 6.1×3.0cm/35.1g [2.0]

**重複・時期**：集中区2の遺物群の一部が重複する。当遺構は、検出層位や住居の構造などから、中世段階のアイヌ文化期とみられる。

(阿部)

### III H-13 [図III-33～35、図版6・20・45・46・90]

**位置**：B地区 O・P53区、標高約63.4m **検出層位**：III b層

**規模**：3.88×3.06m(主体部のみ) **長軸方位**：N-69° E

**確認・調査**：III層掘り下げ中、「集中区1」の密集域から少し離れた範囲で多数の遺物と焼土を検出した。周辺をIV層上面まで掘り下げ、柱穴の検出に努めた。半載の結果、焼土を中心として周囲に柱穴を有する平地住居跡と判断した。主体部は中心に炉をもち、西北西-東南東を長軸とする正方形に近い長方形で、北側に関連する柱穴がやや不規則に検出された。

住居跡の南方、段丘崖に近い位置に焼土(III F-6)があり、付近に焼けたシカの角が残存していた。**付属遺構**：焼土1か所、柱穴15基を検出した。

#### 〔炉〕III H-13HF-1

径50cmほどでおおむね円形である。被熱層はIII c～IV層上位で、最厚6cmほどである。上位は灰混じり土、下位は明褐色の被熱層で、周縁部は漸遷する。フローテーションにより焼骨片・炭化物ほかを回収した(III章11、V章9)。

#### 〔柱穴〕III H-13HP-1～15

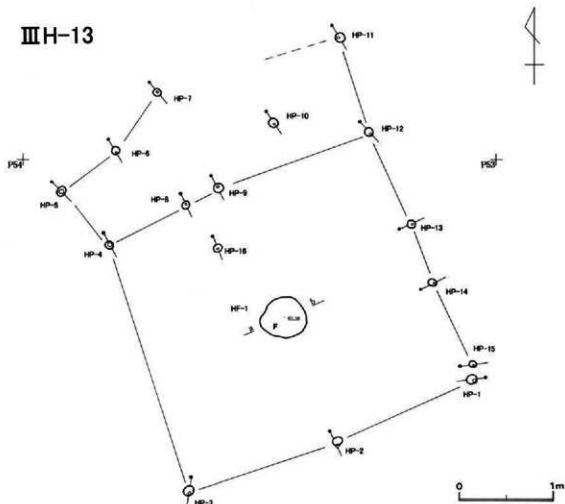
主体部をなす柱穴はHP-1～4・8・9・12～15で、北側に関連すると思われる柱穴HP-5～7・10・11がある。また住居跡内に柱穴HP-16がある。また細い柱穴HP-15は住居の東角のHP-1に隣接し、補助的なものと考えられる。すべて差し込み柱とみられ、先端が尖る。径の大小や深さの差が比較的明瞭で、住居の角を含むHP-1・3・5・11が比較的太く、深い。HP-9の深さは突出している。HP-3・15は内傾する。

**遺物出土状況**：遺物は、一部集中区1として取り上げたものがある。III H-13では床面に相当するIII b層において、炉の南西側にやや散漫に分布する。合計点数は304点で、フレイク1点、礫301点、鉄製品2点(1個体)が出土した。

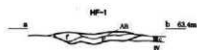
**掲載遺物**：1は刀子。切っ先側で折損していたものが接合した。柄は欠損する。2～16は砂岩・泥岩の「棒状礫」。掲載した礫の平均値は以下のとおりである(長さ×幅cm/重量g [長短比])。



### ⅢH-13

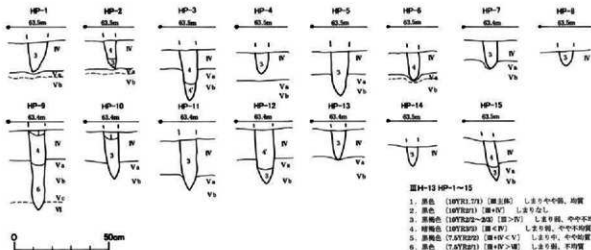


(圖F-6)



ⅢH-13 HP-1

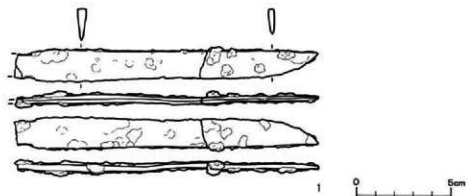
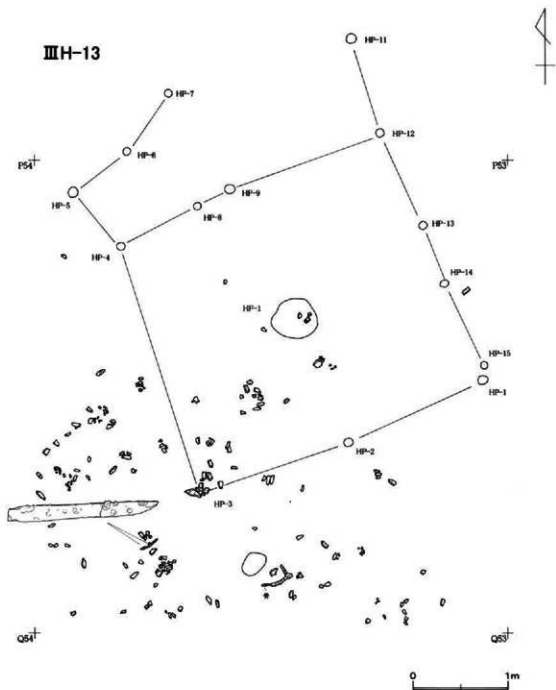
AB: 原褐色 (2.0YR3/2) (灰+泥) しまり中~弱、薄片少数含む、中~不均質  
 1: 原褐色 (7.5YR3/2) (泥+糊上+泥) しまり中、不均質  
 F: 原褐色 (7.5YR3/2) (粘土) しまり弱、均質C+、均質D



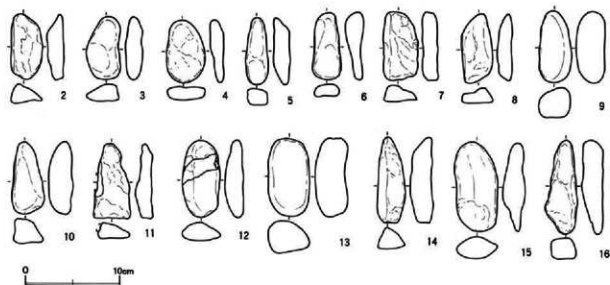
ⅢH-13 HP-1~15

- 1: 原色 (10YR3/2) (黄土相) しまり中~弱、均質
- 2: 原色 (10YR3/1) (黄土相) しまり中
- 3: 原褐色 (10YR3/2~2.5) (泥+泥) しまり弱、中~不均質
- 4: 原褐色 (10YR3/2) (泥+泥) しまり中、中~不均質
- 5: 原褐色 (7.5YR3/2) (泥+IV<V) しまり中、中~均質
- 6: 原色 (7.5YR3/1) (泥+IV>泥) しまり弱、不均質

圖Ⅲ-33 ⅢH-13 (1)



図Ⅲ-34 ⅢH-13 (2)・ⅢH-13出土の遺物



図Ⅲ-35 ⅢH-13出土の遺物(2)

ⅢH-13 7.8×3.6cm/76.6g [2.2]

**重複・時期:** 集中区1の遺物群の一部が重複する。当遺構は検出状況や住居跡の構造などから、中世段階のアイヌ文化期とみられる。

(阿部)

ⅢH-14 [図Ⅲ-36・37、図版6・20・47・91]

**位置:** B地区 L52・53、M52・53区、標高約63.4m **検出層位:** Ⅲb層

**規模:** 4.64×4.09m **長軸方位:** N-80° E

**確認・調査:** B地区では、撤文～アイヌ文化期の遺構・遺物が境界付近からも検出され、さらに北側に調査範囲を拡張することとなった(Ⅰ章3)。その拡張範囲から検出した。Ⅲb層を精査したところ、灰を伴う焼土の一部を検出した。平地住居跡を想定し、焼土周辺約1mを残してⅢ層を掘り下げ、柱穴の検出・半截作業を行った。その結果、焼土の周囲に方形に配列する柱穴列を確認し、平地住居跡とした。炉周辺のⅢ層を掘り下げたところ、住居内からも細い柱穴を検出した。

おおむね東西を長軸とし、長軸中央に炉をもつ。やや不規則であるが4間×4間の構造と考えられる。

**付属遺構:** 焼土1カ所、柱穴22基を検出した。

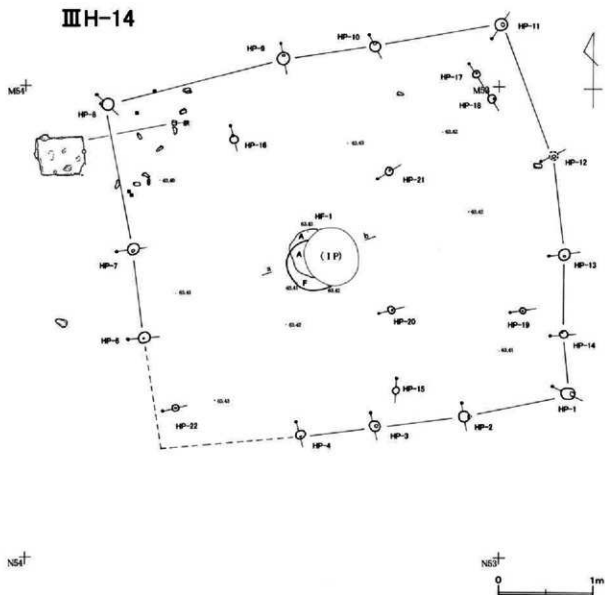
(炉) ⅢH-14HF-1

大部分がⅠ層から掘り込まれた土坑に切られているが、楕円形とみられる。中央付近から北側にかけて、上面に灰が広がる。上位は炭化物混じり土、下位は灰混じりの被熱層で、厚さ10cm以上である。

(柱穴) ⅢH-14HP-1～22

比較的明瞭に検出でき、また配置も整っていた。主体部を構成する柱穴は、HP-1～4・6～14である。これらの柱穴は、径10cm以上で深さ30cm以上に及ぶものが多い。住居跡の南東角にあたる柱穴を想定したが(HP-5)検出できなかった。またHP-12はⅣ～Ⅴb層に攪乱がおよび、上位が不明である。

HP-15～22は住居内部の施設や、何らかの活動により差し込まれた穴と考えられる。径6～8cmで深さは10～20cmほどである。



図Ⅲ-36 ⅢH-14 (1)

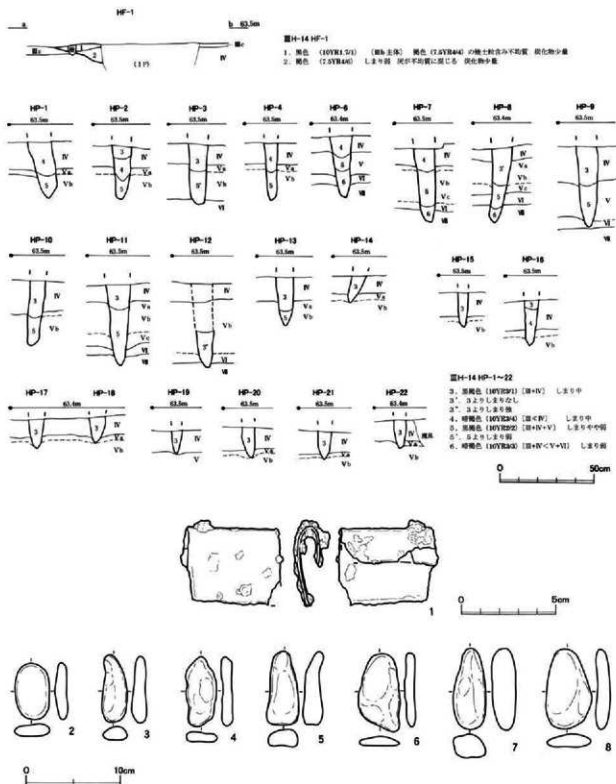
**遺物出土状況**：合計点数は20点で、鉄製品1点のほかは礫である。礫は住居跡の北西角付近に比較的まとまりがあり、鉄製品も含まれている。東壁側からもわずかながら出土している。

**掲載遺物**：1は刀装具の一種で、刀類の「はばき」に類似する鉄製品。上幌内モイ遺跡の集中区1出土品(図Ⅲ-9-31、厚真町2007)に近似する。2～8は砂岩・泥岩の「棒状礫」。掲載した礫の平均値は以下のとおりである(長さ×幅 cm/重量 g [長短比])。

ⅢH-14 7.7×3.7cm/61.0g [2.1]

**時期**：検出層位や住居の構造などから、中世の新しい段階のアイヌ文化期とみられる。

(阿部)



図Ⅲ-37 ⅢH-14 (2)・ⅢH-14出土の遺物

## 2 建物跡

建物跡1 [図Ⅲ-38、口絵3、図版48]

位置：C地区 n30・31区、標高約63mの舌状台地先端部 検出層位：Ⅳ層

規模：3.10×2.86m 長軸方位：N-11° E

**確認・調査：**Ⅲ層調査後、Ⅳ層上面で複数の柱穴状小土坑を検出した。精査の結果、同規模と思われる9基の柱穴が3基×3列のほぼ正方形に並んでいることがわかった。半截した断面から、柱穴はⅢHのHPよりも径が太いものが多く、Ⅴ層中まで深く差し込まれていることを確認した。柱の配置・規模や、厚真川を挟む対岸に上幌内モイ遺跡を臨む立地から、平地住居跡ではなく倉庫や櫓のような高床構造をもつ建物跡と判断した。

**付属遺構：**柱穴9基を検出した。

〔柱穴〕建物跡1HP-1～9

9基は3列に分かれており、北列西側からHP-3・9・7、中列HP-2・8・5、南列HP-1・4・6となっている。いずれも径は12～15cmで、深さはⅣ層上面から27cm以上、最も深いもので55cmあった。なおHP-9はⅤ層上面で確認したため深さが14cmほどとなった。断面はいずれも先端が尖り、柱がほぼ垂直にⅤ層中～下位まで差し込まれたと思われる。覆土はⅢ・Ⅳ層が混在し、HP-5・7は堅固であるが、他は非常に脆弱である。

**遺物出土状況：**礫4点が出土した。

**掲載遺物：**1～3は砂岩の「棒状礫」。

**重複・時期：**HP-7・9付近に焼土ⅢF-3が重複し、建物跡が新しい。

建物の形態や周辺の状況から、アイヌ文化期と思われる。

(新家)

## 3 杭列

ⅢB-1、ⅢSP-31～38 [図Ⅲ-39、口絵2、図版49]

位置：A地区 F64・65、G64・65、H65区、標高約64mの台地上 検出層位：Ⅲb層

規模：ⅢB-1 9.20×2.40m、ⅢSP-31～38 (杭列全体の範囲) 2.20×0.16m

**確認・調査：**Ⅲ層調査中、シカの角や上顎骨と思われる歯・焼骨片が南北に細長く散在するのを検出した。

またⅢB-1の西側に隣接して杭列が1列検出された。杭跡は全部で8基あり、南北方向にはほぼ直線に並んでいる。直径は6～12cm、深さは6～14cmである。覆土はⅢ層主体の黒色土で、脆弱である。シカの頭骨を配し、イナウを設置した屋外の送り場(祭壇)跡の可能性がある。

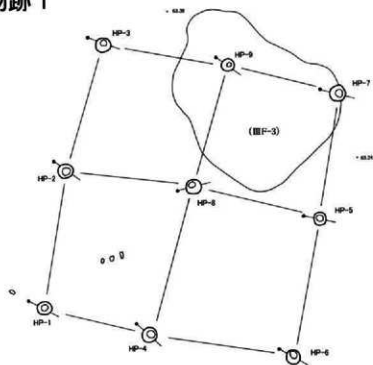
**遺物出土状況：**上記のとおり、シカの角・上顎骨・歯・頭椎の焼骨片が9地点で出土した。それ以外に、礫8点が出土した。

**時期：**検出面や周辺の状況から、アイヌ文化期と思われる。

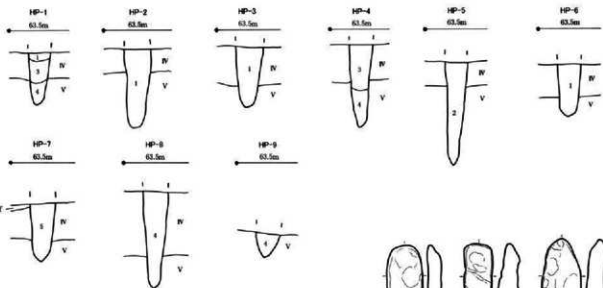
(新家)



# 建物跡 1



## 建物跡 1

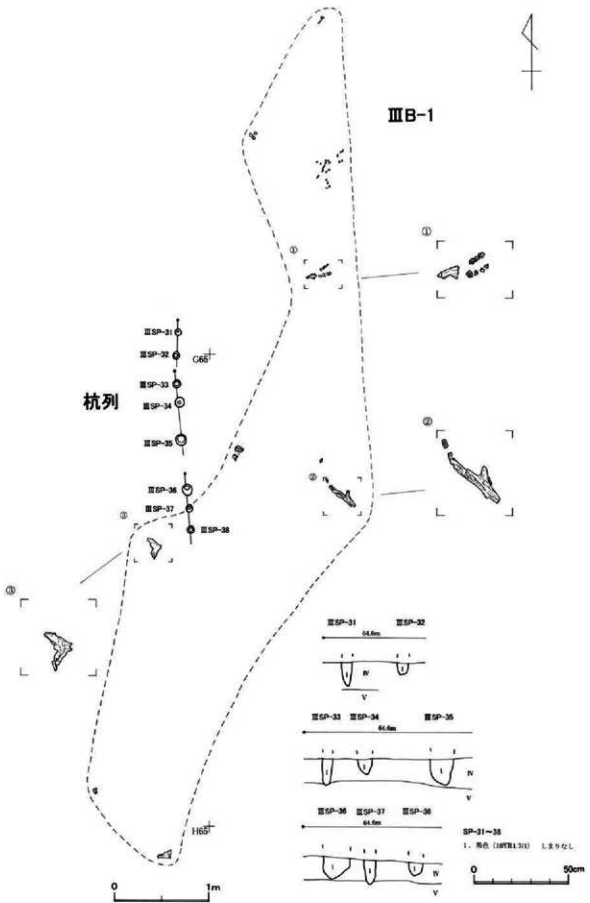


### 建物跡 1

1. 褐色 (10YR5/3) [III+IV] 砂礫土 L:2.5
2. 褐色 (10YR5/3) 砂礫土 壁
3. 灰褐色 (10YR5/3) [IV>III] 砂礫土 L:1.5
4. 褐色 (10YR5/3) [III>IV] 砂礫土 L:2.5
5. 褐色 (10YR5/3) 砂礫土 壁



図III-38 建物跡 1



図Ⅲ-39 杭列・ⅢB-1



## 4 柱穴状小土坑

Ⅲ層（～Ⅳ層）では、柱穴状小土坑を計 250 基検出した。このうち平地住居跡や建物跡、杭列などの遺構を構成するものや集中区に伴うものを除く 34 基について記載する。検出面はⅣ層上面（一部Ⅴ層）であるが、Ⅲb層から差し込まれていると考えられる。時期は周辺の各遺構等から、アイヌ文化期とみられる。

（阿部）

### ⅢSP-1～7 [図Ⅲ-40・42、図版 50]

位置：C地区 S20・21区 標高約64mの平坦部

確認・調査：焼土ⅢF-1の北側のⅣ層で、3基一列の杭状の落ち込みを2列、やや西に離れて1基の小土坑を検出した。半載の結果、深さは5～16cm、覆土はⅢ層主体の黒～黒褐色土であった。

### ⅢSP-8～10 [図Ⅲ-40・42、図版 50]

位置：C地区 T19区 標高約64mの平坦部

確認・調査：平地住居跡ⅢH-2の東側に径10cmほどの落ち込みを3か所検出した。半載し、深さ17～24cm、覆土が堅固な黒～黒褐色土の柱穴とわかった。用途は不明であるが、平地住居跡ⅢH-2を挟んで北西側にⅢSP-1～7があり、関連する施設の一部かも知れない。

### ⅢSP-21・22 [図Ⅲ-40・42]

位置：C地区 k28・29区 標高約64mの段丘上平坦部

確認・調査：灰集中ⅢA-2周辺で2基の杭状の落ち込みを検出した。深さはⅢSP-21が35cm、ⅢSP-22が25cmである。覆土はⅢ層主体の黒色土である。

（新家）

### ⅢSP-24～30 [図Ⅲ-40・42、図版 50]

位置：C地区 R16、S16・17、W14、Y13、Z12区 標高約65mの段丘上平坦部

確認・調査：C地区北東側に散在する柱穴を検出した。ⅢSP-24・25はⅢH-7の北側、ⅢSP-29はⅢF-3付近にある。

### ⅢSP-39～43 [図Ⅲ-41・42、図版 50]

位置：A地区 J62・64・65、K62区 標高64～65mの段丘縁辺部

確認・調査：ⅢH-9・10・11周辺で検出した。

### ⅢSP-51～58 [図Ⅲ-41・42、図版 50]

位置：B地区 O52・53・54、P52区 標高63～64mの段丘上平坦部

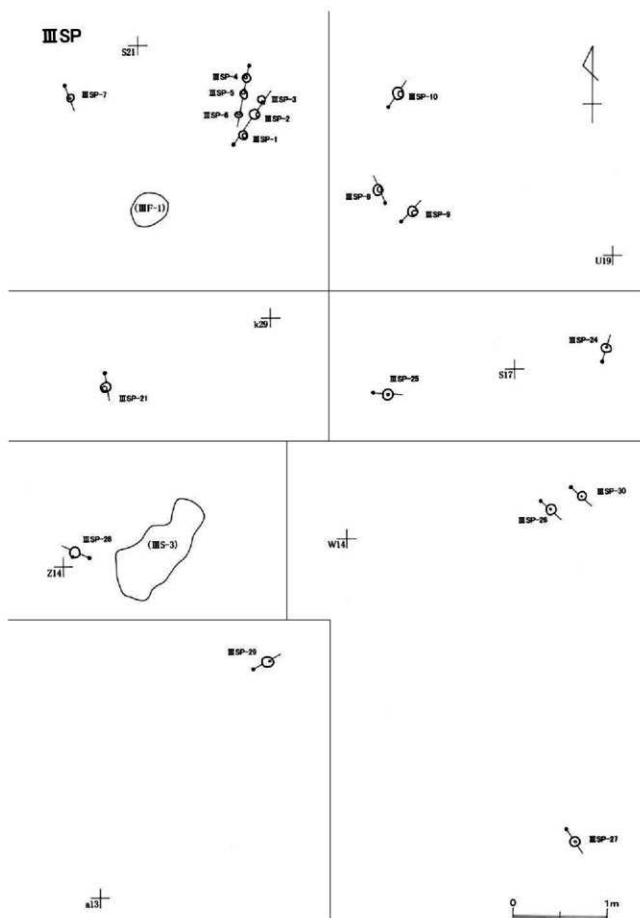
確認・調査：散在する柱穴状小土坑を検出した。ⅢSP-53は径10cm、深さ40cmを測る。

### ⅢSP-68・69 [図Ⅲ-41・42、図版 50]

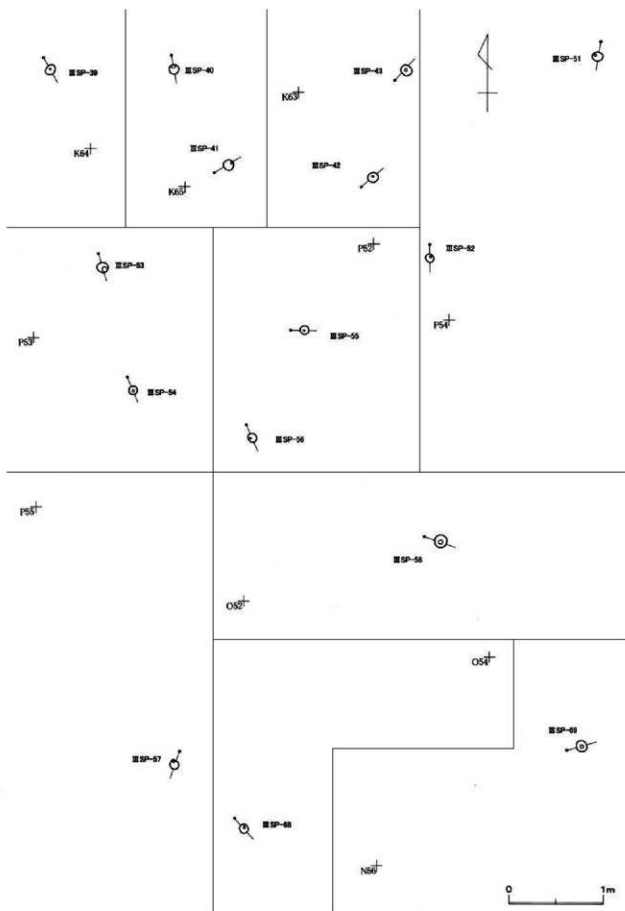
位置：B地区 M55、O54区 標高約63mの段丘上平坦部

確認・調査：拡張調査範囲において、散在する柱穴状小土坑を検出した。

（阿部）

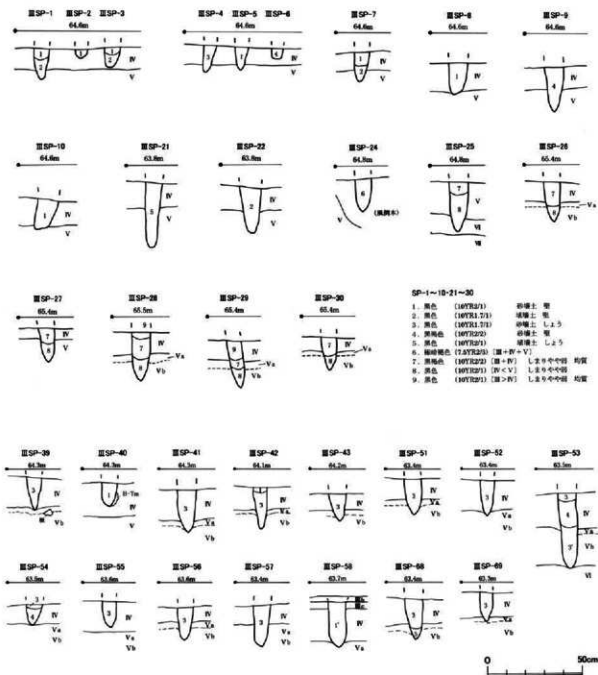


図Ⅲ-40 Ⅲ SP (1)



図Ⅲ-41 III SP (2)

Ⅲ SP



SP-1~10-21~30

- 1. 黒色 (10YR2/1) 砂礫土 Ⅱ
- 2. 黒色 (10YR1.7/1) 砂礫土 Ⅲ
- 3. 黒色 (10YR1.7/1) 砂礫土 Ⅳ
- 4. 黄褐色 (10YR2/2) 砂礫土 Ⅴ
- 5. 赤色 (10YR2/3) 砂礫土 Ⅵ
- 6. 黒褐色 (2.5Y2/2) Ⅱ+Ⅲ+Ⅳ
- 7. 黄褐色 (10YR2/2) Ⅱ+Ⅲ Ⅴ
- 8. 赤色 (10YR2/1) Ⅲ<Ⅳ Ⅴ
- 9. 赤色 (10YR2/1) Ⅲ>Ⅳ Ⅴ

SP-39~43

- 1. 赤色 (10YR1.7/1) Ⅲ>Ⅳ Ⅴ
- 2. 赤色 (10YR2/1) Ⅲ>Ⅳ Ⅴ
- 3. 黒褐色 (2.5Y2/2~3/2) Ⅲ<Ⅳ Ⅴ

SP-51~57

- 1. 赤褐色 (2.5Y2/2) Ⅲ
- 2. 赤褐色 (2.5Y2/2) Ⅲ
- 3. 赤褐色 (2.5Y2/2) Ⅲ>Ⅳ

SP-66-69

- 1. 赤褐色 (10YR2/1) Ⅲ+Ⅳ Ⅴ
- 2. 赤褐色 (10YR2/2) Ⅲ+Ⅳ+Ⅴ Ⅴ

SP-58

- Ⅱ: 赤色 (2.5Y2/1) Ⅴ
- Ⅲ: 赤褐色 (10YR2/2) Ⅴ
- Ⅳ: 赤褐色 (10YR2/1) Ⅲ>Ⅳ Ⅴ

図Ⅲ-42 Ⅲ SP (3)

## 5 土坑墓

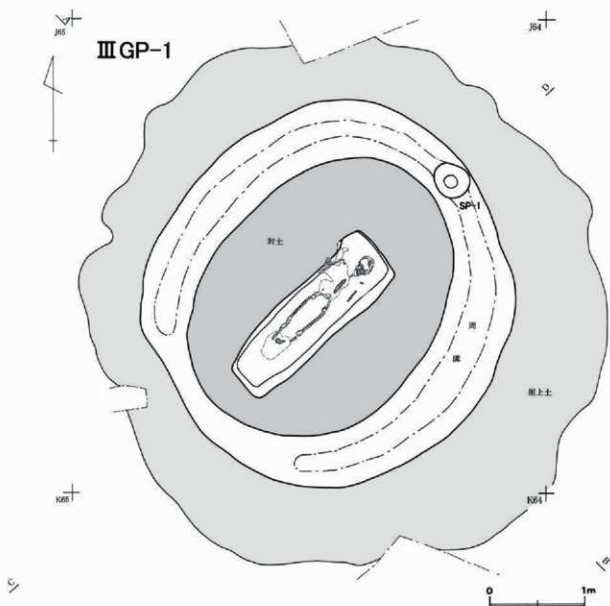
ⅢGP-1 [図Ⅲ-43～53、口絵1、図版7～9・15～18]

位置：A地区 J63・64、K64区、標高64.3～64.4m 検出層位：Ⅲb層

規模：〔墓域（周溝・封土）〕3.94×3.80/0.66m、（周溝外形、深さは封土上面～墓坑坑底）

平面形：〔墓域（周溝・封土）〕円形 長軸方向：N-49° E

確認・調査：重機によるⅠ～Ⅱ層除去の際に、環状のT a-bを検出した。Ⅲ層上面の清掃を行ったところ、環状に近い馬蹄形にT a-bが落ち込む状況と、その内側がマウンド状にやや盛り上がり中央の一部でT a-bが落ち込む状況を確認した。また上面から鉄鍋片が出土した。土坑墓を想定し、まずこの時点で微細な地形図（2cmコンター、図Ⅲ-44）を作成した。残存するT a-b・Ⅲa層を掘り下げて周溝および中央部の落ち込みと、マウンド（封土）上面および掘上土とみられる土壌を検出し、土坑墓上面全体の微細な地形図（図Ⅲ-45上）を作成した。周溝中で杭穴（墓標穴）を検出しており、これと封土中央の落ち込



図Ⅲ-43 ⅢGP-1

みを結ぶラインを長軸として十字にトレンチを設定し掘り下げた。断面観察後、南側から順次墓坑の掘削を行い、遺体層を検出した(図Ⅲ-48左)。さらに遺体・副葬品の検出を行い、写真撮影・図化を複数回行った(図Ⅲ-48右ほか)。人骨は脆弱な部分が多く、バインダー溶液での補強を繰り返した。また漆器(塗膜)の保湿に努めた。

次に封土を掘り下げ、椀状にくぼませた墓坑構築面を検出し図化した(図Ⅲ-45下)。その後墓坑内の副葬品・人骨を取り上げ、完掘状況を撮影し調査を終了した。

【掘上土】 規模：5.80×5.44/0.08m

周溝の周囲におおむね環状に分布する。幅1m前後、厚さ3cm程度の部分が多い。V層を主体とする土壌で、T a - d テフラやロームが含まれている。乾燥時に少量の水を撒くと、乾き方の違いにより周囲のⅢ層との区分ができる(図版7-2)。

【周溝】 規模：3.94×3.80/0.16m

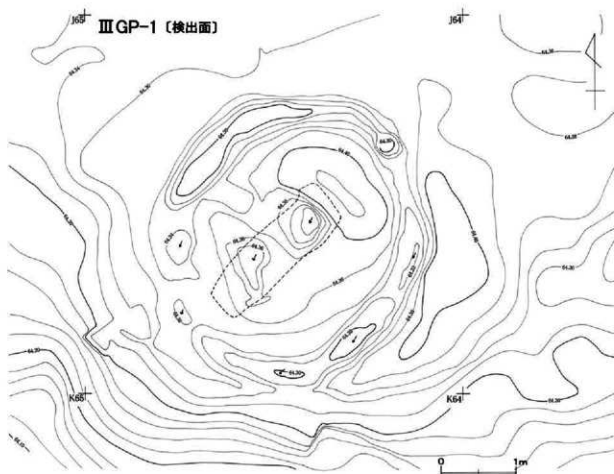
封土の周囲に環状に残存する溝である。幅は30~70cm、深さ10cm前後で、墓坑延長上の南西側は幅が狭く浅い。封土を盛り残して「溝」状の範囲を形成したと考えられる。

【墓標穴】 SP-1 規模：0.16×0.16/0.55m

周溝の北東部、墓坑の長軸延長上に位置する。検出面での径は40×35cmで、IV層下位付近で径16cmほどとなる。直立し、下端がⅦb層まで達し先端部が尖る。覆土はしよりの弱い土壌が下位まで続く。

【封土】 規模：3.18×2.40/0.44m

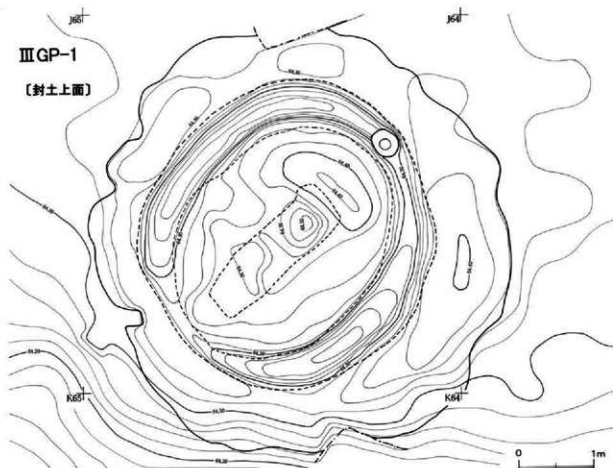
円形のマウンドをなす。IV層主体でⅢ・V・VI層が混じる暗褐色土を主体とする。ブロック状の黒色土



図Ⅲ-44 Ⅲ GP-1 地形測量図(1)

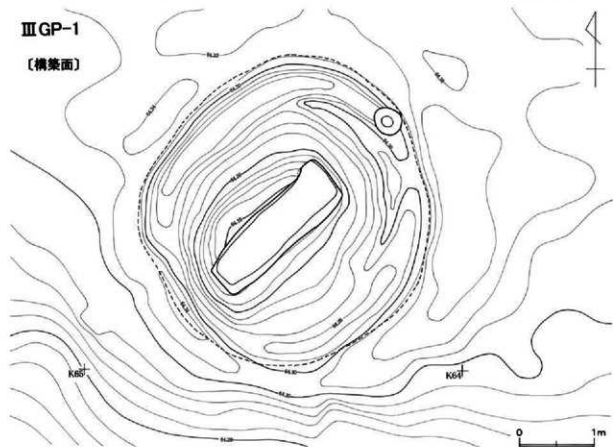
ⅢGP-1

【封土上面】



ⅢGP-1

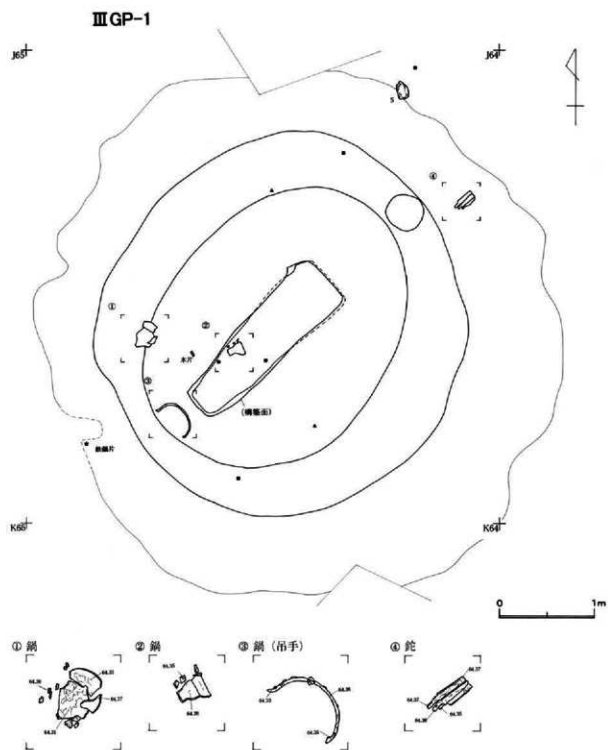
【構築面】



図Ⅲ-45 ⅢGP-1地形測量図(2)

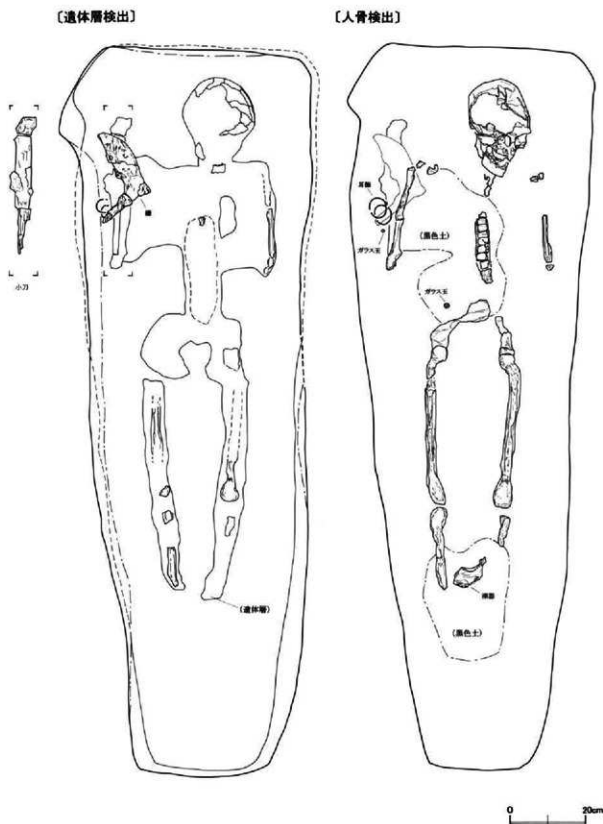




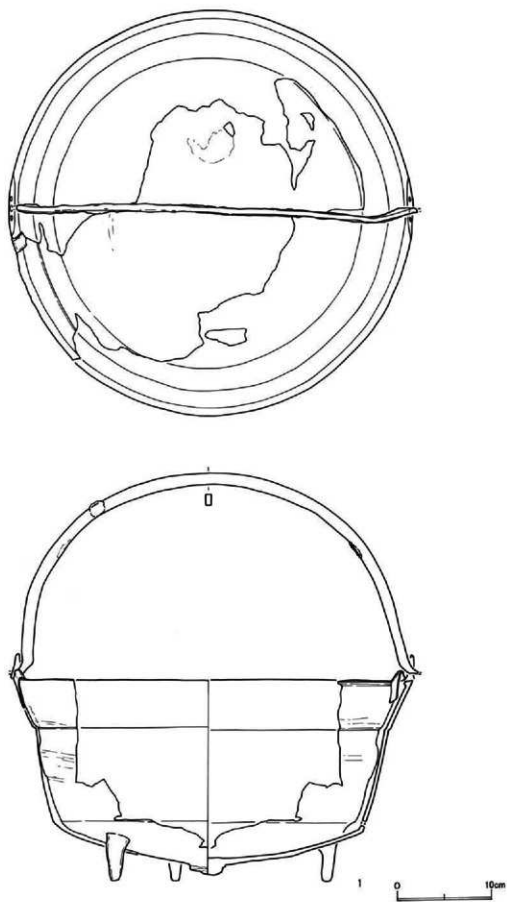


図III-47 III GP-1 遺物出土状況

Ⅲ GP-1

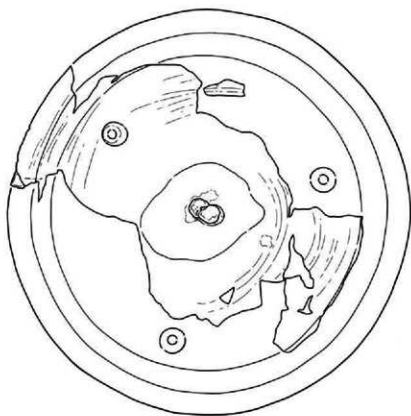
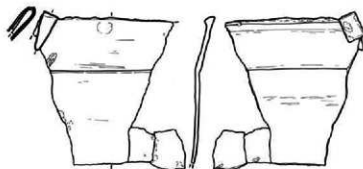


図Ⅲ-48 Ⅲ GP-1 人骨出土状況

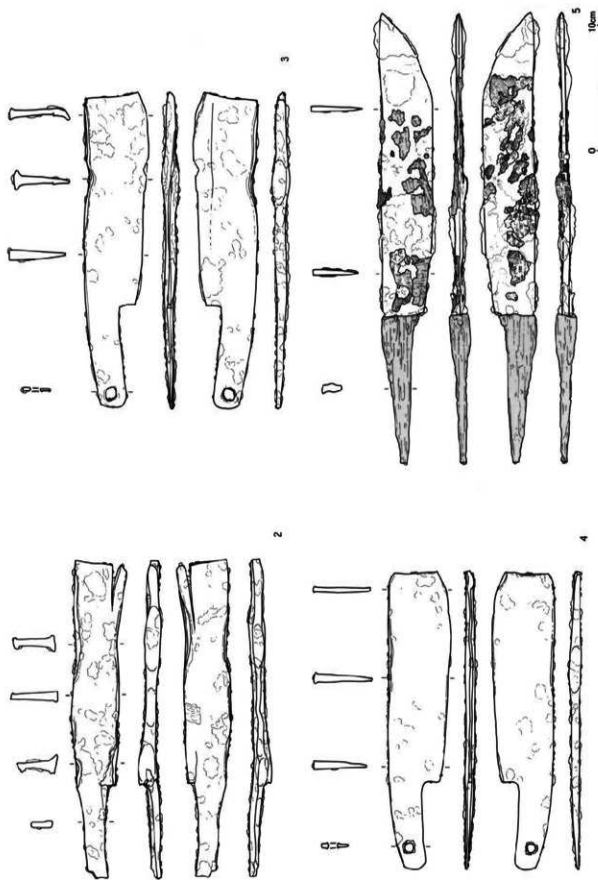


図Ⅲ-49 ⅢGP-1出土の遺物(1)

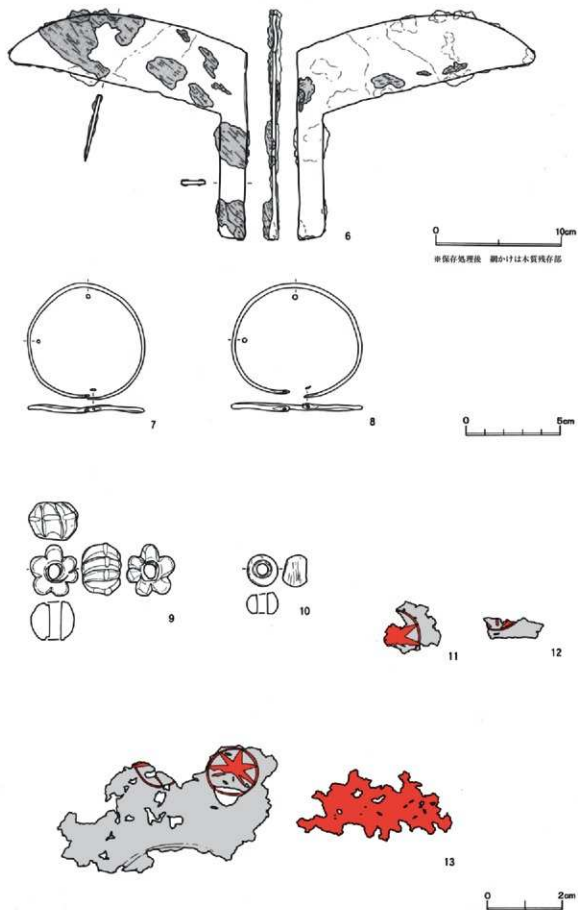
〔保存処理前〕



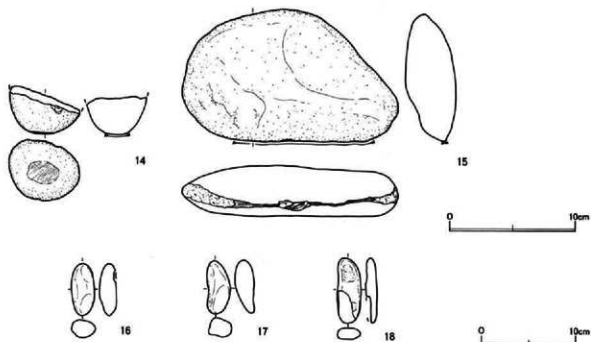
図Ⅲ-50 ⅢGP-1出土の遺物(2)



図III-51 III GP-1出土の遺物(3)



図Ⅲ-52 ⅢGP-1出土の遺物(4)



図Ⅲ-53 ⅢGP-1出土の遺物(5)

を含む薄層がある。中央部上面が陥没しており、遺体の腐朽によると考えられる。

【墓坑】 規模：1.94×0.67/1.92×0.66/0.32m（構築面以下） 平面形：おおむね長方形  
長軸方向：N-49° E

長台形をなし、北東が幅広く南西に向かって幅を減じる。北角に張り出し部をもつ。坑底はⅥ～Ⅶ層で、おおむね平坦であるが北東（頭位）側が高くなる。壁はオーバークンギングしてから上位で外傾する。特に北西側の内傾が顕著である。

覆土はⅣ層主体でⅢ・Ⅴ・Ⅵ層が混じる暗褐色土、Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ層混じり土主体の黒色土が大部分を占める。坑底上6～10cm（頭部は約20cm）ほどに遺体層があり、糊状の骨を含む褐灰～黒褐色の土壌が薄く堆積する（図Ⅲ-46）。

【出土遺体】 残存長：1.35m、幅0.45m（頭頂部～脚部）

埋葬姿勢は北東頭位の仰臥伸展葬で、土圧によるためか頰をやや左（南東）に傾けていた。頭蓋骨・頸椎・胸椎の一部・右上腕骨・下肢骨の一部が良好に残存する（図Ⅲ-48）。壮年女性との人類学的所見が報告された（Ⅴ章7）。

遺物出土状況：封土上面から鉄鍋片17点（同一個体）、掘土上から鉞3点出土し（図Ⅲ-47）、これらは供獻品と考えられる。鉄鍋片のうち、吊手は完形で墓坑南西端部付近から出土した。底部片は封土西端付近で、内面を上に向け脚が封土に刺さった状態で出土した。側面の一部は、陥没した封土上でT a - b中から出土した。鉞は頭位（北東）方向に3本並べて置かれていた。

墓坑内の副葬品は、右肩部～上腕骨の上から、鎌・小刀が重なって出土し、その下に銀製耳飾り2点とガラス玉1点（小玉）があった。また寛骨付近からガラス玉1点（蜜柑玉）、脚部下位から漆器（塗膜のみ残存）が出土した。

このほか、封土中から3cm程度の木片1点、封土上や周溝・掘土上から礫やフレイクが少数出土した。後者は周辺遺物が混入したものとみられる。

**掲載遺物：**1は吊耳の鉄鍋。側面の一部・底部の一部の破片が接合し、口径・器高が測定可能となり復元を委託した。その結果、吊手を含めた径・高さとも43.0cm、口縁以下の高さ21.3cmを測る大型の鍋であることが分かった。底部中央に丸湯口があり、周縁近くに脚が付されている。脚は長さ約5cmで、1本のみが残存していた。側面の立ち上がりは急で、上位で弱い段をもち外傾する。口唇は断面三角形である。また口唇上に刀子の切っ先側を折り曲げたものが付着しており(図Ⅲ-50上)、破損部の補強と考えられる。吊手は断面長方形の半環状で、吊手との装着部で外反する。一部屈曲した部分がみられる。

2～4は鉞。すべて棟側を平坦に叩き潰す再加工が行われている。特に2は刃部もすべて深くつぶれ、先端部が裂けている。柄の端部を欠いており、目釘穴は不明である。太刀の再利用品の可能性もある。3・4は刃部の一部もつぶれている。柄部に目釘穴をもつ。5は残存長約36cmの小刀。平棟平造で、柄部に鞘状の木質が残存する。また刀身にも木質部と布状の繊維痕が多数観察される。6は鎌。刃部は約6cmあり幅広である。表面に木質部が斜方向に多数付着している。3点に分割されていたものが接合した。7・8は銀製の耳飾り。輪の1か所が切れており、端部を平坦化し繊維通し穴が穿たれている。断面径は2mm程である。

9・10はガラス玉。9は紺色の蜜柑玉。7房あり、側面に製作時の痕跡とみられる稜が圍繞する。平取町二風谷遺跡包含層出土資料に類似するものがある(平取町1987)。10は白色の小玉。

11～13は漆器の塗膜で同一個体。13は椀の体部～底部付近で、内外面の塗膜が残存し木胎部が欠落する。外面は黒漆地に赤色の紅葉紋が2か所施されている。内面は全面赤色である。分析の結果、炭粉洗下地の漆塗り、文様は水銀朱が用いられていることが分かった(V章5)。

14・15は掘上土出土のすり石。14は半割の円礫が用いられている。16～18は「棒状礫」。16・17は封土中、18は周溝からの出土。

**重複・時期：**当土坑墓の東～南東側では、掘上土が礫集中ⅢS-6およびⅢH-10・11の一部を被覆しており、当遺構が新しい。また北側では、同じく掘上土がⅢH-9の塚の一部を被覆しており、やはり当遺構が新しい。

時期はⅢA層直下という検出層位や類似遺構の調査例から、中世末～近世初頭の段階のアイヌ文化期とみられる。なお封土中出土の木片を対象とした放射性炭素年代測定では、 $300 \pm 20$ yr BP ( $\alpha^{13}\text{C}$ 補正值)の数値を得た(V章12)。

(阿部)

### ⅢGP-2 [図Ⅲ-54・55、口絵2、図版9・18・19]

**位置：**A地区 I64・65区、標高約64.0m

**検出層位：**V層

**規模：**— ×1.28 / — ×1.10 / (0.19) m

**平面形：**円形

**確認・調査：**I65区のV層調査の際、I64区の境界付近から2枚重なった状態の古銭が複数出土した。I64区側を精査したところ、T a - c が斑状に残存する範囲を検出し、さらにI65区との境界断面で落込みを確認した。土層観察後掘り下げたところ、ガラス玉・古銭と歯が出土し、土坑墓を確認した。

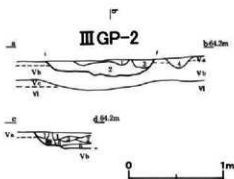
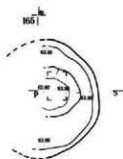
覆土は、残存部上位ではT a - c 主体の土壌、下位ではⅢ層(+V層)にT a - c が混じる。東側では色調の異なる薄層が含まれる。坑底はV b 層中で、おおむね平坦で中央部が浅くぼんである。

**遺物出土状況：**覆土下位(2層)の坑底上3～5cmほどの位置から、ガラス玉24点、古銭12枚(土坑西半部含む)、歯の一部がまとまって出土した。特に南側は連をなし、白色ガラス小玉を主体とし小玉の列の間に古銭が入る。東・北側も青色・黒色を呈するガラス小玉を主体とし2枚重ねの古銭が入り、列状に残存している。首飾りとして副葬されたことがうかがえる。

**出土遺体：**歯冠のみ、小玉に連続する状態で出土した。小児女性との人類学的所見が報告された(V章7)。

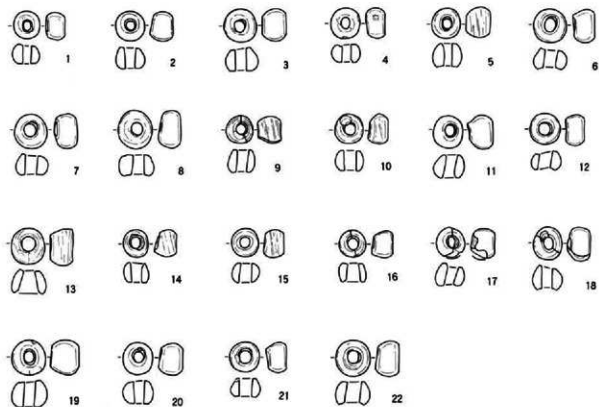


ⅢGP-2

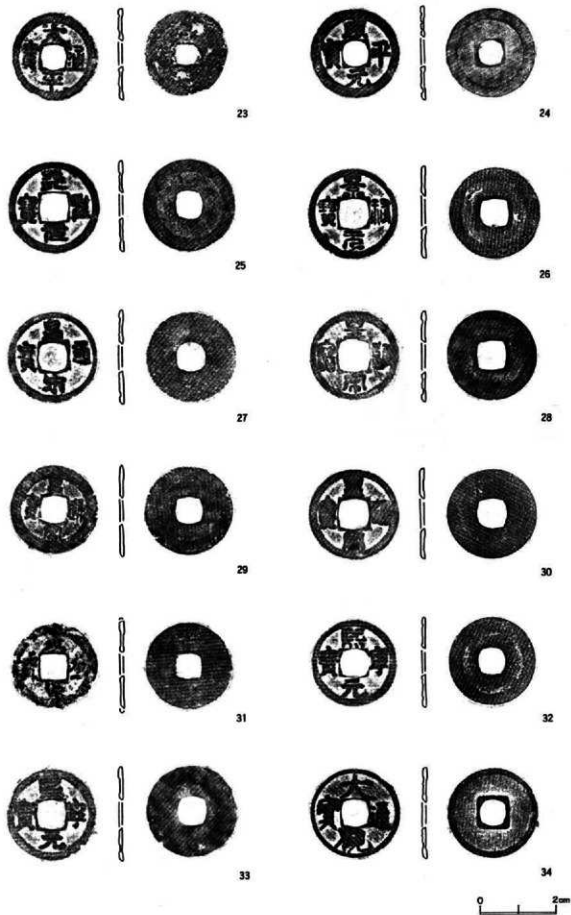


ⅢGP-2

1. 黒色 (16YR2/1) (黒>赤) しきり中級、均質
2. 暗褐色 (10YR2/0) (黒+赤) しきり弱、不均質
3. 褐色 (10YR2/4) (赤) しきりなし
4. 灰褐色 (10YR2/2) (黒>赤) しきり弱、不均質
5. 黒色 (10YR2/1) (黒>赤) しきり中級、均質
6. 黒褐色 (7.5YR2/2) (黒+赤) しきり弱



図Ⅲ-54 ⅢGP-2・ⅢGP-2出土の遺物(1)



図Ⅲ-55 Ⅲ GP-2出土の遺物(2)

**掲載遺物：**1～22はガラス小玉。1～4は南部で連をなしていたもの。5・7・13・14・19・20は中央部でまとまって出土したもの。1～7は白色、8は橙色、9～16は青色、17～22は黒色を呈する。径は8mm前後で、最大10mm(8)である。表面が風化しているものがほとんどで、ひび割れに覆われているものも目立つ。取り上げ時に破損したものがある。材質分析によると、すべて巻き付け法によって製作されたと判断される(V章4)。9・11・13・14などに巻き付けの端部が残存している。

23～34は古銭。26・30、27・32、31・33は2枚重なって出土した。径2.4cm前後、厚さ1mm、重さ2.0～3.2gである。すべて北宋銭で、23が太平通寶(初鋳976年以降)、24が咸平通寶(同998年)、25が天聖元寶(同1023年)、26が景祐元寶(同1034年)、27～30が皇宋通寶(同1038年)、31は判読困難であるがやはり皇宋通寶とみられ、32・33が熙寧元寶(同1068年)、34が大觀通寶(同1107年)である。25・26・28・29・30は書体が篆書による。中央の穿は本来すべて正方形であるが、かなり摩耗し丸みを帯びた形状になっているものが多い。

**時期：**周辺遺構の状況や出土遺物から、中世の新しい段階のアイヌ文化期とみられる。

(阿部)

## 6 土坑

### ⅢP-1 [図Ⅲ-56、図版50]

**位置：**C地区 b22区、標高約63.9m **検出層位：**V層

**規模：**(0.75)×—/(0.46)×(0.36)/0.04m **平面形：**楕円形

**確認・調査：**ⅢH-5の西側、IV層下位まで攪乱が及んでいた範囲で、V層調査の際に検出した。刀が出土し、周辺の精査を行い、浅い掘り込みの土坑と判断した。断面観察を行い掘り下げ、刀を取り上げた。

**掲載遺物：**1は刀。1振が出土した。全長45cm、刃の長さ33.2cm、重さ375gを測る。平棟平造で、1cmほどの反りがある。茎に目釘穴を1か所有する。刃区が不明瞭で丸みを帯びている。刀身および茎表面に鞘と思われる木質部が付着する。

**時期：**周辺遺構の状況などから、中世段階のアイヌ文化期とみられる。

(阿部)

## 7 集中区

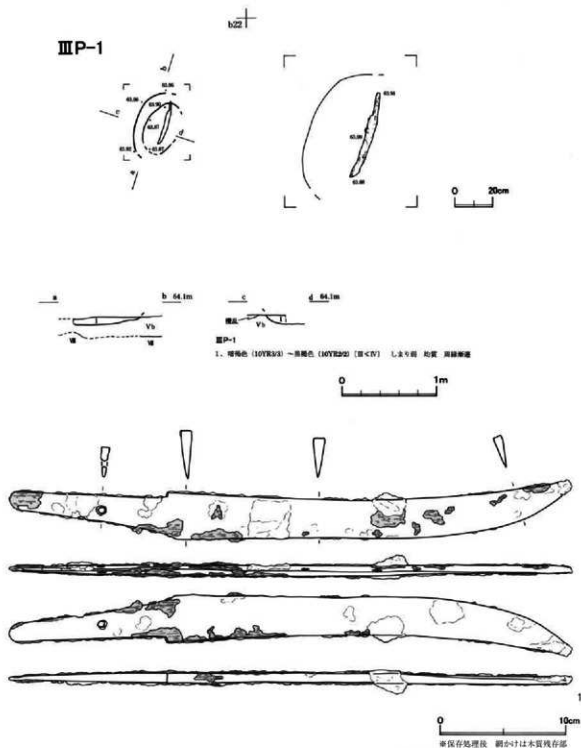
焼土など小規模な遺構と遺物がまとまって出土し、作業の場や儀礼の場など、何らかの活動の場が想定できる範囲を「集中区」として調査を行った。集中区の範囲には、焼土や柱穴のほか、土器集中・礫集中・獣骨集中といった遺物集中箇所が含まれる。時期は擦文文化期とアイヌ文化期を主体とするものがある。本来共時性が求められるところであるが、両者が混在する範囲がある。

### (1) 集中区1 [図Ⅲ-57・58、図版10・51・91]

**位置：**B地区 P52～56、Q52～55区、標高約64.4m **検出層位：**Ⅲb層

**規模：**20.6×6.5m

**確認・調査：**B地区南部のⅢ層を掘り下げたところ、遺物がややまとまって出土する範囲を検出した。段丘崖付近から平坦部へ帯状に分布する。遺物分布は全体的にやや散漫であるが、中央付近はⅢH-13が重複しその周辺で分布密度が高い。一部ⅢH-13の遺物として取り上げたものがある。



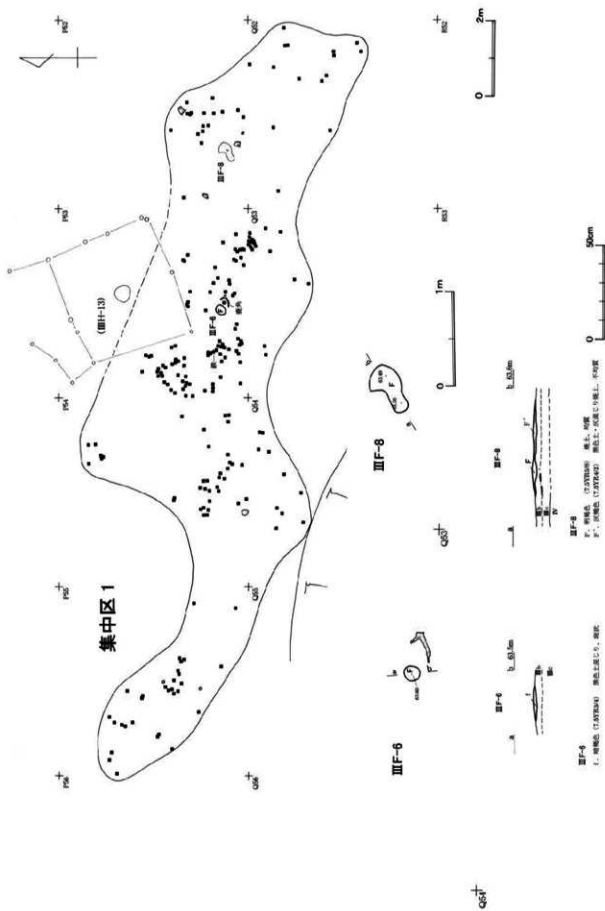
図Ⅲ-56 ⅢP-1・ⅢP-1出土の遺物

【付属遺構】 焼土2か所を検出した。

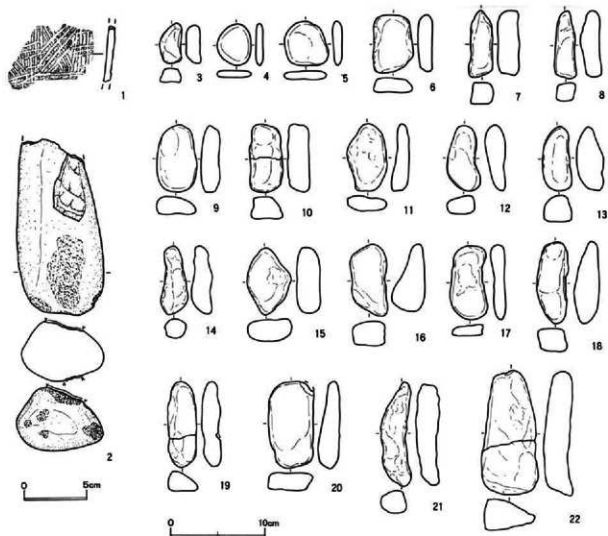
Ⅲ F-6

位置：P53区 被熱層：Ⅲb層 規模：0.17×0.16/0.02m 平面形：円形

確認・調査：分布の中央付近、ⅢH-13の南側で検出した。被熱層はやや薄く、暗褐色を呈する。焼土付近から、長さ約35cmの焼けた鹿角が出土した。



図III-57 集中区1



図Ⅲ-58 集中区1出土の遺物

## Ⅲ F-8

位置：P52区 被熱層：Ⅲ b層 規模：0.54×0.33/0.02m 平面形：不整形

確認・調査：分布範囲の東部で検出した。被熱層はやや薄い、強く被熱し明褐色を呈する。東半部で灰が混じる。

遺物出土状況：計 245 点が出土した。Ⅶ群 c 類土器 2 点、たき石 2 点、台石片 1 点で、それ以外の 240 点は礫である。またシカの角や中手・中足骨の焼骨片も出土した。

掲載遺物：1はⅦ群 c 類土器。多条の鋸歯状沈線と縦位・横位の沈線が重複する。2は砂岩のたき石。下端左右および側面に敲打痕がある。3～22は砂岩・泥岩の礫。「棒状礫」を主体とするが、扁平や亜角礫状のものも含まれる。掲載した礫の平均値は以下のとおりである（長さ×幅 cm/重量 g [長短比]）。

集中区1 7.5×3.7cm/80.6g [2.0]

時期：擦文土器が含まれているものの、検出層位や周辺遺構から、主体は中世段階のアイヌ文化期と思われる。

(阿部)

## (2) 集中区2 (図Ⅲ-59~62、図版10・21・52・91・92)

位置：B地区 M51・52、N51・52、O51~54、P50~52、Q50・51区、標高63.3~63.7m

検出層位：Ⅲb層 規模：23.3×15.2m

確認・調査：B地区中央の平坦面のⅢ層を掘り下げたところ、遺物がややまとまって出土する範囲を検出した。M52区~P51区にかけて南北に帯状に分布し、さらに西側に分布する帯状の範囲を含めた。遺物分布は全体的にやや散漫であるが、中央西部はⅢH-12が重複しその南東側で分布密度が高い。一部ⅢH-12の遺物として取り上げたものがある。また中央南部にもやや濃密な部分があり、土器集中が含まれる。遺物はすべて出土地点を計測して取り上げた。

【付属遺構】焼土2カ所、土器集中1カ所、礫集中1カ所を検出した。

## ⅢF-9

位置：P53区 被熱層：Ⅲb~Ⅳ層 規模：0.47×0.35/0.06m 平面形：楕円形

確認・調査：集中区の北部で検出した。Ⅲb層が落込み中央部が被熱しており、焼土の周囲にⅢb層が環状に残存する状態で検出した。被熱層は比較的厚く、Ⅳ層上面に達している。均質な明褐色を呈し、強く被熱していることがうかがえる。

## ⅢF-10

位置：P52区 被熱層：Ⅲc~Ⅳ層 規模：0.45×0.26/0.05m 平面形：不整形

確認・調査：集中区の南部で検出した。被熱層はⅣ層中に達し、明褐色を呈する。上面にわずかながら灰が確認できた。

## ⅢPB-1

位置：O51・P51区 検出層位：Ⅲb層 規模：4.50×2.15m 平面形：不整形

確認・調査：集中区の中央南部で検出した。遺物分布はやや散漫で礫も多く含まれるものの、周囲に比して土器片が多く、土器集中とした。遺物点数は、Ⅶ群c類土器35点、礫61点、計96点である。礫は「棒状礫」のほか、南部で砂岩の大型板状礫片が多く出土している。ほかに、シカの手・中足骨の焼骨が少量出土している。

## ⅢS-8

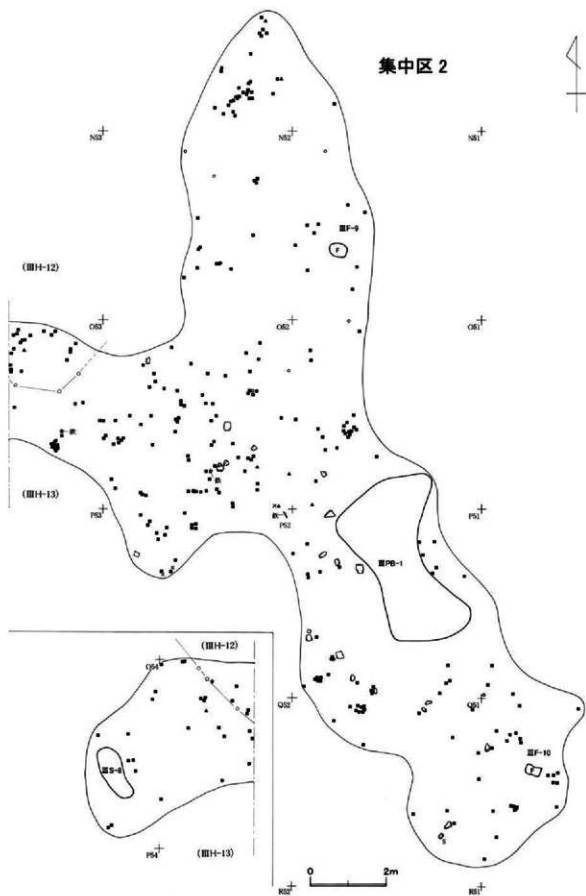
位置：O54区 検出層位：Ⅲb層 規模：1.38×0.80m 平面形：不整形円形

確認・調査：集中区の西部で礫がまとまって出土した。北半は比較的大型の棒状礫と板状礫片が主体で、南半は小礫や破砕礫がやや密に分布する。遺物点数は礫72点のほか、Ⅶ群c類土器2点、古銭1点、計75点である。古銭は棒状の礫に隣接して出土した。

遺物出土状況：合計641点出土した。上記の土器集中ⅢPB-1・ⅢS-8以外では470点で、土器9点、石器等26点、礫431点、鉄製品4点である。土器はⅦ群c類で、石器等は楕円状の石器片1点、たたき石2点、砥石片1点、台石片4点、フレイク16点がある。鉄製品は刀子3点、和釘1点がある。

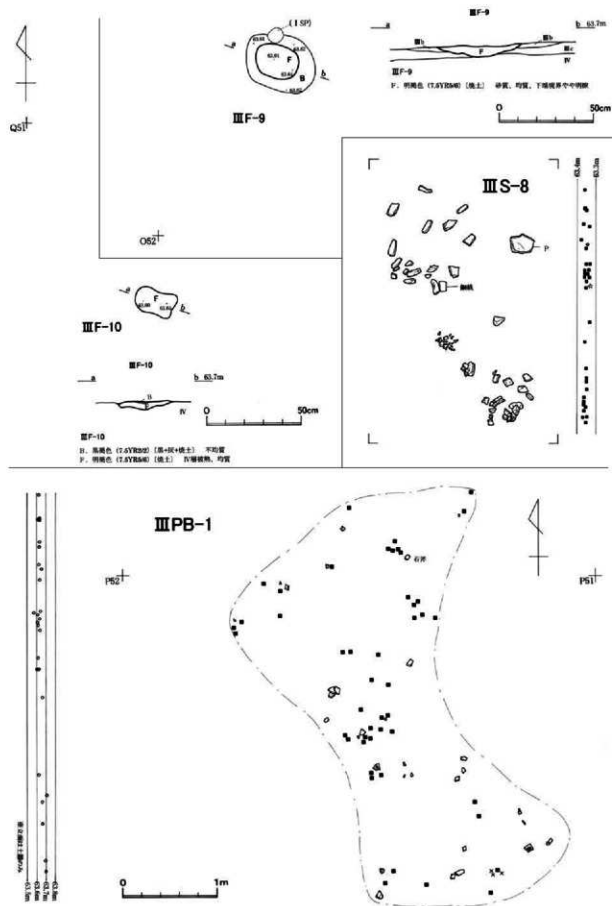
掲載遺物：1・8~11はⅢPB-1から、2・3・12~19はⅢS-8から出土し、それ以外は集中区2全体の範囲から出土したものである。

1・2はⅦ群c類の甕。1は集中区3出土の土器片と接合した。口縁がくの字状に屈曲する。頸部に矢羽状の刻文が圍繞し、胴上部に多条の鋸歯状沈線がやや不規則に重複して施されている。一方、2は胴部がややふくらみ、口縁部が緩やかに外反する。口唇下に刻文、口縁部に3条一組の沈線で鋸歯文を配し、沈線間に刺突列を施している。胴部には貼付圍繞帯上に馬蹄形圧痕が連続する。胴部の器壁が比較的厚く、表面がややざらつく。



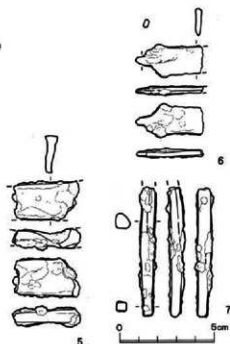
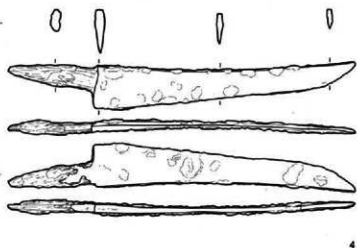
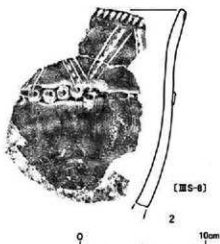
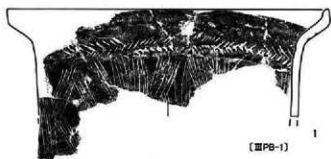
図III-59 集中区 2 (1)



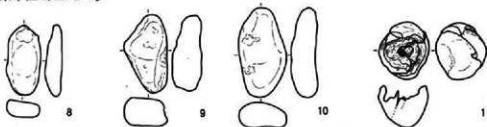


図III-60 集中区2 (2)

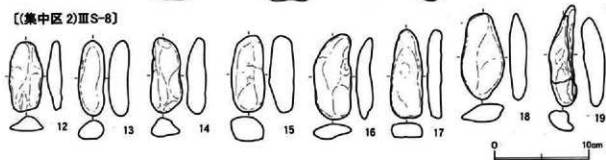
〔集中区 2〕



〔〔集中区 2〕ⅢPB-1〕

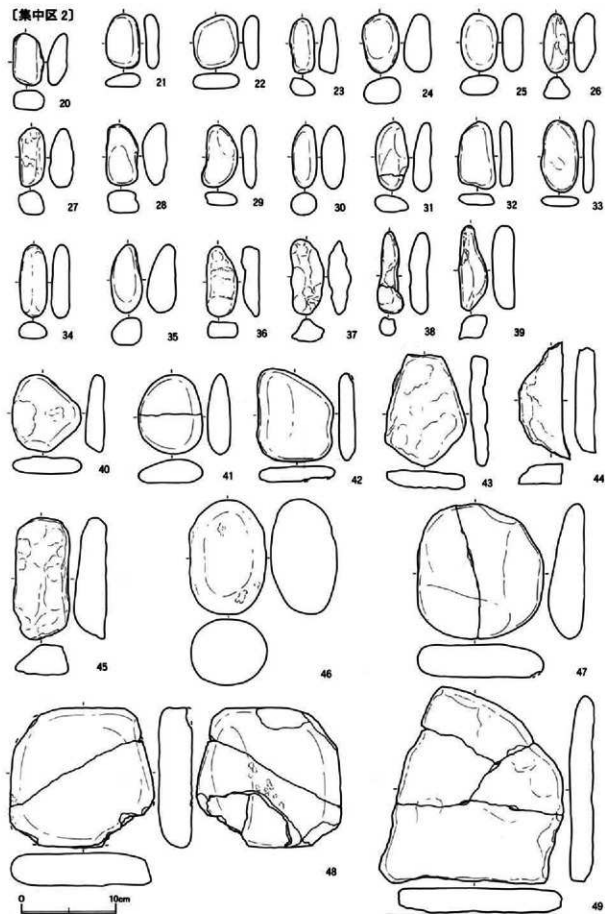


〔〔集中区 2〕ⅢS-8〕



図Ⅲ-61 集中区2出土の遺物(1)

【集中区2】



図Ⅲ-62 集中区2出土の遺物(2)

3は古銭で、北宋の政和通寶（初鑄1111年以降）である。背面の版がやや右にずれている（背右月）。正方形であった中央の穿が磨耗して、丸みを帯びた形状になっている。4～6は刀子。4は完形で残存していた。全長18.5cm、刀身長14cmを測る。切っ先側がわずかに反る。茎に木質が残存する。5は刀身の一部、6は区にあたる。7は和釘の一部。

8～49は礫。ⅢPB-1出土の8～11のうち、11は巻貝の化石痕がある円礫。ⅢS-8出土の12～19は砂岩・泥岩の「棒状礫」である。集中区2出土のうち、20～39は砂岩・泥岩の「棒状礫」で、40～49はそれ以外の大型礫。他の集中区に比べこれらの大型礫が多い。41は閃緑岩、44は石英片岩、46は安山岩で、それ以外は砂岩・泥岩である。形状は扁平・板状のものが多く、楕円礫も含まれる。掲載した礫の平均値は以下のとおりである（長さ×幅cm/重量g [長短比]）。

ⅢS-8	8.7×3.5cm/66.8g	[2.0]
集中区2	8.8×5.5cm/227.5g	[1.6]
集中区2	6.8×3.4cm/59.1g	[2.0] (40～49の大型礫除く)

**時期：**検出層位や出土遺物から、擦文文化後期を主体とするものの、中世段階のアイヌ文化期を含むと思われる。

(阿部)

### (3) 集中区3 [図Ⅲ-63～66、図版10・22・53・92]

**位置：**B地区 N49～51、O48～51、P48～50、Q48～50、R49・50区、標高63.6～63.7m

**検出層位：**Ⅲb層 **規模：**21.4×11.1m

**確認・調査：**B地区中央東部のほぼ平坦な段丘上、集中区2の東側で検出した。おおむね南北方向の長楕円形の範囲にまとまる。遺物分布は全体的にやや散漫であるが、部分的に密度がやや高くなる。北部は土器がやや多く出土し、南部は礫が多い傾向にある。これより東部～北部は遺物分布がかなり希薄となる。

【付属遺構】 焼土2カ所、礫集中1カ所を検出した。

#### ⅢF-11

**位置：**Q49区 **被熱層：**Ⅲ～Ⅳ層 **規模：**0.70×0.43/0.06m **平面形：**楕円形

**確認・調査：**集中区の南部で検出した。Ⅲ層が落込み中央部が被熱しており、焼土の周囲にⅢ層が環状に残存する状態で検出した。上面で骨片が少量確認できた。被熱層は比較的厚く、Ⅳ層中に達している。均質な赤褐色を呈し、強く被熱していることがうかがえる。フローテーションにより少量の焼骨片を回収した（Ⅲ章11）。

#### ⅢF-12

**位置：**O49区 **被熱層：**Ⅲb～Ⅳ層 **規模：**0.60×0.45/0.08m **平面形：**不整楕円形

**確認・調査：**集中区の北部で検出した。上面は暗色で微細な骨片を含む。被熱層は厚くⅢc層全体に及び、赤褐色を呈し強く被熱していることがうかがえる。周縁にⅢb層とその下にB-Tm火山灰が確認できる部分がある。

#### ⅢS-9

**位置：**Q49区 **検出層位：**Ⅲb層 **規模：**1.08×0.80m **平面形：**ほぼ楕円形

**確認・調査：**集中区の南部、ⅢF-11の北西側で礫がまとまって出土した。比較的小規模な範囲に集約され、特に西半部では50×40cmの範囲に重なるように密集していた。遺物は礫102点のほか、たたき石1点が含まれていた。



图Ⅲ-63 集中区3 (1)

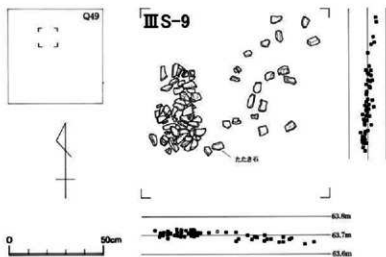
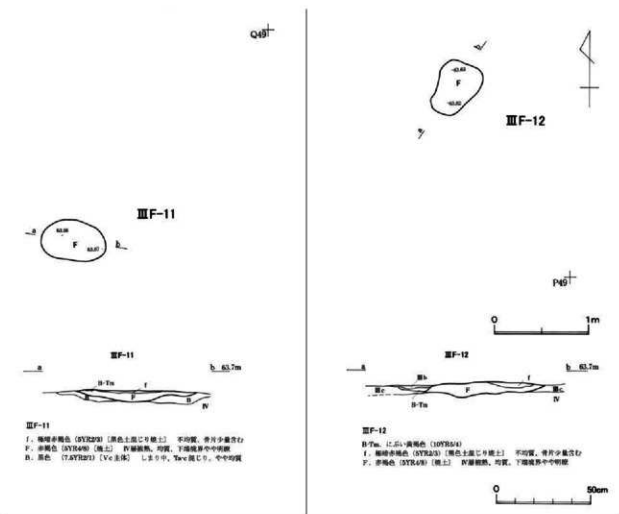
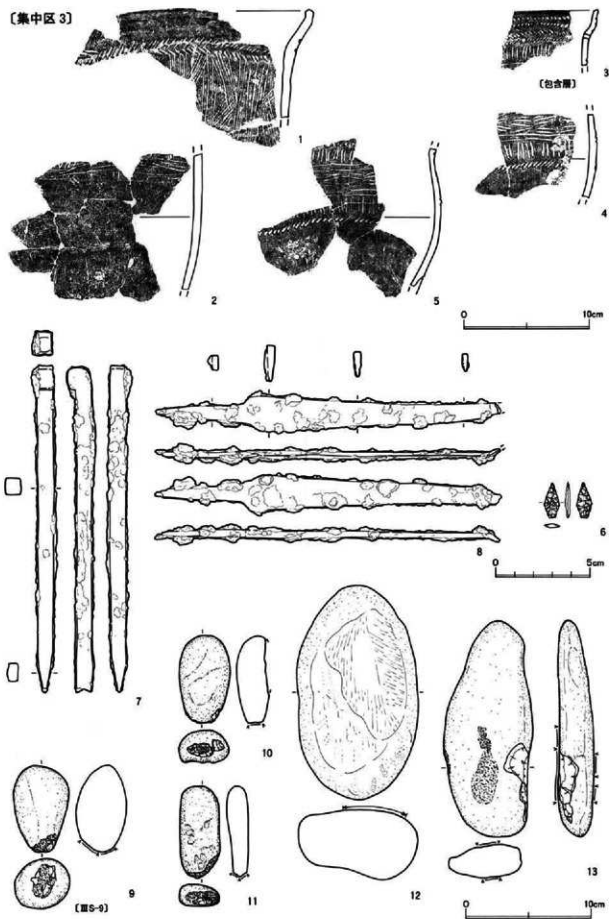


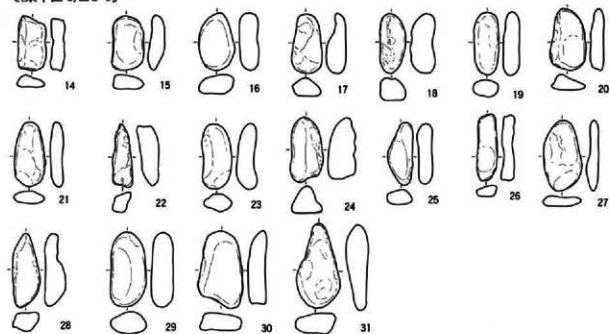
図 III-64 集中区 3 (2)

【集中区3】

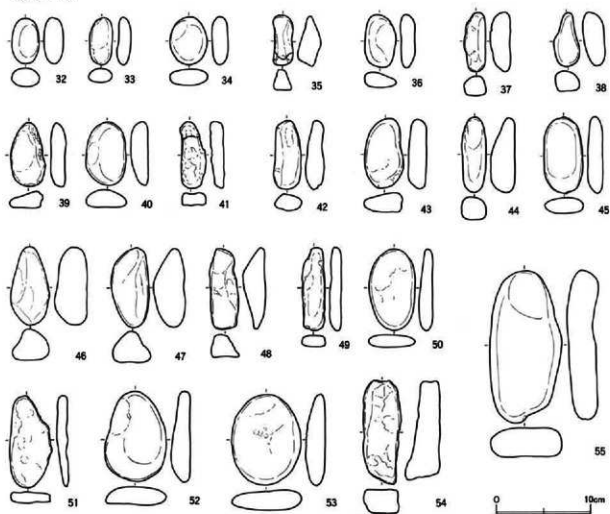


図Ⅲ-65 集中区3出土の遺物(1)

【(集中区 3)ⅢS-9】



【集中区 3】



図Ⅲ-66 集中区3出土の遺物(2)



**遺物出土状況**：合計 422 点が出土した。上記のⅢS-9を除くと 319 点で、土器 96 点、石器等 6 点、礫 215 点、鉄製品 2 点である。土器はⅦ群c 類で、石器等はたつき石 2 点、フレイク 4 点がある。鉄製品は刀子 1 点、釘 1 点がある。

**掲載遺物**：9・14～31 はⅢS-9 から出土し、それ以外は集中区 3 全体の範囲から出土したものである。なお 3 は 4・5 と同一個体で、周辺包含層出土のものである。

1～5 はⅦ群c 類の甕。1・2 はⅢPB-1 の土器（図Ⅲ-61 の 1）と同一個体。同様の文様で、胴部文様下端の区画横走沈線がやや乱れている。3～5 は比較的小型の甕。口縁がくの字状に強く屈曲する。口縁部と頸部に矢羽状の刻文がめぐり、胴部は縦位—横位—縦位の 3 段構成をとる。下端に斜位の刻文がめぐり、6 は石鏝で、何らかの攪乱により混入したものと思われる。

7 は和釘。頂部の張り出しが弱い、階折釘であろうか。長さ五寸ほどである。8 は刀子。切っ先が曲がっており先端を欠く。残存長は約 18cm である。棟区・刃区とも、丸みを帯びやや不明瞭になっている。

9～11 はたつき石で、それぞれ長軸端部に敲打痕がある。12・13 は加工痕ある礫としたもの。12 は安山岩製で、表面に擦痕がみられる。13 は敲打痕などが観察される。

14～55 は礫。ⅢS-9 の 14～31 は形状・大きさの整った砂岩・泥岩の「棒状礫」。集中区 3 では 32～49 の「棒状礫」が多いが、50～55 のように大型の扁平礫や亜角礫が含まれる。掲載した礫の平均値は以下のとおりである（長さ×幅 cm/重量 g [長短比]）。

ⅢS-9	7.0×3.3cm/54.1g	[2.1]
集中区 3	7.8×3.9cm/98.3g	[1.6]
集中区 3	6.9×3.2cm/57.3g	[2.2] (50～55 の大型礫除く)

**時期**：検出層位や出土遺物から、擦文文化後期を主体とするものの、中世段階のアイヌ文化期を含むと思われる。

(阿部)

#### (4) 集中区 4 [図Ⅲ-67・68、図版 53・93]

**位置**：B 地区 K54・55、L54～56、M55・56 区、標高約 63.2m **検出層位**：Ⅲ b 層

**規模**：13.3×6.8m

**確認・調査**：B 地区北西部の調査拡張範囲で検出した。ほぼ平坦で、南北方向の楕円形にまとまる。遺物分布は全体的にやや散漫であるが、北部は密度がやや高くなる。他の集中区に比べて土器が多く出土しており、北部にその分布の主体がある。須恵器片の出土が特記される。

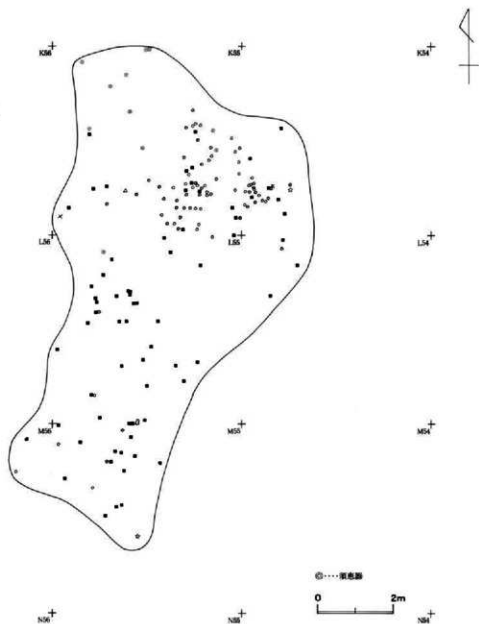
**遺物出土状況**：合計 266 点で、土器 162 点、石器等 1 点、礫 103 点である。土器はⅦ群c 類が 151 点で、11 点は須恵器である。石器はたつき石である。

**掲載遺物**：1 は須恵器の坏。口縁部・体部・底部のわずかな接点により復元した。ロクロ成形で、内外面に成形痕が残る。底部はわずかに台部を作り出している。底面に糸切痕が明瞭に残っている。体部は椀状に丸みを帯びて立ちあがる。口唇はとがり、わずかに外反する。形状は、青森県五所川原産（MZ 6 号窯または MZ 7 号窯）、B-Tm 降下以前の 9 世紀末～10 世紀第 1 四半期（五所川原市教育委員会 2003）相当のものに類似している。2～4 は擦文（中期～）後期の甕で、同一個体。底部はやや細くすぼまり、底面付近が張り出す。口縁下部で屈曲し外反する。口縁部に矢羽状の刻文がめぐり、胴上半部に斜格子状沈線が密に施されている。区画横走沈線下に斜位の刻文がやや不規則に施されている。

5 は石鏝で、集中区 4 の範囲から出土したものの直接の関連はないとみられる。

6～15 は礫。砂岩・泥岩の「棒状礫」を主体とし、6 のような小礫や 15 のような大型の扁平礫が含まれる。

集中区 4



図Ⅲ-67 集中区 4

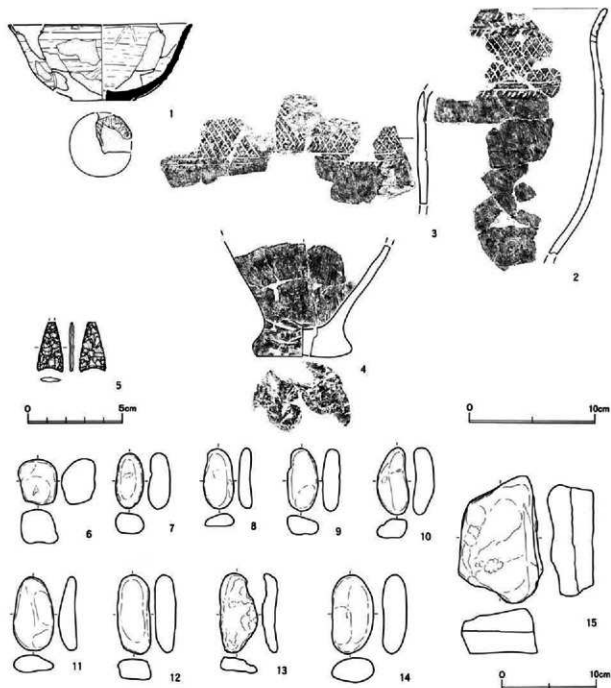
11 は赤色・黒色部がみられ、被熱しているとみられる。

掲載した鏝の平均値は以下のとおりである（長さ×幅 cm/重量 g [長短比]）。

集中区 4 7.0×3.7cm/72.8 g [1.9] (15の大型鏝除く)

時期：一部古い段階の遺物が含まれるが、検出層位や出土遺物から擦文文化後期とみられる。

(阿部)



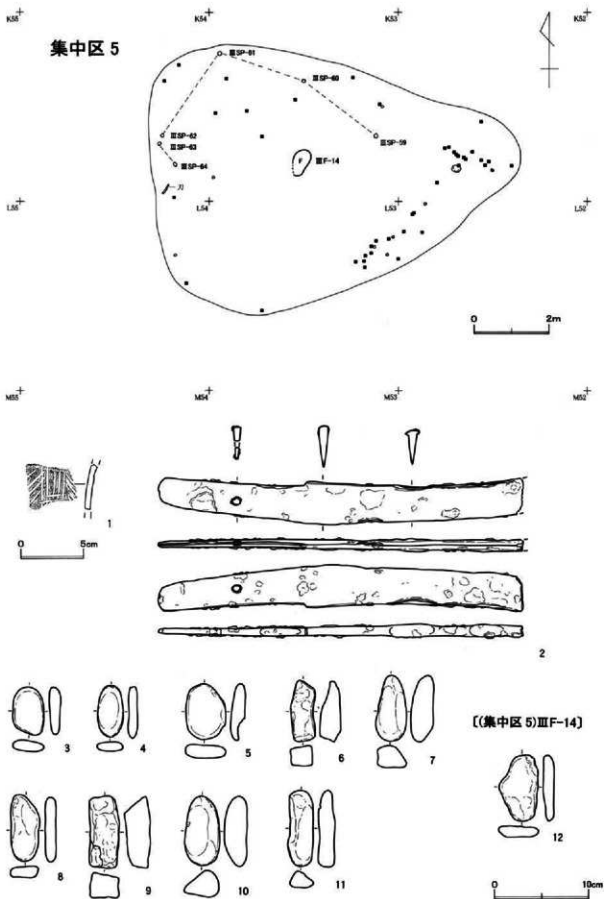
図Ⅲ-68 集中区4出土の遺物

(5) 集中区5 [図Ⅲ-69・70、図版10・22・54・93]

位置：B地区 K52～54、L52～54区、標高約63.3m 検出層位：Ⅲb層

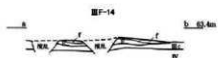
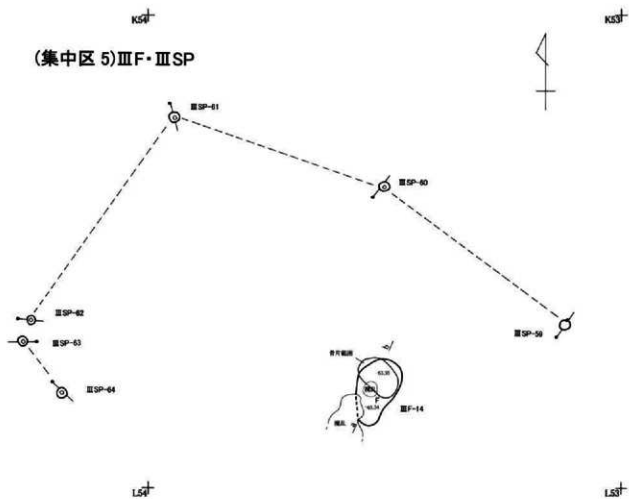
規模：9.8×7.1m

確認・調査：B地区北部の調査拡張範囲で検出した。ほぼ平坦で、東西方向の楕円形にまとまる。遺物分布は全体的にやや散漫であるが、検出された焼土から離れた南東部・および西北部に密度がやや高くなる場所がある。

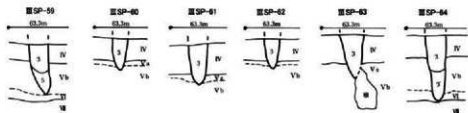


図Ⅲ-69 集中区 5 (1)・集中区 5 出土の遺物

(集中区5)ⅢF・ⅢSP



ⅢF-14  
I. 灰褐色 (MVIK3-3) (黄色土層に均整上) 中々不均質、片石中々多し中心  
F. 灰褐色 (ZJYK3-4) (黄土) 了層層中々均質



ⅢSP-59~84  
I. 灰褐色 (MVIK3-1) (黄+赤) しより中  
II. 赤褐色 (MVIK3-2) (黄+赤+V) しより中  
III. 赤褐色 (MVIK3-3) (黄+赤+V) しより中



図Ⅲ-70 集中区5 (2)

【付属遺構】焼土1か所、柱穴6基を検出した。位置関係から、平地住居跡が含まれる可能性がある。

#### ⅢF-14

位置：K53区 被熱層：Ⅲb～Ⅲc層 規模：0.74×0.46/0.04m 平面形：ほぼ楕円形

確認・調査：集中区の中央で検出した。上面は暗色で、微細な骨片を多く含む。被熱層はやや薄い、明褐色を呈し強く被熱しているとみられる。上面から礫2点が出土した。またフローテーションにより焼骨片・炭化物ほかを回収した（Ⅲ章11、V章9）。

#### ⅢSP-59～64

位置：K53・54区 検出層位：IV層

確認・調査：焼土から2～3m離れてコの字状に位置する柱穴群を検出した。径は10cm前後、深さは検出面から15～35cmでVb～VI層に達する。すべて先端が尖る差し込み柱である。ⅢSP-59～62は柱穴間が2m以上離れている。

遺物出土状況：合計62点出土した。上記の焼土を除くと60点で、Ⅶ群c類土器8点、台石片1点、礫52点、鉄製の小刀1点がある。

掲載遺物：1は擦文土器。多条沈線により縦位・横位と鋸歯状の文様が施されている。2は小刀。刀身の切っ先側を欠くが、残存長29cmを測る。平棟平造で、反りがみられる。棟区はわずかに確認できるが、刃区は不明瞭である。茎に目釘穴が1か所穿たれている。

3～12は礫で、12は焼土上面から出土した。砂岩・泥岩の「棒状礫」を主体とするが、やや扁平な礫が多い。掲載した礫の平均値は以下のとおりである（長さ×幅cm/重量g [長短比]）。

集中区5 6.7×3.2cm/52.9g [2.1]

時期：検出層位や遺構の構造などから、擦文文化後期～中世段階のアイヌ文化期とみられる。

(阿部)

### (6) 集中区6 [図Ⅲ-71～77、図版10・22・55・94]

位置：C地区 a12・13、b12～14、c12～15、d13～15区、標高64.3～65.3m

検出層位：Ⅲb層 規模：17.6×7.7m

確認・調査：調査開始直後に検出した遺構の一つである。C地区東部の段丘縁辺部、段丘崖にさしかかる緩斜面を掘り下げたところ、Ⅲ層中から多数の礫のほか土器・石器等が出土し、礫集中ⅢS-1とした。遺物は発掘区ごとに取り上げ、さらにIV層上面まで掘り下げた。範囲の北東部段丘上でⅢH-1の柱穴群を検出し、一部が重複している。また南東側斜面上で、段丘崖に並行するように柱穴群を検出した。

これらの遺構・遺物群をまとめて、整理作業中に集中区を設定した。

(阿部)

【付属遺構】礫集中ⅢS-1が集中区6のほぼ全域にあたる。また、柱穴9基を検出した。

#### ⅢSP-11～14・17～20・23

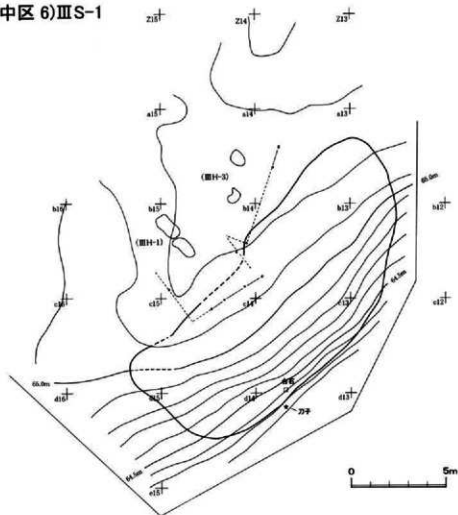
位置：c・d13・14区、標高約64mの段丘縁辺部

確認・調査：IV層上面で斜面上に径20cm前後の柱状の落ち込みを数か所検出した。半截し、9基の柱穴状小土坑を確認した。検出面からの深さはいずれも30cm以上あり、最も深いものはⅢSP-17の50cmである。覆土はⅢ・IV層主体の黒～黒褐色土で、しまりのない脆弱なものが多い。厚真川に向かって傾斜する斜面に作られた構造物跡か。遺物は、ⅢSP-18の覆土からⅦ群c類土器1点が出土した。

(新家)

遺物出土状況：合計661点が出土した。上記の遺物を除くと660点で、礫645点のほか、土器1点、石器等14点、鉄製品1点がある。土器はⅦ群c類で、石器はたたき石2点、くぼみ石1点、台石3点、加工痕

(集中区 6)ⅢS-1



図Ⅲ-71 集中区 6 (1) ⅢS-1

ある礫 8 点があり、鉄製品は刀子 1 点がある。

**掲載遺物**：1 は刀子。切っ先および茎尻を欠く。

2～5・8 は砂岩製の礫石器。2 はくぼみ石。二分割したものが接合した。楕円礫の表面にくぼみが連続し、長軸端部に敲打痕が複数観察される。3・4 はたたき石。直角礫や楕円礫の端部に敲打痕がみられる。5 は加工痕ある礫とした。扁平楕円礫の長軸端部がくぼんでおり、相対する側面の一部が打ち欠きまたは欠損する。8 は台石。扁平な直角礫の表面中央付近に擦痕や敲打痕がある。

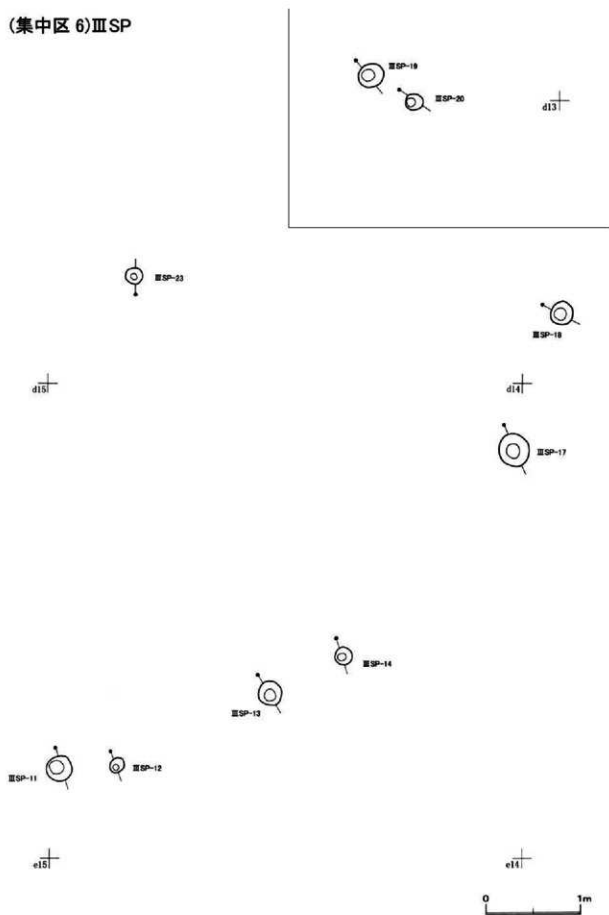
6・7 は有孔礫。扁平楕円礫の中央付近に、自然による貫通孔がある。9～152 は礫。9 は頁岩、57・124・131 は礫岩で、それ以外は砂岩・泥岩である。また半割した状態のものが接合した礫を 7 点図示したが (36・42・48 ほか)、掲載していない礫の中にも多数見受けられる。全体的にいわれる「棒状礫」が主体であるが、小型で扁平なものも多数含まれ (10・12・14 ほか)、泥岩では表面が波状のものや直角礫状のものがある。掲載した礫の平均値は以下のとおりである (長さ×幅 cm/重量 g [長短比])。

集中区 6 (ⅢS-1) 6.6×3.2cm/53.9g [2.1]

**時期**：周辺の遺構等から、擦文文化期～アイヌ文化期と思われる。

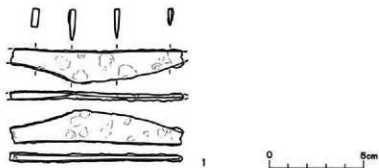
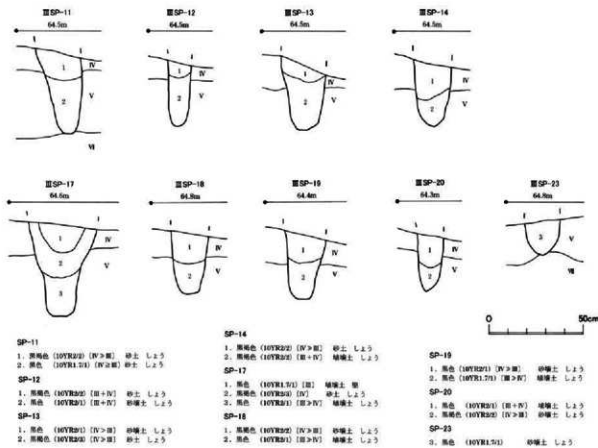
(阿部)

(集中区 6)ⅢSP

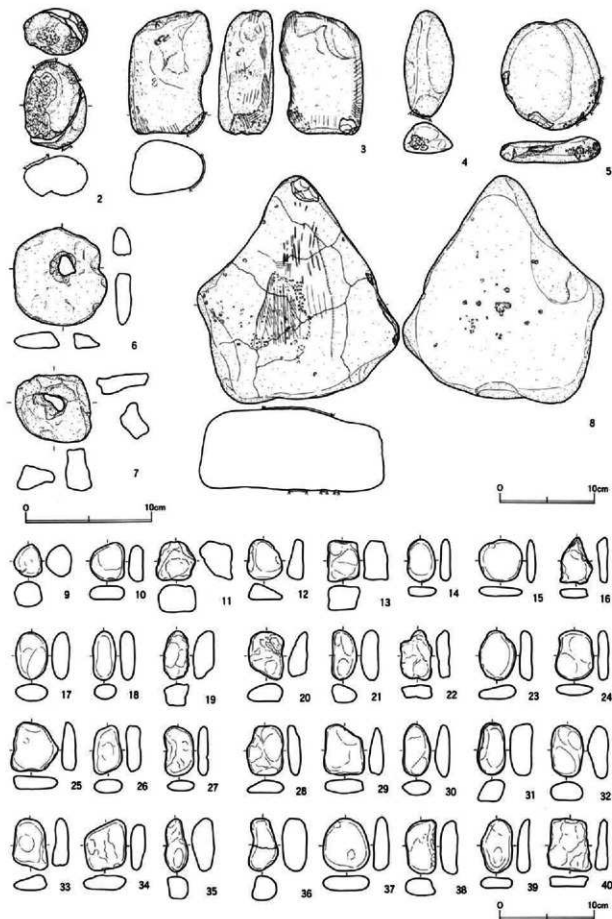


図Ⅲ-72 集中区6(2)ⅢSP

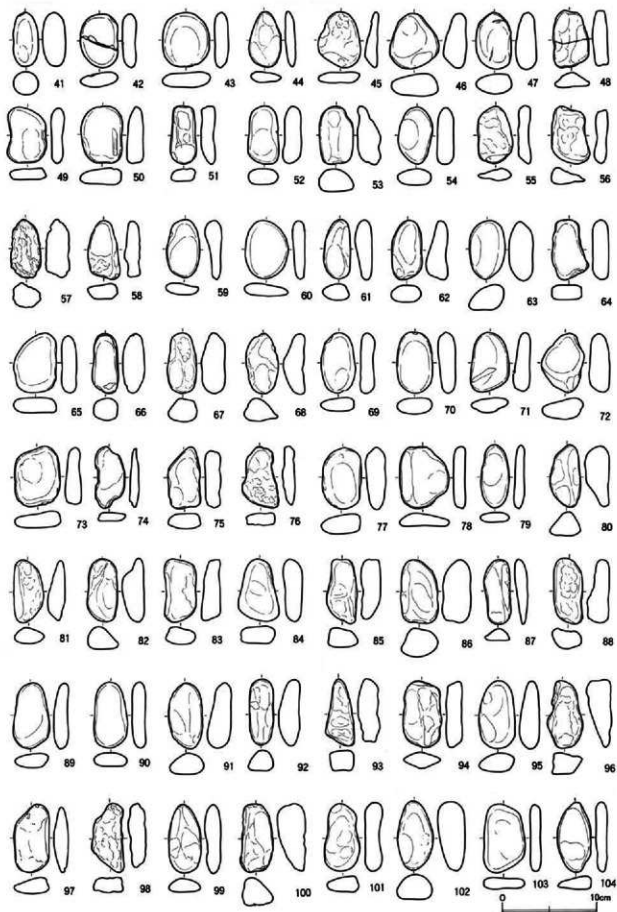




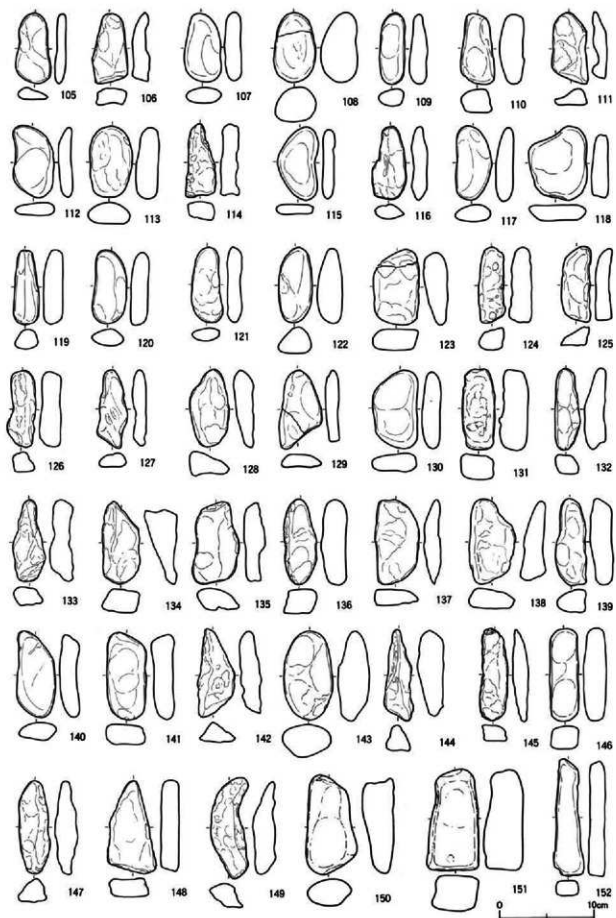
図Ⅲ-73 集中区6(3)ⅢSP・集中区6出土の遺物(1)



図Ⅲ-74 集中区6出土の遺物(2)



図Ⅲ-75 集中区6出土の遺物(3)



図Ⅲ-76 集中区6出土の遺物(4)

**(7) 集中区7** [図Ⅲ-77・78、図版22・55・94]

位置：C地区 c21・22、d21・22、e21・22区、標高約64.1~64.4m 検出層位：Ⅲb層

規模：11.9×8.0m

**確認・調査**：C地区中央東部の段丘上、微高地の西側平地地を掘り下げたところ、Ⅲ層中から多数の礫のほか土器・石器等がほぼ同一面から出土し、礫集中ⅢS-2とした。南北方向の楕円形にまとめ、北側にはⅢH-5、南側にはⅢH-6が隣接し、関連がある。遺物分布は全体的にやや散漫であるが、部分的に密度がやや高くなる。これらの遺物群に対し、整理作業中に集中区を設定した。

【付属遺構】礫集中ⅢS-2が集中区7の全域にあたる。

**遺物出土状況**：合計179点が出土した。礫176点のほか、鉄製品が3点あり、その内訳は刀子(刀装具)2点とその他の鉄製品1点である。

**掲載遺物**：1は全形不明な板状の鉄片。細かく剥落していた。2・3は刀子の留金具と思われる。2は長さ2.8cm、3は同1.8cmと若干大きさが異なるが、形状は類似する。細い短冊状の鉄片を扁平環状に巻き付けている。表面から側面にかけて、細かい刻みが部分的に連続して施されている。

4~50は砂岩・泥岩の礫。全体的に泥岩の小礫が多いが、「棒状礫」も多数含まれている。破碎した礫が接合した例が複数見られる(30・34ほか)。

掲載した礫の平均値は以下のとおりである(長さ×幅cm/重量g [長短比])。

集中区7(ⅢS-2) 6.9×3.8cm/66.3g [1.8]

時期：検出層位や周辺遺構から、中世段階のアイヌ文化期と思われる。

(阿部)

**(8) 集中区8** [図Ⅲ-79、図版56・94]

位置：A地区 I64・65、J64~66、K65区、標高64.0~65.0m 検出層位：Ⅲb層

規模：9.50×5.25m [ⅢS-5] 8.00×5.25m

**確認・調査**：A地区南西部の段丘上から段丘崖付近のⅢ層を掘り下げたところ、緩斜面の傾斜に沿って礫がややまとまって出土し、礫集中ⅢS-5とした。北東-南西方向に帯状に分布する。東側には平地住居跡ⅢH-9および土坑墓ⅢGP-1が隣接する。また周辺で骨片がまとまって出土し、ⅢB-2とした。これらの遺物群をまとめて、整理作業中に集中区を設定した。

【付属遺構】礫集中ⅢS-5が集中区8の大部分にあたる。ほかに獣骨集中1カ所を検出した。

**ⅢB-2**

位置：I65区 検出層位：Ⅲb層 規模：2.65×1.25m 平面形：不整形

**確認・調査**：ⅢS-5の北側で検出した。シカの角の一部や中手・中足骨の焼骨などが北東-南西方向に点在する。

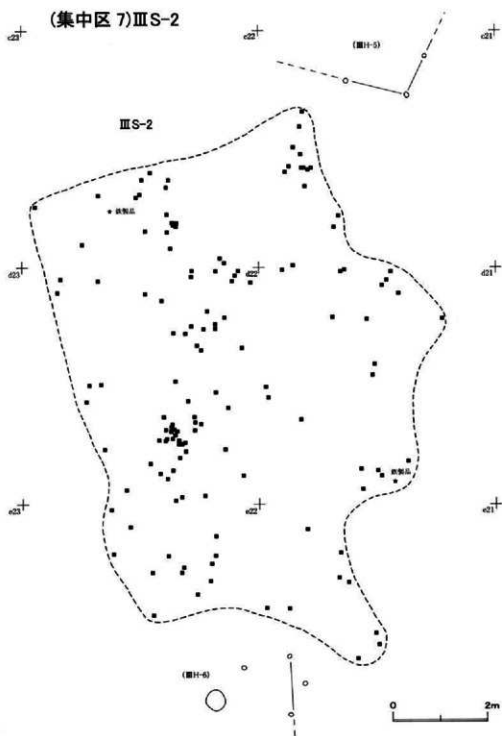
**遺物出土状況**：計120点が出土した。礫119点のほか、台石片が1点ある。また骨片が比較的多く出土しており、ⅢB-2以外でもシカの頭骸骨の一部などの骨が出土している。

**掲載遺物**：1~8は砂岩・泥岩の礫。「棒状礫」が多く、8は長さ約13cmを測る大型の礫。破碎したものが接合した。掲載した礫の平均値は以下のとおりである(長さ×幅cm/重量g [長短比])。

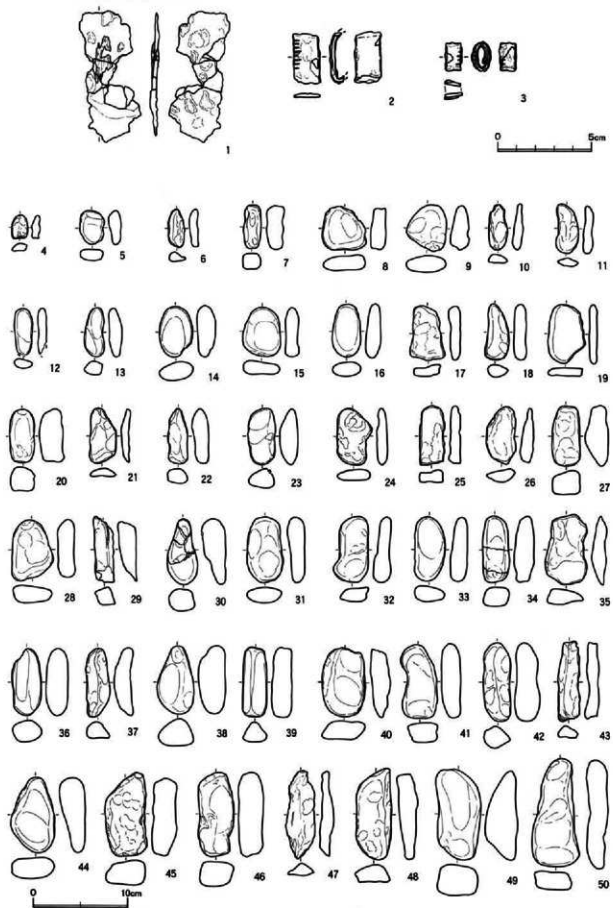
集中区8(ⅢS-5) 7.3×3.3cm/86.8g [2.2]

時期：検出層位や周辺の遺構から、中世段階のアイヌ文化期と思われる。

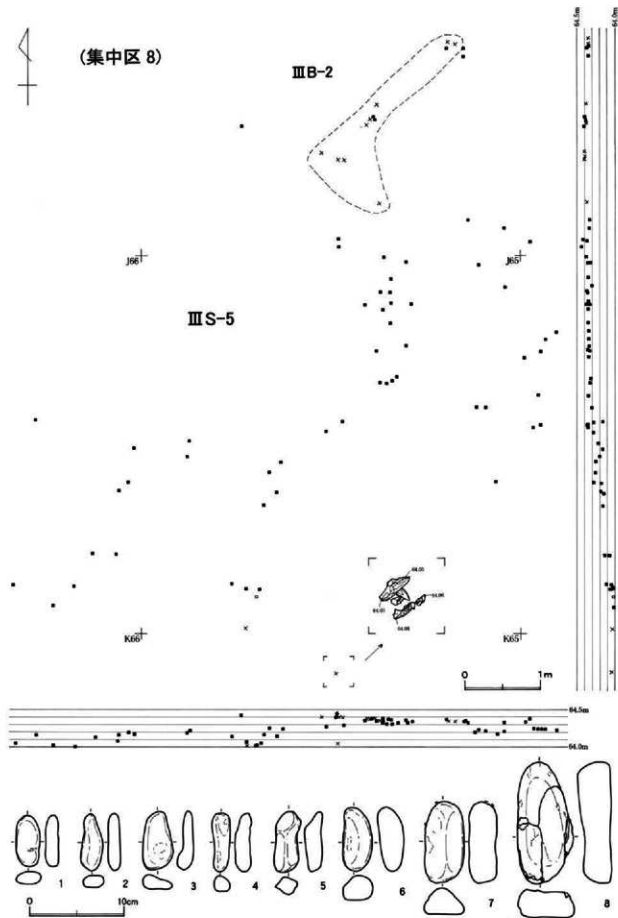
(阿部)



図Ⅲ-77 集中区7 ⅢS-2



図Ⅲ-78 集中区7出土の遺物



図Ⅲ-79 集中区 8・集中区 8 出土の遺物



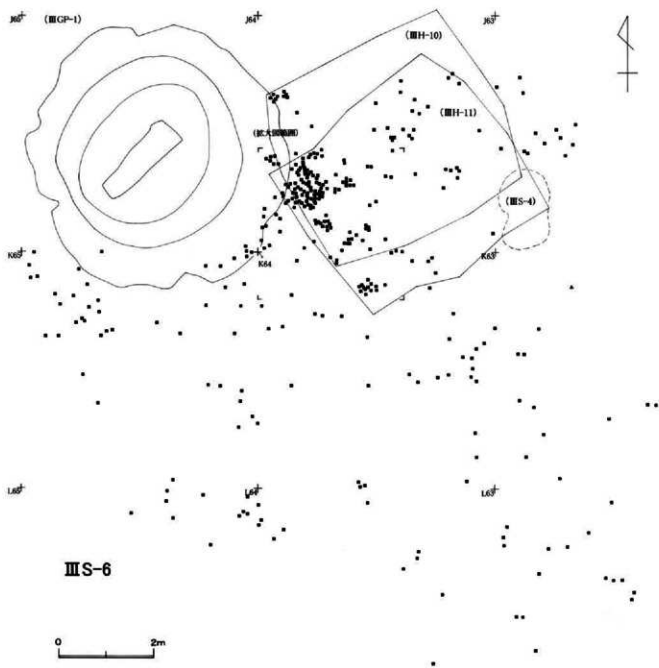
(9) 集中区9 [図Ⅲ-80～83、図版56・95]

位置：A地区 J62～64、K62～64、L62～64区、標高約63.4～64.4m 検出層位：Ⅲb層

規模：13.3×12.6m

確認・調査：A地区南部の段丘上から段丘崖付近のⅢ層を掘り下げたところ、緩斜面の傾斜に沿って礎がややまとまって出土し、礎集中ⅢS-6とした。北部の段丘上で密度が高く、南側の緩斜面側でやや散漫な分布となる。斜面上側から流入したものが含まれていると考えられる。集中範囲では、大木の根が張っ

(集中区9)ⅢS-6



図Ⅲ-80 集中区9(1)

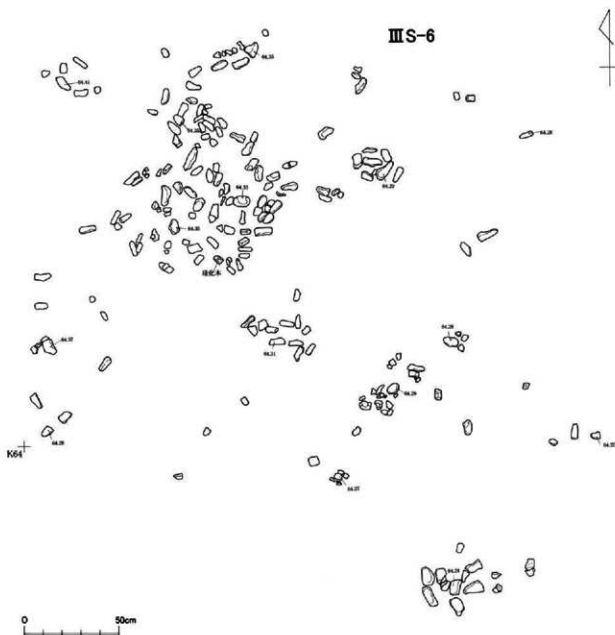
た痕跡が広がっており、影響を受けている。

北側には土坑墓ⅢGP-1および平地住居跡ⅢH-10・11が重複する。ⅢGP-1の掘上土が礫群の上を被覆していた。またⅢH-10の北西角付近に小規模な礫の密集か所があり、それに重複するⅢH-11の北西角付近に礫が重なるように密集する範囲がある(図Ⅲ-81)。礫はさらにⅢH-11の床面範囲に広く分布する。そして小礫主体のⅢS-4が東部に位置する。当礫集中は、ⅢH-10・11、特にⅢH-11に関連した礫が相当数含まれているものと思われる。

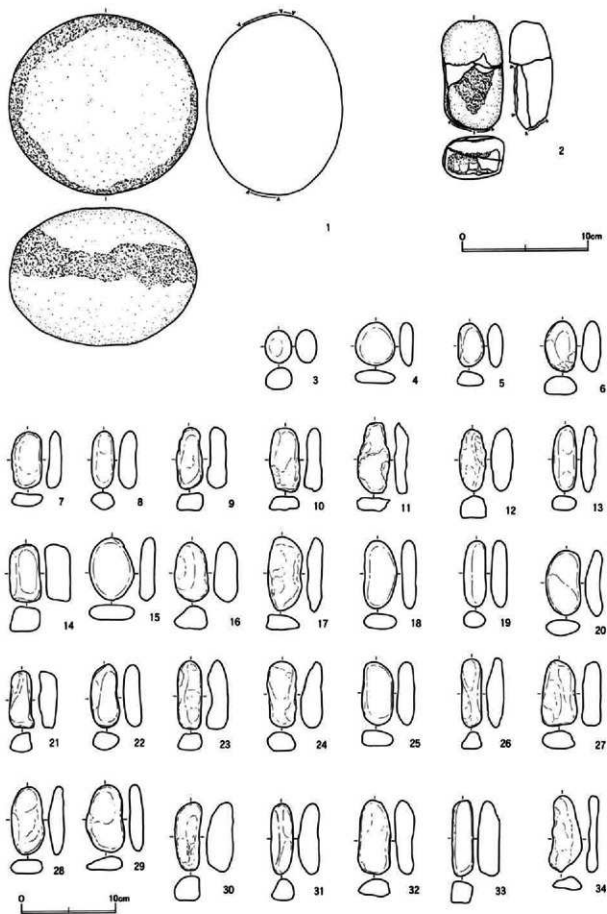
これらの礫群に対して、整理作業中に集中区を設定した。

〔付属遺構〕礫集中ⅢS-6が集中区9の全域にあたる。

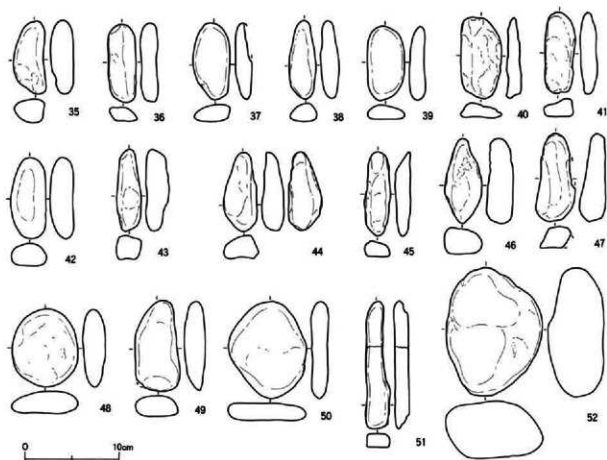
遺物出土状況：合計546点が出土した。礫541点のほか、たつき石3点、フレイク1点、加工痕ある礫1点が出土している。珪化木なども含まれている。



図Ⅲ-81 集中区9(2)



図Ⅲ-82 集中区9出土の遺物(1)



図Ⅲ-83 集中区9出土の遺物(2)

**掲載遺物：**1は加工痕ある礫としたもの。径約15cmの砂岩の大型楕円礫が用いられ、周縁を擦り車輪状に浅い溝が作出されている。すり石の一種であろうか。半球面が黒ずみ、被熱していると思われる。2はたたき石。長軸端部に敲打痕があり、表面にくぼみがみられる。敲打痕付近から割れていたものが接合した。

3～52は砂岩・泥岩の礫。いわゆる「棒状礫」が主体で、比較的細長いものが多い。3～6のような小礫がある一方、48～52のような大型礫が時々見受けられた。48・50は片麻岩の扁平楕円礫。表面が平滑である。50は被熱していると思われる。52は赤褐色を呈するチャートの楕円礫。

掲載した礫の平均値は以下のとおりである（長さ×幅 cm/重量 g [長短比]）。

集中区9（ⅢS-6） 7.2×3.2 cm/58.7 g [2.3] （48～52の大型礫を除く）

**重複・時期：**上記の遺構が重複しており、古→新の順に以下の通りの新旧関係が考えられる。

「ⅢH-10」 → 「ⅢH-11」 → 「ⅢS-4」 → 「ⅢGP-1」

・ⅢS-6の一部      ・ⅢS-6の主体      ・ⅢS-6の一部散逸

時期は、検出層位や周辺遺構との重複関係などから、中世段階のアイヌ文化期と思われる。

（阿部）

## 8 焼土

### ⅢF-1 [図Ⅲ-84、図版11]

位置：C地区 S20・21区、標高約64mの平坦部 被熱層：Ⅳ層

規模：0.42×0.34/0.04m 平面形：楕円形

確認・調査：柱穴状小土坑ⅢSP-1～6付近のⅣ層で検出した。被熱層は褐色を呈し、上部は削平されている。

時期：周辺の遺構等からアイヌ文化期と思われる。(新家)

### ⅢF-2 [図Ⅲ-84、図版11]

位置：C地区 Z・a24区、標高約64.4m 被熱層：Ⅲa層

規模：0.55×0.44/0.05m 平面形：不整楕円形

確認・調査：T a-b直下で検出した。被熱層はやや薄く、褐色を呈する。

時期：検出層位から、中世末～近世段階のアイヌ文化期と思われる。(阿部)

### ⅢF-3 [図Ⅲ-84、図版11]

位置：C地区 n30区、標高63mの舌状台地先端部 被熱層：(Ⅲc層～)Ⅳ層

規模：1.82×1.56/0.09m 平面形：不整楕円形

確認・調査：建物跡1範囲の北部分に、広く被熱した焼土を検出した。断面からは、被熱層が攪乱を受け、漸变的に不均一に広がっていることがわかった。北西側に少し離れた包含層(m29区付近)から、後北B式土器がややまとまって出土している。フローテーションにより回収した炭化材片の<sup>14</sup>C年代測定では、1,560±20yrBP(σ<sup>13</sup>C補正值)の数値を得た(V章11)。

重複・時期：建物跡1が重複し、当焼土の方が切られており古い。検出層位や周辺の遺物出土状況から、統観文時代後半期とみられる。(新家)

### ⅢF-4 [図Ⅲ-84、図版11]

位置：C地区 T16区、標高約64.7mの段丘平坦部 被熱層：Ⅲc層

規模：0.61×0.35/0.04m 平面形：ほぼ楕円形

確認・調査：Ⅲ層を掘り下げたところ、小型の焼土を検出した。また周囲から柱穴が検出されⅢH-7としたが、当焼土はその位置関係から単独検出の焼土と判断した。被熱層は4cmほどで、褐色を呈する。

重複・時期：ⅢH-7より新しい。検出層位から、アイヌ文化期とみられる。

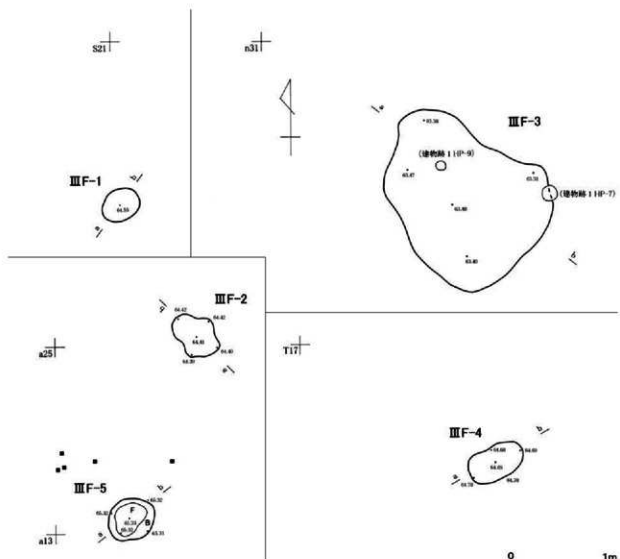
### ⅢF-5 [図Ⅲ-84、図版11]

位置：C地区 Z・a12区、標高約65.3m 被熱層：Ⅲb層

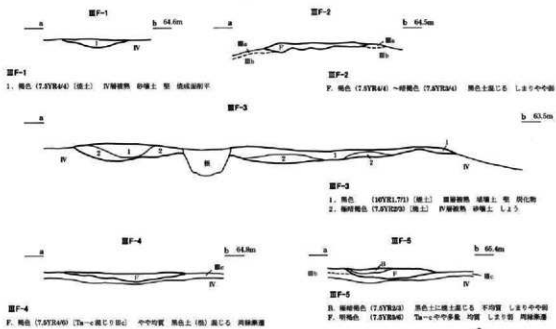
規模：0.52×0.44/0.06m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅲ層を掘り下げたところ、強く被熱した焼土を検出した。平地住居跡を想定して柱穴の検出に努めたが、焼土に近接する1基(ⅢSP-29)にとどまり、単独検出の焼土とした。上位は焼土混じり土、下位は明褐色の被熱層で、最厚6cmである。周辺から礫が5点出土した。

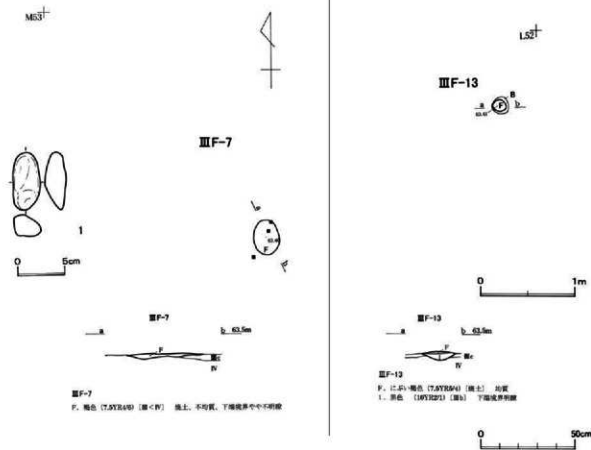
時期：検出層位などから、アイヌ文化期と思われる。(阿部)



0 1m



図Ⅲ-84 Ⅲ F (1)



図Ⅲ-85 III F (2)

Ⅲ F-7 [図Ⅲ-85、図版11]

位置：B地区 M52区、標高約63.4m 被熱層：Ⅲc層～Ⅳ層

規模：0.38×0.28/0.03m 平面形：楕円形

確認・調査：ⅢH-14の東方で検出した。被熱層はやや不均質である。遺物は、上面や周囲から縄が3点出土した。

時期：周辺の遺構等から、アイヌ文化期と思われる。

Ⅲ F-13 [図Ⅲ-85、図版11]

位置：B地区 L52区、標高約63.4m 被熱層：Ⅲb層

規模：0.17×0.17/0.02m 平面形：ほぼ円形

確認・調査：B地区の調査範囲拡張の際に行われた試掘調査で確認された小型の焼土。Ⅲ層が落ち込み、その上面(Ⅲb層)が薄く被熱している。

時期：検出層位から、アイヌ文化期とみられる。

(阿部)

## 9 灰集中

III A-1 [図III-86、図版12]

位置：C地区 m・n 29区、標高約63mの舌状台地先端部

検出層位：III b層

規模：1.62×1.40/0.10m 平面形：不整形

確認・調査：III層調査中、黄褐色の灰層のまとまりを検出した。周囲は削平され、灰層の平面形もいびつなものになっている。層厚は10cm、灰層は緻密で堅くしまり、炭化物が少量混じる。

フローテーション法によりシカの焼骨片や魚骨片、炭化物ほかを回収した(III章11)。炭化種実では、キビが検出された(V章8)。炭化材片の<sup>13</sup>C年代測定では、670±20yrBP・680±20yrBP(σ<sup>13</sup>C補正值)の数値を得た(V章11)。

時期：周辺の遺構等からアイヌ文化期と思われる。

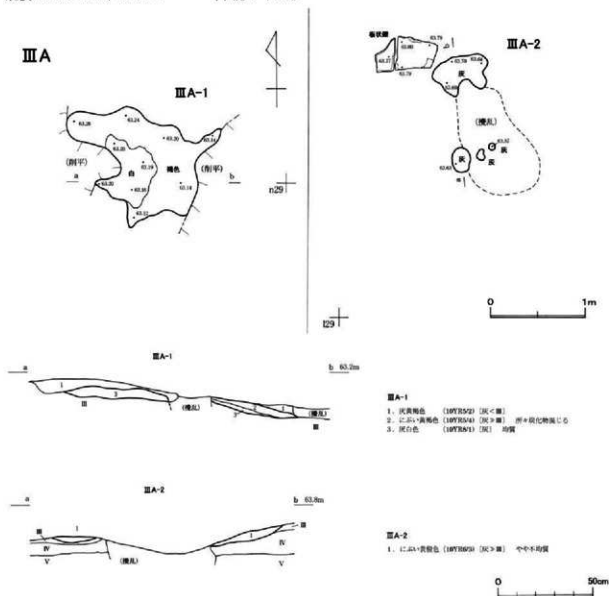
(新家)

III A-2 [図III-86、図版12・95]

位置：C地区 k 28区、標高約64mの段丘上平坦部

検出層位：III b層

規模：0.60×0.44/0.06m 平面形：不整形



図III-86 III A



**確認・調査:** III層調査中、木根の影響で攪乱された褐色の灰層を検出した。灰はブロック状に数か所に散在していた。比較的大きなまとまり2か所を半載した。層厚は6cmほどで非常に緻密で堅くしめる。

フローテーション法により焼骨片・炭化物ほかを回収した(III章 11)。炭化種実同定では、ブドウ属が含まれていた(V章 8)。

**遺物出土状況:** 灰集中のすぐ北側で、大型板状礫2個体51片が出土した。板状礫の総重量は4kgを超える。

**時期:** 出土層位や周辺の状況から、アイヌ文化期と思われる。

(新家)

## 10 そのほかの遺物集中

### (1) 土器集中

III PB-2 [図III-87、図版23・57・95]

**位置:** B地区 M49区、標高約63.5m **検出層位:** III b層 **規模:** 0.70×0.45m

**確認・調査:** III層調査中、土器片が同一面で密集して出土する範囲を検出した。1点を除き径50cm程の範囲にまとまる。破片点数は79点で、同一個体である。

**掲載遺物:** 1はVII群c類の甕。一部不連続であるが、口縁～底部まで復元できた。底部はやや張り出し、屈曲して立ち上がり、胴上半部はほぼ垂直で、頸部は強く外反、口唇下で直立する。文様は、口縁1条・頸部3条の浅い凹線上に刻文が連続する。胴上半部は、やや不規則な多条の斜格子状沈線が複段構成をなしている。その下には貼付圍繞帯上に馬蹄形圧痕が連続する。補修孔が8か所確認できる。また黒褐色や赤褐色などに変色した破片が接合する部分が口縁部などにみられ、破損・廃棄後に二次被熱しているとみられる。

2は土器片とともに出土した、加工痕ある骨片としたもの。鹿角の端部を利用し、図(87-2)の正面に2条の浅い凹線があり、裏面は表面が薄く削られ4条の細い溝状の刻みが観察される。

**時期:** 擦文文化後期である。

(阿部)

### (2) 礫集中

III S-3 [図III-88、図版57・95]

**位置:** C地区 Y13区、標高約65.5m **検出層位:** III b層 **規模:** 1.40×0.60m

**確認・調査:** 当初予定調査範囲の境界部分で一部を検出し、拡張後に全体を検出した。比較的高密度が高くまとまっている。遺物は合計93点が出土した。礫88点のほかVII群土器が5点ある。

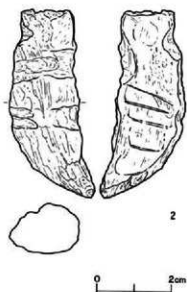
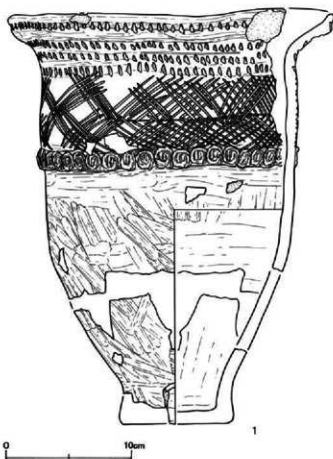
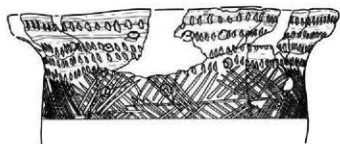
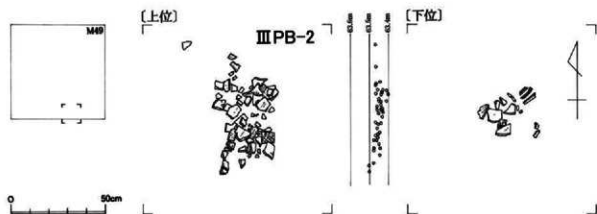
**掲載遺物:** 1・2はVII群c類土器の同一個体。1は斜格子状や縦位の多条沈線が施され、複段構成の文様である。3～22は「棒状礫」。比較的小型のものが多く。

掲載した礫の平均値は以下のとおりである(長さ×幅cm/重量g [長短比])。

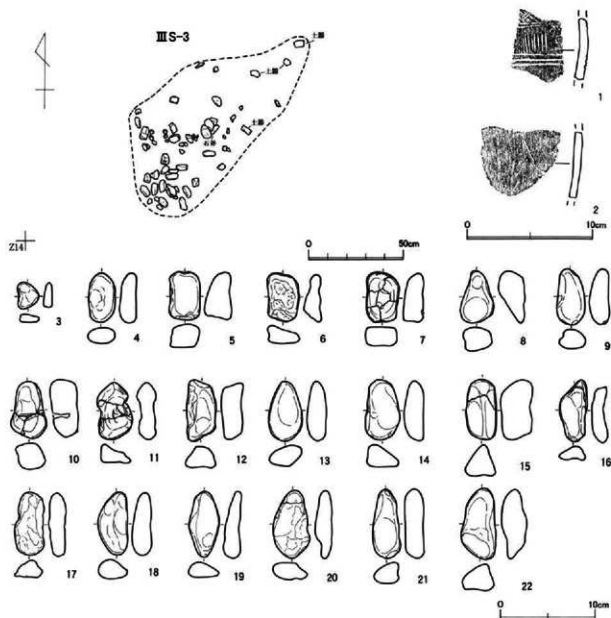
III S-3 6.1×3.3cm/55.9g [1.8]

**時期:** 同一面出土の土器から、擦文文化後期とみられる。

(阿部)



図Ⅲ-87 ⅢPB-2



図III-88 III S-3

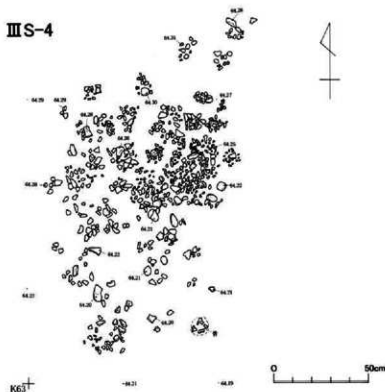
III S-4 [図III-89、図版57]

位置：A地区 J62区、標高64.2~64.3m 検出層位：III b層 規模：3.95×2.10m

確認・調査：A地区南部の段丘縁辺部、沢に面する緩斜面上で検出した。礫集中III S-6の調査中、礫の内容が異なる一群を検出し、分離した。出土点数は2,413点で、長さ2cm前後の小礫を主体とする礫群である。表面が平滑な泥岩を主体とし、河川の砂利石に類する。骨片も少量含んでいる。

重複・時期：III S-6の端部が重複し、当礫集中の方が新しいとみられる。時期はこれらの遺構との関係から、中世の新しい段階のアイヌ文化期と考えられる。

(阿部)



図Ⅲ-89 ⅢS-4

### (3) 獣骨集中

#### ⅢB-3 [図Ⅲ-90、図版 57]

位置：A地区 I 62・63区、標高64.3～64.4m 検出層位：Ⅲb層 規模：2.25×1.30m

確認・調査：A地区中央部の微高地から南部にわずかに下る緩斜面上、ⅢH-10の北東方向の位置で検出した。シカの角と上顎とみられる歯列が約1.5m離れて検出された。焼骨で、角および歯は比較的残存状況が良好だが、他の部位は残存していない。また周辺にも角の一部が散在していた。

時期：ⅢH-10に関連があると考えられ、これらの遺構との関係から中世の新しい段階のアイヌ文化期とみられる。

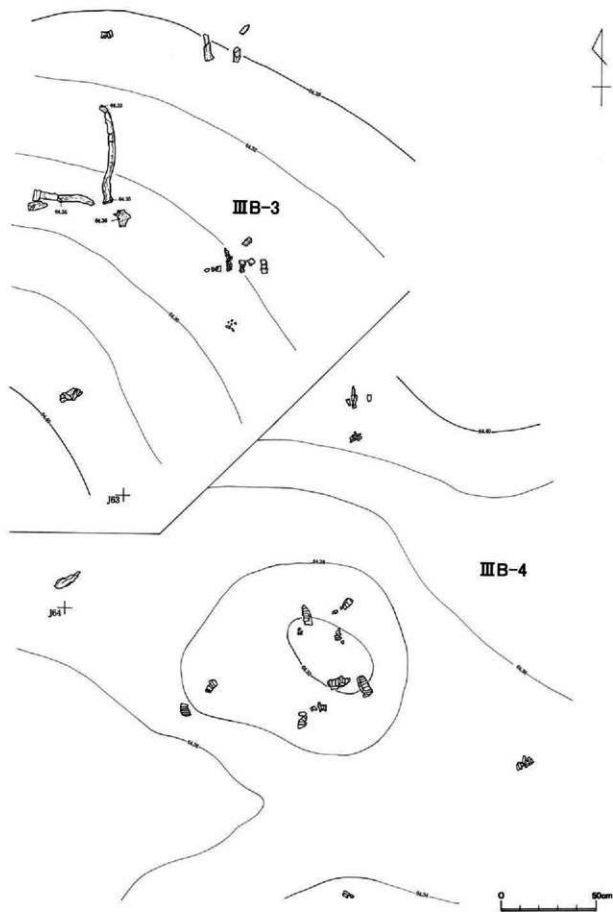
#### ⅢB-4 [図Ⅲ-90、図版 57]

位置：A地区 I 63・J 63区、標高64.3～64.4m 検出層位：Ⅲb層 規模：2.10×1.90m

確認・調査：A地区南部のわずかにくぼみのある平坦地、ⅢH-9の東方で検出した。シカの歯列が約1.5mの範囲で検出された。歯は比較的残存状況が良好だが、他の部位は残存していない。また周辺にも角の一部が散在していた。

時期：ⅢH-9に関連があると考えられ、これらの遺構との関係から中世の新しい段階のアイヌ文化期とみられる。

(阿部)



図III-90 III B-3・4

## 11 フローテーション法による微細遺物の調査

焼土や灰集中などでは、骨片や炭化材片などが含まれているものが見受けられる。これらの微細な自然遺物の内容を把握するため、フローテーション法を用いて水洗選別した。対象とした土壌は、住居跡の炉、その他の焼土、灰集中、土坑墓中の土壌などである。また比較のため、一部の近現代遺構も加えた。2か年で79サンプルを採取し、同一遺構・層位をまとめ、57試料とした。対象土壌の総量は、約220リットル・約188kgである。

結果(表Ⅲ-1・2)、自然遺物では、炭化物計約250g、骨片約450gを回収し、ほかに微細な巻貝などを検出した。人工遺物では、土器の破片が計2点、微細な刺片が計7点のほか、微細な鉄片、ガラス玉を検出した。

炭化物は、ほぼすべての試料から回収できた。炭化種子の一次選別を行い、検出した種子と思われる粒子の同定を委託した(V章8・10)。また一部を放射性炭素年代測定試料(V章11・12)とした。

骨片は、平地住居跡の炉を主体に回収できた。特に多い試料は、ⅢH-1・4・8・9・10・11・12・14の各炉跡、灰集中ⅢA-1、近現代の住居跡の炉、の土壌である。シカの歯や四肢骨の焼骨が多く含まれていた。それ以外の微細な骨片のうち関節等が残存するなど形状に特徴があるものについて同定を委託した(V章8・9)。

各種分析の結果はV章に掲載した。

表Ⅲ-1 Ⅲ層フローテーション結果(1)

試料番号	遺構	層位	採取量		回収量(g)			回収遺物					備考
			体積(ml)	重量(g)	残渣	浮遊物(2.0mm)	浮遊物(0.425mm)	土器(点)	石器(点)	骨片(g)	炭化物(g)	炭化粒子(粒)	
上3-1	ⅢH-1HF-1	1層	5,550	5,750	65.4	1.9	10.7			3.6	0.1		
上3-2	ⅢH-1HF-1	2層	1,200	1,120	30.4	3.0	3.9	1		8.7	2.3	1	
上3-3	ⅢH-1HF-2	1層	3,800	3,710	98.0	1.5	4.2			1.7	0.2	3	
上3-4	ⅢH-2HF-1	焼土	1,300	1,680	33.1	0.2	0.4				0.1		
上3-5	ⅢH-2HF-2	焼土	550	590	11.1	0.1	0.1				0.0		
上3-6	ⅢH-3HF-1	1層	850	800	16.5	0.0	0.4				0.5		
上3-7	ⅢH-3HF-1	2層	700	680	10.1	0.1	0.3			0.0	0.0		
上3-8	ⅢH-3HF-2	1層	825	895	11.6	0.1	0.2			0.0	0.0		
上3-9	ⅢH-3HF-2	2層	725	760	15.8	0.1	0.3			0.0	0.0		
上3-10	ⅢH-4HF-1	焼土上面	8,050	6,160	157.1	26.2	18.0			2.2	22.1	18	
上3-11	ⅢH-4HF-1	1層	4,500	3,850	59.5	4.9	7.8			1.5	15.1	10	
上3-12	ⅢH-4HF-1	2層	4,300	3,660	49.2	1.2	3.6			2.3	2.2	7	
上3-13	ⅢH-4HF-1	3層	2,825	2,890	36.4	0.2	1.0			0.1	0.1	1	
上3-14	ⅢH-6HF-1	焼土上面	2,500	2,190	22.5	0.5	1.9			0.0			
上3-15	ⅢH-6HF-1	焼土	725	535	6.6	0.4	0.3				0.0		
上3-16	ⅢF-1	焼土	550	550	5.3	0.1	0.1				0.0	12	
上3-17	ⅢF-2	焼土	175	130	1.8	0.0	0.1				0.0		
上3-18	ⅢF-3	焼土上面	1,750	1,160	24.5	0.9	2.4				0.2	8	
上3-19	ⅢF-3	焼土	13,450	9,555	154.1	6.6	20.1				0.3	9	
上3-20	ⅢF-4	焼土	3,475	3,220	25.3	0.2	1.7			0.0	0.0	2	
上3-21	ⅢF-5	焼土上面	850	690	9.2	0.2	0.7			0.0	0.0		
上3-22	ⅢF-5	焼土	800	700	8.7	0.2	0.7			0.0	0.0	2	
上3-23	ⅢA-1	灰層	17,750	13,750	208.7	5.2	10.0			18.0	3.8	27	
上3-24	ⅢA-2	灰層	5,200	4,680	76.2	1.5	2.0			0.8	0.7	12	
計(平成25年度分)			82,400	69,705	1137.1	55.3	90.9	1	0	38.9	47.7	112	

表Ⅲ-2 Ⅲ層フローテーション結果(2)

試料番号	遺構/ 発掘区	層位	体積 (m)	乾燥重量 (g)	残渣 (g)	浮遊物 (g)		回収遺物						備考	
						2mm	0.425mm	土器 (点)	石器 (点)	鏡 (点)	骨片 (g)	貝	炭化物 (g)		炭化粒 子(個)
上3-31	ⅢH-8HF-1	焼土1層	700	500	50.2	7.1	2.6					3.7	4.0	3	
上3-32-34	ⅢH-8HF-1	焼土2層	5,150	3,420	210.6	33.8	11.2					3.6	13.3		
上3-33-35	ⅢH-8HF-1	焼土3層	19,000	14,520	752.6	68.5	34.4	1				90.8 *	32.2	134	ガラス玉あり
上3-36	ⅢH-8HF-1	焼土4層	3,050	2,840	31.0	0.1	0.6					2.8	0.1	3	
上3-37	ⅢH-8HF-1	焼土5層	1,800	1,930	20.6	0.1	1.7					0.2	0.5	4	
上3-40-50	ⅢH-9HF-1	焼土1層	9,520	7,090	296.6	11.1	7.5					80.1	4.9	54	鉄製品あり
上3-41-51	ⅢH-9HF-1	焼土2層	8,300	6,810	125.1	4.1	4.9					39.1 *	1.4	35	
上3-42-52	ⅢH-9HF-1	焼土3層	7,700	7,870	103.7	1.8	3.7			1		5.6 *	0.1		
上3-43	ⅢH-9HA-1	灰層	3,700	2,460	251.2	21.8	12.1					13.8 *	0.7	1	
上3-44-53	ⅢH-10HF-1	焼土1層	8,200	5,620	201.5	66.5	25.6			1		18.8 *	60.9	57	
上3-45-54	ⅢH-10HF-1	焼土2層	5,500	5,090	142.7	1.6	3.5			1		26.4 *	2.0	5	
上3-46-55	ⅢH-10HF-1	焼土3層	2,800	3,250	68.6	0.2	0.2	1				0.5 *	0.1		
上3-47	ⅢH-11HF-1	焼土1層	1,300	1,120	40.1	2.1	1.9					4.9	1.7		
上3-48-56	ⅢH-11HF-1	焼土2層	2,500	2,030	61.1	1.5	1.8					10.3	0.4	4	
上3-49-57	ⅢH-11HF-1	焼土3層	3,800	4,100	66.9	0.6	2.4			1		2.9	0.1		
上3-60-65	ⅢH-12HF-1	焼土1層	5,500	4,020	120.3	7.4	3.4	1				11.7 *	5.4	14	
上3-66	ⅢH-12HF-1	焼土2層	3,800	3,120	35.8	0.1	0.5					6.5 *	0.1		ホタテガイ
上3-69	ⅢH-12HF-1	焼土3層	800	710	5.6	0.1	0.1					0.2	0.0	1	
上3-63	ⅢH-13HF-1	焼土1層	1,600	1,380	47.8	0.1	0.4			2		1.8	0.4	3	
上3-64	ⅢH-13HF-1	焼土2層	800	790	10.0	0.1	0.2					0.4	0.1		
上3-73	ⅢH-14HF-1	焼土1層	3,500	2,440	89.2	3.7	3.5	1				35.3 *	4.3	38	鉄製品あり
上3-70-74	ⅢH-14HF-1	焼土2層	2,500	2,350	33.0	0.5	1.2					7.3 *	0.8	12	
上3-68	ⅢF-9	焼土上面	600	540	14.6	0.1	0.3					0.0	0.0		
上3-67	ⅢF-11	焼土上面	1,000	880	8.8	0.1	0.2					1.0	0.0		
上3-71-75	ⅢF-14	焼土1層	1,000	870	50.5	2.2	0.3	1				10.4	0.7		
上3-76	ⅢF-14	焼土2層	1,900	1,780	43.4	0.1	0.8					3.8	0.3		
上3-39	ⅢGP-1	遺体層	420	350	65.4	2.4	7.8	1				1.0	0.0		
上3-79	ⅢGP-2	覆土	2,400	2,110	67.6	1.4	10.1					0.1	0.4		
上3-58	I H-1HF-1	焼土2層	1,000	850	12.7	0.1	0.2	1				2.7 *	0.0		
上3-38-59-61	I H-1HA-1	灰層	16,650	17,790	1283.8	106.8	28.1	1	3			9.5 *	66.2	43	鉄製品あり
上3-62	I H-1HF-35	覆土	250	290	21.5	0.1	0.1					1.6	0.3	3	灰層
上3-72-77	I H-2HF-1	灰層	9,400	8,560	914.6	0.5	1.2					13.9 *	0.5	10	鉄製品あり
上3-78	I H-2HF-1	焼土	1,200	1,070	19.8	0.1	0.1					0.5 *	0.0	4	
計(平成26年度分)			137,340	118,550	5266.9	346.8	172.6	1	7	9	411.0	201.7	428		

## 12 包含層（III層）出土の遺物

### （1）遺物出土状況 [図III-91～93]

III層では、遺構以外から合計1,441点の遺物が出土した（遺構は約7,400点、うち礫が約90%）。全体の分布傾向を示すものとして、これらIII層包含層の発掘区別・遺物種別の分布図を作成した（図III-92・93）。ただし、「包含層」として取り上げた点数であり、遺構出土点数が含まれていない点に注意が必要である。また遺物が極めて希薄な範囲は重機併用調査を行っており、出土分布傾向の大幅な相異はないが、分布図に多少の影響を及ぼしている可能性がある。

#### 土器等：

204点が出土した。VI群b類104点、VII群b類19点、VII群c類134点、土製品1点である。

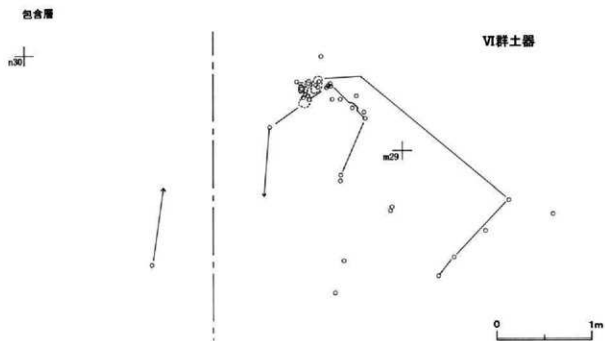
全体的に、遺構出土の土器を考慮しても分布が限定的である。VI群b類土器はC地区南部の一角のみからまとまって出土している（図III-91）。VII群b類はC地区中央部のa22区付近と南部の029区、遺構ではC地区東部のIIIH-1付近に限定的に分布している。VII群c類はA地区東部の沢付近、B地区は散在、C地区は東部に集中している。

#### 石器等・フレイク：

石器等42点、フレイク58点が出土した。石器は石鏃3点、石錐1点、靴形石器1点、撥状石器1点、たたき石14点、くぼみ石2点、砥石4点、台石3点のほか、Rフレイク3点、石核2点、加工痕ある礫6点などがある。各地区から広域に出土しているが、集中区などを考慮しても、散在する傾向にある。C地区は北半部にまとまる。

#### 礫：

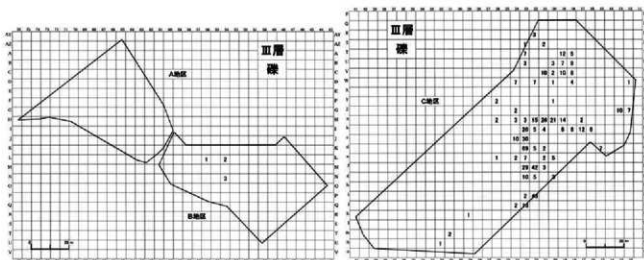
1,078点出土した。A・B地区では、ほぼすべての礫を集中区の遺物として取り上げている。C地区では、北部～中央部付近に分布する。北部はIIIH-2周辺、中央部は集中区7周辺、東部は集中区6周辺に多い。



図III-91 包含層VI群土器出土分布図







図Ⅲ-93 発掘区別Ⅲ層遺物分布図(2)

## (2) 土器・土製品 [図Ⅲ-94、図版23・96]

1はV群b類の鉢形土器の口縁部。突起に刻みが施されている。2～6はVI群b類後北B式。うち2～5は同一個体で、まとまって出土したもの。口唇下で外反し、胴部は緩やかにすぼまり底部がわずかに張り出す。底面は外周に細い台を作出し、上げ底になっている。口縁部は3条の細隆起線とおよび隆起線間に刻みが連続する。胴上半部は横位の縄文を地文とし刺突列が複数設けられ、胴下半部は縦位の縄文を地文とする。6は小型深鉢の口縁と思われる。口唇直下で外反し、口縁内面に縄文が押捺されている。細隆起線、刻文のほか、小型の貼瘤が付されている。

7～11はVII群b類の甕。7・8は同一個体で、口縁部がやや強く外反する。角形口唇下に刻みが施され、多条の横走沈線地にX字状文が付されている。9～11は同一個体で、口唇下に刻み列があり、多条の横走沈線地に鋸歯状沈線を密に重複させている。

12～18はVII群c類。13～16は同一個体の甕。口縁部がくの字に屈曲し、2条の凹線が施されている。長胴で下部は緩やかにすぼまり、底部がやや張り出す。無文で、内外面のミガキや内面の黒色処理が明瞭である。12・17・18は高坏。12は口縁部片で、凹線に矢羽状の刻文が密に施されている。17は脚部片。複数段の刻文がみられる。18は口縁～底部が復元できた。口径約15cm・高さ約12cmで、小型の割に深さのある高坏である。口縁は器壁が薄くやや外に開き、口唇下に稜をもち、体部は丸みをもってすぼまる。台は段をなして張り出し、台の底面は弱い上げ底になっている。体部に2本組の細い沈線で鋸歯状文が複数段施されている。

19は焼成粘土塊。大きさ約2cmで、扁平円形の粘土に細いへら状の工具による複数の筋が刻まれている。

## (3) 石器等・礫 [図Ⅲ-95～97、図版96・97]

縄文時代晩期～アイヌ文化期のものが含まれている。1～6は黒曜石製の剥片石器等。1・2は石鏃。1は小型でひし形に近いもの。2は凹基のもの。3は石錐。片面側縁と機能部に細かい調整が見られる。表面に光沢がなく、被熱していると思われる。4は靴形石器の一種と考えられるもの。上半部を欠く。撥状で下端が斜刃となっている。VI群b類土器に伴うと思われる。5はスクレイパー。側縁～下端付近に細かい調整が行われている。6は石核。黒曜石の分割礫を素材とし、多方向からの剥離が行われている。

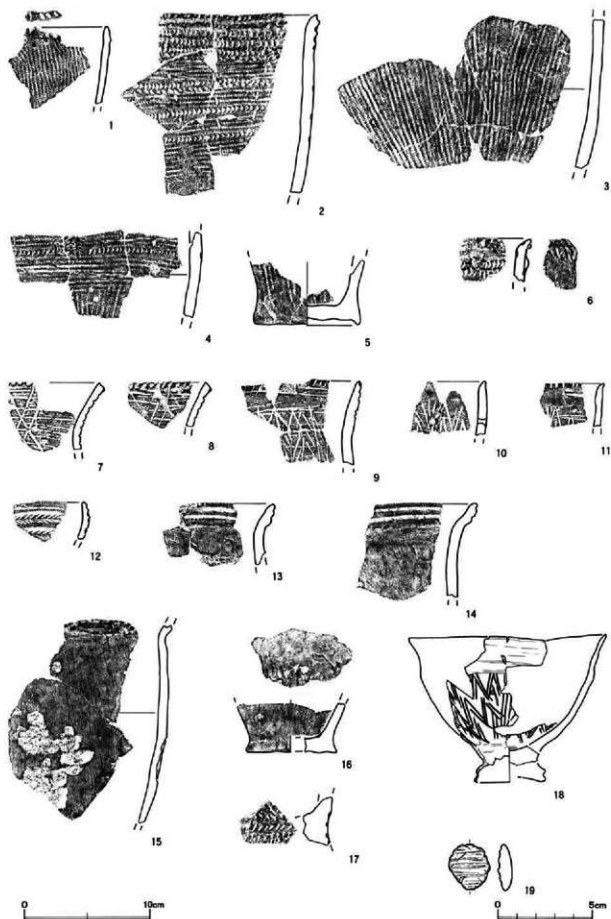
7～20は礫石器。7～11はたたき石で、縦長の砂岩礫の長軸端部（7・8・10・11は両端部）に敲打痕が観察される。11は表面にくぼみがある。12～14はくぼみ石とした。12・13は下端部に敲打痕も観察される。14は表面に黒色物質が付着している。15は石英片岩製で加工痕ある礫とした。撥状で図の左側縁に打ち欠きが連続する。火打石として利用される素材であり、関連があると考えられる。16は砂岩製で撥状石器としたもの。全面研磨で下端部に研磨が行き届き、斧状の刃部を作出している。17は砥石片。18は加工痕ある礫とした石英片岩の石器。扁平楕円形で、表面が平滑である。側面のほぼ全周に擦痕がみられる。19・20は台石。19は上面がやや湾曲するが、擦痕や敲打痕が観察でき、利用されていたと考えられる。20は大型板状礫が用いられ、平滑な表面にくぼみが多数観察される。

21～28は礫で、大型のものや特記するものを掲載した。21・22は石英質岩の角礫。火打石の原材にもなることから例示した。23は結晶片岩の扁平礫。24は泥岩の有孔礫。扁平礫の中央付近に自然によるものとみられる貫通孔がある。25は砂岩の「棒状礫」で、表面中央部の短軸方向に5mmほどの筋が観察されるもの。紐跡の可能性はある。26～28は化石痕入りの礫。26は二枚貝の化石痕がある扁平礫。27は小型の円礫の内部に巻貝の痕跡がある。28は内部に空洞のある円礫で、堅果類の跡のように観察される。

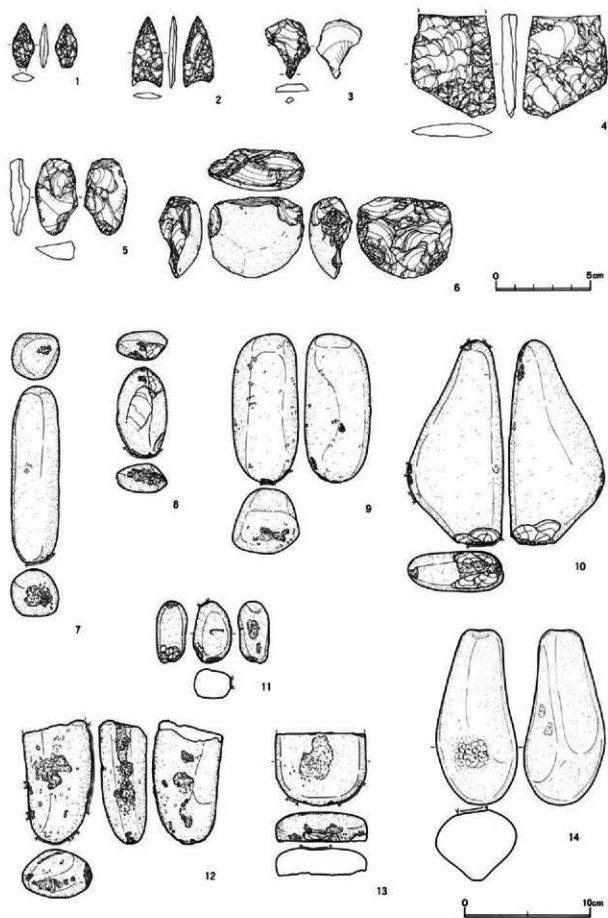
#### （4）鉄製品 [図Ⅲ-97、図版22]

1・2は鉄鍋片で、ⅢH-6の南側から出土し、同一個体とみられる。湾曲や厚さから、比較的小型の鍋と考えられる。口唇は切り出し状である。3は刀子。切っ先側を欠く。刀身の一部が残存し、棟は3mmほどの幅である。やや波状に変形している。4は形状不明の鉄製品。断面が方形をなし、一面がくぼむ。釘を加工したものと考えられる。

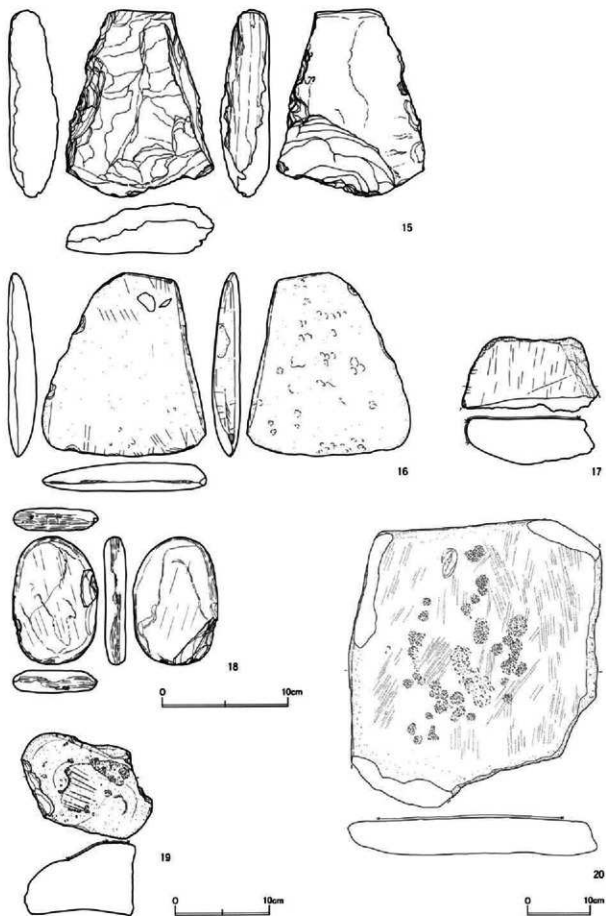
(阿部)



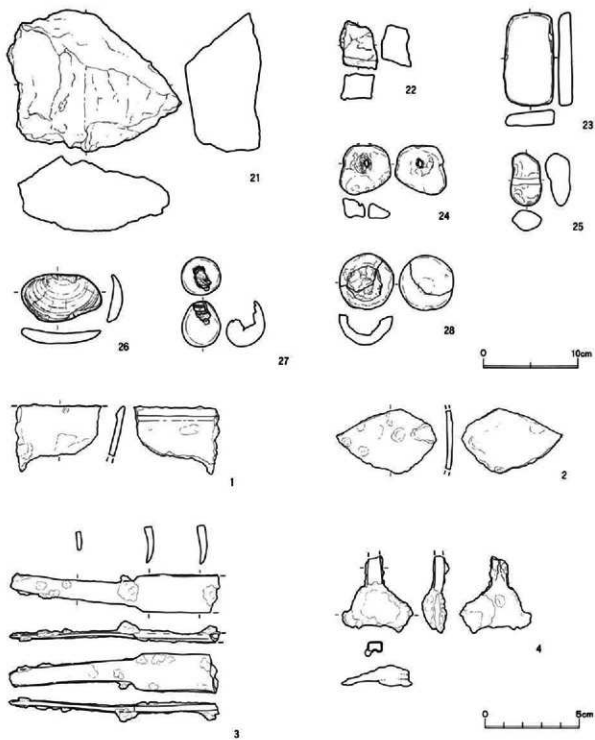
図Ⅲ-94 Ⅲ層包含層出土の土器・土製品



図III-95 III層包含層出土の石器(1)



図Ⅲ-96 Ⅲ層包含層出土の石器(2)



図Ⅲ-97 Ⅲ層包含層出土の石器(3)・鉄製品

表Ⅲ-3 Ⅲ層遺構一覧(1)

種別	遺構名	掲載 挿図	掲載 写真図版	検出位置		平面形	規模(m)				時期	備考										
				築造区	層位		検出面		底面				深さ									
							長径	短径	長径	短径												
平地住居跡	ⅢH-1	ⅢⅢ-1	ⅢⅢ29~31	b13~15, c14	Ⅲb層	(方形)	5.60	4.40				ⅢⅢ文化後期	N-36° W, 柱穴7基									
	HP-1					b14	Ⅳ層	不整形内郭	1.35	0.73				0.02								
	HP-2	b14+15	Ⅳ層	不整形内郭	1.62	0.80		0.06														
	HP-1	ⅢⅢ30																				
	HP-2														b13	Ⅳ層	円形	0.09	0.06		0.16	
	HP-3														b14	Ⅳ層	円形	0.08	0.07		0.18	
	HP-4	c14	Ⅳ層	円形	0.08	0.08		0.14														
	HP-5	e14	Ⅳ層	円形	0.08	0.07		0.11														
	HP-6	e14	Ⅳ層	円形	0.09	0.08		0.18														
	HP-7	b14	Ⅳ層	円形	0.10	0.10		0.24														
	HP-8	b14	Ⅳ層	楕円形	0.68	0.50	0.58	0.47	0.60	土坑												
	HP-9	b14	Ⅳ層	楕円形	0.54	0.40	0.56	0.30	0.25	土坑												
	HP-9	ⅢⅢ29																				
	HS-1															b14	Ⅲb層	不整形内郭	1.08	0.75		
	HS-2															b14	Ⅲb層	不整形内郭	0.73	0.55		
	HS-3	b14	Ⅲb層	円形	0.24	0.22																
	ⅢH-2	ⅢⅢ-9	+10	ⅢⅢ32-33	S19~20, T19~21, U20-21	Ⅳ層	方形・方形	8.18	4.00						ⅢⅢ文化後期	N-48° E, 柱穴17基						
	HP-1						S20	Ⅳ層	ほぼ円形	0.90	0.50						0.06					
	HP-2						S19	Ⅳ層	楕円形	0.53	0.48						0.05					
	HP-1						T19	Ⅳ層	円形	0.12	0.11						0.34					
HP-2	S20						Ⅳ層	円形	0.12	0.12		0.32										
HP-3	T19						Ⅳ層	円形	0.13	0.12		0.30										
HP-4	S20						Ⅳ層	円形	0.13	0.13		0.32										
HP-5	T20						Ⅳ層	円形	0.11	0.10		0.29										
HP-6	T20						Ⅳ層	円形	0.12	0.12		0.23										
HP-7	T20						Ⅳ層	円形	0.14	0.13		0.29										
HP-8	T20						Ⅳ層	円形	0.13	0.12		0.26										
HP-9	U20						Ⅳ層	円形	0.11	0.10		0.37										
HP-10	T21						Ⅳ層	円形	0.12	0.11		0.20										
HP-11	T21						Ⅳ層	円形	0.11	0.10		0.20										
HP-12	T21						Ⅳ層	円形	0.13	0.13		0.19										
HP-13	T19						Ⅳ層	円形	0.11	0.10		0.31										
HP-14	T20						Ⅳ層	円形	0.11	0.11		0.16										
HP-15	T21	Ⅳ層	円形	0.12	0.11		0.21															
HP-16	U21	V層上面	円形	0.13	0.12		0.20															
HP-17	T20	Ⅳ層	円形	0.10	0.09		0.11															
ⅢH-3	ⅢⅢ-11		ⅢⅢ34	a13+14, b13+14	Ⅳ層	(方形)	5.40	4.00	2.30			ⅢⅢ文化後期 ~アイヌ文化期	N-18° E, 柱穴5基									
HP-1						a14	Ⅳ層	不整形	0.78	0.63				0.04								
HP-2						a14	Ⅳ層	ほぼ円形	0.74	0.70				0.03								
HP-1						a13	Ⅳ層	円形	0.12	0.12				0.21								
HP-2						a13	Ⅳ層	円形	0.12	0.11				0.14								
HP-3						a13	Ⅳ層	円形	0.12	0.10				0.23								
HP-4						b14	Ⅳ層	円形	0.11	0.11				0.14								
HP-5	a14	Ⅳ層	円形	0.09	0.08		0.16															
ⅢH-4	ⅢⅢ-12	~14	ⅢⅢ35	a16+17, b16+17	Ⅲb層	方形	5.00	4.20				ⅢⅢ文化後期	N-71° E, 柱穴7基									
HP-1						a17	Ⅲb層	楕円形	1.10	0.86				0.10								
HP-1						a17	Ⅲc層	楕円形	0.14	0.11				0.42								
HP-2						b17	Ⅲc層	円形	0.15	0.13				0.53								
HP-3						b17	Ⅳ層	円形	0.12	0.11				0.44								
HP-4						b17	Ⅳ層	円形	0.10	0.10				0.14								
HP-5						b17	Ⅳ層	円形	0.08	0.08				0.19								
HP-6						b16	Ⅳ層	円形	0.11	0.11				0.21								
HP-7						b16	Ⅳ層	円形	0.14	0.14				0.33								
HS-1						a17	Ⅲb層	不整形	2.65	1.64												
HS-2						b17	Ⅲb層	不整形	3.68	3.48												
ⅢH-5	ⅢⅢ-17	+18	ⅢⅢ36	b21+22, c21	Ⅳ層	方形	5.14	4.24				ⅢⅢ文化後期	N-17° E, 柱穴8基									
HP-1						b21	Ⅳ層	不整形内郭	0.35	0.24				0.05								
HP-2						b21	Ⅳ層	不整形	0.54	0.45				0.06								
HP-3						b21	Ⅳ層	不整形内郭	0.36	0.21				0.05								
HP-1						b21	Ⅳ層	円形	0.10	0.10				0.28								
HP-2						b21	Ⅳ層	円形	0.13	0.13				0.39								
HP-3						b21	Ⅳ層	円形	0.12	0.12				0.27								
HP-4						c21	Ⅳ層	円形	0.08	0.08				0.14								
HP-5						c21	Ⅳ層	円形	0.11	0.11				0.34								
HP-6						c21	Ⅳ層	円形	0.11	0.11				0.24								
HP-7						b22	Ⅳ層	円形	0.11	0.10				0.37								
HP-8						b21	Ⅳ層	円形	0.09	0.09				0.28								
ⅢH-6						ⅢⅢ-19	+20	ⅢⅢ37	e21+22, e1+22	Ⅲb層	方形			4.48	3.34				ⅢⅢ文化後期	N-18° E, 柱穴7基		
HP-1	e22	Ⅲb層	ほぼ円形	0.44	0.40							0.09										
HP-1	e22	Ⅳ層	円形	0.11	0.10							0.30										



表Ⅲ-4 Ⅲ層遺構一覽(2)

種別	遺構名	高載		棟出位置		平面形	規模(m)					時期	備考	
		掃面	写真図版	発掘区	層位		検出面		底面		深さ			
							長径	短径	長径	短径				
平地住居跡	HP-2	Ⅲ-19	国版37	e21	Ⅳ層	円形	0.10	0.11			0.31	アイヌ文化期		
	HP-3			e21	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.33			
	HP-4			e21	Ⅳ層	円形	0.09	0.09			0.28			
	HP-5			e21	Ⅳ層	円形	0.10	0.08			0.29			
	HP-6			e22	Ⅳ層	円形	0.13	0.13			0.30			
	HP-7			e22	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.19			
	HS-1			e22	Ⅲb層	円形	2.90	2.08						
	ⅢH-7	Ⅲ-21	国版38	S15-16, T15-16	Ⅳ層	方形	3.58	4.30						N-65 W, 柱穴9基
	HP-1			T16	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.29			
	HP-2			T16	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.17			
	HP-3			T16	Ⅳ層	円形	0.12	0.11			0.24			
	HP-4			T15	Ⅳ層	円形	0.11	0.10			0.29			
	HP-5			S15	Ⅳ層	円形	0.11	0.11			0.12			
HP-6	S16			Ⅳ層	円形	0.10	0.09			0.46				
HP-7	S16			Ⅳ層	円形	0.10	0.09			0.30				
HP-8	S16	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.25						
ⅢH-8	Ⅲ-22	国版39	F66-67, G66-67	Ⅲb層	方形	5.20	3.30				N-47 E, 柱穴9基			
HP-1			F66	Ⅲb層	ほぼ円形	0.80	0.76			0.09				
HP-1			F66	Ⅳ層	円形	0.10	0.09			0.28				
HP-2			F66	Ⅳ層	円形	0.11	0.11			0.27				
HP-3			F66	Ⅳ層	円形	0.09	0.09			0.12				
HP-4			F66	Ⅳ層	円形	0.10	0.08			0.19				
HP-5			F67	Ⅳ層	円形	0.11	0.10			0.12				
HP-6			F66	Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.19				
HP-7			F66	Ⅳ層	円形	0.07	0.07			0.17				
HP-8			G66	Ⅳ層	円形	0.09	0.08			0.23				
HP-9			F67	Ⅳ層	円形	0.10	0.09			0.11				
HS-1			F66-67, G66-67	Ⅲb層	円形	2.90	2.08							
ⅢH-9	Ⅲ-24	国版40-41	B61-65, J64-65	Ⅲc層	方形	5.40	4.86				N-71 E, 柱穴20基			
HP-1			I-J64	Ⅲc層	楕円形	1.30	0.70			0.17				
HP-1			国版40	K64	Ⅳ層	円形	0.12	0.10				0.26		
HP-2				K64	Ⅳ層	円形	0.11	0.10				0.32		
HP-3				K64	Ⅳ層	円形	0.08	0.08				0.36		
HP-4				K64	Ⅳ層	円形	0.11	0.11				0.33		
HP-5				K64	Ⅳ層	円形	0.10	0.10				0.18		
HP-6				K64	Ⅳ層	円形	0.11	0.10				0.37		
HP-7				K64	Ⅳ層	円形	0.07	0.06				0.21		
HP-8				K64	Ⅳ層	円形	0.06	0.05				0.30		
HP-9				K65	Ⅲc層	円形	0.09	0.08				0.22		
HP-10				K65	Ⅳ層	円形	0.07	0.07				0.16		
HP-11				K65	Ⅳ層	円形	0.06	0.06				0.14		
HP-12				K64	Ⅳ層	円形	0.08	0.07				0.23		
HP-13				K64	Ⅳ層	円形	0.06	0.06				0.17		
HP-14				K64	Ⅳ層	円形	0.10	0.10				0.22		
HP-15				K64	Ⅳ層	円形	0.10	0.10				0.30		
HP-16				K64	Ⅳ層	円形	0.07	0.06				0.10		
HP-17				K64	Ⅳ層	円形	0.07	0.06				0.19		
HP-18				K64	Ⅳ層	円形	0.06	0.06				0.14		
HP-19	K64	Ⅳ層		円形	0.08	0.07			0.12					
HP-20	K64	Ⅳ層	円形	0.07	0.07			0.24						
HA-1	国版5	K64	Ⅲc層	円形	0.52	0.21			0.05					
ⅢH-10	Ⅲ-26	国版41-43	K63, J62-63, K63	Ⅳ層	方形	4.96	4.40				他に筒敷ブロック N-62 E, 柱穴13基			
HP-1			国版42	M63	Ⅳ層	ほぼ円形	0.90	0.36				0.16		
HP-1				M63	Ⅳ層	円形	0.11	0.10				0.20		
HP-2				M63	Ⅳ層	円形	0.12	0.12				0.28		
HP-3				M62	Ⅳ層	円形	0.10	0.19				0.19		
HP-4				M62	Ⅳ層	円形	0.12	0.11				0.34		
HP-5				M63	Ⅳ層	円形	0.11	0.10				0.30		
HP-6				M63	Ⅳ層	円形	0.08	0.08				0.28		
HP-7				K63	Ⅳ層	円形	0.14	0.12				0.44		
HP-8				M63	Ⅳ層	円形	0.11	0.11				0.23		
HP-9				M63	Ⅳ層	円形	0.09	0.08				0.27		
HP-10				M63	Ⅳ層	円形	0.08	0.07				0.12		
HP-11				M63	Ⅳ層	円形	0.14	0.13				0.47		
HP-12				M63	Ⅳ層	円形	0.07	0.07				0.29		
HP-13	M63	Ⅳ層	円形	0.13	0.12			0.30						
ⅢH-11	Ⅲ-28	国版41-43	J62-63, K63	Ⅳ層	方形	4.80	4.38				N-55 E, 柱穴14基			
HP-1			国版6	M63	Ⅳ層	ほぼ円形	0.77	0.68				0.12		
HP-1				国版43	M63	Ⅳ層	円形	0.11	0.10				0.30	
HP-2					M63	Ⅳ層	円形	0.08	0.08				0.38	

表Ⅲ-5 Ⅲ層遺構一覧(3)

種別	遺構名	掲載	検出位置		平面形	規模(m)				深さ	時期	備考			
			築造区	層位		検出面		底面							
						長径	短径	長径	短径						
平地住居跡	HP-3	図Ⅲ-28 *29	図版43	J62	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.19				
	HP-4			J62	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.34				
	HP-5			J62	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.14				
	HP-6			K63	Ⅳ層	円形	0.11	0.09			0.44				
	HP-7			K63	Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.17				
	HP-8			K63	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.23				
	HP-9			K63	Ⅳ層	円形	0.06	0.06			0.23				
	HP-10			K63	Ⅳ層	円形	0.09	0.08			0.19				
	HP-11			K63	Ⅳ層	円形	0.10	0.08			0.16				
	HP-12			K63	Ⅳ層	円形	0.11	0.10			0.44				
	HP-13			K63	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.23				
	HP-14			J62	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.24				
	■H-12			図Ⅲ-30	図版44+45 *32	図版6	N52-53, O52+53	Ⅳ層	方形	5.96	4.71				N-43' E, 柱穴29基
	HP-1			N52			Ⅳ層	山形検出形	0.83	0.71			0.15		
HP-1	N52	Ⅳ層	円形	0.06			0.06			(0.16)					
HP-2	N52	Ⅳ層	円形	0.06			0.06			0.19					
HP-3	O52	Ⅳ層	円形	0.10			0.09			0.24					
HP-4	O52	Ⅳ層	円形	0.06			0.06			0.13					
HP-5	O52	Ⅳ層	円形	0.07			0.06			0.13					
HP-6	O53	Ⅳ層	円形	0.08			0.08			0.28					
HP-7	O53	Ⅳ層	円形	0.08			0.08			0.25					
HP-8	O53	Ⅳ層	円形	0.07			0.07			(0.29)					
HP-9	O53	Ⅳ層	円形	0.07			0.06			0.16					
HP-10	O53	Ⅳ層	円形	0.08			0.08			0.28					
HP-11	O53	Ⅳ層	円形	0.09			0.08			0.23					
HP-12	N53	Ⅳ層	円形	0.07			0.07			0.18					
HP-13	N53	Ⅳ層	円形	0.09	0.08			0.18							
HP-14	N53	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.10							
HP-15	N53	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.17							
HP-16	N53	Ⅲc層	円形	0.09	0.09			0.29							
HP-17	N53	Ⅳ層	円形	0.10	0.08			0.17							
HP-18	N52	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.12							
HP-19	N53	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.20							
HP-20	O53	Ⅳ層	円形	0.09	0.08			0.23							
HP-21	O53	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.18							
HP-22	N53	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.17							
HP-23	N53	Ⅳ層	円形	0.09	0.09			0.14							
HP-24	N53	Ⅳ層	円形	0.09	0.08			0.11							
HP-25	N53	Ⅳ層	円形	0.09	0.08			0.18							
HP-26	N53	Ⅳ層	円形	0.09	0.09			0.28							
HP-27	N53	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.22							
HP-28	N53	Ⅳ層	円形	0.07	0.07			0.16							
HP-29	N53	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.20							
■H-13	図Ⅲ-33	図版45+46 *34	図版6	O+P53	Ⅳ層	方形+	3.88	3.06				N-60' E, 柱穴15基			
HP-1	P53			Ⅲc層	山形円形	0.50	0.43			0.06					
HP-1	P53			Ⅳ層	円形	0.11	0.10			0.17					
HP-2	P53			Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.15					
HP-3	P53			Ⅳ層	円形	0.10	0.09			0.27					
HP-4	P53			Ⅳ層	円形	0.07	0.07			0.11					
HP-5	P53			Ⅳ層	円形	0.10	0.09			0.24					
HP-6	O53			Ⅳ層	円形	0.07	0.07			0.15					
HP-7	O53			Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.15					
HP-8	P53			Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.08					
HP-9	P53			Ⅳ層	円形	0.10	0.09			0.42					
HP-10	O53			Ⅳ層	円形	0.09	0.07			0.25					
HP-11	O53			Ⅳ層	円形	0.10	0.09			0.27					
HP-12	O53			Ⅳ層	円形	0.10	0.08			0.28					
HP-13	P53	Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.15							
HP-14	P53	Ⅳ層	円形	0.07	0.06			0.10							
HP-15	P53	Ⅳ層	円形	0.06	0.06			0.21							
■H-14	図Ⅲ-36	図版47 *37	図版6	L52+53, M52+53	Ⅲc層	方形	4.64	4.09				N-80' E, 柱穴21基			
HP-1	M53			Ⅳ層	山形円形	0.20	0.54			0.10					
HP-1	M53			Ⅳ層	円形	0.13	0.11			0.30					
HP-2	M53			Ⅳ層	円形	0.09	0.09			0.28					
HP-3	M52			Ⅳ層	円形	0.10	0.09			0.32					
HP-4	M53			Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.30					
HP-6	M53			Ⅳ層	円形	0.12	0.11			0.33					
HP-7	M53			Ⅳ層	円形	0.11	0.11			0.38					
HP-8	M53			Ⅳ層	円形	0.11	0.11			0.40					
HP-9	L53			Ⅳ層	円形	0.12	0.11			0.43					
HP-10	L53	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.35							

表Ⅲ-6 Ⅲ層遺構一覽(4)

種別	遺構名	商標		棟出位置		平面形状	規模(m)					時期	備考		
		写真図版	発掘区画	層位	層別		検出面		底面		深さ				
							長径	短径	長径	短径					
平地住居跡	HP-11	国Ⅲ-36	国Ⅲ47	L52+53	Ⅳ層	円形	0.13	0.12			0.43	アイヌ文化期			
	HP-12			M52	Ⅳ層	円形	(0.10)	(0.10)			0.45				
	HP-13			M52	Ⅳ層	円形	0.10	0.09			0.26				
	HP-14			M52	Ⅳ層	円形	0.07	0.07			0.14				
	HP-15			M53	Ⅳ層	円形	0.06	0.06			0.18				
	HP-16			M53	Ⅲ+Ⅳ層	円形	0.07	0.06			0.24				
	HP-17			M53	Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.16				
	HP-18			M53	Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.14				
	HP-19			M52	Ⅳ層	円形	0.05	0.05			0.12				
	HP-20			M53	Ⅳ層	円形	0.06	0.05			0.17				
	HP-21			M53	Ⅳ層	円形	0.07	0.06			0.15				
	HP-22			M53	Ⅳ層	円形	0.06	0.06			0.15				
建物跡1	HP-1	国Ⅲ-38	国Ⅲ48	e20+21	Ⅳ層	ほぼ方形	3.10	2.86				アイヌ文化期	N-11 柱、柱穴9基		
	HP-2			e31	Ⅳ層	円形	0.15	0.14			0.27				
	HP-3			e30	Ⅳ層	円形	0.15	0.14			0.42				
	HP-4			e30	Ⅳ層	円形	0.15	0.15			0.33				
	HP-4			e30	Ⅳ層	円形	0.15	0.15			0.44				
	HP-5			e30	Ⅳ層	円形	0.13	0.13			0.55				
	HP-6			e30	Ⅳ層	円形	0.15	0.14			0.28				
	HP-7			e30	Ⅳ層	円形	0.16	0.16			0.31				
	HP-8			e30	Ⅳ層	円形	0.15	0.15			0.52				
	HP-9			e30	V層	円形	0.13	0.12			0.14				
坑列	ⅢSP-1	国Ⅲ-39	国Ⅲ49	F64, G64+65	Ⅲ+Ⅳ層	不整形	9.20	2.40				アイヌ文化期			
	ⅢSP-31			F65	Ⅳ層	円形	0.06	0.06			0.12				
	ⅢSP-32			F65	Ⅳ層	円形	0.06	0.06			0.06				
	ⅢSP-33			G65	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.14				
	ⅢSP-34			G65	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.28				
	ⅢSP-35			G65	Ⅳ層	円形	0.12	0.10			0.14				
	ⅢSP-36			G65	Ⅳ層	円形	0.13	0.11			0.12				
	ⅢSP-37			G65	Ⅳ層	円形	0.07	0.06			0.13				
	ⅢSP-38			G65	Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.07				
	柱穴・柱土坑	ⅢSP-1	国Ⅲ-40	国Ⅲ50	S20	Ⅳ層	円形	0.09	0.08				0.16	アイヌ文化期	
ⅢSP-2				S20	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.05	アイヌ文化期			
ⅢSP-3				S20	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.11	アイヌ文化期			
ⅢSP-4				S20	Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.14	アイヌ文化期			
ⅢSP-5				S20	Ⅳ層	円形	0.09	0.07			0.13	アイヌ文化期			
ⅢSP-6				S20	Ⅳ層	円形	0.08	0.06			0.06	アイヌ文化期			
ⅢSP-7				S21	Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.16	アイヌ文化期			
ⅢSP-8				T19	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.17	アイヌ文化期			
ⅢSP-9				T19	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.24	アイヌ文化期			
ⅢSP-10				T19	Ⅳ層	円形	0.11	0.11			0.17	アイヌ文化期			
ⅢSP-21				k29	Ⅳ層	円形	0.11	0.10			0.35	アイヌ文化期			
ⅢSP-22					Ⅳ層	円形	0.12				0.25	アイヌ文化期			
ⅢSP-24				R16	V層	円形	0.10	0.08			0.18	アイヌ文化期			
ⅢSP-25				S17	V層	円形	0.11	0.10			0.26	アイヌ文化期			
ⅢSP-26				V13	Ⅳ層	円形	0.11	0.10			0.21	アイヌ文化期			
ⅢSP-27				W13	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.18	アイヌ文化期			
ⅢSP-28				Y13	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.26	アイヌ文化期			
ⅢSP-29				Z12	Ⅳ層	円形	0.11	0.10			0.25	アイヌ文化期			
ⅢSP-30				V13	Ⅳ層	円形	0.09	0.08			0.18	アイヌ文化期			
ⅢSP-39		国Ⅲ-41			J64	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.17	アイヌ文化期		
ⅢSP-40			42		J65	Ⅳ層	円形	0.09	0.08			0.13	アイヌ文化期		
ⅢSP-41					J64	Ⅳ層	円形	0.10	0.09			0.23	アイヌ文化期		
ⅢSP-42					J62	Ⅳ層	円形	0.07	0.07			0.22	アイヌ文化期		
ⅢSP-43					K62	Ⅳ層	円形	0.09	0.09			0.14	アイヌ文化期		
ⅢSP-51					O63	Ⅳ層	円形	0.09	0.08			0.19	アイヌ文化期		
ⅢSP-52					O64	Ⅳ層	円形	0.07	0.07			0.19	アイヌ文化期		
ⅢSP-53					O62	Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.40	アイヌ文化期		
ⅢSP-54					P52	Ⅳ層	円形	0.08	0.08			0.10	アイヌ文化期		
ⅢSP-55					P52	Ⅳ層	円形	0.07	0.07			0.14	アイヌ文化期		
ⅢSP-56					P52	Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.17	アイヌ文化期		
ⅢSP-57					P54	Ⅳ層	円形	0.09	0.08			0.22	アイヌ文化期		
ⅢSP-58					N51	Ⅲ+Ⅳ層	円形	0.10	0.10			0.24	アイヌ文化期		
ⅢSP-68					O64	Ⅳ層	円形	0.09	0.08			0.21	アイヌ文化期		
ⅢSP-69					M55	Ⅳ層	円形	0.08	0.07			0.13	アイヌ文化期		
土坑墓		ⅢGP-1	国Ⅲ-43	国Ⅲ7~9	J63+64, K64	Ⅲa層	円形	3.94	3.80			0.66	アイヌ文化期		N-69 E 上面径φ.40×0.35
		SP-1	~48		J64	Ⅲ層	円形	0.16	0.16			0.55			
	ⅢGP-2	国Ⅲ-54	国Ⅲ9	K64+65	Va層	円形			1.28	1.10	(0.19)	アイヌ文化期			
上坑	ⅢP-1	国Ⅲ-56	国Ⅲ50	k22	Va層	楕円形	(0.75)		(0.46)	(0.36)	0.04	アイヌ文化期			

表Ⅲ-7 Ⅲ層遺構一覧(5)

種別	遺構名	所在	棟位置	平面形	規模(m)				深さ	時期	備考
					棟位置		平面形				
					長径	短径	長径	短径			
集中区	Ⅲ中區1	ⅢⅢ-57	ⅢⅢ51	P52~56, Q52~55	ⅢⅢb層	不整形	20.60	6.50		ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	ⅢF-6	ⅢⅢ-57	ⅢⅢ10	P53	ⅢⅢb層	円形	0.17	0.16	0.02	ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	ⅢF-8	ⅢⅢ-57	ⅢⅢ10	P52	ⅢⅢb層	不整形	0.34	0.33	0.02	ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	Ⅲ中區2	ⅢⅢ-59	ⅢⅢ52	M53~55, N51~52, O51~54, P50~52, Q50~51	ⅢⅢb層	不整形	23.30	15.20		ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	ⅢF-9	ⅢⅢ-60	ⅢⅢ10	P53	ⅢⅢb層	楕円形	0.47	0.35	0.06	ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	ⅢF-10	ⅢⅢ-60	ⅢⅢ10	P52	ⅢⅢ層	不整形	0.45	0.26	0.05	ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	ⅢPB-1	ⅢⅢ-60	ⅢⅢ52	O51~P51	ⅢⅢb層	不整形	4.50	2.15		ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	ⅢS-6	ⅢⅢ-60		O54	ⅢⅢb層	不整形円形	1.38	0.80		ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	Ⅲ中區3	ⅢⅢ-63	ⅢⅢ53	N49~51, O48~51, P48~50, Q48~50, R49~50	ⅢⅢb層	不整形	21.40	11.10		ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	ⅢF-11	ⅢⅢ-64	ⅢⅢ10	Q49	ⅢⅢb層	楕円形	0.70	0.43	0.06	ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	ⅢF-12	ⅢⅢ-64	ⅢⅢ10	Q49	ⅢⅢb層	不整形円形	0.60	0.45	0.08	ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	ⅢS-9	ⅢⅢ-64	ⅢⅢ53	Q49	ⅢⅢb層	山形楕円形	1.08	0.80		ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	Ⅲ中區4	ⅢⅢ-67	ⅢⅢ53	K54~55, L51~56, M55~56	ⅢⅢb層	不整形	13.30	6.80		ⅢⅢ文文化後期	
	Ⅲ中區5	ⅢⅢ-69	ⅢⅢ54	K52~54, L52~54	ⅢⅢb層	不整形円形	9.80	7.10		ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	ⅢF-14	ⅢⅢ-70	ⅢⅢ10	K53	ⅢⅢb層	山形楕円形	0.74	0.46	0.04	ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
ⅢSP-59	ⅢⅢ-70	ⅢⅢ54	K53	ⅢⅢ層	円形	0.11	0.10	0.27	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-60	ⅢⅢ-70		K53	ⅢⅢ層	円形	0.09	0.09	0.17	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-61	ⅢⅢ-70		K53	ⅢⅢ層	円形	0.11	0.10	0.22	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-62	ⅢⅢ-70		K54	ⅢⅢ層	円形	0.08	0.08	0.16	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-63	ⅢⅢ-70		K54	ⅢⅢ層	円形	0.13	0.11	0.24	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-64	ⅢⅢ-70		K54	ⅢⅢ層	円形	0.12	0.12	0.38	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
Ⅲ中區6	ⅢⅢ-71	ⅢⅢ55	a12~13, b12~14, c12~15, d13~15	ⅢⅢb層	不整形円形	17.60	7.70		ⅢⅢ文文化後期		
ⅢS-1	ⅢⅢ-71		a12~13, b12~14, c12~15, d13~15	ⅢⅢb層	不整形円形	17.60	7.70		ⅢⅢ文文化後期		
ⅢSP-11	ⅢⅢ-72		d14	ⅢⅢ層	円形	0.26	0.26	0.45	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-12	ⅢⅢ-72		d14	ⅢⅢ層	円形	0.16	0.14	0.33	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-13	ⅢⅢ-72		d14	ⅢⅢ層	円形	0.26	0.25	0.39	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-14	ⅢⅢ-72		d14	ⅢⅢ層	円形	0.20	0.18	0.30	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-17	ⅢⅢ-72		d13~14	ⅢⅢ層	円形	0.36	0.33	0.50	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-18	ⅢⅢ-72		e13	ⅢⅢ層	円形	0.24	0.24	0.34	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-19	ⅢⅢ-72		e13	ⅢⅢ層	円形	0.28	0.25	0.37	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-20	ⅢⅢ-72		e+d13	ⅢⅢ層	円形	0.18	0.17	0.31	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
ⅢSP-23	ⅢⅢ-72		e14	ⅢⅢ層	円形	0.18	0.17	0.18	ⅢⅢ文~アイヌ文化期		
Ⅲ中區7	ⅢⅢ-77	ⅢⅢ55	e21~22, d21~22, e21~22	ⅢⅢb層	不整形円形	11.88	8.00		アイヌ文化期		
ⅢS-2	ⅢⅢ-77		e21~22, d21~22, e21~22	ⅢⅢb層	不整形円形	11.88	8.00		アイヌ文化期		
Ⅲ中區8	ⅢⅢ-79	ⅢⅢ56	f64~65, f64~66, f65	ⅢⅢb層	不整形	9.50	5.25		アイヌ文化期		
ⅢS-5	ⅢⅢ-79		f64~65, f64~66	ⅢⅢb層	不整形	8.00	5.25		アイヌ文化期		
ⅢS-2	ⅢⅢ-79		f65	ⅢⅢb層	不整形	2.65	1.25		アイヌ文化期		
Ⅲ中區9	ⅢⅢ-80	ⅢⅢ56	g62~64, h62~64, h62~64	ⅢⅢb層	不整形	13.30	12.60		アイヌ文化期		
ⅢS-6	ⅢⅢ-80		g62~64, h62~64, h62~64	ⅢⅢb層	不整形円形	13.30	12.60		アイヌ文化期		
統一	ⅢF-1	ⅢⅢ-84	ⅢⅢ11	S20~21	ⅢⅢ層	楕円形	0.42	0.34	0.04	アイヌ文化期	
	ⅢF-2	ⅢⅢ-84	ⅢⅢ11	Z~a24	ⅢⅢa層	不整形円形	0.55	0.44	0.05	アイヌ文化期	
	ⅢF-3	ⅢⅢ-84	ⅢⅢ11	a30	ⅢⅢ層	不整形円形	1.82	1.56	0.09	縄縄文時代	
	ⅢF-4	ⅢⅢ-84	ⅢⅢ11	T16	ⅢⅢc層	山形楕円形	0.61	0.35	0.04	アイヌ文化期	
	ⅢF-5	ⅢⅢ-84	ⅢⅢ11	Z~a12	ⅢⅢb層	楕円形	0.52	0.44	0.06	ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
Ⅲ中區10	ⅢF-7	ⅢⅢ-85	ⅢⅢ11	M52	ⅢⅢc層	楕円形	0.38	0.28	0.03	ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
	ⅢF-13	ⅢⅢ-85	ⅢⅢ11	L52	ⅢⅢc層	山形楕円形	0.17	0.17	0.02	ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
Ⅲ中區11	ⅢA-1	ⅢⅢ-86	ⅢⅢ12	m~n29	ⅢⅢb層	不整形	1.62	1.40	0.10	アイヌ文化期	
	ⅢA-2	ⅢⅢ-86	ⅢⅢ12	k28	ⅢⅢb層	不整形	0.60	0.44	0.06	アイヌ文化期	
	ⅢPB-2	ⅢⅢ-87	ⅢⅢ57	M49	ⅢⅢb層	不整形	0.70	0.45		ⅢⅢ文文化後期	
	ⅢS-3	ⅢⅢ-88	ⅢⅢ57	Y13	ⅢⅢb層	不整形円形	1.40	0.60		ⅢⅢ文~アイヌ文化期	
Ⅲ中區12	ⅢS-4	ⅢⅢ-89	ⅢⅢ57	h62	ⅢⅢb層	山形楕円形	3.05	2.10		アイヌ文化期	
	ⅢS-3	ⅢⅢ-90	ⅢⅢ57	h62~h63	ⅢⅢb層	不整形	2.25	1.30		アイヌ文化期	
	ⅢS-4	ⅢⅢ-90	ⅢⅢ57	h63~h63	ⅢⅢb層	不整形	2.10	1.90		アイヌ文化期	





表Ⅲ-10 Ⅲ層出土掲載金属製品一覧

種別 番号	掲載 番号	写真図 版番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物番号	種別	器種	部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	個体 番号
図Ⅲ-10	1	図版20	ⅢH-2	I	2	鉄製品	内耳鍋	口縁	11.3	4.1	2.40.30	121.9	2点接合	上3-2
図Ⅲ-23	2		ⅢH-8	床面	1220	鉄製品	(備状)		3.3	3.0	1.1	5.0		上3-22
図Ⅲ-25	2		ⅢH-9 HF-1	礎土上面	1752	鉄製品	釘		5.1	1.0	0.9	6.5		上3-23
図Ⅲ-31	1		ⅢH-12	床面	3145	鉄製品	釘		8.5	1.1	1.1	17.8		上3-25
図Ⅲ-31	2		ⅢH-12	床面	3144	鉄製品	(鉤状)		4.5	3.1	1.1	8.9		上3-24
図Ⅲ-34	1		ⅢH-13	床面	3264	鉄製品	刀子		16.0	1.8	0.9	22.3	2点接合	上3-26
図Ⅲ-37	1		ⅢH-14	床面	3586	鉄製品	刀器具		5.5	4.5	1.9	23.8	はばき?	上3-27
図Ⅲ-40-30	1	図版15	ⅢGP-1	封土上面	1001-1002- 1003-1004- 1005-1006- 1221-1222	鉄製品	鍋	吊手・ 口~底	43.0	43.0	43.2	(2959.0)	10点接合、 復元 容量約8升	上3-9
図Ⅲ-51	2	図版16	ⅢGP-1	掘土上	1223	鉄製品	鉈		25.2	3.1	0.8	293.3		上3-10
図Ⅲ-51	3		ⅢGP-1	掘土上	1224	鉄製品	鉈		23.6	4.1	0.7	268.8		上3-11
図Ⅲ-51	4		ⅢGP-1	掘土上	1225	鉄製品	鉈		24.9	4.1	0.8	307.1		上3-12
図Ⅲ-51	5		ⅢGP-1	遺体層	1721	鉄製品	小刀		35.5	5.6	1.9	238.8	2点接合、 木質付着	上3-14
図Ⅲ-52	6	図版17	ⅢGP-1	遺体層	1720	鉄製品	鎌		18.9	14.2	2.0	131.8	3点接合、 木質付着	上3-13
図Ⅲ-52	7		ⅢGP-1	遺体層	1724	銀製品	耳飾り		6.2	6.1	0.2	7.0		上3-31
図Ⅲ-52	8		ⅢGP-1	遺体層	1725	銀製品	耳飾り		6.9	6.0	0.2	6.9		上3-32
図Ⅲ-55	23	図版19	ⅢGP-2	遺体層	④	銅製品	古銭		2.4	2.3	0.1	2.9	太平通寶	上3-29
図Ⅲ-55	24		ⅢGP-2	遺体層	②	銅製品	古銭		2.4	2.4	0.1	2.6	咸平元寶	上3-41
図Ⅲ-55	25		ⅢGP-2	遺体層	③	銅製品	古銭		2.5	2.5	0.1	3.2	天聖元寶	上3-40
図Ⅲ-55	26		ⅢGP-2	遺体層	⑤	銅製品	古銭		2.5	2.5	0.1	2.7	景祐元寶	上3-43
図Ⅲ-55	27		ⅢGP-2	遺体層	4032	銅製品	古銭		2.4	2.4	0.1	2.3	皇宋通寶	上3-37
図Ⅲ-55	28		ⅢGP-2	遺体層	4029	銅製品	古銭		2.4	2.4	0.1	2.5	皇宋通寶	上3-34
図Ⅲ-55	29		ⅢGP-2	遺体層	4028	銅製品	古銭		2.4	2.4	0.1	2.0	皇宋通寶	上3-33
図Ⅲ-55	30		ⅢGP-2	遺体層	⑥	銅製品	古銭		2.4	2.4	0.1	2.6	皇宋通寶	上3-44
図Ⅲ-55	31		ⅢGP-2	遺体層	4030	銅製品	古銭		2.3	2.3	0.1	2.9	皇宋通寶?	上3-35
図Ⅲ-55	32		ⅢGP-2	遺体層	4033	銅製品	古銭		2.3	2.3	0.1	2.1	熙寧元寶	上3-38
図Ⅲ-55	33		ⅢGP-2	遺体層	4031	銅製品	古銭		2.5	2.4	0.1	2.3	熙寧元寶	上3-36
図Ⅲ-55	34		ⅢGP-2	遺体層	①	銅製品	古銭		2.4	2.4	0.1	2.9	大観通寶	上3-42
図Ⅲ-56	1	図版21	ⅢP-1	坑底	1	鉄製品	刀		45.0	5.5	3.0	375.0		上3-1
図Ⅲ-61	3	図版19	ⅢS-8	Ⅲb	2940	銅製品	古銭		2.4	2.4	0.1	2.7	政和通寶	上3-45
図Ⅲ-61	4	図版21	集中区2/F52	Ⅲb	2180	鉄製品	刀子		18.3	2.6	0.9	33.9		上3-18
図Ⅲ-61	5		集中区2/O53	Ⅲb	2396	鉄製品	刀子		3.5	2.1	1.1	14.4		上3-21
図Ⅲ-61	6		集中区2/O52	Ⅲb	2242	鉄製品	刀子		3.5	1.8	0.5	4.2		上3-19
図Ⅲ-61	7		集中区2/O52	Ⅲb	2393	鉄製品	釘		6.8	1.0	1.0	11.7		上3-20
図Ⅲ-65	7	図版22	集中区3/F49	Ⅲb	2509	鉄製品	釘		17.3	1.4	1.5	77.1		上3-17
図Ⅲ-65	8		集中区3/F49	Ⅲb	2511	鉄製品	刀子		18.2	2.3	1.1	30.1		上3-16
図Ⅲ-69	2		集中区5/K54	Ⅲb	3584	鉄製品	小刀		29.0	4.1	1.7	247.0		上3-15
図Ⅲ-71	1		集中区6/d13	Ⅲb	1	鉄製品	刀子		9.4	2.5	0.8	14.3		上3-4
図Ⅲ-78	1		ⅢS-2/c22	Ⅲb		鉄製品	(板状)		7.1	3.5	1.0	7.3		上3-5
図Ⅲ-78	2		ⅢS-2/d21	Ⅲb	81	鉄製品	刀器具	留金具	2.8	2.4	1.4	1.9		上3-6①
図Ⅲ-78	3		ⅢS-2/d21	Ⅲb	81	鉄製品	刀器具	留金具	1.8	1.3	1.4	1.5		上3-6②
図Ⅲ-97	1		②1	Ⅲb	2	鉄製品	内耳鍋	口縁	4.6	3.6	0.7	17.8		上3-3②
図Ⅲ-97	2		②1	Ⅲb	1	鉄製品	内耳鍋	胴	3.5	5.3	0.8	16.2		上3-3①
図Ⅲ-97	3		J66	Ⅲb	1045	鉄製品	刀子		11.1	2.0	1.1	15.2		上3-28
図Ⅲ-97	4		T50	Ⅲb	2749	鉄製品	不明		4.0	3.8	1.4	8.7		上3-29

表Ⅲ-11 Ⅲ層出土掲載ガラス製品一覧

挿図 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	分析 番号
							長さ	幅	厚さ			
図Ⅲ-23	1	図版18	ⅢH-8HF-1	焼土3層	フ-33	玉(小玉)	0.4	0.4	0.3			27
図Ⅲ-52	9	図版18	ⅢGP-1	遺体層	1722	玉(蜜柑玉)	1.3	1.3	1.0	2.7		1
図Ⅲ-52	10		ⅢGP-1	遺体層	1723	玉(小玉)	0.8	0.8	0.6	0.4		2
図Ⅲ-54	1		ⅢGP-2	遺体層	4010	玉(小玉)	0.7	0.7	0.5	0.3		3
図Ⅲ-54	2		ⅢGP-2	遺体層	4007	玉(小玉)	0.8	0.8	0.6	0.5		4
図Ⅲ-54	3		ⅢGP-2	遺体層	4012	玉(小玉)	0.8	0.8	0.6	0.6		5
図Ⅲ-54	4		ⅢGP-2	遺体層	4009	玉(小玉)	0.8	0.7	0.5	0.4		6
図Ⅲ-54	5		ⅢGP-2	遺体層	4015	玉(小玉)	0.8	0.7	0.6	0.5		7
図Ⅲ-54	6		ⅢGP-2	遺体層	4024	玉(小玉)	0.9	0.8	0.6	0.5		8
図Ⅲ-54	7		ⅢGP-2	遺体層	4016	玉(小玉)	0.9	0.8	0.6	0.6		9
図Ⅲ-54	8		ⅢGP-2	遺体層	4035	玉(小玉)	1.0	0.9	0.6	0.8	ビビ入り	10
図Ⅲ-54	9		ⅢGP-2	遺体層	4023	玉(小玉)	0.7	0.7	0.6	0.4		11
図Ⅲ-54	10		ⅢGP-2	遺体層	4027	玉(小玉)	0.8	0.8	0.5	0.4		12
図Ⅲ-54	11		ⅢGP-2	遺体層	フ-79	玉(小玉)	0.9	0.8	0.6	0.6		13
図Ⅲ-54	12		ⅢGP-2	遺体層	4020	玉(小玉)	0.8	0.8	0.5	0.4		14
図Ⅲ-54	13		ⅢGP-2	遺体層	4017	玉(小玉)	0.9	0.9	0.6	0.6		15
図Ⅲ-54	14		ⅢGP-2	遺体層	4018	玉(小玉)	0.7	0.7	0.6	0.3		16
図Ⅲ-54	15		ⅢGP-2	遺体層	4021	玉(小玉)	0.7	0.7	0.5	0.4		17
図Ⅲ-54	16		ⅢGP-2	遺体層	4019	玉(小玉)	0.7	0.7	0.6	0.4		18
図Ⅲ-54	17		ⅢGP-2	遺体層	4022	玉(小玉)	(0.8)	0.7	0.6	(0.3)	破損・接合	19
図Ⅲ-54	18		ⅢGP-2	遺体層	4026	玉(小玉)	0.9	0.8	0.6	0.5		20
図Ⅲ-54	19		ⅢGP-2	遺体層	4014	玉(小玉)	0.9	0.9	0.7	0.8		21
図Ⅲ-54	20		ⅢGP-2	遺体層	4013	玉(小玉)	0.8	0.8	0.6	0.5		22
図Ⅲ-54	21	ⅢGP-2	遺体層	4025	玉(小玉)	0.8	0.8	0.5	0.4		23	
図Ⅲ-54	22	ⅢGP-2	遺体層	4034	玉(小玉)	0.9	0.9	0.6	0.7		24	
付												
図Ⅱ-14	4	図版18	I H-1周辺	I		玉(小玉)	1.1	1.1	0.9	2.0	近現代	28

表Ⅲ-12 Ⅲ層出土掲載獣骨加工品等一覧

挿図 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	個体 番号
							長さ	幅	厚さ			
図Ⅲ-25	1	図版23	ⅢH-9HF-1	焼土2	フ-41	シカ歯根	1.1	0.4	0.4	0.1	自然遺物	
図Ⅲ-87	2	図版23	ⅢPB-2	Ⅲb		加工痕ある鹿角	5.0	2.2	1.4	33.3		



表Ⅲ-13 Ⅲ層出土土器類一覽(1)

発掘 番号	発掘 番号	学名(国名) 番号	遺構/ (発掘区)	部位	遺物No.	点数	分類	器種	部位	内面調整等	文様等	備考	割合%	
図Ⅲ-4	1	図Ⅲ88	ⅢH-1	床面	3-123-160* 177-191	7	18	Ⅴc	高坪	口～唇	ケズリ、ナデ、 おらずに黒色処理の 跡が残る	矢筈状刻文、線刻 文、内面刺状列/ 口唇16.0cm、台の底 径5.9cm、器高 12.0cm	1	
				ⅢH-1HS-1	床面	185	1							集中区Ⅵ
				ⅢH-1HS-2	床面	208	1							集中区Ⅵ
				b13	Ⅲb		3							集中区Ⅵ
				c14	Ⅲb		4							集中区Ⅵ
図Ⅲ-4	2	図Ⅲ88	ⅢH-1	床面	202	7	20	Ⅴc	高坪	口～体	ナデ、ミガキ、 黒色処理	横/ 口唇15.6cm、最大高 11.5cm	4	
				ⅢH-1HS-1	床面	119-120	3							集中区Ⅵ
				b15	Ⅲb	208	1							集中区Ⅵ
				c13	Ⅲb		2							集中区Ⅵ
				c14	Ⅲb		6							集中区Ⅵ
図Ⅲ-4	3	図Ⅲ88	ⅢH-1HP-7	覆土	293	2	3	Ⅴc	高坪	口～体	ナデ、ミガキ、 黒色処理	斜線状刻文、刻文	47	
				ⅢH-1HS-2	床面	259	1							
				ⅢH-1	床面	38-39-82* 136-161	7	17	Ⅴb	坪	口～底	底部付近ケズリ、 ナデ、ミガキ、 黒色処理/ 外:ナデ・ミガキ	凹線(横)/ 口唇15.5cm、底径 7.3cm、器高6.4cm	3
					b13	Ⅲb		2						集中区Ⅵ
					b14	Ⅲb		7						集中区Ⅵ
図Ⅲ-58	1	図Ⅲ91	集中区1/P55	Ⅲb	2041	1	1	Ⅴc	甕	胴	ミガキ	多条刺状刻線、多 条刺状刻線	121	
				ⅢB-1	Ⅲb	2809-2821	2	9	Ⅴc	甕	口～胴	ナデ、ミガキ、 黒色処理/ 外:黒色物質付着	矢筈状刻文、多条刺 状刻線、横条刻線	511
					集中区3/N49	Ⅲb	2535-2536	3						
					集中区3/O49	Ⅲb	2664	1						
					集中区3/O50	Ⅲb	2553-2558	3						
図Ⅲ-61	2	図Ⅲ91	ⅢS-8	Ⅲb	2853	1	2	Ⅴc	甕	口～胴	ナデ、ミガキ、 黒色処理/ 粘土に砂粒を多く含 む	刻文、刺状刻線、 馬蹄形凹文	54	
				集中区4/M54	Ⅲb	3000	1							
図Ⅲ-65	1	図Ⅲ92	集中区3/O49	Ⅲb	2661	1	6	Ⅴc	甕	口～胴	ナデ、ミガキ、 黒色処理/ 外:黒色物質付着	矢筈状刻文、多条刺 状刻線、横条刻線	512	
				集中区3/O50	Ⅲb	2553-2572- 2573	3							
図Ⅲ-65	2	図Ⅲ92	集中区3/O49	Ⅲb	2811-2818	2	11	Ⅴc	甕	胴	ナデ、ミガキ、 黒色処理/ 外:黒色物質付着	多条刺状刻線、横 条刻線	513	
				集中区3/O50	Ⅲb	2665	1							
				集中区3/O50	Ⅲb	2551-2555- 2560-2561	4							
				ⅢPB-1	Ⅲb	2813-2814- 2817-2818	5							
集中区2/O51	Ⅲb	2262	1											
	図Ⅲ-65	3	図Ⅲ92	集中区3/R50	Ⅲb	2588	2	2	Ⅴc	甕	口縁	ナデ、ミガキ、 黒色処理	刻文、矢筈状刻線、 縦位・横条刻線、具 透孔	523
集中区3/R49					Ⅲb	2605	1	2	Ⅴc	甕	胴	ナデ、ミガキ、 黒色処理	刻文、刺状刻線、 横条刻線	522
集中区3/R50	Ⅲb	2588	1											
	図Ⅲ-65	5	図Ⅲ92	集中区3/Q49	Ⅲb	2622	1	7	Ⅴc	甕	口縁	ナデ、ミガキ、 黒色処理	刻文、矢筈状刻線、 縦位・横条刻線、具 透孔	521
集中区3/Q50					Ⅲb	2582-2583	3							
集中区3/R50					Ⅲb	2587	1							
B49					Ⅲb	2669	2							
集中区4/R55					Ⅲb	3403-3409- 3410-3411- 3412-3414- 3415	8	9	Ⅴc	粗石器	坪	口～底	口唇に凹線、ナデ、 口唇付近ミガキ/ 磨石痕質 外:底面凹面平坦面	口唇(14.6cm、底径 6.9)cm、器高6.6cm
集中区4/L55	Ⅲb	3380	1											
	図Ⅲ-68	2	図Ⅲ93	集中区4/R55	Ⅲb	3356-3357- 3360-3367- 3401-3405- 3406-3408	14	14	Ⅴc	甕	口～胴	ナデ、ミガキ、 黒色処理/ 外:ナデ、ミガキ	刻文、矢筈状刻線、 格子状刻線、横条刻 線、楕圓孔	531
集中区4/R54					Ⅲb	3423-3436	2	9	Ⅴc	甕	胴	ナデ、ミガキ、 黒色処理/ 外:ナデ、ミガキ	刻文、矢筈状刻線、 格子状刻線、横条刻 線	532
集中区4/R55	Ⅲb	3361-3372- 3380-3383- 3386-3408	6											
	集中区4/M55	Ⅲb	3302	1										
集中区4/R54	Ⅲb	3425-3429- 3432-3434	4	14	Ⅴc	甕	胴～底	ナデ、ミガキ、 黒色処理/ 外:ナデ、ミガキ	無文部	533				
	集中区4/R55	Ⅲb	3376-3377- 3378-3385- 3402	8										
	集中区4/L54	Ⅲb	3444	1										
	集中区4/L55	Ⅲb	3341	1										

表Ⅲ-14 Ⅲ層出土掲載土器一覽(2)

採回 番号	掲載 番号	学内図記 番号	遺構/ (発掘区)	層位	遺物No.	点数 破片 計	分類	器種	部位	内面調整等	文様等	備考	割合%
図Ⅲ-09	1	図版93	集中区C/133	Ⅲb	3452	1 1	Vlc	甕	胴	ナツ、ミガキ、 黒色処理	多量磨面状沈痾、縦 位の沈痾		122
図Ⅲ-07	1	図版95	ⅢPB-2	Ⅲb	2923-2924・ 2889～ 2922・ 2927～ 2937	70 85	Vlc	甕	口～底	クズリ、ナツ、ミガ キ/ナツ、ミガキ/ 破断・磨面後二次焼 熟した破片多数	肩文、多量の斜格子 状沈痾、貼付磨面 上段縁部に沈痾		7
			ⅢPB-1	Ⅲb	2830-2823・ 2825-2827・ 2828-2829・ 2831	4					補修孔0.5所以上/ 口径26.0cm、底径 9.0cm、器高32.8cm		
			集中区C/O52	Ⅲb	2238	1							
			集中区C/N50	Ⅲb	3256	2							
			集中区C/O50	Ⅲb	2555	2							
			集中区C/P50	Ⅲb	2476	1							
			集中区C/M56	Ⅲb	3286	1							
			L57	Ⅲb	2862	1							
			N49	Ⅲb	2534-2686	3							
図Ⅲ-88	1	図版95	Z13	Ⅲb	17	1 1	Vlc	甕	胴	ナツ、ミガキ、 黒色処理/ 外・黒色物質付着	斜格子状沈痾、縦 位・横位沈痾		48(1)
図Ⅲ-88	2	図版95	ⅢS-3	Ⅲb	56-57	2 2	Vlc	甕	胴	ナツ、ミガキ、 黒色処理/ 外・ハケメ、ナツ、 黒色物質付着	無文部		48(2)
図Ⅲ-94	1	図版96	131	I			Vb	鉢	口縁	クズリ、ナツ	縁線文、口唇部み		116
図Ⅲ-94	2	図版96	429	Ⅲ	4-6-12-25	7 9	Vlb	深鉢	口～胴	ナツ、ミガキ	縁起線、肩文、短沈 痾、華縄文		45(1)
			n29	Ⅲ	14-26	2							
図Ⅲ-94	3	図版96	429	Ⅲ	1-2-3-4	8 8	Vlb	深鉢	胴	ナツ	華縄文		45(2)
図Ⅲ-94	4	図版96	429	Ⅲ	5	1 4	Vlb	深鉢	胴	ナツ	縁起線、肩文、華縄 文		43(2)
			n29	Ⅲ	20-21-23	3							
図Ⅲ-94	5	図版96	429	Ⅲ	3	6 6	Vlb	深鉢	底	ナツ/外：表面付着 ミガキ	華縄文		45(1)
図Ⅲ-94	6	図版96	429	Ⅲ	5	2 2	Vlb	深鉢	胴	ナツ	縁起線、肩文、華縄 文、内面口縁部磨面 押込		46
図Ⅲ-94	7	図版96	G61	Ⅲb	1484	5 5	Vlb	甕	口縁	ハケメ、ナツ	肩文、多量横条沈 痾、X字状文		55(1)
図Ⅲ-94	8	図版96	G61	Ⅲb	1484	3 3	Vlb	甕	口縁	ハケメ、ナツ	肩文、多量横条沈 痾、X字状文		55(2)
図Ⅲ-94	9	図版96	a23	Ⅲb		2 3	Vlb	甕	口縁	ナツ、ミガキ、 黒色処理	肩文、多量横条沈 痾、短条状文		49(1)
			b22	Ⅲb		1							
図Ⅲ-94	10	図版96	a22	Ⅲb		2 2	Vlb	甕	口縁	ナツ、ミガキ、 黒色処理	多量横条沈痾、短条 状文、袖形孔		49(2)
図Ⅲ-94	11	図版96	a22	Ⅲb	20	1 1	Vlb	甕	口縁	ナツ、ミガキ、 黒色処理	肩文、多量横条沈 痾、短条状文		49(3)
図Ⅲ-94	12	図版96	c13	Ⅲb		1 1	Vlc	高坏	口縁	ナツ、ミガキ、 黒色処理	矢羽状肩文		117
図Ⅲ-94	13	図版96	a22	Ⅲb	15	3 3	Vlc	甕	口縁	ナツ、ミガキ、 黒色処理/ 外・ナツ、ミガキ	同編		50(1)
図Ⅲ-94	14	図版96	b16	Ⅲb		1 1	Vlc	甕	口縁	ナツ、ミガキ、 黒色処理/ 外・ナツ、ミガキ	同編		50(2)
図Ⅲ-94	15	図版96	L30	Ⅲb		1 2	Vlc	甕	胴	ナツ、ミガキ、 黒色処理/ 外・ナツ、ミガキ	同編		50(3)
			b13	Ⅲb		1							
図Ⅲ-94	16	図版96	b13	Ⅲb		1 1	Vlc	甕	底	ナツ、ミガキ、 黒色処理/ 外・ナツ、ミガキ	無文部		50(4)
図Ⅲ-94	17	図版96	不明	I		1 1	Vlc	高坏	台	ミガキ、黒色処理	矢羽状肩文		118
図Ⅲ-94	18	図版96	b12	Ⅲb		22 22	Vlc	高坏	口～台	ナツ、ミガキ、 黒色処理	縁起文、胴部同編/ 口径(15.0)cm、底径 5.6cm、器高11.6cm		2
図Ⅲ-94	19	図版23	K65	Ⅲb		1 1	土製品	焼成粘土塊	全		同編/ 2.1×2.4×0.7cm		20

表Ⅲ-15 Ⅲ層出土揚穀石器一覧

採回 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	個体 番号
								長さ	幅	厚さ			
図Ⅲ-5	5	図版88	ⅢH-1	床面	204	スクレイパー	黒曜石	2.7	3.1	1.4	14.0	126	
図Ⅲ-5	6		ⅢH-1	床面	129	石核	黒曜石	3.2	3.3	1.7	20.0	127	
図Ⅲ-5	7		ⅢH-1	床面	170	たたき石	砂岩	11.0	6.7	5.2	489.0	128	
図Ⅲ-5	8		ⅢH-1	床面	258	たたき石	砂岩	8.9	4.2	4.0	171.0	129	
図Ⅲ-5	9		ⅢH-1	床面	6	砥石	砂岩	16.7	11.6	2.4	471.0	130	
図Ⅲ-5	10		ⅢH-1	床面	83	加工痕ある礫	石英片岩	2.8	8.4	2.2	53.0	火打石?	131
図Ⅲ-15	1	図版89	ⅢH-4HS-2	床面	92	たたき石	砂岩	15.8	6.2	3.8	466.0		133
図Ⅲ-15	2		ⅢH-4HS-2	床面	93	くぼみ石	砂岩	16.1	7.6	4.2	733.0		たたき石 134
図Ⅲ-15	3		ⅢH-4HS-1	床面	64	たたき石	砂岩	11.6	6.1	4.7	526.0		132
図Ⅲ-16	81	図版90	ⅢH-4HS-2	床面	95-96	たたき石	砂岩	13.7	5.1	2.7	254.0		2点接合 256
図Ⅲ-53	14	図版91	ⅢGP-1	掘上土	1702	ナリ石	砂岩	(3.8)	(5.6)	(4.8)	94.1		1058
図Ⅲ-53	15		ⅢGP-1	掘上土	1703	ナリ石	砂岩	10.5	17.1	4.1	875.8		1059
図Ⅲ-58	2		集中区1/P52	Ⅲb	2126	たたき石	砂岩	(13.9)	7.0	5.0	550.7		1063
図Ⅲ-65	6	図版92	集中区3/P50	Ⅲb	2472	石鏃	黒曜石	1.9	0.8	0.3	0.2		1051
図Ⅲ-65	9		ⅢS-9	Ⅲb	2983	たたき石	砂岩	6.9	4.4	4.0	133.2		1062
図Ⅲ-65	10		集中区3/Q50	Ⅲb	2577	たたき石	砂岩	6.9	4.1	2.6	83.3		1064
図Ⅲ-65	11		集中区3/O49	Ⅲb	3225	たたき石	砂岩	7.2	3.2	1.7	54.1		1065
図Ⅲ-65	12		集中区3/N50	Ⅲb	2519	加工痕ある礫	安山岩	17.0	9.6	5.6	1199.7		1069
図Ⅲ-65	13		集中区3/Q49	Ⅲb	2616	加工痕ある礫	砂岩	17.2	7.1	2.9	405.8		1066
図Ⅲ-68	5	図版93	集中区4/K55	Ⅲb	3416	石鏃	黒曜石	(2.7)	1.4	0.3	0.8		1052
図Ⅲ-74	2	図版94	ⅢS-1/b13	Ⅲb	-46-48	くぼみ石	砂岩	6.9	5.0	3.4	128.0		135
図Ⅲ-74	3		ⅢS-1/b13	Ⅲb		たたき石	砂岩	9.7	6.4	4.1	400.0		250
図Ⅲ-74	4		ⅢS-1/b12	Ⅲb	-31	たたき石	砂岩	8.3	3.8	2.3	87.0		249
図Ⅲ-74	5		ⅢS-1/c14	Ⅲb		加工痕ある礫	砂岩	8.7	7.8	1.9	159.0		136
図Ⅲ-74	8		ⅢS-1/b13	Ⅲb		台石	砂岩	24.0	21.3	8.7	5300.0		137
図Ⅲ-82	1	図版95	ⅢS-6	Ⅲb	1680	加工痕ある礫	砂岩	14.3	14.9	10.9	2950.0		1060
図Ⅲ-82	2		ⅢS-6	Ⅲb	1680	たたき石	砂岩	8.6	4.9	3.4	183.5		1061
図Ⅲ-95	1	図版96	E66	Ⅲb	1020	石鏃	黒曜石	(2.4)	1.2	0.5	0.9		1053
図Ⅲ-95	2		J64	Ⅲc	1735	石鏃	黒曜石	(3.8)	1.6	0.5	2.0		1054
図Ⅲ-95	3		K63	Ⅲc		石鏃	黒曜石	3.2	2.4	0.5	2.7		1056
図Ⅲ-95	4		N50	Ⅲb	2687	靴形石器	黒曜石	(5.6)	4.5	0.8	19.6		KH3-21 1055
図Ⅲ-95	5		F67	Ⅲb	1025	スクレイパー	黒曜石	4.1	2.3	1.0	6.9		KH3-22 1057
図Ⅲ-95	6		Z13	Ⅲb	6	石核	黒曜石	4.3	5.1	2.1	44.0		138
図Ⅲ-95	7	図版97	Z20	Ⅲ		たたき石	砂岩	14.0	3.7	3.6	282.0		140
図Ⅲ-95	8		a20	Ⅲb		たたき石	砂岩	7.0	5.0	2.3	73.0		143
図Ⅲ-95	9		b19	Ⅲb		たたき石	砂岩	11.7	5.2	4.9	356.0		142
図Ⅲ-95	10		b14	Ⅲb		たたき石	砂岩	16.3	7.5	3.1	455.0		141
図Ⅲ-95	11		U19	Ⅲ		たたき石	砂岩	4.8	3.0	2.4	45.0		139
図Ⅲ-95	12		X13	Ⅲ		くぼみ石	砂岩	9.7	5.4	3.6	223.0		144
図Ⅲ-95	13		a21	Ⅲb		くぼみ石	砂岩	5.7	7.1	2.1	134.0		145
図Ⅲ-95	14		K56	Ⅲb	3494	くぼみ石	砂岩	13.8	6.4	5.5	506.6		たたき石 1068
図Ⅲ-96	15		b19	Ⅲb		加工痕ある礫	石英片岩	14.7	11.6	3.8	681.0		148
図Ⅲ-96	16		c18	Ⅲb	1	靴状石器	砂岩	14.5	13.0	2.1	429.0		147
図Ⅲ-96	17		J23	Ⅲb		砥石	砂岩	5.9	10.5	3.5	298.0		146
図Ⅲ-96	18		a21	Ⅲb		加工痕ある礫	石英片岩	10.0	6.7	1.6	185.0		149
図Ⅲ-96	19		V19	Ⅲb		台石	砂岩	14.9	9.6	7.5	1242.0		150
図Ⅲ-96	20		S52	Ⅲb	2729	台石	砂岩	33.9	29.4	4.5	7000.0		1067

表Ⅲ-16 III層出土掘載礫一覽(1)

神岡 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	個体 番号
								長さ	幅	厚さ			
図Ⅲ-5	11	図版88	ⅢH-1	床面	77	礫	花崗岩	15.4	11.4	7.3	1647.0		251
図Ⅲ-5	12		ⅢH-1	床面	52	礫	泥岩	13.3	12.9	2.0	406.0		252
図Ⅲ-5	13		ⅢH-1	床面	79-80	礫	頁岩	14.5	11.1	0.6	168.0		253
図Ⅲ-5	14		ⅢH-1HS-1	床面	156	礫	石英質岩	10.0	7.4	6.0	580.0		254
図Ⅲ-5	15		ⅢH-1HS-7	床面	290	礫	泥岩	14.0	12.4	6.6	1531.0		255
図Ⅲ-5	16		ⅢH-1HS-2	床面	159-102	礫	砂岩	(6.8)	3.8	2.1	33.0	2点接合、其他石入	437
図Ⅲ-6	17	図版89	ⅢH-1HS-1	床面	144	礫	砂岩	4.8	2.7	2.0	33.0		370
図Ⅲ-6	18		ⅢH-1HS-1	床面	158-4	礫	砂岩	4.9	2.5	1.9	30.0		380
図Ⅲ-6	19		ⅢH-1HS-1	床面	145	礫	砂岩	5.3	3.5	1.5	33.0		371
図Ⅲ-6	20		ⅢH-1HS-1	床面	158-3	礫	砂岩	5.4	2.9	1.7	34.0		379
図Ⅲ-6	21		ⅢH-1HS-1	床面	172	礫	砂岩	5.2	3.6	1.6	43.0		389
図Ⅲ-6	22		ⅢH-1HS-1	床面	158-10	礫	砂岩	5.8	3.6	1.5	40.0		381
図Ⅲ-6	23		ⅢH-1HS-1	床面	154	礫	砂岩	5.3	4.0	1.3	39.0		376
図Ⅲ-6	24		ⅢH-1HS-1	床面	122-2-162-1	礫	砂岩	5.6	3.6	1.1	33.0	2点接合	369
図Ⅲ-6	25		ⅢH-1HS-1	床面	107	礫	砂岩	5.5	3.3	1.8	42.0		363
図Ⅲ-6	26		ⅢH-1HS-1	床面	121	礫	砂岩	5.5	3.4	0.8	22.0		368
図Ⅲ-6	27		ⅢH-1HS-1	床面	182	礫	砂岩	5.5	3.9	2.5	51.0	2点接合	393
			ⅢH-1	床面	-3								
図Ⅲ-6	28		ⅢH-1HS-1	床面	153	礫	砂岩	5.6	3.2	2.3	46.0		375
図Ⅲ-6	29		ⅢH-1HS-1	床面	175	礫	砂岩	5.7	4.6	1.0	39.0		391
図Ⅲ-6	30		ⅢH-1HS-1	床面	163	礫	砂岩	5.8	3.8	1.2	45.0		384
図Ⅲ-6	31		ⅢH-1HS-1	床面	96	礫	砂岩	6.0	2.8	2.2	36.0		357
図Ⅲ-6	32		ⅢH-1HS-1	床面	189	礫	砂岩	5.8	4.9	1.8	47.0		395
図Ⅲ-6	33		ⅢH-1HS-1	床面	158-2	礫	砂岩	5.9	3.4	1.4	30.0		378
図Ⅲ-6	34		ⅢH-1HS-1	床面	164	礫	砂岩	5.8	3.4	2.1	51.0	8点接合	385
図Ⅲ-6	35		ⅢH-1HS-1	床面	152	礫	砂岩	6.0	3.3	1.6	46.0		374
図Ⅲ-6	36		ⅢH-1HS-1	床面	187	礫	砂岩	6.1	3.0	1.9	41.0		394
図Ⅲ-6	37		ⅢH-1HS-1	床面	113	礫	砂岩	6.2	4.0	1.0	37.0		365
図Ⅲ-6	38		ⅢH-1HS-1	床面	176-1	礫	砂岩	6.1	3.2	2.1	50.0		392
図Ⅲ-6	39		ⅢH-1HS-1	床面	115	礫	砂岩	6.2	4.7	1.4	57.0		367
図Ⅲ-6	40		ⅢH-1HS-1	床面	99	礫	泥岩	6.3	3.9	2.1	53.0		358
図Ⅲ-6	41		ⅢH-1HS-1	床面	114-1	礫	砂岩	6.6	3.3	1.3	40.0		366
図Ⅲ-6	42		ⅢH-1HS-1	床面	151	礫	砂岩	6.6	3.6	1.8	54.0		373
図Ⅲ-6	43		ⅢH-1HS-1	床面	173-158-6	礫	砂岩	7.3	3.5	1.0	36.0	2点接合	390
図Ⅲ-6	44		ⅢH-1HS-1	床面	149-162-4	礫	砂岩	7.3	3.0	1.5	38.0	2点接合	372
図Ⅲ-6	45		ⅢH-1HS-1	床面	166	礫	砂岩	7.3	3.5	2.5	79.0		387
図Ⅲ-6	46		ⅢH-1HS-1	床面	167	礫	砂岩	7.3	5.1	1.3	71.0		388
図Ⅲ-6	47		ⅢH-1HS-1	床面	155	礫	砂岩	7.5	3.9	1.9	74.0		377
図Ⅲ-6	48		ⅢH-1HS-1	床面	110	礫	砂岩	7.5	5.1	1.1	64.0		364
図Ⅲ-6	49		ⅢH-1HS-1	床面	94	礫	砂岩	7.8	4.0	2.1	76.0		356
図Ⅲ-6	50		ⅢH-1HS-1	床面	158-11	礫	泥岩	7.8	3.5	1.9	62.0		382
図Ⅲ-6	51		ⅢH-1HS-1	床面	105	礫	砂岩	8.6	3.2	3.3	114.0		362
図Ⅲ-6	52		ⅢH-1HS-1	床面	104	礫	泥岩	8.6	4.5	3.0	146.0		361
図Ⅲ-6	53		ⅢH-1HS-1	床面	93	礫	砂岩	8.8	3.4	2.8	103.0		355
図Ⅲ-6	54		ⅢH-1HS-1	床面	165	礫	砂岩	9.0	4.2	2.1	110.0		386
図Ⅲ-6	55		ⅢH-1HS-1	床面	101-181	礫	砂岩	10.0	4.7	1.7	96.0	2点接合	360
図Ⅲ-6	56		ⅢH-1HS-2	床面	222	礫	砂岩	5.0	4.0	1.7	47.0		454
図Ⅲ-6	57		ⅢH-1HS-2	床面	217	礫	泥岩	5.0	2.8	2.1	33.0		451
図Ⅲ-6	58		ⅢH-1HS-2	床面	159-61	礫	砂岩	5.1	3.5	2.5	65.0		427
図Ⅲ-6	59		ⅢH-1HS-2	床面	159-41	礫	砂岩	5.4	3.0	2.7	56.0	2点接合	414
図Ⅲ-6	60		ⅢH-1HS-2	床面	159-34	礫	砂岩	5.3	3.2	1.7	34.0	2点接合	409
図Ⅲ-6	61		ⅢH-1HS-2	床面	159-18	礫	砂岩	5.4	4.0	1.6	41.0	3点接合	402
図Ⅲ-6	62		ⅢH-1HS-2	床面	218	礫	砂岩	5.2	4.3	1.3	36.0		452
図Ⅲ-6	63		ⅢH-1HS-2	床面	159-35	礫	砂岩	5.5	3.6	1.7	42.0		410
図Ⅲ-6	64		ⅢH-1HS-2	床面	159-43	礫	砂岩	5.5	3.1	1.8	35.0		415
図Ⅲ-6	65		ⅢH-1HS-2	床面	159-105	礫	泥岩	5.3	3.4	2.6	52.0		440
図Ⅲ-6	66		ⅢH-1HS-2	床面	159-55	礫	砂岩	5.5	3.8	1.7	44.0	2点接合	423
図Ⅲ-6	67		ⅢH-1HS-2	床面	159-110	礫	泥岩	5.5	3.2	2.2	46.0		445
図Ⅲ-6	68		ⅢH-1HS-2	床面	159-46	礫	砂岩	5.4	3.1	2.1	46.0		417
図Ⅲ-6	69		ⅢH-1HS-2	床面	159-60	礫	砂岩	5.5	4.0	2.2	63.0	2点接合	426
図Ⅲ-6	70		ⅢH-1HS-2	床面	159-74	礫	砂岩	5.6	2.8	1.8	37.0		432
図Ⅲ-6	71		ⅢH-1HS-2	床面	159-38	礫	砂岩	5.7	3.0	2.4	55.0	2点接合	412
図Ⅲ-6	72		ⅢH-1HS-2	床面	159-30	礫	砂岩	5.5	3.7	2.0	53.0		406
図Ⅲ-6	73		ⅢH-1HS-2	床面	159-45	礫	砂岩	5.6	3.7	1.4	41.0	2点接合	416
図Ⅲ-6	74		ⅢH-1HS-2	床面	159-20	礫	砂岩	5.7	3.7	2.5	70.0		403

表Ⅲ-17 Ⅲ層出土掘載礫一覽(2)

神図 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	個体 番号
								長さ	幅	厚さ			
図Ⅲ-6	75	図版89	ⅢF-1HS-2	床面	159-32	礫	砂岩	5.6	4.3	1.4	48.0		408
図Ⅲ-6	76		ⅢF-1HS-2	床面	213	礫	砂岩	5.7	3.7	1.5	37.0		449
図Ⅲ-6	77		ⅢF-1HS-2	床面	228	礫	砂岩	5.6	4.2	0.9	34.0		457
図Ⅲ-6	78		ⅢF-1HS-2	床面	159-8	礫	砂岩	5.7	3.6	2.2	66.0		399
図Ⅲ-6	79		ⅢF-1HS-2	床面	159-51	礫	砂岩	3.7	3.6	1.9	54.0	2点接合	420
図Ⅲ-7	80		ⅢF-1HS-2	床面	159-58	礫	砂岩	6.0	3.0	1.5	36.0		425
図Ⅲ-7	81		ⅢF-1HS-2	床面	159-47	礫	砂岩	5.9	3.2	2.1	49.0		418
図Ⅲ-7	82		ⅢF-1HS-2	床面	159-29	礫	砂岩	6.3	3.3	2.5	60.0		405
図Ⅲ-7	83		ⅢF-1HS-2	床面	159-31	礫	砂岩	6.2	3.9	1.5	44.0		407
図Ⅲ-7	84		ⅢF-1HS-2	床面	159-109	礫	泥岩	6.0	3.3	2.6	65.0	被熱?	444
図Ⅲ-7	85		ⅢF-1HS-2	床面	159-76	礫	砂岩	6.1	2.9	1.5	35.0		434
図Ⅲ-7	86		ⅢF-1HS-2	床面	159-107	礫	泥岩	6.3	3.6	2.8	73.0	2点接合	442
図Ⅲ-7	87		ⅢF-1HS-2	床面	159-111	礫	泥岩	6.4	3.8	1.5	44.0		446
図Ⅲ-7	88		ⅢF-1HS-2	床面	219	礫	砂岩	6.3	3.3	1.4	36.0		453
図Ⅲ-7	89		ⅢF-1HS-2	床面	229	礫	砂岩	6.1	2.9	1.8	41.0		458
図Ⅲ-7	90		ⅢF-1HS-2	床面	159-112	礫	泥岩	6.2	3.4	2.1	67.0		447
図Ⅲ-7	91		ⅢF-1HS-2	床面	159-108	礫	泥岩	6.3	3.6	1.5	34.0	被熱?	443
図Ⅲ-7	92		ⅢF-1HS-2	床面	159-12	礫	砂岩	6.4	3.7	1.6	34.0	3点接合	400
図Ⅲ-7	93		ⅢF-1HS-2	床面	159-13	礫	砂岩	6.2	4.3	2.1	67.0	3点接合	401
図Ⅲ-7	94		ⅢF-1HS-2	床面	159-72	礫	砂岩	6.6	3.1	2.0	55.0		430
図Ⅲ-7	95		ⅢF-1HS-2	床面	159-26	礫	砂岩	6.9	3.7	2.5	73.0		404
図Ⅲ-7	96		ⅢF-1HS-2	床面	159-39	礫	砂岩	6.7	3.0	1.8	56.0		413
図Ⅲ-7	97		ⅢF-1HS-2	床面	159-36	礫	砂岩	6.8	3.5	1.5	49.0		411
図Ⅲ-7	98		ⅢF-1HS-2	床面	263	礫	砂岩	6.9	3.6	1.7	49.0		460
図Ⅲ-7	99		ⅢF-1HS-2	床面	159-106	礫	泥岩	6.7	3.2	2.1	62.0	2点接合	441
図Ⅲ-7	100		ⅢF-1HS-2	床面	227	礫	泥岩	7.1	3.3	2.7	67.0		456
図Ⅲ-7	101		ⅢF-1HS-2	床面	214	礫	砂岩	6.8	3.3	2.1	63.0		450
図Ⅲ-7	102		ⅢF-1HS-2	床面	159-48	礫	砂岩	7.0	3.1	2.3	60.0	2点接合	419
図Ⅲ-7	103		ⅢF-1HS-2	床面	159-70	礫	砂岩	7.0	3.7	2.6	64.0	4点接合	428
図Ⅲ-7	104		ⅢF-1HS-2	床面	159-52	礫	砂岩	6.9	3.5	1.9	49.0		421
図Ⅲ-7	105		ⅢF-1HS-2	床面	159-6	礫	砂岩	6.9	3.9	1.8	58.0	2点接合	398
図Ⅲ-7	106		ⅢF-1HS-2	床面	159-101	礫	泥岩	7.4	3.8	2.0	51.0	2点接合	436
図Ⅲ-7	107		ⅢF-1HS-2	床面	225	礫	ハンレイ岩	7.2	3.7	2.1	69.0		455
図Ⅲ-7	108		ⅢF-1HS-2	床面	159-104	礫	泥岩	7.4	3.8	2.2	73.0	2点接合	439
図Ⅲ-7	109		ⅢF-1HS-2	床面	159-54	礫	砂岩	7.4	3.5	2.6	69.0	3点接合	422
図Ⅲ-7	110		ⅢF-1HS-2	床面	260	礫	砂岩	7.7	4.0	1.5	54.0		459
図Ⅲ-7	111		ⅢF-1HS-2	床面	159-103	礫	泥岩	8.5	3.3	1.6	60.0	3点接合	438
図Ⅲ-7	112		ⅢF-1HS-3	床面	242-1	礫	砂岩	5.7	3.6	1.8	45.0		461
図Ⅲ-7	113		ⅢF-1HS-3	床面	254	礫	砂岩	6.3	5.2	1.4	64.0		466
図Ⅲ-7	114		ⅢF-1HS-3	床面	235	礫	砂岩	6.3	3.9	1.4	42.0		467
図Ⅲ-7	115		ⅢF-1HS-3	床面	252	礫	砂岩	6.2	4.2	1.5	58.0		464
図Ⅲ-7	116		ⅢF-1HS-3	床面	251	礫	砂岩	7.0	3.8	1.4	52.0		463
図Ⅲ-7	117		ⅢF-1HS-3	床面	249	礫	砂岩	7.3	4.3	1.4	45.0		462
図Ⅲ-7	118		ⅢF-1HS-3	床面	253	礫	泥岩	7.3	3.5	2.4	75.0		465
図Ⅲ-7	119		ⅢF-1HS-3	床面	257	礫	砂岩	7.8	2.8	1.5	40.0		468
図Ⅲ-7	120		ⅢF-1HP-7	覆土	-5	礫	砂岩	4.8	2.9	1.4	27.0		507
図Ⅲ-7	121		ⅢF-1HP-7	覆土	267	礫	砂岩	4.7	3.8	1.4	33.0		479
図Ⅲ-7	122		ⅢF-1HP-7	覆土	304	礫	砂岩	4.8	3.8	1.2	35.0		503
図Ⅲ-7	123		ⅢF-1HP-7	覆土	273	礫	砂岩	4.8	3.0	1.5	21.0		483
図Ⅲ-7	124		ⅢF-1HP-7	覆土	235	礫	砂岩	4.9	3.1	1.7	40.0		473
図Ⅲ-7	125		ⅢF-1HP-7	覆土	305	礫	泥岩	5.2	3.3	2.2	46.0		504
図Ⅲ-7	126		ⅢF-1HP-7	覆土	-8	礫	砂岩	5.2	2.5	2.0	23.0		508
図Ⅲ-7	127		ⅢF-1HP-7	覆土	241	礫	砂岩	5.2	3.6	2.0	46.0		478
図Ⅲ-7	128		ⅢF-1HP-7	覆土	284	礫	砂岩	5.3	3.9	1.9	48.0		490
図Ⅲ-7	129		ⅢF-1HP-7	覆土下位	-3	礫	砂岩	5.5	2.5	1.8	27.0	2点接合	469
			ⅢF-1HS-2	床面	261								
図Ⅲ-7	130		ⅢF-1HP-7	覆土	295	礫	泥岩	5.4	4.0	1.4	29.0		498
図Ⅲ-7	131		ⅢF-1HP-7	覆土	287	礫	砂岩	5.5	3.7	1.4	37.0		493
図Ⅲ-7	132		ⅢF-1HP-7	覆土	234	礫	砂岩	5.5	3.8	1.0	29.0		472
図Ⅲ-7	133		ⅢF-1HP-7	覆土	282	礫	砂岩	5.3	4.6	1.8	53.0		488
図Ⅲ-7	134		ⅢF-1HP-7	坑底	308	礫	泥岩	5.6	4.3	1.9	49.0		505
図Ⅲ-7	135		ⅢF-1HP-7	覆土	294	礫	砂岩	5.6	4.0	1.3	42.0		497
図Ⅲ-7	136		ⅢF-1HP-7	覆土	288	礫	砂岩	5.8	3.5	1.2	39.0		494
図Ⅲ-7	137		ⅢF-1HP-7	覆土	291	礫	砂岩	5.9	3.3	3.0	71.0		495
図Ⅲ-7	138		ⅢF-1HP-7	覆土	298	礫	泥岩	5.9	3.5	3.1	77.0		500

表III-18 III層出土掲載簿一覧(3)

神岡 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	図版 番号	
								長さ	幅	厚さ				
図Ⅲ-7	139	図版89	ⅢH-1HP-7	覆土	286	礎	砂岩	5.8	4.3	1.4	40.0		492	
図Ⅲ-7	140		ⅢH-1HP-7	覆土	285	礎	砂岩	5.8	(2.9)	2.2	48.0		491	
図Ⅲ-7	141		ⅢH-1HP-7	覆土	283	礎	砂岩	(5.9)	3.1	2.2	(48.0)		489	
図Ⅲ-7	142		ⅢH-1HP-7	覆土	292	礎	砂岩	5.8	3.5	2.2	52.0		496	
図Ⅲ-7	143		ⅢH-1HP-7	覆土	232	礎	泥岩	6.1	3.6	1.2	32.0		471	
図Ⅲ-8	144		ⅢH-1HP-7	覆土	268	礎	砂岩	6.1	3.8	2.0	63.0		480	
図Ⅲ-8	145		ⅢH-1HP-7	覆土	271	礎	砂岩	6.0	4.2	2.0	70.0	3点接合	481	
図Ⅲ-8	146		ⅢH-1HP-7	覆土	279	礎	砂岩	5.9	4.6	3.0	99.0		487	
図Ⅲ-8	147		ⅢH-1HP-7	覆土	275	礎	砂岩	6.2	3.6	3.1	81.0		485	
図Ⅲ-8	148		ⅢH-1HP-7	覆土	297~	礎	泥岩	6.5	3.3	1.5	36.0	3点接合	499	
				ⅢH-1HS-3	覆土	246								
図Ⅲ-8	149		ⅢH-1HP-7	覆土	303	礎	砂岩	6.5	3.7	1.7	39.0		502	
図Ⅲ-8	150		ⅢH-1HP-7	覆土	301	礎	砂岩	6.3	4.0	1.9	56.0		501	
図Ⅲ-8	151		ⅢH-1HP-7	覆土	240	礎	砂岩	6.5	3.5	1.8	44.0		477	
図Ⅲ-8	152	ⅢH-1HP-7	覆土	272	礎	砂岩	6.6	4.5	1.4	57.0		482		
図Ⅲ-8	153	ⅢH-1HP-7	覆土	238	礎	砂岩	6.7	3.4	0.9	27.0		475		
図Ⅲ-8	154	ⅢH-1HP-7	覆土	-9	礎	砂岩	7.0	3.8	3.4	130.0		509		
図Ⅲ-8	155	ⅢH-1HP-7	覆土	277	礎	砂岩	7.0	4.5	2.6	100.0		486		
図Ⅲ-8	156	ⅢH-1HP-7	覆土	236	礎	砂岩	7.3	3.9	2.4	68.0		474		
図Ⅲ-8	157	ⅢH-1HP-7	坑底	309	礎	砂岩	7.5	3.3	2.7	102.0		506		
図Ⅲ-8	158	ⅢH-1	床面	135	礎	泥岩	3.7	2.9	1.2	20.0		342		
図Ⅲ-8	159	ⅢH-1	床面	75	礎	砂岩	4.5	3.8	2.0	55.0		334		
図Ⅲ-8	160	ⅢH-1	床面	130	礎	砂岩	5.0	3.4	2.3	52.0		341		
図Ⅲ-8	161	ⅢH-1	床面	43	礎	砂岩	5.0	3.2	1.1	26.0		321		
図Ⅲ-8	162	ⅢH-1	床面	84	礎	砂岩	5.3	3.8	2.1	53.0	2点接合	335		
図Ⅲ-8	163	ⅢH-1	床面	32	礎	砂岩	5.3	3.9	1.4	39.0		317		
図Ⅲ-8	164	ⅢH-1	床面	72-203	礎	砂岩	5.3	4.4	2.2	58.0	2点接合	332		
図Ⅲ-8	165	ⅢH-1	床面	20	礎	砂岩	5.3	3.0	2.0	52.0		310		
図Ⅲ-8	166	ⅢH-1	床面	22	礎	砂岩	5.5	3.2	1.6	38.0		311		
図Ⅲ-8	167	ⅢH-1	床面	9	礎	泥岩	5.6	3.2	2.6	59.0		302		
図Ⅲ-8	168	ⅢH-1	床面	12	礎	砂岩	5.6	3.3	2.2	46.0		304		
図Ⅲ-8	169	ⅢH-1	床面	53	礎	砂岩	5.5	3.7	2.3	59.0		325		
図Ⅲ-8	170	ⅢH-1	床面	70-71	礎	砂岩	5.7	3.7	2.7	69.0	3点接合	331		
図Ⅲ-8	171	ⅢH-1	床面	125	礎	砂岩	6.0	2.8	2.2	47.0		339		
図Ⅲ-8	172	ⅢH-1	床面	63	礎	砂岩	5.9	3.3	1.9	48.0		329		
図Ⅲ-8	173	ⅢH-1	床面	46	礎	砂岩	6.5	3.5	1.6	54.0		323		
図Ⅲ-8	174	ⅢH-1	床面	194	礎	砂岩	6.0	4.0	2.3	75.0		344		
図Ⅲ-8	175	ⅢH-1	床面	47	礎	砂岩	5.9	4.5	1.3	46.0		324		
図Ⅲ-8	176	ⅢH-1	床面	45	礎	砂岩	5.9	3.7	1.4	42.0		322		
図Ⅲ-8	177	ⅢH-1	床面	7	礎	砂岩	6.0	2.8	2.0	42.0		301		
図Ⅲ-8	178	ⅢH-1	床面	14	礎	砂岩	6.2	3.6	2.3	56.0		305		
図Ⅲ-8	179	ⅢH-1	床面	15	礎	砂岩	6.2	3.7	1.2	35.0		306		
図Ⅲ-8	180	ⅢH-1	床面	62	礎	砂岩	6.4	3.3	2.9	59.0		328		
図Ⅲ-8	181	ⅢH-1	床面	30	礎	砂岩	6.6	3.7	1.6	49.0		315		
図Ⅲ-8	182	ⅢH-1	床面	34	礎	砂岩	6.6	4.0	1.9	73.0		319		
図Ⅲ-8	183	ⅢH-1	床面	31	礎	砂岩	6.6	3.3	1.8	49.0		316		
図Ⅲ-8	184	ⅢH-1	床面	37	礎	砂岩	6.6	3.7	1.4	50.0		320		
図Ⅲ-8	185	ⅢH-1	床面	17	礎	泥岩	7.1	3.7	1.6	51.0		308		
図Ⅲ-8	186	ⅢH-1	床面	74	礎	泥岩	7.1	3.7	1.6	55.0		303		
図Ⅲ-8	187	ⅢH-1	床面	10	礎	砂岩	6.9	4.0	1.8	66.0		333		
図Ⅲ-8	188	ⅢH-1	床面	25	礎	砂岩	6.9	3.8	2.0	64.0		313		
図Ⅲ-8	189	ⅢH-1	床面	138	礎	砂岩	7.1	3.8	1.9	62.0		343		
図Ⅲ-8	190	ⅢH-1	床面	19	礎	砂岩	7.0	3.7	1.8	69.0		309		
図Ⅲ-8	191	ⅢH-1	床面	65	礎	砂岩	7.3	2.7	2.4	79.0		330		
図Ⅲ-8	192	ⅢH-1	床面	56	礎	砂岩	7.8	2.7	1.4	43.0		326		
図Ⅲ-8	193	ⅢH-1	床面	85	礎	砂岩	7.5	5.0	2.4	134.0		336		
図Ⅲ-8	194	ⅢH-1	床面	33	礎	砂岩	7.8	4.4	1.6	68.0		318		
図Ⅲ-8	195	ⅢH-1	床面	23	礎	砂岩	7.7	4.3	2.0	74.0		312		
図Ⅲ-8	196	ⅢH-1	床面	90	礎	砂岩	8.5	3.3	3.0	121.0		338		
図Ⅲ-8	197	ⅢH-1	床面	89	礎	砂岩	11.2	3.7	2.1	122.0		337		
図Ⅲ-8	198	ⅢH-1	床面(溝)	322	礎	砂岩	5.9	3.1	2.5	62.0		350		
図Ⅲ-8	199	ⅢH-1	床面(溝)	315	礎	砂岩	5.7	4.0	2.0	45.0		346		
図Ⅲ-8	200	ⅢH-1	I		礎	砂岩	7.1	3.6	1.7	41.0		353		
図Ⅲ-8	201	ⅢH-1	床面(溝)	316	礎	砂岩	7.6	3.6	1.8	56.0		347		
図Ⅲ-8	202	ⅢH-1	床面(溝)	325	礎	泥岩	7.1	4.2	1.7	69.0		352		

表Ⅲ-19 Ⅲ層出土掘載礫一覽(4)

神岡 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			備考	個体 番号	
								長さ	幅	厚さ			
図Ⅲ-8	203	図版89	ⅢH-1	床面(溝)	319	礫	砂岩	7.3	3.3	3.0	87.0		349
図Ⅲ-8	204		ⅢH-1	I	-1	礫	砂岩	7.7	4.2	2.1	84.0		354
図Ⅲ-8	205		ⅢH-1	床面(溝)	317	礫	砂岩	8.3	4.9	2.0	112.0		348
図Ⅲ-11	1	図版89	ⅢH-3	床面	1	礫	砂岩	6.6	2.8	2.0	49.0	被熱	510
図Ⅲ-15	4		ⅢH-4HS-2	覆土	197	礫	砂岩	16.9	4.5	1.3	125.0		257
図Ⅲ-15	5	図版90	ⅢH-4HS-1	床面	44	礫	砂岩	4.5	2.7	2.1	33.0		527
図Ⅲ-15	6		ⅢH-4HS-1	床面	32	礫	砂岩	5.0	3.9	1.1	32.0		524
図Ⅲ-15	7		ⅢH-4HS-1	床面	29	礫	砂岩	5.4	2.9	1.7	31.0		522
図Ⅲ-15	8		ⅢH-4HS-1	床面	66	礫	砂岩	5.8	2.5	2.5	50.0		536
図Ⅲ-15	9		ⅢH-4HS-1	床面	17	礫	砂岩	6.0	3.7	1.6	62.0		516
図Ⅲ-15	10		ⅢH-4HS-1	床面	41	礫	砂岩	5.9	4.3	2.5	77.0		525
図Ⅲ-15	11		ⅢH-4HS-1	床面	5	礫	砂岩	6.1	3.4	1.6	44.0		512
図Ⅲ-15	12		ⅢH-4HS-1	床面	12	礫	砂岩	5.9	2.6	1.7	33.0		514
図Ⅲ-15	13		ⅢH-4HS-1	床面	21	礫	砂岩	6.2	3.6	2.3	64.0		519
図Ⅲ-15	14		ⅢH-4HS-1	床面	18-30	礫	砂岩	6.1	3.8	1.6	46.0	2点接合	517
図Ⅲ-15	15		ⅢH-4HS-1	床面	192	礫	砂岩	6.4	4.2	1.5	49.0		537
図Ⅲ-15	16		ⅢH-4HS-1	床面	26-27	礫	砂岩	6.6	3.4	1.3	(46.0)	2点接合	521
図Ⅲ-15	17		ⅢH-4HS-1	床面	6	礫	砂岩	6.5	3.7	1.1	38.0		513
図Ⅲ-15	18		ⅢH-4HS-1	床面	56	礫	砂岩	6.6	3.8	1.5	51.0		533
図Ⅲ-15	19		ⅢH-4HS-1	床面	48	礫	砂岩	6.6	3.2	2.1	52.0		529
図Ⅲ-15	20		ⅢH-4HS-1	床面	193	礫	砂岩	6.8	3.8	2.3	79.0		538
図Ⅲ-15	21		ⅢH-4HS-1	床面	65	礫	砂岩	7.2	3.7	2.5	78.0		535
図Ⅲ-15	22		ⅢH-4HS-1	床面	47	礫	砂岩	7.3	3.1	2.0	60.0		528
図Ⅲ-15	23		ⅢH-4HS-1	床面	25	礫	砂岩	7.2	2.8	2.0	43.0		520
図Ⅲ-15	24		ⅢH-4HS-1	床面	4	礫	泥岩	7.3	3.2	2.0	61.0		511
図Ⅲ-15	25		ⅢH-4HS-1	床面	53	礫	砂岩	7.2	3.0	1.4	38.0		531
図Ⅲ-15	26		ⅢH-4HS-1	床面	49	礫	泥岩	7.3	3.9	1.6	51.0		530
図Ⅲ-15	27		ⅢH-4HS-1	床面	55	礫	砂岩	7.7	2.8	2.0	73.0		532
図Ⅲ-15	28		ⅢH-4HS-1	床面	15	礫	砂岩	7.8	4.1	2.4	86.0		515
図Ⅲ-15	29		ⅢH-4HS-1	床面	43	礫	砂岩	8.3	4.0	1.5	57.0		526
図Ⅲ-15	30		ⅢH-4HS-1	床面	63	礫	砂岩	9.9	3.6	2.0	87.0		534
図Ⅲ-15	31		ⅢH-4HS-1	床面	31	礫	砂岩	9.5	4.0	1.8	100.0		523
図Ⅲ-15	32		ⅢH-4HS-1	床面	19	礫	砂岩	9.9	3.6	1.8	77.0		518
図Ⅲ-16	33		ⅢH-4HS-2	床面	153	礫	砂岩	4.4	2.7	2.3	46.0		581
図Ⅲ-16	34		ⅢH-4HS-2	床面	81	礫	砂岩	5.2	2.7	1.1	24.0	2点接合	546
図Ⅲ-16	35		ⅢH-4HS-2	床面	142	礫	砂岩	(5.1)	3.9	1.8	(46.0)		576
図Ⅲ-16	36		ⅢH-4HS-2	床面	149	礫	泥岩	5.4	2.7	2.2	(47.0)		579
図Ⅲ-16	37		ⅢH-4HS-2	床面	69	礫	砂岩	5.2	3.4	1.2	32.0		540
図Ⅲ-16	38		ⅢH-4HS-2	床面	133	礫	砂岩	5.4	5.5	1.6	52.0		571
図Ⅲ-16	39		ⅢH-4HS-2	床面	170	礫	砂岩	5.7	3.6	2.0	50.0		586
図Ⅲ-16	40		ⅢH-4HS-2	床面	102	礫	砂岩	6.0	3.4	2.2	54.0		556
図Ⅲ-16	41		ⅢH-4HS-2	床面	90	礫	泥岩	5.8	3.5	1.2	31.0		551
図Ⅲ-16	42		ⅢH-4HS-2	床面	89	礫	砂岩	5.7	2.5	1.9	32.0		550
図Ⅲ-16	43		ⅢH-4HS-2	床面	163	礫	砂岩	5.9	2.7	1.7	36.0		585
図Ⅲ-16	44		ⅢH-4HS-2	床面	127	礫	泥岩	5.6	2.8	2.2	32.0		566
図Ⅲ-16	45		ⅢH-4HS-2	床面	132	礫	泥岩	6.0	4.4	1.5	63.0		570
図Ⅲ-16	46		ⅢH-4HS-2	床面	162	礫	砂岩	6.1	4.5	1.8	62.0		584
図Ⅲ-16	47		ⅢH-4HS-2	床面	129	礫	砂岩	6.4	4.1	1.5	51.0		567
図Ⅲ-16	48		ⅢH-4HS-2	床面	79	礫	泥岩	6.2	3.7	1.1	(35.0)		544
図Ⅲ-16	49		ⅢH-4HS-2	床面	121	礫	砂岩	6.1	3.0	2.3	52.0		562
図Ⅲ-16	50		ⅢH-4HS-2	床面	159	礫	砂岩	6.3	2.8	1.5	35.0		583
図Ⅲ-16	51		ⅢH-4HS-2	床面	126-1	礫	泥岩	6.2	2.3	1.3	17.0		565
図Ⅲ-16	52		ⅢH-4HS-2	床面	73	礫	砂岩	6.6	2.8	2.3	47.0		543
図Ⅲ-16	53		ⅢH-4HS-2	床面	124	礫	砂岩	6.5	3.2	2.1	53.0		564
図Ⅲ-16	54		ⅢH-4HS-2	床面	101	礫	砂岩	6.5	4.2	1.9	(36.0)		555
図Ⅲ-16	55		ⅢH-4HS-2	床面	139-2	礫	砂岩	6.6	4.0	1.2	32.0		575
図Ⅲ-16	56		ⅢH-4HS-2	床面	112-114-116	礫	砂岩	6.7	3.5	2.8	69.0	4点接合	561
図Ⅲ-16	57		ⅢH-4HS-2	床面	136	礫	砂岩	6.6	3.5	2.9	67.0		572
図Ⅲ-16	58		ⅢH-4HS-2	床面	137	礫	砂岩	6.9	4.1	2.1	72.0		573
図Ⅲ-16	59		ⅢH-4HS-2	床面	139-1	礫	砂岩	6.9	2.5	2.0	37.0		574
図Ⅲ-16	60		ⅢH-4HS-2	床面	70	礫	砂岩	7.1	3.2	1.7	48.0		541
図Ⅲ-16	61		ⅢH-4HS-2	床面	111	礫	砂岩	7.0	3.0	1.4	40.0		560
図Ⅲ-16	62		ⅢH-4HS-2	床面	155	礫	砂岩	7.1	3.5	2.3	61.0		582
図Ⅲ-16	63		ⅢH-4HS-2	床面	108	礫	砂岩	7.0	3.8	1.4	50.0		559
図Ⅲ-16	64		ⅢH-4HS-2	床面	71-72	礫	砂岩	7.3	3.0	1.5	(36.0)	2点接合	542

表Ⅲ-20 Ⅲ層出土掲載概一覽(5)

神宮 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)		重量 (g)	備考	図版 番号	
								長さ	幅				
図Ⅲ-16	65	図版90	ⅢH-4HS-2	床面	84	礎	砂岩	7.5	3.3	1.9	(46.0)	547	
図Ⅲ-16	66		ⅢH-4HS-1	床面	2-1	礎	泥岩	7.5	3.6	2.2	(70.0)	2点接合	539
			ⅢH-4HS-2	床面	91								
図Ⅲ-16	67		ⅢH-4HS-2	床面	98	礎	泥岩	7.5	3.5	1.2	48.0		553
図Ⅲ-16	68		ⅢH-4HS-2	床面	103	礎	砂岩	7.5	3.8	2.0	75.0		557
図Ⅲ-16	69		ⅢH-4HS-2	床面	146	礎	泥岩	7.4	2.7	1.6	30.0		577
図Ⅲ-16	70		ⅢH-4HS-2	床面	131	礎	砂岩	7.9	4.1	2.6	98.0		569
図Ⅲ-16	71		ⅢH-4HS-2	床面	100	礎	泥岩	7.7	2.6	1.4	29.0		554
図Ⅲ-16	72		ⅢH-4HS-2	床面	123	礎	砂岩	8.0	2.5	2.3	69.0		563
図Ⅲ-16	73		ⅢH-4HS-2	床面	147	礎	砂岩	8.2	2.9	1.5	48.0		578
図Ⅲ-16	74		ⅢH-4HS-2	床面	152	礎	泥岩	8.3	3.1	2.8	62.0		580
図Ⅲ-16	75		ⅢH-4HS-2	床面	97-1	礎	泥岩	8.3	3.7	1.1	40.0		552
図Ⅲ-16	76		ⅢH-4HS-2	床面	88-1	礎	砂岩	8.0	4.7	2.0	90.0		549
図Ⅲ-16	77		ⅢH-4HS-2	床面	86	礎	砂岩	8.9	4.1	2.6	93.0		548
図Ⅲ-16	78		ⅢH-4HS-2	床面	130	礎	砂岩	9.3	3.7	2.2	97.0		568
図Ⅲ-16	79		ⅢH-4HS-2	床面	106	礎	泥岩	9.6	3.6	2.8	112.0		558
図Ⅲ-16	80	ⅢH-4HS-2	床面	80	礎	砂岩	10.0	4.0	2.1	107.0		545	
図Ⅲ-16	82	図版89	ⅢH-4HF-1	礎土中	199	礎	泥岩	4.1	2.4	0.8	10.0		587
図Ⅲ-16	83		ⅢH-4	床面	198	礎	砂岩	4.7	2.5	1.8	26.0		588
図Ⅲ-20	1	図版90	ⅢH-6HS-1	床面	64	礎	砂岩	5.5	3.0	1.5	(37.0)		620
図Ⅲ-20	2		ⅢH-6HS-1	床面	31	礎	砂岩	5.7	2.4	2.0	38.0		604
図Ⅲ-20	3		ⅢH-6HS-1	床面	24	礎	砂岩	5.5	3.5	2.1	57.0		602
図Ⅲ-20	4		ⅢH-6HS-1	床面	59	礎	砂岩	5.8	3.4	1.0	25.0		617
図Ⅲ-20	5		ⅢH-6HS-1	床面	2	礎	砂岩	5.9	3.8	2.4	63.0		590
図Ⅲ-20	6		ⅢH-6HS-1	床面	63	礎	砂岩	6.6	2.9	1.3	29.0		619
図Ⅲ-20	7		ⅢH-6HS-1	床面	10-12	礎	泥岩	5.6	3.2	2.2	46.0	2点接合	595
図Ⅲ-20	8		ⅢH-6HS-1	床面	17	礎	砂岩	6.3	3.5	1.5	41.0		597
図Ⅲ-20	9		ⅢH-6HS-1	床面	43	礎	砂岩	6.4	3.5	1.6	47.0		608
図Ⅲ-20	10		ⅢH-6HS-1	床面	62	礎	砂岩	6.5	2.5	2.2	54.0		618
図Ⅲ-20	11		ⅢH-6HS-1	床面	9	礎	砂岩	6.7	4.8	2.6	124.0		594
図Ⅲ-20	12		ⅢH-6HS-1	床面	20	礎	砂岩	7.3	2.9	2.3	59.0		599
図Ⅲ-20	13		ⅢH-6HS-1	床面	29-67-1+2	礎	砂岩	8.0	3.8	2.3	(90.0)	3点接合	603
図Ⅲ-20	14		ⅢH-6HS-1	床面	4	礎	砂岩	7.9	4.7	2.2	109.0		592
図Ⅲ-20	15		ⅢH-6HS-1	床面	46	礎	泥岩	7.9	4.7	1.9	80.0		610
図Ⅲ-20	16		ⅢH-6HS-1	床面	23	礎	砂岩	8.0	4.1	2.4	80.0		601
図Ⅲ-20	17	ⅢH-6HS-1	床面	34	礎	砂岩	8.3	2.8	2.9	90.0		606	
図Ⅲ-20	18	ⅢH-6HS-1	床面	48	礎	砂岩	8.4	3.9	2.2	80.0		611	
図Ⅲ-20	19	ⅢH-6HS-1	床面	42	礎	砂岩	9.0	4.3	2.7	134.0		607	
図Ⅲ-20	20	ⅢH-6HS-1	床面	11	礎	砂岩	9.2	3.4	2.6	114.0		596	
図Ⅲ-20	21	ⅢH-6HS-1	床面	1	礎	砂岩	9.4	3.1	2.8	120.0		589	
図Ⅲ-20	22	ⅢH-6HS-1	床面	68	礎	砂岩	10.2	4.6	2.0	124.0		622	
図Ⅲ-20	23	ⅢH-6	床面	70-3	礎	砂岩	4.7	2.9	1.1	15.0		623	
図Ⅲ-20	24	ⅢH-6	床面	75	礎	砂岩	5.2	3.1	0.9	20.0		628	
図Ⅲ-20	25	ⅢH-6	Ⅲ		礎	砂岩	5.5	3.0	1.1	25.0	B調№4	630	
図Ⅲ-20	26	ⅢH-6	床面	73	礎	砂岩	6.1	2.8	1.8	44.0		626	
図Ⅲ-20	27	ⅢH-6	Ⅲ		礎	砂岩	6.0	2.5	1.5	29.0	B調№4	629	
図Ⅲ-20	28	ⅢH-6	床面	72	礎	砂岩	7.3	3.1	2.0	53.0		625	
図Ⅲ-20	29	ⅢH-6	Ⅲ		礎	砂岩	8.1	3.3	2.2	59.5	B調№4	632	
図Ⅲ-20	30	ⅢH-6	床面	71	礎	砂岩	7.5	4.0	2.4	103.0		624	
図Ⅲ-23	3	ⅢH-組FF-1	礎土3	1219	礎	砂岩	7.8	2.8	2.2	67.0		1416	
図Ⅲ-23	4	ⅢH-8	床面	1210	礎	砂岩	5.5	2.9	1.4	29.4		1412	
図Ⅲ-23	5	ⅢH-8	床面	1202	礎	砂岩	6.0	2.8	1.5	33.5		1410	
図Ⅲ-23	6	ⅢH-8	床面	1216	礎	砂岩	6.2	3.3	1.7	42.7		1414	
図Ⅲ-23	7	ⅢH-8	床面	1199	礎	砂岩	6.4	3.8	(2.4)	88.1		1409	
図Ⅲ-23	8	ⅢH-8	床面	1190	礎	砂岩	6.7	3.1	2.4	58.5		1407	
図Ⅲ-23	9	ⅢH-8	床面	1197	礎	砂岩	6.9	3.0	1.4	38.3		1408	
図Ⅲ-23	10	ⅢH-8	床面	1177	礎	砂岩	7.0	3.8	1.0	40.6		1404	
図Ⅲ-23	11	ⅢH-8	床面	1176	礎	砂岩	7.5	3.6	3.0	120.2		1403	
図Ⅲ-23	12	ⅢH-8	床面	1212	礎	砂岩	7.5	2.9	1.9	54.7		1413	
図Ⅲ-23	13	ⅢH-8	床面	1168	礎	砂岩	7.8	2.8	2.1	66.7		1401	
図Ⅲ-23	14	ⅢH-8	床面	1172	礎	砂岩	7.9	4.6	2.3	98.7		1402	
図Ⅲ-23	15	ⅢH-8	床面	1186	礎	砂岩	8.0	2.8	1.8	48.5		1406	
図Ⅲ-23	16	ⅢH-8	床面	1217	礎	砂岩	8.6	4.1	1.2	56.3		1415	
図Ⅲ-23	17	ⅢH-8	床面	1185	礎	砂岩	8.8	2.2	1.9	52.6		1405	



表Ⅲ-21 Ⅲ層出土掘載曝一覽(6)

神宮 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)		重量 (g)	備考	図版 番号
								長さ	幅			
図Ⅲ-23	18	図版90	ⅢH-8	床面	1205	礎	砂岩	9.4	3.3	1.9	78.5	1411
図Ⅲ-25	3		ⅢH-9H-P-4	覆土上	1758	礎	砂岩	6.6	3.3	1.7	51.8	1417
図Ⅲ-27	1		ⅢH-10H-P-11	覆土上	1756	礎	砂岩	6.2	3.9	1.6	42.3	1421
図Ⅲ-27	2		ⅢH-10H-P-11	覆土上	1755	礎	砂岩	6.6	2.4	1.7	36.9	1420
図Ⅲ-27	3		ⅢH-10H-P-11	覆土上	1753	礎	砂岩	7.3	4.0	1.5	62.7	1418
図Ⅲ-27	4		ⅢH-10H-P-11	覆土上	1757	礎	砂岩	8.0	3.1	1.6	52.8	1422
図Ⅲ-27	5		ⅢH-10H-P-11	覆土上	1754	礎	砂岩	8.3	3.0	2.0	47.8	1419
図Ⅲ-31	3		ⅢH-12	床面	3161	礎	砂岩	3.6	2.9	1.5	21.9	1423
図Ⅲ-31	4		ⅢH-12	床面	3177	礎	砂岩	4.0	2.5	1.6	20.8	1426
図Ⅲ-31	5		ⅢH-12	床面	3180	礎	砂岩	(4.6)	2.2	1.5	18.6	1427
図Ⅲ-31	6		ⅢH-12	床面	3198	礎	砂岩	4.9	2.5	1.6	23.5	1430
図Ⅲ-31	7		ⅢH-12	床面	3213	礎	砂岩	5.8	2.4	1.7	34.4	1431
図Ⅲ-31	8		ⅢH-12	床面	3217	礎	砂岩	5.8	2.8	1.8	34.7	1433
図Ⅲ-31	9		ⅢH-12	床面	3181	礎	砂岩	6.9	(3.0)	1.3	34.4	1428
図Ⅲ-31	10		ⅢH-12	床面	3220	礎	泥岩	7.0	3.5	1.3	41.2	1434
図Ⅲ-31	11		ⅢH-12	床面	3214	礎	砂岩	7.2	4.3	1.7	59.4	1432
図Ⅲ-31	12		ⅢH-12	床面	3164	礎	泥岩	7.2	2.1	1.5	19.2	1424
図Ⅲ-31	13		ⅢH-12	床面	3171	礎	砂岩	7.5	2.9	1.2	34.0	1425
図Ⅲ-31	14		ⅢH-12	床面	3196	礎	砂岩	9.2	4.3	2.2	79.1	1429
図Ⅲ-35	2		ⅢH-13	床面	3080	礎	砂岩	6.9	3.4	2.0	56.0	1445
図Ⅲ-35	3		ⅢH-13	床面	3007	礎	砂岩	6.6	3.6	1.8	55.7	1436
図Ⅲ-35	4		ⅢH-13	床面	3003	礎	砂岩	6.66	4.1	1.4	49.2	1435
図Ⅲ-35	5		ⅢH-13	床面	3043	礎	泥岩	7.0	2.4	1.8	37.1	1440
図Ⅲ-35	6		ⅢH-13	床面	3053	礎	砂岩	7.1	3.0	1.9	41.6	1442
図Ⅲ-35	7		ⅢH-13	床面	3116	礎	砂岩	7.3	3.6	1.7	65.9	1449
図Ⅲ-35	8		ⅢH-13	床面	3035	礎	泥岩	7.3	3.4	1.6	44.1	1438
図Ⅲ-35	9		ⅢH-13	床面	3106	礎	砂岩	7.6	3.4	3.2	109.9	1447
図Ⅲ-35	10		ⅢH-13	床面	3112	礎	砂岩	7.7	3.5	2.5	76.4	1448
図Ⅲ-35	11		ⅢH-13	床面	3045	礎	砂岩	7.9	3.9	1.8	63.2	1441
図Ⅲ-35	12		ⅢH-13	床面	3077	礎	砂岩	8.2	4.0	2.0	74.1	3点接合 1444
図Ⅲ-35	13	ⅢH-13	床面	3125	礎	砂岩	8.3	4.4	3.5	168.2	1450	
図Ⅲ-35	14	ⅢH-13	床面	3054	礎	泥岩	9.1	3.0	2.4	64.2	1443	
図Ⅲ-35	15	ⅢH-13	床面	3102	礎	砂岩	9.5	4.6	2.4	101.5	1446	
図Ⅲ-35	16	ⅢH-13	床面	3042	礎	砂岩	9.9	3.5	2.2	88.0	1439	
図Ⅲ-37	2	図版91	ⅢH-14	床面	3587	礎	砂岩	6.0	3.7	1.3	39.7	1451
図Ⅲ-37	3		ⅢH-14	床面	3594	礎	砂岩	7.1	2.7	1.5	33.6	1454
図Ⅲ-37	4		ⅢH-14	床面	3597	礎	砂岩	7.4	3.2	1.2	40.8	1456
図Ⅲ-37	5		ⅢH-14	床面	3595	礎	砂岩	7.8	3.4	2.1	71.6	1455
図Ⅲ-37	6		ⅢH-14	床面	3592	礎	泥岩	8.3	4.4	1.1	46.0	1452
図Ⅲ-37	7		ⅢH-14	床面	3593	礎	砂岩	8.6	3.5	2.6	98.5	1453
図Ⅲ-37	8		ⅢH-14	床面	3602	礎	砂岩	8.5	4.8	1.5	71.4	1457
図Ⅲ-38	1		建築物1	Ⅲ	2	礎	砂岩	6.6	3.8	1.7	52.0	634
図Ⅲ-38	2		建築物1	Ⅲ	3	礎	砂岩	7.0	3.1	2.4	65.0	635
図Ⅲ-38	3		建築物1	Ⅲ	1	礎	砂岩	7.9	4.1	2.0	73.0	633
図Ⅲ-53	16		ⅢGP-1	封土3	1307	礎	砂岩	5.5	2.5	1.8	28.0	1459
図Ⅲ-53	17		ⅢGP-1	封土3	1308	礎	砂岩	5.6	2.6	2.0	29.5	1460
図Ⅲ-53	18	ⅢGP-1	溝	1227	礎	砂岩	6.9	2.5	1.2	26.3	1458	
図Ⅲ-58	3	集中区1/P55	Ⅲb	2039	礎	砂岩	4.3	2.3	1.5	21.9	1548	
図Ⅲ-58	4	集中区1/P55	Ⅲb	2020	礎	砂岩	4.4	3.6	0.8	16.3	1561	
図Ⅲ-58	5	集中区1/Q55	Ⅲb	2087	礎	泥岩	4.7	4.6	1.0	24.8	2点接合 1552	
図Ⅲ-58	6	集中区1/P54	Ⅲb	2061	礎	砂岩	6.2	4.2	1.5	63.2	1557	
図Ⅲ-58	7	集中区1/P52	Ⅲb	2119	礎	砂岩	7.1	2.6	2.3	63.8	1564	
図Ⅲ-58	8	集中区1/P54	Ⅲb	2067	礎	砂岩	7.1	2.3	2.1	40.5	1558	
図Ⅲ-58	9	集中区1/P55	Ⅲb	2043	礎	砂岩	7.1	4.2	1.9	83.2	1554	
図Ⅲ-58	10	集中区1/P52	Ⅲb	2132	礎	泥岩	7.3	3.5	2.3	83.4	1566	
図Ⅲ-58	11	集中区1/Q54	Ⅲb	2093	礎	砂岩	7.1	4.2	1.9	62.6	1562	
図Ⅲ-58	12	集中区1/P54	Ⅲb	2081	礎	泥岩	7.0	3.5	2.1	53.9	1559	
図Ⅲ-58	13	集中区1/P52	Ⅲb	2135	礎	砂岩	6.7	3.1	2.8	73.7	1567	
図Ⅲ-58	14	集中区1/P52	Ⅲb	2133	礎	泥岩	7.2	2.8	2.1	44.3	1568	
図Ⅲ-58	15	集中区1/P54	Ⅲb	2082	礎	砂岩	7.0	4.7	2.5	98.8	1560	
図Ⅲ-58	16	集中区1/P55	Ⅲb	2044	礎	泥岩	7.6	3.9	3.5	106.6	1555	
図Ⅲ-58	17	集中区1/P54	Ⅲb	2059	礎	砂岩	7.9	3.9	1.4	60.9	1556	
図Ⅲ-58	18	集中区1/Q52	Ⅲb	2142	礎	砂岩	8.7	3.4	2.7	85.9	1569	
図Ⅲ-58	19	集中区1/Q53	Ⅲb	2105	礎	砂岩	9.0	3.1	2.0	75.6	2点接合 1563	
図Ⅲ-58	20	集中区1/Q52	Ⅲb	2152	礎	砂岩	9.2	4.8	2.2	133.4	1570	

表Ⅲ-22 Ⅲ層出土掲載簿一覧(7)

神岡 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	図番 番号
								長さ	幅	厚さ			
図Ⅲ-58	21	図版91	集中区1/P52	Ⅲb	2128	礎	砂岩	11.0	3.2	2.5	95.6		1565
図Ⅲ-58	22		集中区1/P55	Ⅲb	2034	礎	砂岩	13.1	6.0	3.3	322.9	2点接合	1551
			集中区1/P52	Ⅲb	2122								
図Ⅲ-61	8	図版92	ⅢPb-1	Ⅲb	2800	礎	泥岩	7.5	3.7	1.8	63.6		1549
図Ⅲ-61	9		ⅢPb-1	Ⅲb	2783	礎	砂岩	8.3	4.6	3.1	143.5		1548
図Ⅲ-61	10		ⅢPb-1	Ⅲb	2772	礎	砂岩	9.5	5.0	2.8	171.2		1547
図Ⅲ-61	11		ⅢPb-1	Ⅲb	2778	礎	泥岩	4.5	4.0	3.3	48.7	巻目化石痕あり	1550
図Ⅲ-61	12		ⅢS-8	Ⅲb	2882	礎	泥岩	7.4	3.5	1.5	40.2		1526
図Ⅲ-61	13		ⅢS-8	Ⅲb	2883	礎	砂岩	8.0	2.8	2.1	59.0		1527
図Ⅲ-61	14		ⅢS-8	Ⅲb	2879	礎	砂岩	8.0	3.4	2.0	63.9		1524
図Ⅲ-61	15		ⅢS-8	Ⅲb	2874	礎	砂岩	8.1	3.5	2.6	98.3		1523
図Ⅲ-61	16		ⅢS-8	Ⅲb	2869	礎	砂岩	9.0	4.0	1.7	60.9		1522
図Ⅲ-61	17		ⅢS-8	Ⅲb	2880	礎	砂岩	9.4	3.4	1.5	74.1		1525
図Ⅲ-61	18		ⅢS-8	Ⅲb	2887	礎	泥岩	9.2	4.6	1.9	81.8		1528
図Ⅲ-61	19		ⅢS-8	Ⅲb	2857	礎	泥岩	10.7	3.0	2.4	56.2	3点接合	1521
図Ⅲ-62	20		集中区2/N51	Ⅲb	2424	礎	砂岩	5.5	3.2	2.1	49.9		1587
図Ⅲ-62	21		集中区2/Q51	Ⅲb	2177	礎	砂岩	5.8	3.6	1.5	40.9		1572
図Ⅲ-62	22		集中区2/P52	Ⅲb	2192	礎	砂岩	5.7	4.8	1.6	62.1		1573
図Ⅲ-62	23		集中区2/O52	Ⅲb	2269	礎	砂岩	5.9	2.5	2.0	38.1		1577
図Ⅲ-62	24		集中区2/O52	Ⅲb	2289	礎	砂岩	6.2	3.9	2.8	86.8		1579
図Ⅲ-62	25		集中区2/O52	Ⅲb	2276	礎	砂岩	6.1	3.9	2.1	67.9		1578
図Ⅲ-62	26		集中区2/O52	Ⅲb	2299	礎	砂岩	6.2	2.7	2.3	49.1		1580
図Ⅲ-62	27		集中区2/P51	Ⅲb	2840	礎	砂岩	6.2	2.8	2.5	61.5		1589
図Ⅲ-62	28		集中区2/Q51	Ⅲb	2174	礎	砂岩	6.5	3.4	2.5	72.1		1571
図Ⅲ-62	29		集中区2/M52	Ⅲb	2435	礎	砂岩	6.6	3.8	1.5	47.4		1588
図Ⅲ-62	30		集中区2/O53	Ⅲb	2374	礎	砂岩	6.6	2.6	2.4	52.8		1583
図Ⅲ-62	31		集中区2/P51	Ⅲb	2232	礎	砂岩	7.2	3.5	1.9	54.5		1574
図Ⅲ-62	32		集中区2/O53	Ⅲb	2377	礎	砂岩	7.1	3.9	1.3	56.7		1584
図Ⅲ-62	33		集中区2/O52	Ⅲb	2324	礎	砂岩	7.5	4.0	1.1	48.9		1581
図Ⅲ-62	34		集中区2/P51	Ⅲb	2843	礎	砂岩	7.7	2.9	1.8	57.1		1590
図Ⅲ-62	35		集中区2/O52	Ⅲb	2325	礎	砂岩	7.2	3.3	3.0	83.7		1582
図Ⅲ-62	36		集中区2/O51	Ⅲb	2242	礎	砂岩	7.4	3.3	1.8	66.3		1575
図Ⅲ-62	37		集中区2/O53	Ⅲb	2378	礎	砂岩	7.9	3.5	2.4	65.8		1585
図Ⅲ-62	38		集中区2/O54	Ⅲb	2413	礎	砂岩	8.6	2.8	2.1	48.8	2点接合	1586
図Ⅲ-62	39		集中区2/O51	Ⅲb	2250	礎	砂岩	8.9	3.0	2.5	72.4		1576
図Ⅲ-62	40		集中区2/N52	Ⅲb	2403	礎	砂岩	8.2	7.3	2.0	144.5		1593
図Ⅲ-62	41		集中区2/Q51	Ⅲb	2162-2163	礎	閃緑岩	8.5	6.9	2.5	236.9	2点接合	1592
図Ⅲ-62	42		集中区2/O53	Ⅲb	2350	礎	砂岩	9.9	8.1	1.7	204.1		1594
図Ⅲ-62	43		集中区2/P51	Ⅲb	2839	礎	砂岩	11.8	8.5	2.0	246.8		1595
図Ⅲ-62	44		集中区2/Q50	Ⅲb	2206	礎	右石片岩	12.5	5.5	2.2	184.2		1591
図Ⅲ-62	45		集中区2/N52	Ⅲb	2402	礎	砂岩	13.0	5.9	3.3	352.8		1596
図Ⅲ-62	46		集中区2/R50	Ⅲb	2154	礎	安山岩	12.2	8.1	7.0	1047.0		1597
図Ⅲ-62	47		集中区2/Q51	Ⅲb	2159-2161	礎	砂岩	14.4	13.4	3.8	967.0	2点接合	1598
図Ⅲ-62	48		集中区2/Q51	Ⅲb	2167	礎	砂岩	14.9	15.3	3.5	1261.5	4点接合	1599
			集中区2/Q50	Ⅲb	2216								
図Ⅲ-62	49		集中区2/O52	Ⅲb	2280-2181 -2182	礎	砂岩	20.9	19.4	2.6	998.7	4点接合	1600
図Ⅲ-66	14		ⅢS-9	Ⅲb	2961	礎	砂岩	5.8	3.0	1.4	35.6		1535
図Ⅲ-66	15		ⅢS-9	Ⅲb	2951	礎	砂岩	5.8	3.4	1.7	41.2		1532
図Ⅲ-66	16		ⅢS-9	Ⅲb	2998	礎	砂岩	6.1	3.9	2.0	64.6		1545
図Ⅲ-66	17		ⅢS-9	Ⅲb	2999	礎	砂岩	6.4	3.2	2.0	42.6		1531
図Ⅲ-66	18		ⅢS-9	Ⅲb	2965	礎	砂岩	6.3	2.8	2.6	55.2		1536
図Ⅲ-66	19		ⅢS-9	Ⅲb	2945	礎	砂岩	6.7	2.6	1.8	41.9		1530
図Ⅲ-66	20		ⅢS-9	Ⅲb	3000	礎	泥岩	6.5	3.8	1.6	34.4		1546
図Ⅲ-66	21		ⅢS-9	Ⅲb	2966	礎	砂岩	6.8	3.3	1.4	37.6		1537
図Ⅲ-66	22		ⅢS-9	Ⅲb	2995	礎	砂岩	6.8	2.1	2.3	36.3		1544
図Ⅲ-66	23		ⅢS-9	Ⅲb	2990	礎	砂岩	7.0	3.2	2.1	56.3		1543
図Ⅲ-66	24		ⅢS-9	Ⅲb	2975	礎	砂岩	6.8	3.5	2.9	79.2		1542
図Ⅲ-66	25		ⅢS-9	Ⅲb	2970	礎	砂岩	6.6	2.7	1.6	34.4		1540
図Ⅲ-66	26		ⅢS-9	Ⅲb	2942	礎	砂岩	7.1	2.1	1.3	29.3		1529
図Ⅲ-66	27		ⅢS-9	Ⅲb	2969	礎	砂岩	7.5	4.1	1.3	43.7		1539
図Ⅲ-66	28		ⅢS-9	Ⅲb	2960	礎	砂岩	7.8	2.9	2.2	57.0		1534
図Ⅲ-66	29		ⅢS-9	Ⅲb	2972	礎	砂岩	7.9	3.8	2.4	100.8		1541
図Ⅲ-66	30		ⅢS-9	Ⅲb	2954	礎	泥岩	8.2	4.8	1.9	96.9		1533
図Ⅲ-66	31		ⅢS-9	Ⅲb	2967	礎	砂岩	9.0	4.6	2.3	85.9		1538
図Ⅲ-66	32		集中区3/P49	Ⅲb	2497	礎	砂岩	4.8	3.0	2.0	35.9	被焼	1609

表Ⅲ-23 Ⅲ層出土掘載礫一覽(8)

神図 番号	掲載 番号	写真図取 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	図番 番号
								長さ	幅	厚さ			
図Ⅲ-66	33	図版92	集中区3/P49	Ⅲb	2494	礫	砂岩	5.0	2.4	1.5	22.8		1608
図Ⅲ-66	34		集中区3/Q49	Ⅲb	2611	礫	砂岩	5.1	3.9	1.7	37.4		1617
図Ⅲ-66	35		集中区3/O50	Ⅲb	2544	礫	砂岩	5.3	2.2	2.4	27.7	2点接合	1614
図Ⅲ-66	36		集中区3/O49	Ⅲb	3244	礫	泥岩	5.7	3.4	1.6	32.4		1624
図Ⅲ-66	37		集中区3/Q48	Ⅲb	2624	礫	砂岩	6.3	2.3	2.1	41.4		1618
図Ⅲ-66	38		集中区3/R49	Ⅲb	2598	礫	砂岩	5.7	2.7	2.2	40.7		1616
図Ⅲ-66	39		集中区3/O49	Ⅲb	2648	礫	砂岩	6.8	3.8	1.8	56.6		1622
図Ⅲ-66	40		集中区3/O50	Ⅲb	2539	礫	砂岩	6.7	4.3	1.8	66.0		1611
図Ⅲ-66	41		集中区3/O49	Ⅲb	3245	礫	砂岩	7.1	2.7	1.4	37.7	2点接合	1625
図Ⅲ-66	42		集中区3/O49	Ⅲb	3223	礫	砂岩	7.3	2.9	1.9	50.1		1623
図Ⅲ-66	43		集中区3/N50	Ⅲb	2517	礫	砂岩	7.4	4.2	2.0	83.3		1610
図Ⅲ-66	44		集中区3/P48	Ⅲb	2638	礫	砂岩	7.9	2.6	2.5	70.6		1621
図Ⅲ-66	45		集中区3/O50	Ⅲb	2540	礫	砂岩	8.1	4.1	1.6	74.2		1612
図Ⅲ-66	46		集中区3/O50	Ⅲb	2541	礫	砂岩	8.3	4.1	3.5	131.3		1615
図Ⅲ-66	47		集中区3/Q50	Ⅲb	2580	礫	砂岩	8.4	4.0	3.3	119.0		1613
図Ⅲ-66	48		集中区3/Q48	Ⅲb	2625	礫	泥岩	8.6	3.0	2.4	64.0		1619
図Ⅲ-66	49		集中区3/Q48	Ⅲb	2626	礫	砂岩	8.8	2.3	1.2	40.7		1620
図Ⅲ-66	50		集中区3/R49	Ⅲb	2593	礫	片麻岩	8.6	4.9	1.4	93.8		1626
図Ⅲ-66	51		集中区3/P49	Ⅲb	2478	礫	砂岩	9.7	4.5	1.2	65.3		1607
図Ⅲ-66	52		集中区3/O49	Ⅲb	2647	礫	緑色片岩	9.6	6.5	2.0	206.2		1667
図Ⅲ-66	53		集中区3/N50	Ⅲb	2528	礫	砂岩	9.7	7.4	2.1	175.9		1603
図Ⅲ-66	54		集中区3/P60	Ⅲb	2470	礫	砂岩	11.0	4.0	3.6	206.3		1605
図Ⅲ-66	55		集中区3/P50	Ⅲb	2471	礫	砂岩	16.2	7.7	3.4	580.9		1602
図Ⅲ-68	6	図版93	集中区4/M55	Ⅲb	3296	礫	泥岩	4.8	4.1	3.6	104.2		1628
図Ⅲ-68	7		集中区4/L55	Ⅲb	3326	礫	砂岩	5.8	2.9	2.3	54.8		1633
図Ⅲ-68	8		集中区4/M55	Ⅲb	3295	礫	砂岩	6.3	3.2	1.4	38.5		1627
図Ⅲ-68	9		集中区4/L55	Ⅲb	3319	礫	砂岩	6.5	3.2	2.0	55.9		1632
図Ⅲ-68	10		集中区4/L55	Ⅲb	3311	礫	砂岩	7.0	3.3	2.2	55.5		1630
図Ⅲ-68	11		集中区4/L55	Ⅲb	3306	礫	砂岩	7.7	4.4	1.9	66.3	被焼?	1629
図Ⅲ-68	12		集中区4/L55	Ⅲb	3314	礫	砂岩	8.3	3.5	2.2	96.3		1631
図Ⅲ-68	13		集中区4/K54	Ⅲb	3421	礫	砂岩	8.4	4.0	1.6	61.0		1635
図Ⅲ-68	14		集中区4/L55	Ⅲb	3330	礫	砂岩	8.3	4.3	2.5	122.3		1634
図Ⅲ-68	15		集中区4/L55	Ⅲb	3320	礫	砂岩	13.6	8.9	4.8	760.0	2点接合	1626
図Ⅲ-69	3		集中区5/L54	Ⅲb	3446	礫	砂岩	5.2	3.3	1.2	26.8		1636
図Ⅲ-69	4		集中区5/K53	Ⅲb	3483	礫	砂岩	5.5	2.7	1.0	19.9		1642
図Ⅲ-69	5		集中区5/K53	Ⅲb	3482	礫	砂岩	6.0	4.3	1.5	45.6		1644
図Ⅲ-69	6		集中区5/K54	Ⅲb	3489	礫	泥岩	6.5	2.6	2.2	49.6		1641
図Ⅲ-69	7		集中区5/K53	Ⅲb	3480	礫	砂岩	7.0	3.3	2.3	68.5		1640
図Ⅲ-69	8		集中区5/L53	Ⅲb	3454	礫	砂岩	7.1	3.1	1.2	40.4		1637
図Ⅲ-69	9		集中区5/K52	Ⅲb	3474	礫	泥岩	7.7	3.2	2.7	95.7	2点接合	1639
図Ⅲ-69	10		集中区5/K53	Ⅲb	3484	礫	砂岩	7.4	3.7	2.8	84.8		1643
図Ⅲ-69	11		集中区5/K52	Ⅲb	3467	礫	泥岩	8.1	2.7	1.8	44.7		1638
図Ⅲ-69	12		ⅢF-14	焼土上面	3606	礫	砂岩	7.0	4.2	1.2	46.6		1462
図Ⅲ-74	6	図版94	ⅢS-1/c13	Ⅲb	-1	有孔礫	泥岩	7.7	7.3	1.4	89.0		261
図Ⅲ-74	7		ⅢS-1/b14	Ⅲb		有孔礫	泥岩	5.4	5.9	4.1	104.0		260
図Ⅲ-74	9		ⅢS-1/b14	Ⅲb			頁岩	3.4	2.9	2.6	34.0		685
図Ⅲ-74	10		ⅢS-1/c13	Ⅲb	-39	礫	砂岩	4.1	3.6	1.5	31.0		725
図Ⅲ-74	11		ⅢS-1/d14	Ⅲb	-28	礫	砂岩	4.1	4.1	3.4	60.0		793
図Ⅲ-74	12		ⅢS-1/c13	Ⅲb	-43	礫	砂岩	4.3	3.7	1.7	33.0		727
図Ⅲ-74	13		ⅢS-1/a13	Ⅲb	-2	礫	砂岩	4.4	3.3	2.5	67.0		637
図Ⅲ-74	14		ⅢS-1/b13	Ⅲb	-90	礫	砂岩	4.5	3.0	1.1	21.0		675
図Ⅲ-74	15		ⅢS-1/b12	Ⅲb	-5	礫	泥岩	4.5	4.5	1.0	25.0		656
図Ⅲ-74	16		ⅢS-1/b13	Ⅲb	-15	礫	砂岩	4.9	3.3	1.1	20.0		677
図Ⅲ-74	17		ⅢS-1/b13	Ⅲb	-70	礫	砂岩	5.0	3.4	1.8	39.0		672
図Ⅲ-74	18		ⅢS-1/b14	Ⅲb	-18	礫	砂岩	5.1	2.4	1.5	28.0		694
図Ⅲ-74	19		ⅢS-1/d14	Ⅲb	-2	礫	泥岩	5.1	2.6	2.3	40.0		775
図Ⅲ-74	20		ⅢS-1/d14	Ⅲb	-8	礫	砂岩	5.1	3.7	2.0	43.0		787
図Ⅲ-74	21		ⅢS-1/c14	Ⅲb	-23	礫	砂岩	5.2	2.6	1.9	33.0		765
図Ⅲ-74	22		ⅢS-1/d14	Ⅲb	-3	礫	砂岩	5.2	3.4	1.4	31.0		785
図Ⅲ-74	23		ⅢS-1/b14	Ⅲb	-25	礫	砂岩	5.2	3.9	1.5	37.0		697
図Ⅲ-74	24		ⅢS-1/c15	Ⅲb	-5	礫	砂岩	5.2	4.0	1.1	34.0		771
図Ⅲ-74	25		ⅢS-1/b13	Ⅲb	-17	礫	砂岩	5.2	4.9	1.5	53.0		778
図Ⅲ-74	26		ⅢS-1/c13	Ⅲb	-68	礫	砂岩	5.3	3.0	1.5	32.0		636
図Ⅲ-74	27		ⅢS-1/c14	Ⅲb	-26	礫	砂岩	5.3	3.1	1.0	25.0		767
図Ⅲ-74	28		ⅢS-1/b14	Ⅲb	-15	礫	砂岩	5.4	3.8	1.4	37.0		693

表III-24 III層出土掲載概一覽(9)

神岡 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	図番 番号
								長さ	幅	厚さ			
図III-74	29	図版94	III-S-1/c13	IIIb	-7	礎	砂岩	5.4	4.2	1.5	48.0		744
図III-74	30		III-S-1/d14	IIIb	-2	礎	泥岩	5.5	2.9	1.5	23.0		779
図III-74	31		III-S-1/d14	IIIb	-16-17	礎	砂岩	5.5	3.0	2.3	49.0		781
図III-74	32		III-S-1/b14	IIIb	-27	礎	砂岩	5.5	3.4	2.1	55.0		698
図III-74	33		III-S-1/b14	IIIb	-7	礎	砂岩	5.5	3.7	1.7	42.0		689
図III-74	34		III-S-1/c13	IIIb	-37	礎	砂岩	5.5	4.4	1.5	49.0		740
図III-74	35		III-S-1/c13	IIIb	-84	礎	砂岩	5.6	2.4	2.3	41.0		752
図III-74	36		III-S-1/c13	IIIb	-8-62	礎	砂岩	5.6	3.0	2.6	59.0	2点接合	715
図III-74	37		III-S-1/c14	IIIb	-20	礎	砂岩	5.6	4.8	1.6	63.0		763
図III-74	38	III-S-1/c14	IIIb	-8	礎	砂岩	5.7	3.2	1.8	49.0		757	
図III-74	39	III-S-1/c13	IIIb	-45	礎	砂岩	5.7	3.3	1.4	33.0		728	
図III-74	40	III-S-1/c13	IIIb	-78	礎	砂岩	5.7	4.6	1.3	50.0		739	
図III-75	41	III-S-1/c14	IIIb	-24	礎	砂岩	5.8	2.6	2.4	46.0		766	
図III-75	42	III-S-1/c14	IIIb	-41	礎	砂岩	5.8	4.0	1.5	(45.0)	2点接合	768	
図III-75	43	III-S-1/b13	IIIb	-44	礎	砂岩	5.8	5.0	1.6	67.0		670	
図III-75	44	III-S-1/b12	IIIb	-1	礎	泥岩	5.9	3.4	1.1	23.0		653	
図III-75	45	III-S-1/c13	IIIb	-79	礎	砂岩	5.9	4.5	1.3	38.0		740	
図III-75	46	III-S-1/c13	IIIb	-51	礎	砂岩	5.9	5.2	2.4	90.0		731	
図III-75	47	III-S-1/b13	IIIb	-32	礎	砂岩	6.0	3.7	2.2	63.0		664	
図III-75	48	III-S-1/c13	IIIb	-33-88	礎	砂岩	6.0	3.7	1.6	46.0	2点接合	722	
図III-75	49	III-S-1/b14	IIIb	-4	礎	砂岩	6.0	4.2	1.3	49.0		687	
図III-75	50	III-S-1/b13	IIIb	-35	礎	砂岩	6.0	4.4	1.8	69.0		666	
図III-75	51	III-S-1/d14	IIIb	-3	礎	泥岩	6.1	2.8	1.5	33.0		756	
図III-75	52	III-S-1/b12	IIIb	-11	礎	砂岩	6.1	3.2	1.9	55.0		670	
図III-75	53	III-S-1/b14	IIIb	-29	礎	砂岩	6.1	3.5	2.4	67.0		700	
図III-75	54	III-S-1/b13	IIIb	-49	礎	砂岩	6.1	3.6	1.8	53.0		671	
図III-75	55	III-S-1/d14	IIIb	-3	礎	泥岩	6.1	3.7	1.4	36.0		780	
図III-75	56	III-S-1/b14	IIIb	-6	礎	砂岩	6.1	4.0	1.7	49.0		688	
図III-75	57	III-S-1/b13	IIIb	-4	礎	礫岩	6.2	3.2	2.6	63.0		684	
図III-75	58	III-S-1/d14	IIIb	-4	礎	泥岩	6.2	3.4	1.6	44.0		677	
図III-75	59	III-S-1/b13	IIIb	-7	礎	砂岩	6.2	3.5	1.8	39.0		776	
図III-75	60	III-S-1/c13	IIIb	-33	礎	砂岩	6.2	4.6	1.3	47.0		747	
図III-75	61	III-S-1/b12	IIIb	-30	礎	砂岩	6.3	2.8	1.8	39.0		643	
図III-75	62	III-S-1/b13	IIIb	-19	礎	砂岩	6.3	3.2	2.2	56.0		679	
図III-75	63	III-S-1/b13	IIIb	-33	礎	砂岩	6.3	3.8	2.7	77.0		665	
図III-75	64	III-S-1/d14	IIIb	-1	礎	砂岩	6.3	3.9	1.6	59.0		781	
図III-75	65	III-S-1/c13	IIIb	-75	礎	砂岩	6.3	4.3	1.6	73.0		738	
図III-75	66	III-S-1/c14	IIIb	-16-22	礎	砂岩	6.4	2.8	2.3	54.0	2点接合	760	
図III-75	67	III-S-1/b14	IIIb	-28	礎	砂岩	6.4	3.1	2.5	62.0		699	
図III-75	68	III-S-1/c13	IIIb	-7	礎	砂岩	6.4	3.5	2.4	54.0		714	
図III-75	69	III-S-1/c13	IIIb	-35	礎	砂岩	6.4	3.6	1.5	47.0		748	
図III-75	70	III-S-1/c13	IIIb	-55	礎	砂岩	6.4	3.8	1.9	60.0		732	
図III-75	71	III-S-1/c13	IIIb	-19	礎	砂岩	6.4	4.1	1.7	(53.0)		718	
図III-75	72	III-S-1/c13	IIIb	-49	礎	砂岩	6.4	4.5	2.3	75.0		729	
図III-75	73	III-S-1/c15	IIIb	-4	礎	砂岩	6.4	4.8	1.7	76.0		730	
図III-75	74	III-S-1/b12	IIIb	-3	礎	泥岩	6.5	3.2	1.0	22.0		679	
図III-75	75	III-S-1/c14	IIIb	-19	礎	砂岩	6.5	3.5	1.6	58.0		762	
図III-75	76	III-S-1/c14	IIIb	-21	礎	砂岩	6.5	3.8	1.3	41.0		764	
図III-75	77	III-S-1/c13	IIIb	-83	礎	砂岩	6.5	4.1	2.1	78.0		741	
図III-75	78	III-S-1/b14	IIIb	-10	礎	砂岩	6.5	5.2	1.4	63.0		691	
図III-75	79	III-S-1/b12	IIIb	-2	礎	泥岩	6.6	3.0	1.1	30.0		654	
図III-75	80	III-S-1/b12	IIIb	-35	礎	砂岩	6.6	3.2	2.5	62.0		647	
図III-75	81	III-S-1/c13	IIIb	-40	礎	砂岩	6.7	3.1	1.9	41.0		751	
図III-75	82	III-S-1/b12	IIIb	-4	礎	泥岩	6.7	3.3	2.3	50.0		655	
図III-75	83	III-S-1/c13	IIIb	-38	礎	砂岩	6.7	3.4	2.0	59.0		724	
図III-75	84	III-S-1/b13	IIIb	-9	礎	砂岩	6.7	4.3	2.0	76.0		658	
図III-75	85	III-S-1/c13	IIIb	-16	礎	泥岩	6.8	3.2	2.0	54.0		711	
図III-75	86	III-S-1/b13	IIIb	-39	礎	砂岩	6.8	3.9	3.0	114.0		668	
図III-75	87	III-S-1/d14	IIIb	-1	礎	泥岩	6.9	2.8	1.3	28.0		774	
図III-75	88	III-S-1/c13	IIIb	-37	礎	砂岩	6.9	3.1	2.3	61.0		723	
図III-75	89	III-S-1/b13	IIIb	-28	礎	砂岩	6.9	3.8	1.5	52.0		662	
図III-75	90	III-S-1/c13	IIIb	-67	礎	砂岩	7.0	3.5	1.4	50.0		735	
図III-75	91	III-S-1/c13	IIIb	-41	礎	砂岩	7.0	3.6	2.6	70.0		726	
図III-75	92	III-S-1/c13	IIIb	-61	礎	砂岩	7.1	2.6	2.2	54.0		734	
図III-75	93	III-S-1/c13	IIIb	-5	礎	泥岩	7.1	3.0	2.2	59.0		707	

表Ⅲ-25 Ⅲ層出土掲載一覧(10)

神祠 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)		重量 (g)	備考	図版 番号
								長さ	幅			
図Ⅲ-75	94	図版94	ⅢS-1/d14	Ⅲb	-1	礎	泥岩	7.1	4.0	1.7	55.0	778
図Ⅲ-75	95		ⅢS-1/b13	Ⅲb	-29	礎	砂岩	7.2	3.8	2.1	75.0	682
図Ⅲ-75	96		ⅢS-1/e12	Ⅲb	-1	礎	泥岩	7.2	3.8	2.5	67.0	701
図Ⅲ-75	97		ⅢS-1/d14	Ⅲb	-12	礎	砂岩	7.2	3.8	1.8	53.0	689
図Ⅲ-75	98		ⅢS-1/b13	Ⅲb	-20	礎	砂岩	7.3	3.4	1.8	53.0	780
図Ⅲ-75	99		ⅢS-1/e12	Ⅲb	-8	礎	砂岩	7.3	3.4	1.7	47.0	702
図Ⅲ-75	100		ⅢS-1/e15	Ⅲb	-25	礎	砂岩	7.3	3.5	3.0	91.0	773
図Ⅲ-75	101		ⅢS-1/b12	Ⅲb	-17	礎	砂岩	7.3	3.8	1.9	67.0	651
図Ⅲ-75	102		ⅢS-1/e14	Ⅲb	-18	礎	砂岩	7.3	3.8	2.8	93.0	761
図Ⅲ-75	103		ⅢS-1/b14	Ⅲb	-23	礎	砂岩	7.3	4.4	1.2	64.0	696
図Ⅲ-75	104		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-2	礎	泥岩	7.4	3.5	1.3	43.0	706
図Ⅲ-76	105		ⅢS-1/b12	Ⅲb	-36	礎	砂岩	7.4	3.7	1.2	38.0	648
図Ⅲ-76	106		ⅢS-1/b12	Ⅲb	-33	礎	砂岩	7.4	3.8	1.8	68.0	645
図Ⅲ-76	107		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-57	礎	砂岩	7.4	3.9	1.7	70.0	733
図Ⅲ-76	108		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-32-60	礎	砂岩	7.4	4.5	3.8	144.0	2点検合
図Ⅲ-76	109		ⅢS-1/d14	Ⅲb	-8	礎	砂岩	7.5	2.7	1.9	48.0	781
図Ⅲ-76	110		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-50	礎	砂岩	7.6	3.6	2.6	91.0	730
図Ⅲ-76	111		ⅢS-1/b12	Ⅲb	-34	礎	砂岩	7.6	3.7	1.7	46.0	646
図Ⅲ-76	112		ⅢS-1/e14	Ⅲb	-11	礎	泥岩	7.6	4.4	1.4	64.0	754
図Ⅲ-76	113		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-23	礎	砂岩	7.6	4.5	2.3	118.0	719
図Ⅲ-76	114		ⅢS-1/e14	Ⅲb	-3	礎	泥岩	7.7	3.3	1.9	57.0	752
図Ⅲ-76	115		ⅢS-1/b13	Ⅲb	-28	礎	砂岩	7.7	4.2	1.3	55.0	681
図Ⅲ-76	116		ⅢS-1/b14	Ⅲb	-1	礎	泥岩	7.8	3.6	1.7	48.0	686
図Ⅲ-76	117		ⅢS-1/b12	Ⅲb	-37	礎	砂岩	7.8	3.7	1.8	68.0	649
図Ⅲ-76	118		ⅢS-1/d14	Ⅲb	-14	礎	砂岩	7.8	6.2	1.8	113.0	790
図Ⅲ-76	119		ⅢS-1/e14	Ⅲb	-9	礎	砂岩	7.9	2.7	2.0	55.0	758
図Ⅲ-76	120		ⅢS-1/b12	Ⅲb	-27	礎	砂岩	7.9	3.5	1.8	70.0	642
図Ⅲ-76	121		ⅢS-1/b13	Ⅲb	-27	礎	砂岩	8.0	3.4	1.5	52.0	661
図Ⅲ-76	122		ⅢS-1/d14	Ⅲb	-7	礎	砂岩	8.0	3.5	2.7	92.0	782
図Ⅲ-76	123		ⅢS-1/b13	Ⅲb	-30-98	礎	砂岩	8.0	4.9	2.5	(129.0)	2点検合
図Ⅲ-76	124		ⅢS-1/b12	Ⅲb		礎	礎岩	8.1	2.8	2.4	73.0	653
図Ⅲ-76	125		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-70	礎	砂岩	8.1	3.1	1.9	61.0	737
図Ⅲ-76	126		ⅢS-1/d14	Ⅲb	-10	礎	砂岩	8.2	3.0	2.2	67.0	788
図Ⅲ-76	127		ⅢS-1/e14	Ⅲb	-5	礎	泥岩	8.3	3.2	1.5	40.0	653
図Ⅲ-76	128		ⅢS-1/b14	Ⅲb	-9	礎	砂岩	8.3	4.2	2.5	93.0	790
図Ⅲ-76	129		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-8-13	礎	泥岩	8.3	4.5	1.4	58.0	709
図Ⅲ-76	130		ⅢS-1/a12	Ⅲb		礎	泥岩	8.3	4.8	2.0	107.0	636
図Ⅲ-76	131		ⅢS-1/b13	Ⅲb	-1	礎	礎岩	8.6	3.5	3.0	134.0	683
図Ⅲ-76	132		ⅢS-1/e14	Ⅲb	-12	礎	砂岩	8.7	2.6	2.2	64.0	759
図Ⅲ-76	133		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-18	礎	泥岩	8.7	3.5	2.5	61.0	712
図Ⅲ-76	134		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-14	礎	砂岩	8.7	4.0	3.4	119.0	716
図Ⅲ-76	135		ⅢS-1/d14	Ⅲb	-19	礎	砂岩	8.7	5.0	2.2	109.0	792
図Ⅲ-76	136		ⅢS-1/b14	Ⅲb	-13	礎	砂岩	9.0	3.5	2.7	115.0	692
図Ⅲ-76	137		ⅢS-1/b13	Ⅲb	-26	礎	砂岩	9.0	4.7	1.8	99.0	660
図Ⅲ-76	138		ⅢS-1/e14	Ⅲb	-1	礎	砂岩	9.0	4.9	2.6	130.0	755
図Ⅲ-76	139		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-36	礎	砂岩	9.2	3.3	2.4	91.0	749
図Ⅲ-76	140		ⅢS-1/b14	Ⅲb	-20	礎	砂岩	9.2	4.1	2.1	97.0	695
図Ⅲ-76	141		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-6	礎	泥岩	9.3	4.2	2.4	143.0	708
図Ⅲ-76	142		ⅢS-1/b13	Ⅲb	-84	礎	砂岩	9.4	3.9	2.4	77.0	674
図Ⅲ-76	143		ⅢS-1/e14	Ⅲb	-6	礎	砂岩	9.5	5.2	3.4	193.0	756
図Ⅲ-76	144		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-4	礎	泥岩	9.6	3.0	2.8	63.0	713
図Ⅲ-76	145		ⅢS-1/e15	Ⅲb	-6	礎	砂岩	9.8	2.9	1.6	56.0	772
図Ⅲ-76	146		ⅢS-1/e15	Ⅲb	-1	礎	砂岩	9.9	3.1	2.4	122.0	769
図Ⅲ-76	147		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-92	礎	砂岩	9.9	3.4	2.4	75.0	743
図Ⅲ-76	148		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-31	礎	砂岩	9.9	5.1	2.0	135.0	720
図Ⅲ-76	149		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-9	礎	泥岩	10.7	4.0	2.5	95.0	710
図Ⅲ-76	150		ⅢS-1/b12	Ⅲb	-31	礎	泥岩	10.6	5.4	3.5	195.0	250
図Ⅲ-76	151		ⅢS-1/b12	Ⅲb	-38	礎	砂岩	10.7	5.5	4.2	363.0	259
図Ⅲ-76	152		ⅢS-1/e13	Ⅲb	-20	礎	砂岩	12.4	3.2	1.7	99.0	746
図Ⅲ-78	4		ⅢS-2/d22	Ⅲb	104	礎	泥岩	2.5	1.6	0.8	4.0	803
図Ⅲ-78	5		ⅢS-2/e21	Ⅲb	29	礎	砂岩	3.6	2.6	1.3	16.0	835
図Ⅲ-78	6		ⅢS-2/d22	Ⅲb	139-1	礎	砂岩	4.0	1.8	1.0	8.0	840
図Ⅲ-78	7		ⅢS-2/d22	Ⅲb	103	礎	砂岩	4.6	1.9	1.8	25.0	834
図Ⅲ-78	8		ⅢS-2/d21	Ⅲb	46	礎	砂岩	4.6	4.6	1.6	52.0	811
図Ⅲ-78	9		ⅢS-2/d22	Ⅲb	86	礎	砂岩	4.9	4.2	1.9	45.0	827

表III-26 III層出土掲載簿一覧(11)

神岡 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	図版 番号
								長さ	幅	厚さ			
図III-78	10	図版94	III-S-2/d22	IIIb	97	礫	泥岩	4.8	2.0	1.1	9.0		833
図III-78	11		III-S-2/e22	IIIb	69	礫	泥岩	5.2	2.4	1.0	14.0		821
図III-78	12		III-S-2/e21	IIIb	27	礫	砂岩	(4.9)	2.0	1.0	(12.0)		801
図III-78	13		III-S-2/e21	IIIb	26	礫	砂岩	5.2	2.1	1.4	21.0		800
図III-78	14		III-S-2/e22	IIIb	7	礫	砂岩	5.4	3.6	1.9	46.0		795
図III-78	15		III-S-2/d22	IIIb	89	礫	砂岩	5.2	4.0	1.4	44.0		828
図III-78	16		III-S-2/e21	IIIb	56	礫	砂岩	5.6	3.0	1.6	35.0		814
図III-78	17		III-S-2/e21	IIIb	23	礫	砂岩	5.8	3.7	1.2	33.0		799
図III-78	18		III-S-2/d21	IIIb	42	礫	砂岩	6.0	2.5	1.3	26.0		808
図III-78	19		III-S-2/e22	IIIb	13	礫	砂岩	6.3	3.9	0.8	31.0		796
図III-78	20		III-S-2/e21	IIIb	60	礫	砂岩	5.6	2.7	2.5	58.0		817
図III-78	21		III-S-2/d22	IIIb	128	礫	泥岩	5.8	2.8	1.0	14.0		837
図III-78	22		III-S-2/e21	IIIb	31	礫	砂岩	5.9	2.1	1.7	24.0		804
図III-78	23		III-S-2/e21	IIIb	55	礫	砂岩	6.0	2.9	2.0	(42.0)		813
図III-78	24		III-S-2/d22	IIIb	137	礫	砂岩	6.0	3.7	1.1	35.0		839
図III-78	25		III-S-2/e21	IIIb	28	礫	砂岩	6.3	2.6	1.3	31.0		802
図III-78	26		III-S-2/e21	IIIb	21	礫	泥岩	6.1	3.1	1.4	28.0		797
図III-78	27		III-S-2/e21	IIIb	61	礫	砂岩	6.4	3.1	2.5	66.0		818
図III-78	28		III-S-2/e22	IIIb	80	礫	砂岩	6.4	4.4	1.8	80.0		825
図III-78	29		III-S-2/d21	IIIb	36-37	礫	泥岩	7.0	2.0	1.9	28.0	2点接合	805
図III-78	30		III-S-2/d22	IIIb	85-1	礫	砂岩	6.9	3.2	2.5	(53.0)	6点接合	826
図III-78	31		III-S-2/d21	IIIb	44	礫	砂岩	7.0	3.8	1.8	58.0		809
図III-78	32		III-S-2/e21	IIIb	57	礫	泥岩	7.1	3.7	1.9	53.0		815
図III-78	33		III-S-2/d22	IIIb	108	礫	砂岩	6.8	3.2	1.8	52.0		836
図III-78	34		III-S-2/d22	IIIb	94	礫	泥岩	7.0	2.8	2.1	56.0	3点接合	831
図III-78	35		III-S-2/e21	IIIb	66	礫	泥岩	7.4	4.4	1.6	56.0		819
図III-78	36	III-S-2/d22	IIIb	92	礫	砂岩	7.1	3.1	2.3	66.0	被熱	829	
図III-78	37	III-S-2/d22	IIIb	93	礫	砂岩	7.3	2.6	1.9	37.0		830	
図III-78	38	III-S-2/e21	IIIb	59	礫	砂岩	7.2	3.9	2.8	100.0		816	
図III-78	39	III-S-2/e22	IIIb	78	礫	砂岩	7.4	2.6	2.1	55.0		824	
図III-78	40	III-S-2/d21	IIIb	48	礫	砂岩	7.3	4.5	2.1	84.0		812	
図III-78	41	III-S-2/d22	IIIb	96	礫	砂岩	7.8	3.7	2.0	86.0		832	
図III-78	42	III-S-2/d21	IIIb	41	礫	泥岩	8.3	2.9	2.6	76.0		807	
図III-78	43	III-S-2/e21	IIIb	22	礫	泥岩	8.5	2.3	1.5	35.0		798	
図III-78	44	III-S-2/e22	IIIb	4	礫	砂岩	8.0	4.6	2.7	107.0		794	
図III-78	45	III-S-2/d22	IIIb	135	礫	砂岩	8.9	4.4	2.7	148.0		838	
図III-78	46	III-S-2/e22	IIIb	70	礫	砂岩	8.9	3.8	2.6	124.0		822	
図III-78	47	III-S-2/d21	IIIb	39	礫	泥岩	9.3	3.1	1.5	30.0		806	
図III-78	48	III-S-2/e22	IIIb	68	礫	砂岩	9.8	3.8	2.3	96.0		820	
図III-78	49	III-S-2/e22	IIIb	74	礫	砂岩	9.6	4.8	3.4	199.0		823	
図III-78	50	III-S-2/d21	IIIb	45	礫	砂岩	11.5	5.0	2.3	137.0		810	
図III-79	1		III-S-5	IIIb	1104	礫	砂岩	5.4	2.7	1.4	27.6		1465
図III-79	2		III-S-5	IIIb	1112	礫	砂岩	6.0	2.3	1.3	24.8		1466
図III-79	3		III-S-5	IIIb	1115	礫	砂岩	6.3	3.2	1.7	37.6		1467
図III-79	4		III-S-5	IIIb	1100	礫	砂岩	6.2	1.9	1.7	26.4		1464
図III-79	5		III-S-5	IIIb	1328	礫	泥岩	6.5	2.7	1.8	36.5		1470
図III-79	6		III-S-5	IIIb	1129	礫	砂岩	6.7	3.2	2.8	75.7		1468
図III-79	7		III-S-5	IIIb	1137	礫	砂岩	8.7	4.2	2.9	147.4		1469
図III-79	8		III-S-5	IIIb	1095-1096 +1097	礫	泥岩	12.9	6.0	3.5	318.1	5点接合	1463
図III-82	3	図版95	III-S-6/ⅴ62	IIIb	1233	礫	砂岩	3.4	2.7	2.2	24.8		1509
図III-82	4		III-S-6/ⅴ62	IIIb	1367	礫	砂岩	4.5	4.2	1.4	34.0		1514
図III-82	5		III-S-6/ⅴ63	IIIb	1558	礫	砂岩	4.6	2.7	1.5	24.7		1478
図III-82	6		III-S-6/ⅴ64	IIIb	1393	礫	砂岩	5.3	3.4	2.0	43.8		1516
図III-82	7		III-S-6/ⅴ63	IIIb	1288	礫	砂岩	6.0	3.2	1.5	37.2		1505
図III-82	8		III-S-6/ⅴ63	IIIb	1545	礫	砂岩	6.0	2.3	1.9	33.2		1476
図III-82	9		III-S-6/ⅴ63	IIIb	1271	礫	砂岩	6.5	2.7	2.0	50.3		1503
図III-82	10		III-S-6/ⅴ64	IIIb	1330	礫	泥岩	6.8	3.2	1.8	43.4		1512
図III-82	11		III-S-6/ⅴ63	IIIb	1569	礫	砂岩	7.5	3.4	1.4	47.1		1483
図III-82	12		III-S-6/ⅴ63	IIIb	1581	礫	砂岩	6.6	2.8	2.3	53.5		1486
図III-82	13		III-S-6/ⅴ64	IIIb	1321	礫	砂岩	6.9	2.5	1.5	37.7		1510
図III-82	14		III-S-6/ⅴ63	IIIb	1603	礫	砂岩	6.1	3.3	2.6	81.5		1490
図III-82	15		III-S-6/ⅴ63	IIIb	1659	礫	砂岩	6.7	4.7	1.6	68.6		1498
図III-82	16		III-S-6/ⅴ63	IIIb	1566	礫	砂岩	6.3	3.6	2.5	74.9		1482
図III-82	17		III-S-6/ⅴ63	IIIb	1555	礫	泥岩	7.8	3.6	1.6	60.7		1477
図III-82	18		III-S-6/ⅴ63	IIIb	1532	礫	砂岩	7.2	3.5	1.6	58.4	被熱	1474

表Ⅲ-27 Ⅲ層出土掘載礫一覽(12)

神田 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	図号 番号
								長さ	幅	厚さ			
図Ⅲ-82	19	図版95	ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1516	礫	砂岩	7.0	2.4	1.7	35.0		1471
図Ⅲ-82	20		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1524	礫	砂岩	6.9	3.6	1.8	58.4	被熱	1472
図Ⅲ-82	21		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1623	礫	泥岩	6.1	2.7	2.0	36.0		1492
図Ⅲ-82	22		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1626	礫	砂岩	6.7	2.9	1.8	45.1		1493
図Ⅲ-82	23		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1651	礫	砂岩	7.2	2.6	2.3	57.3		1494
図Ⅲ-82	24		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1288	礫	砂岩	7.0	3.1	2.2	59.7		1499
図Ⅲ-82	25		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1668	礫	砂岩	6.7	3.3	1.7	59.3		1501
図Ⅲ-82	26		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1672	礫	泥岩	7.3	2.2	1.8	32.6		1500
図Ⅲ-82	27		ⅢS-6/Ⅲ64	Ⅲb	1346	礫	泥岩	7.0	3.8	2.0	65.5		1513
図Ⅲ-82	28		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1597	礫	砂岩	7.2	3.6	1.6	54.5		1489
図Ⅲ-82	29		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1615	礫	砂岩	7.1	4.1	1.4	49.8	被熱	1491
図Ⅲ-82	30		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1582	礫	砂岩	7.3	2.8	2.9	72.1		1487
図Ⅲ-82	31		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1629	礫	砂岩	7.5	2.4	2.2	48.9		1495
図Ⅲ-82	32		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1561	礫	砂岩	7.8	3.4	2.0	70.2		1480
図Ⅲ-82	33		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1270	礫	砂岩	8.1	2.2	2.3	64.0		1502
図Ⅲ-82	34		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1560	礫	砂岩	8.1	3.5	1.4	41.4		1479
図Ⅲ-83	35		ⅢS-6/Ⅲ62	Ⅲb	1369	礫	砂岩	7.8	3.4	2.4	80.4		1475
図Ⅲ-83	36		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1530	礫	砂岩	8.3	3.0	1.8	54.3		1513
図Ⅲ-83	37		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1655	礫	砂岩	8.1	3.9	1.8	69.0		1497
図Ⅲ-83	38		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1565	礫	砂岩	8.2	2.8	1.9	52.7		1481
図Ⅲ-83	39		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1584	礫	砂岩	7.8	3.9	1.7	65.8		1488
図Ⅲ-83	40		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1679	礫	砂岩	8.7	4.3	1.5	78.2		1507
図Ⅲ-83	41		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1574	礫	泥岩	8.6	3.2	2.0	68.4		1484
図Ⅲ-83	42		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1283	礫	砂岩	8.6	3.7	2.4	105.5		1504
図Ⅲ-83	43		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1544	礫	泥岩	8.8	2.6	2.5	71.2		1475
図Ⅲ-83	44		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1628	礫	砂岩	8.3	3.6	2.4	80.5		1494
図Ⅲ-83	45		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1289	礫	砂岩	8.9	2.7	1.7	53.3		1506
図Ⅲ-83	46		ⅢS-6/Ⅲ64	Ⅲb	1329	礫	砂岩	8.9	3.9	2.8	127.6		1511
図Ⅲ-83	47		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1580	礫	砂岩	9.3	4.1	2.3	110.9		1485
図Ⅲ-83	48		ⅢS-6/Ⅲ62	Ⅲb	1234	礫	片麻岩	8.3	7.0	2.4	218.5		1508
図Ⅲ-83	49		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1686	礫	砂岩	9.6	4.8	2.2	129.2		1518
図Ⅲ-83	50		ⅢS-6/Ⅲ62	Ⅲb	1236	礫	片麻岩	10.3	8.2	1.8	267.7	被熱?	1519
図Ⅲ-83	51		ⅢS-6/Ⅲ3	Ⅲb	1290	礫	砂岩	13.5	2.6	1.5	75.5	2点接合	1517
			ⅢS-6/Ⅲ63	Ⅲb	1386								
図Ⅲ-83	52		ⅢS-6/Ⅲ62	Ⅲb	1235	礫	チャート	13.6	10.2	6.1	1155.9		1520
図Ⅲ-85	1	図版95	ⅢF-7	礎土上面	3581	礫	砂岩	6.1	2.9	2.2	48.4		1461
図Ⅲ-88	3		ⅢS-3	Ⅲb	22	礫	砂岩	2.9	2.2	0.9	8.0		851
図Ⅲ-88	4		ⅢS-3	Ⅲb	37	礫	砂岩	5.3	2.9	1.7	32.0		854
図Ⅲ-88	5		ⅢS-3	Ⅲb	15	礫	砂岩	5.1	3.3	2.8	67.0		847
図Ⅲ-88	6		ⅢS-3	Ⅲb	52	礫	砂岩	5.1	3.4	1.8	41.0		858
図Ⅲ-88	7		ⅢS-3	Ⅲb	21	礫	砂岩	5.3	3.4	2.1	62.0	6点接合	850
図Ⅲ-88	8		ⅢS-3	Ⅲb	17	礫	泥岩	5.6	3.5	2.8	51.0		848
図Ⅲ-88	9		ⅢS-3	Ⅲb	50	礫	砂岩	6.0	3.0	2.0	44.0		857
図Ⅲ-88	10		ⅢS-3	Ⅲb	49	礫	砂岩	6.1	3.8	2.9	72.0	5点接合	856
図Ⅲ-88	11		ⅢS-3	Ⅲb	42・45・46・ 47・48	礫	泥岩	6.1	3.7	2.0	49.0	5点接合	855
図Ⅲ-88	12		ⅢS-3	Ⅲb	2	礫	砂岩	6.6	3.2	2.3	63.0		841
図Ⅲ-88	13		ⅢS-3	Ⅲb	32	礫	砂岩	6.3	3.6	2.2	57.0		853
図Ⅲ-88	14		ⅢS-3	Ⅲb	10	礫	砂岩	6.4	3.6	2.3	64.0		844
図Ⅲ-88	15		ⅢS-3	Ⅲb	14	礫	泥岩	6.4	3.2	3.3	68.0	2点接合	846
図Ⅲ-88	16		ⅢS-3	Ⅲb	59	礫	泥岩	6.5	2.9	1.7	30.0	2点接合	859
図Ⅲ-88	17		ⅢS-3	Ⅲb	18	礫	砂岩	6.8	3.1	1.8	49.0		849
図Ⅲ-88	18		ⅢS-3	Ⅲb	23	礫	砂岩	6.7	3.1	2.0	51.0		852
図Ⅲ-88	19		ⅢS-3	Ⅲb	60	礫	泥岩	7.0	3.2	1.8	42.0		860
図Ⅲ-88	20		ⅢS-3	Ⅲb	8・12	礫	砂岩	7.2	4.0	1.8	59.0	2点接合	845
図Ⅲ-88	21		ⅢS-3	Ⅲb	7	礫	砂岩	7.3	2.9	2.1	60.0		843
図Ⅲ-88	22		ⅢS-3	Ⅲb	3	礫	砂岩	7.5	3.7	2.8	84.0		842
図Ⅲ-97	21	図版97	k16	Ⅲb	11	礫	石英質岩	14.9	18.3	7.5	2040.0	(火打石)	264
図Ⅲ-97	22		Z24	I			礫	石英質岩	5.0	3.9	2.8	75.0	(火打石)
図Ⅲ-97	23		a21	Ⅲb	15	礫	結晶片岩	9.8	5.3	1.6	167.0		265
図Ⅲ-97	24		K64	Ⅲb	1742	有孔礫	泥岩	5.2	5.4	2.0	56.4		1650
図Ⅲ-97	25		g23	Ⅲb	-2	礫	砂岩	5.6	3.3	2.5	46.8		967
図Ⅲ-97	26		i22	Ⅲb		礫	泥岩	3.8	6.3	1.0	23.0	貝化石入り	262
図Ⅲ-97	27		F64	Vb		有孔礫	泥岩	3.6	3.0	3.0	26.9	化石痕	1363
図Ⅲ-97	28		M49	Ⅲb	2700	礫	砂岩	4.4	4.3	2.4	30.4	化石痕	1649

## IV V層の調査と出土遺物

V層の遺構は、竪穴住居跡9軒(VH-1~9)・土坑6基(VP-1~6)・Tビット22基(TP-1~22)・焼土(石組炉含む)8か所(VF-1・3~9)を検出し、遺構に準じるものとして土器集中19か所(VPB-1~19)・石器集中2か所(石器集中1・2)・フレイクチップ集中5か所(VFC-1~5)・礫集中2か所(VS-1・2)を検出した。

V層包含層からは、縄文時代早期~後期の遺物が出土している。

### 1 竪穴住居跡

VH-1 [図IV-1~4、図版13・58・59・98]

位置：C地区 c26・27、d26・27区、標高63.5m前後 検出層位：VI層 平面形：ほぼ楕円形  
規模：5.84×4.62/5.53×4.50/0.20m 長軸方位：N-85° E

確認・調査：IV層を重機で除去したところ、V層上面がくぼむ範囲を確認した。土層確認用のベルトおよびトレンチを設定し掘り下げた。断面視察を行ったところ、V~VII層の自然堆積のように観察され、当初は自然の落込みと考え周辺V層を掘り下げた。しかしその後、VI層の欠落とわずかに壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡と認定した。

覆土はTa-dテフラの粒子を少量含むものVb層の黒色土が主体であり、周辺包含層との境界が不明瞭である。床面はVI層~VII層で、中央に向かってすり鉢状に緩やかに下っている。床面では、石組炉と土坑、柱穴を検出した。壁の立ち上がりはわずかに観察される。底面はグライ化し脱色しており、住居構築以前は水のたまる環境下であったとみられる。乾燥後に自然の窪地を利用して竪穴住居が構築されたと考えられる。

付属遺構：焼土1か所、土坑1基、柱穴9基を検出した。

#### [炉] VH-1HF-1

竪穴住居跡中央部から西寄りにある石組炉。角礫がおおむね隅丸方形に配置されている。炉石は、砂岩の大型板状礫を分割した角礫を立て並べたとみられる。炉の内側にあたる礫表面が赤色や黒色に変色しているものが多く、強く被熱していることがうかがえる。炉内の東寄りに角礫の抜き取り痕が残存しており、もともと正方形に近い炉を東側に拡張させたと考えられる。炉内の土層は、上位に焼土混じりの黒色土、下位に暗赤褐色の被熱層が明瞭に観察される。炉石を取り上げた後、抜き取り痕や埋設痕を確認した。遺物は、上面からフレイク33点が出土した。被熱・発泡等は確認できなかった。

焼土を採取してフローテーション作業を行った(IV章9)。また同焼土で採取した炭化物を試料とした<sup>14</sup>C年代測定では、3,900±30yB.P. (δ<sup>13</sup>C補正あり)という結果であった(V章11)

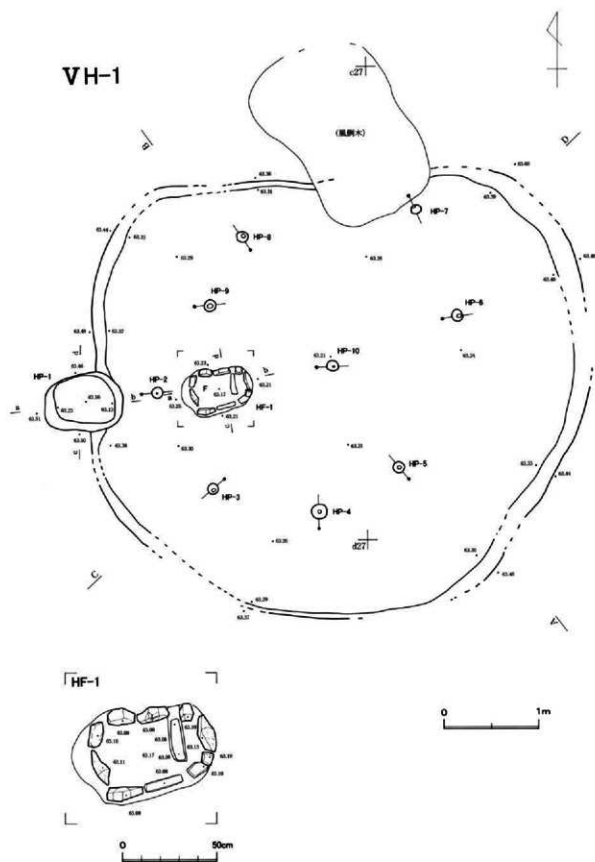
#### [土坑] VH-1HP-1

竪穴住居跡西側に張り出す、いわゆる先端ビットである。長軸84cm、深さは34cmでほぼ楕円形である。坑底はやや丸みを帯び、住居内側に傾斜する。

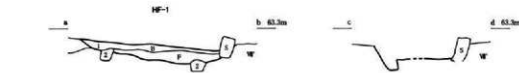
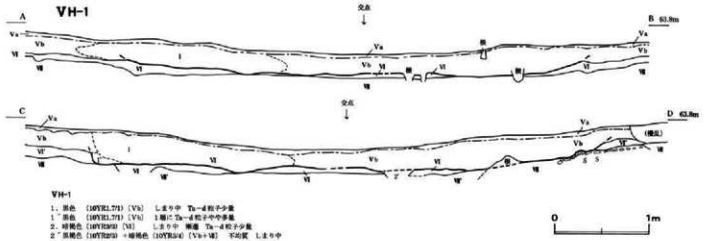
#### [柱穴] VH-1HP-2~10

HP-2~9は壁より0.5~1mほど内側にめぐり、HP-10は住居跡中心部に位置する。なおHP-2は土坑と石組炉の間に位置する。径約12cm・深さ10cm前後の浅いものが多いが、比較的大きく長さ30cmを超えるものが少数ある(HP-4・6)。HP-6はやや内傾、HP-7は外傾する。HP-2・

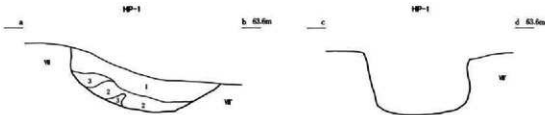




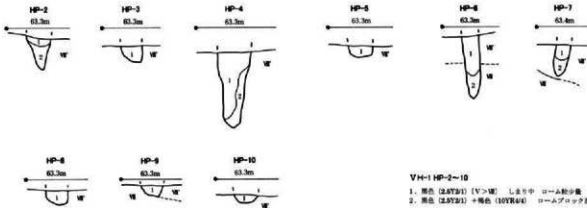
図IV-1 VH-1 (1)



- VH-1 HP-1**
- B. 黒褐色 (5YR3/1) 暗赤褐色土にじり 中不均質 しまり中弱  
 F. 暗赤褐色 (5YR3/2) 均質暗褐色 均質中弱  
 1. 黒褐色 (10YR3/2) しまり中 Ta-d粒少量  
 2. 黒褐色 (10YR3/2) しまり中 均質 硬質中弱明瞭



- VH-1 HP-1**
1. 黒色 (10YR2/1) (V>W) しまり中弱 細かいローム粒を均質に含む  
 2. 黒褐色 (10YR2/2) (V>W) しまり中弱 細かいローム粒の中多量  
 3. 黒褐色 (10YR2/2) (W) しまり中弱 ロームブロック



- VH-1 HP-2~10**
1. 黒色 (2.5Y2/1) (V>W) しまり中 ローム粒少量  
 2. 黒色 (2.5Y2/1) + 褐色 (10YR4/6) ロームブロック混入

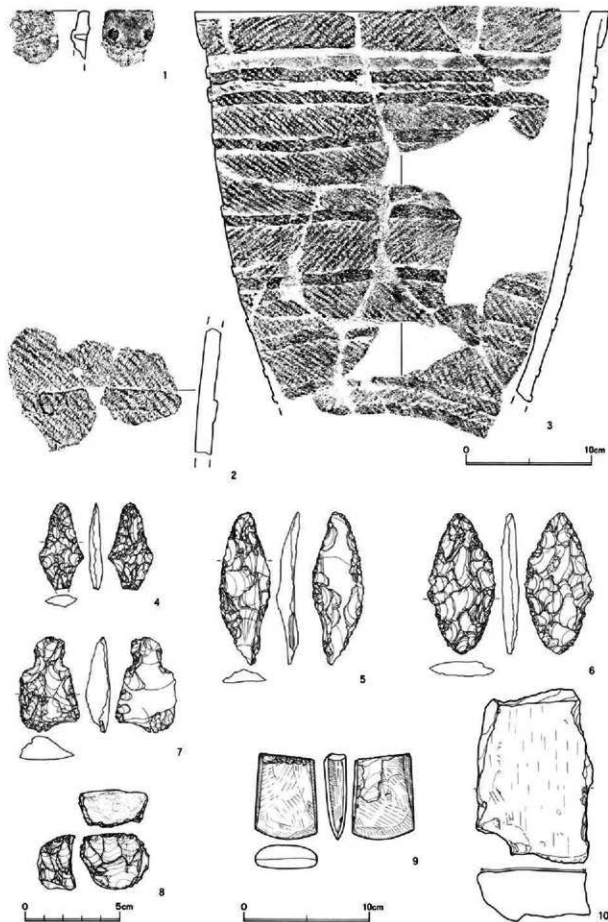
0 50cm

図Ⅳ-2 VH-1 (2)

VH-1



図IV-3 VH-1 (3)



図IV-4 VH-1出土の遺物

4・6・7は先端がとがる。

**遺物出土状況**：遺物は、炉や土坑に近い北西部から多く出土している。特に土器がまとまって出土地点がある。東半部は、石器等がわずかに出土した。

遺物点数は、合計 221 点である。上記の石組炉からのほか、床面からIV群 a 類土器 5 点、フレイク 1 点、礫 1 点が出土した。また覆土からはIII群 b 類土器 1 点、IV群 a 類土器 92 点、石槍 3 点、つまみ付きナイフ 1 点、石斧片 1 点、砥石 1 点、石核 1 点、Uフレイク 2 点、フレイク 51 点、礫 11 点が出土した。

**掲載遺物**：1はIII群 b 類北筒 II 式。凹線により口縁部肥厚帯を作出している。無文地に円形刺突が施されている。胎土に石英粒が多量含まれ、富良野盆地系土器（厚真町教育委員会 2010 ほか）とみられる。2・3はIV群 a 類余市式。3は竪穴北西部の覆土からまとまって出土したものが接合した。口縁部肥厚帯と細い貼付帯が圍繞する。貼付帯は口縁部下の 2 本の間隔が狭いが、他はおおむね等間隔に付されている。表面がやや磨減している。

4～6は石槍。4は右側面のかえしが明瞭である。5は両面調整が行き届いておらず、未成品かナイフとして利用した可能性がある。6はかえしが不明瞭で木葉形に近い。7はつまみ付きナイフ。下半部欠損後に再加工が行われている。8は石核とした。半割された直角礫に多方向からの剥離が行われている。9は石斧。全面でいよいよ研磨され、刃部が鋭い。側面は擦切り痕が残る。上半部を欠くが、折損後の基部に敲打・剥離痕があり、刃部側のみで再利用されたと考えられる。10は砥石。砂岩の板状礫の表面が研磨されている。

**時期**：竪穴住居跡の構造や出土した遺物から、縄文時代後期初頭である。

(阿部)

#### VH-2 [図IV-5～8、図版13・60・98・99]

**位置**：C地区 d18・19、e18・19区、標高64.4～64.7m **検出層位**：VII層 **平面形**：ほぼ楕円形  
**規模**：— × — / (5.02) × 4.63 / 0.18m **長軸方位**：N-10° E

**確認・調査**：V層掘り下げ中、礫が多数出土する範囲を確認した。また切り株隙間の清掃・掘り下げ中、V層から玉類が出土した。遺構を想定しトレンチを設定して掘り下げたが、この時点では落込み等は確認できなかった。遺物を残しながら周辺をVI層まで掘り下げたところ、石組炉の石とわずかな壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡と認定した。

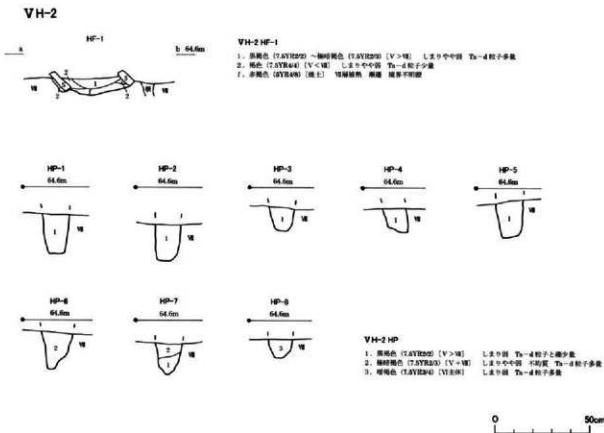
微高地緩斜面上に位置し、北側が高く南側に向かって緩やかに下る。「覆土」に相当するV層はT a - d テフラの粒子を少量含むものの黒色土が主体であり、周辺包含層との境界が不明瞭である。床面はVI層～VII層で、おおむね平坦である。壁の立ち上がりは、北側で切り株付近を除きわずかに確認できるが、南側は不明瞭である。

**付属遺構**：焼土 1 か所、柱穴 8 基を検出した。

#### 〔炉〕 VH-2HF-1

竪穴住居跡中央部からやや東寄りにある石組炉。長軸74cmで、角礫がおおむね隅丸方形に配置されていたと思われる。炉石は、北側的大型礫と南側の一部が残存しており、砂岩の大型板状礫を分割した角礫を立て並べたとみられる。炉の内側にあたる礫表面がわずかに赤色に変色しているものがある。一部角礫の抜き取り痕が残存する。炉内の土層は、上位に黒褐色土、下位に赤褐色の被熱層があるが、周囲との境界が不明瞭である。炉石を取り上げた後、抜き取り痕や埋設痕を確認した。遺物は、上位の黒褐色土からIV群 a 類土器片 2 点が出土した。またフローテーション作業を行い、IV群 a 類土器の小片 28 点とフレイク 3 点、炭化物少量を回収した (IV章 9)。





図Ⅳ-6 VH-2 (2)

〔柱穴〕 VH-2HP-1～8

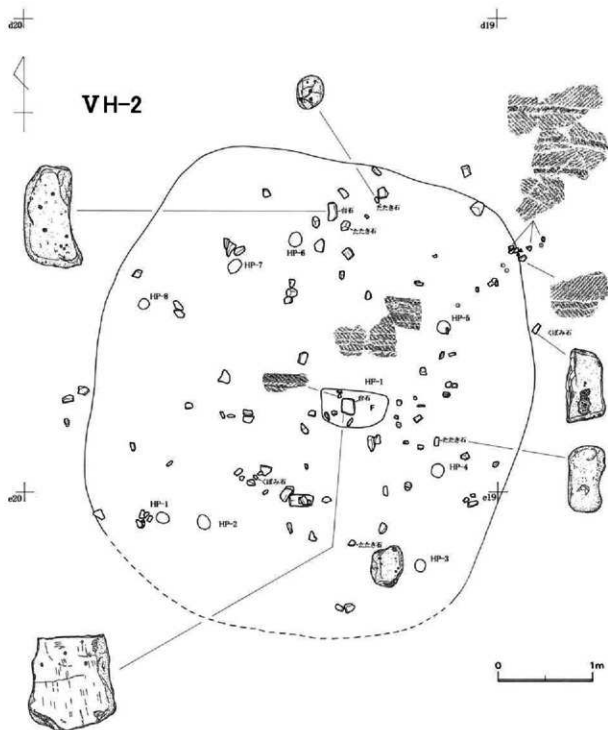
HP-1～8は、壁より0.5～1mほど内側にめぐる。径14cm前後、深さ15m前後のものが多い。先端は平坦もしくは丸みを帯びるものが多い。HP-4・5は内傾する。覆土は黒褐色を呈するV層主体の土壌が多いが、北側のHP-6・7・8はⅧ層が多くしまりが弱い。

**遺物出土状況**：ほぼ竪穴全体から出土しているが、東側では土器・礫が南北方向に帯状に分布するところがある。石組炉の周囲では、炉石に類する砂岩の大型板状礫片が複数出土している。

遺物点数の合計は193点である。上記の石組炉のほか、床面から礫1点が出土した。「覆土」に相当するV層中からⅣ群a類土器23点、両面調整石器1点、たたき石4点、くぼみ石2点、台石2点、Rフレイク3点、フレイク17点、礫102点が出土した。

**掲載遺物**：1～4はⅣ群a類土器。1は焼土上面から出土した。角形口唇で、比較的薄い口縁部肥厚帯上に縄線が施文されている。2・3は同一個体。胴部は直線的で、口縁部がわずかに外反する。角形口唇で、胴上部に間隔の狭い貼付帯、胴下部に間隔のあいた貼付帯が施されている。4の貼付帯はおおむね等間隔に施されているが、やや上下にずれている部分がある。

5・6は黒曜石製の剥片石器。5は両面調整石器。6は石核。小型の垂角礫から多方向の剥離が行われている。7～12は砂岩製の礫石器。7～9はたたき石。7は小型の楕円礫の端部に小さな敲打痕がある。9は端部に敲打痕、側面にくぼみがみられる。10はくぼみ石。主面下部が深くくぼんでいる。側面に連続する打ち欠きがある。11・12は台石。長さは約20cm。11は垂角礫の表面に小さな敲打痕が少数みられる。12は大型板状礫の表面が平滑になっている。

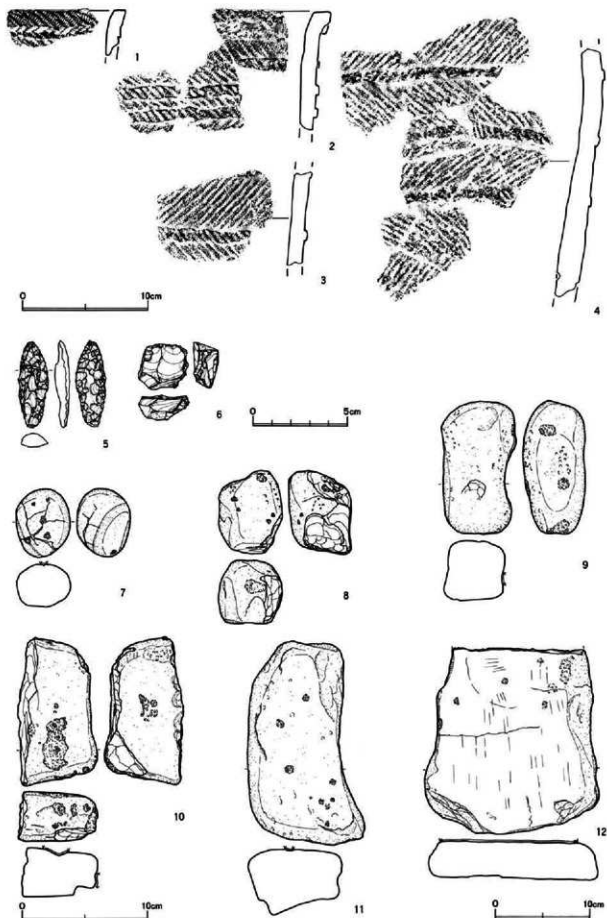


図IV-7 VH-2 (3)

時期：遺構の構造や出土遺物から、縄文時代後期初頭とみられる。

(阿部)





図Ⅳ-8 VH-2出土の遺物

### VH-3 (図IV-9~12、図版13・23・61・62・99)

位置：A地区 G71・72、H71・72区、標高62.6~63.4m 検出層位：Vb層 平面形：ほぼ楕円形  
規模：7.62×(7.14)／7.20×(6.97)／0.35m 長軸方位：N-75° E

**確認・調査**：A地区西部の段丘崖付近で検出した。IV層を重機で除去したところ、V層上面が浅くくぼむ範囲を確認した。土層確認用のベルトおよびトレンチを設定し掘り下げた。断面観察を行ったところ、上位の明るい色調の土壌から遺物が出土し、壁の立ち上がりが確認できなかったものの段を有することから、遺構を想定してくぼみの内側を掘り下げた。その結果、平坦な床面と段構造および焼土を検出し、堅穴住居跡と認定した。

覆土は上位(1層)がT a-dテフラの粒子を多量に含む黒褐色土で、遺物を多く含むことから当初は捨て場などを想定し「VM層」と称したが、整理作業の段階で覆土にまとめた。堅穴住居廃絶後に窪地が利用されたと考えられる。中位(2層)はVb層の黒色土を主体とし、少数の遺物を含む。下位(3層)は床面のVI層の土壌と混じる。床面はT a-dの細かい粒子を多く含むVI層で、段丘崖への傾斜に沿って北から南へ緩やかに下っている。東西方向は平坦だが緩やかに湾曲する。南側の一部は崖に切られており、縄文時代当時は崖線が現在より河川側にあったと考えられる。また床面の北東部は、約3×2.5mほどのコの字状の段を有し、壁側が一段高くテラス状になっている。壁の立ち上がりはわずかに観察される。

**付属遺構**：焼土2カ所、土坑1基、柱穴11基を検出した。

#### 〔伊〕VH-3HF-1・2

堅穴住居跡中央から北東寄り、コの字状の段の内側で検出した。

HF-1は覆土中〜下位で検出した径25cmの小型の焼土。被熱層は覆土の黒色土で、明赤褐色を呈する。

HF-2は床面で検出した径約80cmの炉。被熱層はVI層にあたり、極暗褐色を呈し境界が不明瞭である。

北部のHF-1に近い部分は、床面にIV層が入り込み攪乱を受けている。

#### 〔土坑〕VH-3HP-1

堅穴住居跡北部、炉の北側に位置し、テラス上から段をまたいで掘り込まれている。長径約40cmの楕円形で、深さは14cmと浅い。坑底は平坦である。覆土はV層の黒色土を主体とする。

#### 〔柱穴〕VH-3HP-2~12

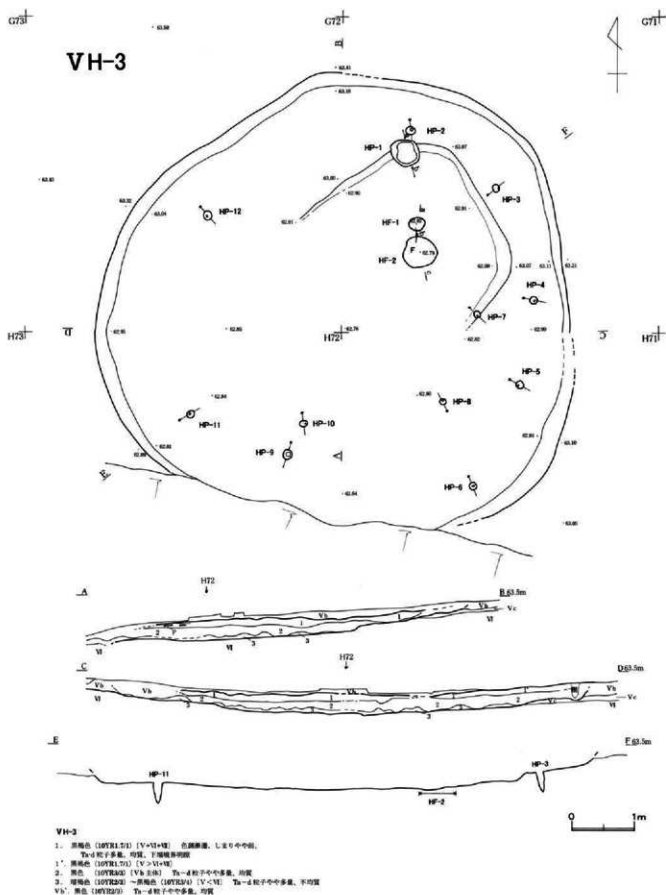
HP-2~6・9・11・12は、壁より0.5~1mほど内側にめぐる。HP-2は土坑HP-1の北側に隣接し、径13cm・深さ64cmと突出して深く、先端がとがる。HP-3もやや深いのが、そのほかは径10cm前後、深さ20cm前後で、先端は丸みを帯びるものが多い。覆土は比較的しまりがある。

上記の柱穴群の内側に、HP-7・8・10の補助的な小柱穴が検出された。

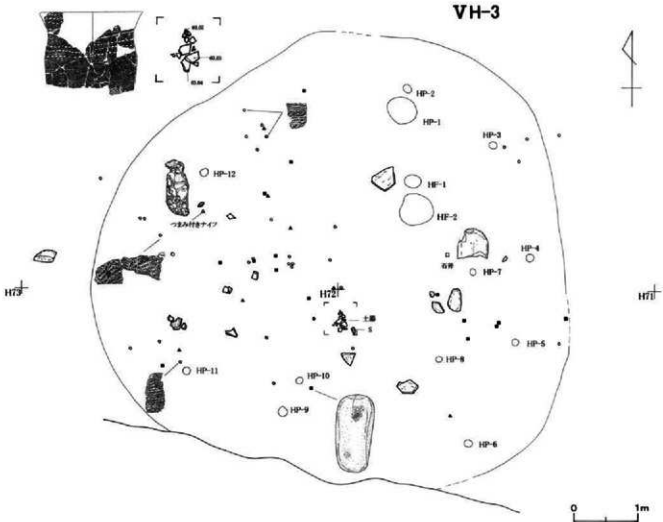
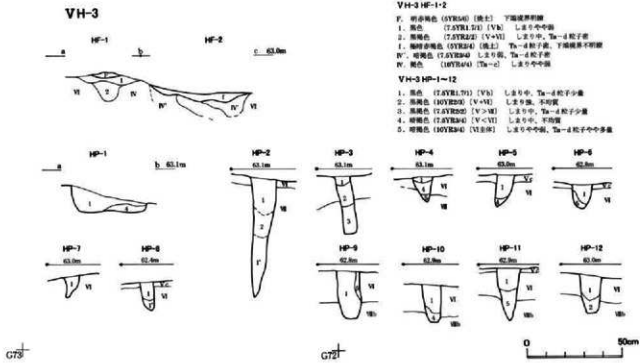
**遺物出土状況**：覆土中位の6点を除き、遺物のほぼすべてが覆土上位から出土した。おおむね堅穴全域から出土している。大型の板状礫や礫石器が目立つ。土器は西半からの出土が多く、中央南部にまとまって出土したものがある。

遺物点数は合計254点である。Ⅲ群b類土器60点、石鎌3点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー3点、石斧片3点、たたき石1点、砥石片42点、台石2点、Uフレイク1点、フレイク60点、礫75点、石製品1点がある。

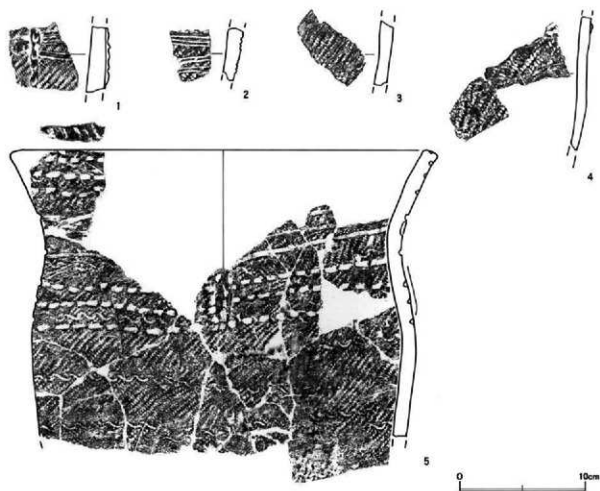
**掲載遺物**：1~5はⅢ群b類土器。1・2は天神山式(萩ヶ岡3式)。半截管状工具による沈線が横走り、1には縦位の隆帯上に押引文が連続する。4にも隆帯上の押引文が一部観察される。5は柏木川式。胴部はふくらみ上部でくびれ、口縁は外反する。角形口唇で口唇上に刻みが施されている。地文は結節縄文が口縁〜胴部に施文され、口縁部および胴上半部に角棒状工具による刺突列が3列ずつ圍繞する。間の頸部にも角棒状工具による沈線が施文されている。刺突の施された縦位の隆帯の一部が残存する。



図IV-9 VH-3 (1)



図IV-10 VH-3 (2)



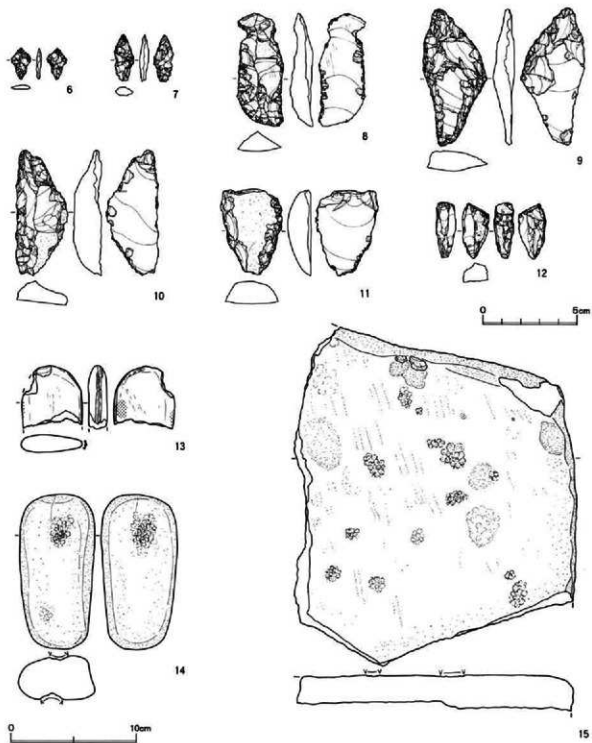
図Ⅳ-11 VH-3出土の遺物(1)

6～12は黒曜石製の剥片石器。6・7は石鏃。6は茎部がやや明瞭で基部が尖る。7は基部と左側縁を欠く。8はつまみ付きナイフ。左右非対称で背面の一部に原石面が残る。やや幅広のつまみ部を作出している。9～11はスクレイパー。9は石槍に近い形状をもち、背面周縁と腹面上部に細かい調整が施されている。10は主に左側縁を刃部とする。背面の一部に原石面が残る。先端部側縁に細かい抉りがあり、石錐として機能した可能性がある。11は背面に円礫の原石面を残し、側縁に急角度の剥離が連続する。12はピエス・エスキーユとした。長軸両端に微細な剥離痕があり、縦方向の剥離が側面に多数みられる。13は緑泥石岩の石製品。軟質で滑石に近い扁平楕円礫の一部である。側面に擦痕が残る。一部披熟している。

14・15は砂岩製の礫石器。14はくぼみ石。扁平な長楕円礫の表裏両面に深くくぼみがみられる。15は台石。大型板状礫の平滑な表面に敲打痕とみられるくぼみが複数観察される。

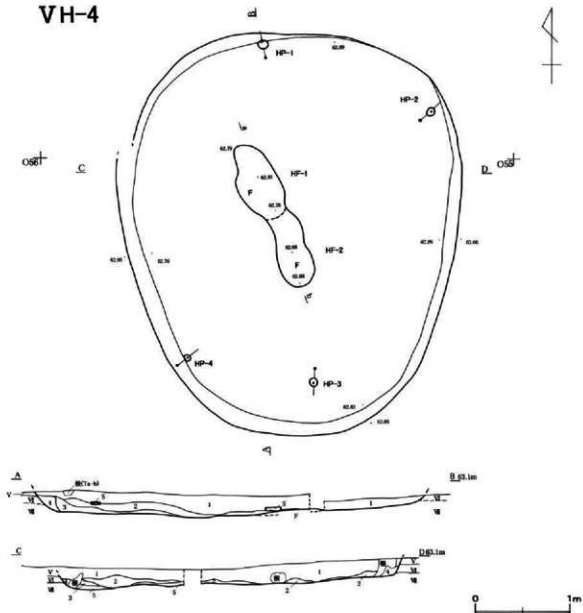
**時期：**覆土上位に縄文時代中期後半の遺物群があり、それ以前の時期となる。縄文時代中期前半～後半の時期と考えられる。

(阿部)



図IV-12 VH-3出土の遺物(2)

# VH-4



## VH-4

1. 褐色 (10YR5/3) [Vb-主部] しまり中、Ta-d 粒子少量
2. 褐色~暗褐色 (7.5YR5/2-3a) [V+V1-C区] しまり中下部、Ta-d 粒子多量、不均質
3. 褐色 (7.5YR5/3) [Vb-主部] しまり中下部、Ta-d 粒子少量
4. 暗褐色 (7.5YR4/3) [V1+V2] しまり中下部、Ta-d 粒子やや多量
5. 褐色 (7.5YR4/3) [Vb] しまり中

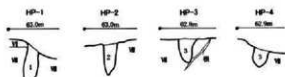


## VH-4 HP-1-2

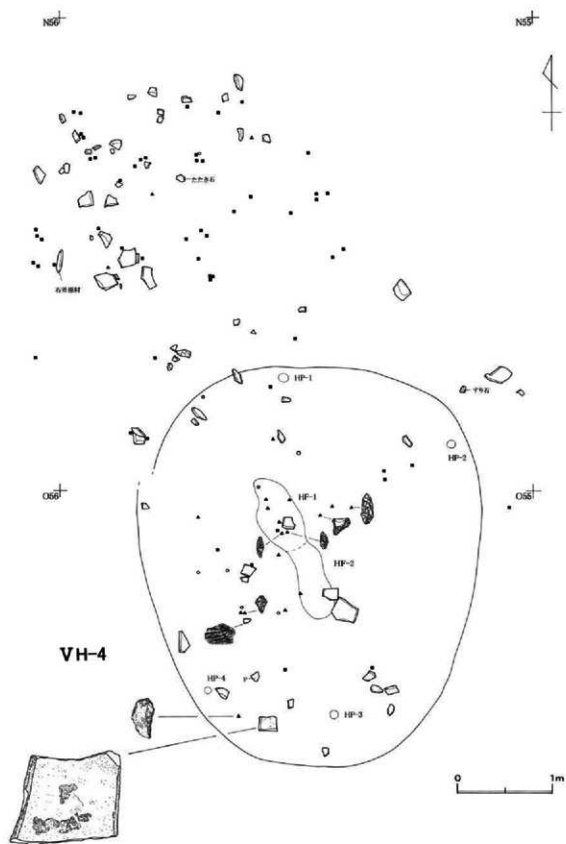
1. 暗赤褐色 (5YR5/4) [褐色土層に埋没] 径 2~10mm のパリス食む、境界やや不明瞭
2. 赤褐色 (5YR4/3) [植土] 径 5~10mm のパリス食む、境界不明瞭

## VH-4 HP-1~4

1. 褐色 (7.5YR5/3) [Vb] しまり中、ローム少量含む
2. 暗褐色 (10YR2/2) [V+V2] しまり中下部、不均質
3. 暗褐色 (10YR2/3) [V+V1] しまり中下部、ローム不均質に含む

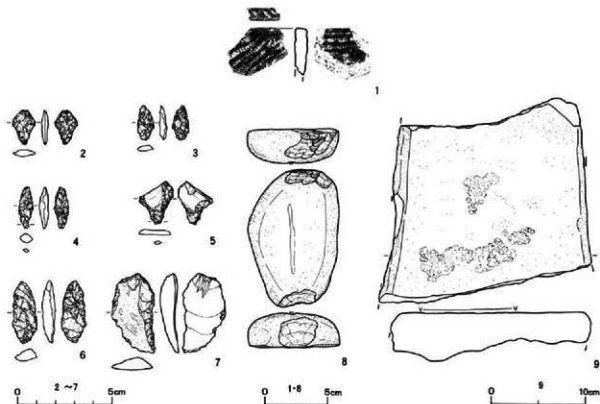


図IV-13 VH-4 (1)



図N-14 VH-4 (2)





図IV-15 VH-4出土の遺物

VH-4 [図IV-13~15、図版13・62・63・100]

位置：B地区 N・O55区、標高約63.0m 検出層位：V層 平面形：ほぼ楕円形

規模：4.30×3.65/4.06×3.38/0.24m 長軸方位：N-1° W

確認・調査：B地区の中央南西部の平坦地に位置する。V層掘り下げ中、礫や石器が多く出土する発掘区（N55区）を検出した。VI層上面で弧状に落ち込む黒色土を検出し、発掘区境の断面（C-Dライン）でもわずかにV層の落ち込みを確認した。隣接する発掘区にベルト・トレンチを設定し掘り下げたところ、わずかな壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡と認定した。

覆土はT a - dテフラの粒子を少量含むもののVb層の黒色土が主体であり、周辺包含層との境界がやや不明瞭である。覆土上位～住居跡周辺にかけて連続するように礫や石器が多く出土し、関連があるものとして住居跡周辺遺物も加えて図示した（図IV-14）。住居跡絶後の窪地を利用したものと考えられる。床面はVI層を掘り込みVII層上位にあたり、おおむね平坦であるが北側がやや高い。壁の立ち上がりはVI層でわずかに観察される。

付属遺構：焼土2か所、柱穴4基を検出した。

〔炉〕VH-4HF-1・2

竪穴住居跡中央で南北に連続して検出した。全長約1.6mとなる。若干高低差があり、北側のHF-1が高く南側のHF-2が低い。被熱層はHF-1が10cmと厚くHF-2が3cmほどであるが、HF-2の下位が赤褐色を呈し強く被熱しているとみられる。礫1点が出土した。

**〔柱穴〕 VH-4HP-1~4**

HP-1・2・4は壁際、HP-3はやや内側に位置する。径8cm前後、深さ15cm前後の小規模なものである。覆土のしまりは弱い。

**遺物出土状況：**焼土周辺の覆土下位からフレイクや板状礫などがややまとまって出土し、これらが住居跡に直接伴う遺物と考えられる。また覆土上位へ住居跡周辺にかけて礫や石器が多く出土した（上記）。

遺物点数は、合計119点である。床面からたたき石1点、礫2点が出土した。覆土出土の遺物はⅢ群b類土器2点、Ⅳ群a類土器22点、石鏃2点、石錘2点、スクレイパー1点、両面調整石器1点、砥石1点、台石片9点、Rフレイク4点、フレイク34点、礫37点がある。フレイクの大部分は炉の周辺から出土したものである。

**掲載遺物：**1はⅣ群a類タコブ式。角形口唇で、内外面および口唇上にも縄文が施文されている。

2~7は黒曜石製の剥片石器でいずれも覆土出土である。2・3は石鏃。2は小型でひし形に近いもの。3はかえしの位置が左右非対称である。4・5は石錘。4は石鏃に近い棒状のもの。5は基部が平坦で、機能部に細かい調整がみられる。6は両面調整石器。7はスクレイパー。背面の大部分に原石面が残りに、主に右側縁に調整が行われている。

8・9は砂岩製の礫石器。8は床面直上から出土したたたき石。やや大型の扁平楕円礫の長軸両端部に敲打痕や打ち欠きがみられる。9は台石。大型板状礫の平滑な表面に叩打痕が観察される。

**時期：**覆土上位にⅣ群a類土器を伴う遺物群があり、縄文時代後期初期以前である。検出層位や形状などから、縄文時代早期後半と思われる。

(阿部)

**VH-5**〔図IV-16~18、図版13・23・64・65・100〕

**位置：**A地区 C68・69、D68・69区、標高約64.0m **検出層位：**Vb層 **平面形：**ほぼ楕円形

**規模：**7.85×7.13/7.21×6.60/0.28m **長軸方位：**N-9°W

**確認・調査：**A地区北西部のV層包含層調査中、黒色土が浅く落ち込む範囲を確認した。土層確認用のベルトおよびトレンチを設定し掘り下げた。断面観察を行ったところ、VI層の欠落とわずかな壁の立ち上がりを確認し、竅穴住居跡と認定した。隅丸方形から楕円形に近い形状である。

覆土はT a - d テフラの粒子をやや多量に含み、上位(1層)がVb層の黒色土主体であり、下位(2層)はVI層を含む。上位は周辺包含層との境界が不明瞭である。床面はほぼ平坦で、大部分がVb層上位に達して赤褐色を呈し、南側はVI層中である。壁の立ち上がりは、北側では不明瞭で、東~南側で確認できる。

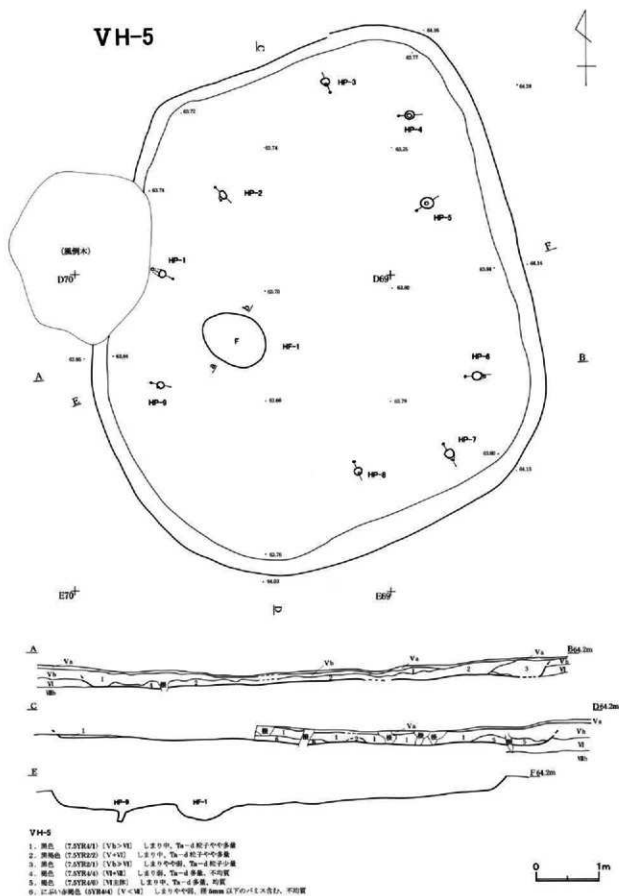
**付属遺構：**焼土1カ所、柱穴9基を検出した。

**〔炉〕 VH-5HF-1**

竅穴住居跡中央西部で検出した。長軸径約1m、深さ約20cmの椀状の土坑があり、覆土上位から砂岩の大型板状礫を分割した角礫が出土した。またその細片が連なって出土した。明瞭な焼土は確認できなかったが、石組炉であったと考えられる。覆土から石槍1点、Rフレイク1点、フレイク1点、礫16点が出土した。

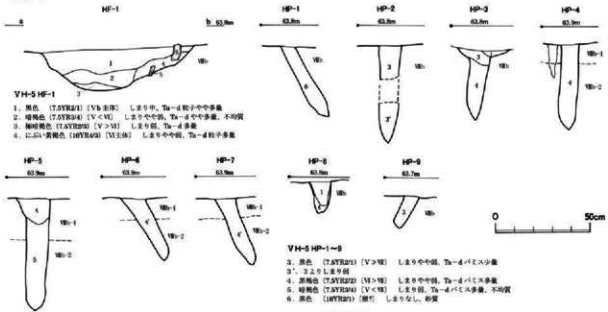
**〔柱穴〕 VH-5HP-1~9**

壁より0.5~1mほど内側にめぐる。HP-1~7は径10cm強、深さ40~60cmで比較的太く深い柱穴で、HP-8・9はやや細く浅い。先端はとがるものが多く、また大きく傾く(20~30°)柱穴が目立つ。HP-1・6・7は内傾だが、HP-3・9は外傾し、HP-2はまた異なる方向へ傾いている。覆土は

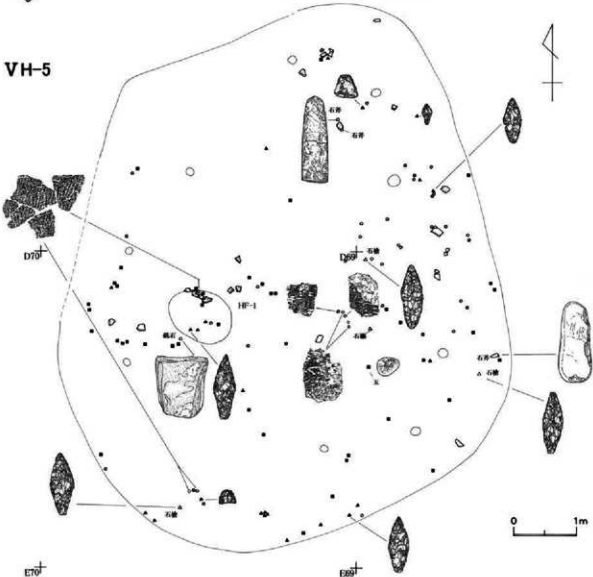


図M-16 VH-5 (1)

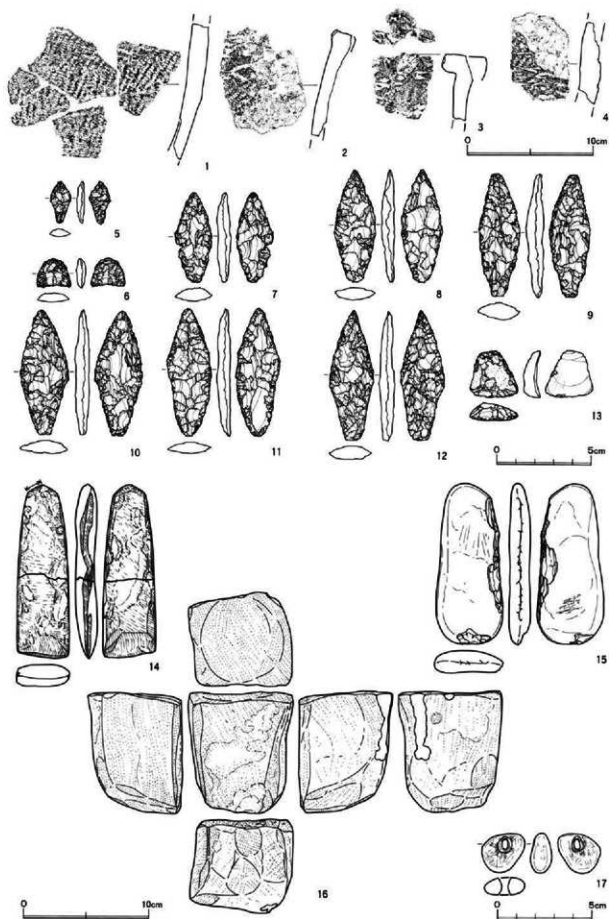
VH-5



VH-5



図IV-17 VH-5 (2)



図IV-18 VH-5出土の遺物

T a - dバミスを多量に含み、しまりの弱いものが多い。

**遺物出土状況：**覆土下位から床面にかけて住居内全域に散在する。特に東壁寄りやHF-1周辺に多い。

遺物点数の合計は153点である。床面上から石器等4点が出土し、石鏃1点、石槍1点、Rフレイク1点、フレイク1点がある。覆土からは、土器45点、石器等27点、礫56点、石製品1点が出土し、内訳はⅢ群b類土器43点、Ⅳ群a類土器2点、石鏃2点、石槍4点、つまみ付きナイフ1点、石斧片3点、砥石1点、Rフレイク2点、フレイク14点、垂飾(玉)1点である。

**掲載遺物：**1～4はⅢ群b類土器。1は地文が結節縄文である。2・3・4は同一個体と思われる。押引文が連続する。3は口縁内側にも突起が付されている。

5～13は黒曜石製の剥片石器。5は小型の有茎石鏃、6は平基の三角鏃で先端部を欠損する。7～12は石槍。かえしが不明瞭で基部がやや丸みを帯びる。ひし形～木葉形で、形状が類似する。13はエンドスクレイパー。腹面が内湾し、背面下端部に急角度の刃部を作り出している。右側縁にも細かい調整がみられる。背面に原石面が残る。

14・15は緑色片岩製の石斧。14は全面研磨され、刃部が鋭い。基部端は斜方向への研磨が行われ、山形状の頂部を作出している。分割していたものが接合した。15は表面が平滑な撥状の扁平礫を素材とし下端部や側面を加工している。16は砂岩製の多面砥石。直方体に近い形状で、6面ともていねいに研磨されている。上面は凹面で、下面はやや丸みをもつ。17は蛇紋岩製の垂飾(玉)。表面は平滑で、中央上部にやや縦長の穿孔が両面から施されている。

**時期：**遺構の形状や出土遺物から、縄文時代中期後半～後期初頭である。

(阿部)

#### VH-6 [図IV-19～22、図版13・66・67・101・102]

**位置：**A地区 F66・67、G66・67区、標高約64.0m **検出層位：**Vb層 **平面形：**ほぼ楕円形  
**規模：**6.95×5.65/6.38×5.08/0.34m **長軸方位：**N-41° E

**確認・調査：**Ⅲ層調査中に、ⅢH-8付近でⅣ層が落ち込む状況を確認していた。Ⅳ層を除去し、V層上面がくぼむ範囲を再確認した。土層確認用のベルトおよびトレンチを設定し掘り下げた。断面観察を行ったところ、周辺と色調の異なる土層と床面および壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡と認定した。卵形に近い楕円形である。

覆土はT a - dテフラの粒子をやや多量に含むVb層の黒色土が主体であり、周辺包層との境界がやや不明瞭である。床面はⅥ層中で、ほぼ平坦である。壁の立ち上がりは比較的に明瞭に観察される。床面で炉・柱穴を検出し、さらに覆土から掘り込まれたとみられる土坑(VP-3)を検出した。

また未検出の柱穴が想定されたため、完掘後さらに床下をⅣb層まで掘り進めて柱穴を追加検出した(HP-6～11)。

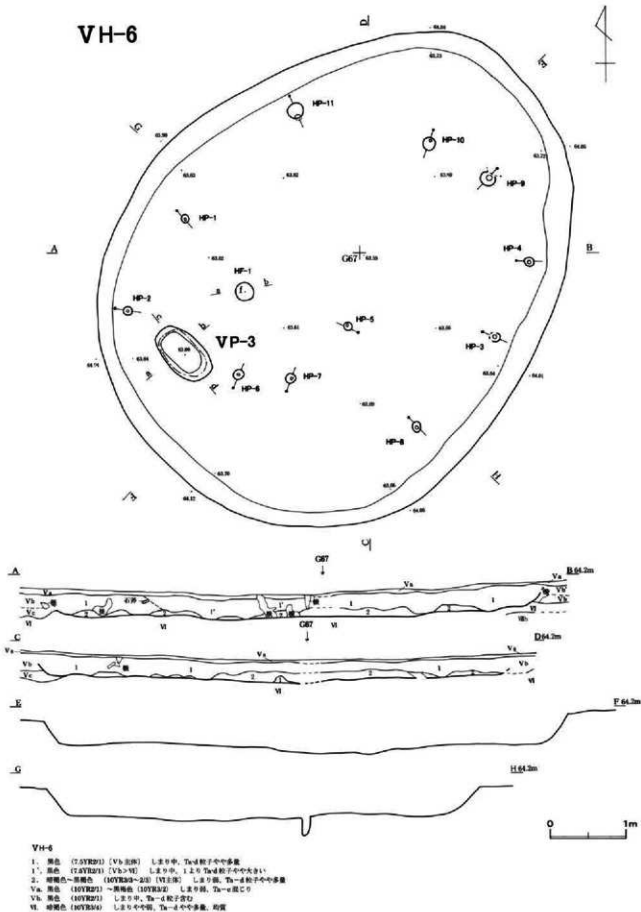
**付属遺構：**焼土1か所、柱穴11基を検出した。また関連する土坑1基がある。

#### [炉] VH-6 HF-1

竪穴住居跡中央から南西寄りの位置で検出した。径約20cmの小型の焼土。被熱層は床面上の黒色土で、4cmと薄い。赤褐色を呈し強く被熱しているとみられる。

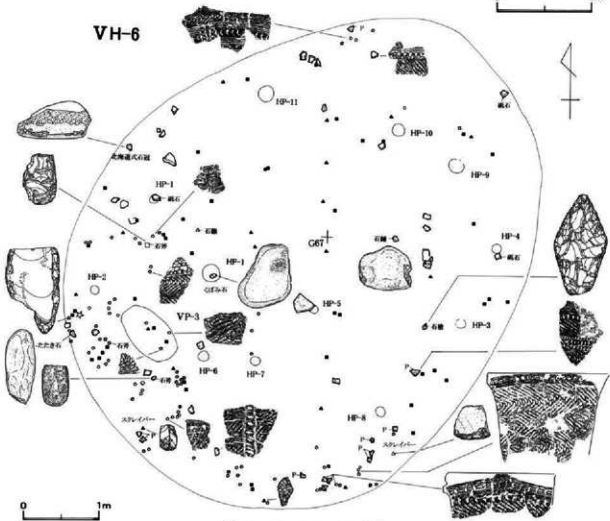
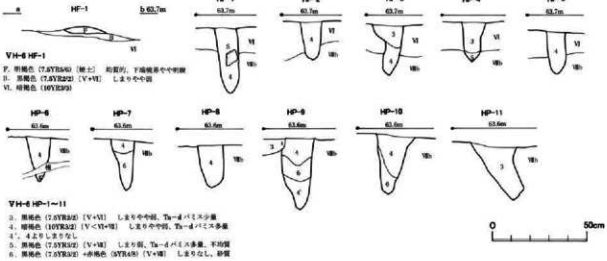
#### [柱穴] VH-6 HP-1～11

HP-1～4・8～11は、壁より0.5～1mほど内側にめぐる。床面で確認したHP-1～4は、径10cm前後で深さは20～35cm、先端がとがる。床下で確認したHP-8～11はこれより太く深い。HP-11は外傾する。一方HP-5～7は、住居中央南部に位置する小型の柱穴である。



図IV-19 VH-6 (1)

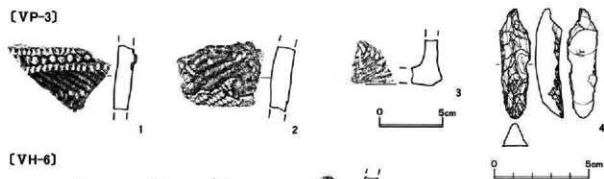
VH-6



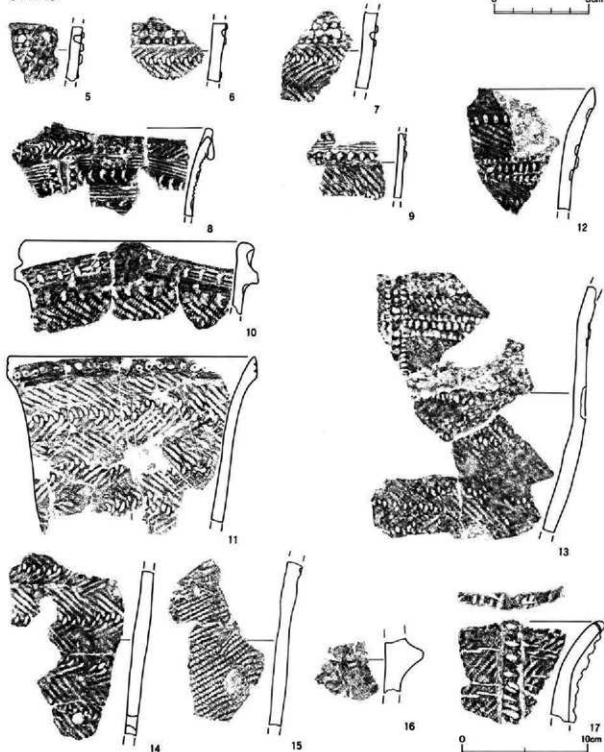
図IV-20 VH-6 (2)



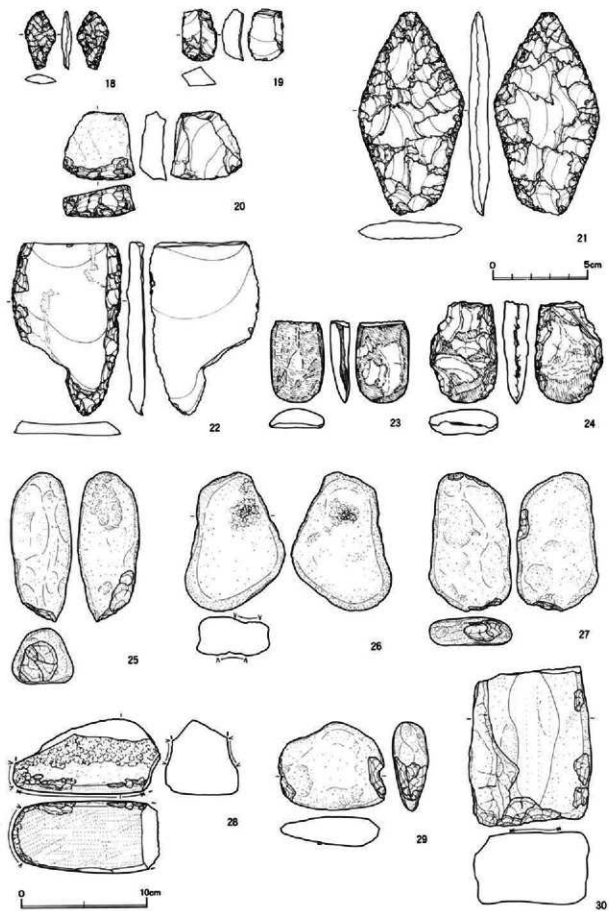
【VP-3】



【VH-6】



図IV-21 VH-6出土の遺物(1)



図IV-22 VH-6出土の遺物(2)

覆土はT a - d バミスを多量に含み、しまりが弱いものが多い。遺物は、HP-1の覆土から砥石片1点が出土した。

#### 【土坑】VP-3

位置：G67区 規模：0.85×0.50/0.61×0.33/0.59m 平面形：楕円形

確認・調査：堅穴住居跡南西部に位置する。土坑の覆土の状況から、堅穴住居の覆土中から掘り込まれたと考えられる。坑底は北西側が高くやや傾斜する。壁はオーバーハングする。覆土は、上位（1層）がT a - d を多量に含み、中位（2層）はV層黒色土を主体とし、下位（3層）はT a - d バミス主体である。遺物は主に覆土2層から出土しており、Ⅲ群a類土器3点、スクレイパー1点、礫2点がある。

遺物出土状況：遺物は住居周囲の壁寄りの覆土から多く出土している。特に西部～南部の周縁部で多数の土器が出土している。

遺物点数は、合計426点である。上記の土坑・柱穴からのほか、覆土から土器107点、石器等177点、礫134点が出土した。土器・石器等の内訳は、Ⅲ群a類土器71点、Ⅲ群b類土器32点、Ⅳ群a類土器4点、石鏃2点、石槍1点、スクレイパー3点、石斧片8点、たたき石2点、北海道式石冠1点、石鐘1点、砥石3点、Rフレイク5点、フレイク151点がある。

掲載遺物：1～4はVP-3から出土した。1～3はⅢ群a類土器。結束羽状縄文を地文とする。1は厚真1式（赤石真31999）で、隆帯上およびその両側に押引文が連続する。4は頁岩製のスクレイパーとしたもの。稜の高い背面に細かい調整が全面に行われている。基部にノッチ状の加工がみられ、つまみ部を作出した可能性がある。

5～30はVH-6の覆土から出土した。5～16はⅢ群a類土器で、5～14は厚真1式。5～7は同一個体で、結束羽状縄文を地文とし、2条の隆帯上に押引文、隆帯間に円形刺突列が施される。8・9は同一個体。条痕文間に弧状の縄文押捺が連続する、独特な特徴のある土器。10は口縁部肥厚帯上に条痕文が施文され縄端部の押捺を連続させている。11は平縁で断面三角形の口唇形状をなし、口縁部肥厚帯上に円形刺突列が施されている。12・13（・1）は同一個体。口縁部は緩やかに外反する。隆帯上およびその両側に押引文が連続する。14は地文に結束羽状縄文が施文されている。16は突起の一部。17はⅢ群b類柏木川式。緩かに外反する口縁部。縦位の隆帯上に刻みが連続する。

18～21は黒曜石製の剥片石器。18は石鏃。19はスクレイパーとしたが、ピエス・エスキューに類する。20はエンドスクレイパー。腹面下端部が内湾し、原石面の残る背面の下端部に細かい調整が施されている。21は長さ10cmを超える石槍。薄手幅広く五角形に近い形状である。22は頁岩製のスクレイパー。両側縁および下端の突出部に刃部調整が行われている。23・24は緑色片岩の石斧。23は片刃丸刃、24は両刃。25～30は砂岩製の礫石器。25・27はたたき石。26はくぼみ石。扁平円礫を素材とする。28は北海道式石冠。上半部を欠く。側面中央に溝を巡らせ、下面はていどいに平坦に擦り込まれている。29は石鐘。長軸両端を打ち欠いている。30は砥石。角礫の表面が平滑になっている。

重複・時期：VP-3が重複し、VH-6より新しい。

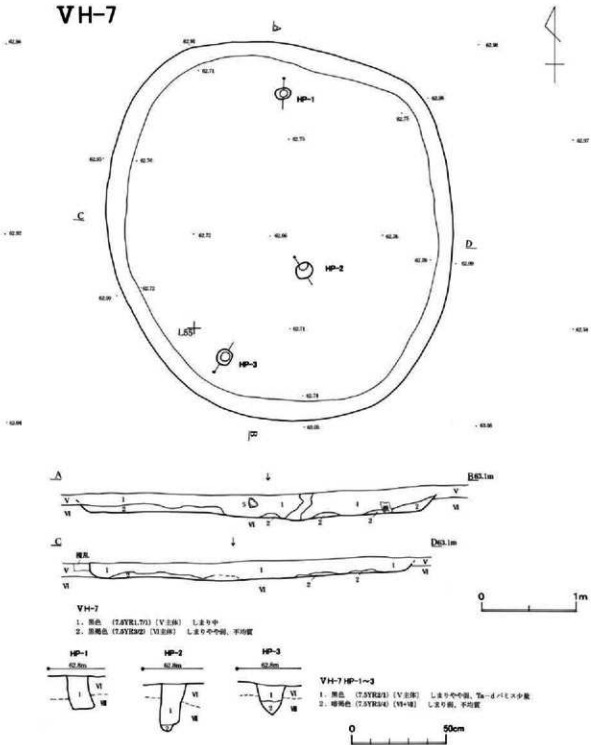
時期は、検出層位や出土遺物から、縄文時代中期前半の厚真1式期である。

(阿部)

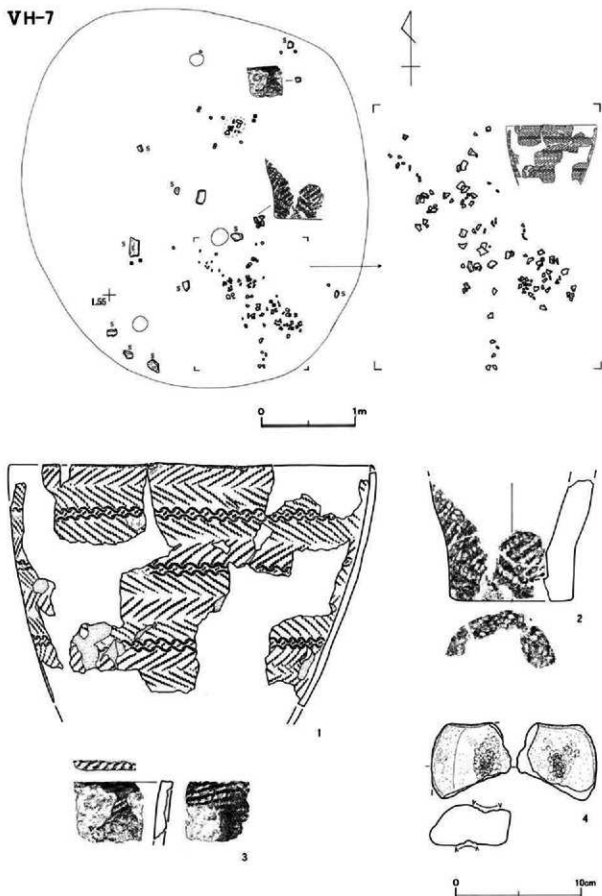
#### VH-7 [図IV-23・24、図版68・102]

位置：B地区 K54・55、L54・55区、標高63.0m前後 検出層位：VI層 平面形：ほぼ楕円形  
規模：4.02×3.68/3.68×3.30/0.27m 長軸方位：N-5° W

確認・調査：B地区北部の平坦地で検出した。V層調査中、上面がわずかにくぼむ範囲を確認し、土器が



図IV-23 VH-7 (1)



図N-24 VH-7 (2)・VH-7出土の遺物

多数まとまって出土した。遺構を想定し、土層確認用のベルトおよびトレンチを設定し掘り下げた。断面観察を行ったところ、床面およびわずかな壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡と認定した。円形に近い楕円形である。

覆土は大部分がVb層の黒色土が主体であり、周辺包含層との境界が不明瞭である。床面直上の2層はVI層の土壌を含むとみられる。床面はVI層中で、中央に向かってわずかに下っている。壁の立ち上がりは南側でやや明瞭に確認できるが、ほとんどは不明瞭である。

**付風遺構**：柱穴3基のみ検出できた。

〔柱穴〕VH-7HP-1~3

HP-1・3は壁際、HP-2は住居跡中央付近に位置する。径14cmほど、深さ20cm前後で、やや不整形である。覆土はV層主体でしまりがやや弱い。

**遺物出土状況**：遺物は北部の一部と南部で多く出土している。特に南東部では、覆土から床面直上にかけてI群b-4類の同一個体の土器小片がまとまって出土した。

遺物点数は、合計171点である。床面直上からI群b-4類土器118点が出土した。また覆土から同類土器22点、IV群a類土器12点、たき石1点、礫18点が出土した。

**掲載遺物**：1は東側路IV式。口径29cmを測る。器壁は5mm程で薄い。胴部は口縁に向かってゆるやかに広がり、口縁は直立する。平縁で口唇はやや尖る。結節羽状縄文がていねいに施されている。2・3は覆土上位から出土したIV群a類。2は底面にも縄文がみられる。3はタブコブ式。内外両面および口唇上に縄文が施文されている。

4は砂岩のくぼみ石片。表裏両面がくぼむ。

**時期**：検出層位や床面直上の遺物から、縄文時代早期後半とみられる。

(阿部)

#### VH-8 [図IV-25、図版68]

**位置**：B地区 Q51・52、R51区、標高63.2~63.4m **検出層位**：VI層 **平面形**：ほぼ楕円形

**規模**：3.80×3.26/3.57×3.08/0.11m **長軸方位**：N-37° W

**確認・調査**：B地区南部、段丘崖に近い微高地のふもとで検出した。V層掘り下げ中、遺物がやや多く出土する発掘区があり(Q51区)、VI層上面で上面精査を行った。若干色調の異なる土壌を検出し、土層確認用のベルトを残して掘り下げた。断面観察を行ったところ、平坦面とわずかな壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡と認定した。卵形に近い楕円形である。

覆土は上位にVb層の黒色土が残存し、下位はVI層混じりの暗褐色土である。床面はVI層~VII層で、ほぼ平坦である。壁の立ち上がりは、南側の微高地側では明瞭に確認でき、北側は不明瞭である。

**付風遺構**：柱穴2基のみ検出できた。

〔柱穴〕VH-8HP-1・2

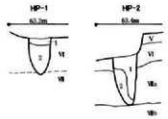
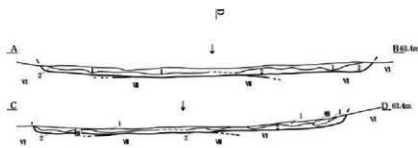
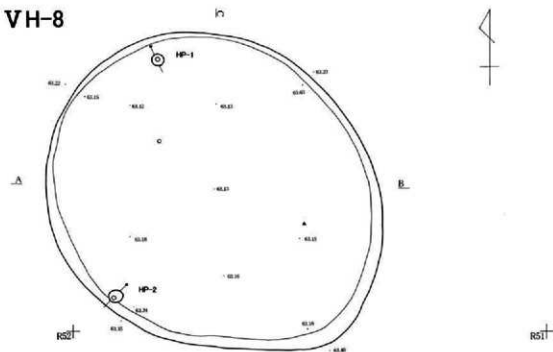
壁際に位置する。径12cm、深さ20cm・27cmで直立し、先端はとがる。

**遺物出土状況**：覆土から、IV群a類器3点、石磯1点、合計4点が出土した。

**時期**：検出状況がVH-7に類することから、縄文時代早期後半と思われる。

(阿部)

# VH-8



- VH-8**
1. 基層位 (147322) (V>VI) L.中中, 均質
  2. 母層位 (733324) (VI+VII) L.中中, 中中不均質
- VH-8 HP-1~2**
1. 基層位 (147321) (V>VI) L.中中
  2. 母層位 (147323) (V<VI) L.中中中中, 中中不均質



図IV-25 VH-8

## VH-9 [図IV-26・27、図版13・23・69・102]

位置：B地区 L55・56、M55・56区、標高63.0m前後 検出層位：V層 平面形：ほぼ楕円形  
 規模：7.74×6.95/—×—/m 長軸方位：N-80°W

確認・調査：B地区中央北東部で検出した。L56区・M56区のV層を掘り下げたところ、遺物がややまとまって出土し、さらに石組炉を検出した。屋外炉を想定して調査を進めたが、周辺で焼土や土坑、柱穴群を検出し、柱穴の配列がみられることから竪穴住居跡と認定した。土坑や柱穴の配置から、長軸推定約7.7mの楕円形の範囲とみられる。

床面はVI層～VII層で、平坦である。住居跡の中央～東部、石組炉周辺の3.8×3.2mの楕円形の範囲は、T a - dバミスが多く色調が周辺と異なり、薄い貼床構造か床面の生活痕があったと考えられる。

付属遺構：焼土2か所、土坑2基、柱穴8基を検出した。

## 〔炉〕VH-9HF-1・2

HF-1は住居中央南部に位置する石組炉。長軸約1mである。角礫がおおむね楕円形に配置されている。炉石は、砂岩の板状礫や角礫を外傾して立て並べている。炉の内側にあたる礫表面がやや赤色や黒色に変色しているものがあり、被熱している。炉内の土層は黒色土を主体とし、焼土は明瞭には確認できなかった。炉石を取り上げた後、抜き取り痕や埋設痕を確認した。台石片2点、炉石40点が出土した。

HF-2は住居跡中央東部に位置する地床炉。径約50cm、被熱層はVI～VII層におよび、最厚6cmである。赤褐色を呈しT a - dバミスも強く被熱している。

## 〔土坑〕VH-9HP-1・2

HP-1はいわゆる先端ビットである。住居西側に若干突出しているとみられる。長軸長1mを超えるやや浅い土坑。HP-2はその隣に位置する、径約50cmの浅い土坑。

## 〔柱穴〕VH-9HP-3～10

HP-3～8は住居跡周縁部に位置する。径は12～19cmでばらつきがあり、深さは15cm前後で、先端は丸みをもつものが多い。HP-9・10は住居跡中央付近に位置する、やや小型の柱穴。覆土はV層の黒褐色土が主体でしまりがやや弱い。

遺物出土状況：遺物は主に石組炉周辺から出土している。

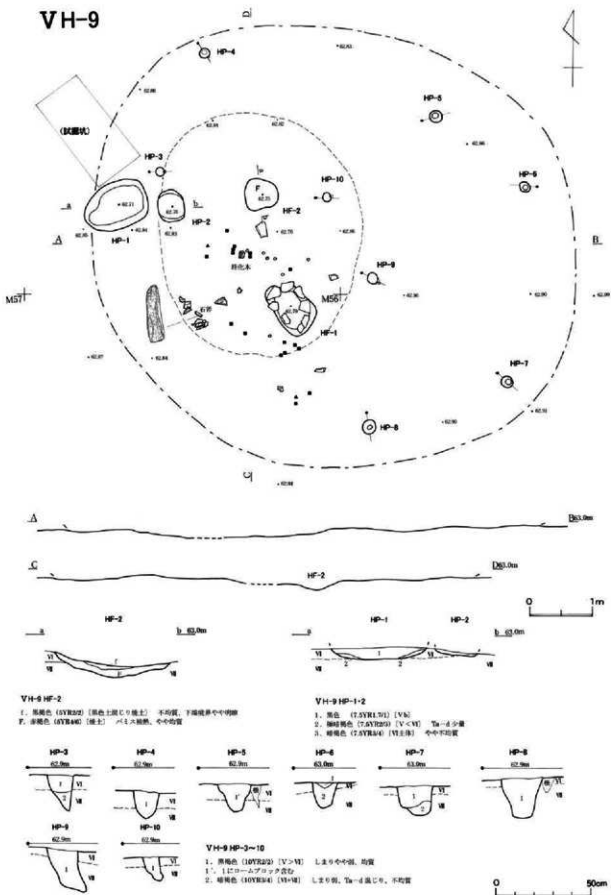
合計159点である。上記の石組炉からのほか、覆土からⅢ群b類土器1点、Ⅳ群a類土器3点、土製品2点、石斧片1点、台石1点、フレイク9点、礫100点が出土した。礫の中には、長さ20cm強の大型の珪化木なども含まれている。

掲載遺物：1はⅢ群b類土器。2は緑色片岩の石斧。全面研磨が行き届き、刃部は鋭い。石のみに近い。3はミニチュア土器。鉢形で、上げ底である。表面に凹凸が残る。無文だが、胴部に1条の縄文が押捺されている。

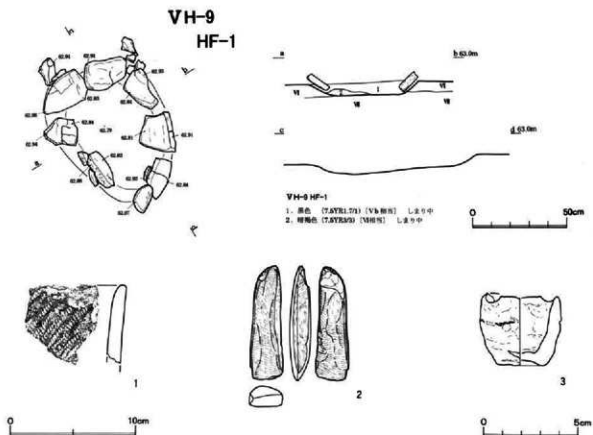
時期：石組炉など住居跡の構造から、縄文時代後期初頭とみられる。

(阿部)





図IV-26 VH-9 (1)



図IV-27 VH-9 (2)・VH-9出土の遺物

## 2 土坑

### VP-1 [図IV-28、図版70]

位置：C地区 j26区、標高約63.0mの段丘縁辺部 検出層位：Ⅶ層 平面形：ほぼ楕円形

規模：1.29×(0.88)／1.03×(0.60)／0.17m 長軸方位：N-2° W

確認・調査：V層を掘り下げ、Ⅶ層に達したところで黒色土の落込みを検出した。長軸方向に半載したところ、やや平坦な底面と壁の立ち上がりを検出し、土坑とした。東側は風倒木、西側は植木の抜き取り痕で攪乱を受けている。覆土は大部分がV層の黒色土で、坑底および壁面付近にV層・Ⅶ層混じり土が堆積していた。坑底はやや湾曲するもののおおむね平坦で、壁の立ち上がりは北側が緩やかで南側は急である。

時期：不明であるが、周辺の出土遺物から縄文時代後期と推測される。

### VP-2 [図IV-29、図版70・103]

位置：A地区 F73区、標高約63.5mの段丘縁辺部 検出層位：Ⅵ層 平面形：ほぼ円形

規模：2.25×1.94／2.14×1.77／0.19m

確認・調査：V層を掘り下げ、Ⅵ層に達したところで黒色土の落込みを検出した。半載したところ、平坦な底面と壁の立ち上がりを検出し、土坑とした。覆土は大部分がV層の黒色土で、坑底付近にV層・Ⅷb層混じり土が堆積していた。坑底はⅧb層上面ではほぼ平坦、壁の立ち上がりはわずかに確認できる。

遺物出土状況：覆土から土器1点、石器8点が出土した。土器はⅢ群B類、石器はスクレイパー1点、石斧片4点、フレイク3点である。

掲載遺物：1はスクレイパー。周縁に微細な剥離痕がみられる。

時期：覆土および周辺出土遺物から、縄文時代中期後半とみられる。

### VP-3 [図IV-19・20、図版70・101]

(IV章1 VH-6参照)

### VP-4 [図IV-29、図版70]

位置：A地区 D71区、標高約63.6mの段丘上 検出層位：Ⅵ層 平面形：ほぼ円形

規模：0.87×0.50／0.73×0.39／0.24m 長軸方位：N-80° W

確認・調査：V層を掘り下げ、Ⅵ層で黒色土の落込みを検出した。半載したところ、炭化材や礫が出土した。さらに掘り進めたところ、底面と壁の立ち上がりを検出し土坑とした。覆土は大部分がV層の黒色土で、壁際にV層・Ⅵ層混じり土が堆積していた。坑底はⅧ層を少し掘り込みほぼ平坦で、壁の立ち上がりはやや急である。

遺物出土状況：覆土から土器173点、礫3点が出土した。土器はすべてIV群a類である。

時期：出土遺物から、縄文時代後期初頭とみられる。

### VP-5 [図IV-29、図版70]

位置：A地区 B68区、標高約63.9mの段丘上 検出層位：Ⅵ層 平面形：ほぼ円形

規模：0.80×0.52／0.59×0.34／0.20m 長軸方位：N-30° E

確認・調査：V層を掘り下げ、Ⅵ層でやや大型の礫を含む黒色土の落込みを検出した。半載したところ、底面と壁の立ち上がりを検出し土坑とした。覆土は大部分がV層の黒色土で、坑底付近にV層・Ⅵ層混じり

り土が堆積していた。坑底はほぼ平坦で、壁の立ち上がりはやや急である。

**遺物出土状況**：覆土から石器1点、鏝8点が出土した。石器はRフレイクである。鏝のうち5点は10～15cmほどの大きさで、覆土上位からまとまって出土した。

**時期**：VP-4と形状が類似することから、縄文時代後期初頭とみられる。

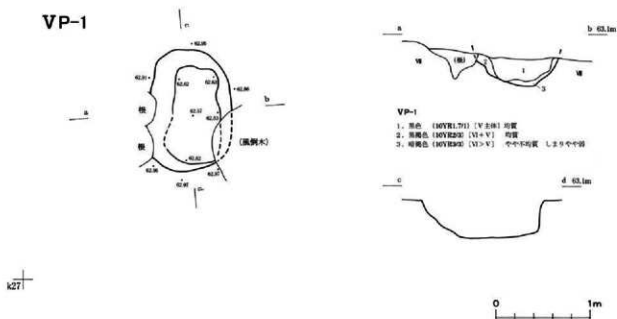
#### VP-6 [図IV-29、図版70]

**位置**：A地区 F64区、標高63.3～63.5mの段丘上緩斜面部 **検出層位**：VI層 **平面形**：ほぼ円形  
**規模**：0.63×0.57/0.57×0.44/0.17m

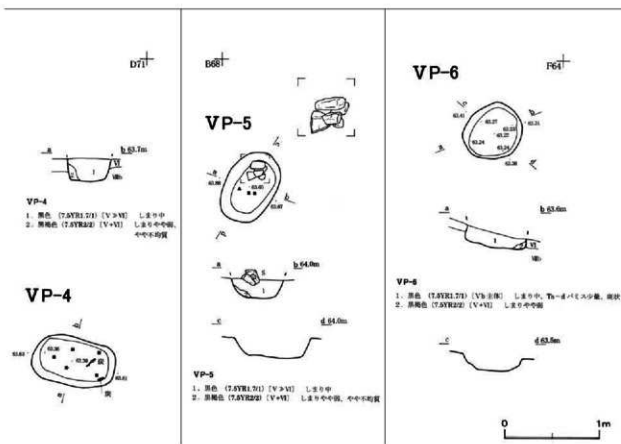
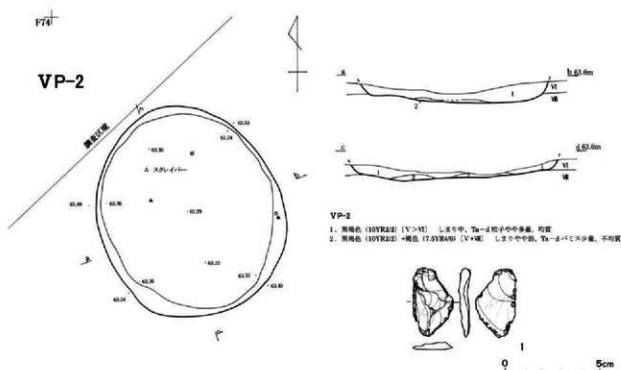
**確認・調査**：V層を掘り下げ、VI層で黒色土の落込みを検出した。半截したところ、底面と壁の立ち上がりを検出し土坑とした。覆土は大部分がV層の黒色土で、斜面下位側にV層・VI層混じり土が堆積していた。坑底は地形の傾斜に沿っておおむね平坦で、壁の立ち上がりは斜面上位側がオーバーハングし袋状になっている。

**時期**：不明だが、周辺の出土遺物から縄文時代後期初頭と推測される。

(阿部)



図IV-28 VP-1



図Ⅳ-29 VP-2・4~6

### 3 Tピット

#### TP-1 [図IV-30、図版71]

**位置:** C地区 a20区、標高63~64m **検出層位:** VI層 **平面形:** 長楕円形  
**規模:** 2.72×1.08/1.35×0.56/1.12m **坑底長短比:** 2.4 (C1型) **長軸方位:** N-34° E  
**確認・調査:** VI層上面で長楕円形のV層黒色土の落ち込みを検出した。短軸方向に土層観察用の断面を設定し、半截しながら土層の堆積状況を確認し壁面の精査を行った。その結果、壁面が底部から坑口部にかけて外側に広がるY字形を呈しており、形態などからTピットと判断した。土層は自然堆積で、覆土上部には黒色土、覆土中部には褐色土の崩落土層、坑底部には黒色土層が堆積する。  
**時期:** 縄文時代中期～後期とみられる。

(笠原 興)

#### TP-2 [図IV-30、図版71]

**位置:** C地区 g24区、標高約63mの平坦地 **検出層位:** VII層 **平面形:** 溝状  
**規模:** 2.96×0.75/2.11×0.24/1.50m **坑底長短比:** 8.8 (A1型) **長軸方位:** N-62° W  
**確認・調査:** VII層で黒色土が溝状に落ち込んでいるのを検出した。覆土は10層に分層した。主にV層やVII層(Ta-d)を起源とし、上部は堅くしまり、下部はしまりがなくやわらかい。壁は上部がVII層起源の青砂(Ta-d)混じり砂層とローム層、下部はVII層の白黄色バミス層である。  
**時期:** 周囲で出土している遺構、遺物、Tピットの形態から、縄文時代中～後期のものと思われる。

#### TP-3 [図IV-31、図版71]

**位置:** C地区 g・h24・25区、標高約63mの平坦面 **検出層位:** Vb層 **平面形:** 溝状  
**規模:** 3.03×0.52/2.18×0.16/1.47m **坑底長短比:** 13.6 (A1型) **長軸方位:** N-39° W  
**確認・調査:** V層調査中、黒色土が溝状に落ち込んでいるのを検出した。覆土は11層に分層した。主にV層とVII層を起源とする土壌からなり、上部は堅くしまり、下部は非常に脆弱である。壁は上部がVII層起源の青砂層、下部はVII層の白黄色バミス層である。  
**時期:** 周囲で出土している遺構、遺物、Tピットの形態から、縄文時代中～後期のものと思われる。

(TP-2・3:新家)

#### TP-4 [図IV-31、図版71・103]

**位置:** C地区 d14・15区、標高64~65m **検出層位:** VI層上面 **平面形:** 溝状  
**規模:** 2.48×0.91/1.95×0.19/1.22m **坑底長短比:** 10.3 (A2型) **長軸方位:** N-50° W  
**確認・調査:** d15区南東側で検出した。黒色土の落ち込みの北西側を半截中に中で壁面が不明瞭となり掘りすぎてしまった。底面は南東側で緩やかに上がるが、全体としてはほぼ平坦である。  
**遺物出土状況:** 覆土から、Uフレイク1点・フレイク1点、計2点が出土した。また、坑底からフレイク1点が出土した。  
**掲載遺物:** 1はUフレイク。両側縁に微細な剥離痕がみられる。  
**時期:** 周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

#### TP-5 [図IV-32、図版71・72・103]

**位置:** C地区 f21区、標高63~64m **検出層位:** VI層 **平面形:** 溝状  
**規模:** 3.18×0.66/1.67×0.22/1.13m **坑底長短比:** 7.6 (B1型) **長軸方位:** N-9° E

**確認・調査:** f 21 区の東側、VI層上面(礫混じり褐色土)で長軸方向が南北の溝状の落込みを検出した。調査は落込みの南側を半載して開始した。壁面は南端部の中位で段状となり、北側は緩やかに立ち上がる。底面は南から北に向かって徐々に高くなっている。

**遺物出土状況:** 覆土から、両面調整石器1点が出土した。

**掲載遺物:** 2は両面調整石器。上端に平坦部を設け、下端は欠損している。

**時期:** 周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

#### TP-6 [図IV-32、図版72]

**位置:** C地区 f・g 22区、標高63～64m **検出層位:** VI層 **平面形:** 溝状

**規模:** 2.88×0.67/1.82×0.20/1.30m **坑底長短比:** 9.1 (A2型) **長軸方位:** N-6° E

**確認・調査:** f 22 区の南東部で長軸がほぼ南北方向の黒色土の落込みを検出し、北側を半載した。覆土は中位以下に砂礫混じりのVII層が堆積する。壁面は北側で3段の段状となり、南側はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

**時期:** 周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

#### TP-7 [図IV-33、図版72・103]

**位置:** C地区 b 17区、標高64～65m **検出層位:** VII層 **平面形:** 楕円形

**規模:** 1.66×1.09/1.21×0.50/0.97m **坑底長短比:** 2.4 (C2型) **長軸方位:** N-1° W

**確認・調査:** b 17 区西側で検出した。黒色土の落込みの北側を半載した。覆土を掘り下げた後に底面を精査したところ、ほぼ中央で長軸方向に杭穴を2基検出した。東側にトレンチ(17×46cm)を設定して杭穴の断面を観察した。2基の杭穴の間隔は20.5cmである。覆土は褐色砂質土でしまりなく粘性がややある。覆土中には長さ8mm程度の礫を少量含んでいた。

**遺物出土状況:** 覆土から、石槍1点が出土した。

**掲載遺物:** 3は石槍。完形品で、やや左右不均衡になっている。両面ともていどに調整されている。かえしは緩やかである。

**時期:** 周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

#### TP-8 [図IV-33、図版72]

**位置:** C地区 b 18区、標高64～65m **検出層位:** VII層 **平面形:** 長楕円形

**規模:** 2.10×1.17/1.23×0.46/1.02m **坑底長短比:** 2.7 (C2型) **長軸方位:** N-14° E

**確認・調査:** b 18 区北西側のVI～VII層中で検出した。黒色土の落込みの北側を半載したが、壁面がわからず少し外側へ掘りすぎてしまった。覆土を掘り上げた後に底面を精査したところ、杭穴を2基検出した。東側にトレンチ(14×26×64cm)を設定して杭穴の断面を観察した。杭穴の覆土は非常にしまりがなくフカフカの土で、長さ1.2mm程度の礫を少量含み、やや粘性がある。2基の杭穴の間隔は約32cmである。掘り方はほぼ垂直に掘られている。

**遺物出土状況:** 覆土から、フレイク4点が出土した。

**時期:** 周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

#### TP-9 [図IV-34、図版73]

**位置:** C地区 h・i 26区、標高63～64m **検出層位:** V～VI層 **平面形:** 溝状

**規模:** 2.59×0.67/2.22×0.23/1.41m **坑底長短比:** 9.7 (A1型) **長軸方位:** N-23° W

**確認・調査:** i 26区調査杭の西側で長軸方向を北西-南東に向けた溝状の落ち込みを検出した。検出層位はi 26区がVI層上面、h 26区はV層下位で、南東側を半載した。底面はほぼ平坦である。壁面は南東側のみ底面から上に向かってオーバーハングしている。

**時期:** 周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

#### TP-10 [図IV-34、図版73]

**位置:** C地区 e22区、標高63~64m **検出層位:** VII層 **平面形:** 楕円形

**規模:** 0.87×0.55/0.64×0.32/0.48m **坑底長短比:** 2.0 (D型) **長軸方位:** N-5° E

**確認・調査:** e22区南側で長軸約0.9mの楕円形の落ち込みを検出し、北側を半載した。当初、Tピットではなく楕円形の土坑を想定した。深さは0.5mと浅く長さも短い、形状がTピットに類似することからそれと認定した。

**時期:** 周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

(TP-4~10: 佐川)

#### TP-11 [図IV-35、図版74]

**位置:** B地区 M60区、標高約63mの段丘縁辺 **検出層位:** Vc層 **平面形:** 溝状

**規模:** 3.44×0.82/2.56×0.28/0.65m **坑底長短比:** 9.1 (A1型) **長軸方位:** N-35° E

**確認・調査:** V層調査中、沢に平行する黒色土の溝状の落ち込みを検出した。半載し、Tピットを確認した。覆土上位(土層1~4)はV層黒色土を主体としてしまりがあり、下位(土層5~12)はTa-dを主体としてしまりが弱い。坑底はVII層中で、壁の立ち上がりは北西側がオーバーハングし、南西側は緩やかな斜面になっている。

**遺物出土状況:** 覆土から、III群b類土器1点、フレイク1点が出土した。

**時期:** 周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

(阿部)

#### TP-12 [図IV-35、図版74]

**位置:** A地区 L62区、標高約62mの段丘縁辺 **検出層位:** Vc層 **平面形:** 長楕円形

**規模:** 2.08×1.22/1.62×0.34/0.94m **坑底長短比:** 4.8 (B1型) **長軸方位:** N-66° E

**確認・調査:** V層調査中、黒色土が溝状に落ち込んでいるのを検出した。覆土は11層に分層した。主にV層とVII層を起源とする土壌からなり、上部は堅くしまり、下部は非常に脆弱である。壁は上部がVII層起源の青砂層、下部はVIII層の白黄色バミス層である。

**時期:** 周囲で出土している遺構、遺物、Tピットの形態から、縄文時代中～後期のものと思われる。

(新家)

#### TP-13 [図IV-36、図版74]

**位置:** A地区 E69区、標高約63~64m **検出層位:** VI層 **平面形:** 楕円形

**規模:** 1.98×0.52/1.48×(0.49)/1.20m **坑底長短比:** 3.0 (C1型) **長軸方位:** N-41° W

**確認・調査:** VI層上面で黒色土の落ち込みを検出した。半載し、Tピットを確認した。覆土上位(土層1~4)はV層黒色土を主体としてしまりがあり、下位(土層5~13)はTa-dを主体として黒色土の薄層をはさみ、しまりが弱い。坑底はVIII層下の粘土層に達し、長楕円形で平坦である。壁は長軸端部が垂直に近く立ち上がる。

**時期:** 周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。



TP-14 [図IV-36、図版75]

位置：A地区 F・G71区、標高約63～64m 検出層位：VI層 平面形：楕円形

規模：2.04×1.40/（2.10）×0.59/1.47m 坑底長短比：3.6（C2型） 長軸方位：N-45° W

確認・調査：VI層上面で中央部にT a-dのまとまりのある黒色土の落込みを検出した。半截し、Tピットを確認した。覆土上位（土層1～5）はV層黒色土を主体としてしまりがあり、最上位（土層1・2）はT a-dを主体とし、他の遺構の掘上土などが考えられる。覆土下位（土層6～9）はT a-dを主体として黒色土の薄層をはさみ、しまりが弱い。また、覆土中位から坑底下に続く杭穴（SP-3）の断面（土層11）を検出した。さらに覆土を縦に掘り進め、次の杭穴断面が検出されたところで再び断面図を作成、これを繰り返した。坑底はⅧb層下の粘土層上面に達し、おおむね長楕円形で平坦である。壁は北西側端部が約30cmオーバーハングし、南東端部はほぼ垂直に立ち上がる。

坑底の杭穴は4基検出した。おおむね等間隔である。坑底からの深さは18～38cm、坑底より上（覆土部分）を含めた最長は67cm（SP-3）である。

遺物出土状況：覆土上位（土層3）から、礫15点がややまとまって出土した。

時期：周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

TP-15 [図IV-37、図版75]

位置：A地区 E70区、標高約63～64m 検出層位：VI層 平面形：溝状

規模：2.65×0.93/2.05×0.25/1.16m 坑底長短比：8.2（A1型） 長軸方位：N-85° E

確認・調査：VI層上面で中央部にT a-dのまとまりのある黒色土の落込みを検出した。半截し、Tピットを確認した。覆土上位（土層1～5）はV層黒色土を主体としてしまりがあり、最上位（土層1）はT a-dを多く含み、他の遺構の掘上土などが考えられる。覆土下位（土層6～12）はT a-dを主体として黒色土の薄層をはさみ、しまりが弱い。坑底はⅧb層下の粘土層上面に達し、おおむね長楕円形で東側に緩やかに傾斜している。壁は垂直に近く立ち上がる。

時期：周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

TP-16 [図IV-37、図版76]

位置：A地区 I66・67区、標高約63～64m 検出層位：VI層 平面形：溝状

規模：3.13×0.84/3.33×0.26/1.02m 坑底長短比：12.8（A3型） 長軸方位：N-63° W

確認・調査：VI層上面で中央部にT a-dのまとまりのある黒色土の落込みを検出した。半截し、Tピットを確認した。覆土上位（土層1～6）はV層黒色土を主体としてしまりがあり、最上位（土層1）はT a-dを多く含み、他の遺構の掘上土などが考えられる。覆土下位（土層7～9）はT a-dを主体として黒色土の薄層をはさみ、しまりが弱い。坑底はⅧb層下の粘土層上面に達し、長楕円形で平坦である。長軸端部の壁はオーバーハングし、特に南東側は35cmほど奥に入り込んでいる。

坑底の杭穴は3基検出した。溝状のTピットとしては希少で、分類基準に該当せず「A3型」とした。おおむね等間隔で、坑底からの深さは最長33cm（SP-2）である。

遺物出土状況：覆土上位から、IV群a類土器2点・フレイク1点・大型板状礫1点が出土した。

時期：周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

TP-17 [図IV-38・41、図版76・103]

位置：B地区 O・P53区、標高約63m 検出層位：VI層 平面形：楕円形

規模：1.93×1.32/1.38×0.40/0.94m 坑底長短比：3.5 (C2型) 長軸方位：N-43° W

**確認・調査**：VI層上面で大型の台石が落ち込む黒色土のまとまりを検出した。半載し、Tピットを確認した。覆土上位(土層1~4)はV層黒色土を主体としてしまりがあり、覆土下位(土層5~10)はT a - dを主体として黒色土の薄層をはさみ、しまりが弱い。最下層(土層10・11)は粘土を主体とする。坑底はVIIc層の粘土層上面に達し、隅丸長方形で長軸方向にやや湾曲する。壁は斜め上方に立ち上がる。

坑底の杭穴は5基検出した。うち4基は長軸方向におおむね等間隔で直列する。坑底から最深77cm、覆土からは1m近くに達する(SP-4)。坑底下が粘土で、安定を図るために深いと考えられる。

**遺物出土状況**：覆土上位から、たたき石1点・大型の台石2点が出土した。

**掲載遺物**：4はたたき石。両面中央部に敲打痕がみられる。5・6は台石。砂岩の板状礫を使用し、5は敲打痕、6は擦痕が観察される。

**時期**：周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中~後期とみられる。

#### TP-18 [図IV-38、図版77]

**位置**：B地区 Q53・54区、標高約63mの段丘縁辺 **検出層位**：VI層 **平面形**：楕円形

規模：1.64×1.38/1.18×0.40/1.00m 坑底長短比：3.0 (C2型) 長軸方位：N-58° W

**確認・調査**：VI層上面で黒色土の落込みを検出した。半載したところ大型礫が多数出土し、坑底とみられる面を検出した。土坑と認識して調査を進めたが、さらに下層に続くことが判明し掘り下げ、Tピットと認定した。覆土上位(土層1~4)はV層黒色土を主体としてしまりがあり、覆土中位(土層5~8)はT a - dを主体として黒色土の薄層をはさみ、しまりが弱い。覆土下層はT a - dバミスを多量に含む粘土である。中位に1.30×0.85mほどの楕円形のおおむね平坦な段を有する。坑底はVIIIb層下の粘土層上面に達し、楕円形でほぼ平坦である。壁は垂直に近く立ち上がる。

坑底の杭穴は3基検出した。おおむね等間隔で直列し、坑底から最深18cmである(SP-2)。

形状や覆土の堆積状態から、Tピットとして機能した後、拡張し土坑として再利用し、使用後に大型礫を投棄したことが考えられる。

**遺物出土状況**：覆土中位から、30~40cmほどの大型のものを含む礫8点、台石片1点がまとまって出土した。平坦面のあるものが複数見受けられる。

**時期**：周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中~後期とみられる。

#### TP-19 [図IV-39、図版77]

**位置**：A地区 B・C66・67区、標高約64mの緩斜面 **検出層位**：VI層 **平面形**：楕円形

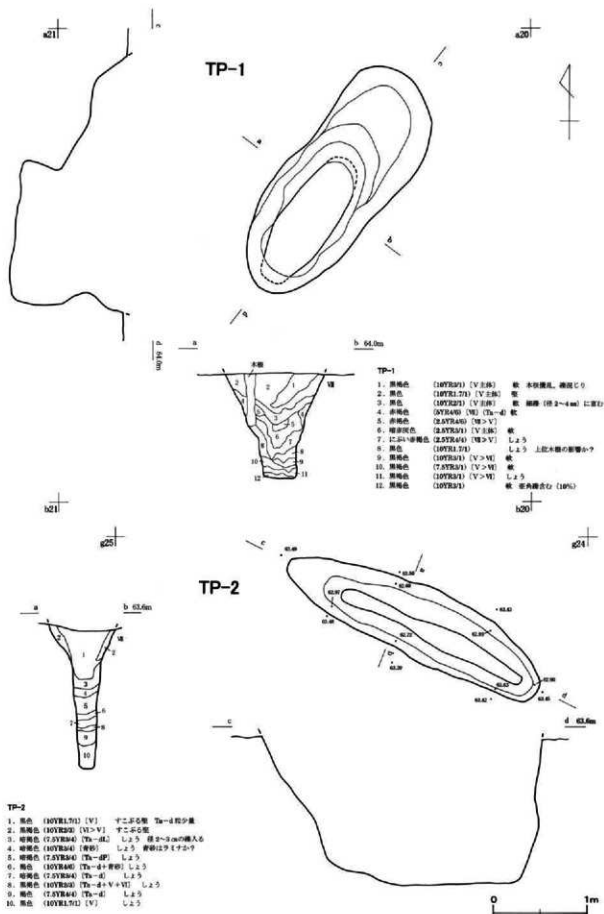
規模：2.20×1.44/1.55×0.60/1.04m 坑底長短比：2.6 (C2型) 長軸方位：N-31° W

**確認・調査**：VI層上面で中央部に黒色土のあるT a - dのまとまりを検出した。半載し、Tピットを確認した。覆土上位(土層1~5)はV層黒色土を主体としてしまりがあり、うち土層2はT a - dを多く含み、他の遺物の掘り出しが考えられる。覆土下位(土層6~10)はT a - dを主体として黒色土の薄層をはさみ、しまりが弱い。なお覆土中から坑底下に長さ70cmを超える細長い杭跡を検出した(SP-2)。坑底はVIIIb層下の粘土層上面に達し、おおむね長楕円形で平坦である。壁は長軸南側がオーバーハングしている。

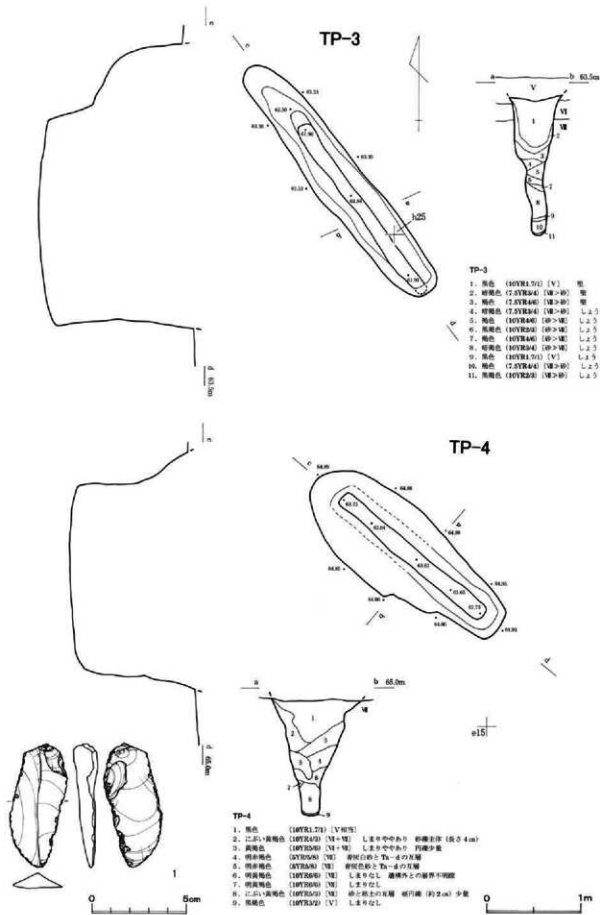
坑底の杭穴は4基検出した。SP-1・3・4はおおむね等間隔で直列し、坑底から最深52cmである(SP-3)。坑底下が粘土で、安定を図るために深いと考えられる。

**時期**：周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中~後期とみられる。

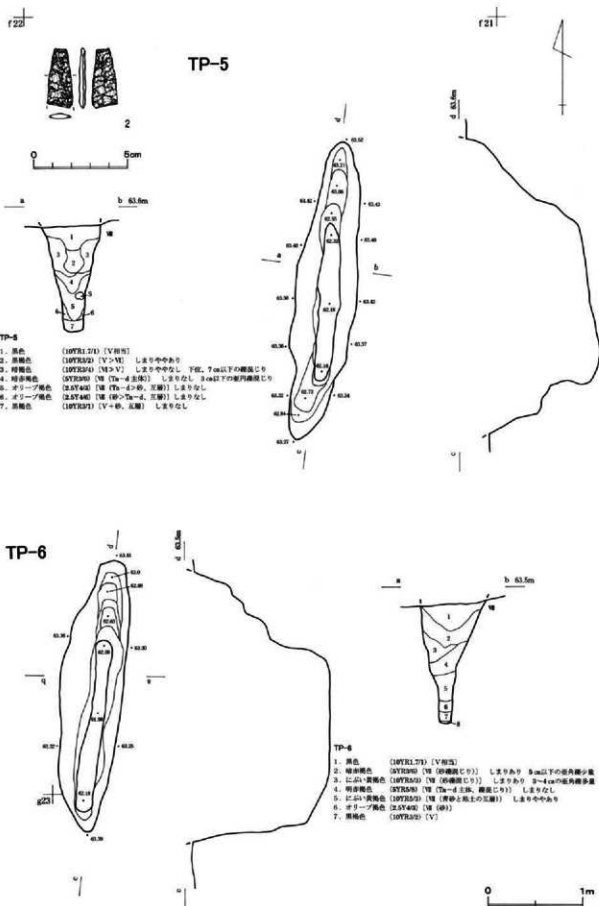
(TP-13~19：阿部)



図IV-30 TP-1・2



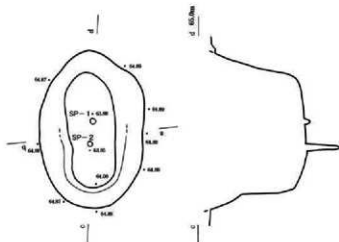
図IV-31 TP-3・4



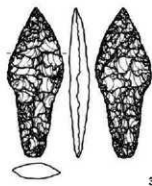
図IV-32 TP-5・6

b18

TP-7

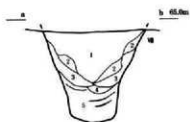


b17



3

0 5cm



c18

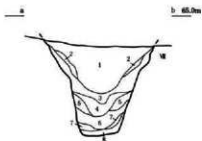
c17

TP-7

1. 黒色 (10YR4.2/1) [V相性]
2. 褐色 (10YR5/4) [VI+VII] しまり中やあり
3. 暗赤褐色 (5YR3/3) [VII (Ta-d 主相)] しまり中やあり
4. 暗褐色 (10YR3/4) [VII] しまりなし
5. 暗赤褐色 (5YR3/4) [VII-V (Ta-d 主相の副相)] しまり中やあり  
ま層より暗い・黒色土のレンズ状塊層

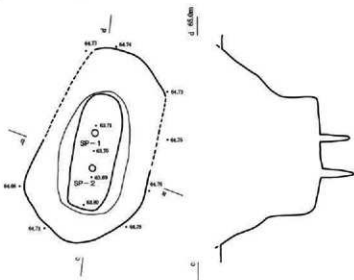
TP-8

b19



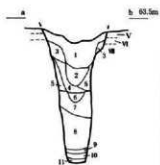
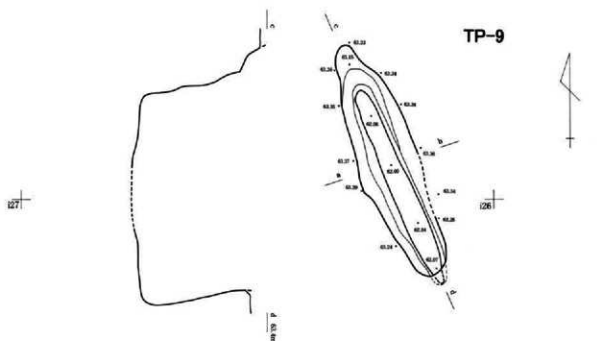
TP-8

1. 黒色 (10YR4.2/1) [V相性]
2. 暗褐色 (10YR3/3) [VII-V] しまりなし ま層より暗い
3. 暗赤褐色 (5YR3/3) [VII] しまりなし
4. 暗褐色 (10YR3/4) [VII] しまりなし
5. 暗赤褐色 (5YR3/3) [VII (Ta-d 主相)] しまり中やあり
6. 濃い黄褐色 (10YR6/4) [VII (砂質土)] しまりなし
7. 暗黄褐色 (10YR6/4) [VII] しまりなし
8. 暗赤褐色 (5YR3/3) [VII] しまりなし



0 1m

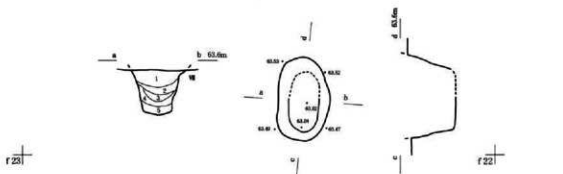
図IV-33 TP-7・8



TP-9

- |          |                                   |
|----------|-----------------------------------|
| 1. 黒色    | (10YR1.5/1) [VH6]                 |
| 2. 黒褐色   | (7.5YR3/2) [V>H] しまりや中あり          |
| 3. 黄褐色   | (10YR5/6) [H] しまりあり               |
| 4. 黄褐色   | (10YR5/6) [H] しまりや中あり             |
| 5. 濃い黄褐色 | (10YR4/6) [H (濃縮じり)]              |
| 6. 暗褐色   | (7.5YR3/3) しまりやなし                 |
| 7. 暗赤褐色  | (10YR3/2) [H] しまりや中あり             |
| 8. 濃い黄褐色 | (10YR3/2) [H (赤味と土の混入)]           |
| 9. 黒褐色   | (7.5YR3/2) [H>V (砂混じり)]           |
| 10. 暗褐色  | (7.5YR3/2) [H (砂)]                |
| 11. 黒褐色  | (10YR3/2) [V>H (砂濃縮じり)] 層は長さ2mの範囲 |

TP-10

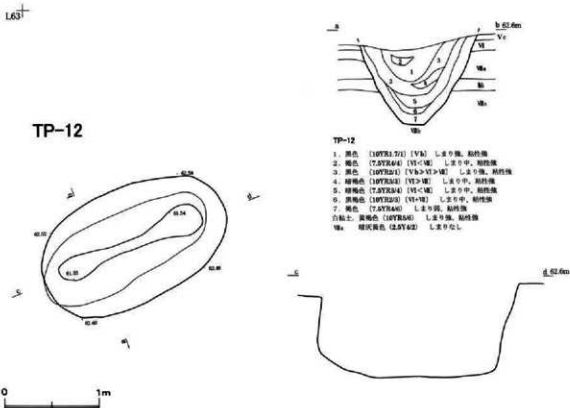
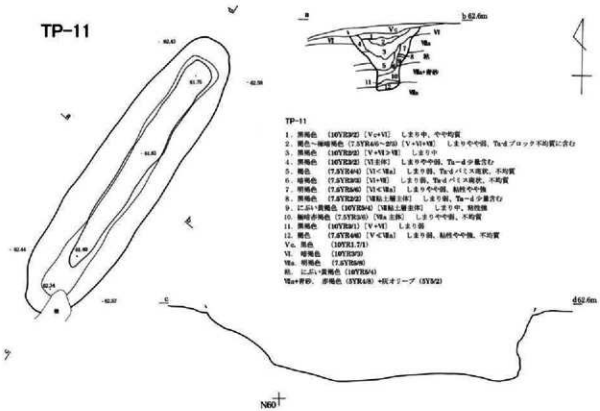


TP-10

- |          |   |
|----------|---|
| 1. 黒色    | (10YR1.5/1) [VH6]                       |
| 2. 濃い黄褐色 | (10YR3/2) [H (砂質土)] しまりやなし              |
| 3. 褐色    | (10YR4/6) [H (濃縮土)] しまりやなし              |
| 4. 濃い黄褐色 | (10YR4/6) [H (濃縮じり)] しまりやなし 5cm以下の粗孔層多数 |
| 5. 暗褐色   | (10YR3/3) [H (砂)] しまりや中あり               |

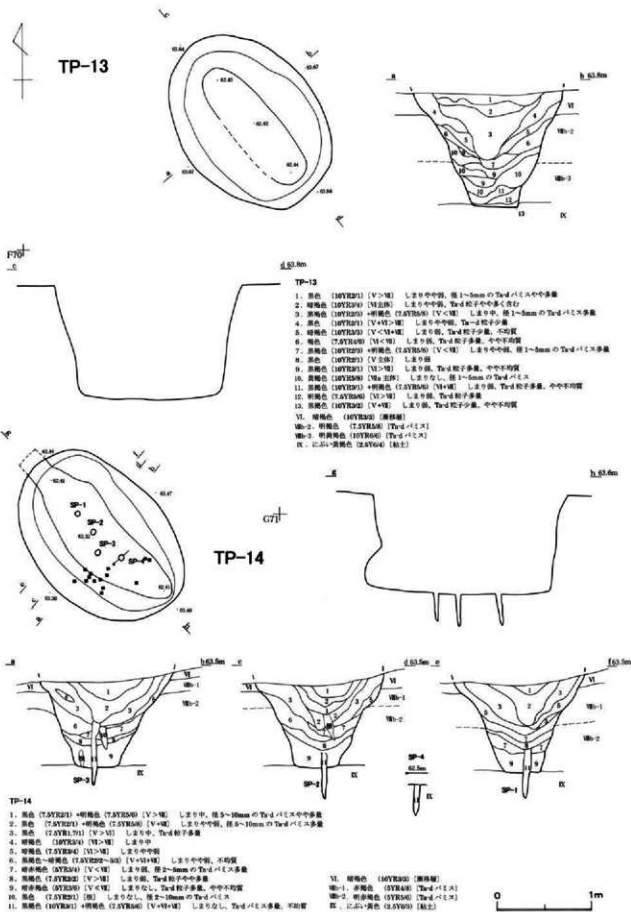


図IV-34 TP-9・10

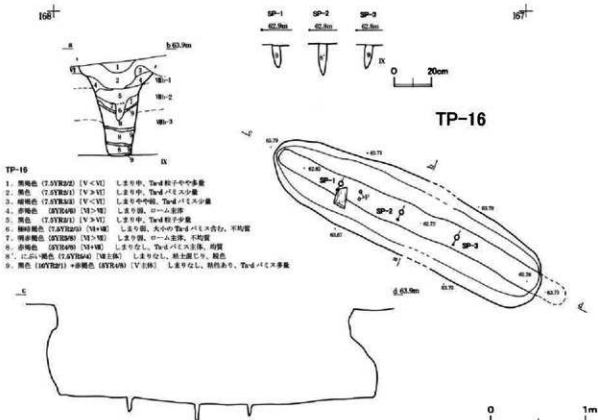
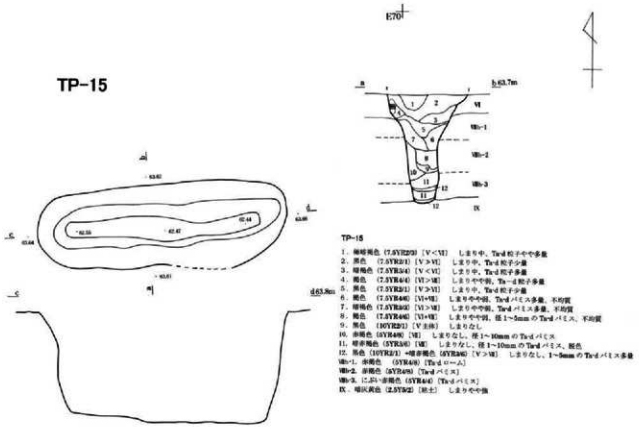


図IV-35 TP-11・12

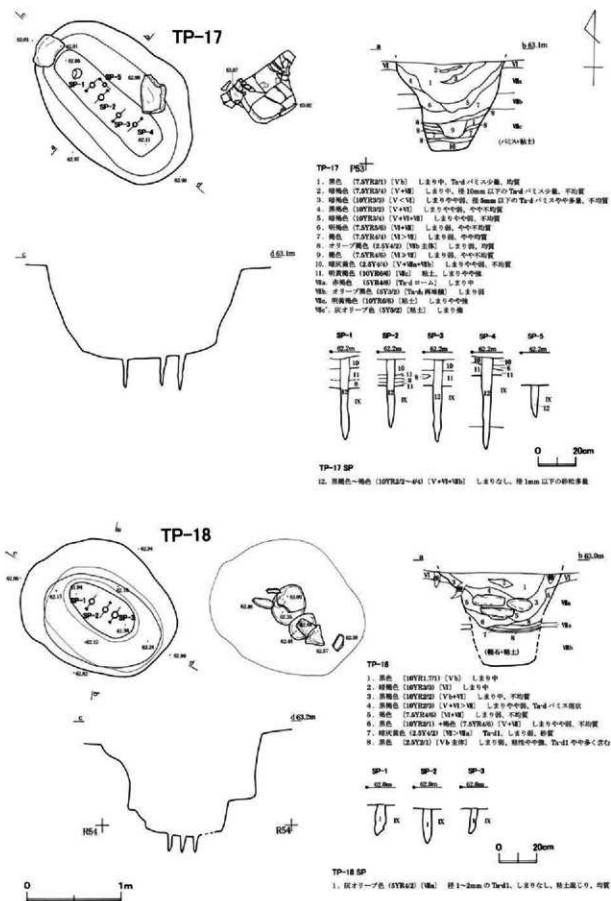




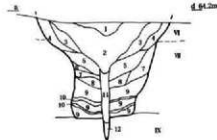
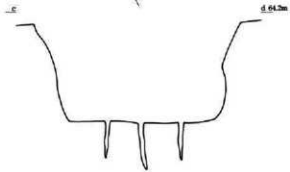
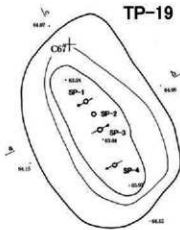
図IV-36 TP-13・14



図IV-37 TP-15・16

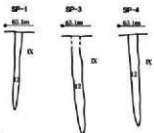


図IV-38 TP-17・18



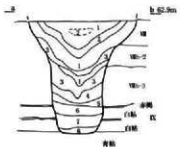
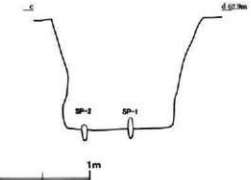
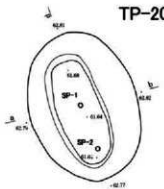
TP-19

1. 黒色 (10YR2.5/1) [V 土層] しまり中、 $T_d$ -ドバミス少量
2. 黒色 (2.5Y3/2) [V+M] しまり中程度、厚1~10mmの $T_d$ -ドバミス中や多量
3. 黒色 (10YR2/1) [V 土層] しまり中、 $T_d$ -ドバミス少量
4. 黒褐色 (10YR2/3) [V 土層] しまり中
5. 暗褐色 (10YR3/3) [V+M] しまり中、 $T_d$ -ドバミス少量、不均質
6. 褐色 (2.5Y3/4) [M>V] しまり中程度、不均質
7. 暗褐色 (7.5YR3/4) [V<M] しまり弱
8. 暗褐色 (7.5YR3/4) [M>V] しまり弱、やや不均質
9. 暗赤褐色 (5YR3/4) [M 土層] しまり弱
10. 赤色 (10YR3/4) +暗赤褐色 (5YR3/4) [V+M] 厚1~10mmの $T_d$ -ドバミス中や多量
11. 赤褐色 (2.5Y3/4) +暗赤褐色 (2.5Y4/2) [V+M+M 粘土] しまりなし、不均質
12. 上記+褐色 (2.5Y5/4) +赤褐色 (5YR4/3) [M+M 粘土] しまりなし、1~10mmの $T_d$ -ドバミス多量、不均質



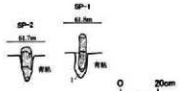
TP-19 SP

12. 上記+褐色 (2.5Y5/4) +赤褐色 (5YR4/3) [M+M 粘土] しまりなし、1~10mmの $T_d$ -ドバミス多量、不均質



TP-20

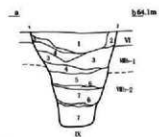
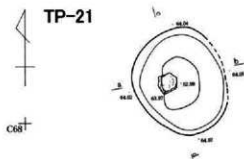
1. 黒色 (N1.4/0) [V] しまり中、 $T_d$ -ドバミス少量
2. 黒褐色 (2.5Y3/2) [V+M] しまり中、 $T_d$ -ドバミス中や多量
3. 暗赤褐色 (2.5Y4/2) [V<M] しまり中程度、 $T_d$ -ドバミス多量、不均質
4. 暗褐色 (7.5YR3/4) [M>V] しまり弱、粘り強、厚1~10mmのバミス多量、やや不均質
5. 黒色 (10YR2/4) [V] しまり弱、粘り強、均質
6. オリーブ褐色 (5Y3/2) [粘土] しまり弱、粘り強
7. 灰ナリ褐色 (5Y3/2) [粘土+ドバミス] しまりなし、厚1~10mmの褐色したバミス多量、不均質
8. 暗緑灰色 (10Y3/4) [粘土] しまりなし



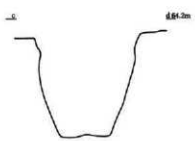
TP-20 SP

1. オリーブ褐色 (5Y3/2) しまり弱、厚1mm以下の暗赤褐色粘土、暗緑灰色 (5Y3/4) しまりやや強、粘り強

図IV-39 TP-19・20

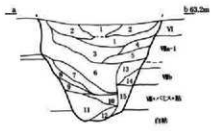
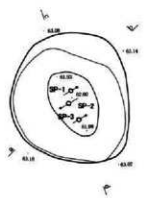


- TP-21
1. 褐色 (10YR2/3) (V>VI) しまり中, Te-d 粒子や中多量
  2. 暗褐色 (10YR2/3) (VI土相) しまり中
  3. 暗褐色 (10YR2/3) (V>VI) しまり弱, Te-d +ヒス少量, 不均質
  4. 褐色 (7.5YR2/1) (V>VI) しまりや中弱
  5. 褐色 (7.5YR4/0) (弱土相) しまりなし, ロームヒス
  6. 暗褐色 (10YR2/3) (V>VI) しまりなし, Te-d +ヒス多量
  7. 暗褐色 (10YR4/0) (弱土相) しまりなし, 径1~10mm のヒスや中多量

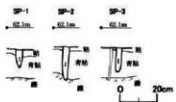
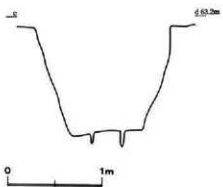


C68†

TP-22

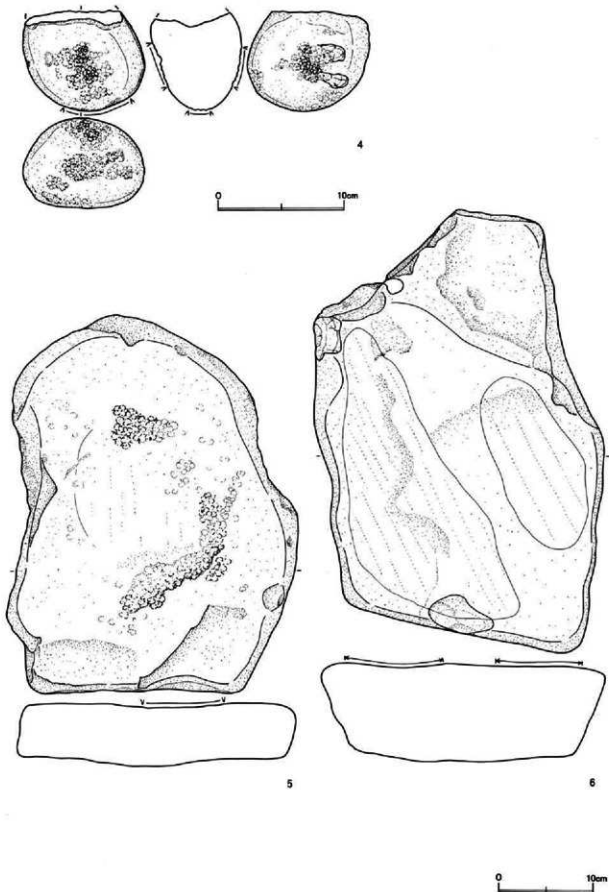


- TP-22
1. 褐色 (10YR2/1) (V>VI) しまり中, Te-d +ヒス少量
  2. 暗褐色 (10YR2/3) (V>VI) しまり中, Te-d +ヒスや中多量, 不均質
  3. 暗褐色 (7.5YR2/3) (VI土相) しまり中, Te-d +ヒス少量, 不均質
  4. 暗褐色 (7.5YR4/0) (VI) しまりや中弱, 均質
  5. 暗褐色 (10YR2/3) (弱土相) しまりや中弱, 均質
  6. 褐色 (7.5YR4/0) (VI<VII) しまりや中弱, 褐色土面じり, やや不均質
  7. 暗褐色 (5YR4/0) +褐色 (7.5YR2/1) (V<VI) しまり弱, Te-d +ヒス多量
  8. オリーブ褐色 (7.5YR3/1) (Te-d) しまりなし
  9. 暗褐色 (10YR4/0) (弱土相) しまり弱, やや不均質
  10. 暗褐色 (10YR4/0) (弱+粘土) しまり弱, 不均質
  11. 暗褐色 (7.5YR4/0) +オリーブ褐色 (7.5YR3/1) (弱+Te-d) しまりなし, 不均質
  12. 暗褐色 (7.5YR4/0) (弱+粘土) しまり弱, やや不均質, 下部に褐色土
  13. 高褐色 (10YR4/0) (弱+粘土) しまりや中弱, 均質
  14. オリーブ褐色 (7.5YR3/1) (Te-d) しまりなし
  15. 暗褐色 (10YR2/3) (弱+粘土) しまりや中弱, 均質  
径の大きいヒスの風化した粘土

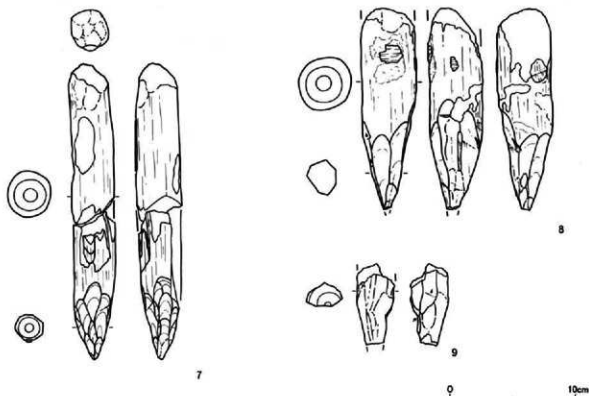


- TP-22 SP
1. 灰オリーブ色 (5Y5/0) +暗褐色 (7.5YR3/0) (粘土+褐色+ヒス) しまりなし  
粘土, 明黄褐色 (2.5Y6/0) (粘土+褐色+ヒス) しまり弱  
赤粘, 暗黄褐色 (2.5Y4/2) (シルト質粘土) しまり弱  
粘, 灰オリーブ色 (5Y5/0) (砂質粘土+粘)

図N-40 TP-21・22



図IV-41 TP-17出土の遺物



図IV-42 TP-20 出土の遺物

TP-20 [図IV-39・42、口絵4、図版24・78]

位置：A地区 A・B65区、標高約63mの緩やかな谷部 検出層位：VI層 平面形：楕円形

規模：1.58×1.14/1.12×0.45/1.18m 坑底長短比：2.5 (C2型) 長軸方位：N-20° W

確認・調査：谷部のVI層上面で黒色土の落込みを検出した。深さ50cm程度半截したところ、水がわき出した。水中ポンプや柄杓等を用いて排水しながら掘り下げ、Tビットを確認した。この時点で坑底に刺されたままの杭を確認した。覆土を完掘したところ、さらにもう1本の杭が出土した。Tビットの長軸方向に遺構外にまたがって大きく半截し、杭および杭穴の立面観察を行った(口絵4-5)。

覆土上位(土層1~2)はV層黒色土を主体としてややしまりがあり、覆土中位(土層3~5)はT a-dを主体として黒色土の薄層をはさみ、しまりが弱い。覆土下位(土層6~8)は粘土を主体とし、壁面の崩落土などが含まれているとみられる。坑底はⅧ層下のグライ化した青色粘土層上面に達し、楕円形で平坦である。壁は垂直に近く立ち上がり、徐々に斜め上方に広がる。

坑底の杭穴は坑底中央付近と南側に計2基検出した。SP-1は杭の周囲に差し込み痕があり、SP-2は杭が差し込まれたままの状態である。

遺物出土状況：上記の通り、坑底に刺さったままの杭2本が出土した。SP-1の杭は坑底上10cm、坑底下10cm、SP-2の杭は坑底上5cm、坑底下14cmが残存していた。またこれらとは別に、杭の小片が出土している。

掲載遺物：7はSP-1の杭。径3.5cmの丸木で、体部は表皮が残る。上端は腐食により丸みを帯び、下端は面取りを行い比較的細かくけずり出して尖らせている。8はSP-2の杭。径4.3cmの丸木で、体部は表皮が残る。

上端は腐食により丸みを帯び、下端はやや粗い面取りを行い尖らせている。9は杭の小片で、扁平に面取りした跡が見られる。楔の役割を果たした可能性がある。7～9の樹種は広葉樹のナシ亜科と同定された（V章6）。

**時期：**周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

**TP-21** [図IV-40、図版78]

**位置：**A地区 B・C67区、標高約64m **検出層位：**VI層 **平面形：**ほぼ円形

**規模：**1.12×(0.96)/0.53×0.37/1.00m **坑底長短比：**1.4 (C1型) **長軸方位：**N-14° W

**確認・調査：**VI層上面で円形の黒色土の落込みを検出した。土坑を想定して半截したところ断面がU字状となり、覆土の堆積状況を考慮してTピットと認定した。覆土上位（土層1～2）はV層黒色土を主体としてしまりがあり、覆土中位～下位（土層3～7）はT a - dを主体として黒色土の薄層をはさみ、しまりが弱い。坑底はVIII層中で、楕円形でほぼ平坦である。壁は斜め上方に立ち上がる。

**遺物出土状況：**覆土上位から板状礫1点が出土した。

**時期：**周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

**TP-22** [図IV-40、図版79]

**位置：**B地区 O49・50区、標高約63m **検出層位：**VI層 **平面形：**ほぼ円形

**規模：**1.44×0.52/0.74×0.46/1.06m **坑底長短比：**1.6 (C2型) **長軸方位：**N-33° W

**確認・調査：**VI層上面で中央部に黒色土のあるT a - dのまとまりを検出した。半截し、Tピットを確認した。覆土上位（土層1～3）はV層黒色土を主体としてしまりがあり、うち土層2はT a - dを多く含み、他の遺構の掘り上土などが考えられる。覆土下位（土層4～12）はT a - dを主体として黒色土の薄層をはさみ、しまりが弱い。覆土下位の壁付近（土層13～15）は壁面の崩落土と考えられる。坑底はVIIc層の粘土層に達し、おおむね楕円形で短軸方向にやや湾曲する。壁は斜め上方に立ち上がる。

坑底の杭穴は3基検出した。坑底下のグライ化した青色粘土層～礫層上面に達している。坑底から最深18cmである（SP-2）。

**遺物出土状況：**覆土から、砥石片1点・礫2点が出土した。

**時期：**周辺出土遺物やTピットの形状から、縄文時代中～後期とみられる。

(TP-20～22；阿部)



## 4 焼土

### VF-1 [図IV-43、図版14・79・103]

位置：C地区 g23区、標高63～64mの段丘縁辺部 層位：Vb層

平面形：おおむね方形 規模：0.66×0.51m

確認・調査：V層を掘り下げたところ、角柱状の礫が隣接して出土した。さらに周辺を掘り下げ、角柱状の礫がほぼ方形の配列となり、石組炉と認定した。角柱状の礫は10点ほどで、ほとんどがやや外傾する状態で配置されていた。一部暗赤褐色になっている部分が見られた。短軸方向にトレンチを入れ断面観察を行ったところ、不明瞭ながら炭化物が少量含まれる被熱層を確認した。堅欠住居跡を想定して周辺の平面精査や小トレンチ調査などを行ったが、確認できなかった。

遺物出土状況：周辺からIV群a類土器1点、石斧1点が出土した。また炉石は破片を含め22点、炉内からブレイク177点、合計202点の遺物が出土した。

掲載遺物：1は石斧。基部側が残存している。

時期：出土した土器やVH-1HF-1と同様の形状であることから、縄文時代後期初頭とみられる。

### VF-2

(欠番)

### VF-3 [図IV-43、図版14・103]

位置：C地区 d・e24区、標高63～64mの段丘縁辺部 層位：Vb層

平面形：不整形 規模：2.80×1.00m

確認・調査：V層を掘り下げたところ、土器の小片がまとめて出土し、角柱状の礫が隣接して出土した。さらに周辺を掘り下げ、6点ほどの角柱状の礫がコの字状の配列となり、北側から南側へ高低差をもって残存していた。トレンチを入れ断面観察を行ったところ、不明瞭ながら炭化物が少量含まれる被熱層を確認し、石組炉と認定した。

遺物出土状況：IV群a類土器112点、台石1点、礫150点、炉石5点、計268点出土した。

掲載遺物：2～4はIV群a類の同一個体土器。口縁部肥厚帯、胴部に貼付帯をもつ。角形口唇上面がやや内傾している。5は台石。板状礫の縁辺部を素材とし、一部に擦痕・敲打痕が観察される。

時期：出土した土器から、縄文時代後期初頭とみられる。

### VF-4 [図IV-44、図版14]

位置：B地区 P56区、標高62～63m 層位：Vc層

平面形：ほぼ円形 規模：0.41×0.39/0.02m

確認・調査：V層調査中、暗赤褐色の範囲を検出した。全体的に被熱は弱いが、中心部がやや強く被熱し周囲は漸遷する。

時期：不明であるが、周辺の遺構・遺物から、縄文時代早期後半または後期初頭と考えられる。

### VF-5 [図IV-44、図版14]

位置：B地区 M57区、標高62～63m 層位：Vc層

平面形：ほぼ楕円形 規模：0.39×0.33/0.04m

**確認・調査**：V層調査中、暗赤褐色の範囲を検出した。中心部がやや強く被熱し、縁辺部は黒色土混じりとなり、周囲は黒色土が落ち込んでいる。

**時期**：周辺の遺構・遺物から、縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

#### V F-6 [図IV-44、図版14]

**位置**：B地区 M56区、標高62～63m **層位**：V c層

**平面形**：ほぼ円形 **規模**：0.45×0.31/0.03m

**確認・調査**：V層調査中、暗赤褐色の範囲を検出した。全体的に被熱は弱い、中心部がやや強く被熱し縁辺部は漸遷し、周囲は黒色土が落ち込んでいる。

**時期**：周辺の遺構・遺物から、縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

#### V F-7 [図IV-44、図版14]

**位置**：B地区 Q・R53区、標高約63m **層位**：V c層

**平面形**：おおむね円形 **規模**：0.40×0.40/0.06m

**確認・調査**：V層調査中、暗赤褐色の範囲を検出した。中心部がやや強く被熱し、被熱層がやや厚い。縁辺は漸遷し、周囲は黒色土が落ち込んでいる。

**時期**：周辺の遺構・遺物から、縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

(V F-1～7：阿部)

#### V F-8 [図IV-44、図版14]

**位置**：A地区 C67区、標高約64m **層位**：V b層

**平面形**：不整形 **規模**：0.56×0.48/0.08m

**確認・調査**：V層調査中、暗褐色に焼けた範囲を検出した。半載した断面から、V層が厚さ8cm程度被熱していた。焼成は弱い。

**時期**：周辺の遺構・遺物から、縄文時代後期初頭か。

(新家)

#### V F-9 [図IV-44、図版14・79・103]

**位置**：A地区 F70区、標高63～64m **層位**：VI層

**平面形**：(炉) おおむね方形 (土坑) おおむね楕円形 **全体規模**：0.84×0.82m

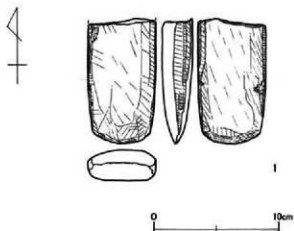
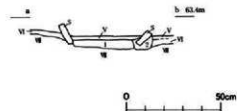
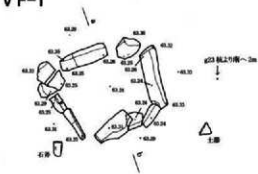
**確認・調査**：V層を掘り下げたところ、角柱状の礫が隣接して出土した。さらに周辺を掘り下げ、黒色土の落込みを検出し、角柱状の礫がおおむね方形の配列となった。土坑を半載したところ、深さ12cm程度でやや平坦な坑底面を検出し、土坑を伴う石組炉と認定した。大型の角柱状の礫は5点ほどで、ほとんどが外傾する状態で配置されており、一部暗赤褐色になっている部分のみみられた。また破砕した礫も多数みられた。

**遺物出土状況**：土坑内からⅢ群b類土器2点が出土した。また炉石は破片を含め32点、合計34点の遺物が出土した。

**時期**：遺構の構造から、縄文時代後期初頭とみられる。

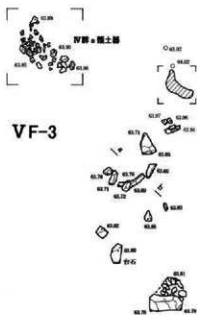
(阿部)

VF-1



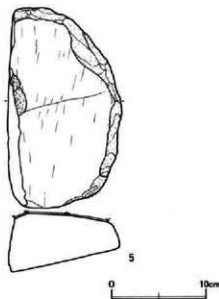
VF-1

1. 黒褐色 (10Y2.5/2) 細砂・珪砂・粘土や中多含む。しまり中。炭化物少量
2. 暗褐色 (10Y2.5/3) (1Y2.5/3) 小礫多量

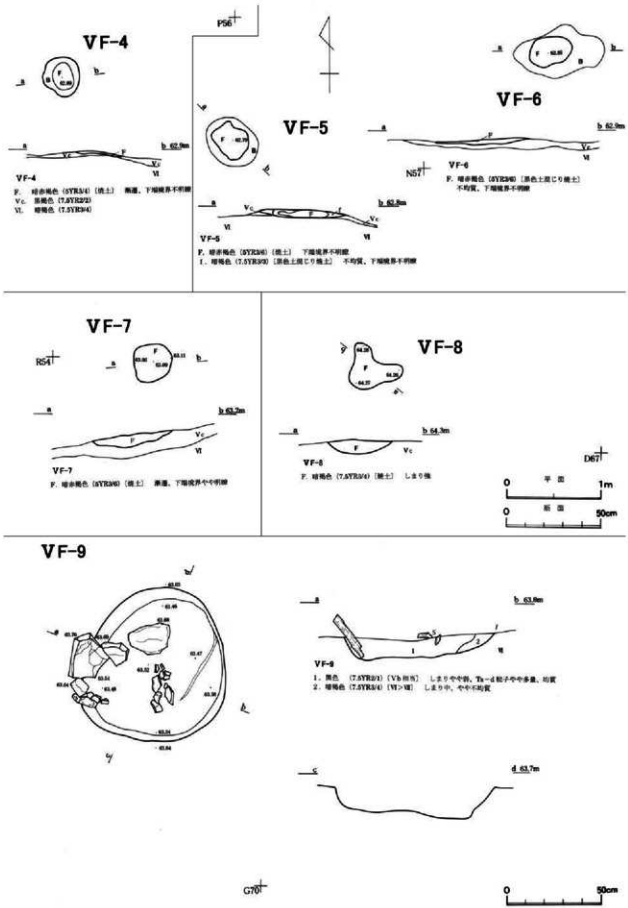


VF-3

1. 黒褐色 (10Y2.5/3) しまり中や弱 コーア部中多含む。平切質



図IV-43 VF-1・3



図IV-44 VF-4~9

## 5 土器集中

### VPB-1 [図IV-45、図版80・104]

位置：C地区 U・V20区、標高64.2m前後 層位：Vb層 規模：2.15×1.36m (0.23m)

確認・調査：V層調査中、こまかな土器片がまとまっているのを検出した。土器片は計230点あり、全て縄文時代早期後葉東銅路IV式のものである。土器片と重なるように砂岩の大型板状礫1個体、118片がやや東寄りに出土した。板状礫の総重量は7kg弱を量る。これ以外に珪化岩のつまみ付きナイフ1点と、砂岩のすり石が1点、砂岩の礫が13点出土している。

掲載遺物：1はI群b-4類東銅路IV式土器。2は珪化岩製のつまみ付きナイフ。側面に微細な剥離が連続する。3はすり石。断面三角形で、下端に磨り面をもつ。

時期：縄文時代早期後葉である。

### VPB-2 [図IV-46・47、図版80・104]

位置：C地区 a24・25区、標高63~64m 層位：Vb~Vc層 規模：4.90×2.62m (0.15m)

確認・調査：V層調査中、土器片のまとまりを検出した。付近のV・VI層が緩やかに落ち込んでいたため、住居跡を想定しベルトにて土層観察を行ったが、明瞭な立ち上がりや住居跡に相当する要素がみられず、自然地形の落ち込みと判断したため、単独の土器集中とした。土器片は合わせて507点出土し、縄文時代後期の土器片1点以外は全て早期後葉東銅路IV式のものである。土器片のほか砂岩のたたき石・すり石・砥石・台石がそれぞれ1点ずつ、礫が15点出土している。

掲載遺物：4~6はI群b-4類東銅路IV式土器。4・5は同一個体。口縁~胴部に羽状燃系文が展開する。6はまとまって出土し、口縁~胴下部まで復元できた。胴下部はすぼまり、口縁にむかって緩やかに立ち上がる。文様は、口縁部および胴上半部に2本単位の燃系圧痕が並行し、口縁~胴部に燃系による羽状縄文が展開する。7はすり石。8は砥石。板状礫の一部が利用され、縁辺が打ち欠きにより調整されている。9はくぼみ石。やや扁平な楕円礫の表面中央部に連続した敲打痕がみられる。10は台石。おおむね三角形の板状礫の片面に擦痕・敲打痕が複数観察される。

時期：縄文時代早期後葉である。

### VPB-3 [図IV-48、図版80・105]

位置：C地区 g24・25区、標高約63.4m 層位：Vc層 規模：1.46×0.82m (0.13m)

確認・調査：V層調査中、細かな土器片がまとまって出土した。土器片は早期後葉東銅路IV式の破片が計280点出土した。

掲載遺物：11~13はI群b-4類東銅路IV式の同一個体土器。口縁部に間隔のあいた多段の絡条体圧痕があり(11)、やや不整な羽状燃系文が施文されている(12・13)。

時期：縄文時代早期後葉である。

(VPB-1~3：新家)

### VPB-4 [図IV-48・49、図版80・105]

位置：C地区 d21・22区、標高約63.8m 層位：Vb層 規模：3.10×2.20m (0.18m)

確認・調査：調査区北部のVb層で検出した。3.10×2.20mの範囲に余市式の土器片がまとまって出土した。IV群a類土器の破片が41点、ほかにI群b類3点、石鏃が1点である。

掲載遺物：6点図示した。14はI群b-4類東銅路IV式で、口縁部に2本単位の燃系圧痕が並行し、胴部

に羽状燃糸文が展開する。15～19はIV群a類余市式、19は口縁部と底部を欠損する深鉢形土器である。胴部に張出はなく、上位に貼付帯が1条廻り、地文には異方向原体の羽状縄文が施される。20は黒曜石製の石鏃で、先端部が欠損している。

時期：縄文時代後期初頭である。

(笠原)

#### VPB-5 [図IV-50、図版80・105]

位置：C地区 g25・26、h25・26区、標高63.5m前後 層位：Vb層

規模：3.02×1.84m (／0.20m)

確認・調査：V層掘り下げ中、土器がややまとまって出土する範囲を検出した。おおむね同一面から出土しているが、上下10cm程度の標高差があるものが含まれている。出土遺物の内容は、IV群a類土器146点、礫5点である。

掲載遺物：21～27はIV群a類余市式、21～23は同一個体。胴部の貼付帯はやや細い。24の貼付帯の表面はやや磨滅している。25・26は同一個体。口縁部肥厚帯と貼付帯との間に無文部がある。27は底部。内面に成形時の指頭押捺痕が残る。

時期：縄文時代後期初頭である。

#### VPB-6 [図IV-51、図版80・106]

位置：C地区 c25区、標高63.7m前後 層位：Vc層 規模：2.58×2.34m (／0.22m)

確認・調査：V層掘り下げ中、土器が帯状にややまとまって出土する範囲を検出した。2か所にまとまっている。地形に沿って北東から南西に向かって傾斜して分布している。出土遺物の内容は、I群b-4類土器137点で、3～5cm角の破片が多い。

掲載遺物：28～32はI群b-4類東銅路IV式。いずれも器壁が薄い。28～30は同一個体。地文の羽状燃糸文は細かい燃りて、口縁部および胴部に燃糸側面圧痕が並行する。31・32は同一個体。羽状燃糸文に繩端部の施文がみられる。

時期：縄文時代早期後葉である。

#### VPB-7 [図IV-52、図版80・106]

位置：C地区 b24区、標高約63.8m 層位：Vb層 規模：3.30×2.20m (／0.12m)

確認・調査：V層掘り下げ中、土器がややまとまって出土する範囲を検出した。やや上下があるもののおおむね同一面から出土している。出土遺物の内容は、I群b-4類土器98点、つまみ付きナイフ1点、礫4点である。

掲載遺物：33はI群b-3類中茶路式。細隆起帯上に細い刻みが連続する。34～36はI群b-4類東銅路IV式の同一個体。口縁は直立気味である。均整のとれた羽状燃糸文が展開する。37は珪化岩製のつまみ付きナイフ。腹面下端部付近が内湾し、エンドスクレイパーの機能を兼ね備えていたとみられる。

時期：縄文時代早期後葉である。

#### VPB-8 [図IV-53・54、図版80・106]

位置：B地区 L57区、標高62～63m 層位：Vb層 規模：2.00×1.70m

確認・調査：V層掘り下げ中、土器の出土密度が高い楕円形の範囲を検出した。中心部に大型破片が5点ほど重なっており、その外は細片が多い。出土遺物の内容は、I群b-4類土器1点、IV群a類土器

1,608点、たたき石1点、礫1点である。

**掲載遺物：**38・39はIV群a類タコブ式の同一個体。器壁が厚く、輪積みおよび成形痕が明瞭に残る。地文は太い原体の羽状縄文で、口唇上や内面にも施文がある。口縁部に3列の刺突が連続する。

**時期：**縄文時代後期初頭である。

**VPB-9** [図IV-53・54、図版81・106]

**位置：**B地区 L58・59、M59区、標高約62.8m **層位：**Vb層 **規模：**2.26×1.40m

**確認・調査：**V層掘り下げ中、土器の出土密度がやや高い範囲を検出した。ほぼ同一面出土した。ほとんどが細片である。出土遺物の内容は、IV群a類土器709点である。

**掲載遺物：**40・41はIV群a類の同一個体土器。41の底部は丸みをもつ弱い張り出しがある。底面の器厚が2cmを超える。

**時期：**縄文時代後期初頭である。

**VPB-10** [図IV-55・56、図版81・107]

**位置：**B地区 N53区、標高約63.2m **層位：**Vb層 **規模：**1.70×1.50m

**確認・調査：**V層掘り下げ中、土器の出土密度が高い範囲を検出した。分布の濃淡に差がみられる。5～10cm角の土器片が少数あるが、ほとんどが細片である。出土遺物の内容は、IV群a類土器459点である。

**掲載遺物：**42・43はIV群a類の同一個体。42は口縁部肥厚帯上に縦位の貼付帯が施されている。0段多糸の縄が用いられている。

**時期：**縄文時代後期初頭である。

**VPB-11** [図IV-55・56、図版81・107]

**位置：**B地区 N50区、標高63.3m前後 **層位：**Vb層 **規模：**2.20×1.85m

**確認・調査：**V層掘り下げ中、土器の出土密度がやや高い範囲を検出した。ほとんどが細片で、表裏面が剥落しているものも多い。出土遺物の内容は、IV群a類土器173点である。

**掲載遺物：**44はIV群a類。口縁部肥厚帯の一部とみられる。

**時期：**縄文時代後期初頭である。

**VPB-12** [図IV-56、図版81・107]

**位置：**A地区 F65・66、標高64m前後 **層位：**Vb層 **規模：**1.65×1.05m

**確認・調査：**V層掘り下げ中、土器の出土密度がやや高い範囲を検出した。上下10cm程度の標高差があるものが含まれている。出土遺物の内容は、Ⅲ群土器60点、IV群a類土器10点である。

**掲載遺物：**45・46はⅢ群。45は2列の刺突が連続する。

**時期：**縄文時代中期である。

**VPB-13** [図IV-57、図版81・107]

**位置：**A地区 E68区、標高64m前後 **層位：**Vb層 **規模：**1.45×1.20m

**確認・調査：**V層掘り下げ中、土器の出土密度がやや高い範囲を検出した。おおむね同一面から出土した。比較的大型の破片が多い。出土遺物の内容は、Ⅲ群b類土器65点である。

**掲載遺物：**47・48はⅢ群b類柏木川式の同一個体。周辺包含層からも同一個体が出土している(図IV-80の

72～75)。口縁部肥厚帯は断面三角形をなし、やや深い3列の刺突が連続する。突起下に刺突列の施された縦位の隆帯がある。また口縁部下にも2列の刺突が連続する。

時期：縄文時代中期後半である。

#### VPB-14 [図IV-58、図版81・107]

位置：A地区 D64区、標高約63.2m 層位：Vb層 規模：0.92×0.65m

確認・調査：V層掘り下げ中、土器片がまとまって出土する範囲を検出した。3～5cm角の破片が多いが、大型破片も少数含まれる。出土遺物の内容は、Ⅲ群b類土器179点である。

掲載遺物：49～51はⅢ群b類の同一個体。柏木川式に相当する。胴部はふくらみ、口縁部は外反する。口唇～胴部に連続刺突が施された3本の隆帯が貼付されている。その間に半載管状工具による沈線が多段横走する。

時期：縄文時代中期後半である。

#### VPB-15 [図IV-59、図版81・108]

位置：A地区 G62区、標高約63.3m 層位：Vb層 規模：1.95×1.65m

確認・調査：V層掘り下げ中、土器の出土密度が高い範囲を検出した。おおむね同一面から出土した。大部分が細片である。出土遺物の内容は、I群b-3類土器402点である。

掲載遺物：52～55はI群b-3類中茶路式の同一個体。細隆起帯が多段貼付されており、口縁部での間隔がやや密で胴部が疎である。地文は口縁部に撚りの細かいRL縄文、胴部に間隔のやや狭い羽状燃糸文が施文されている。

時期：縄文時代早期後葉である。

#### VPB-16 [図IV-60、図版81・108]

位置：B地区 M55区、標高約63m 層位：Vb層 規模：2.05×0.83m

確認・調査：V層掘り下げ中、土器の出土密度がやや高い帯状の範囲を検出した。2か所にまとまっておりほぼ同一面から出土した。10cm角程度のやや大型の破片が多数出土している。出土遺物の内容は、IV群a類土器321点である。

掲載遺物：56～60はIV群a類タブコブ式。56は口縁部肥厚帯下に斜め下方向からの刺突がみられる。57は肥厚しない口縁部に間隔をあけて刺突が施されている。58～60は同一個体。器壁が厚く、輪積み成形痕が明瞭に残され、口縁部に間隔をあけた刺突がある。

時期：縄文時代後期初頭である。

#### VPB-17 [図IV-61、図版82・108]

位置：B地区 L56区、標高約63m 層位：Vb層 規模：0.80×0.40m

確認・調査：V層掘り下げ中、土器片がまとまって出土する範囲を検出した。小片がほとんどである。出土遺物の内容は、IV群a類土器230点である。

掲載遺物：61～64はIV群a類。61は外面の一部が残存する。62～64は同一個体。62・63は内面が剥落している。62は口縁部肥厚帯下の刺突が施され、63は地文の縄部部の施文が観察される。

時期：縄文時代後期初頭である。

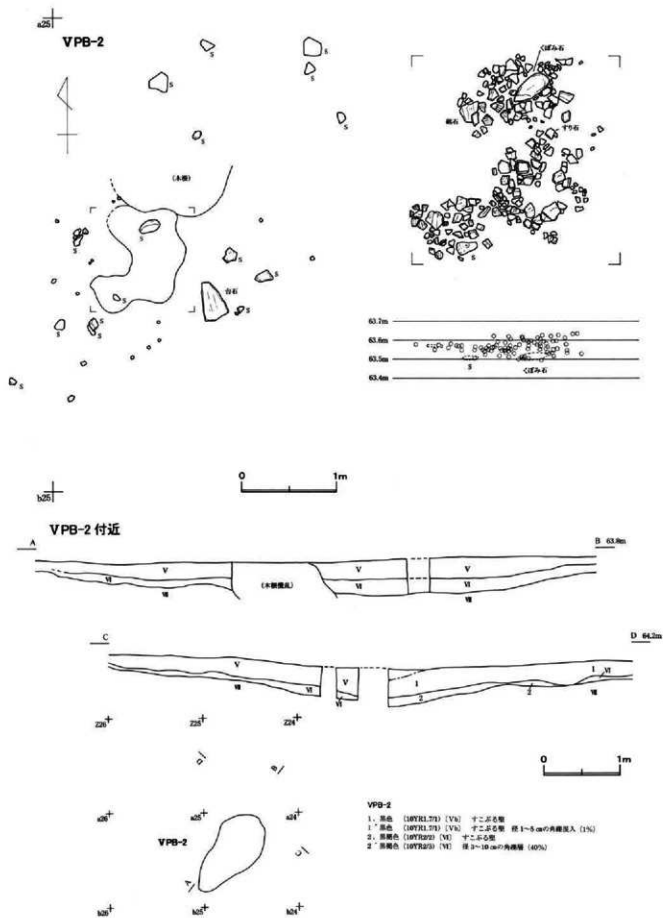
(VPB-5～17：阿部)



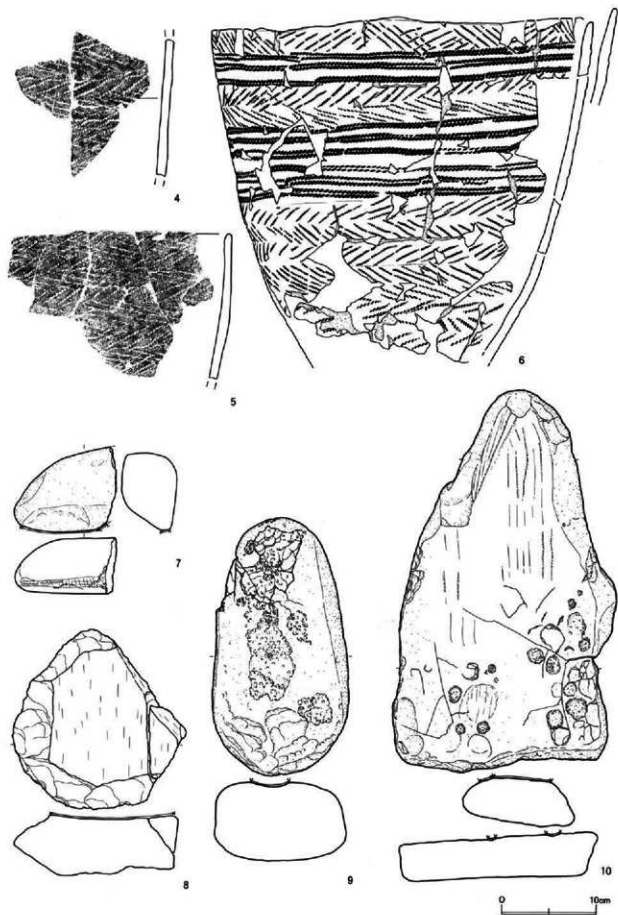
VPB-1



図IV-45 VPB-1

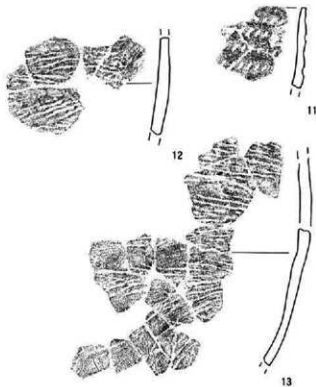
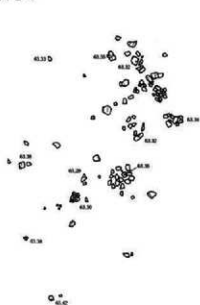


図IV-46 VPB-2



図Ⅳ-47 VPB-2出土の遺物

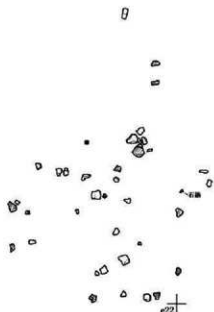
VPB-3



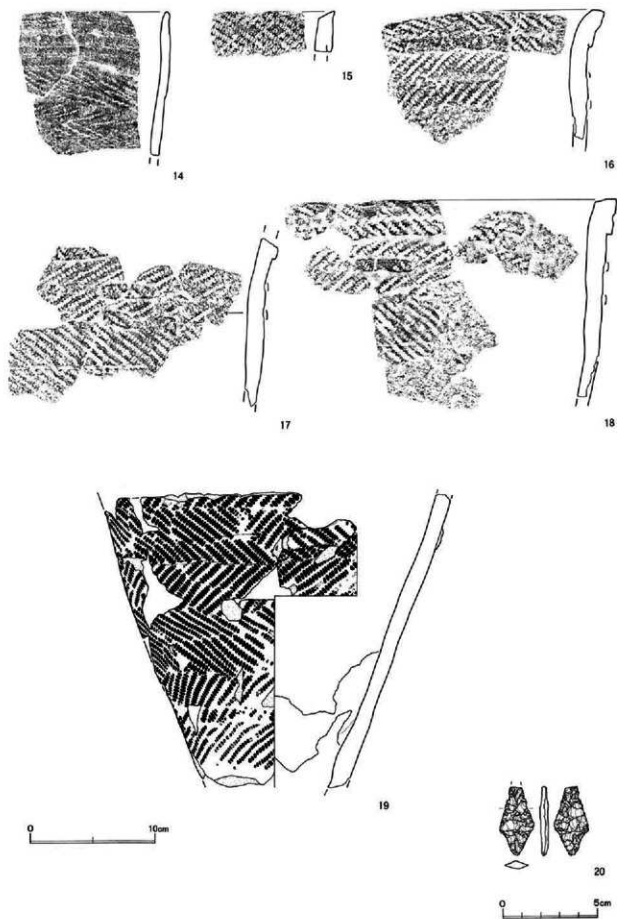
625



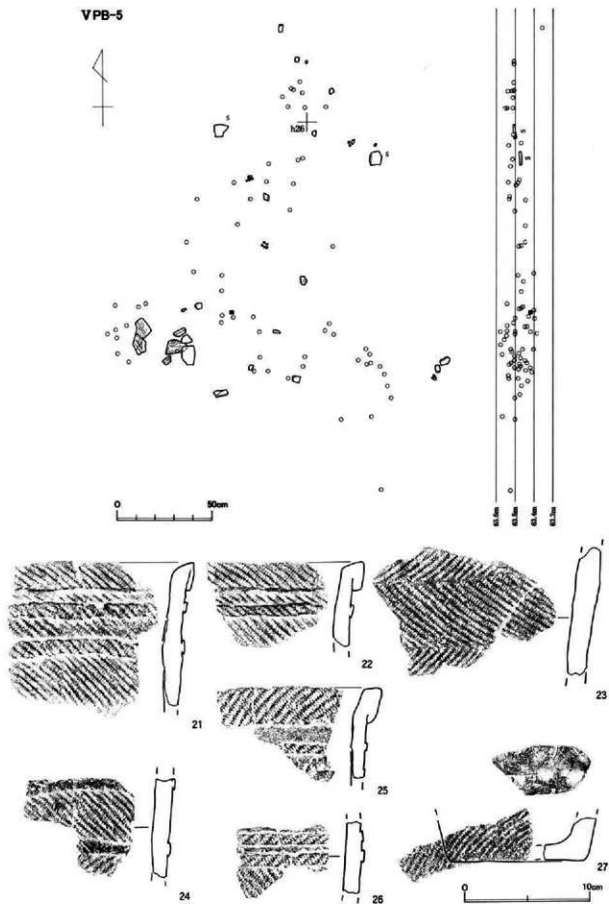
VPB-4



図N-48 VPB-3・4



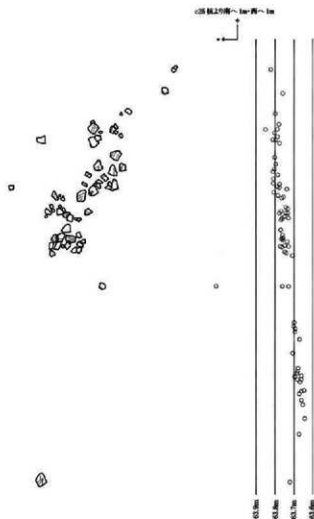
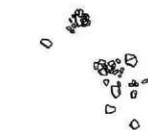
図Ⅳ-49 VPB-4出土の遺物



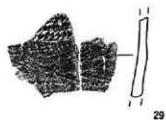
図IV-50 VPB-5

VPB-6

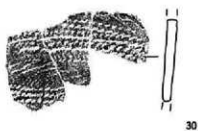
8



26



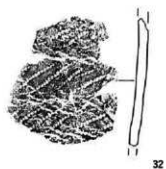
29



30



31

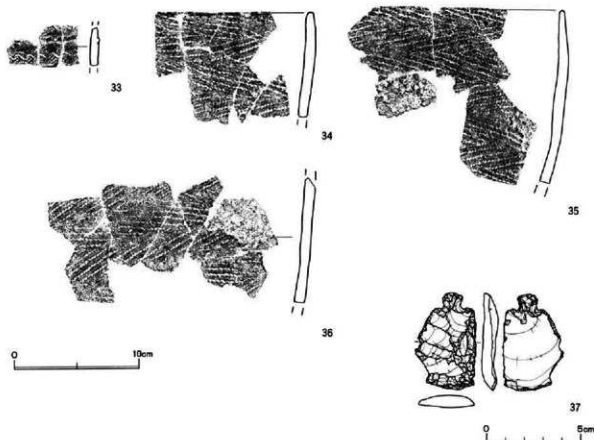
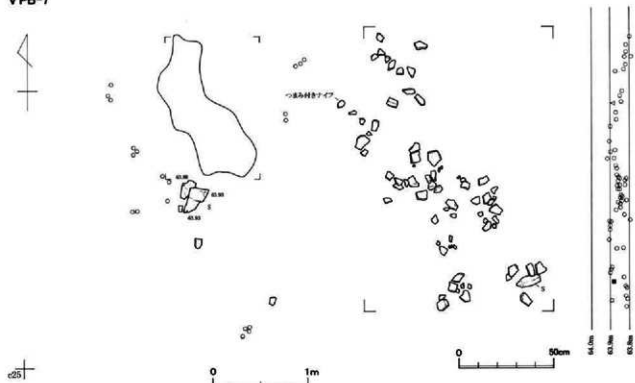


32



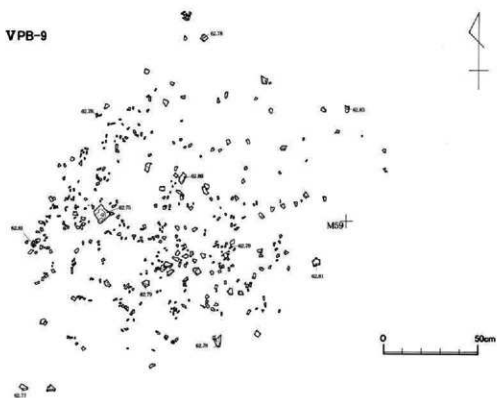
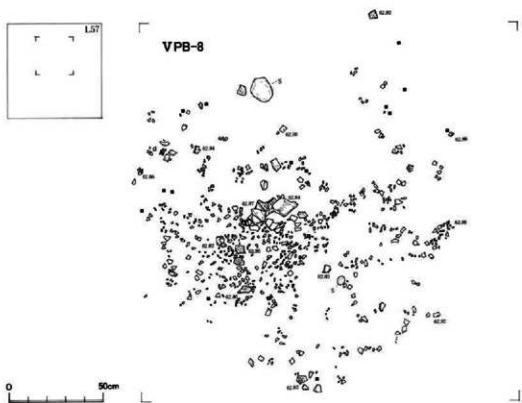
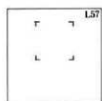
図IV-51 VPB-6

VPB-7



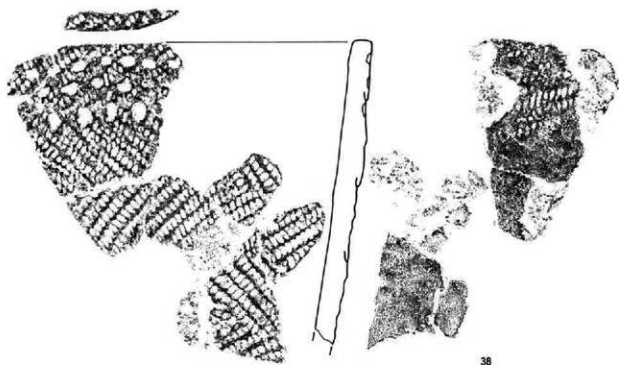
図N-52 VPB-7



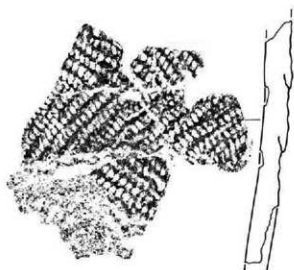


図N-53 VPB-8・9

〔VPB-8〕



38

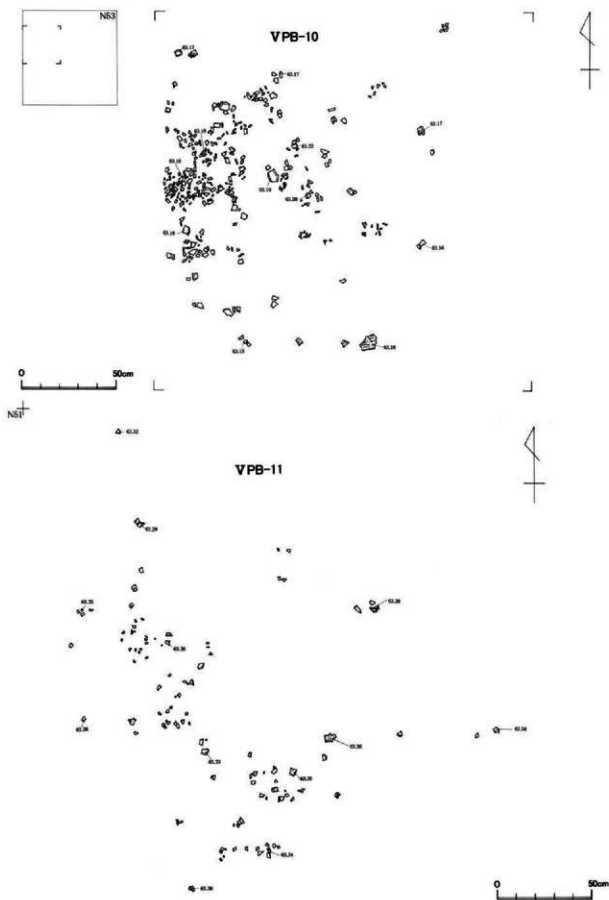


39

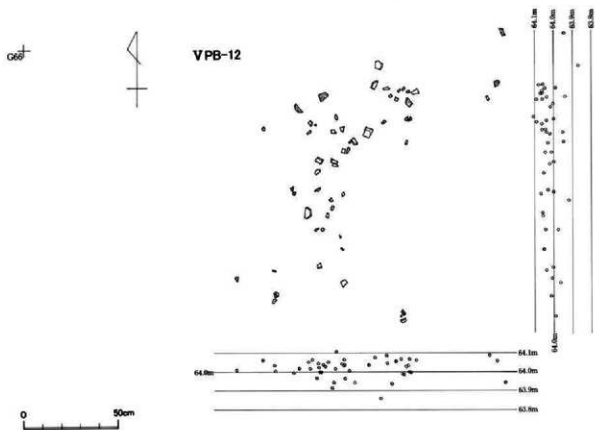
〔VPB-9〕



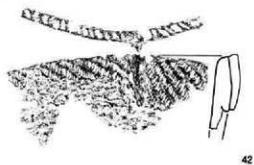
図IV-54 VPB-8・9出土の遺物



図IV-55 VPB-10・11



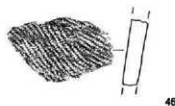
[VPB-10]



[VPB-11]

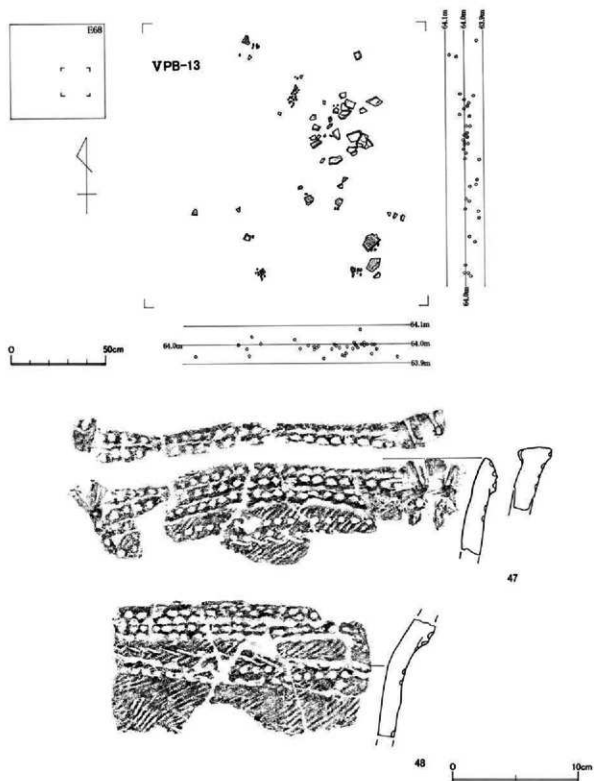


[VPB-12]



0 10cm

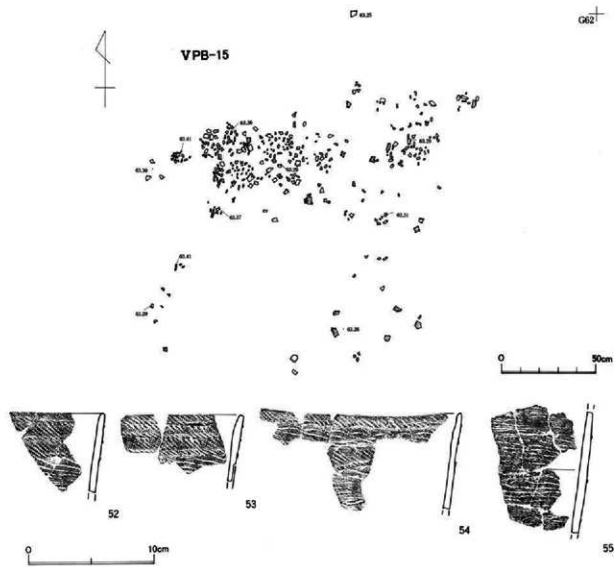
図IV-56 VPB-12・VPB-10～12出土の遺物



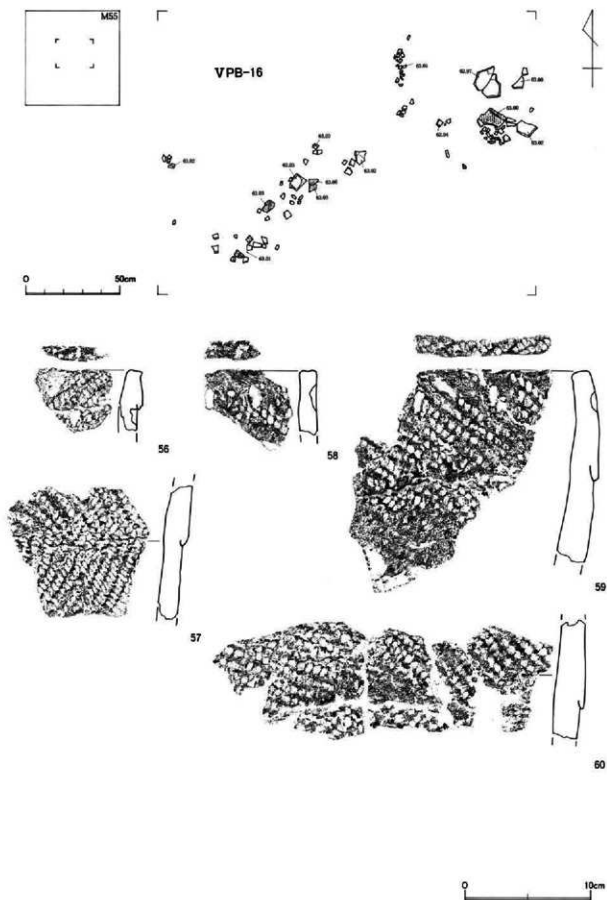
図IV-57 VPB-13



図IV-58 VPB-14

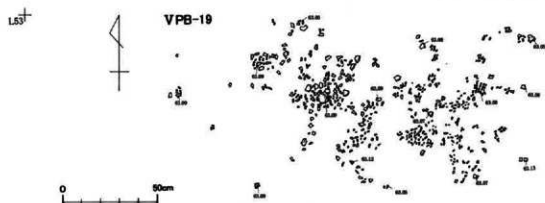
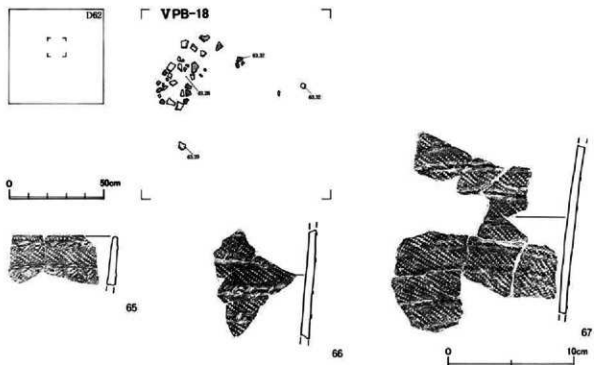
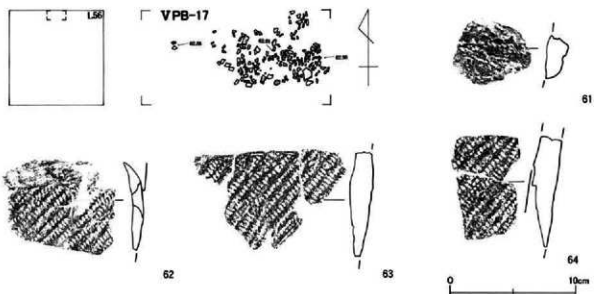


図IV-59 VPB-15



図IV-60 VPB-16





図IV-61 VPB-17~19

## VPB-18 [図IV-61、図版82・108]

位置：A地区 D62区、標高約63.3m 層位：Vb層 規模：0.80×0.62m

確認・調査：V層掘り下げ中、土器がややまとまって出土する範囲を検出した。ほとんどが小片である。出土遺物の内容は、I群b-3類土器51点である。

掲載遺物：65～67はI群b-3類中茶路式。65は細隆起帯間に地文の結束羽状縄文が施されている。66・67は同一個体。口縁～胸部に細隆起帯がほぼ等間隔で貼付され、RL縄文が全面に施文されている。

時期：縄文時代早期後葉である。

## VPB-19 [図IV-61、図版82]

位置：B地区 L52区、標高約63m 層位：Vb層 規模：1.95×1.00m

確認・調査：V層掘り下げ中、土器の出土密度が高い範囲を検出した。ほとんどが細片で、表面が剥落したものも多い。出土遺物の内容はIV群a類土器626点である。細片のため出土状況図を示すにとどめた。

時期：縄文時代後期初頭である。

(VPB-18・19：阿部)

## 6 石器集中

## 石器集中1 [図IV-62、図版82・109]

位置：C地区 Z20区、標高約63.8m 層位：Vb層 規模：2.30×1.24m (0.13m)

確認・調査：Vb層中のほぼ同一面から黒曜石製の石鏃20点、石槍1点がややまとまって出土した。

掲載遺物：1～20は石鏃。すべて三角形を呈し、基部が内湾する無茎のものである。長さ1.7～2.9cmで、2cm前後でまとまっている。尖頭端を欠くもの(1・4・12)、基部の一部を欠くもの(6・10・11・13・14・19)が少数みられる。21は石槍。かえしが弱くひし形をなしている。

時期：石鏃の形態等から縄文時代前期と考えられる。

(笠原)

## 石器集中2 [図IV-63、図版82・109]

位置：A地区 F71区、標高約63.6m 層位：Vb層 規模：0.12×0.10m (0.08m)

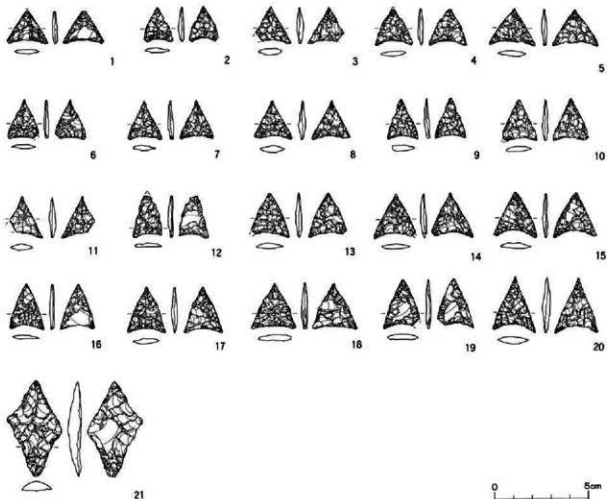
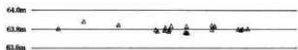
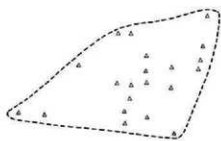
確認・調査：V層を掘り下げ中、小型の石槍が重なって出土する箇所を検出した。尖頭方向は多様で、上下方向で出土するものも複数ある。計14個体の石槍が出土した。袋状のものあるいは小土坑に納められていたことが考えられる。

掲載遺物：22～35は石槍。長さ4.3～6.6cmで、5cm前後にまとまっている。かえしが弱いものがほとんどである。茎部下端が尖るものが少数あり(22・28・33など)、22はひし形に近い形状である。34は尖頭部で折損していたものが接合した。

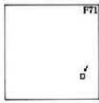
時期：石槍の形態から縄文時代中期～後期と考えられる。

(阿部)

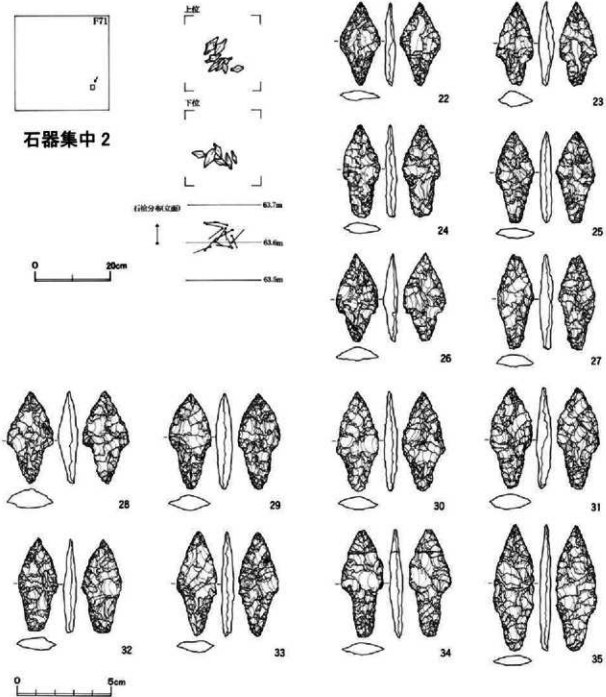
石器集中1



図IV-62 石器集中1



## 石器集中2



図IV-63 石器集中2

## 7 フレイクチップ集中

VFC-1 [図IV-64・65、図版82・109]

位置：C地区 a・b20区、標高約63.8m 層位：Vb層 規模：0.84×0.80m (0.09m)

確認・調査：調査区北部、北北東-南南西にのびる微高地のふもとの浅い沢地形に沿って、フレイクチップや石器が集中して出土する範囲を3か所検出し、北側をVFC-1とした。ほぼ同一面でおおむね楕円形の範囲にまとまり、密集域が2か所ある。

出土遺物の内容は、石鏃3点、スクレイパー3点、Rフレイク3点、Uフレイク8点、フレイク197点である。石材はすべて黒曜石である。長さ5～10cm程の比較的大型の剥片類が多く、スクレイパーなどの石器も同様の剥片が用いられている。出土状況や遺物の内容から、主に黒曜石製の石器素材が袋状のものに納められていたものと推測される。

掲載遺物：1・2は石鏃。2は片面調整で、背面も周縁部のみに連続剥離が施されている。3～5はスクレイパー。側縁に連続剥離がみられる。5は背面に原石面が大きく残る。6はRフレイク。右側縁に連続剥離、左側縁に微細な剥離痕がみられる。7～9はUフレイク。長さ5～10cmの剥片で、周縁に微細な剥離が観察される。10～12はフレイク。長さ5～7cmの比較的大型の剥片。11は3点が接合した。円縁の原石面が残る。

時期：周辺のVFC-3の石器の内容から、縄文時代前期と推察される。

(阿部)

VFC-2 [図IV-64・66、図版82・110]

位置：C地区 b20区、標高約63.8m 層位：Vb層 規模：2.04×0.30m (0.10m)

確認・調査：VFC-1の南側、フレイクチップや石器が沢地形に沿って帯状に分布する範囲を検出した。おおむね同一面から出土している。遺物の内容は、つまみ付きナイフ1点、Uフレイク4点、フレイク23点である。石材はすべて黒曜石である。

掲載遺物：13はつまみ付きナイフ。両面とも上半部に細かい剥離調整が行われており、ノッチ状の加工によりつまみ部を作出している。背面に原石面が残る。14～16はUフレイク。長さ6cm前後で背面に稜をもつ縦長の剥片。側縁に微細な剥離痕が多数観察される。

時期：周辺のVFC-3の石器の内容から、縄文時代前期と推察される。

(阿部)

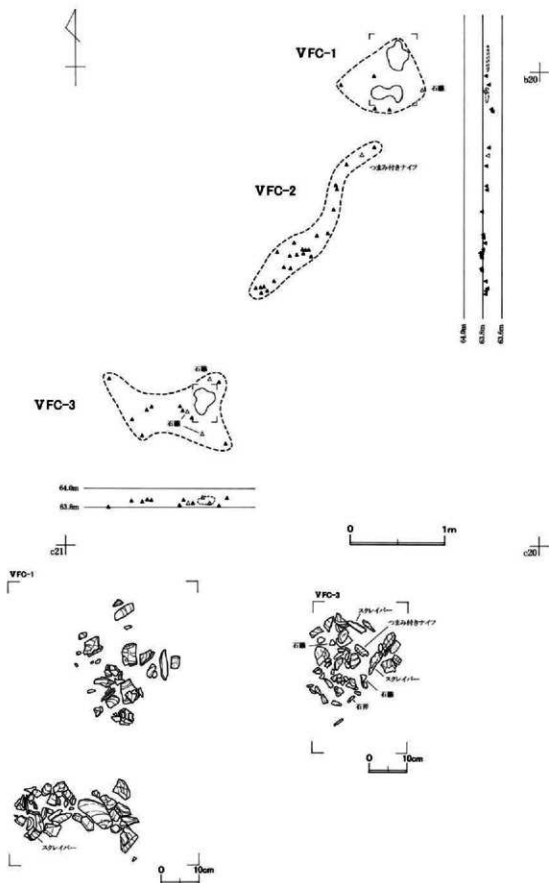
VFC-3 [図IV-64・66、図版82・110]

位置：C地区 b20区、標高63.8～63.9m 層位：Vb層 規模：1.44×1.02m (0.10m)

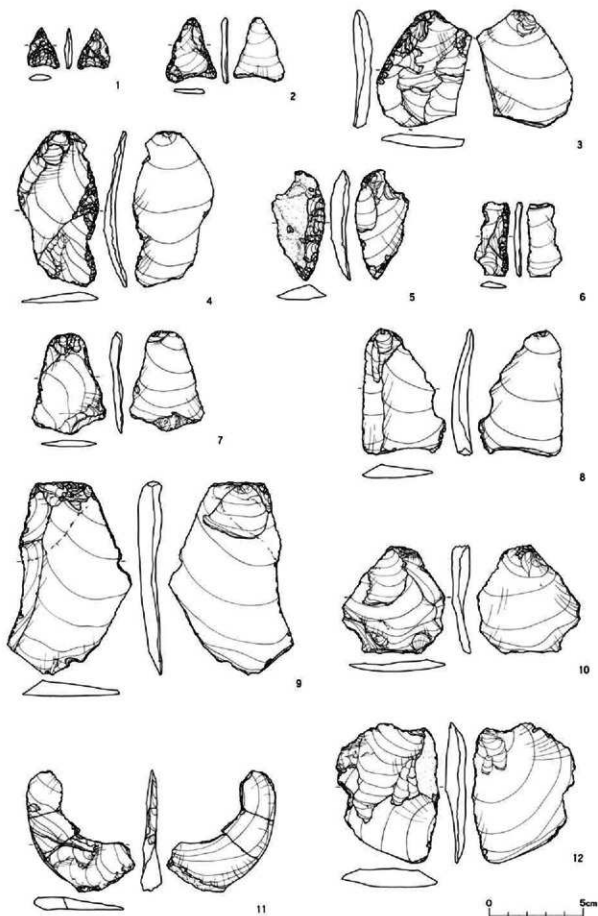
確認・調査：VFC-2の南側、フレイクチップや石器が沢地形にややまとまって出土する範囲を検出した。やや高低差があるもののおおむね同一面から出土しており、密集域が1か所ある。

出土遺物の内容は、石鏃14点、石錐1点、つまみ付きナイフ3点、スクレイパー2点、Rフレイク20点、Uフレイク12点、フレイク53点、石斧片2点、合計107点で、VFC-1・2と比較して石器製品類が多いことが特徴である。石材は大部分が黒曜石であるが、赤みを帯びるものや透明度が高いものなど、産地が異なるとみられるものが含まれる。また頁岩、珪化岩、緑色片岩製の石器・剥片がみられ、色調が多様である。出土状況や遺物の内容から、石器製品と黒曜石の石器素材が袋状のものに納められていたものと推測される。

掲載遺物：17～22は石鏃。いずれも三角形で、19・22が平基、それ以外が凹基である。端部が破損したものが多く、22は石槍先頭部が折損した後再加工したものと推測される。23は石錐。剥片の一端を加工し

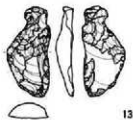


図N-64 VFC-1~3

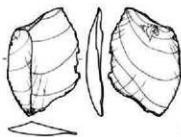


図IV-65 VFC-1の遺物

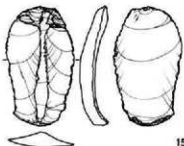
## 【VFC-2】



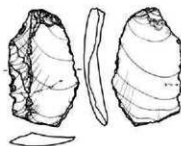
13



14



15



16

## 【VFC-3】



17



18



19



20



21



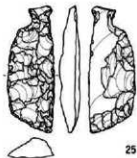
22



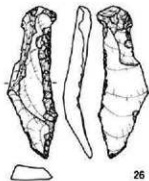
23



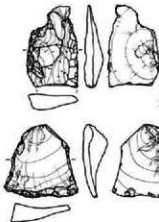
24



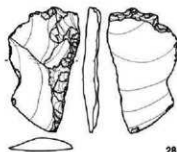
25



26



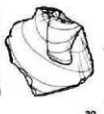
27



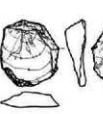
28



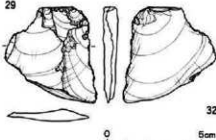
29



30



31

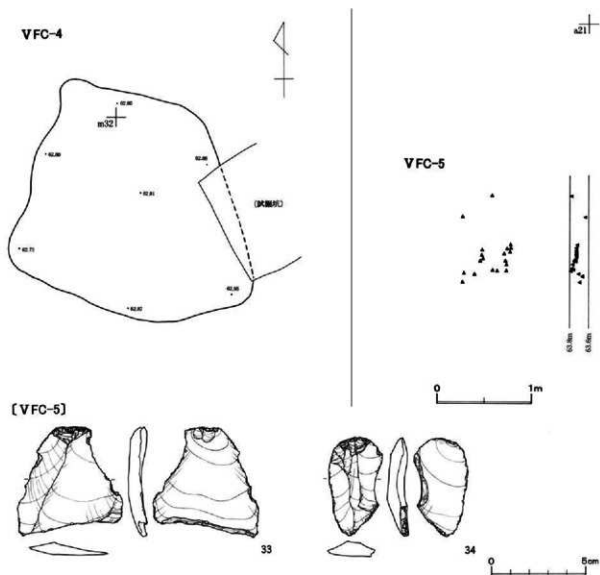


32



図IV-66 VFC-2・3の遺物





図IV-67 VFC-4・5

て鋭い突出部を作出している。24～26はつまみ付きナイフ。24は縦長の剥片の両側縁に連続剥離を施し、上端部につまみ部を作出している。25は背面全体と腹面側縁から下端部にかけていねいな加工が行われている。26はつまみ部がやや大きい。右側縁に連続剥離が施されている。27・28はスクレイパー。27はつまみ付きナイフを意図して製作した可能性がある。29はRフレイクとしたが、エンドスクレイパーに近い。30～32はUフレイク。31はラウンドスクレイパーに近い。

石材は、25・26のつまみ付きナイフが頁岩、27のスクレイパーが珪化岩、31のUフレイクが頁岩で、それ以外は黒曜石である。

時期：石器の内容から、縄文時代前期と推察される。

(阿部)

## VFC-4 [図IV-67、図版83]

**位置:** C地区 0・m31・32区、標高約62mの段丘縁辺肩部 **層位:** Va層 **規模:** 3.00×2.50m  
**確認・調査:** V層調査中、数mm大の黒曜石の剥片がまとまっているのを検出した。礫集中VS-1と重複する。剥片はVa～Vb層にかけて計2,746点出土し、このうち1,312点は土壌水洗により回収した。  
**時期:** 周辺で出土している遺物などから縄文時代中期～後期と思われる。

(新家)

## VFC-5 [図IV-67、図版83・110]

**位置:** C地区 a21区、標高:約63.7m **層位:** Vb層 **規模:** 1.00×0.72m (0.17m)  
**確認・調査:** Vb層掘り下げ中、黒曜石の剥片20点がまとまって出土した。  
**掲載遺物:** 33・34は黒曜石の比較的大型の剥片。背面に稜をもつ。  
**時期:** 縄文時代前期～後期と考えられる。

(笠原)

## 8 礫集中

## VS-1 [図IV-68、図版83・110]

**位置:** C地区 032、m31・32区、標高62～63mの段丘縁辺肩部 **層位:** Vb層  
**規模:** 5.30×3.40m  
**確認・調査:** V層掘り下げ中、舌状に張り出す段丘肩部から沢地形の斜面部にかけて、礫が多量出土する範囲を確認し、礫集中とした。なお南東側の一部は上位に黒曜石のフレイクチップが多数出土する範囲を検出している(VFC-4)。礫は斜面の傾斜に沿って分布しており、約80cmの高低差がある。礫の形状は扁平楕円体が多く、板状礫も多数出土している。また扁平礫を主体に100点以上が被熱していた。

出土遺物の内容は、石槍1点、石斧2点、北海道式石冠1点、礫167点である。

**掲載遺物:** 1は黒曜石製の石槍。長さ12cmをこえる大型のもので、かえしが弱く基端部が丸みを帯びる。表面がやや磨滅している。2は緑色片岩製の石斧。基部は折損ではなく、えぐりの入った素材が用いられている。3は砂岩製の北海道式石冠。頂部および側面の一部が欠損している。底面は平坦だがやや丸みを帯び、全面でいねいに磨り込まれている。

**時期:** 周辺の出土遺物から、縄文時代中～後期である。

(新家)

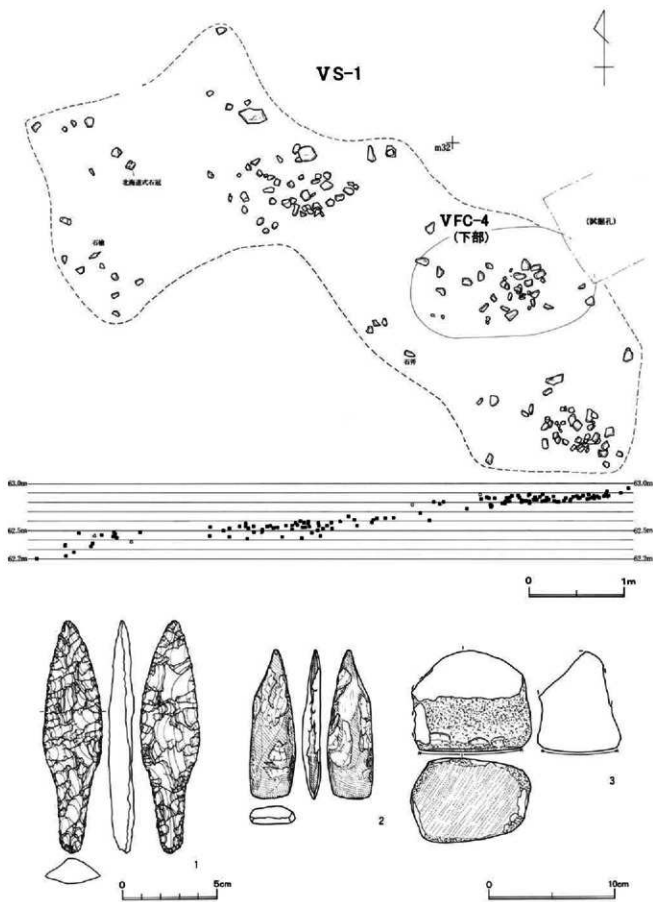
## VS-2 [図IV-68、図版83]

**位置:** B地区 N57区、標高62.8m **層位:** Vb層 **規模:** 0.80×0.46m  
**確認・調査:** V層上面を精査中、大型の礫の一部を確認した。礫の基底面まで掘り下げたところ、10～20cm角の大型の礫が重なって出土し、礫集中とした。

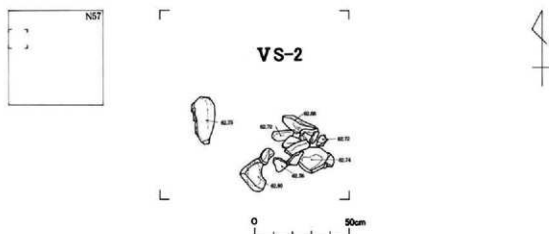
出土遺物の内容は、礫19点である。砂岩の大型の板状礫および砂岩・泥岩の亜角礫。

**時期:** 周辺出土の遺物などから、縄文時代後期初頭と推測される。

(阿部)



図IV-68 VS-1



図IV-69 VS-2

## 9 フローテーション法による微細遺物の調査

竪穴住居跡や焼土などでは、炭化材片や種子、骨片等が含まれているものが時々見受けられる。これらの微細な自然遺物の内容を把握するため、フローテーション法を用いて水洗選別した。対象とした土壌は、竪穴住居跡では炭化物を含むとみられる炉跡、その他焼土である。5サンプルを採取した。対象土壌の総量は、約7.7kg・約10.5リットルである。

結果（表IV-1）、自然遺物では炭化物が計約9g回収された。人工遺物としては、土器の破片が計28点、微細な剥片が計184点検出された。炭化物が回収された遺構・層位は、VH-1・2の炉跡（HF）およびVF-1の焼土である。炭化種子の一次選別を行い、検出した種子と思われる粒子の同定を委託した（V章8）。また一部を放射性炭素年代測定試料（V章11）とした。

炭化種実同定の結果は（V章8）、種子ではなく微細な炭化材片であると判明した。

表IV-1 V層フローテーション結果

試料番号	遺構	層位	採取量		回収量(g)			回収遺物				備考	
			体積(ml)	重量(g)	残渣	浮遊物 (2.0mm)	浮遊物 (0.425mm)	土器 (点)	石器 (点)	骨片 (g)	炭化物 (g)		炭化粒子 (粒)
上3-25	VH-1HF-1	焼土上面	1,830	1,260	33.8	2.8	3.2		7		5.0	2	
上3-26	VH-1HF-1	焼土	2,625	1,865	31.9	0.5	0.9		26		0.9	2	
上3-27	VH-2HF-1	焼土上面	3,800	2,870	466.5	1.6	3.4	28	3		1.6		
上3-28	VF-1	覆土上位	1,425	1,100	333.6	0.5	0.6		18		0.7		
上3-29	VF-1	覆土	850	600	154.2	0.6	0.6		130		0.8		
合計			10,530	7,695	1020.0	6.0	8.7	28	184		9.0	4	

## 10 包含層（V層）出土の遺物

### （1）遺物出土状況 [図IV-70～75]

V層では、遺構以外から合計13,171点の遺物が出土した（遺構は約12,300点）。全体の分布傾向を示すものとして、これらV層包含層の発掘区別・遺物種別（土器は分類別）の分布図を作成した（図IV-72～75）。ただし、「包含層」として取り上げた点数であり、遺構出土点数が含まれていない点に注意が必要である。また重機併用調査を行っている発掘区では、出土分布傾向の大幅な相異はないが、分布図に多少の影響を及ぼしている。

#### 土器：[図IV-72・73]

計5,775点が出土した。I群b類25点、I群b-3類318点、I群b-4類542点、II群b類94点、III群a類257点、III群b類1,837点、IV群a類2,667点、IV群c類28点、不明・ほか6点、土製品1点である。

土器全体では、A地区は北部を除くほぼ全域に分布し、特に北西部～中央付近に出土点数の多い発掘区がある。B地区も広域に分布するが、東部と中央部にやや希薄な部分がある。C地区は中央東部や南部の東寄りなど、段丘縁部からの出土が多い。北部は散在する。

【I群b類】I群b-3類中茶路式は、A地区南東部のH63～I61区付近、B地区東部のN49区、C地区中央部のc25・26区（図IV-70上）など、各地区に限定的に分布する。

I群b-4類東銅路IV式はA地区北東部、B地区西部および東部、C地区は北部および中央部にまとまって出土する発掘区があり、C地区には土器集中が5カ所ある。

【II群b類】石器類では前期の土器に伴う特徴的な形態をもつものが一定程度見受けられるが、土器は極めて限定的でB地区の中央付近に局所的に分布する。

【III群a類】A地区は中央部のIII H-6付近のやや広い範囲に、B地区は南部のQ49区付近に多出する発掘区があり、C地区は南部に数点が出土するのみである。

【III群b類】A地区は北東部を除くほぼ全域に分布し、2けたの点数の発掘区が多い。2カ所の土器集中がある。B地区は広域に散在する。中央東部のN50区に土器集中がある。C地区は南部の舌状段丘上に集中する。

【IV群a類】各区広域に分布するが、発掘区ごとの分布の濃淡が顕著である。土器集中が各区にあり、包含層においては、A地区中央部のG65区、B地区のJ59・K51・O57・Q54区、C地区のc21区にそれぞれ3ケタの点数の発掘区がみられるなど、集中地点が散在する。

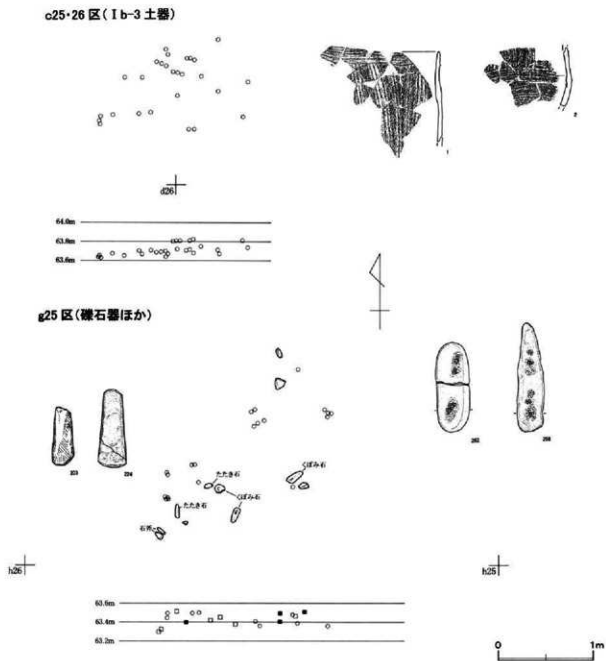
このほか、IV群c類がC地区中央東部の段丘縁部、f24区に分布する。

#### 石器等：[図IV-74]

石器等は1,218点が出土した。剥片石器は石鏃169点、石槍92点、石鏃13点、両面調整石器10点、つまみ付きナイフ27点、スクレイパー70点のほか、Rフレイク149点、Uフレイク53点、石核2点がある。礫石器は石斧類189点、たたき石86点、くぼみ石105点、すり石26点、北海道式石冠1点、石鐘7点、砥石141点、台石48点のほか、加工痕ある礫等20点がある。また石製品が7点出土している。

剥片石器は各地区から広域に出土しているが、発掘区あたり一桁の点数がほとんどで、散在する傾向にある。ただし局所的に10点を超える発掘区があり、A地区中央部、B地区西部・南部、C地区南端部にみられる。A地区北東部に石器集中、C地区北部に石器集中およびフレイクチップ集中がある。

礫石器も各地区から広域に出土しているが、やや濃淡に差がみられる。A地区は西～南部の段丘縁部に多い。B地区はやや散在する。C地区は南部の舌状段丘上に点数の多い範囲がある。中央部も比較的多く、

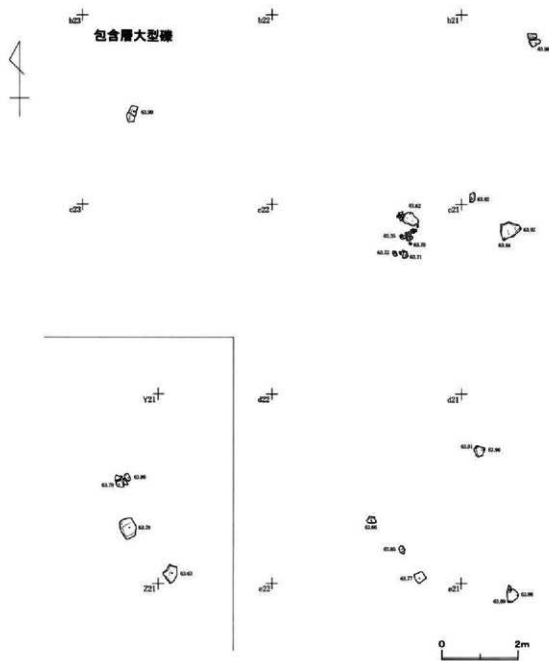


図IV-70 V層包含層遺物出土状況(1)

石斧やくぼみ石がややまとまって出土した発掘区がある(g25区、図IV-70下)。

フレイク：〔図IV-74〕

3,075点出土した。各地区広域に分布する。A地区は北東部の沢付近と南西部の段丘縁辺部では少なく、中央部と南端部に集約している。B地区は北東部がほとんど空白であるが、それ以外は全域から多数出土しており、100点を超える発掘区がある(N55区)。C地区は南部の舌状段丘上のほか、中央東部の微高地から浅い沢地形にかけて出土点数が多く、100点を超える発掘区がある。後者の範囲には、フレイクチップ集中(VFC-1~3)もある。



図IV-71 V層包含層遺物出土状況(2)

礎：〔図IV-75〕

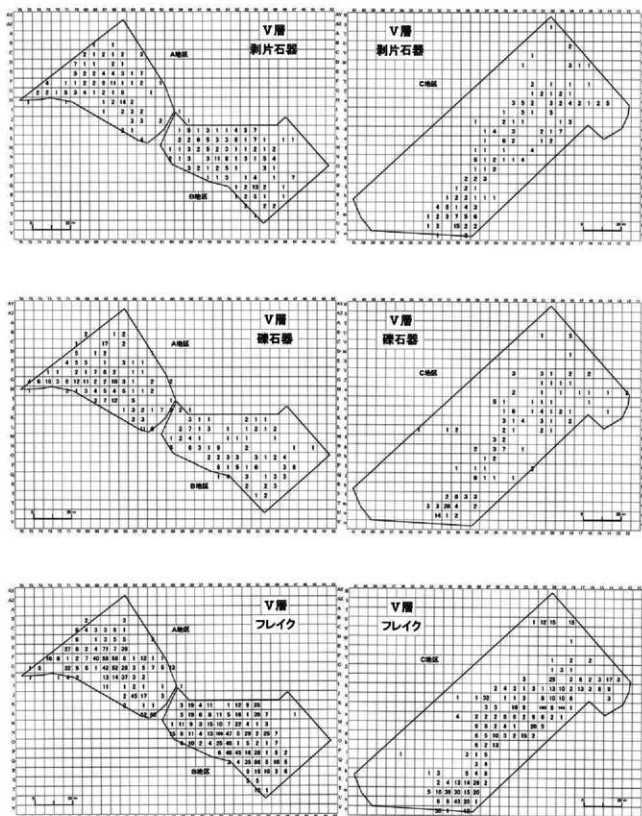
3,099 点出土した。各区広域に分布する。土器・石器等の遺物がほとんど出土していない発掘区でも少数分布し、特にC地区北部～北西部にその傾向がある。各地区とも、段丘縁辺側の発掘区に点数が多い傾向にある。局所的に100点を超える発掘区があるが、破砕礫が含まれているものもある。

C地区北部～中央東部の微高地に沿った浅い沢地形付近では、大型板状礫や台石が帯状に分布しているところがある(図IV-71、図版84)。

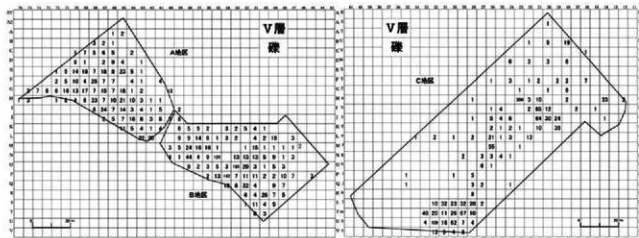








図Ⅳ-74 発掘区別V層遺物分布図(3)



図IV-75 発掘区別V層遺物分布図(4)

## (2) 土器・土製品 [図IV-76~83、図版23・111~116]

### 縄文時代早期後半の土器 (1~24)

1~9は中茶路式。1・2はC地区c25・26区でまとまって出土し(図IV-70)、同一個体と思われる。細隆起線やその間の羽状縄文が、横位だけでなく縦位にも展開されている。1は胴部がややふくらみ口縁部でわずかにすばまり直立する。口唇はとがる。口縁部の細隆起線間には細かい燃糸が押捺されている。2は胴下部の屈曲部で、縦位の区画文から横位の文様へ転換し、細隆起線間の充填文様も変えている。3・4は同一個体。胴部の横位の細隆起線は、弱い波状をえがくものがある。平底で、わずかに丸みをもって立ち上がる。底部付近まで細隆起線が多段設けられている。5~7は同一個体。細隆起線は薄く、細かい燃りの羽状縄文が密に施されている。胴部には並行する細隆起線間に弧状や曲線の細隆起線が付されている。口唇は丸みのある角形である。8・9は同一個体。細隆起線の両裾部に細沈線がみられる。口唇は細くなりややとがる。

10~24は東銅路IV式。10と11、14と15はそれぞれ同一個体。全体的に黒褐色を呈し、胎土に石英粒や雲母粒が多く含まれる(富良野盆地系?)。細隆起線が残存する、中茶路式から東銅路IV式の移行期のものと思われる。10・11は弱い波頂部をもつ口唇下に刻みが連続し、地文の羽状燃糸文はやや間隔が広い。14・15は、口唇下に絡条体圧痕が2段あり、地文の羽状燃糸文がやや密に施されている。細隆起線は口縁部に2条だけ施されている。17は口唇が薄い角形で、口縁下は厚みを増す。斜行する燃糸文の重複が観察される。18・19も同一個体で、全体的に黒褐色を呈し、胎土に石英粒が多量に含まれる。薄手で直線状にやや外傾する口縁で、口唇は丸みをもつ。羽状燃糸文がやや密に施されている。20は結節羽状縄文が施文されている。21はC地区中央東部で出土した14点が接合した。22~24は底部。平底で、斜方向に立ちあがる。22は羽状縄文の結節部とみられる文様が施文されている。24は外面が磨かれている。

### 縄文時代前期後半の土器 (25・26)

25・26はII群b類。厚手で、繊維を多量含む。異方向の縄文原体で縦位に羽状縄文を構成するように施文されている。

## 縄文時代中期前半の土器 (27~42)

27~29は円筒土器上層b式、サイベ沢V式に相当する。27は内外面が暗赤褐色を呈し、二次被熱している可能性がある。3本組の燃糸文が施文されている。対向弧線状に配された隆帯上に細かい燃糸押捺が連続する。28は頸部で屈曲、外反する。平縁部でやや丸みのある口唇である。隆帯を斜位に交差貼付し燃糸押捺を連続させ、隆帯間に2~3本組の燃糸文で弧線などをえがき刺突を施すなどして文様を構成している。口唇上にも隆帯が波状に貼付されている。29は胴くびれ部で、隆帯上に細い刻み列が連続する。また絡条体圧痕や半截管状工具による押引文が無文部に連続する。地文の縄文は、0段多条の原体が用いられている。

30~42は円筒土器上層式に続く中期前半の土器。30~36は厚真1式(赤石1999)で、今回の調査で特徴的な土器の一つである。30は口縁突起部で、隆帯上に並行する3本組燃糸文が押捺されている。また細いヘラ状工具による押引文が密に施されている。31はヘラ状(櫛歯状)工具による条痕文が施され、条痕間および浅い隆帯上に弧状縄文が連続する。VH-6に同一個体がある。32~34は同一個体。口縁はかなり鈍角な断面三角形を呈する。口唇~口縁部には3~4本組の並行する燃糸文間にヘラ状工具による押引文が連続する。35は厚真1式の復元土器。A地区VH-6の周辺発掘区で出土したものが接合した。二次被熱した破片も見られる。胴上部から口縁へ緩やかに外反する。口唇は断面三角形、突起が4か所付され、ゆるやかな波状口縁をなしている。突起および周辺の装飾は、一部欠落するが4か所とも同様のものが付されていたと推察される。2個組の突出部があり、直下に円形の貼付文、その下に橋状把手が設けられ、縦位の隆帯が垂下し横位の隆帯との交点に貼瘤文が付される。顔面・人体装飾を指摘する声もある(当センター内)。隆帯上に押引文のほか、口唇・口縁~胴部に押引文・条痕文が幅広いヘラ状工具により施されている。36は緩やかな波状口縁をなす。口縁部肥厚帯に、燃糸文押捺のある縦位の貼付文が付される。横位の隆帯と波頂部から垂下する隆帯が交差し、貼瘤文が付される。隆帯上とそれに沿って押引文が連続する。

37・38はサイベ沢VII式、萩ヶ岡1式の段階に相当すると思われる同一個体。A地区中央部、VH-6およびその周辺の複数の発掘区と試掘調査出土の破片が接合した。破損後に変色した破片があり、二次被熱しているとみられる。平縁で突起がある。鎖状の隆帯が断面三角形の口縁部肥厚帯上に貼付される。2個組の突起下には2個の貼瘤、弧状・X字状の隆帯の組み合わせで象徴的な文様がえがかれている。37の胴下部の隆帯間には、刺突列も施されている。39は波状のやや浅い隆帯が横位の隆帯に沿う。隆帯上に異方向の3本組の燃糸押捺がある。40の底部はやや張り出す。41は肥厚帯が薄く、波頂部も小さい。見晴町式に併行するものと思われる。一方、42は肥厚帯が厚く、断面三角形をなし波頂部がとがる。

## 縄文時代中期後半の土器 (43~109)

43~47は天神山式。43・44は大きく突出した山形突起。43は頂部の隆帯上に円形刺突列がめぐらる。44は隆帯が横位に貼付され、押引文が付されている。45~47は同一個体。隆帯上に半截管状工具による下位斜め方向からの刺突が連続する。

48~80は柏木川式、一部天神山式が含まれる。口唇は角形を基本とする。48~50は平縁突起部下にハの字に隆帯を配し、隆帯上とそれに沿って押引文が施される。横走沈線が太く浅い。口唇上には細かい刻みが連続する。51~54は同一個体。半截管状工具により、口唇上に刺突列、口縁部に浅い沈線が並行し、方形に区画される(54)。55~58も口唇上に刺突列、口縁部に浅い沈線で区画文がえがかれる。58は隆帯上にやや太い刻みが連続する。60・61は同一個体。薄手で、浅い隆帯上に深めの刺突が連続する。62の横位の沈線は、半截管状工具により2回一組で文様がえがかれていると思われる。

64・65 は円形刺突文が加わる。68 は従位の沈線と横位の隆帯による区画文が施されている。69・70 は同一個体。口唇上・口縁部に文様が集約され、押引文が連続する。71 は丸みのある突起。縦位の短い隆帯がある。刺突に近い押引文が連続する。72～75 は同一個体。胴上部から口縁へ緩やかに外反する。口縁・胴部に2本一組の隆帯を貼付し、隆帯上および口縁部に管状工具で密に刺突列を施している。地文の綾織文が明瞭である。76 はやや薄手で、口縁がゆるく外反する。縦位の隆帯と口唇上に縄文が押捺される。口縁部に沈線が並行する。78・80 は隆帯上にやや太い縄文が押捺されている。81 は北筒式と思われる。口縁部肥厚帯に上方からの刺突による「刻み」列が連続する。

82～92 は柏木川式。口唇はやや丸みをもつ角形である。口唇上に刻み列や刺突列が施される。82・83 は綾織文が明瞭である。87・89～81 は細い刺突による列点により文様が施文されている。89 は3列単位の列点が並行する。90・91 は隆帯や沈線による方形区画文に沿って列点が施されている。92 は口縁部がゆるやかに外反する。やや太いLR縄文が全面施文され、口唇上にも押捺されている。

93～97・99 は柏木川式～ノダップⅡ式に相当する。93・94 は同一個体。胴部がややふくらむ。口縁部肥厚帯を含め、多段の縄線が押捺されている。95 は隆帯上に縄文押捺が行われている。96 は口唇上にも刻むような縄文押捺がある。97 は隆帯上を含め口縁部全体に縄線が連続施文されている。99 は胴部がふくらむ。幅広い浅い隆帯上に縄文押捺がみられるノダップⅡ式とみられる。98 は2条の縄線が施されている。

100～105 は北筒Ⅱ式。口縁部に円形刺突文が連続する。100 は口縁部肥厚帯上に押引文、101 は縄文施文が行われ、肥厚帯下に円形刺突が穿たれている。102～105 は地文が無文である。胎土に石英粒を多く含む「富良野盆地系」（厚真町教育委員会 2010 ほか）である。

106～109 はⅢ群b類の底部。平底で、直立気味に立ち上がり外傾する。

#### 縄文時代後期初頭の土器（110～133）

110～120 は余市式。110～112 は小野幌式段階の同一個体。角形口唇で、口縁部肥厚帯直下に円形刺突文が連続する。無文部をはさみ貼付帯が施されている。113～116 は同一個体。地文の羽状縄文に細めの貼付帯がみられる。117～120 も同様である。118 は縦位の貼付文もある。

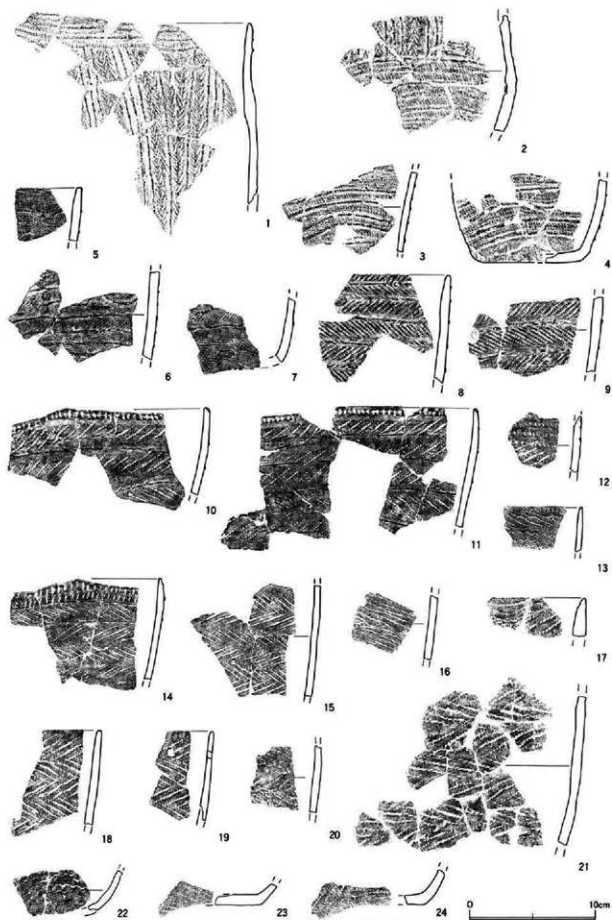
121～132 はタブコブ式。内外面および口唇上にも縄文施文を行うことを基本とする。121 は口縁部肥厚帯を無文とし、縦位の貼付帯を付し小突起を設けている。122・123 はやや太い縦位の貼付帯がある。124・125 は段を有する。125・126 は口縁部肥厚帯下に縦長の刺突が連続する。127・129 は短い横位の縄線が付されている。125・131 にはやや太い縄線が施文されている。132 はほぼ直立する口縁～胴部で、角形口唇である。口縁部に2本の縄線が圍繞する。砂粒を多く含み、平行剥離しやすい胎土である。133 は底面にも縄文が施されている。

#### 縄文時代後期後葉の土器（134・135）

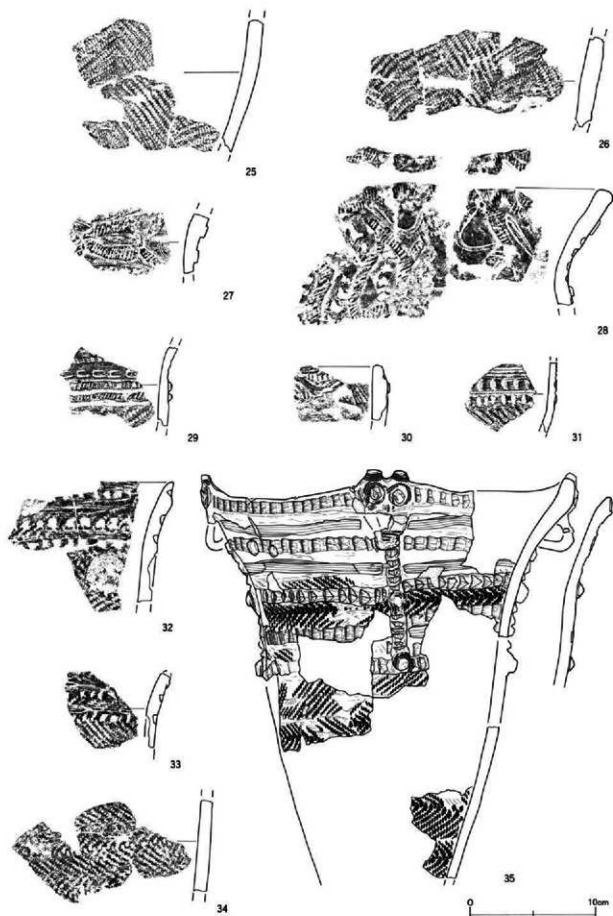
134・135 は同一個体で、御殿山式とみられる。器壁が薄く、角形口唇で平縁に山形の突起があり、深い刻みが施されている。突起部で波状になる多条の横走沈線とその下に多条の平行沈線がめぐり、縦長につまみ出された突瘤が口縁部に連続する。

#### 土製品（136・137）

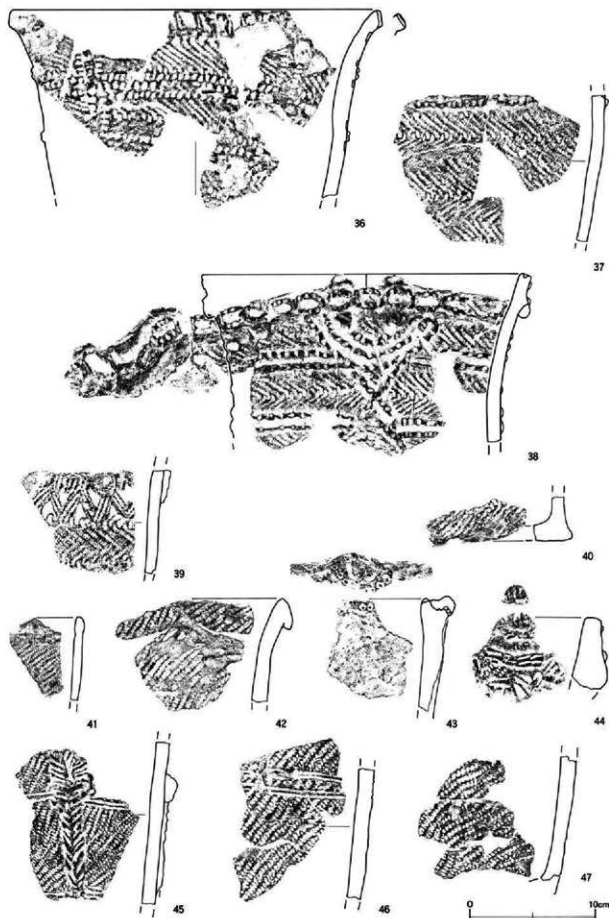
136 は土器片加工円盤。周縁を整形し、中央部に外面から穿孔している。137 は三角形土製品。半截管状工具による沈線が残り、縄文中期後半の土器片が用いられている。周縁を敲打整形し軽く研磨している。



図IV-76 V層包含層出土の土器(1)

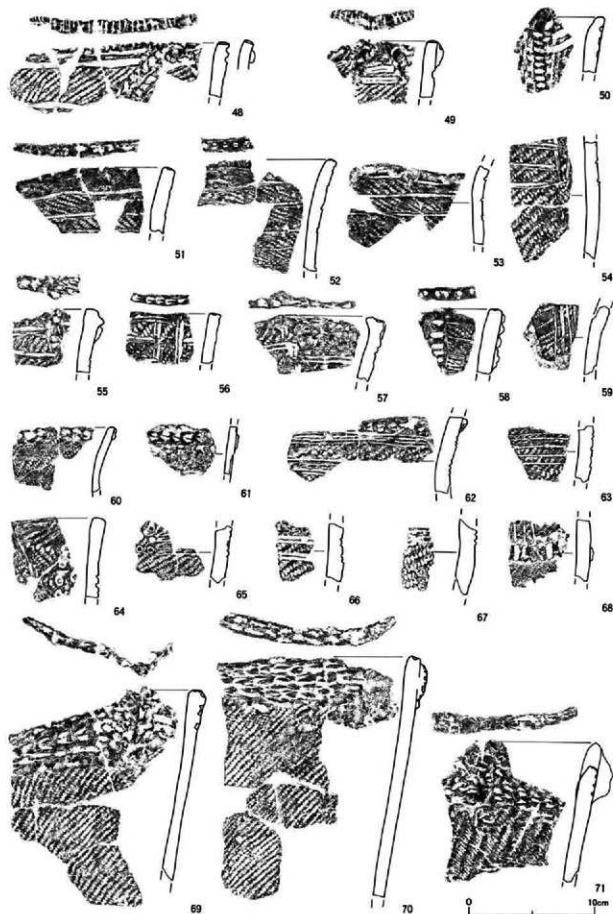


図IV-77 V層包含層出土の土器(2)

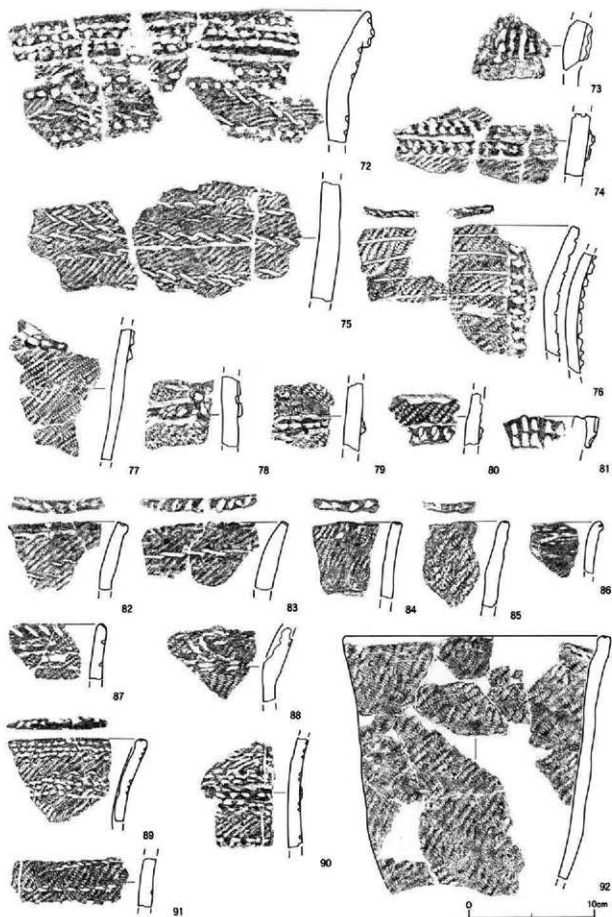


図IV-78 V層包含層出土の土器(3)

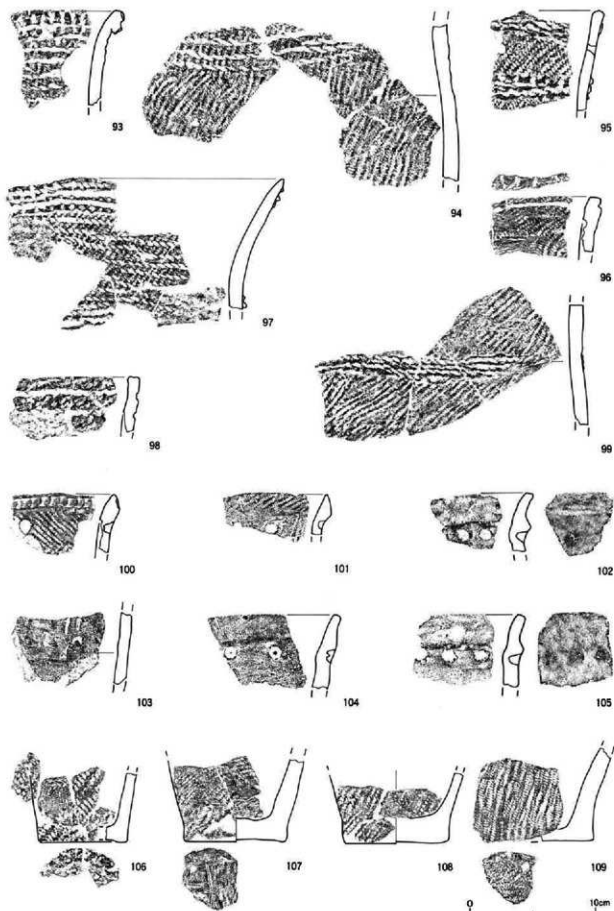




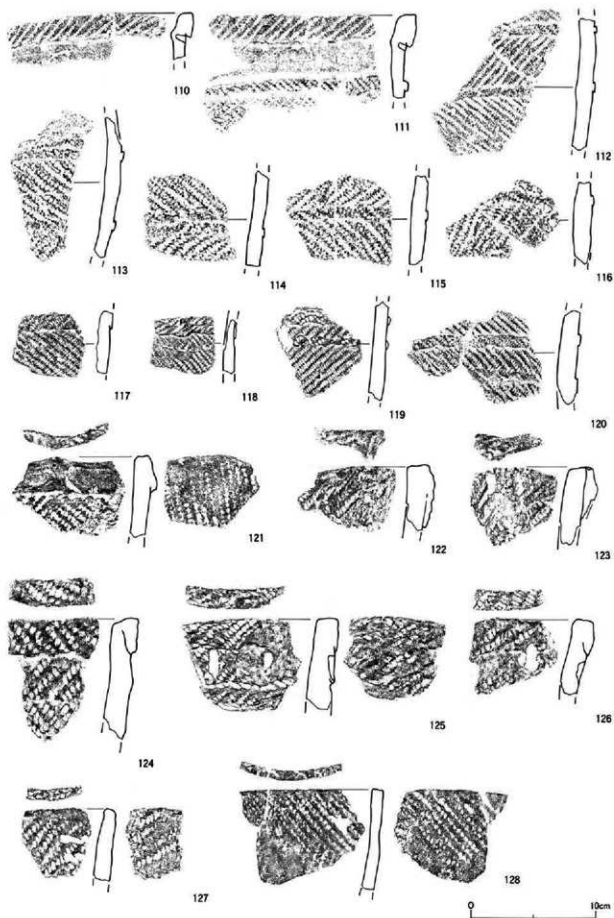
図IV-79 V層包含層出土の土器(4)



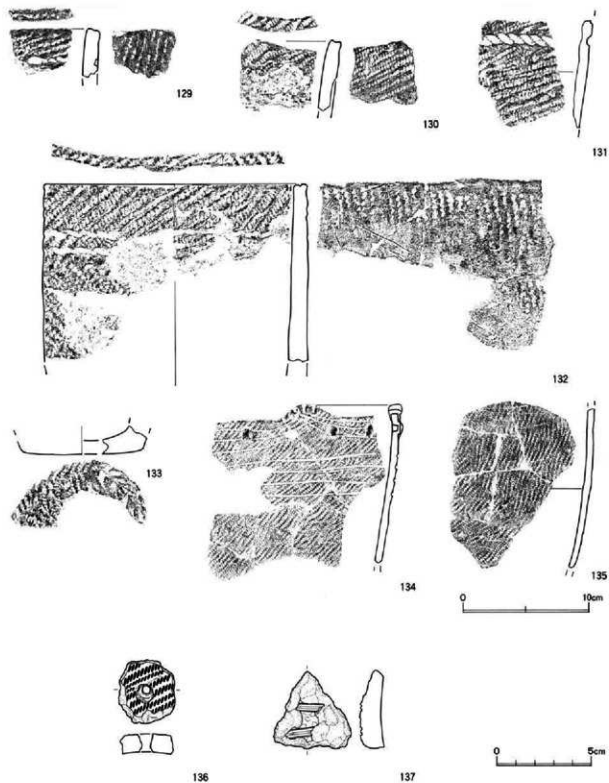
図IV-80 V層包含層出土の土器(5)



図IV-81 V層包含層出土の土器(6)



図IV-82 V層包含層出土の土器(7)



図IV-83 V層包含層出土の土器(8)・土製品

**(3) 石器・石製品** [図IV-84~101、図版23・117~126]**石鏃** (1~64)

64点図示した。すべて黒曜石製である。

1~13は小型・薄手で柳葉形または五角形に近い有茎のもの。1は円基。2~4は基端部が尖る。4・7・8・11・13は尖頭部が鋭い。9は原石面の一部が残る。

14~27は無茎で、14~21が円基、22~27が平基のもの。14は基部が左右非対称になっている。17・23は裏面に主剥離面が残る。20・21・25・27は正三角形に近い形状である。

28以降は有茎のもの。28は基底部が突出する。29は二等辺三角形の鏃身に細身の茎を有し、下端を欠く。30~35は小型のもののうち、かえしがやや明瞭なものから不明瞭なものへと例示した。32はB地区のVI層から出土し、被熱している。36~42は細身で基端部も尖るもの。42は被熱している。43・44は幅広い基部をもち基端部がやや平坦である。

45~64はひし形に近い形状のもの。機能部が短く左右非対称のものが目立つ。使用・欠損後に再加工したと考えられるものが多い。47・49・54・55・56・62・63・64は一側縁のかえしが不明瞭になっている。45は古い剥離面が広く残る。46は被熱発泡している。50は原石面が残る。

**石槍** (65~120)

56点図示した。92は頁岩製で、それ以外は黒曜石製である。

65~90はひし形に近い形状のもの。基端部が尖るものを基本とするが、一部丸みをもつもの(66・67・77)、平坦になるもの(74・80など)がある。機能部側縁は直線的であるが、外湾するもの(73・79・85)、内湾するもの(80)が一部みられる。66・77・84は素材の主剥離面を残す。79・80・83はかえしが明瞭である。

91はかえしが明瞭で、幅広い茎をもつ。2点が接合した。92は機能部がやや厚い一方、茎がやや細く、基端部がわずかに突出する。

93~117は長さに対して幅がおよそ1/2~1/3の細長いタイプのもの。基端部は尖るものが多い。一方95・102・103・114などは基端部が平坦である。102は薄手で素材の主剥離面が残存し、周縁に細かい調整が行われている。104・111・114などは、左右非対称になっている。

118はにぶい灰黒色を呈する黒曜石が石材で、十勝産と同定された(V章1)。尖頭部は鋭く、機能部は二等辺三角形形状、やや緩やかなかえしをもつ。119は尖頭部を欠く。基端部が尖り、おおむね左右対称である。120は2点が接合した。半損しており、残存部だけでも長さ10cmを超え、幅約5cmを測る大型のもの。薄手で両側縁に細かい調整が連続する。

**石錐** (121~129)

9点図示した。石材は、126・129が頁岩で、それ以外は黒曜石である。主剥離面を多く残すもの(121~123・125~127)と両面調整がていねいに行われているもの(124・128・129)がある。

122~126は幅広いつまみ部をもつもの。機能部に細かい調整が行われ細く尖る。127は細い縦長薄片の上下両端部に細かい調整を行い、機能部を作出している。128・129は棒状のもの。

**両面調整石器** (130~132)

3点図示した。石材は黒曜石である。ほぼ左右対称で縁辺が外湾する。

130は小型で、側縁に擦痕のような跡があり、石錐としての利用があったかもしれない。131は筋状の茶色が混じる石材で、左側縁上部に極状の剥離がある。132は腹面に主剥離面の一部が残る。

## つまみ付きナイフ (133~151)

19点図示した。石材は、133~142が黒曜石、143~146が珪化岩、147~151は頁岩である。黒曜石製のものは不定形のものが目立ち、珪化岩製・頁岩製のものはつまみ部が明瞭で均整の取れた形状のものが多い。

133は幅広、134・136は小型のつまみ部が作出されている。135・137・140・141はつまみ部が不明瞭である。137~140は両面調整が行われている。142はつまみ部に対して刃部が横長であるが、つまみ部が左側縁に突出したものととも考えられる。下端が斜刃の143・144・146・151は、左側縁に背面からの微細な剥離が連続する。145・147・149の右側縁は急角度の剥離調整が連続する。151は長さ11.7cmを測る大型のもの。

## スクレイパー (152~187)

36点図示した。石材は185が頁岩、186・187が珪化岩で、それ以外は黒曜石である。

152~160は側縁が内湾する、いわゆるノッチドスクレイパー。152・153・155・157は両側縁が内湾する。155は上端部に打面を残す。156は円礫の原石面が残る。161~168は側縁に刃部をもつもの(サイドスクレイパー)。169・170もこれに類する。163は原石面が大きく残る。165は茶色の筋がある黒曜石の厚手の剥片を素材とする。左側縁に原石面が残る。170は緑色の筋の入る十勝産と特定された黒曜石(V章1)の剥片を素材とする。171~177は周縁に刃部をもつもの(ラウンドスクレイパーを含む)。172~174は分割した円礫が素材とみられる。周縁からやや粗い剥離調整が行われている。176は背面に古い剥離面があり、周縁に細かい剥離調整が行われている。178・180~184は下端部に急角度の剥離による刃部をもつもの(エンドスクレイパー)。178・181・183は腹面下端部が内側に反る。179は石槍基部の転用である。185は側縁および斜刃の下端部に細かい調整がみられる。つまみつきナイフの可能性もある。187は打面の残る素材で、背面両側縁に刃部調整が行われている。

## 石のみ(188)

1点図示した。188は緑色片岩製で、鋭い片刃をもつ。細長い短冊状で、刃部を作出した面がいていねいに研磨されている。側面に擦切り痕が残る。

## 石斧(189~232)

44点図示した。石材は、緑色または青色を呈する片岩「アオトラ」がほとんどである。ほかの石材は、204が蛇紋岩、232がロジン岩である。青色片岩製は、石材の性質から破損して出土するものが多い(190・192・198・200など)。大部分が磨製石斧で、大型のものの一部に打製がある(214・218・222・225・228・230・231)。磨製石斧の刃部は片刃・両刃ともに確認できるが、両者の区分が不明瞭なものが多い。形状は掬状のものが大部分であるが、基部がすばまるものがある(195・222・225・230など)。

189は小型でほぼ全面研磨され、基部も薄く研磨されている。196・199などは、基部に敲打痕がある。204は刃部が弧状となっている。207は上下両端に刃部がある。下端の剥離面が古く、欠損後に基部を研磨し刃部を作出し再利用したと考えられる。208と209はC地区南部の隣接発掘区から出土し、接合する。青色片岩製で、研磨され刃部が鋭い。212は折損した後、基部の破断面からの敲打剥離が行われている。215はアオトラ石ではあるが、灰緑色や褐色、極暗赤褐色など色調が多様で、被熱しているとみられる。裏面の一部を除き全面研磨され、刃部が鋭い。216は未成品としたが、たたき石であろう。218は表面・側面に細かい敲打整形痕がみられる。219は厚手で両刃である。221は自然面がほとんどで、下端に敲打剥離がみられる。228は周縁を敲打整形し、下部の一部を研磨し刃部を作出している。230は側縁に擦り切り痕が明瞭に残存する。231は厚手で全面敲打整形され、刃部が潰れている。232は灰白色を呈し蛇紋岩様の筋が入る石材。幅7cmを超える大型の刃部。表面に筋状の黒色物質が付着する。

**たたき石 (233~247)**

15点図示した。石材は234~239がハンレイ岩、247が緑色片岩で、それ以外は砂岩である。

233~242は5~8cmの円形・楕円形の礫を用いている。233・240は球状の礫の端部に敲打痕がある。234~236・238・239は緑色を呈する。周縁に細かい敲打整形をめぐらせている。234・236・238・239は原石の滑面が残り、235は表裏面にくぼみを設けている。237は円礫上部の破断面と下端部に敲打痕がある。241・242は表面がやや凹面になっており把握しやすい。

243~245はそれぞれ端部に敲打痕がある。246は扁平楕円礫の長軸端周辺に敲打剥離痕が連続する。247はアオトラの側面に細かい敲打整形が行われ、上端に敲打剥離痕、下端に潰打痕が観察される。

**くぼみ石 (248~273)**

たたき石のうち、表面に敲打によるくぼみが穿たれている石器を「くぼみ石」として分類した。

26点図示した。石材は、271が泥岩で、それ以外はすべて砂岩である。全体的に、縦長の扁平または角棒状の礫を素材とする。敲打痕は、表裏両面の上部・下部にみられるものが多い(257・258・261・263・265・267・268・271・272)。またこれらがつながり長軸上に連続するもの(266・269)、表裏両面の下部にあるもの(248・252・254・260・273)があり、表面のみ確認できるもの(251・255・262)もある。

また、表面のくぼみだけでなく長軸端部に敲打痕がみられるもの(248・250・251・259・263)があるが、これらはたたき石・くぼみ石両者の機能を有するものとみられる。

249は直方体に近い形状の礫の表裏面中央に浅い敲打痕がある。253は三角柱状の礫の3表面に深いくぼみがある。258は左右両側面に擦痕があり、すり石としての機能も有していたとみられる。264は左側面に敲打剥離痕が連続し、すり石や扁平打製石器に類する。262・272・273は、それぞれ同発掘区の破片が接合した。

**すり石 (274~283)**

10点図示した。石材は275が緑色片岩、276が変朽安山岩、283が素粒玄武岩で、それ以外は砂岩である。274は右半を折損する。左側面上部が打ち欠きによりくぼむ。使用面からの敲打剥離が観察される。275~277は表面が平滑で断面三角形の硬質な礫が素材で、比較的幅の狭い擦り面をもつ。278~280は頂部が山形をなす素材を用い、使用面は幅約2cmの擦り面をもち、断面は逆台形である。281は大型の扁平楕円礫片を素材とし、側縁の一部を擦り面としている。282は鉄分付着の跡と思われる変色部が広がり、それを擦りこんだ幅約2.5cmの平坦な使用面がみられる。283は隣接する発掘区から出土した2点が接合した。上面は敲打整形し丸みを帯びる。

**北海道式石冠 (284)**

1点図示した。砂岩の扁平楕円礫が素材とみられ、左右非対称で比較的小型である。頂部は丸みをもつ。正面中央付近に敲打による溝が横断する。使用面は長軸方向に丸みをもつ。

**棍棒形石器? (285)**

ハンレイ岩の扁平な長楕円礫に加工痕があるもの。中央付近で弱く屈曲し、下部は細くなる。表面は平滑で、裏面は剥落があり、下部は打ち欠かれ厚さを減じる。上部側縁に敲打剥離痕がある。加工痕が顕著ではないが、IV群a類石器に伴う「棍棒形石器」に類似する。なお同石器は、当遺跡の北方に位置するシヨロマ1遺跡で出土している(厚真町教育委員会2015)。

**石錘 (286~288)**

3点図示した。石材はすべて砂岩で、扁平楕円礫を素材とする。286は左上部を欠く。長軸・短軸両端部に打ち欠きがある。287・288は長軸端部に打ち欠きがある。288は周縁部で剥落が連続する。



**砥石 (289～295)**

7点図示した。石材はすべて砂岩である。289は直角礫または板状礫の端部にあたり、表裏側面に使用痕がみられる。290は直角礫の角の部分が残存する。上面・側面とも表面が平滑である。剥離面にやや深い1条の溝を有する。291は3点が接合した。板状礫の一部が利用されている。長軸中央部に稜をもち、その両側が深く擦り込まれている。292は分割された板状礫の平滑な表面に線条痕がみられる。293は表面が凹面をなし、使用面と周縁の境界が明瞭である。294・295は縦長に割れた板状礫片を素材とし、表面のほぼ全体が使用されている。295は中央部が縦長の凹面になっており、使用度が高い。

**台石 (296～308)**

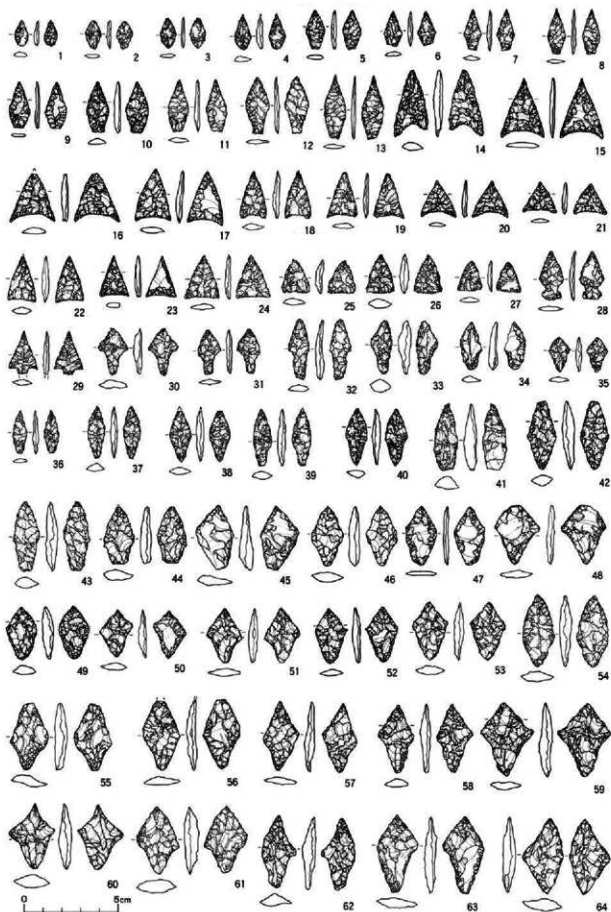
13点図示した。石材はすべて砂岩である。296は裏面が剥落し安定した直角礫を素材とする。表面がやや丸みを帯び、一帯に多数のくぼみがみられる。297は表面が凹面をなしている(石皿)。298は表面にわずかに敲打痕が観察される。299は大型の扁平楕円礫の長軸両端部に打ち欠きがみられる。300は表面の研磨痕が顕著で、平坦～凹面になっている。鉄分付着の跡と思われる変色部が広がる。301は直方体に近い。線条痕が明瞭である。302は裏面が剥落した板状礫が用いられ、平滑な表面が利用されているとみられる。

303～308は、C地区北部～中央東部の浅い沢地形に沿って出土した砂岩の大型台石。303は原石の形状を保ち安定した礫を素材とする。304は裏面が大きく剥落した板状礫の側面の一部を敲打整形している。平滑な表面に敲打痕が多数観察される。305は適度に分割されたと考えられる扁平礫が用いられている。306～308は長さ約50cm以上、幅40cm以上、重さ約25～33kgを測る。306は表面が平滑で、左側面側が丸みを帯びる。わずかに擦痕が観察される。307は表面がわずかに凹面となっており、複数の敲打痕や擦痕が観察される。308は五角形の板状礫の平滑な表面に、わずかにくぼみが観察される。

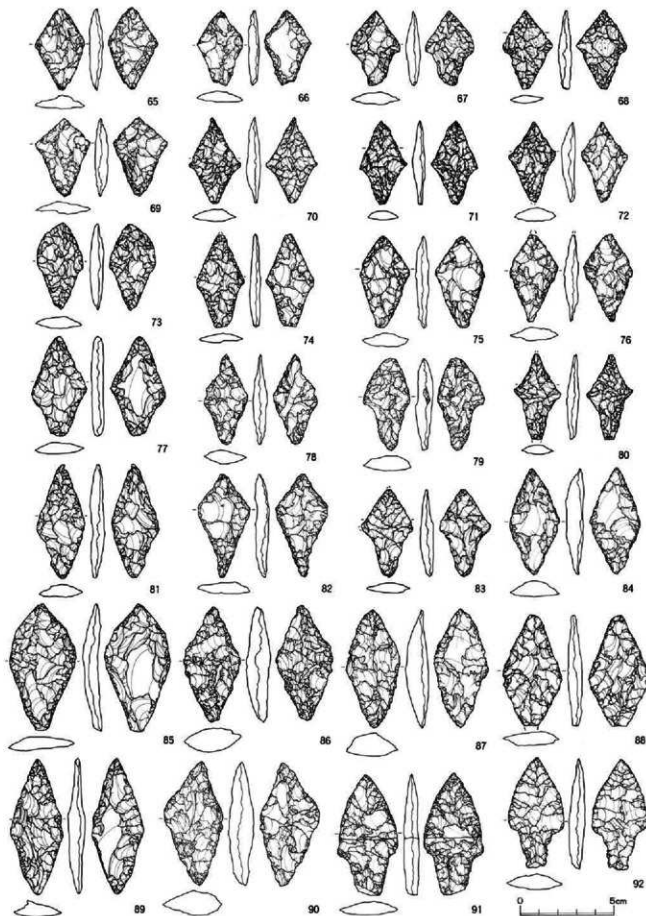
**石製品 (309～315)**

7点図示した。309はロジン岩製のミニチュア石斧。薄手で全面研磨が行われている。310は蛇紋岩製の玉。全面研磨で、楕円形に近い形状に仕上げている。311・312は緑泥石岩製の垂飾(玉)。311は円形の平玉。312は薄い楕円のもの。下端部の貫通孔で折り取り、研磨調整している。313・314はVH-2の上位の包含層から出土した緑色片岩製の垂飾(玉)。小型の扁平楕円礫を素材とし、周縁などを研磨し中央に両面から穿孔している。315は緑灰色～濃緑色を呈するロジン岩製の石製品。全面研磨である。形状は、関連はないが刀の鐔に似ている。中央の縦長の穿孔は、磨切り技法により両面から溝を設けて貫通している。

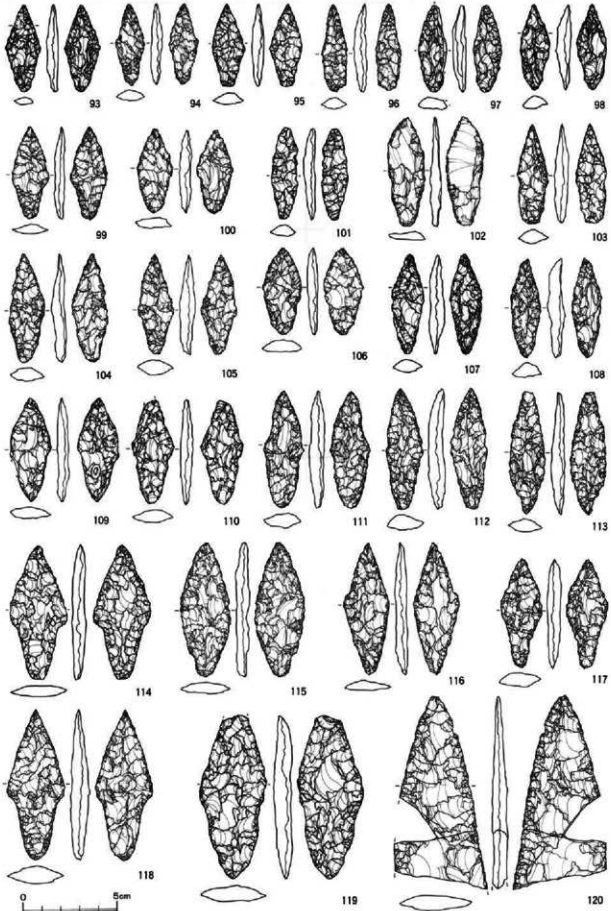
(阿部)



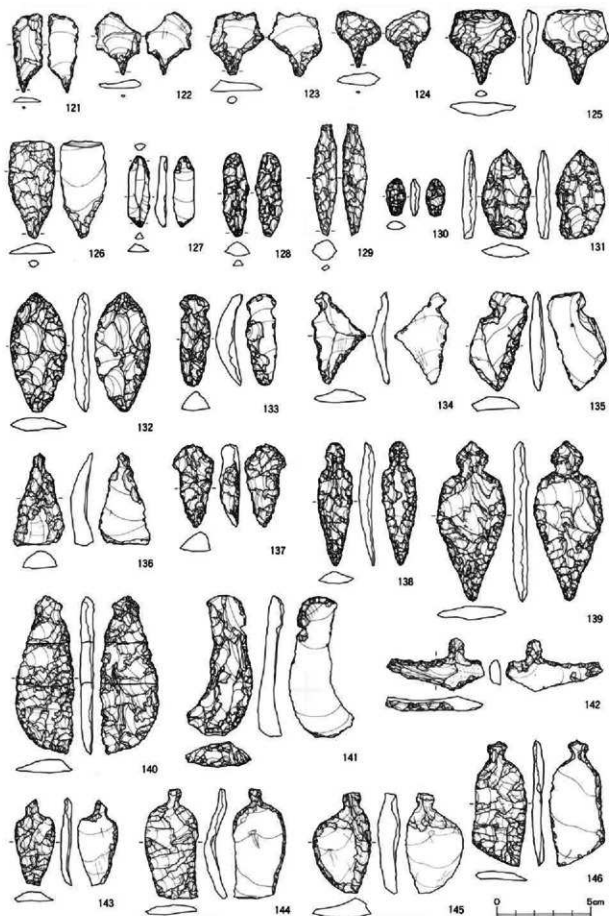
図IV-84 V層包含層出土の石器(1)



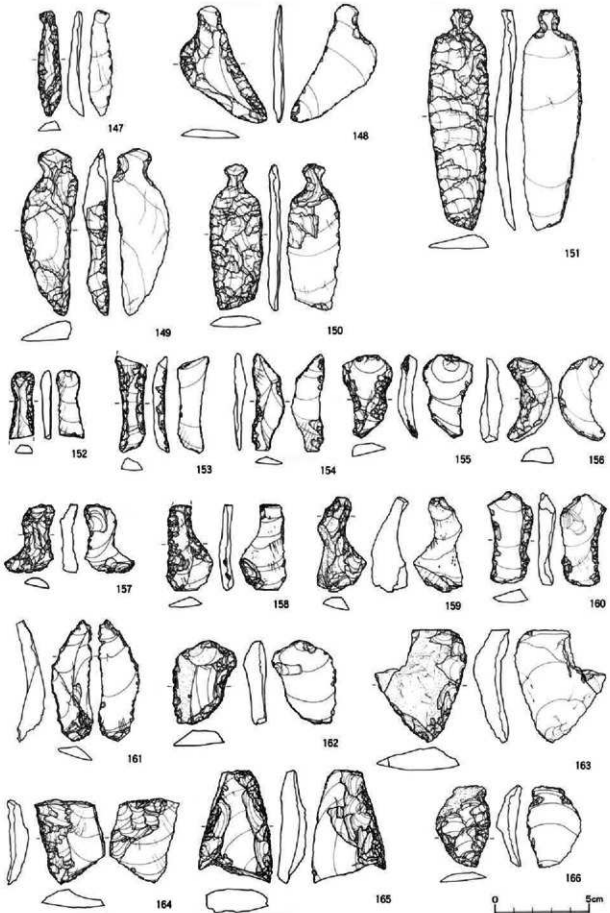
図IV-85 V層包含層出土の石器(2)



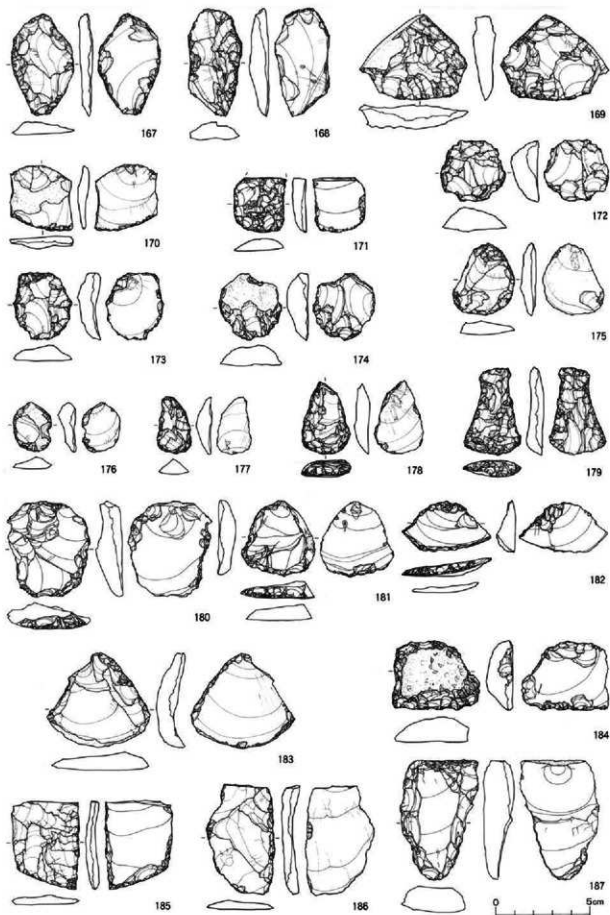
図IV-86 V層包含層出土の石器(3)



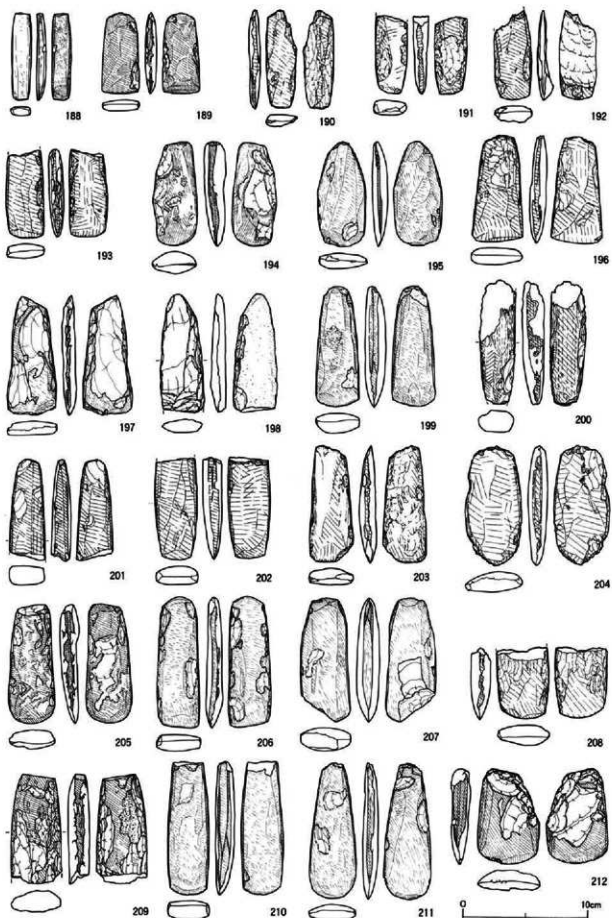
図IV-87 V層包含層出土の石器(4)



図IV-88 V層包含層出土の石器 (5)

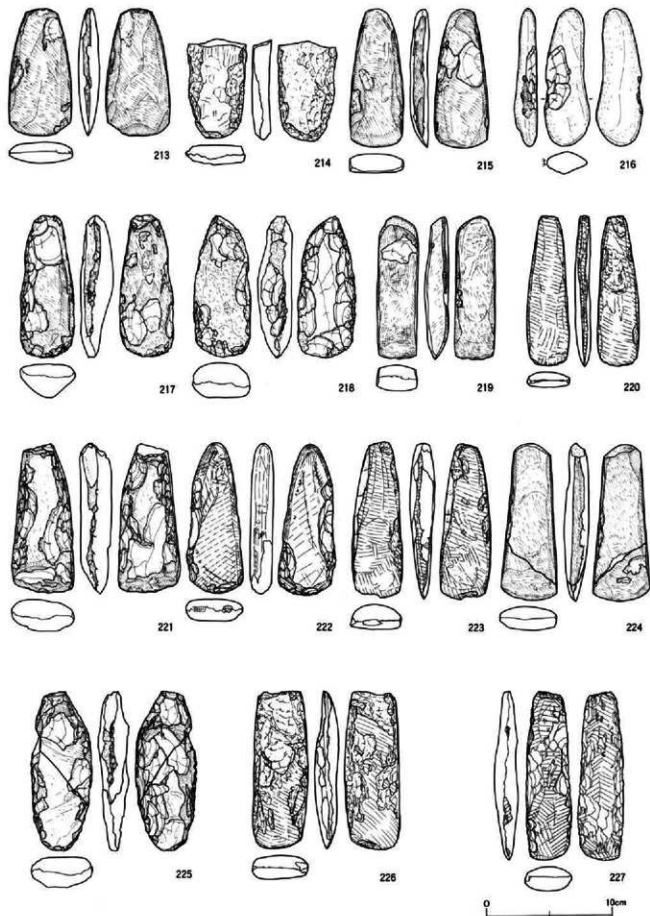


図IV-89 V層包含層出土の石器(6)

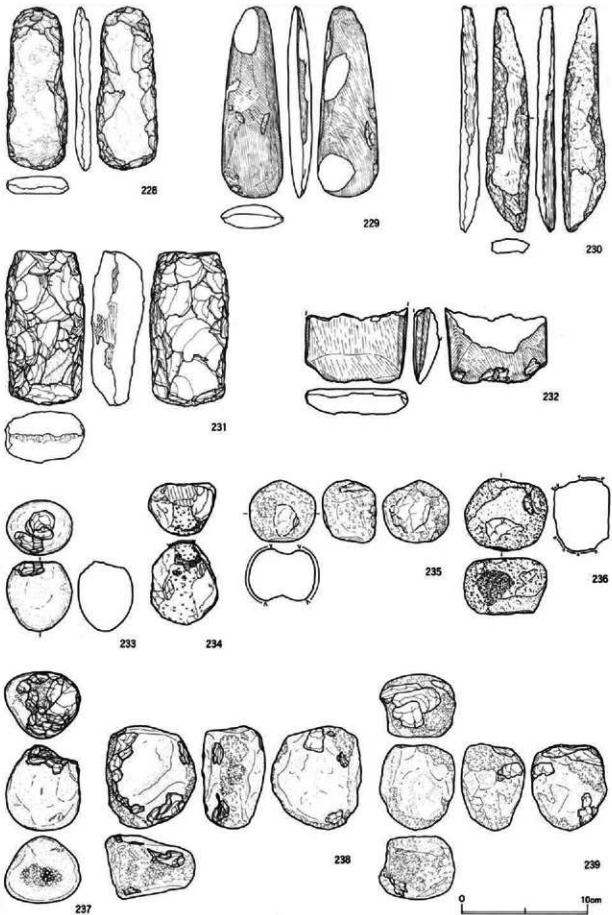


図IV-90 V層包含層出土の石器(7)

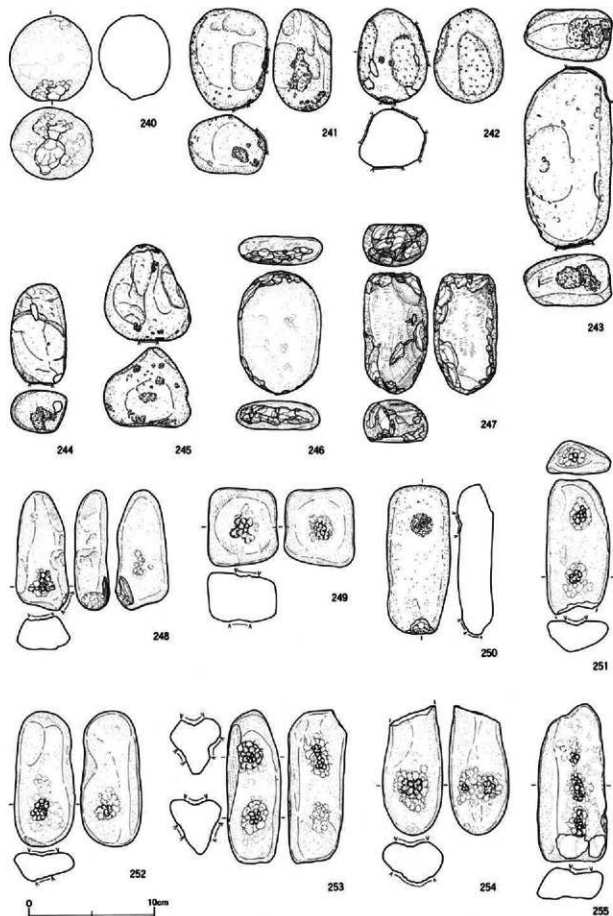




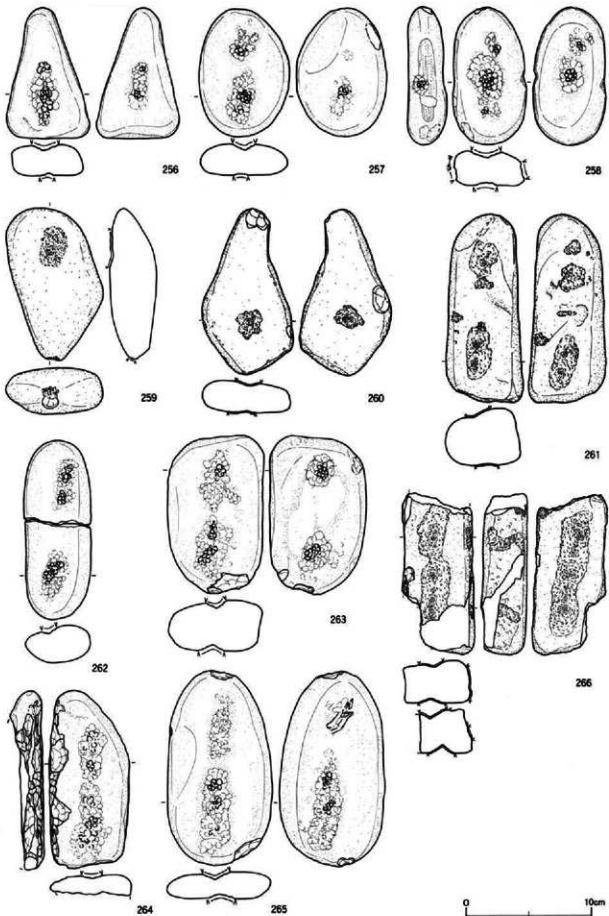
図IV-91 V層包含層出土の石器(8)



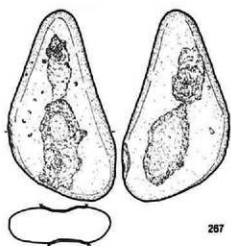
図IV-92 V層包含層出土の石器(9)



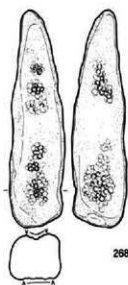
図IV-93 V層包含層出土の石器 (10)



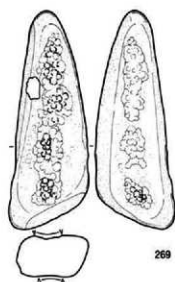
図IV-94 V層包含層出土の石器 (11)



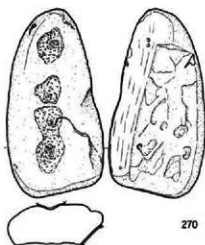
267



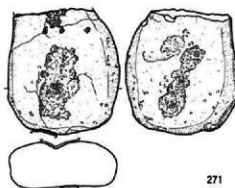
268



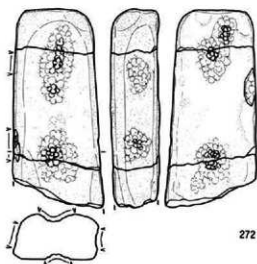
269



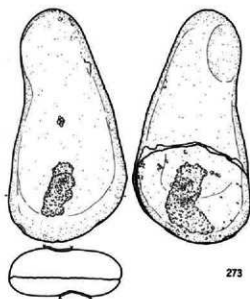
270



271



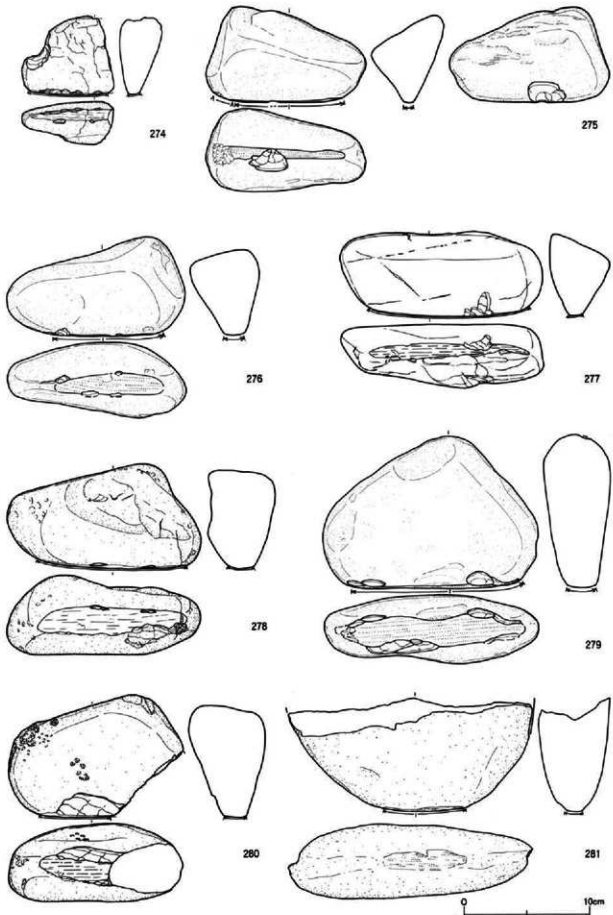
272



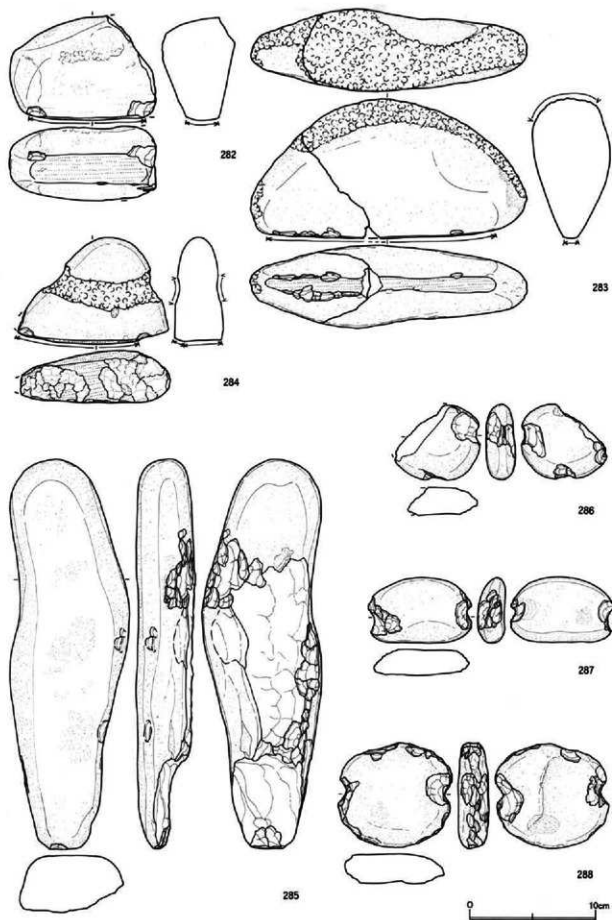
273



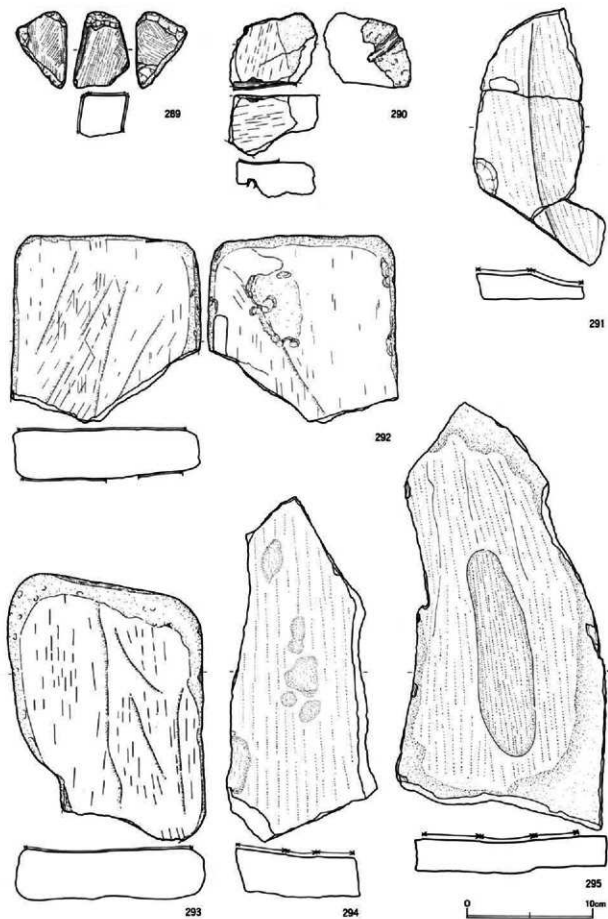
図IV-95 V層包含層出土の石器 (12)



図IV-96 V層包含層出土の石器 (13)

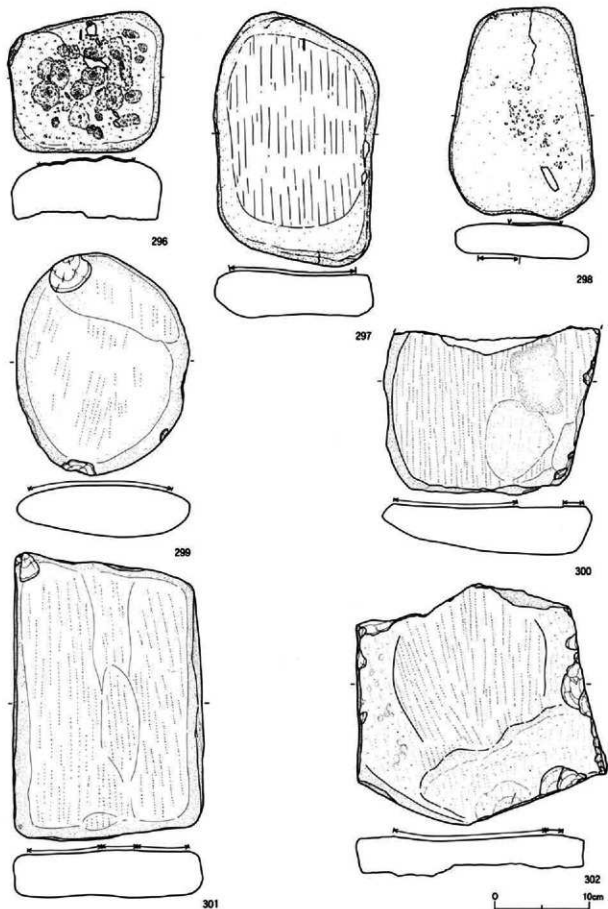


図IV-97 V層包含層出土の石器 (14)

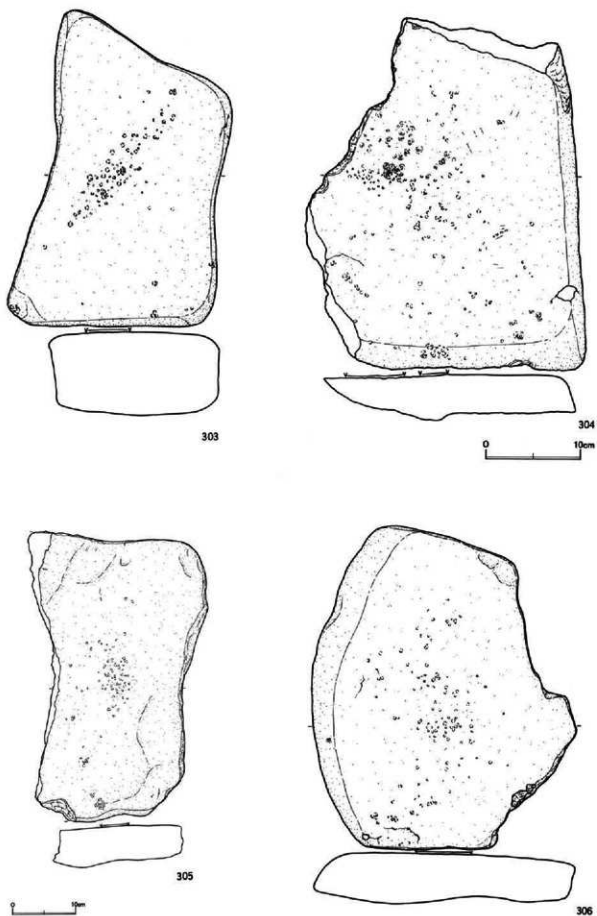


図IV-98 V層包含層出土の石器 (15)

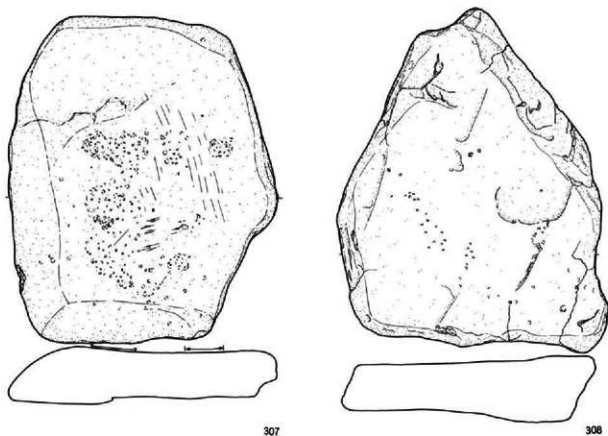




図IV-99 V層包含層出土の石器 (16)

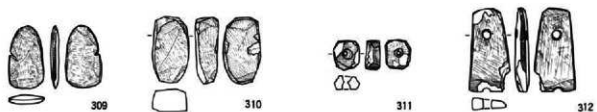


図IV-100 V層包含層出土の石器 (17)



307

308

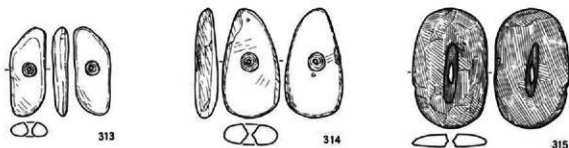


309

310

311

312



313

314

315

0 5cm

図IV-101 V層包含層出土の石器(18)・石製品

表Ⅳ-2 V層遺構一覽(1)

種別	遺構名	掲載		検出位置		平面形	規模(m)				時期	備考	
		棟号	写真図版	築層区	層位		検出面		底面	深さ			
							長径	短径					長径
竪穴住居跡	VH-1	ⅣⅠ-1	図版06-09 ~ 図版13-08	e26-27, d26-27	V層	不整形円形	5.84	4.62	5.53	4.50	0.20	N-85' E, 柱穴9基	
	HP-1	~	図版59	e27	V層	ほぼ円形	0.77	0.50			0.09		
	HP-1			e27	V層	ほぼ円形	0.84	0.62	0.63	0.30	0.34		土坑
	HP-2			e27	V層	円形	0.13	0.12			0.18		
	HP-3			e27	V層	円形	0.11	0.11			0.08		
	HP-4			e27	V層	円形	0.38	0.16			0.49		
	HP-5			e26	V層	円形	0.13	0.12			0.06		
	HP-6			e26	V層	円形	0.13	0.11			0.23		
	HP-7			e26	V層	円形	0.11	0.09			0.17		
	HP-8			e27	V層	円形	0.12	0.11			0.08		
HP-9			e27	V層	円形	0.12	0.12			0.06			
HP-10			e27	V層	円形	0.12	0.11			0.05			
VH-2	ⅣⅠ-5	図版60	d18-19, e18-19	V層	ほぼ円形			(5.02)	4.63	0.18	N-10' E, 柱穴8基		
HP-1	~	図版13	d19	V層	ほぼ円形	0.74	0.46			0.09			
HP-1		図版60	e19	V層	円形	0.14	0.13			0.21			
HP-2			e19	V層	円形	0.14	0.12			0.19			
HP-3			e19	V層	円形	0.13	0.12			0.13			
HP-4			d19	V層	円形	0.14	0.14			0.13			
HP-5			d19	V層	円形	0.14	0.13			0.20			
HP-6			d19	V層	円形	0.16	0.14			0.20			
HP-7			d19	V層	円形	0.16	0.12			0.17			
HP-8			d19	V層	円形	0.12	0.11			0.10			
VH-3	ⅣⅠ-9	図版61-62 ~ 図版13	G71-72, H71-72	V層	ほぼ円形	7.62	(7.14)	7.20	(6.97)	0.35	N-75' W, 柱穴11基		
HP-1	~10	図版13	G71	V層	ほぼ円形	0.25	0.19			0.03			
HP-2			G72	V層	ほぼ円形	0.54	0.48			0.05			
HP-1		図版61	G71	V層	ほぼ円形	0.42	0.42	0.33	0.30	0.14	土坑		
HP-2			G71	V層	円形	0.13	0.13			0.64			
HP-3			G71	V層	円形	0.08	0.08			0.31			
HP-4			G71	V層	円形	0.10	0.09			0.14			
HP-5			H71	V層	円形	0.09	0.09			0.18			
HP-6			H71	V層	円形	0.10	0.09			0.13			
HP-7			G71	V層	円形	0.09	0.08			0.12			
HP-8			H71	V層	円形	0.07	0.07			0.15			
HP-9			H72	V層	円形	0.12	0.10			0.25			
HP-10			H72	V層	円形	0.10	0.09			0.21			
HP-11			H72	V層	円形	0.12	0.10			0.28			
HP-12			G72	V層	円形	0.12	0.11			0.21			
VH-4	ⅣⅠ-13	図版62-63 ~ 図版13	N55-O55	V層	ほぼ円形	4.30	3.65	4.06	3.38	0.24	N-1' W, 柱穴4基		
HP-1	~14	図版13	N55-O55	V層	ほぼ円形	0.36	0.43			0.10			
HP-2			O55	V層	不整形円形	0.83	0.36			0.03			
HP-1		図版63	N55	V層	円形	0.09	0.07			0.19	縄文早期後半		
HP-2			N55	V層	円形	0.07	0.06			0.17			
HP-3			O55	V層	円形	0.09	0.08			0.13			
HP-4			O55	V層	円形	0.08	0.07			0.11			
VH-5	ⅣⅠ-16	図版64-65 ~ 図版13 ~ 図版65	O68-69, D68-69	V層	不整形円形	7.85	7.13	7.21	6.60	0.28	N-9' W, 柱穴9基		
HP-1	~17	図版13	D69	V層	ほぼ円形	1.07	0.79			0.22			
HP-1			C69	V層	円形	0.08	0.08			0.43			
HP-2			C69	V層	円形	0.12	0.10			0.52			
HP-3			C69	V層	円形	0.11	0.10			0.38			
HP-4			C68	V層	円形	0.10	0.09			0.45			
HP-5			C68	V層	円形	0.13	0.12			0.60			
HP-6			D68	V層	円形	0.13	0.11			0.40			
HP-7			D68	V層	円形	0.11	0.10			0.39			
HP-8			D69	V層	円形	0.10	0.09			0.18			
HP-9			D69	V層	円形	0.08	0.08			0.18			
VH-6	ⅣⅠ-19	図版66-67 ~ 図版13 ~ 図版67	F66-67, G66-67	V層	ほぼ円形	6.95	5.65	6.38	5.08	0.34	N-61' E, 柱穴11基		
HP-1	~20	図版13	G67	V層	ほぼ円形	0.23	0.22			0.04			
HP-1			F67	V層	円形	0.12	0.10			0.35			
HP-2			G67	V層	円形	0.11	0.11			0.20			
HP-3			G66	V層	円形	0.09	0.08			0.26			
HP-4			G66	V層	円形	0.11	0.10			0.21			
HP-5			G67	V層	円形	0.11	0.10			0.23			
HP-6			G67	V層	円形	0.13	0.12			0.24			
HP-7			G67	V層	円形	0.12	0.11			0.28			
HP-8			G66	V層	円形	0.13	0.11			0.22			
HP-9			F66	V層	円形	0.16	0.15			0.38			
HP-10			F67	V層	円形	0.16	0.14			0.32			
HP-11			F67	V層	円形	0.20	0.17			0.37			

表Ⅴ-3 V層遺構一覽(2)

種別	遺構名	掲載		検出位置				規模(m)				時期	備考
		棟号	写真図号	集積区	層位	平面形		断面		深さ			
						長径	短径	長径	短径				
堀穴住居跡	VH-7	図Ⅳ-23	図版68	K54+55, L54+55	V層	ほぼ円形	4.02	3.68	3.68	3.30	0.27	縄文早期後半	N-5 <sup>W</sup> W, 柱穴3基
	HP-1			K54	VI層	円形	0.13	0.11					
	HP-2			K54	VI層	円形	0.15	0.13			0.25		
	HP-3			L54	VI層	円形	0.14	0.13			0.17		
	VH-8	図Ⅳ-25	図版68	Q51+52, R51	VI層	ほぼ円形	3.80	3.26	3.57	3.08	0.11	縄文早期後半	N-31 <sup>W</sup> W, 柱穴2基
	HP-1			Q51	VI層	円形	0.12	0.12			0.20		
	HP-2			Q51	VI層	円形	0.13	0.13			0.27		
	VH-9	図Ⅳ-26	図版69	155+56, M55+56	VI層	ほぼ円形	7.74	6.95				縄文後期初頭	N-80 <sup>W</sup> W, 柱穴8基 石堀 <sup>5)</sup>
	HP-1		図版13+69	L56+M56	VI層	ほぼ円形	0.96	0.68			0.13		
	HP-2			L56	VI層	ほぼ円形	0.52	0.51			0.06		
HP-1			L56	VI層	ほぼ円形	1.06	0.73	0.92	0.51	0.12			
HP-2			L56	VI層	ほぼ円形	0.50	0.42	0.40	0.40	0.02			
HP-3			L56	VI層	円形	0.13	0.12			0.19			
HP-4			L56	VI層	円形	0.13	0.13			0.15			
HP-5			L55	VI層	円形	0.16	0.13			0.15			
HP-6			L55	VI層	円形	0.12	0.12			0.13			
HP-7			M55	VI層	円形	0.18	0.15			0.16			
HP-8			M55	VI層	円形	0.19	0.15			0.21			
HP-9			L55	VI層	円形	0.15	0.13			0.22			
HP-10			L56	VI層	円形	0.08	0.08			0.13			
上杭	VP-1	図Ⅳ-28	図版70	J26	VI層	ほぼ円形	1.29	0.880	1.03	0.600	0.17	縄文後期	N-2 <sup>W</sup> W
	VP-2	図Ⅳ-29		F73	VI層	楕円形	2.25	1.94	2.14	1.77	0.19	縄文中期後半	N-30 <sup>W</sup> W
	VP-3	図Ⅳ-29		G67	VI層	楕円形	0.85	0.50	0.61	0.33	0.59	縄文中期	N-45 <sup>W</sup> W
	VP-4	図Ⅳ-29		D71	VI層	楕円形	0.87	0.50	0.73	0.39	0.24	縄文後期初頭	N-80 <sup>W</sup> W
	VP-5	図Ⅳ-29		B67	VI層	楕円形	0.80	0.52	0.59	0.34	0.20	縄文後期初頭	N-30 <sup>E</sup> E
	VP-6	図Ⅳ-29		F64	VI層	ほぼ円形	0.63	0.57	0.57	0.44	0.17	不明	N-20 <sup>E</sup> E
下ピロト	TP-1	図Ⅳ-30	図版71	a20	VI層	長楕円形	2.72	1.08	1.35	0.56	1.12	縄文中期～後期	N-24 <sup>E</sup> E, 長短比2.4
	TP-2	図Ⅳ-30		g24	VI層	溝状	2.96	0.75	2.11	0.24	1.50	縄文中期～後期	N-62 <sup>W</sup> W, 長短比8.8
	TP-3	図Ⅳ-31		g24+25, h24+25	V層	溝状	3.03	0.52	2.18	0.16	1.47	縄文中期～後期	N-30 <sup>W</sup> W, 長短比13.6
	TP-4	図Ⅳ-31		d14+15	VI層上面	溝状	2.48	0.91	1.95	0.19	1.22	縄文中期～後期	N-30 <sup>W</sup> W, 長短比10.3
	TP-5	図Ⅳ-32	図版72	g21	VI層	溝状	3.18	0.66	1.67	0.22	1.13	縄文中期～後期	N-9 <sup>E</sup> E, 長短比7.6
	TP-6	図Ⅳ-32		f-g22	VI層	溝状	2.88	0.67	1.82	0.20	1.30	縄文中期～後期	N-6 <sup>E</sup> E, 長短比9.1
	TP-7	図Ⅳ-33		h17	VI層	楕円形	1.66	1.09	1.21	0.50	0.97	縄文中期～後期	N-1 <sup>W</sup> W, 長短比2.4
	SP-1	図Ⅳ-33		h17	VI層	円形	0.06	0.06			0.07		
	SP-2	図Ⅳ-33		h17	VI層	円形	0.06	0.06			0.34		
	TP-8	図Ⅳ-33		h18	VI層	長楕円形	2.10	1.17	1.23	0.46	1.02	縄文中期～後期	N-14 <sup>E</sup> E, 長短比2.7
	SP-1	図Ⅳ-33		h18	VI層	円形	0.06	0.06			0.32		
	SP-2	図Ⅳ-33		h18	VI層	円形	0.06	0.06			0.34		
	TP-9	図Ⅳ-34	図版73	h+126	VI層	溝状	2.50	0.67	2.22	0.23	1.41	縄文中期～後期	N-23 <sup>W</sup> W, 長短比9.7
	TP-10	図Ⅳ-34		e22	VI層	楕円形	0.87	0.55	0.64	0.32	0.48	縄文中期～後期	N-35 <sup>E</sup> E, 長短比2.0
	TP-11	図Ⅳ-35	図版74	M60	VI層	溝状	3.44	0.82	2.56	0.28	0.65	縄文中期～後期	N-5 <sup>E</sup> E, 長短比9.1
	TP-12	図Ⅳ-35		L62	Vc層	長楕円形	2.08	1.22	1.62	0.34	0.94	縄文中期～後期	N-66 <sup>E</sup> E, 長短比4.8
	TP-13	図Ⅳ-36		E69	VI層	楕円形	1.98	0.52	1.48	0.40	1.20	縄文中期～後期	N-41 <sup>W</sup> W, 長短比3.0
	TP-14	図Ⅳ-36	図版75	F71+G71	VI層	楕円形	2.04	1.40	2.10	0.59	1.47	縄文中期～後期	N-45 <sup>W</sup> W, 長短比3.6
	SP-1	図Ⅳ-36		F71	VI層	円形	0.07	0.06			0.51		
	SP-2	図Ⅳ-36		G71	VI層	円形	0.05	0.05			0.48		
	SP-3	図Ⅳ-36		G71	VI層	円形	0.05	0.05			0.67		
	SP-4	図Ⅳ-36		G71	VI層	円形	0.03	0.03			0.16		
	TP-15	図Ⅳ-37		E70	VI層	溝状	2.65	0.93	2.05	0.25	1.16	縄文中期～後期	N-85 <sup>E</sup> E, 長短比8.2
	TP-16	図Ⅳ-37	図版76	h6+67	VI層	溝状	3.13	0.84	3.33	0.28	1.02	縄文中期～後期	N-63 <sup>W</sup> W, 長短比12.9
	SP-1	図Ⅳ-37		h7	VI層	円形	0.04	0.04			0.12		
	SP-2	図Ⅳ-37		h7	VI層	円形	0.04	0.04			0.17		
	SP-3	図Ⅳ-37		h7	VI層	円形	0.04	0.04			0.12		
	TP-17	図Ⅳ-38		O53+P53	VI層	楕円形	1.93	1.32	1.38	0.40	0.94	縄文中期～後期	N-43 <sup>W</sup> W, 長短比3.5
	SP-1	図Ⅳ-38		O53	VI層	円形	0.05	0.05			0.46		
	SP-2	図Ⅳ-38		O53	VI層	円形	0.04	0.04			0.36		
SP-3	図Ⅳ-38		O53	VI層	円形	0.04	0.04			0.43			
SP-4	図Ⅳ-38		O53	VI層	円形	0.05	0.05			0.48			
SP-5	図Ⅳ-38		O53	VI層	円形	0.04	0.04			0.17			
TP-18	図Ⅳ-38	図版77	Q53+54	VI層	ほぼ円形	1.64	1.38	1.18	0.40	1.00	縄文中期～後期	N-58 <sup>W</sup> W, 長短比3.0	
SP-1	図Ⅳ-38		Q54	VI層	円形	0.05	0.04			0.16			
SP-2	図Ⅳ-38		Q53	VI層	円形	0.05	0.04			0.18			
SP-3	図Ⅳ-38		Q53	VI層	円形	0.05	0.04			0.14			
TP-19	図Ⅳ-39		R66+67, C66+67	VI層	楕円形	2.30	1.44	1.55	0.60	1.04	縄文中期～後期	N-31 <sup>W</sup> W, 長短比2.6	
SP-1	図Ⅳ-39		C66	VI層	円形	0.03	0.03			0.42			
SP-2	図Ⅳ-39		C66	VI層	円形	0.07	0.06			0.77			
SP-3	図Ⅳ-39		C66	VI層	円形	0.05	0.04			0.52			
SP-4	図Ⅳ-39		C66	VI層	円形	0.05	0.04			0.49			
TP-20	図Ⅳ-39	図版78	A65+65	VI層	楕円形	1.59	1.11	1.12	0.45	1.18	縄文中期～後期	N-20 <sup>W</sup> W, 長短比2.5	

表N-4 V層遺構一覧(3)

種別	遺構名	掲載	検出位置		規模(m)				時期	備考					
			築層区	層位	平面形		底面	深さ							
					長径	短径					長径	短径			
Tポイント	SP-1	国Ⅳ-39	国取78	D65	埴層	円形	0.97	0.96	0.14	縄文中期～後期					
	SP-2	国Ⅳ-40		D65	埴層	円形	0.96	0.96	0.14						
	TP-21	国Ⅳ-39		D67+C67	VI層	横四角形	1.12	(0.96)	0.53			0.37	1.00	縄文中期～後期	N-1' W, 長短比1.4
	TP-22	国Ⅳ-40	国取79	O19-50	VI層	横四角形	1.41	0.52	0.74			0.46	1.00	縄文中期～後期	N-33' W, 長短比1.6
	SP-1	国Ⅳ-40		CH9	埴層	円形	0.03	0.03				0.10			
	SP-2	国Ⅳ-40		CH9	埴層	円形	0.03	0.03				0.18			
SP-3	国Ⅳ-40		CH9	埴層	円形	0.03	0.03		0.13						
枕土	VF-1	国Ⅳ-43	国取14+79	g23	Vb層	方形	0.66	0.51		0.02	縄文後期初頭	石組 <sup>9)</sup>			
	VF-3	国Ⅳ-43	国取14	d-e24	Vb層	不整形	2.80	1.00			縄文後期初頭	石組 <sup>9)</sup>			
	VF-4	国Ⅳ-44		P56	Vc層	ほぼ円形	0.41	0.39		0.02	不明				
	VF-5	国Ⅳ-44		M57	Vc層	ほぼ横円形	0.39	0.33		0.04	縄文中期～後期				
	VF-6	国Ⅳ-44		M56	Vc層	不整形円形	0.45	0.31		0.03	縄文中期～後期				
	VF-7	国Ⅳ-44		Q53+R53	Vc層	ほぼ横円形	0.40	0.40		0.06	縄文中期～後期				
	VF-8	国Ⅳ-44		C67	Vc層	不整形	0.56	0.48		0.08	縄文中期～後期				
	VF-9	国Ⅳ-44	国取14+79	F70	Vc層	横円形	0.81	0.82			縄文後期初頭	石組 <sup>9)</sup>			
	土器集中	VPB-1	国Ⅳ-45	国取80	U-V20	Vb層	不整形	2.15	1.36		(0.23)	縄文早期後葉	東照路IV式		
VPB-2		国Ⅳ-46		a24+25	Vb層	不整形	4.90	2.62		(0.15)	縄文早期後葉	東照路IV式			
VPB-3		国Ⅳ-48		g24+25	Vc層	不整形	1.46	0.82		(0.13)	縄文早期後葉	東照路IV式			
VPB-4		国Ⅳ-48		d21+22	Vb層	不整形	3.10	2.20		(0.18)	縄文後期初頭	余市式			
VPB-5		国Ⅳ-50		g25+26, h25+26	Vb層	不整形	3.02	1.84		(0.20)	縄文後期初頭	余市式			
VPB-6		国Ⅳ-51		e25	Vc層	不整形	2.56	2.34		(0.22)	縄文早期後葉	東照路IV式			
VPB-7		国Ⅳ-52		h24	Vb層	不整形	3.30	2.20		(0.12)	縄文早期後葉	東照路IV式			
VPB-8		国Ⅳ-53		L57	Vb層	不整形	2.00	1.70			縄文後期初頭				
VPB-9		国Ⅳ-53	国取81	L58+59, M59	Vb層	不整形	2.26	1.40			縄文後期初頭				
VPB-10		国Ⅳ-55		N53	Vb層	不整形	1.70	1.50			縄文後期初頭				
VPB-11		国Ⅳ-55		N50	Vb層	不整形	2.20	1.85			縄文後期初頭				
VPB-12		国Ⅳ-56		P65+G65	Vb層	不整形	1.65	1.65			縄文中期				
VPB-13		国Ⅳ-57		E68	Vb層	不整形	1.45	1.20			縄文中期後半	柏木川式			
VPB-14		国Ⅳ-58		D64	Vb層	不整形	0.92	0.65			縄文中期後半	柏木川式			
VPB-15		国Ⅳ-59		G62	Vb層	不整形	1.95	1.65			縄文早期後葉	中基路式			
VPB-16		国Ⅳ-60		M55	Vb層	不整形	2.05	0.83			縄文後期初頭	余市式			
VPB-17		国Ⅳ-61	国取82	L56	Vb層	不整形	0.80	0.40			縄文後期初頭	余市式			
VPB-18		国Ⅳ-61		D62	Vb層	不整形	0.80	0.62			縄文早期後葉	中基路式			
VPB-19		国Ⅳ-61		L52	Vb層	不整形	1.95	1.00			縄文後期初頭	余市式			
石器集中	石器集中1	国Ⅳ-62	国取82	220	Vb層	不整形	2.30	1.24		0.13	縄文前期				
	石器集中2	国Ⅳ-63		F71	Vc層	不整形	0.12	0.10		0.06	縄文中期～後期				
	VFC-1	国Ⅳ-64	国取82	a+b20	Vb層	不整形	0.81	0.80		(0.09)	縄文前期				
	VFC-2	国Ⅳ-64		h20	Vb層	不整形	2.04	0.30		(0.10)	縄文前期				
	VFC-3	国Ⅳ-64		h20	Vb層	不整形	1.44	1.02		(0.10)	縄文前期				
土器集中	VFC-4	国Ⅳ-67	国取83	h31+32, m31+32	Va層	不整形	3.00	2.50			縄文中期～後期				
	VFC-5	国Ⅳ-67		a21	Vb層	不整形	1.00	0.72		(0.17)	縄文前期～後期				
	VS-1	国Ⅳ-68	国取83	132, m31+32	Vb層	不整形	5.30	3.40			縄文中期～後期				
VS-2	国Ⅳ-69		N57	V層	不整形	0.80	0.46			縄文後期					







表IV-7 V層出土遺物集計(3)

遺構/包含層	種別	単位	土器等										石器等										曜			合計																		
			I群 b3 4	I群 b3 4	I群 b4 類	II群 b4 類	III群 a b	IV群 a c	IV群 c	不明	土器	土 器 製 品	土 器 計	石 器	石 器 製 品	石 器 計	石 器 製 品	石 器 計	石 器 製 品	石 器 計	有 孔 曜	曜 計	その 他																					
TP-21		焼土・計																				1	1																					
TP-22		焼土																																										
		焼土1																																										
		計																																										
VP-1		Vb																																										
		焼土																																										
		焼土上位 (9°石)																																										
		計																																										
VP-3		Vb																																										
		砂石																																										
		計																																										
VP-9		焼土・計																																										
VPB-1		Vb・計																																										
VPB-2		Vb	230			471																																						
		Vc				35																																						
		計	506			506																																						
VPB-3		Vc・計	280																																									
VPB-4		Vb・計	3																																									
VPB-5		Vb・計																																										
VPB-6		Vc・計	137																																									
VPB-7		Vb・計	98																																									
VPB-8		Vb・計	1																																									
VPB-9		Vb・計				1608																																						
VPB-10		Vc・計	709																																									
VPB-11		Vb・計	459																																									
VPB-12		Vb・計				173																																						
VPB-13		Vb・計				60																																						
VPB-14		Vb・計																																										
VPB-15		Vc・計	179																																									
VPB-16		Vc・計	402																																									
VPB-17		Vb・計				321																																						
VPB-18		Vc・計	51																																									
VPB-19		Vb・計				626																																						



表Ⅳ-9 V層出土掲載土器一覧(1)

種別 番号	掲載 番号	写真図録 番号	遺構/ (発掘区)	層位	遺物№	点数	分類	器種	部位	胎土等	文様等	備考	頁№			
ⅣV-4	1	図版98	VH-1	覆土上位	11	1	Ⅳa	深鉢	口縁	砂織中々多量	内唇斜文		116			
ⅣV-4	2			覆土	27	2	Ⅳa	深鉢	胴	砂織中々多量	胎行刺、縦線文		33			
				覆土下位	28-84	2										
ⅣV-4	3	図版98	VH-1	覆土	20	1	29	Ⅳa	口～胴	砂織中々多量	口縁加肥厚帯、胎行刺、羽状線文	胎定口径32.8cm	32			
				覆土上位	1+2+1+5+7+9+10	10										
				覆土中位	30-35+62+63+65-66+67-75+76+77+-	17										
				床面		1										
ⅣV-8	1	図版98	VH-2H-1	覆土上面	106	1	1	Ⅳa	深鉢	口縁	砂織中々多量	口縁加肥厚帯、縦線文、胎線文	111			
ⅣV-8	2	図版98	VH-2	覆土	19	1	5	Ⅳa	深鉢	口縁	砂織中々多量	口縁加肥厚帯、胎行刺、縦線文、羽状線文	35①			
				a15	1	1										
				a15	3	3										
				V												
ⅣV-8	3	図版98	VH-2	覆土上位	3	1	1	Ⅳa	深鉢	胴	砂織中々多量	胎行刺、羽状線文	35②			
ⅣV-8	4			覆土上位	4+5+6+7+11+12+16+18+28	10	11	Ⅳa	深鉢	胴	砂織多量	胎行刺、羽状線文	34			
				Vb		1										
				Vb		1										
ⅣV-11	1	図版99	VH-3	覆土1		1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂織中々多量/内面ケズリ	胎刺上押引文、沈線、L&R線文	140			
ⅣV-11	2			覆土1	1789-1829	2	2	Ⅲb	深鉢	胴	砂織中々多量	沈線、L&R線文	142			
ⅣV-11	3			覆土1	1810	3	3	Ⅲb	深鉢	胴	砂織中々多量/内面ケズリ	L&R線文	143			
ⅣV-11	4			覆土1	1789+-	3	3	Ⅲb	深鉢	胴	砂織中々多量/内面ケズリ	胎刺上押引文、L&R線文	141			
ⅣV-11	5	図版99	VH-3	覆土1	1791+1795-1796+1840+-	21	21	Ⅲb	深鉢	口～胴	砂織中々多量/内面ケズリ	口唇上短小、斜突列、縦線文/胎定口径34.0cm	76			
ⅣV-15	1			図版100	VH-4	覆土1	3750	1	Ⅳa	口縁	砂織多量	L&R線文(口唇上・内面ホリ)	136			
ⅣV-18	1			図版100	VH-5	覆土1	4063+4120+4127+4129	5	5	Ⅲb	深鉢	胴	砂織中々多量/内面ケズリ	胎線線文	93	
ⅣV-18	2			図版100	VH-5	覆土1	4062+4124	2	2	Ⅲb	深鉢	口縁	砂織中々多量/内面ケズリ	胎刺(胎刺)、押引文、L&R線文	144	
ⅣV-18	3	覆土1	4123			1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂織中々多量/内面ケズリ	胎刺(胎刺)、押引文、L&R線文、突起	同一個体? 145			
ⅣV-18	4	覆土1	4125			1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂織中々多量/内面ケズリ	押引文、L&R線文	146			
ⅣV-21	1	図版101	VP-3			覆土2	1923	1	1	Ⅲa	深鉢	胴	砂織中々多量/内面ケズリ	胎刺、押引文、胎刺(胎刺)	67④	
ⅣV-21	2			覆土2	4302	1	1	Ⅲa	深鉢	胴	砂織多量	胎刺、押引文、胎刺(胎刺)	148			
ⅣV-21	3			覆土2	4303	1	1	Ⅲa	深鉢	底	砂織中々多量	胎刺(胎刺)	149			
ⅣV-21	5			VH-6	覆土1	1932	1	1	Ⅲa	深鉢	胴	砂織中々多量/内面ケズリ	内唇斜突、胎刺、縦文押捺、胎刺(胎刺)	68①		
ⅣV-21	6	図版101	VH-6	覆土1	1930	1	1	Ⅲa	深鉢	胴	砂織中々多量/内面ケズリ	内唇斜突、胎刺、縦文押捺、胎刺(胎刺)	68②			
ⅣV-21	7			覆土1	1906	1	1	Ⅲa	深鉢	胴	砂織中々多量/内面ケズリ	内唇斜突、胎刺、縦文押捺、胎刺(胎刺)	68③			
ⅣV-21	8			VH-6	覆土1	1854+1936	2	4	Ⅲa	深鉢	口縁	砂織中々多量/内面ケズリ	胎刺、縦文押捺押捺、胎刺(胎刺)	69①		
				F67	Vb		2									
ⅣV-21	9	図版101	VH-6	覆土1	4217	1	2	Ⅲa	深鉢	胴	砂織中々多量/内面ケズリ	胎刺、縦文押捺押捺、胎刺(胎刺)	69②			
				F67	Vb		1									
ⅣV-21	10			VH-6	覆土1	1976+4223+4225	4	4	Ⅲa	深鉢	口縁	砂織中々多量/内面ケズリ+ナブ	口縁加肥厚帯、縦線胎行刺、胎刺(胎刺)	71		
ⅣV-21	11			図版101	VH-6	覆土1	4222	6	15	Ⅲa	口～胴	砂織中々多量/内面ケズリ	口縁加肥厚帯、内唇斜突列、胎刺(胎刺)	胎定口径34.8cm	70	
		F67	Vb				5									
		K62	Vb				4									
ⅣV-21	12	図版101	VH-6	覆土1	1971	1	1	Ⅲa	口縁	砂織中々多量/内面ケズリ	胎刺、胎刺列、胎刺(胎刺)	胎刺(胎刺)	67⑤			
ⅣV-21	13			図版101	VH-6	覆土1	1914	1	4	Ⅲa	深鉢	胴	砂織中々多量/内面ケズリ	胎刺、胎刺列、胎刺(胎刺)	67⑥	
						G66	Vb		1							
						G67	Vb		1							
		G68	Vb		1											
ⅣV-21	14	図版101	VH-6	覆土1	1938+1939+1973	1	2	Ⅲa	深鉢	胴	砂織中々多量	胎刺(胎刺)	胎刺(胎刺)、胎刺(胎刺)	73		
				G66	Vb		1									
ⅣV-21	15	図版101	VH-6	覆土1	1922+1940	2	2	Ⅲa	深鉢	胴	砂織中々多量/内面ケズリ	L&R線文	129			
ⅣV-21	16			覆土1	4230	1	1	Ⅲa	深鉢	胴	砂織中々多量	突起	130			
ⅣV-21	17			VH-6	覆土1	1943	1	2	Ⅲb	深鉢	口縁	砂織中々多量/内面ケズリ	口唇上短小、胎刺上短小、胎刺(胎刺)	89①		
				F68	Vb		1									

表IV-10 V層出土掘載土器一覽(2)

神岡 番号	掲載 番号	写真撮影 番号	遺構/ (発掘区)	層位	遺物No.	点数 計	分類	器種	部位	胎土等	文様等	備考	割合%	
ⅣⅣ-24	1	ⅣⅣ102	VH-7	覆土	3815・3821・ 3823・3825	12	83	1b-4	深鉢	口～胴	砂粘り中多量/内面 ナツ	緑釉引掛焼糸文/ 口徑2.5cm、残存高 21.5cm	9	
				覆土1	3834～3837・ 3839～3842・ 3846・3855	43								
				床面直上	3826・3830・ 3832・3843・ 3844・3848・ 3850	26								
ⅣⅣ-24	2		VH-7	Vc		2								
				覆土1	3814	0	6	Ⅳa	深鉢	胴～底	砂礫多量	3枚黒釉文(底面含む)	188	
ⅣⅣ-24	3		VH-7	覆土1	3820	1	1	Ⅳa	深鉢	口縁	砂礫少量	3枚黒文(口唇上・底面含 む)	187	
ⅣⅣ-27	1	ⅣⅣ102	VH-9	覆土		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂礫中々多量	3枚黒文	147	
ⅣⅣ-27	3	ⅣⅣ23	VH-9	覆土		1	1	土製品	ミニチュア		砂粘り中々多量	縄文押捺	17	
ⅣⅣ-43	2	ⅣⅣ103	VP-3	Vb	13	3	3	Ⅳa	深鉢	口縁	砂礫中々多量	口縁黒肥厚帯、3枚黒文	402	
ⅣⅣ-43	3		d4	Vb		1	1	Ⅳa	深鉢	口縁	砂礫中々多量	口縁黒肥厚帯、3枚黒文	403	
ⅣⅣ-43	4		e25	Vb		4	4	Ⅳa	深鉢	胴	砂礫中々多量	脇付帯、引伏焼文	403	
ⅣⅣ-45	1	ⅣⅣ104	VFB-1	Vb	89-94	2	2	1b-4	深鉢	胴	砂礫・石英砂中々多 量	引伏焼糸文	富良野址 地帯?	23
ⅣⅣ-47	4		VFB-4	Vb	9-13-16	3	3	1b-4	深鉢	胴	砂粘り中多量/内面 ナツ	引伏焼糸文	242	
ⅣⅣ-47	5		VFB-2	Vb	23-25-28-30	8	10	1b-4	深鉢	口～胴	砂粘り中々多量/内面 ナツ	引伏焼糸文	243	
				Vc		2								
ⅣⅣ-47	6		VFB-2	Vb	10-19-27-29・ 40-43-44-49・ 53-60-62・ 71-72～77-79 ～84-86-87・ 91～94-100・ 105	98	102	1b-4	深鉢	口～胴	砂礫中々多量/内面 ナツリ・ナツ、内面 上部黒色物質付着	引伏焼糸文、縄文側面 押捺/ 口徑約1cm、残存高 27.5cm	6	
			VFB-2	Vc		2								
			VFB-3	Vb		20	2							
ⅣⅣ-48	11	ⅣⅣ108	VFB-3	Vb	23	3	3	1b-4	深鉢	口縁	砂礫少量	黒赤帯印痕	281	
ⅣⅣ-48	12		VFB-3	Vb	11	1	5	1b-4	深鉢	胴	砂礫少量	焼糸文	252	
			VFB-3	Vc	8-18	4								
ⅣⅣ-48	13		VFB-3	Vb	11	1	20	1b-4	深鉢	胴	砂礫少量	焼糸文	253	
			VFB-3	Vc	7-8-25	19								
ⅣⅣ-49	14		VFB-4	Vb	87	3	3	1b-4	深鉢	口縁	砂礫中々多量/内面 ナツ	引伏焼糸文、縄文側面 押捺	26	
ⅣⅣ-49	15		VFB-4	Vb	7	2	2	Ⅳa	深鉢	口縁	砂礫中々多量/内面 ナツ	口縁黒肥厚帯、黒釉焼 文	112	
ⅣⅣ-49	16		VFB-4	Vb	1	1	2	Ⅳa	深鉢	口縁	砂粘り中々多量/内面 ナツ	口縁黒肥厚帯、黒釉焼 文、脇付帯(黒帯)、引 伏焼文	362	
			d22	Vb		1								
ⅣⅣ-49	17		VFB-4	Vb	23	1	4	Ⅳa	深鉢	胴	砂粘り中々多量/内面 ナツ	脇付帯、引伏焼文(縄 文側面)	363	
			d21	Vb		2								
			d22	Vb		1								
ⅣⅣ-49	18		VFB-4	Vb	20-20	2	10	Ⅳa	深鉢	口縁	砂粘り中々多量/内面 ナツ	口縁黒肥厚帯、脇付 帯、引伏焼文(縄文側 面)	361	
			d22	Vb		6								
			e22	Vb		2								
ⅣⅣ-49	19		VFB-4	Vb	5-8-9-11～ 14-17-18-24・ 27-28-29-31・ 34-37-39	17	29	Ⅳa	深鉢	胴	砂礫多量	脇付帯、引伏焼文/ 残存高23.3cm	5	
			d1	Vb		2								
			d22	Vb		10								
ⅣⅣ-50	21		VFB-5	Vb	44-81	2	2	Ⅳa	深鉢	口縁	砂礫多量	口縁黒肥厚帯、脇付 帯、引伏焼文	371	
ⅣⅣ-50	22		VFB-5	Vb	79	1	1	Ⅳa	深鉢	口縁	砂礫多量	口縁黒肥厚帯、脇付 帯、引伏焼文	372	
ⅣⅣ-50	23		VFB-5	Vb	78-80	2	2	Ⅳa	深鉢	胴	砂礫多量	引伏焼文	373	
ⅣⅣ-50	24		c18	V		2	2	Ⅳa	深鉢	胴	砂礫多量	脇付帯、引伏焼文	VFB-5	382
ⅣⅣ-50	25		VFB-5	Vb	63-73	2	3	Ⅳa	深鉢	口縁	砂礫多量	口縁黒肥厚帯、脇付 帯、引伏焼文	391	
			k25	Vb		1								
ⅣⅣ-50	26		VFB-5	Vb	56-66	2	2	Ⅳa	深鉢	胴	砂礫多量	脇付帯、引伏焼文	392	
ⅣⅣ-50	27		VFB-5	Vb		1	1	Ⅳa	深鉢	底	砂礫多量	3枚黒文/内面黒釉押捺	115	
ⅣⅣ-51	28	ⅣⅣ106	VFB-6	Vb	13-15-30	3	3	1b-4	深鉢	口縁	砂礫多量/内面上部 黒色物質付着	縄文側面押捺	273	
ⅣⅣ-51	29		VFB-6	Vb	10-38	2	2	1b-4	深鉢	胴	砂礫多量/内面上部 黒色物質付着	縄文側面押捺、引伏 焼糸文	272	

表Ⅳ-11 V層出土土壌載土器一覧(3)

種別 番号	調査 番号	写真図 番号	遺構/ (発掘区)	層位	遺物№	点数	分類	器種	部位	胎土等	文様等	備考	割合%
ⅣV-51	30	図版106	VPB-6	Vb	7・17・39	3	1-b-4	陶鉢	胴	砂雜多量・内面上部 部は胎土質	縄文御座形、引伏 糸文		27①
ⅣV-51	31		VPB-6	Vb	65-66-73*	5	5	1-b-4	陶鉢	口縁	砂雜中々多量/内面 ナツ	引伏胎土文	28①
ⅣV-51	32		VPB-6	Vb	68-71-72-73	7	7	1-b-4	陶鉢	胴	砂雜中々多量/内面 ナツ	引伏胎土文	28②
ⅣV-52	33		VPB-7	Vb	82-83	3	3	1-b-3	陶鉢	胴	砂雜中々多量	縄文起線、屈折縄文	10①
ⅣV-52	34		VPB-7	Vb	3・19・20・21・ 22-24	6	6	1-b-4	陶鉢	口縁	砂雜・石瓦粒多量	引伏胎土文	富良野鉢 地系
ⅣV-52	35		VPB-7	Vb	9・48・44・55・ 81	5	5	1-b-4	陶鉢	口～胴	砂雜・石瓦粒多量	引伏胎土文	富良野鉢 地系
ⅣV-52	36		VPB-7	Vb	1・42・49・62・ 74・79-90	7	7	1-b-4	陶鉢	胴	砂雜・石瓦粒多量	引伏胎土文	富良野鉢 地系
ⅣV-54	38		VPB-8	Vb	3272・3277・ 3280・3283・ 3286・3287・ 3292	8	8	Ⅳa	陶鉢	口～胴	砂雜多量	斜突列、引伏縄文、口 唇上・内面縄文	95①
ⅣV-54	39		VPB-8	Vb	3273・3278・ 3285・3288・ 3289・3290・ 3292	8	8	Ⅳa	陶鉢	胴	砂雜多量	引伏縄文	95②
ⅣV-54	40		VPB-9	Vb	3626-3627	2	2	Ⅳa	陶鉢	胴	砂雜中々多量	屈縄文	96②
ⅣV-54	41		VPB-9	Vb	3630-3628	5	5	Ⅳa	陶鉢	底	砂雜中々多量	屈縄文	96①
ⅣV-56	42	図版107	VPB-10	Vb	3706	3	3	Ⅳa	陶鉢	口縁	砂雜多量/内面ナツ	口縁部胎土質、流布、 屈縄文、口唇上縄文	97①
ⅣV-56	43		VPB-10	Vb	3703-3706	2	2	Ⅳa	陶鉢	口縁	砂雜多量/内面ナツ	屈縄文、口唇上縄文	97②
ⅣV-56	44		VPB-11	Vb	3922	1	1	Ⅳa	陶鉢	口縁	砂雜中々多量	屈縄文	189
ⅣV-56	45		VPB-12	Vb	4160	1	1	Ⅳa	陶鉢	胴	砂雜中々多量/内面 ナツ	斜突列、屈縄文	131
ⅣV-56	46		VPB-12	Vb	4157	1	1	Ⅳa	陶鉢	胴	砂雜中々多量/内面 ナツ	屈縄文	132
ⅣV-57	47		VPB-13	Vb	4249・4252・ 4254・4262	6	7	Ⅳb	陶鉢	口縁	砂雜中々多量/内面 ナツ	口縁部胎土質、円形斜 突列、屈縄文、突起	77①
			F67	Vb		1							
ⅣV-57	48		VPB-13	Vb	4253・4256・ 4259・4261・ 4276・4277・ 4278	10	10	Ⅳb	陶鉢	口～胴	砂雜中々多量	口縁部胎土質、円形斜 突列、屈縄文	77③
ⅣV-58	49		VPB-14	Vb	4306→4310	31	31	Ⅳb	陶鉢	口～胴	砂雜多量/内面ナツ	口唇上斜突、流布、斜 突列、流縄、屈縄文	78①
ⅣV-58	50		VPB-14	Vb	4308	4	4	Ⅳb	陶鉢	口縁	砂雜多量/内面ナツ	口唇上斜突、流布、斜 突列、流縄、屈縄文、 突起	78②
ⅣV-58	51		VPB-14	Vb	4307・4308・ 4310	6	6	Ⅳb	陶鉢	胴	砂雜多量/内面ナツ	流布、斜突列、横点状 流縄、屈縄文	78③
ⅣV-59	52	図版108	VPB-15	Vb	4315-4316	8	8	1-b-3	陶鉢	口縁	砂雜中々多量/内面 ナツ	縄文起線、屈縄文、胎 土文	57①
ⅣV-59	53		VPB-15	Vb	4313	2	2	1-b-3	陶鉢	口縁	砂雜中々多量/内面 ナツ	縄文起線、屈縄文、胎 土文	57②
ⅣV-59	54		VPB-15	Vb	4312	3	3	1-b-3	陶鉢	口縁	砂雜中々多量/内面 ナツ	縄文起線、屈縄文、胎 土文	57④
ⅣV-59	55		VPB-15	Vb	4311・4313・ 4316	8	8	1-b-3	陶鉢	胴	砂雜中々多量/内面 ナツ	縄文起線、胎土文	57③
ⅣV-60	56		VPB-16	Vb	3789	1	1	Ⅳa	陶鉢	口縁	砂雜多量	口縁部胎土質、斜突 列、屈縄文、屈縄文、 口唇上縄文	190
ⅣV-60	57		VPB-16	Vb	3792	1	1	Ⅳa	陶鉢	口～胴	砂雜多量	口縁部胎土質、引伏縄 文	191
ⅣV-60	58		VPB-16	Vb	3781-3782	4	4	Ⅳa	陶鉢	口縁	砂雜多量	口縁部胎土質、斜突 列、屈縄文、口唇上縄 文	98①
ⅣV-60	59		VPB-16	Vb	3780-3784・ 3785	7	7	Ⅳa	陶鉢	口～胴	砂雜多量	口縁部胎土質、斜突 列、屈縄文、口唇上縄 文	98②
ⅣV-60	60		VPB-16	Vb	3781-3782	4	4	Ⅳa	陶鉢	口縁	砂雜多量	口縁部胎土質、引伏縄 文	98③
ⅣV-61	61		VPB-17	Vb	3797	1	1	Ⅳa	陶鉢	口～胴	砂雜多量	流布、縄文押捺	192
ⅣV-61	62		VPB-17	Vb	3797	5	5	Ⅳa	陶鉢	口～胴	砂雜多量	口縁部胎土質、斜突 列、屈縄文	99①
ⅣV-61	63		VPB-17	Vb	3797	5	5	Ⅳa	陶鉢	胴	砂雜多量	屈縄文	99②
ⅣV-61	64		VPB-17	Vb	3797	2	2	Ⅳa	陶鉢	胴	砂雜多量	屈縄文	99③
ⅣV-61	65		VPB-18	Vb	4323-4325	2	2	1-b-3	陶鉢	口縁	砂雜中々多量/内面 ナツ	縄文起線、縄文御座形 部、屈縄文、縄文正 規	123
ⅣV-61	66		VPB-18	Vb	4323	3	3	1-b-3	陶鉢	胴	砂雜中々多量/内面 ナツ	縄文起線、屈縄文	59②

表IV-12 V層出土掘載土器一覽(4)

種別 番号	掲載 番号	写真掲載 番号	遺構/ (発掘区)	層位	遺物No.	点数	分類	器種	部位	胎土等	文様等	備考	図版		
図IV-61	67	図版108	VPI-18	Vb	4323	10	10	1b-3	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナダ	縞線区画, 紅土文		59①	
図IV-76	1	図版111	c25	Vc	10・12・13	3	10	1b-3	深鉢	口~胴	砂粘中々多量/内面ナダ	縞線区画, 引状赤土文(縦位), 縄文御面押痕		31	
			c26	Vc	11・16・17・18・20・22	6									
			d26	Vc		1									
図IV-76	2		c25	Vc	1・3・5・6・7	6	6	1b-3	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナダ	縞線区画, 引状赤土文(縦位), 赤土文		32	
図IV-76	3		N19	Vc		8	8	1b-3	鉢	胴	砂粘中々多量	縞線区画, 赤土文		56②	
図IV-76	4		N19	Vc		13	13	1b-3	鉢	胴~底	砂粘中々多量	縞線区画, 赤土文		56①	
図IV-76	5		H63	Vb		1	1	1b-3	鉢	口縁	砂粘中々多量/内面ナダ	縞線区画, 赤土文		66①	
図IV-76	6		H63	Vb		3	3	1b-3	鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナダ	縞線区画, 赤土文		66②	
図IV-76	7		H63	Vb		1	1	1b-3	鉢	底	砂粘中々多量/内面ナダ	縞線区画, 赤土文		66③	
図IV-76	8		H61	Vc		1	3	1b-3	深鉢	口~胴	砂粘中々多量/内面ナダ	縞線区画, 引状赤土文(縄線区画)		58①	
			H62	Vb		1									
			H62	Vc		1									
図IV-76	9		H62	Vc		3	3	1b-3	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナダ	縞線区画, 引状赤土文(縄線区画)		58②	
図IV-76	10		L53	Vc		3	3	1b-4	深鉢	口~胴	砂粘・石夾殻中々多量/内面赤色物質付着	縞線区画, 引状赤土文, 縄線区画	富良野盆地系?	62②	
図IV-76	11		L53	Vc		8	8	1b-4	深鉢	口~胴	砂粘・石夾殻中々多量/内面赤色物質付着	縞線区画, 引状赤土文, 縄線区画		62①	
図IV-76	12		Q52	Vb		1	1	1b-4	深鉢	胴	砂粘中々多量	赤土文, 縞線区画		127	
図IV-76	13		Y22	Vb		1	1	1b-4	深鉢	口縁	砂粘中々多量/内面ナダ	縞線赤土文		102	
図IV-76	14		M57	Vc		5	5	1b-4	深鉢	口~胴	砂粘・石夾殻中々多量/内面ナダ	縞線区画, 赤土文	富良野盆地系?	63①	
図IV-76	15		M57	Vc		2	3	1b-4	深鉢	胴	砂粘・石夾殻中々多量/内面ナダ	引状赤土文	富良野盆地系?	63③	
図IV-76	16		N56	Vb		1									
図IV-76	16		F63	Vb		1	1	1b-4	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナダ	赤土文		125	
図IV-76	17		e25	Vc		2	2	1b-4	深鉢	口縁	砂粘中々多量/内面ナダ	引状赤土文		31①	
図IV-76	18		M56	Vb		2	3	1b-4	深鉢	口縁	砂粘中々多量/内面ナダ	引状赤土文		64①	
図IV-76	18		M57	Vc		1									
図IV-76	19		M57	Vc		2	2	1b-4	深鉢	口縁	砂粘中々多量/内面ナダ	引状赤土文, 縄線区画		64②	
図IV-76	20		K58	Vc		1	1	1b-4	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナダ	縞線引状赤土文		126	
図IV-76	21		f22	Vb		14	14	1b-4	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナダ	引状赤土文		30	
図IV-76	22		T50	Vb		2	2	1b-4	深鉢	底	砂粘中々多量	縞線赤土文		128	
図IV-76	23		C62	Vc		1	1	1b-4	深鉢	底	砂粘中々多量/内面ナダ	紅土文		124	
図IV-76	24		c25	Vc		2	2	1b-4	深鉢	底	砂粘中々多量/内面ナダ	赤土文		103	
図IV-77	25		N54	Vb		4	4	IIb	深鉢	胴	砂粘少量・縞線多量	引状赤土文		65②	
図IV-77	26		N54	Vb		6	6	IIb	深鉢	胴	砂粘少量・縞線多量	引状赤土文		65①	
図IV-77	27	図版112	e27	Vb		1	1	IIIa	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナダ	透青, 赤土文, 縄線区画		105	
図IV-77	28		g31	Vb		1	4	IIIa	深鉢	口縁	砂粘中々多量/内面ナダ	透青, 赤土文, 縄線区画		66	
			g31	Vb		2									
			O31	Vb		1									
図IV-77	29		J64	Vb		2	2	IIIa	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナダ	透青, 黒土文, 縞線区画, 押引文, 1区		135	
図IV-77	30		L63	Vb		1	1	IIIa	深鉢	口縁	砂粘中々多量/内面ナダ	透青, 赤土文, 押引文	厚真1式	136	
図IV-77	31		F67	Vb		4	4	IIIa	深鉢	胴	砂粘中々多量	張引赤土文, 結束引状赤土文, 赤土文	厚真1式	69③	
図IV-77	32		K65	Vb		5	5	IIIa	深鉢	口縁	砂粘中々多量/内面ミガク	赤土文, 黒土文, 結束引状赤土文	厚真1式	72①	
図IV-77	33		K65	Vb		5	5	IIIa	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ミガク	赤土文, 黒土文, 結束引状赤土文	厚真1式	72③	
図IV-77	34		K65	Vb		6	6	IIIa	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ミガク	結束引状赤土文	厚真1式	72②	
図IV-78	35		G63	Vb		1	38	IIIa	深鉢	口~胴	砂粘中々多量/内面ナダ, 内面上部赤色物質付着	透青, 押引文, 赤土文, 赤土文, 赤土文, 結束引状赤土文, 縄線区画, 口径28.0cm, 厚真52, 厚		8	
			G65	Vb		3									
			G66	Vb		2									
			G67	Vb		19									
			G68	Vb		1									
			G69	Vb		2									

表Ⅳ-13 V層出土掲載土器一覽(5)

種別 番号	掲載 番号	写真掲載 番号	遺構/ (発掘区)	層位	遺物No.	点数	分類	器種	部位	胎土等	文様等	備考	図版No.	
図Ⅳ-76	35	図収112	I63	Vb		4				砂粘中々多量/内面ナツ	流溝、押引文、突起、黒点文、赤点文、結葉引文、横状把手、横條孔/口径2.5cm、現存高さ1.5cm			
					K82	Vb	1							
					V11-6	覆上1	1909-1912-1913-1914-1930	5						
図Ⅳ-76	36			Vb	G66	2	6	Ⅲa	深鉢	口～胴	砂粘中々多量/内面ナツ	流溝、短欠、黒点文、結葉引文	厚真1式	67①
					G67	Vb	3							
					H68	Vb	1							
図Ⅳ-77	37			Vb	V11-6	1	4	Ⅲa	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナツ	流溝、結葉引文		68②
					F66	Vb	1							
					F67	Vb	2							
図Ⅳ-77	38			Vb	F66	1	10	Ⅲa	深鉢	口～胴	砂粘中々多量/内面ナツ、内面黒色物質付着	流溝、斜突、縄文押印、結葉引文、突起、短欠文		68①
					F67	Vb	2							
					F68	Vb	1							
					G67	Vb	1							
					V11-6	覆上1	1928-1948-1951	3						
					試掘区、林48	V	2							
図Ⅳ-77	39			Vb	M52	1	2	Ⅲa	深鉢	胴	砂粘多量/内面ナツ	流溝、短欠文、結葉引文		137
					N52	Vb	1							
図Ⅳ-78	40			Vb	不明	1	1	Ⅲa	深鉢	底	砂粘中々多量	土曜文		139
図Ⅳ-78	41			Vb	G72	1	1	Ⅲa	深鉢	口縁	砂粘中々多量	土曜文		134
図Ⅳ-78	42			Vb	O49	1	1	Ⅲa	深鉢	口縁	砂粘中々多量	口縁に肥厚層、土曜文		138
図Ⅳ-77	43	図収113	G69	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁突起	砂粘多量	流溝、円形突起		133
					M52	Vb	1	1	Ⅲb	深鉢	口縁突起	砂粘中々多量	口縁に肥厚層、流溝、押引文、土曜文	
図Ⅳ-78	45		m33	Vb		1	2	Ⅲb	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナツ	流溝、短欠、土曜文、土曜文		75①
					n30	Vb	1							
図Ⅳ-78	46		m32	Vb		2	3	Ⅲb	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナツ	流溝、短欠、土曜文、土曜文		75②
					m33	Vb	1							
図Ⅳ-78	47			Vb	m33	5	5	Ⅲb	深鉢	胴～底	砂粘中々多量/内面ナツ	土曜文		75③
図Ⅳ-79	48		K82	Vb		4	5	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粘中々多量	口唇上筋、流溝、短欠、押引文、土曜文		86①
					V11-6	覆上2	4266	1						
図Ⅳ-79	49			Vb	K82	2	2	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粘中々多量	口唇上筋、流溝、短欠、土曜文、土曜文		86②
図Ⅳ-79	50			Vb	K82	1	1	Ⅲb	深鉢	口縁突起	砂粘中々多量	流溝、短欠、土曜文、土曜文		86③
図Ⅳ-79	51			Vb	G65	3	3	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粘中々多量/内面ナツ	口唇上筋突、土曜文、土曜文		85①
図Ⅳ-79	52			Vb	H65	3	3	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粘中々多量/内面ナツ	口唇上筋突、土曜文、土曜文		85②
図Ⅳ-79	53			Vb	G65	2	2	Ⅲb	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナツ	土曜文、土曜文		85③
図Ⅳ-79	54			Vb	E71	2	2	Ⅲb	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナツ	平載管状土曜文、土曜文		84②
図Ⅳ-79	55			Vb	G75	1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粘中々多量	口唇上筋引、流溝、斜突、土曜文、土曜文		174
図Ⅳ-79	56			Vb	J63	1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粘中々多量	口唇上筋引、土曜文、土曜文		180
図Ⅳ-79	57			Vb	D68	2	2	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粘中々多量	口唇上筋引、土曜文、土曜文		157
図Ⅳ-79	58			Vb	H65	1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粘中々多量	口唇上筋突、流溝、短欠、土曜文、土曜文		176
図Ⅳ-79	59			Vb	F72	1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面黒色物質付着	土曜文、土曜文		163
図Ⅳ-79	60			Vb	J63	3	3	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粘中々多量	流溝、斜突引、土曜文		90①
図Ⅳ-79	61			Vb	J63	1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂粘中々多量	流溝、斜突引、土曜文		90②
図Ⅳ-79	62			Vb	G71	3	3	Ⅲb	深鉢	胴	砂粘中々多量	流溝、斜突引、土曜文、土曜文		172
図Ⅳ-79	63			Vb	F67	1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂粘中々多量	土曜文、土曜文		162
図Ⅳ-79	64			Vb	E71	2	2	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粘中々多量	円形突起、結葉引文		161
図Ⅳ-79	65			Vb	G68	2	2	Ⅲb	深鉢	胴	砂粘中々多量	円形突起、土曜文、土曜文		168
図Ⅳ-79	66			Vb	k29	1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナツ	平載管状土曜文、土曜文		106
図Ⅳ-79	67			Vb	k29	1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂粘中々多量/内面ナツ	平載管状土曜文、土曜文		107
図Ⅳ-79	68			Vb	G68	1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂粘中々多量	流溝、短欠、土曜文、土曜文		169

表IV-14 V層出土掘載土器一覧(6)

探区 番号	調査 番号	写真図録 番号	遺構/ (発掘口)	形状	遺物No.	点数	分類	器種	部位	胎土等	文様等	備考	割合%	
ⅣⅤ-79	69	ⅣⅤ13	G67	Vb		4	Ⅲb	深鉢	口～胴	砂粒中々多量	口縁部肥厚帯、押引文、I&II織文、突起		80①	
			VH-6	覆土I	1941	1								
			G67	Vb		3	4	Ⅲb	深鉢	口～胴	砂粒中々多量	口縁部肥厚帯、押引文、I&II織文		80②
ⅣⅤ-79	71		H67	Vb		1								
			G73	Vb		2	2	Ⅲb	深鉢	口縁突起	砂粒中々多量	口縁部肥厚帯、押引文、I&II織文		81
ⅣⅤ-80	72	ⅣⅤ14	E69	Vb		9	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒多量/内面ナツ	口縁部肥厚帯、新突列、最層織文		77②	
ⅣⅤ-80	73		F67	Vb		1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒多量/内面ナツ	口縁部肥厚帯、新突列		77③	
ⅣⅤ-80	74		E69	Vb		3	3	Ⅲb	深鉢	胴	砂粒多量/内面ナツ	流溝、新突列、I&II織文	77④	
ⅣⅤ-80	75		E69	Vb		4	4	Ⅲb	深鉢	胴	砂粒多量/内面ナツ	最層織文	77⑤	
ⅣⅤ-80	76		F73	Vb		5	5	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量/内面ナツ	口唇上織文側面押捺、流溝、織文押捺、横走文様、I&II織文	84①	
ⅣⅤ-80	77		F73	Vb		6	6	Ⅲb	深鉢	胴	砂粒中々多量/内面ナツ	流溝、押引文、I&II織文	106	
ⅣⅤ-80	78		G70	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂粒多量	流溝、織文押捺、I&II織文	170	
ⅣⅤ-80	79		試掘No.林砂	V		1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂粒中々多量	流溝、押引文、I&II織文	185	
ⅣⅤ-80	80		C66	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂粒中々多量	流溝、織文押捺、I&II織文	154	
ⅣⅤ-80	81		e30	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量	口縁部肥厚帯、新突列	150	
ⅣⅤ-80	82		G75	Vb		2	2	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量	口唇上新突、最層織文	175	
ⅣⅤ-80	83		G68	Vb		1	2	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量	口唇上折ム、最層織文	89②	
			G70	Vb		1								
ⅣⅤ-80	84		C66	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量/内面ナツ	口唇上新突、I&II織文	155	
ⅣⅤ-80	85		m33	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量	口唇上押引、I&II織文	152	
ⅣⅤ-80	86		E65	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量	口唇上新突、I&II織文	158	
ⅣⅤ-80	87		G71	Vb		2	2	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量	口唇上折ム、新突列、I&II織文	171	
ⅣⅤ-80	88		E70	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂粒中々多量/内面ナツ	押引文、I&II織文	160	
ⅣⅤ-80	89		J63	Vb		2	2	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量	新突列、I&II織文/内面跡帯	88①	
ⅣⅤ-80	90		H64	Vb		2	2	Ⅲb	深鉢	胴	砂粒中々多量/内面ナツ	流溝、新突列、縦位の沈溝、I&II織文	88②	
ⅣⅤ-80	91		H70	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂粒中々多量	新突列、縦位の沈溝、I&II織文	177	
ⅣⅤ-80	92		H66	Vb		1	25	Ⅲb	深鉢	口～胴	砂粒中々多量/内面ナツ	口唇上新突、I&II織文ナツ		79
			H68	Vb		1								
			C66	Vb		1								
			C68	Vb		21								
			D66	Vb		1								
			C69	Vb		2	2	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量、織紋少量	口縁部肥厚帯、織紋文、I&II織文		81①
ⅣⅤ-81	94		B69	Vb		2	7	Ⅲb	深鉢	胴	砂粒中々多量、織紋少量	織紋文、I&II織文	81②	
			C69	Vb		1								
			F73	Vb		3								
			G74	Vb		1								
ⅣⅤ-81	95		H71	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量、織紋少量	流溝、織文押捺、I&II織文、横格子、突起	178	
			F73	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量、織紋少量	織紋文、I&II織文	165	
ⅣⅤ-81	97	ⅣⅤ15	E71	Vb		6	7	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量/内面ナツ	流溝、織紋文、I&II織文	83	
			E72	Vb		1								
ⅣⅤ-81	98		G65	Vb		3	3	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒少量	織紋文、I&II織文	94	
			D70	Vb		1	3	Ⅲb	深鉢	胴	砂粒中々多量	流溝、織紋文、I&II織文	82	
ⅣⅤ-81	99		H66	Vb		1								
			H69	Vb		1								
			e30	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量	口縁部肥厚帯、押引文、円形新突、I&II織文	151	
ⅣⅤ-81	101		K52	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量	口縁部肥厚帯、円形新突、I&II織文	181	
ⅣⅤ-81	102		e27	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒・石灰粒多量	口縁部肥厚帯、円形新突	富良野故地系	108
ⅣⅤ-81	103		R49	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	胴	砂粒中々多量	無文	184	
			R49	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒中々多量	口縁部肥厚帯、円形新突	183	
ⅣⅤ-81	105		e24	Vb		1	1	Ⅲb	深鉢	口縁	砂粒・石灰粒多量	口縁部肥厚帯、円形新突	富良野故地系	109
ⅣⅤ-81	106		F73	Vb		5	5	Ⅲb	底	砂粒中々多量	I&II織文(流面赤付)	167		
ⅣⅤ-81	107		E68	Vb		4	4	Ⅲb	底	砂粒中々多量	I&II織文	159		



表Ⅳ-15 V層出土埴土器一覽(7)

種別 番号	調査 番号	写真図記 番号	遺構/ (発掘区)	層位	遺物No.	点数	分類	器種	部位	胎土等	文様等	備考	割合%	
ⅣⅣ-81	108	ⅣⅣ115	C67	Vb		2	2	ⅣⅣ	底	砂織多量	ⅣⅣ文		156	
ⅣⅣ-81	109		H71	Vb		1	1	ⅣⅣ	底	砂織中々多量	ⅣⅣ文(外面含む)		179	
ⅣⅣ-82	110		c21	V壊乱		4	4	ⅣⅣ	口縁	砂織多量	口縁部肥厚部、内面刺突、ⅣⅣ文		41②	
ⅣⅣ-82	111		c21	V壊乱		2	2	ⅣⅣ	口縁	砂織多量	口縁部肥厚部、内面刺突、胎付帯、羽状ⅣⅣ文		41①	
ⅣⅣ-82	112		c21	Vb		2	2	ⅣⅣ	胴	砂織多量	胎付帯、羽状ⅣⅣ文		41③	
ⅣⅣ-82	113		j28	Vb		2	2	ⅣⅣ	胴	砂織多量	胎付帯、羽状ⅣⅣ文		42①	
ⅣⅣ-82	114		j28	Vb		1	1	ⅣⅣ	胴	砂織多量	胎付帯、羽状ⅣⅣ文		42②	
ⅣⅣ-82	115		j28	Vb		2	2	ⅣⅣ	胴	砂織多量	胎付帯、羽状ⅣⅣ文		43②	
ⅣⅣ-82	116		j27	Vb		2	2	ⅣⅣ	胴	砂織多量	胎付帯、羽状ⅣⅣ文		43①	
ⅣⅣ-82	117		k31	Vb		1	1	ⅣⅣ	胴	砂織中々多量	胎付帯、羽状ⅣⅣ文		193	
ⅣⅣ-82	118		m30	Vb		1	1	ⅣⅣ	胴	砂織中々多量	胎付帯、ⅣⅣ文		195	
ⅣⅣ-82	119		m30	Vb		1	1	ⅣⅣ	胴	砂織中々多量	胎付帯、ⅣⅣ文		194	
ⅣⅣ-82	120		g26	Vb		2	2	ⅣⅣ	胴	砂織中々多量	胎付帯、胎ⅣⅣ文		113	
ⅣⅣ-82	121		ⅣⅣ116	F71	Vb		1	1	ⅣⅣ	口縁	砂織多量	口縁部肥厚部、突起、羽状ⅣⅣ文、口唇上・内面ⅣⅣ文		200
ⅣⅣ-82	122			F63	Vb		1	1	ⅣⅣ	口縁	砂織多量	口縁部肥厚部、ⅣⅣ文(口唇上含む)		198
ⅣⅣ-82	123	G74		Vb		1	1	ⅣⅣ	口縁	砂織多量	口縁部肥厚部、ⅣⅣ文(口唇上含む)		203	
ⅣⅣ-82	124	H65		Vb		1	1	ⅣⅣ	口縁	砂織多量	口縁部肥厚部、羽状ⅣⅣ文、口唇上ⅣⅣ文		204	
ⅣⅣ-82	125	F66		Vb		1	1	ⅣⅣ	口縁	砂織多量	口縁部肥厚部、突起、突起、ⅣⅣ文(口唇上・内面含む)		199	
ⅣⅣ-82	126	L58		Vb		1	1	ⅣⅣ	口縁	砂織中々多量	口縁部肥厚部、突起、突起、ⅣⅣ文(口唇上・内面含む)		205	
ⅣⅣ-82	127	R48		Vb		1	1	ⅣⅣ	口縁	砂織中々多量	口縁部肥厚部、突起、突起、ⅣⅣ文(口唇上・内面含む)		207	
ⅣⅣ-82	128	E71		Vb		3	3	ⅣⅣ	口縁	砂織中々多量	ⅣⅣ文(口唇上・内面含む)		197	
ⅣⅣ-83	129	C67		Vb		1	1	ⅣⅣ	口縁	砂織中々多量	突起、ⅣⅣ文(口唇上・内面含む)		196	
ⅣⅣ-83	130	G67		Vb		1	1	ⅣⅣ	口縁	砂織中々多量	ⅣⅣ文(口唇上・内面含む)		202	
ⅣⅣ-83	131	G66		Vb		1	1	ⅣⅣ	胴	砂織多量	突起、ⅣⅣ文		201	
ⅣⅣ-83	132	G65		Vb		6	6	ⅣⅣ	口～胴	砂織中々多量	突起、羽状ⅣⅣ文(口唇上・内面含む)		100	
ⅣⅣ-83	133	O49	Vb		5	5	ⅣⅣ	底	砂織中々多量	ⅣⅣ文		206		
ⅣⅣ-83	134	E24	Va		10	10	ⅣⅣ	口～胴	砂織中々多量/内面ナツテ	1→突起、横走ⅣⅣ文、口縁突起上刻み、ⅣⅣ文		44①		
ⅣⅣ-83	135	E24	Va		7	7	ⅣⅣ	胴	砂織中々多量/内面ナツテ	ⅣⅣ文		44②		
ⅣⅣ-83	136	ⅣⅣ23	H65	Vb		1	1	土製品	土器片加工円筒	砂織中々多量/内面ナツテ	ⅣⅣ文、貫通孔		18	
ⅣⅣ-83	137		F72	Vb		1	1	土製品	三角形土製品	砂織中々多量/内面ナツテ	突起、ⅣⅣ文		19	

表IV-16 V層出土掘削石器一覧(1)

神国 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	個体 番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-4	4	図版98	VH-1	覆土下位	45	石槍	黒曜石	4.5	2.3	0.6	5.0	KH3-6	4
図IV-4	5		VH-1	覆土上位	18	石槍	黒曜石	8.5	2.6	0.9	14.7	未成品	1
図IV-4	6		VH-1	覆土中位	25	石槍	黒曜石	7.4	3.5	0.9	20.6	KH-5	2
図IV-4	7		VH-1	覆土下位	31	つばみ付きナイフ	黒曜石	5.0	3.1	1.2	14.6		3
図IV-4	8		VH-1	覆土下位	32	石核	黒曜石	3.0	3.5	2.0	19.9		174
図IV-4	9		VH-1	覆土下位	40	石斧	緑色片岩	6.7	4.8	1.7	106.7		175
図IV-4	10		VH-1	覆土上位	13	硯石	砂岩	13.7	9.1	4.0	667		176
図IV-8	5	図版99	VH-2	覆土		両面調整石器	黒曜石	4.5	1.6	0.7	4.8	KH3-7	5
図IV-8	6		VH-2	覆土		石核	黒曜石	2.4	2.6	1.3	7.6		177
図IV-8	7		VH-2	覆土下位	103	たたき石	砂岩	5.4	4.3	3.3	71.0		178
図IV-8	8		VH-2	覆土上位	35	たたき石	砂岩	6.6	5.0	4.9	199		179
図IV-8	9		VH-2	覆土上位	26	たたき石	砂岩	10.5	5.8	4.8	420		180
図IV-8	10		VH-2	覆土下位	87	くぼみ石	砂岩	11.6	6.1	3.8	386		181
図IV-8	11	図版98	VH-2	覆土下位	97	台石	砂岩	21.6	11.5	6.8	2110		182
図IV-8	12	図版99	VH-2	覆土上位	1	台石	砂岩	19.8	18.4	4.3	2340		183
図IV-12	6	図版99	VH-3/G72	覆土1		石鏝	黒曜石	1.6	1.0	0.3	0.3		1101
図IV-12	7		VH-3/G72	覆土1		石鏝	黒曜石	2.4	1.0	0.5	0.9		1102
図IV-12	8		VH-3	覆土1	1801	つばみ付きナイフ	黒曜石	6.0	2.5	1.2	13.9		1103
図IV-12	9		VH-3/H71	覆土1		スクレイパー	黒曜石	7.2	3.4	1.2	18.8		1104
図IV-12	10		VH-3	覆土1		スクレイパー	黒曜石	6.6	2.7	1.5	20.6		1105
図IV-12	11		VH-3	覆土1		スクレイパー	黒曜石	4.5	3.3	1.2	17.5		1106
図IV-12	12		VH-3	覆土1		ピュエスキュー	黒曜石	2.9	1.4	1.0	4.4		1107
図IV-12	13	図版23	VH-3	覆土1	1825	石製品	緑泥石岩	(5.0)	4.8	1.5	47.4		1108
図IV-12	14	図版99	VH-3	覆土2	1833	くぼみ石	砂岩	12.3	6.0	3.4	361.8		1151
図IV-12	15		VH-3	覆土1	1826	台石	砂岩	35.8	30.0	3.8	5500		1162
図IV-15	2	図版100	VH-4	覆土1	3730	石鏝	黒曜石	1.8	1.2	0.4	0.6		1109
図IV-15	3		VH-4	覆土2	3755	石鏝	黒曜石	1.8	0.9	0.4	0.4		1110
図IV-15	4		VH-4	覆土2	3756	石鏝	黒曜石	2.2	0.8	0.5	0.6		1111
図IV-15	5		VH-4	覆土2	3757	石鏝	黒曜石	2.2	1.8	0.3	0.9		1112
図IV-15	6		VH-4	覆土1	3719	両面調整石器	黒曜石	3.2	1.3	0.7	2.4		1113
図IV-15	7		VH-4	覆土2	3760	スクレイパー	黒曜石	4.2	2.3	0.9	6.9		1114
図IV-15	8		VH-4	床面直上	3763	たたき石	砂岩	10.8	7.2	2.7	273.1		1152
図IV-15	9		VH-4	覆土1	3736	台石	砂岩	21.6	22.6	5.2	2990		1163
図IV-18	5	図版100	VH-5	覆土2	4207	石鏝	黒曜石	2.2	1.1	0.4	0.7		1115
図IV-18	6		VH-5	覆土1	4113	石鏝	黒曜石	1.5	1.8	0.5	1.2		1116
図IV-18	7		VH-5	床面直上	4287	石槍	黒曜石	4.7	1.9	0.7	5.5		1117
図IV-18	8		VH-5	覆土1	4117	石槍	黒曜石	5.9	2.2	0.7	7.9		1118
図IV-18	9		VH-5	覆土1	4053	石槍	黒曜石	6.5	2.2	0.9	11.2		1120
図IV-18	10		VH-5	覆土2	4196	石槍	黒曜石	6.6	2.5	0.8	10.7		1122
図IV-18	11		VH-5	覆土1	4055	石槍	黒曜石	6.7	2.3	0.7	9.8		1119
図IV-18	12		VH-5	覆土1	4290	石槍	黒曜石	6.8	2.3	0.8	10.5		1121
図IV-18	13		VH-5	覆土1	4088	スクレイパー	黒曜石	2.5	2.5	0.9	4.4		1123
図IV-18	14		VH-5	覆土1	4086・4087	石斧	緑色片岩	13.7	4.2	1.7	180.2		1125
図IV-18	15		VH-5	覆土1	4052	石斧	緑色片岩	12.7	5.3	1.7	194.7		1126
図IV-18	16		VH-5	覆土1	4067	硯石	砂岩	9.5	8.2	7.4	816.8		1153
図IV-18	17	図版23	VH-5	覆土1	2000	垂飾	蛇紋岩	2.1	2.3	1.1	7.0		1124
図IV-21	4	図版101	VP-3	覆土1	4299	スクレイパー	頁岩	5.7	1.6	1.4	12.7		1136
図IV-22	18	図版102	VH-6	覆土1	1901	石鏝	黒曜石	3.0	1.6	0.5	1.8		1127
図IV-22	19		VH-6	覆土1	4239	スクレイパー	黒曜石	2.7	1.8	1.1	5.3		1129
図IV-22	20		VH-6	覆土1	1968	スクレイパー	黒曜石	3.6	3.7	1.6	23.8		1130
図IV-22	21		VH-6	覆土1	1970	石槍	黒曜石	10.7	5.5	1.0	60.1		1128
図IV-22	22		VH-6	覆土1	4240	スクレイパー	頁岩	9.1	5.8	0.9	46.9		1131
図IV-22	23		VH-6	覆土1	1900	石斧	緑色片岩	6.5	4.2	1.5	63.2		1132
図IV-22	24		VH-6	覆土1	4241	石斧	緑色片岩	8.0	5.3	2.0	116.6		1133
図IV-22	25		VH-6	覆土1	1882	たたき石	砂岩	11.8	4.9	4.4	269.7		1155
図IV-22	26		VH-6	覆土1	1877	くぼみ石	砂岩	10.9	7.9	3.0	359.2		1156
図IV-22	27		VH-6H1-1	覆土1		たたき石	砂岩	10.9	6.4	2.2	194.7		1154
図IV-22	28		VH-6	覆土1	1862	北海道式石鏝	砂岩	6.0	11.6	5.7	548.3		1157
図IV-22	29		VH-6	覆土2	4218	石鏝	砂岩	6.9	8.4	2.9	165.9		1158
図IV-22	30		VH-6	覆土1	1889	硯石	砂岩	12.6	9.7	5.7	1210		1159
図IV-24	4	図版102	VH-7	覆土1		くぼみ石	砂岩	6.0	6.3	3.2	132.9		1160
図IV-27	2	図版102	VH-9	覆土	3890	石斧	緑色片岩	9.0	2.6	1.6	61.9		1134

表IV-17 V層出土掘削石器一覧(2)

神国 番号	掲載 番号	写真国版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	個体 番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-29	1	図版103	V P-2	覆土	4321	スクレイパー	黒曜石	3.6	2.1	0.6	3.1		1135
図IV-31	1	図版103	TP-4	覆土		リブレイク	黒曜石	6.5	3.1	1.2	15.7	スクレイパー	172
図IV-32	2		TP-5	覆土		両面調整石器	黒曜石	3.1	1.4	0.3	1.2		173
図IV-33	3		TP-7	覆土		石槍	黒曜石	7.9	2.9	1.0	17.7		6
図IV-41	4		TP-17	覆土	3779	たたき石	砂岩	7.9	9.6	7.2	643.1		1161
図IV-41	5		TP-17	覆土	3778	台石	砂岩	40.0	30.9	6.6	12500		1165
図IV-41	6		TP-17	覆土	3777	台石	砂岩	46.9	30.7	10.5	21000		1164
図IV-43	1	図版103	VF-1	Vb	3	石斧	緑色片岩	9.8	5.4	2.3	227.0		192
図IV-43	5		VF-3	Vb	2	台石	砂岩	21.3	12.1	6.0	1721.0		193
図IV-45	2	図版104	V PB-1	Vb	109	つまみ付きナイフ	珪化岩	4.2	1.8	0.4	4.0		184
図IV-45	3		V PB-1	Vb	110	ナリ石	砂岩	6.9	9.6	4.8	444		185
図IV-47	7		V PB-2	Vb	52	ナリ石	砂岩	6.7	7.6	4.4	274		186
図IV-47	8		V PB-2	Vb	46	砥石	砂岩	14.3	13.8	6.1	994		188
図IV-47	9		V PB-2	Vb	39	くばみ石	砂岩	20.5	10.7	6.5	1826		187
図IV-47	10		V PB-2	Vb	112	台石	砂岩	40.3	22.6	4.7	5800		189
図IV-49	20	図版105	V PB-4	Vb	40	石鏃	黒曜石	3.6	1.8	0.4	2.0		190
図IV-52	37	図版106	V PB-7	Vb	58	つまみ付きナイフ	珪化岩	5.1	3.2	0.7	12.0		191
図IV-62	1	図版109	石器集中1	Vb	4	石鏃	黒曜石	1.7	2.1	0.2	0.4		24
図IV-62	2		石器集中1	Vb	2	石鏃	黒曜石	1.8	1.5	0.2	0.4		22
図IV-62	3		石器集中1	Vb	9	石鏃	黒曜石	1.9	1.6	0.3	0.6		29
図IV-62	4		石器集中1	Vb	7	石鏃	黒曜石	1.9	2.0	0.3	0.6		27
図IV-62	5		石器集中1	Vb	14	石鏃	黒曜石	1.9	2.4	0.3	0.7		34
図IV-62	6		石器集中1	Vb	16	石鏃	黒曜石	2.0	1.6	0.2	0.5		36
図IV-62	7		石器集中1	Vb	11	石鏃	黒曜石	2.0	1.8	0.3	0.5		31
図IV-62	8		石器集中1	Vb	13	石鏃	黒曜石	2.0	2.0	0.3	0.6		33
図IV-62	9		石器集中1	Vb	6	石鏃	黒曜石	2.1	1.6	0.2	0.6		26
図IV-62	10		石器集中1	Vb	15	石鏃	黒曜石	2.1	1.8	0.3	0.7		35
図IV-62	11		石器集中1	Vb	18	石鏃	黒曜石	2.2	1.3	0.3	0.6		38
図IV-62	12		石器集中1	Vb	8	石鏃	黒曜石	2.2	1.5	2.0	0.7		28
図IV-62	13		石器集中1	Vb	21	石鏃	黒曜石	2.3	1.9	0.3	0.9		41
図IV-62	14		石器集中1	Vb	10	石鏃	黒曜石	2.3	2.1	0.2	0.8	KH3-20	30
図IV-62	15		石器集中1	Vb	12	石鏃	黒曜石	2.3	2.3	0.3	0.8		32
図IV-62	16		石器集中1	Vb	20	石鏃	黒曜石	2.4	1.8	0.2	0.6		40
図IV-62	17		石器集中1	Vb	5	石鏃	黒曜石	2.4	2.0	0.3	0.8		25
図IV-62	18		石器集中1	Vb	19	石鏃	黒曜石	2.4	2.3	0.3	1.0		39
図IV-62	19		石器集中1	Vb	3	石鏃	黒曜石	2.6	1.8	0.2	0.9		23
図IV-62	20		石器集中1	Vb	17	石鏃	黒曜石	2.9	2.3	0.4	1.3		37
図IV-62	21		石器集中1	Vb	1	石槍	黒曜石	5.0	2.7	0.7	5.7		21
図IV-63	22		石器集中2	Vb	1773	石槍	黒曜石	4.3	2.1	0.5	3.3		1146
図IV-63	23		石器集中2	Vb	1776	石槍	黒曜石	4.4	1.9	0.8	4.7		1149
図IV-63	24		石器集中2	Vb	1769	石槍	黒曜石	4.8	2.0	0.6	4.4		1142
図IV-63	25		石器集中2	Vb	1771	石槍	黒曜石	4.8	2.0	0.6	4.1		1144
図IV-63	26		石器集中2	Vb	1774	石槍	黒曜石	4.6	2.2	0.8	4.7		1147
図IV-63	27		石器集中2	Vb	1768	石槍	黒曜石	5.0	1.9	0.7	4.6		1141
図IV-63	28		石器集中2	Vb	1775	石槍	黒曜石	4.8	2.4	1.0	7.5		1148
図IV-63	29		石器集中2	Vb	1777	石槍	黒曜石	5.0	2.2	0.9	6.9		1150
図IV-63	30		石器集中2	Vb	1765	石槍	黒曜石	5.2	2.2	0.7	5.0		1138
図IV-63	31		石器集中2	Vb	1770	石槍	黒曜石	5.3	2.2	0.8	6.8		1143
図IV-63	32		石器集中2	Vb	1766	石槍	黒曜石	4.9	2.1	0.7	5.1		1139
図IV-63	33		石器集中2	Vb	1772	石槍	黒曜石	5.5	2.1	0.6	6.3		1145
図IV-63	34		石器集中2	Vb	1767	石槍	黒曜石	5.6	2.2	0.8	6.0	2点接合	1140
図IV-63	35		石器集中2	Vb	1764	石槍	黒曜石	6.6	2.1	0.5	6.3		1137
図IV-65	1	図版109	VFC-1	Vb	125	石鏃	黒曜石	2.1	1.7	0.4	0.9		9
図IV-65	2		VFC-1	Vb	4	石鏃	黒曜石	3.4	2.7	0.3	2.3	KH3-11	152
図IV-65	3		VFC-1	Vb	88	スクレイパー	黒曜石	6.2	5.0	0.8	22.7		8
図IV-65	4		VFC-1	Vb	86	スクレイパー	黒曜石	8.2	4.3	0.6	17.2		7
図IV-65	5		VFC-1	Vb	67	スクレイパー	黒曜石	5.8	2.8	0.9	10.1		160
図IV-65	6		VFC-1	Vb	1	Rブレイク	黒曜石	3.9	1.8	0.3	1.9		153
図IV-65	7		VFC-1	Vb	54	リブレイク	黒曜石	5.3	3.9	0.5	8.6		157
図IV-65	8		VFC-1	Vb	51	リブレイク	黒曜石	6.6	4.4	0.8	17.9		155
図IV-65	9		VFC-1	Vb	50	リブレイク	黒曜石	10.2	6.6	1.1	50		154
図IV-65	10		VFC-1	Vb	56	ブレイク	黒曜石	5.7	5.5	0.9	15.9		158

表IV-18 V層出土掘削石器一覧(3)

神田 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	個体 番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-65	11	図版109	VFC-1	Vb	52・53-69	フレイク	黒曜石	6.4	5.7	0.9	17.9		156
図IV-65	12		VFC-1	Vb	56	フレイク	黒曜石	7.4	5.5	0.9	31.9		159
図IV-66	13	図版110	VFC-2	Vb	2	つまみ付きナイフ	黒曜石	4.8	2.3	0.9	8.3	KH3-12	10
図IV-66	14		VFC-2	Vb	8	リフレイク	黒曜石	5.7	3.8	0.7	11.4		162
図IV-66	15		VFC-2	Vb	3	リフレイク	黒曜石	6.3	3.6	0.7	16.7	スクレイパー	161
図IV-66	16		VFC-2	Vb	12	リフレイク	黒曜石	6.2	3.7	0.7	14.2	スクレイパー	163
図IV-66	17		VFC-3	Vb	10	石鏃	黒曜石	1.6	1.2	0.4	0.8		11
図IV-66	18		VFC-3	Vb	13	石鏃	黒曜石	1.9	1.7	0.3	0.6		12
図IV-66	19		VFC-3	Vb		石鏃	黒曜石	1.7	1.7	0.3	0.5		19
図IV-66	20		VFC-3	Vb		石鏃	黒曜石	1.5	1.7	0.3	0.4		20
図IV-66	21		VFC-3	Vb	58	石鏃	黒曜石	1.9	2.0	0.4	1.0		15
図IV-66	22		VFC-3	Vb	22	石鏃	黒曜石	2.5	1.8	0.4	1.3	KH3-14	14
図IV-66	23		VFC-3	Vb	81	石鏃	黒曜石	3.0	3.2	0.6	3.5	KH3-15	17
図IV-66	24		VFC-3	Vb	94	つまみ付きナイフ	黒曜石	4.8	1.9	0.7	5.3	KH3-16	18
図IV-66	25		VFC-3	Vb	62	つまみ付きナイフ	頁岩	6.7	2.5	1.0	15.5		16
図IV-66	26		VFC-3	Vb	67	つまみ付きナイフ	頁岩	8.1	2.7	0.7	14.3		169
図IV-66	27		VFC-3	Vb	53	スクレイパー	珩化岩	4.3	2.7	0.8	9.1		168
図IV-66	28		VFC-3	Vb	16	スクレイパー	黒曜石	6.6	3.8	0.8	16.7	KH3-13	13
図IV-66	29		VFC-3	Vb	52	Rフレイク	黒曜石	3.8	3.8	1.2	10.2		167
図IV-66	30		VFC-3	Vb	4	リフレイク	黒曜石	4.7	4.7	0.5	1.0		164
図IV-66	31		VFC-3	Vb	12	リフレイク	頁岩	3.5	3.1	1.0	9.3		165
図IV-66	32		VFC-3	Vb	48	リフレイク	黒曜石	5.1	4.9	0.7	12.8		166
図IV-67	33		VFC-5	Vb	14	フレイク	黒曜石	5.8	5.6	0.8	16.7		171
図IV-67	34		VFC-5	Vb	8	フレイク	黒曜石	5.2	2.8	0.8	11.9		170
図IV-68	1	図版110	VS-1	Vb	133	石槍	頁岩	12.3	3.1	1.4	45.2		1040
図IV-68	2		VS-1	Vb	22	石斧	緑色片岩	11.7	3.6	1.5	75.4		1038
図IV-68	3		VS-1	Vb	125	北海道式石冠	砂岩	8.0	9.0	6.8	673.1		1037
図IV-84	1	図版117	L62	Vb		石鏃	黒曜石	1.3	0.7	0.3	0.2		1234
図IV-84	2		M57	Vc		石鏃	黒曜石	1.5	0.8	0.3	0.3		1240
図IV-84	3		K51	Vb		石鏃	黒曜石	1.6	0.8	0.2	0.24		1225
図IV-84	4		K63	Vb		石鏃	黒曜石	1.9	0.8	0.4	0.4		1222
図IV-84	5		a24	Vc		石鏃	黒曜石	2.1	1.0	0.3	0.4		63
図IV-84	6		a24	Vb		石鏃	黒曜石	1.8	0.9	0.2	0.3		98
図IV-84	7		O53	Vc		石鏃	黒曜石	2.2	0.9	0.3	0.3		1247
図IV-84	8		L53	Vb		石鏃	黒曜石	2.4	1.0	0.3	0.4	KH3-23	1231
図IV-84	9		a24	Vb		石鏃	黒曜石	2.4	1.1	0.2	0.4		57
図IV-84	10		Y22	Vb		石鏃	黒曜石	2.6	1.2	0.2	0.7		46
図IV-84	11		M56	Vc		石鏃	黒曜石	2.8	1.1	0.3	0.5		1239
図IV-84	12		M57	Vb		石鏃	黒曜石	3.0	1.3	0.3	0.7	KH3-24	1241
図IV-84	13		J58	Vb		石鏃	黒曜石	3.3	1.1	0.3	0.7		1224
図IV-84	14		W23	V		石鏃	黒曜石	3.5	1.8	0.4	2.0		44
図IV-84	15		Z19	Vb		石鏃	黒曜石	3.1	2.3	0.2	1.1		47
図IV-84	16		a20	Vb		石鏃	黒曜石	2.5	2.4	0.3	1.2		53
図IV-84	17		Y22	Vb		石鏃	黒曜石	2.6	1.2	0.2	0.7		46
図IV-84	18		K65	Vb		石鏃	黒曜石	2.5	1.4	0.4	0.9		1228
図IV-84	19		O53	Vb		石鏃	黒曜石	2.2	0.9	0.3	0.3		1247
図IV-84	20		Z20	Va		石鏃	黒曜石	1.9	1.9	0.2	0.5		48
図IV-84	21		e2	Vb		石鏃	黒曜石	1.6	1.8	0.2	0.5		59
図IV-84	22		a29	Vb		石鏃	黒曜石	(2.5)	1.5	0.4	0.8		1008
図IV-84	23		a20	Vb		石鏃	黒曜石	2.2	1.6	0.6	0.7		196
図IV-84	24		G65	Vb		石鏃	黒曜石	2.3	1.8	0.3	0.7		1217
図IV-84	25		N54	Vb		石鏃	黒曜石	1.8	1.5	0.4	0.7		1242
図IV-84	26		B66	Vb		石鏃	黒曜石	2.0	1.4	0.5	1.1		1201
図IV-84	27		G67	Vb		石鏃	黒曜石	1.6	1.3	0.3	0.3		1218
図IV-84	28		L53	Vc		石鏃	黒曜石	2.6	1.3	0.3	0.6		1232
図IV-84	29		M54	Vb		石鏃	黒曜石	(2.3)	1.5	0.3	0.6		1236
図IV-84	30		F67	Vb		石鏃	黒曜石	2.4	1.6	0.5	0.9		1214
図IV-84	31		F66	Vb		石鏃	黒曜石	2.3	1.2	0.3	0.6		1213
図IV-84	32		K59	Vl		石鏃	黒曜石	3.2	1.1	0.5	1.0		1227
図IV-84	33		L50	Vb		石鏃	黒曜石	2.8	1.1	0.7	1.5		1229
図IV-84	34		m33	Vb		石鏃	黒曜石	2.6	1.2	0.5	1.0		1007
図IV-84	35		L62	Vb		石鏃	黒曜石	1.8	1.1	0.3	0.4		1235

表IV-19 V層出土掘載石器一覧(4)

神田 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	個体 番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-84	36		M55	Vb	石鏃	黒曜石	2.3	0.8	0.3	0.4		1237	
図IV-84	37		R48	V	石鏃	黒曜石	2.7	0.9	0.4	0.6		1250	
図IV-84	38		D70	Vb	石鏃	黒曜石	(2.6)	1.1	0.4	1.0		1204	
図IV-84	39		F68	Vb	石鏃	黒曜石	3.0	1.0	0.4	0.9		1215	
図IV-84	40		a15	V	石鏃	黒曜石	3.0	1.1	0.4	0.9		50	
図IV-84	41		F66	Vb	石鏃	黒曜石	3.5	1.3	0.7	2.3		1212	
図IV-84	42		a18	V	石鏃	黒曜石	3.6	1.5	0.6	2.5	被熱	51	
図IV-84	43		N55	Vb	石鏃	黒曜石	3.7	1.4	0.7	2.5		1243	
図IV-84	44		d19	Vb	石鏃	黒曜石	3.0	1.6	0.6	2.2		101	
図IV-84	45		o29	Vb	石鏃	黒曜石	3.5	2.0	0.8	3.0		1015	
図IV-84	46		e23	V	石鏃	黒曜石	3.1	1.6	0.6	1.8		99	
図IV-84	47		f28	Vb	石鏃	黒曜石	3.1	1.6	0.2	1.2		103	
図IV-84	48		n30	Vb	石鏃	黒曜石	3.2	2.4	0.5	2.0		1010	
図IV-84	49		Y18	Vb	石鏃	黒曜石	2.8	1.6	0.5	2.0		45	
図IV-84	50		m31	Vb	石鏃	黒曜石	2.6	1.8	0.5	1.1		1005	
図IV-84	51		n30	Vb	石鏃	黒曜石	2.9	(1.9)	0.6	1.7		1009	
図IV-84	52		a23	Vb	石鏃	黒曜石	2.9	1.7	0.4	1.3		56	
図IV-84	53		m28	Vb	石鏃	黒曜石	3.1	1.9	0.6	2.0		1004	
図IV-84	54		N56	Vb	石鏃	黒曜石	3.7	1.7	0.6	3.1		1245	
図IV-84	55		n30	Vb	石鏃	黒曜石	3.5	2.0	0.7	3.4		1012	
図IV-84	56		m31	Vb	石鏃	黒曜石	(3.7)	2.0	0.7	2.7		1006	
図IV-84	57		g23	Vb	石鏃	黒曜石	3.6	1.9	0.6	2.1		62	
図IV-84	58		a23	Vb	石鏃	黒曜石	3.6	1.9	0.5	1.9		55	
図IV-84	59		Z21	Vb	石鏃	黒曜石	3.9	2.8	0.6	3.9		49	
図IV-84	60		i28	Vb	石鏃	黒曜石	3.4	2.4	0.7	2.9		68	
図IV-84	61		D65	Vb	石鏃	黒曜石	3.6	2.2	0.8	4.4		1203	
図IV-84	62		a23	Vb	石鏃	黒曜石	3.8	1.8	0.7	2.7		97	
図IV-84	63		L51	Vb	石鏃	黒曜石	4.1	2.2	0.7	3.0		1230	
図IV-84	64		n30	Vb	石鏃	黒曜石	4.0	2.2	0.7	3.9		1011	
図IV-85	65		E63	Va	石槍	黒曜石	4.3	2.6	0.7	5.9		1207	
図IV-85	66		E63	Vb	石槍	黒曜石	3.9	2.4	0.6	4.4		1208	
図IV-85	67		g28	Va	石槍	黒曜石	3.9	2.6	0.7	4.5		104	
図IV-85	68		i27	V	石槍	黒曜石	4.2	2.6	0.7	4.7		60	
図IV-85	69		E63	Va	石槍	黒曜石	4.1	2.8	0.7	5.9		1206	
図IV-85	70		g26	Vb	石槍	黒曜石	4.5	2.7	0.8	5.1		64	
図IV-85	71		a22	Vb	石槍	黒曜石	4.4	2.5	0.6	4.0		54	
図IV-85	72		g28	Vb	石槍	黒曜石	4.2	2.4	0.7	4.3		69	
図IV-85	73		g28	Vb	石槍	黒曜石	4.5	2.4	0.7	5.8		65	
図IV-85	74		f25	Vb	石槍	黒曜石	4.9	2.5	0.6	4.9		102	
図IV-85	75		i29	Vb	石槍	黒曜石	4.9	2.6	0.7	6.3		1001	
図IV-85	76		E63	Vb	石槍	黒曜石	(4.6)	2.5	0.8	5.8		1210	
図IV-85	77		g29	Vb	石槍	黒曜石	5.3	3.0	0.6	8.7		70	
図IV-85	78		E63	Vb	石槍	黒曜石	4.7	2.3	0.8	5.1		1209	
図IV-85	79		O50	Vb	石槍	黒曜石	4.8	2.4	0.9	7.6		1246	
図IV-85	80		g23	Vb	石槍	黒曜石	4.5	2.5	0.7	4.1		61	
図IV-85	81		g30	Va	石槍	黒曜石	6.0	2.5	0.7	7.8		71	
図IV-85	82		F63	Vb	石槍	黒曜石	5.4	2.7	0.8	7.3		1211	
図IV-85	83		i27	Vb	石槍	黒曜石	4.6	2.7	0.8	5.3		67	
図IV-85	84		O65	Vb	石槍	黒曜石	5.6	2.6	1.0	9.9		1216	
図IV-85	85		Y22	Vb	石槍	黒曜石	6.7	3.5	0.9	16.2		73	
図IV-85	86		d26	Vb	石槍	黒曜石	6.1	3.0	1.2	15.9		58	
図IV-85	87		L55	Vb	石槍	黒曜石	6.3	2.9	1.2	15.9		1254	
図IV-85	88		i32	Vb	石槍	黒曜石	(5.9)	3.2	0.8	10.1		1002	
図IV-85	89		e24	Vb	石槍	黒曜石	7.1	2.8	0.9	11.4		75	
図IV-85	90		H65	Vb	石槍	黒曜石	6.5	3.1	1.4	19.9		1252	
図IV-85	91		S49	Vb	石槍	黒曜石	6.4	3.2	0.8	13.5	2点接合	1257	
図IV-85	92		i30	Vb	石槍	頁岩	5.8	2.9	0.9	11.0		1016	
図IV-86	93	図版118	a19	Vb	石槍	黒曜石	4.6	1.9	0.6	3.7		52	
図IV-86	94		H65	Vb	石槍	黒曜石	4.2	1.5	0.6	2.8		1219	
図IV-86	95		m30	V	石槍	黒曜石	4.3	1.7	0.6	3.2		72	
図IV-86	96		H65	Vb	石槍	黒曜石	4.6	1.4	0.7	3.1		1220	
図IV-86	97		W16	Vb	石槍	黒曜石	4.6	1.5	0.7	4.2		96	

表IV-20 V層出土掘削石器一覧(5)

神田 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	個体 番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-86	98	図版118	V12	V		石槍	黒曜石	4.5	1.6	0.7	4.1		42
図IV-86	99		L58	Vb		石槍	黒曜石	4.8	1.9	0.5	3.8		1233
図IV-86	100		C67	Vb		石槍	黒曜石	4.4	1.9	0.6	4.1		1202
図IV-86	101		k30	V		石槍	黒曜石	4.8	1.4	0.6	3.1		105
図IV-86	102		M60	Vb		石槍	黒曜石	5.7	1.9	0.6	5.2		1255
図IV-86	103		n30	Vb		石槍	黒曜石	5.2	1.7	0.8	5.0		1013
図IV-86	104		K53	Vb		石槍	黒曜石	5.7	1.9	0.8	6.2		1236
図IV-86	105		M56	Vb		石槍	黒曜石	5.2	1.9	0.9	5.9		1238
図IV-86	106		P54	Vb		石槍	黒曜石	4.6	2.1	0.6	4.6		1248
図IV-86	107		W18	V		石槍	黒曜石	5.2	1.7	0.7	5.5		43
図IV-86	108		H65	Vb		石槍	黒曜石	5.2	1.6	1.0	5.4		1221
図IV-86	109		o29	Vb		石槍	黒曜石	5.5	2.3	0.7	6.1		1014
図IV-86	110		m28	Vb		石槍	黒曜石	(5.5)	2.3	0.7	6.1		1003
図IV-86	111		N55	Vb		石槍	黒曜石	6.2	2.1	0.8	8.5		1244
図IV-86	112		n30	Vb		石槍	黒曜石	6.3	1.9	0.9	9.0		1017
図IV-86	113		P51	Vb		石槍	黒曜石	6.4	1.9	0.7	7.0		1236
図IV-86	114		d27	Vc		石槍	黒曜石	7.1	3.0	0.8	12.2		74
図IV-86	115		B68	Vb		石槍	黒曜石	7.1	2.6	0.7	12.3		1251
図IV-86	116		h65	Vb		石槍	黒曜石	6.9	2.4	0.7	9.6		1223
図IV-86	117		D70	Vb		石槍	黒曜石	5.7	2.2	0.7	7.9		1205
図IV-86	118		J63	Vb		石槍	黒曜石	8.0	3.1	1.0	15.4	KH3-25	1253
図IV-86	119		o30	Va		石槍	黒曜石	8.7	3.5	1.0	24.6		76
図IV-86	120		I31	Vb		石槍	黒曜石	(10.2)	(4.9)	(0.8)	31.5	2点接合	1018
図IV-87	121		L59	Vc		石鏃	黒曜石	4.1	1.6	0.2	2.3		1262
図IV-87	122		N55	Vb	3691	石鏃	黒曜石	3.3	2.4	0.4	2.6		1263
図IV-87	123		L56	Vb		石鏃	黒曜石	3.4	2.8	0.6	4.9		1261
図IV-87	124		D62	Vc		石鏃	黒曜石	3.0	2.3	0.7	3.3		1258
図IV-87	125		Y16	V		石鏃	黒曜石	3.9	3.5	0.8	7.6		77
図IV-87	126		K51	Vb		石鏃	頁岩	5.1	2.4	0.6	9.1		1260
図IV-87	127		b24	V		石鏃	黒曜石	3.7	1.1	0.6	2.0		78
図IV-87	128		o29	Vb		石鏃	黒曜石	4.5	1.5	0.8	4.0		1039
図IV-87	129		H65	Vb		石鏃	頁岩	5.8	1.3	1.0	6.6		1259
図IV-87	130		d26	Vb		両面調整石器	黒曜石	2.0	1.0	0.5	1.0		79
図IV-87	131		S52	Vb		両面調整石器	黒曜石	4.7	2.6	0.7	8.5		1264
図IV-87	132		d26	Vb		両面調整石器	黒曜石	6.3	3.0	0.8	14.2		80
図IV-87	133		W18	V		つまみ付きナイフ	黒曜石	4.8	1.6	1.0	7.1		82
図IV-87	134		G69	Vb		つまみ付きナイフ	黒曜石	4.8	2.8	0.9	4.9		1267
図IV-87	135		V12	V		つまみ付きナイフ	黒曜石	5.2	3.1	0.7	9.3	未成品	81
図IV-87	136		P51	Vb		つまみ付きナイフ	黒曜石	4.8	2.7	1.2	10.3		1270
図IV-87	137		F66	Vb		つまみ付きナイフ	黒曜石	4.3	2.1	1.1	8.0		1266
図IV-87	138		n30	Vb		つまみ付きナイフ	黒曜石	6.5	1.9	0.9	6.2		1022
図IV-87	139		L63	Vb		つまみ付きナイフ	黒曜石	8.4	3.7	0.9	19.2		1268
図IV-87	140		C63	Vb		つまみ付きナイフ	黒曜石	8.3	3.1	0.8	19.0	3点接合	1265
図IV-87	141		I28	Vb		つまみ付きナイフ	黒曜石	7.5	3.5	1.3	18.0		1021
図IV-87	142		L63	Vb		つまみ付きナイフ	黒曜石	2.7	5.1	0.8	5.0		1269
図IV-87	143		N60	Vb		つまみ付きナイフ	珪化岩	4.6	2.1	0.6	4.4		1278
図IV-87	144		L54	Vc		つまみ付きナイフ	珪化岩	5.8	2.8	1.2	11.6		1277
図IV-87	145		E67	Vb		つまみ付きナイフ	珪化岩	5.3	3.1	1.2	17.1		1275
図IV-87	146		L54	Vc		つまみ付きナイフ	珪化岩	6.6	2.9	0.6	9.0		1276
図IV-88	147	図版119	F67	Vb		つまみ付きナイフ	頁岩	5.6	1.3	0.8	4.5		1272
図IV-88	148		m32	Vb		つまみ付きナイフ	頁岩	6.2	4.6	0.6	10.3		1023
図IV-88	149		C66	Vb		つまみ付きナイフ	頁岩	8.8	3.0	1.3	26.7		1271
図IV-88	150		R50	Vb		つまみ付きナイフ	頁岩	7.7	2.8	0.7	16.4		1274
図IV-88	151		K58	Vb		つまみ付きナイフ	頁岩	11.7	3.2	1.1	27.9		1273
図IV-88	152		d19	Vb		スクレイパー	黒曜石	3.6	1.4	0.4	2.3		197
図IV-88	153		n29	Vb		スクレイパー	黒曜石	(5.1)	1.7	0.9	4.8		1019
図IV-88	154		n32	Vb		スクレイパー	黒曜石	5.1	1.8	0.7	2.7		1020
図IV-88	155		d19	Vb		スクレイパー	黒曜石	4.4	2.6	0.6	6.9	挿入	89
図IV-88	156		G67	Vb		スクレイパー	黒曜石	4.5	2.4	1.2	7.8	挿入	1286
図IV-88	157		d21	Vb		スクレイパー	黒曜石	3.6	2.4	0.8	4.1	挿入	90
図IV-88	158		e25	Vc		スクレイパー	黒曜石	4.6	2.4	0.6	5.6	挿入	92
図IV-88	159		g23	Vb		スクレイパー	黒曜石	5.0	2.4	1.6	12.4	挿入	94

表IV-21 V層出土掘載石器一覧(6)

神田 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	図版 番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-88	160		図版119	G68	Vb	スクレイパー	黒曜石	4.8	2.4	0.9	9.6		1287
図IV-88	161			h25	Vb	スクレイパー	黒曜石	6.4	2.0	1.0	10.4		85
図IV-88	162			d19	Vb	スクレイパー	黒曜石	4.4	3.2	1.1	13.5		88
図IV-88	163			H65	Va	スクレイパー	黒曜石	6.0	4.8	1.9	30.6	2点接合	1289
図IV-88	164			P52	Vb	スクレイパー	黒曜石	4.5	3.7	1.2	12.1		1296
図IV-88	165			V22	V	スクレイパー	黒曜石	6.0	3.9	1.2	28.5		198
図IV-88	166			K29	Vb	スクレイパー	黒曜石	4.3	2.9	0.8	8.2		83
図IV-89	167			H75	Vb	スクレイパー	黒曜石	5.4	3.3	0.7	11.8		1291
図IV-89	168			L62	Vb	スクレイパー	黒曜石	5.7	2.9	1.1	14.2		1293
図IV-89	169			F66	Vb	スクレイパー	黒曜石	4.5	5.7	1.3	27.3		1281
図IV-89	170			C65	Vb	スクレイパー	黒曜石	3.4	3.3	0.6	6.7	KH3-27	1279
図IV-89	171			e25	Vc	スクレイパー	黒曜石	2.9	2.7	0.6	6.6		91
図IV-89	172			E66	Vb	スクレイパー	黒曜石	3.2	3.4	1.4	13.9		1280
図IV-89	173			F73	Vb	スクレイパー	黒曜石	3.5	3.1	1.2	9.4		1284
図IV-89	174			G71	Vb	スクレイパー	黒曜石	3.5	3.3	1.1	12.2		1288
図IV-89	175			N52	Vc	スクレイパー	黒曜石	3.8	3.2	0.9	8.9		1295
図IV-89	176			K56	Vb	スクレイパー	黒曜石	2.6	2.0	1.0	3.6	KH13-26	1292
図IV-89	177			N49	Vb	スクレイパー	黒曜石	3.0	1.8	0.8	3.2		1294
図IV-89	178			F67	Vb	スクレイパー	黒曜石	3.8	2.6	0.9	8.4		1283
図IV-89	179			F67	Vb	スクレイパー	黒曜石	4.6	3.0	0.9	10.2		1282
図IV-89	180			Z19	V	スクレイパー	黒曜石	5.0	4.3	1.3	25.7		84
図IV-89	181			e19	Vb	スクレイパー	黒曜石	4.0	3.8	0.8	12.0		86
図IV-89	182			f22	Vb	スクレイパー	黒曜石	2.7	4.5	0.4	5.1		93
図IV-89	183			H65	Vb	スクレイパー	黒曜石	5.0	5.5	1.5	22.8		1290
図IV-89	184			i27	Vb	スクレイパー	黒曜石	3.4	4.6	1.3	24.3		95
図IV-89	185			T51	Vb	スクレイパー	頁岩	4.7	3.6	0.7	11.6		1297
図IV-89	186			G66	Vb	スクレイパー	珪化岩	5.8	3.6	1.0	14.9		1285
図IV-89	187			d19	Vb	スクレイパー	珪化岩	6.3	4.0	1.5	42.2		87
図IV-90	188	図版120		H65	Vb	石のみ	緑色片岩	6.9	1.5	0.7	14.1		1301
図IV-90	189			a31	Vb	石斧	片岩	6.4	3.0	0.9	29.4		1031
図IV-90	190			i27	Vb	石斧	片岩	7.8	2.4	0.8	22.0		123
図IV-90	191			g26	Vb	石斧	片岩	6.2	2.6	1.1	29.0		120
図IV-90	192			g28	Vb	石斧	片岩	7.1	2.9	1.1	27.0		125
図IV-90	193			h27	Vb	石斧	片岩	6.9	3.0	1.1	40.0		122
図IV-90	194			m28	Vb	石斧	緑色片岩	8.2	3.5	1.9	64.9		1029
図IV-90	195			F67	Vb	石斧	緑色片岩	8.2	3.8	1.2	52.9		1303
図IV-90	196			a21	Vb	石斧	片岩	8.4	4.0	1.3	67.0		109
図IV-90	197			h67	Vb	石斧	緑色片岩	9.4	3.9	1.1	55.5		1304
図IV-90	198			i28	Vb	石斧	青色片岩	(9.3)	3.5	1.2	52.2		1026
図IV-90	199			M54	Vb	石斧	緑色片岩	9.5	3.4	1.6	92.8		1305
図IV-90	200			d21	Vb	石斧	片岩	9.8	2.8	1.7	79.0		112
図IV-90	201			e22	Va	石斧	緑色片岩	7.9	2.8	1.5	60.0	刃部欠損	111
図IV-90	202			Z19	Vb	石斧	緑色片岩	8.0	3.3	1.5	74.0		108
図IV-90	203			g25	Vb	石斧	片岩	9.2	3.5	1.2	59.0		119
図IV-90	204			Y18	Vb	石斧	蛇紋岩	9.4	4.4	1.5	91.0		107
図IV-90	205			i28	Vb	石斧	緑色片岩	9.4	3.6	1.6	72.3		1027
図IV-90	206			G62	Vb	石斧	緑色片岩	10.3	3.4	1.3	81.0		1307
図IV-90	207			G69	Vb	石斧	緑色片岩	9.8	3.9	1.8	112.2		1306
図IV-90	208			k28	Vc	石斧	片岩	5.6	4.1	1.5	59.0		106
図IV-90	209			i28	Vb	石斧	青色片岩	(8.7)	4.0	1.7	104.1		1025
図IV-90	210			E65	Vb	石斧	緑色片岩	10.5	3.3	1.5	102.7		1308
図IV-90	211			H67	Vb	石斧	緑色片岩	10.7	3.7	1.2	72.1		1310
図IV-90	212			m32	Vb	石斧	緑色片岩	7.5	4.9	1.6	70.0		1030
図IV-91	213			G70	Vb	石斧	緑色片岩	10.0	5.0	1.7	124.4		1312
図IV-91	214			e21	Vb	石斧	緑色片岩	7.9	4.7	1.4	83.0		116
図IV-91	215			G74	Vb	石斧	緑色片岩	10.9	4.2	1.5	132.9	被熱	1313
図IV-91	216			Q48	Vb	石斧未成品	緑色片岩	10.9	3.6	1.8	86.3	たたき石?	1309
図IV-91	217			F73	Vb	石斧	緑色片岩	11.2	4.2	2.6	176.3		1314
図IV-91	218			j64	Vb	石斧	緑色片岩	11.2	4.6	2.7	220.6		1315
図IV-91	219			Q50	Vb	石斧	緑色片岩	11.3	3.2	2.0	141.6		1311
図IV-91	220			i30	Vb	石斧	片岩	11.9	3.3	1.0	74.0		124
図IV-91	221			L58	Vb	石斧	緑色片岩	11.8	4.9	2.5	225.4		1317

表IV-22 V層土中掘載石器一覧(7)

神田 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	個体 番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-91	222	図版120	e21	Vb		石斧	緑色片岩	11.8	4.4	1.7	161		115
図IV-91	223		g25	Vb	1	石斧	緑色片岩	12.3	4.0	1.9	136		118
図IV-91	224		M57	Vb		石斧	緑色片岩	12.4	4.5	1.9	161.3	2点接合	1316
			N58	Vb									
図IV-91	225		C65	Vb		石斧	緑色片岩	12.6	4.9	2.4	186.9	2点接合	1319
図IV-91	226		h24	I		石斧	片岩	12.5	4.4	1.8	161.0		121
図IV-91	227		b21	Vc		石斧	緑色片岩	13.4	3.6	1.7	117.0		110
図IV-92	228	図版121	K63	Vb		石斧	緑色片岩	12.7	4.8	1.3	130.1		1318
図IV-92	229		I31	Vb		石斧	緑色片岩	15.0	4.7	1.9	183.7		1028
図IV-92	230		e31	Vb		石斧	緑色片岩	17.8	3.4	1.5	100.0	磨り切痕	117
図IV-92	231		d23	Vb		石斧	緑色片岩	12.2	6.2	3.9	487		114
図IV-92	232		L51	Vb		石斧	ロジン岩	(6.0)	(8.1)	(2.0)	118.9		1320
図IV-92	233		L58	Vb		たたき石	砂岩	5.5	5.2	4.3	145.4		1326
図IV-92	234		Y18	Vb		たたき石	ハンレイ岩	6.5	5.3	3.9	219.0		202
図IV-92	235		H68	Vb		たたき石	ハンレイ岩	4.9	5.2	4.3	185.2		1322
図IV-92	236		m29	Vb		たたき石	ハンレイ岩	5.8	6.5	4.5	302.5		1032
図IV-92	237		H71	Vb		たたき石	ハンレイ岩	6.7	5.9	5.2	289.5		1325
図IV-92	238		E65	Vb		たたき石	ハンレイ岩	8.1	7.1	5.0	462.2		1324
図IV-92	239		E65	Vb		たたき石	ハンレイ岩	6.8	6.0	5.0	324.6		1323
図IV-93	240		G70	Vb		たたき石	砂岩	6.8	6.5	5.7	269.2		1327
図IV-93	241		h26	Vb		たたき石	砂岩	8.0	6.1	4.5	286.0		205
図IV-93	242		U18	Vb		たたき石	砂岩	7.3	5.5	4.6	200.0		201
図IV-93	243		a12	V		たたき石	砂岩	14.2	6.8	4.0	529.0		204
図IV-93	244		h26	Vb		たたき石	砂岩	7.9	4.4	3.2	148.0		206
図IV-93	245		a12	V		たたき石	砂岩	7.5	6.7	6.0	333.0		203
図IV-93	246		H66	Vb		たたき石	砂岩	9.7	6.6	2.3	215.1		1328
図IV-93	247		D70	Vb		たたき石	緑色片岩	9.5	5.0	3.3	298.5		1321
図IV-93	248		K52	Vb		くぼみ石	砂岩	9.4	4.2	2.7	142.0		1336
図IV-93	249		J64	Vb		くぼみ石	砂岩	6.2	5.6	3.9	212.0		1335
図IV-93	250		m33	Vb		たたき石	砂岩	11.8	5.0	2.8	246.4		1034
図IV-93	251		N55	Vc		くぼみ石	砂岩	(10.6)	5.0	2.6	179.5		1339
図IV-93	252		L62	Vb		くぼみ石	砂岩	10.7	4.8	2.3	160.1		1337
図IV-93	253		L56	Vb		くぼみ石	砂岩	12.1	4.3	4.7	278.1		1341
図IV-93	254		G74	Vb		たたき石	砂岩	10.2	4.8	3.2	215.2		1329
図IV-93	255		E70	Vb		くぼみ石	砂岩	12.4	5.5	2.5	254.1		1342
図IV-94	256		H68	Vb		くぼみ石	砂岩	10.3	6.6	2.4	208.2		1338
図IV-94	257		E70	Vb		くぼみ石	砂岩	10.1	7.1	2.5	242.7		1343
図IV-94	258	図版122	L56	Vb		くぼみ石	砂岩	10.9	5.8	3.1	248.1		1340
図IV-94	259		m28	Vb		たたき石	砂岩	12.1	7.8	3.7	359.8		1033
図IV-94	260		g26	Vb		くぼみ石	砂岩	13.1	7.0	2.4	265.0		210
図IV-94	261		g25	Vb	11	くぼみ石	砂岩	14.9	6.0	4.5	591.0		208
図IV-94	262		L62	Vb		くぼみ石	砂岩	14.1	5.3	3.0	272.9	2点接合	1344
図IV-94	263		H60	Vb		くぼみ石	砂岩	12.5	7.6	4.0	619.5		1348
図IV-94	264		G69	Vb		くぼみ石	砂岩	6.3	14.1	(2.5)	227.6		1350
図IV-94	265		E70	Vb		くぼみ石	砂岩	15.4	8.4	2.1	439.8	3点接合	1349
図IV-94	266		z26	Vb		くぼみ石	砂岩	12.8	5.7	3.5	348.0		211
図IV-95	267		g25	Vb	12	くぼみ石	砂岩	15.2	8.3	2.9	409.0		209
図IV-95	268		L58	Vb		くぼみ石	砂岩	17.1	4.4	3.6	410.8		1346
図IV-95	269		H68	Vb		くぼみ石	砂岩	17.2	6.3	3.2	455.3		1345
図IV-95	270		z27	Vb		くぼみ石	砂岩	15.0	7.5	3.2	474.0		212
図IV-95	271		e25	Vb		くぼみ石	泥岩	9.9	8.8	3.7	464.0		207
図IV-95	272		P55	Vb		くぼみ石	砂岩	15.7	7.2	3.9	671.2		1347
図IV-95	273		h28	Vb	18	くぼみ石	砂岩	18.6	9.2	3.7	817.0	2点接合	194
図IV-96	274	図版123	e25	Vb		ナリ石	砂岩	6.2	7.1	3.3	124.0		216
図IV-96	275		J65	Vb		ナリ石	緑色片岩	7.5	12.6	6.5	645.6		1330
図IV-96	276		K64	Vb		ナリ石	黒色片岩	7.8	14.1	6.0	827.5		1331
図IV-96	277		e20	Vb		ナリ石	砂岩	6.7	15.8	4.9	679.0		215
図IV-96	278		h22	Vb		ナリ石	砂岩	8.3	15.1	6.3	884.0		213
図IV-96	279		H66	Vb		ナリ石	砂岩	12.0	17.0	5.5	1280.0		1333
図IV-96	280		e21	Vb		ナリ石	砂岩	9.7	13.6	6.1	851.0		214
図IV-96	281		m32	Vb		ナリ石	砂岩	(9.0)	(19.7)	6.0	1037.7		1035
図IV-97	282		F68	Vb		ナリ石	砂岩	8.2	(11.6)	5.9	743.9		1332



表IV-23 V層出土掲載石器一覧(8)

採回 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	個体 番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-97	283	図版123	H65	Vb		ナリ石	非和式武石	11.0	21.8	6.6	2069.0	2点接合	1334
			H66	Vb									
図IV-97	284		G75	Vb		北海道式石冠	砂岩	8.4	11.9	4.1	482.8		1351
図IV-97	285		O67	Vb		棍棒形石器?	ハンレイ岩	30.8	9.4	4.7	1860.0		1355
図IV-97	286		I66	Vb		石鏟	砂岩	(5.9)	(6.7)	2.3	100.0		1352
図IV-97	287		L62	Vb		石鏟	砂岩	5.1	8.1	2.1	116.7		1353
図IV-97	288		H71	Vb		石鏟	砂岩	8.3	9.0	2.4	235.2		1354
図IV-98	289	図版124	m33	Vb		砥石	砂岩	6.0	4.5	4.1	88.8		1036
図IV-98	290		d20	I		砥石	砂岩	5.9	6.4	4.6	147.0		219
図IV-98	291		G66	Vb		砥石	砂岩	20.3	10.5	2.0	401.2		1356
図IV-98	292		d23	Vb		砥石	砂岩	14.8	14.9	4.0	1455.0		220
図IV-98	293		U18	Vb		砥石	砂岩	21.4	15.3	4.3	1769.0		217
図IV-98	294		I66	Vb		砥石	砂岩	27.3	11.9	3.9	1475.0		1357
図IV-98	295		J61	Vb		砥石	砂岩	33.8	16.6	2.9	2030.0		1358
図IV-99	296		h28	Vb	20	台石	砂岩	14.9	16.3	6.4	2135.0		195
図IV-99	297	図版125	U21	Vc		台石	砂岩	26.8	17.5	6.6	3720.0	石皿	222
図IV-99	298		Y21	Vc	1	台石	砂岩	22.4	15.4	3.8	1726.0		221
図IV-99	299		G74	Vb		台石	砂岩	23.4	18.3	5.6	3275.0		1359
図IV-99	300		I68	Vb		台石	砂岩	(17.8)	22.9	5.3	3000.0		1360
図IV-99	301		F69	Vb		台石	砂岩	30.4	20.3	5.0	6000.0		1362
図IV-99	302		H69	Vb		台石	砂岩	25.6	26.5	4.4	4000.0		1361
図IV-100	303	図版126	J4	Vb		台石	砂岩	33.6	23.6	8.7	9600.0		223
図IV-100	304		Y16	V		台石	砂岩	37.2	29.7	6.0	6600.0		224
図IV-100	305		Z21	V		台石	砂岩	45.7	28.5	6.5	11000.0		225
図IV-100	306		Y20	Vc	1	台石	砂岩	51.9	42.3	8.2	24800.0		226
図IV-101	307		Y21	Vc	5	台石	砂岩	52.4	43.2	9.0	27300.0		227
図IV-101	308		e20	Vc	1	台石	砂岩	55.1	42.3	11.0	33200.0		228
図IV-101	309	図版23	F53	Vc		石製品	ロジン岩	4.9	2.8	0.7	13.5	ミニチュア	1302
図IV-101	310		D70	Vb		玉	蛇紋岩	3.5	2.0	1.2	14.6		1298
図IV-101	311		F65	Vb	1998	玉	緑泥石岩	1.5	1.3	0.8	2.5		1299
図IV-101	312		J63	Vb	1999	垂飾	緑泥石岩	4.4	2.2	0.7	9.7		1300
図IV-101	313		d19	V		垂飾	緑色片岩	4.7	1.9	0.8	11.7		199
図IV-101	314		d19	V	覆瓦	垂飾	緑色片岩	5.8	3.0	1.1	28.0		200
図IV-101	315		e31	V		石製品	ロジン岩	9.4	5.9	1.0	84.5		1024

## 引用・参考文献

## &lt;報告書&gt;

## 厚真町教育委員会

- 2004 『厚幌1遺跡』-厚幌ダム建設に係わる一般道道切替工事に伴う埋蔵文化財調査報告書  
 2006 『厚真町 上幌内モイ遺跡 (1)』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書1  
 2007 『厚真町 上幌内モイ遺跡 (2)』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書2  
 2009 『上幌内モイ遺跡 (3)』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書3  
 2009 『ニタツナイ遺跡 (1)』  
 国営土地改良事業勇払東部 (二期) 地区 厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1  
 2010 『厚幌1遺跡 (2)・幌内7遺跡 (1)』  
 国営土地改良事業勇払東部 (二期) 地区 厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2  
 2010 『幌内5遺跡 (1)・富里2遺跡・ニタツナイ遺跡 (2)』  
 国営土地改良事業勇払東部 (二期) 地区 厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3  
 2011 『オニキシベ2遺跡』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書4  
 2013 『ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書5  
 2013 『オニキシベ5遺跡』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書6  
 2014 『厚幌1遺跡 (3)』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書7  
 2014 『オニキシベ4遺跡』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書8  
 2014 『ヲチャラセナイ遺跡』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書9  
 2014 『オニキシベ6遺跡』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書10  
 2014 『シヨロマ3遺跡』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書11  
 2015 『シヨロマ1遺跡 (1)』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書12  
 2015 『シヨロマ2遺跡』厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査報告書13

## 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

- 1985 『エオイチャシ跡・ボロモイチャシ跡・二風谷遺跡』北埋調報 26  
 2001 『千歳市 ウサクマイN遺跡』北埋調報 156  
 2010 『千歳市 アンカリトー7・アンカリトー9遺跡』北埋調報 268  
 2013 調査年報 25  
 2014 調査年報 26  
 2015 調査年報 27  
 2015 『厚真町 朝日遺跡』北埋調報 313  
 2015 『厚真町 オニキシベ1遺跡』北埋調報 318  
 2015 『厚真町 イクバンドユクチセ2遺跡』北埋調報 319  
 2016 『厚真町 シヨロマ4遺跡』北埋調報 322  
 2016 『厚真町 イクバンドユクチセ3遺跡』北埋調報 325  
 2016 『厚真町 富里3遺跡』北埋調報 326

## その他の市町村・機関

## 浦河町教育委員会

- 1969 『浦河町の遺跡』

## 千歳市教育委員会

- 1982 『末広遺跡における考古学的調査 (下)』千歳市文化財調査報告書Ⅲ  
 2002 『梅川4遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書XⅧ

苫小牧市教育委員会

- 1986 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅰー苫小牧市静川1遺跡・厚真町厚真1・2・8・10遺跡発掘調査報告書Ⅰ』  
1987 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱー厚真町厚真7・共和遺跡・早来町遠浅1遺跡発掘調査報告書Ⅰ』  
1998 『美沢町東部遺跡群～道道静川美沢線道路改良工事に伴う美沢東4・5・6遺跡発掘調査報告書』

平取町二風谷遺跡調査会

- 1987 『平取町 二風谷遺跡』

五所川原市教育委員会

- 2002 『MZ6号宗跡 隠川(1)遺跡内の須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第23集  
2003 『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第25集

<論文・その他書籍等(年代順)>

- 厚真村 1956 『厚真村史』  
厚真村郷土研究会・厚真村教育委員会 1956 『厚真村古代史』  
松野久也、石田正夫 1960 『5万分の一の地質図幅「早来」および同説明書』北海道開発庁  
池田実・亀井喜久太郎 1976 『厚真の旧地名を訪ねて』  
宇田川洋 1980 「7 椽文化」『北海道考古学講座』みやま書房  
高倉新一郎・秋葉実 1985 『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌/松浦武四郎』中 北海道出版企画センター  
中田裕香 1990 「石狩低地帯における椽文時代後期の土器について」『古代文化』第42巻第11号  
赤石慎三 1999 「苫小牧地方の円筒上層式について」『苫小牧市埋蔵文化財センター所報1』苫小牧市埋蔵文化財センター  
小林孝二 2000 「アイヌ民族の住居(チセ)に関する研究ー近世・近代アイヌ民族の住居に関する検証とその成立過程に関する考察ー」『北の文化交流史研究事業』研究報告 北海道開発局記念館  
塚本浩司 2002 「椽土器の編年と地域差について」『東京大学研究室研究紀要』第17号  
永井久美男 2002 『新版 中世土銭の分類図版』高志書院  
小山正忠・竹原秀雄 2004 『新版 標準土色帖』  
中世墓資料集成研究会 2007 『中世墓資料集ー北海道編ー』  
小林達雄 編 2008 『絶覧 縄文土器』絶覧縄文土器刊行委員会 アム・プロモーション  
北海道考古学会 2012 『北海道考古学会 2012年度研究大会 アイヌ文化期の「集落」研究』  
乾 哲也 2012 「厚真町におけるアイヌ文化期の集落跡」北海道考古学会 同上。  
越田賢一郎 2014 「平泉文化と北海道ーアイヌ文化の装身具の成立を考えるー」『平泉文化研究年報』第14号  
厚真シンポジウム実行委員会 2015 『厚真シンポジウム 遺跡が語るアイヌ文化の成立ー11～14世紀の北海道と本州島』  
奈良智法 2015 「アイヌ墓の成立について」厚真シンポジウム実行委員会 同上。  
平取町 2015 第3回シリムカ文化大学講座 特別シンポジウム 『AOTORA=アオトラ石の不思議ーそのⅡ』  
佐藤一夫 2016 『北海道ガラス玉地名表 第2版』

## 報告書抄録

ふりがな	あつまちょう かみほろないさんいせき							
書名	厚真町 上幌内3遺跡							
副書名	厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 (北埋調報)							
シリーズ番号	第335集							
編著者名	笠原 興、村田 大、新家水奈、阿部明義、吉田裕史洋、佐川俊一							
編集機関	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 Tel. 011-386-3231							
発行年月日	西暦 2017年3月24日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)				
かみほろない いせき 上幌内3遺跡	ほろかきどう 北海道 ゆうしんてん 勇払郡 あつまちょう 厚真町 かみほろない 字幌内  101-21ほか	01371	123	42° 46' 22"	142° 00' 02"	20130513 ～ 20130809- 20140512 ～ 20141030	14,525㎡	厚幌ダム建設 事業に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上幌内3遺跡	集落跡	アイヌ文化期	平地住居跡 建物跡 杭列 土坑墓 「集中区」	鉄製品(鏃・鎌・鉞・小刀・刀子・ 刀装具・釘ほか)、銀製品(耳 飾)、古銭、ガラス玉、漆器(塗 膜)、棒状礫、獣骨		アイヌ文化期 の土坑墓2 基、副葬品等		
		擦文文化後期	住居跡 遺物集中 「集中区」	土器(擦文・須恵器)、石器(砥 石、たたき石ほか)、鉄製品(刀 子ほか)、棒状礫		須恵器片 (坏)		
		続縄文時代	焼土	土器(後半期)、石器(靴形石 器・撥状石器ほか)				
		縄文時代中期 ～後期	竪穴住居跡 Tピット 遺物集中	土器(縄文早期～晩期)、土製 品、石器各種、石製品(玉類)、 木製品(杭)		杭の残存する Tピット		
<b>要 約</b>								
<p>遺跡は、厚真町市街地から北東に約11km、厚真川右岸の河岸段丘縁辺部に位置する。樽前cテフラより上位では、主に擦文文化後期～アイヌ文化期の集落跡・墓地を検出した。住居跡14軒・建物跡1棟・土坑墓2基・土坑1基などが検出された。平地住居跡は付属施設を伴うものが1軒確認された。住居跡のうち2軒は擦文文化後期とみられる。建物跡は柱穴が太く正方形に配置され、高床構造をなしていたと考えられる。また住居跡に近接して、シカの頭骸骨の一部と杭列が並ぶ儀礼の場と考えられる検出状況がある。土坑墓のうち1基はマウンド・周溝・墓標穴をもち、墓坑は長台形で、副葬品(鎌・耳飾・ガラス玉など)や供献品(鏃・鉞)があり、被葬者は成人女性とみられる。もう1基は小型の円形土坑で、副葬品(ガラス玉・古銭)があり、被葬者は小児とみられる。遺物は約9,000点が出土した。</p> <p>樽前cテフラより下位では、主に縄文時代早期後半・中期～後期初頭の集落跡および狩猟の場を検出した。竪穴住居跡9軒、土坑6基、Tピット22基などを検出した。竪穴住居跡は、早期3軒、中期2軒、中期～後期1軒、後期3軒である。Tピットは溝状・楕円形があり、後者は坑底に杭穴があるものが多く、中には杭そのものが残存するものがあつた。遺物は約25,500点が出土した。</p>								

(公財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第335集

## 厚真町 上幌内3遺跡

—厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行 平成29年3月24日  
編集 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 江別市西野幌685番地1  
TEL 011-386-3231  
E-mail mail@domaibun.or.jp  
URL <http://www.domaibun.or.jp>  
印刷 北海道チャート株式会社  
〒060-0008 札幌市中央区北8条西18丁目1-7  
TEL 011-631-9901

フレックス3F